

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 736 集

みなみ ひ づめ だいぎん
南日詰大銀Ⅱ遺跡第 4 次
きた ひ づめ じょうない
北日詰城内Ⅰ遺跡第 1 次
ほうじょうだてあと
北条館跡第 1 次発掘調査報告書

北上川緊急治水対策事業関連遺跡発掘調査

(第 1 分冊 南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡)

2023

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

(公財)岩手県文化振興事業団

南日詰大銀Ⅱ遺跡第4次
北日詰城内Ⅰ遺跡第1次
北条館跡第1次発掘調査報告書

北上川緊急治水対策事業関連遺跡発掘調査

(第1分冊 南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡)



紫波町内遠景（南から、○が報告遺跡）



紫波町内遠景（北から、○が報告遺跡）



遺跡遠景（北西から）



遺跡遠景（直上、右が北）



北条館跡から見た高水寺城跡（南から）



北条館跡から見た比爪館遺跡周辺（北東から）



南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡平成30年度調査区全景（直上、右が北）



南日詰大銀Ⅱ遺跡調査区全景（南東から）



北日詰城内Ⅰ遺跡調査区全景（直上、右が北）



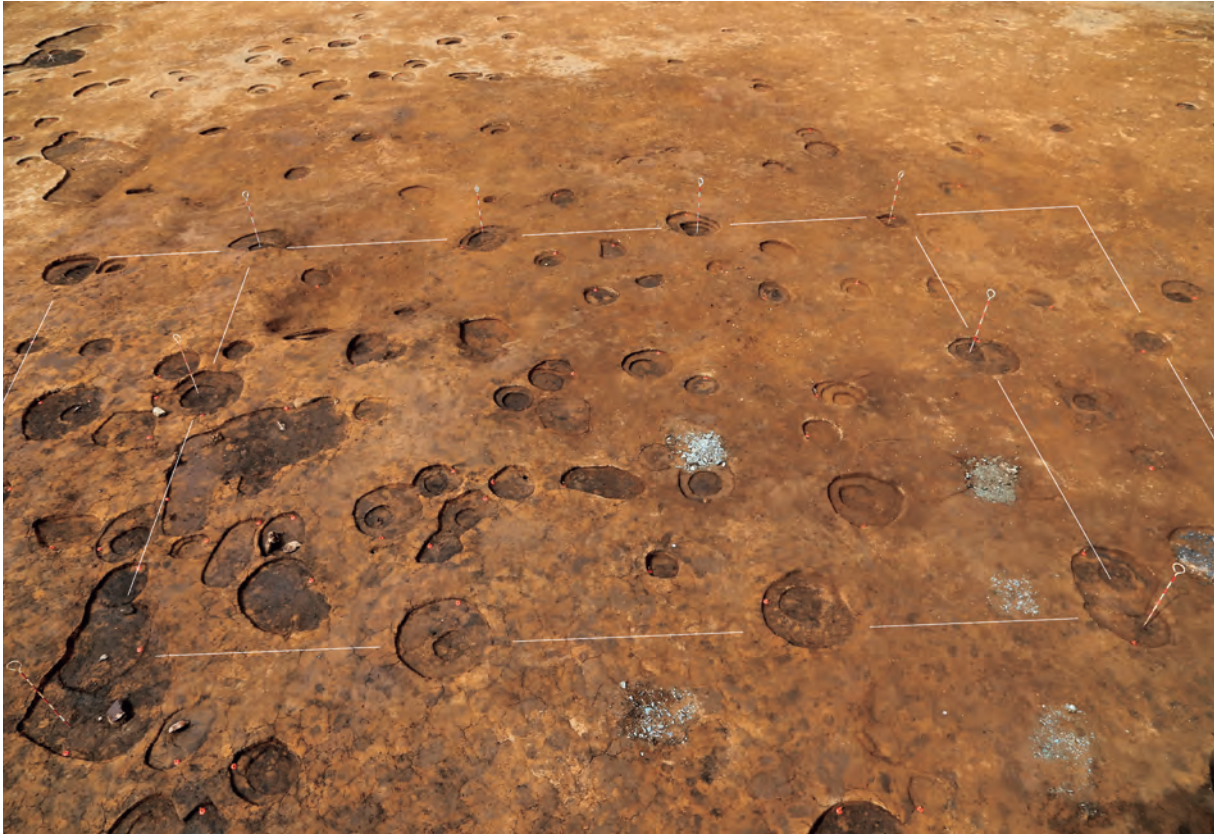
北条館跡平成30年度調査区全景（直上、右が北）



北条館跡令和元年度調査区全景（南東から）



北条館跡令和2年度調査区全景（南東から）



平安時代末期の掘立柱建物 (SB01) (南から)



平安時代末期の溝 (SD02) 遺物出土状況 (東から)



戦国時代～江戸時代初頭の炉 (SL03・04・05) (東から)



SD01 出土遺物



中世の竪穴建物（SI03）と土坑（SK12）（北西から）



掘立柱建物（SB01・02）と柵（SA01）（直上、上が北）



平安時代前期の竪穴建物（SI19）（西から）



戦国時代の竪穴建物（SI04）の炭化材出土状況（東から）



令和元年度調査区掘立柱建物群（直上、上が北）



令和2年度調査区掘立柱建物群（直上、右が北）



門（SB06～09）と側溝（SD17・18）（北東から）



戦国時代の堀 (SD104) (東から)



戦国時代の堀 (SD106) と平安時代末期の溝 (SD42) (北東から)



人為堆積による戦国時代の堀（SD107）の埋没状況（東から）



平安時代末期の溝（SD38）遺物出土状況（北西から）



SI19 出土土器



平安時代末期（12世紀）のかわらけ



平安時代末期（12世紀）の陶磁器



室町～戦国時代（15～16世紀）の陶磁器

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、北上川緊急治水対策事業に関連して平成30年～令和2年度の延べ3箇年に発掘調査を実施した南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡の成果をまとめたものです。調査の結果、平安時代の竪穴建物・掘立柱建物・土坑・溝といった遺構、それに伴う土器・陶磁器、中世城館に関わる堀・土塁・掘立柱建物・門といった遺構、それに伴う土器・陶磁器・金属製品・石製品など多岐にわたる遺物が出土しており、本遺跡が平安時代と中世の生活の痕跡を留めた遺跡であることが判明しました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、紫波町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和5年3月

公益財団法人岩手県文化振興事業団
理事長 石田知子

例 言

1 本報告書は、岩手県紫波郡紫波町大字南日詰字小路口地内に所在する南日詰大銀Ⅱ遺跡、大字北日詰城内 234 番地ほかに所在する北日詰城内Ⅰ遺跡、大字北日詰城内 105 番地 2 ほかに所在する北条館跡の発掘調査成果を収録したものである。

2 本遺跡の発掘調査は北上川緊急治水対策事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会の調整を経て国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の委託を受けた（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3 岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡コード・遺跡略号は次のとおりである。

南日詰大銀Ⅱ遺跡

遺跡コード：LE77-1104 遺跡略号：MHDⅡ-18

北日詰城内Ⅰ遺跡

遺跡コード：LE77-0194 遺跡略号：KHJⅠ-18

北条館跡

遺跡コード：LE77-0164 遺跡略号：HJD-18・HJD-19・HJD-20

4 発掘調査期間・調査面積・担当者は次のとおりである。

南日詰大銀Ⅱ遺跡

【平成 30 年度】 調査期間：平成 30 年 4 月 16 日～8 月 30 日 面積：1,380 m²

担 当 者：西澤正晴・河村美佳

北日詰城内Ⅰ遺跡

【平成 30 年度】 調査期間：平成 30 年 4 月 16 日～9 月 28 日 面積：1,190 m²

担 当 者：須原 拓・川村 英

北条館跡

【平成 30 年度】 調査期間：平成 30 年 6 月 18 日～11 月 15 日 面積：3,700 m²

担 当 者：川又 晋・西澤正晴・須原 拓・川村 英・河村美佳

【令和元年度】 調査期間：平成 31 年 4 月 8 日～令和元年 11 月 27 日 面積：4,800 m²

担 当 者：村田 淳・高木 晃・阿部勝則・西澤正晴・福島正和・
川村 英・河村美佳・酒井野々子

【令和 2 年度】 調査期間：令和 2 年 4 月 8 日～9 月 3 日 面積：1,880 m²

担 当 者：村田 淳・福島正和・酒井野々子

5 室内整理期間・担当者は次のとおりである。

南日詰大銀Ⅱ遺跡

【平成 30 年度】 整理期間：平成 30 年 11 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

担 当 者：西澤正晴・河村美佳

北日詰城内 I 遺跡

【平成 30 年度】 整理期間：平成 30 年 11 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
担 当 者：須原 拓・川村 英

北条館跡

【令和元年度】 整理期間：令和元年 12 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日
担 当 者：福島正和・川村 英・河村美佳・酒井野々子
【令和 2 年度】 整理期間：令和 2 年 11 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日
担 当 者：村田 淳・西澤正晴・福島正和・酒井野々子
【令和 3 年度】 整理期間：令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日
担 当 者：村田 淳

6 本報告書の執筆分担は次のとおりである。

I：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 II・III・VII：村田 IV：西澤・河村
V：須原 VI：村田・須原

7 各種委託業務は次の機関等に依頼した（順不同）

3 遺跡共通（野外調査関連）

基準点測量：北栄調査設計株式会社

航空写真撮影：北栄調査設計株式会社、(株)東邦航空、(株)リッケイ

南日詰大銀 II 遺跡

石器石材鑑定：花崗岩研究会

放射性炭素年代測定：(株)加速器分析研究所

種実同定：古代の森研究舎

金属製品保存処理：(公財)山梨文化財研究所

北日詰城内 I 遺跡

遺構写真解析図化：(株)リッケイ

遺構・遺物図版編集：(株)リッケイ

石器石材鑑定：花崗岩研究会

放射性炭素年代測定：(株)加速器分析研究所

北条館跡

地形測量：(株)タックエンジニアリング

遺構写真解析図化：(株)リッケイ

石器石材鑑定：花崗岩研究会

石器実測：(株)ラング

放射性炭素年代測定：(株)加速器分析研究所

土器胎土分析：(株)第四紀地質研究所

木製品科学分析及び保存処理①：パリノ・サーヴェイ株式会社

木製品科学分析及び保存処理②：株式会社古環境研究所

炭化材樹種同定：古代の森研究舎

種実同定：古代の森研究舎

土壌分析：古代の森研究舎

銭貨付着繊維分析：株式会社古環境研究所

鉄滓・坩堝分析：日鉄テクノロジー株式会社

金属製品保存処理：(公財)山梨文化財研究所、パリノ・サーヴェイ株式会社

- 8 野外調査及び室内整理にあたり、以下の機関等から御協力いただいた（順不同、敬称略）
菊池 賢、高橋敬明、竹井英文、竹下将男、田村勝則、中村隼人、橋本征也、船場昌子
室野秀文、八木光則
岩手県教育委員会、紫波町教育委員会、花巻市教育委員会、八戸市教育委員会
- 9 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターで保管している。
- 10 これまでに、調査成果の一部を現地説明会資料、調査概報等において公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。
- 11 本書は2分冊であるため、文章中における各分冊図版の記載表現を以下の通りとした。

図版

・第1分冊第○図 → 第1-○図

・第2分冊第○図 → 第2-○図

表

・第1分冊第○表 → 第1-○表

・第2分冊第○表 → 第2-○表

写真図版

・第1分冊写真図版○ → 写真図版1-○

・第2分冊写真図版○ → 写真図版2-○

目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と周辺環境	
1	地理的環境	
(1)	遺跡の位置	2
(2)	遺跡周辺の地形と地質	2
2	歴史的環境	4
III	調査の方法	
1	野外調査	
(1)	グリッドの設定	9
(2)	精査の方法および遺構の記録	13
2	調査経過	
(1)	南日詰大銀Ⅱ遺跡	13
(2)	北日詰城内Ⅰ遺跡	13
(3)	北条館跡	14
3	室内整理	
(1)	遺構	15
(2)	遺物	15
4	普及啓発活動	16
IV	南日詰大銀Ⅱ遺跡の調査	
1	調査概要	
(1)	調査状況	17
(2)	基本層序	18
2	検出遺構	
(1)	掘立柱建物	18
(2)	柱穴	58
(3)	竪穴建物	60
(4)	溝	64
(5)	土坑	66
(6)	炉	71
3	出土遺物	
(1)	掘立柱建物	75
(2)	柱穴	78
(3)	竪穴建物	78
(4)	溝	80
(5)	土坑	87
(6)	遺構外	87

4 自然科学分析	
(1) 放射性炭素年代測定	110
(2) 火山灰分析	123
(3) 骨分析	128
(4) 炭化種実分析	133
5 小 結	
(1) 各遺構の年代について	138
(2) II期の遺構について	142
(3) 炉（焼成遺構）について	148
(4) ま と め	153

V 北日詰城内 I 遺跡の調査

1 調査概要	
(1) 調査状況	155
(2) 基本層序	155
2 検出遺構	
(1) 柵 列	157
(2) 掘立柱建物	157
(3) 竪穴建物（工房）	159
(4) 土 坑	163
(5) 溝	171
(6) 柱 穴	183
3 出土遺物	186
4 自然科学分析	
(1) 放射性炭素年代測定	192
(2) 種実同定	197
5 小 結	201
報告書抄録	269

付属 CD 収録データ

第1分冊

- IV-4-1 南日詰大銀II遺跡放射性炭素年代測定暦年較正グラフ (PDF)
- V-4-1 北日詰城内I遺跡放射性炭素年代測定暦年較正グラフ (PDF)

第2分冊

- 1～8. 第2-72～79図 掘立柱建物配置図 (1・150) (PDF)
9. 第2-9表 柱穴一覧 (詳細版) (Excel2010)
- 10～17. 第2-110～117図 柱穴配置図 (1・150) (PDF)
18. VI-4-1 北条館跡放射性炭素年代測定暦年較正グラフ (PDF)
- 19～25. IV-4-3 北条館跡木製品保存処理前・処理後写真 (PDF)
- 26～36. IV-4-4 北条館跡木製品保存処理前・処理後写真 (PDF)

図版目次

第1図	遺跡の位置	1	第5図	グリッド・等高線図(1)	10
第2図	遺跡範囲と調査区	3	第6図	グリッド・等高線図(2)	11
第3図	地形分類図	5	第7図	グリッド・等高線図(3)	12
第4図	周辺の遺跡	8			

〈南日詰大銀Ⅱ遺跡〉

第8図	遺構配置図(1)、基本層序模式図	19	第44図	SI01(2)	62
第9図	遺構配置図(2)	20	第45図	SI01(3)	63
第10図	遺構配置図(3)	21	第46図	SD01(1)	65
第11図	遺構配置図(4)	22	第47図	SD01(2)	66
第12図	遺構配置図(5)	23	第48図	SD02(1)	67
第13図	遺構配置図(6)	24	第49図	SD02(2)	68
第14図	遺構配置図(7)	25	第50図	SK01・04・06・11~13・15~17・ 22・25	70
第15図	掘立柱建物配置図(1)	26	第51図	SL01~06	73
第16図	掘立柱建物配置図(2)	27	第52図	掘立柱建物・柱穴出土遺物	77
第17図	掘立柱建物配置図(3)	28	第53図	SI01出土遺物(1)	79
第18図	SB01	30	第54図	SI01出土遺物(2)	80
第19図	SB02	31	第55図	SD01出土遺物(1)	82
第20図	SB03	32	第56図	SD01出土遺物(2)	83
第21図	SB04・05	34	第57図	SD01出土遺物(3)	84
第22図	SB06・07	35	第58図	SD01出土遺物(4)	85
第23図	SB08	36	第59図	SD01出土遺物(5)	86
第24図	SB09	37	第60図	SD02出土遺物(1)	88
第25図	SB10・11	39	第61図	SD02出土遺物(2)	89
第26図	SB12	40	第62図	土坑出土遺物	89
第27図	SB13・14	42	第63図	遺構外出土遺物(1)	90
第28図	SB15・16	43	第64図	遺構外出土遺物(2)	91
第29図	SB17・18	45	第65図	建物方位分布図	138
第30図	SB19・20	46	第66図	掘立柱建物の重複関係	139
第31図	SB21・22	47	第67図	建物方位グループの新旧関係	140
第32図	SB23	48	第68図	南日詰大銀Ⅱ遺跡調査区位置図	143
第33図	SB24(1)	49	第69図	南日詰大銀Ⅱ遺跡第1~3次調査区遺構 配置図	144
第34図	SB24(2)	50	第70図	南日詰大銀Ⅱ遺跡の掘立柱建物	145
第35図	SB25・26	52	第71図	掘立柱建物の床面積分布	146
第36図	SB27・28	53	第72図	周辺の遺跡	149
第37図	SB29・30	55	第73図	比爪館跡と南日詰大銀Ⅱ遺跡	150
第38図	SB31	56	第74図	南日詰大銀Ⅱ遺跡の大区画	151
第39図	SB32・33	57	第75図	大区画南西隅から南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡	152
第40図	柱穴分布図(1)	58			
第41図	柱穴分布図(2)	59			
第42図	柱穴断面図	60			
第43図	SI01(1)	61			

〈北日詰城内 I 遺跡〉

第 76 図	遺構配置図、基本層序	156	第 86 図	溝配置図 (3)	179
第 77 図	SA01	157	第 87 図	溝断面図	180
第 78 図	SB01・02	158	第 88 図	柱穴配置図 (1)	181
第 79 図	SI01	159	第 89 図	柱穴配置図 (2)	182
第 80 図	SI02	161	第 90 図	柱穴断面図	183
第 81 図	SI03	162	第 91 図	出土遺物 (1)	187
第 82 図	SK01~08	165	第 92 図	出土遺物 (2)	188
第 83 図	SK09~17	168	第 93 図	出土遺物 (3)	189
第 84 図	溝配置図 (1)	177	第 94 図	グリッド及び遺構配置図	202
第 85 図	溝配置図 (2)	178			

表 目 次

第 1 表	周辺の遺跡	7	第 2 表	基準点一覧	9
-------	-------	---	-------	-------	---

〈南日詰大銀 II 遺跡〉

第 3 表	遺構別出土遺物一覧	92	第 7 表	金属製品観察表	109
第 4 表	柱穴一覧	93	第 8 表	石器観察表	109
第 5 表	土器観察表	105	第 9 表	各遺構の想定時期一覧	142
第 6 表	陶磁器観察表	108	第 10 表	掘立柱建物の平面型式と床面積	146

〈北日詰城内 I 遺跡〉

第 11 表	柱穴一覧	184	第 15 表	石器・石製品観察表	191
第 12 表	縄文土器観察表	190	第 16 表	陶磁器観察表	191
第 13 表	土器・土製品観察表	190	第 17 表	粘土塊観察表	191
第 14 表	金属製品観察表	190			

巻頭写真図版目次

巻頭写真図版 1	遺跡周辺の環境 (1)	巻頭写真図版 9	北日詰城内 I 遺跡
巻頭写真図版 2	遺跡周辺の環境 (2)	巻頭写真図版 10	北条館跡 (1)
巻頭写真図版 3	遺跡周辺の環境 (3)	巻頭写真図版 11	北条館跡 (2)
巻頭写真図版 4	調査区の状況 (1)	巻頭写真図版 12	北条館跡 (3)
巻頭写真図版 5	調査区の状況 (2)	巻頭写真図版 13	北条館跡 (4)
巻頭写真図版 6	調査区の状況 (3)	巻頭写真図版 14	北条館跡 (5)
巻頭写真図版 7	南日詰大銀 II 遺跡 (1)	巻頭写真図版 15	北条館跡 (6)
巻頭写真図版 8	南日詰大銀 II 遺跡 (2)	巻頭写真図版 16	北条館跡 (7)

写真図版目次

〈南日詰大銀Ⅱ遺跡〉

写真図版 1	調査区の状況 (1)	205	写真図版 25	SD01 (3)	229
写真図版 2	調査区の状況 (2)	206	写真図版 26	SD02 (1)	230
写真図版 3	調査区の状況 (3)	207	写真図版 27	SD02 (2)	231
写真図版 4	調査区の状況 (4)	208	写真図版 28	SD02 (3)	232
写真図版 5	基本層序	209	写真図版 29	SK01・04・06・11	233
写真図版 6	SB01・02	210	写真図版 30	SK12・13・15・16	234
写真図版 7	SB04・05	211	写真図版 31	SK17・22・25	235
写真図版 8	SB06・07	212	写真図版 32	SL01・02	236
写真図版 9	SB08・09	213	写真図版 33	SL03・05	237
写真図版 10	SB10・12	214	写真図版 34	SL04・06	238
写真図版 11	SB13・14	215	写真図版 35	掘立柱建物・柱穴出土遺物 (1)	239
写真図版 12	SB15・16	216	写真図版 36	掘立柱建物・柱穴出土遺物 (2)	240
写真図版 13	SB17・18	217	写真図版 37	竪穴建物出土遺物 (1)	241
写真図版 14	SB19・20	218	写真図版 38	竪穴建物出土遺物 (2)	242
写真図版 15	SB21・22	219	写真図版 39	溝出土遺物 (1)	243
写真図版 16	SB23・24	220	写真図版 40	溝出土遺物 (2)	244
写真図版 17	SB25・26	221	写真図版 41	溝出土遺物 (3)	245
写真図版 18	SB27・28	222	写真図版 42	溝出土遺物 (4)	246
写真図版 19	SB30・31	223	写真図版 43	溝出土遺物 (5)	247
写真図版 20	SB32・33	224	写真図版 44	溝出土遺物 (6)	248
写真図版 21	SI01 (1)	225	写真図版 45	溝出土遺物 (7)	249
写真図版 22	SI01 (2)	226	写真図版 46	土坑出土遺物、遺構外出土遺物 (1)	250
写真図版 23	SD01 (1)	227			
写真図版 24	SD01 (2)	228	写真図版 47	遺構外出土遺物 (2)	251

〈北日詰城内Ⅰ遺跡〉

写真図版 48	調査区の状況	252	写真図版 57	SK12~15	261
写真図版 49	基本層序、SA01	253	写真図版 58	SK16・17、SD01・02	262
写真図版 50	SB01・02	254	写真図版 59	SD03~06	263
写真図版 51	SI01	255	写真図版 60	SD07~10	264
写真図版 52	SI02	256	写真図版 61	SD11~14	265
写真図版 53	SI03	257	写真図版 62	SD15~17	266
写真図版 54	SK01~04	258	写真図版 63	出土遺物 (1)	267
写真図版 55	SK05~08	259	写真図版 64	出土遺物 (2)	268
写真図版 56	SK09~12	260			

遺物図版凡例

1. 土器、陶磁器の掲載縮尺

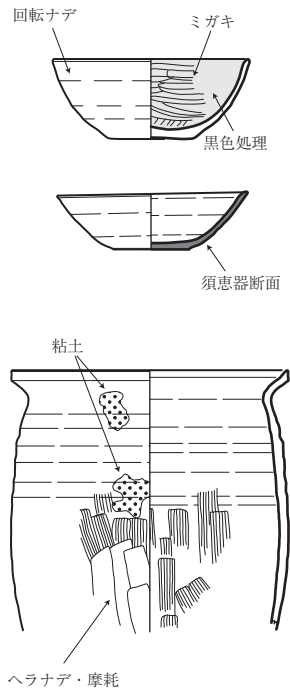
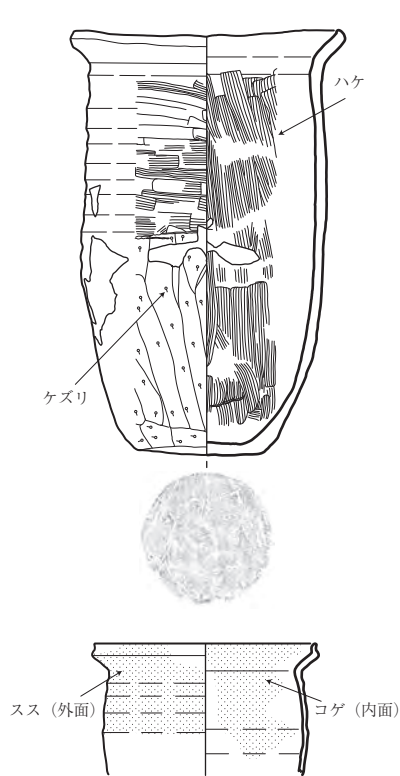
1/3を基本としているが、掲載番号に「●」が付されているものは1/4、「▲」が付されているものは1/6とした。

2. 石器の掲載縮尺

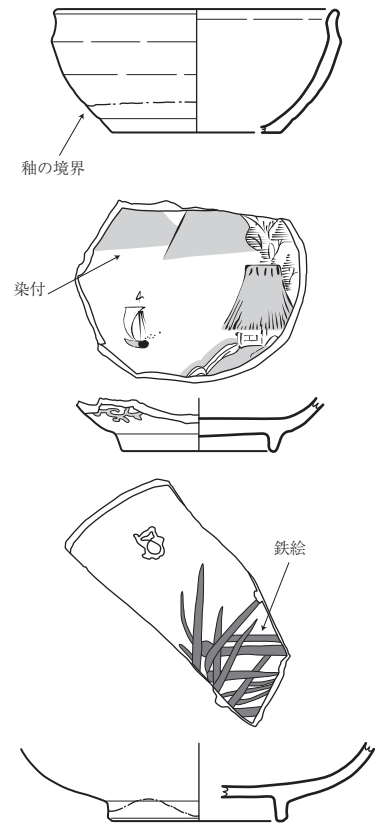
剥片石器は2/3、礫石器は1/3を基本としているが、掲載番号に「●」が付されているものは1/4とした。

3. 網掛けの表現（下図）

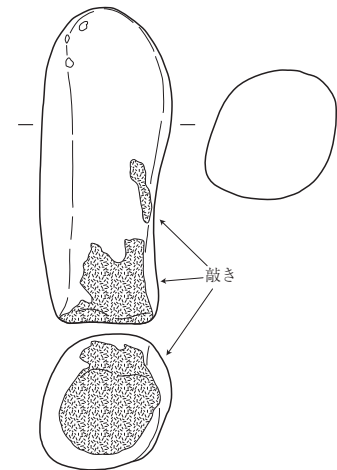
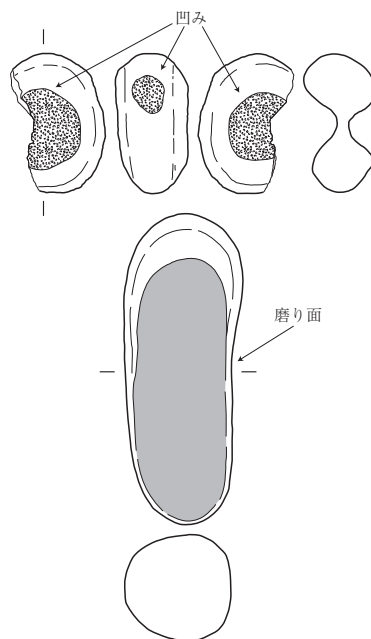
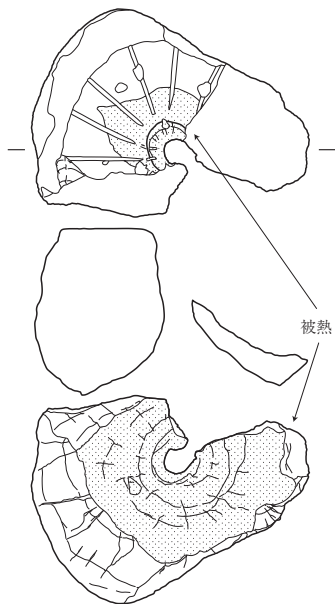
土器



陶磁器



石器



I 調査に至る経過

南日詰大銀Ⅱ遺跡、北日詰城内Ⅰ遺跡及び北条館跡は、北上川中流部緊急治水対策事業日詰地区(紫波町紫波地区) 築堤工事の施工に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することになったものである。

北上川は、岩手県岩手町御堂にその源を発し、大小支川を合わせて岩手県を南に縦断し、岩手・宮城県境の狭窄部を経て宮城県石巻市で太平洋に注ぐ、幹線流路延長 249km の一級河川である。

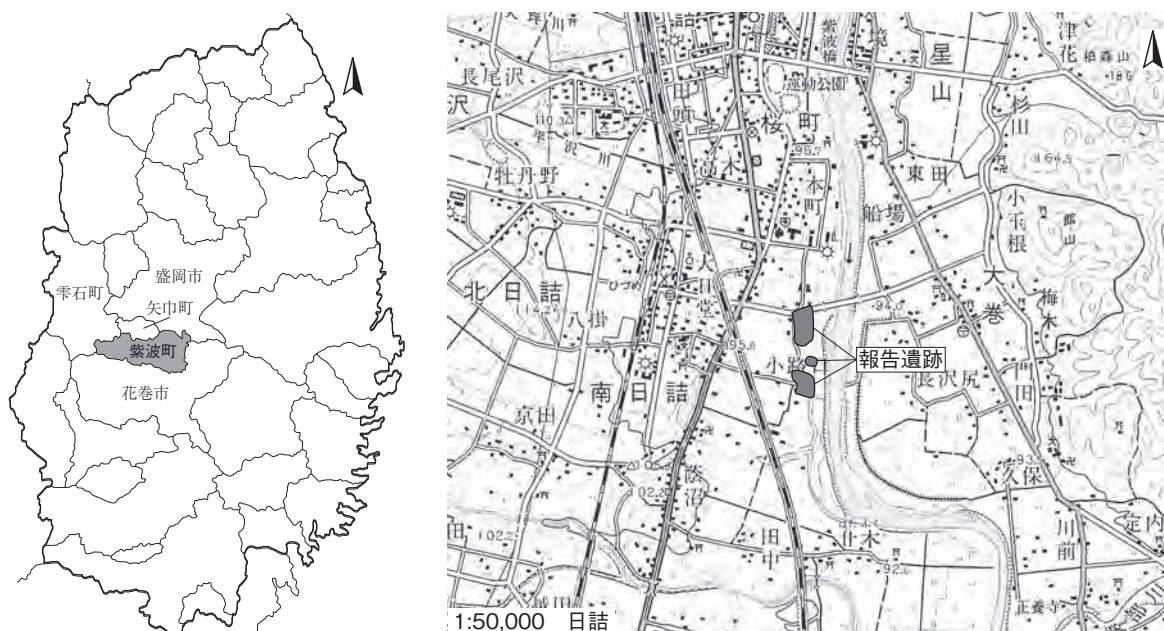
事業対象地域である「日詰地区」は、北上川上流右岸 114km 付近に位置し、平成 14 年 7 月洪水及び平成 19 年 9 月洪水により、5 年間で 2 度にわたる甚大な浸水被害が発生している。後背地には住家等の資産が集中していることから、災害防止対策として緊急的な治水対策が必要となっているため、平成 25 年度に事業着手したものである。

上記 3 遺跡は、岩手県教育委員会作成の県遺跡台帳登録済、周知の遺跡である。当事業の施工に係る埋蔵文化財の取扱いについては、岩手河川国道事務所から岩手県教育委員会に対し、平成 29 年 4 月 5 日付け国東整岩一工第 2 号「埋蔵文化財の試掘調査について(依頼)」により試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会が平成 29 年 4 月 10 日～13 日に試掘調査を実施した結果、事業用地全域において遺構、遺物の検出が確認され、工事着手に先立って用地内全域についての発掘調査が必要となる旨、平成 29 年 4 月 8 日付教生第 44-23 号～44-25 号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(勧告)」により当事業所に回答がなされた。

その結果を踏まえて当事務所は岩手県教育委員会と協議を行い、発掘調査を公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。これにより平成 30 年 4 月 16 日付で岩手河川国道事務所と公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長との間で受託事業を締結し、南日詰大銀Ⅱ遺跡、北日詰城内Ⅰ遺跡及び北条館跡の発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所)



第 1 図 遺跡の位置

Ⅱ 遺跡の立地と周辺環境

1 地理的環境

(1) 遺跡の位置 (第1-1・2図)

南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡が所在する岩手県紫波郡紫波町は、岩手県内陸中央部に位置しており、北は盛岡市と矢巾町、西は雫石町、南は花巻市に隣接する。総面積は238.98km²、人口は32,068人(2021年1月1日現在)である。3遺跡は紫波町役場から南東方向に約2.5km、赤石地区内に位置しており、西側約500mに主要幹線道路である国道4号線が南北に走っている。北上川西岸の氾濫平野上に立地しており、遺跡と北上川の間には支流である平沢川が流れている。

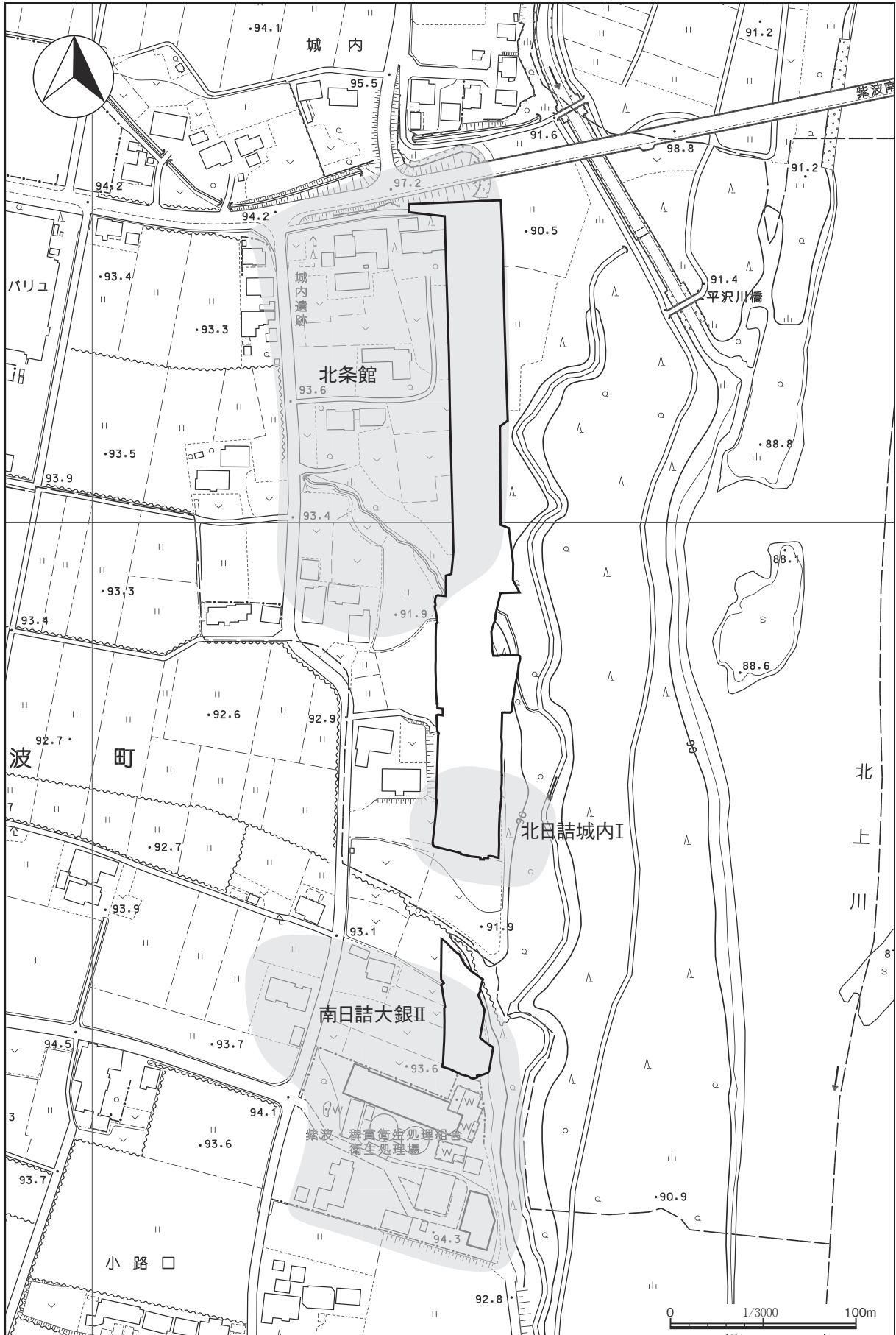
今回報告する遺跡は南側から南日詰大銀Ⅱ遺跡、北日詰城内Ⅰ遺跡、北条館跡の順に位置しており(第1-2図)、北日詰城内Ⅰ遺跡と北条館跡の間には北日詰下東ノ坊遺跡(第1-4図56)が位置する。調査前現況は3遺跡とも畑・水田等の耕作地であり、南日詰大銀Ⅱ遺跡が93m前後、北日詰城内Ⅰ遺跡が91m前後、北条館跡が93m前後で中央に位置する北日詰城内Ⅰ遺跡が若干低い位置にある。なお、令和元年12月31日の時点で岩手県遺跡・埋蔵文化財情報検索システム(以下、岩手県遺跡情報システムと略記)に掲載されている遺跡範囲は南日詰大銀Ⅱ遺跡が17,300m²、北日詰城内Ⅰ遺跡が2,500m²、北条館跡が25,100m²であるが、今回の発掘調査により北日詰城内Ⅰ遺跡の遺跡範囲の北側が北条館跡に含まれることが判明しており、各遺跡の面積は今後変動するものと考えられる。

(2) 遺跡周辺の地形と地質 (第1-3図)

3遺跡が所在する紫波町の中央には、一級河川である北上川が流れている。北上川は岩手郡岩手町御堂に源を発し、流路東側の北上高地及び西側の奥羽山脈から発する大小支川を合わせて岩手県のほぼ中央を南に貫流し、一関市狐禅寺の狭窄部を経て宮城県に入り、登米市で旧北上川に分流する。本川はこの地点から東に流れて石巻市追波湾に注ぐ幹線流路延長249km、流域面積10,150km²、支流数216を有する東北地方最大の河川である。四十四田溪谷と一関市狐禅寺溪谷を境にして上・中・下流に分けられ、紫波町は北上川中流域北部に位置している。以下では、北上川西岸部を中心に紫波町内の地形についてみていく。

町域の西部には町内最高峰となる東根山(標高928m)を中心とする奥羽山脈背稜山地に属する標高500m以上の山地があり、比高300m以上の断層崖をもって東側の北上川河谷平野に接している。一方、河谷平野の東側は北上山地の西縁部にあたり、朝霧山(標高607m)を中心とする山地とその前縁に標高300m以下の丘陵が分布する。しかし、これらを除けば北上川河谷平野の他の部分はほぼ全て扇状地や旧河床が段丘化した台地で占められる。これらの段丘は上位段丘(砂礫段丘Ⅰ=石鳥谷段丘)、中位段丘(砂礫段丘Ⅱ=二枚橋段丘)、下位段丘(砂礫段丘Ⅲ=都南段丘)の3つに区分されており(中川他1963)、北上川西岸では中・下位段丘が広面積を占める。一方、東岸では段丘の発達は不良であり、北上川の両岸で非対称性が認められる。

上位段丘は西部山地東縁の山麓部に断片的に分布するほか、日詰付近にも孤立的にみられる。日詰付近では3m以上の砂・粘土を伴う礫層とこれを覆う厚さ1m前後の火山灰層で構成され、構成礫層の風化が著しい。前述の石鳥谷段丘にあたり、構成礫層は日詰礫層と呼ばれる。中位段丘は上位段丘の前面に拡がり、極めて広範囲に発達する。北日詰の八掛付近の中位段丘は開析によって段丘面が



第2図 遺跡範囲と調査区

相当分割されている。一方、日詰以北では開析が進まず広い段丘面を残しており、構成層を欠くこともあるなど日詰以南の中位段丘とは性格が異なっている。なお、中川久夫らは日詰以北の中位段丘面は日詰以南に分布する前述の二枚橋段丘が削剝されて生じた浸食面であるとし、花巻段丘と呼んで両者を区分している（中川他 1963）。下位段丘は、日詰以北の北上川西岸に大規模に認められる。日詰より上流側では一般に段丘崖の比高は小さく、崖地形の不明瞭な部分も多いが、日詰以南では下流に向かって現河床及び谷底平野面との比高を増していく傾向がある。

谷底平野は、北上川本流に沿って1～3 kmの幅で発達する。この面上には多数の旧流路跡が残存し、北上川の流路変遷の跡が読み取れる。平野面はかなり厚い泥質土層からなる部分が多い。北上川はこの谷底平野面をかなり刻み込んでおり、特に城山東側の狭窄部より下流側では現河床との比高が大きくなっている。今回報告する3遺跡が位置する氾濫平野は、この谷底平野に相当する。

続いて地質についてみていく。紫波町内の地質は、中央部の盛岡－白河構造線が走る北上川低地帯によって西半部の新第三系以後の岩石の作る奥羽山脈背稜山地と東半部の古生層・中生層からなる北上山地とに二分される。このうち西半部は、第三紀中新世のグリーン・タフ活動による安山岩質～流紋岩質岩石が広く分布し、これらに第四紀の安山岩類が岩株状に貫入している。また、南北性の第四紀以後に活動したとみられる断層の東側には凝灰岩質砂岩・頁岩が分布する。西半部と東半部の中央には複合扇状地と段丘群が広く発達し、北上川には広い沖積地が分布している。また、背後及び北上山地には河谷沿いに沖積層、扇状地、段丘堆積物、崖錐性堆積物が分布し、新期火山性ローム層が各所にみられる。

2 歴史的環境（第1-4図）

紫波町では、令和元年12月31日時点で351遺跡が岩手県遺跡情報システムに登録されている。今回報告する3遺跡では縄文～近世にかけての遺構・遺物が検出されていることから、以下では第1-4図に掲載されている遺跡を中心に各時代の遺跡を概観する。

縄文時代の遺跡は95遺跡確認されているが、発掘調査が実施された遺跡は少ない。草創期・早期の遺構・遺物が検出された遺跡は無く、前期の遺跡としては西田遺跡（大木6式、87）や片寄熊林遺跡がある。中期に入ると遺跡数は増加し、前葉の土器（大木7b式）が出土した南日詰（76、以下「遺跡」省略）をはじめ、善念寺山Ⅱ（9）・二日町吉兵衛（16）・南日詰小路口Ⅱ（60）・南日詰八坂（80）・片寄越田（82）・西田・西田東（89）等が確認されている。このうち西田遺跡は東北新幹線建設に伴い30,000㎡の発掘調査が実施され、中葉（大木8式）に属する環状集落の構造が明らかになっている。集落の中央部には船底状の墓坑が環状に並び、その外側に竪穴住居、さらに北側には住居とともに貯蔵穴群が分布している。また、隣接する西田東遺跡では溝状を主体とする陥し穴が187基検出されている。時期の特定は困難であるが、西田遺跡で集落が営まれていた中葉が主体と考えられる。なお、北条館跡では今回の調査で大木8b式の土器片が出土している。後期の遺跡は、遺構は検出されていないが、後期初頭（門前式相当）の土器が出土した大日堂（53）をはじめ、善念寺山古墳（8）・善念寺山Ⅱ・山子（12）・北日詰牡丹野（33）・片寄越田・大巻長沢尻（94）・暮坪（97）等で土器が出土している。晩期の遺跡としては、善念寺山古墳・北日詰城内Ⅱ（54）・南日詰小路口Ⅰ（61）・南日詰八坂・下川原Ⅰ（81）・下川原Ⅱ（90）等がある。このうち北日詰城内Ⅱ遺跡では中葉（大洞C1～2式）に属する竪穴住居が検出され、多量の土器とともに土偶や石製品（石棒・有孔垂飾具）、土器片円盤等が出土している。なお、南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡では今回の調査で晩期の

土器片が出土している。

弥生時代の遺跡としては、北上川東岸の赤沢地区の荒屋敷遺跡、山屋地区の山屋館経塚が確認されているのみである。また、古墳時代の遺跡は現在のところ確認されていないが、才土地（35）から開元通宝（唐銭、初鑄年 621 年）が出土している。

古代に属する遺跡は最も多く、181 遺跡確認されている。奈良時代の遺跡は 17 遺跡確認されており、報告遺跡周辺では本町川原（36）・北日詰東ノ坊Ⅳ（47）・日詰西Ⅱ（100）等があるが、遺構・遺物とも検出数は少ない。平安時代の遺跡は 62 遺跡確認されており、大きく 9～10 世紀が主体となる遺跡と 12 世紀が主体となる遺跡に分けられる。9 世紀前～中葉の遺跡には日詰七久保（5）・田頭（32）・南日詰小路口Ⅱ・下川原Ⅰ・間野村（99）等があり、このうち下川原Ⅰ遺跡と間野村遺跡では煙道に礫を敷設したカマドを有する竪穴住居が検出されている。また、日詰七久保遺跡では焼土から出羽型甕が出土している。9 世紀後葉～10 世紀前葉の遺跡には北日詰東ノ坊Ⅰ（48）・比爪館（51）・南日詰・西田東等があり、比爪館遺跡では緑釉陶器・石帯の他に墨書土器も多量に出土している。また、西田東遺跡でも緑釉陶器が出土している。10 世紀前葉～中葉の遺跡には杉の上Ⅲ（4）・日詰西（31）・田頭・才土地・比爪館・下川原Ⅱ・犬淵谷地田（83）等があり、才土地遺跡では廃棄あるいは祭祀用と考えられる土坑から墨書土器が出土しており、犬淵谷地田遺跡では竪穴住居から二面硯が出土している。この他、杉の上Ⅲ遺跡や田頭遺跡で墨書土器が出土している。なお、南日詰大銀Ⅱ遺跡と北条館跡では今回の調査で 9 世紀前半～10 世紀前半の遺構・遺物が検出されている。

平安時代末期にあたる 12 世紀は、紫波町域を含む志和地域では奥州藤原氏の一族である比爪氏が統治していた時代である。この時代の遺跡には北日詰東ノ坊Ⅰ・北日詰東ノ坊Ⅲ（49）・比爪館・五郎沼（52）・大日堂・南日詰小路口Ⅰ・南日詰小路口Ⅱ・南日詰・下川原Ⅰ・下川原Ⅱ等があり、今回報告する 3 遺跡でも遺構・遺物が検出されている。このうち比爪館遺跡は比爪氏の居館と推定される遺跡であり、大溝で区画された内部に掘立柱建物や竪穴建物、井戸等が検出されており、かわらけ・国産陶器・輸入陶磁器等の遺物が出土している。この他、南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡では道路を構成する溝や板状遺構、下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡では掘立柱建物や廃棄場、かわらけ焼成遺構が検出されている。また、南日詰大銀Ⅱ遺跡では過去の調査で区画施設である塀とそれに取り付く門（棟門か）が検出されており、比爪館遺跡に先行する時期の居館の可能性もある。なお、この他に伝善知鳥館（77）を 11 世紀の安部氏関連の居館とする説もあるが、現在のところ発掘調査ではそれを裏付ける遺構は検出されていない。11 世紀の遺物としては才土地遺跡と大日堂遺跡で北宋銭、高水寺城（15）でこの時期と推定される土器が出土している。また、北条館跡でも今回の調査で北宋銭が複数枚出土している。

中世の遺跡は主に城館であり、北上川沿いに立地するものが多く、戸部御所（10）・吉兵衛館（13）・高水寺城・犬吠森館（21）・星山館（37）・大巻館（39）・梅ノ木館（91）等がある。このうち斯波氏の本城と推定されている高水寺城は吉兵衛館・向山・戸部御所を含む広大な平山城で、掘立柱建物や竪穴建物、井戸等が検出され、14～15 世紀の国産陶器や輸入陶磁器が出土している。また、大巻館跡は発掘調査は実施されていないが河村氏の本拠と推定されている。城館以外では、南日詰小路口Ⅰ遺跡で溝から 13～14 世紀の伊豆沼産陶器と 14～15 世紀の青磁、南日詰小路口Ⅱ遺跡で柱穴から 16 世紀の中国産染付磁器、下川原Ⅰ遺跡で遺構外から 15 世紀の青磁が出土している。

近世～近代の遺跡は少ないが、川原毛瓦窯跡（3）・善念寺山（7）・大日堂（53）・南日詰小路口Ⅰ・南日詰小路口Ⅱ・南日詰・南日詰八坂等で遺構・遺物が検出されている。このうち川原毛瓦窯跡は有階有段の登窯で、17 世紀後半から盛岡城に陶製の赤瓦を供給していた御用窯であったことが判明している。その他に播鉢や香炉等も生産されているが、これらの供給先については不明である。また、

南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡では溝で区画された内部に17～20世紀（19世紀後半主体）の掘立柱建物や土坑が検出され、多量の陶磁器が出土している。

第1表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	時代	備考
1	蓮沼Ⅱ	集落跡	古代	
2	川原毛	集落跡	平安	
3	川原毛瓦窯跡	窯跡	近世	岩手県指定史跡
4	杉の上Ⅲ	集落跡	古代	
5	日詰七久保	散布地	平安	
6	七久保	窯跡	古代	
7	善念寺山	散布地	縄文	
8	善念寺山古墳	墳墓	縄文	
9	善念寺山Ⅱ	散布地	縄文	
10	戸部御所（西御所）	城館跡	中世	
11	日詰下丸森	散布地	古代	
12	山子	散布地	縄文	
13	吉兵衛館	城館跡	中・近世	
14	日詰石田	散布地		
15	高水寺城（郡山城）	城館跡	中世	紫波町指定史跡
16	二日町吉兵衛	散布地	縄文	
17	高水寺	散布地	古代	
18	御堂前	散布地		
19	河岸場	渡し場跡		
20	間木沢	散布地		
21	大吠森館（東館）	城館跡	中世	神社敷地
22	大吠森	散布地		
23	桜町上野沢	散布地	縄文・平安	
24	桜町下野沢	散布地	平安	
25	日詰下野沢	散布地		
26	平沢松田	散布地	古代	
27	桜町中桜Ⅰ	散布地	縄文・古代	
28	日詰牡丹野	散布地	古代	
29	平沢松田Ⅲ	散布地	古代	
30	西裏	散布地	古代	
31	日詰西	散布地	平安	
32	田頭	散布地		
33	北日詰牡丹野	散布地	縄文	
34	桜町田頭	散布地	古代	
35	才土地	集落	古代・中世	
36	本町川原	散布地	奈良・平安	
37	星山館	城館跡	中世	
38	花立	散布地		
39	大巻館跡	城館跡	中世	紫波町指定史跡
40	北日詰下藪	散布地	古代	
41	北日詰外谷地Ⅰ	散布地	縄文・古代	
42	北日詰外谷地Ⅱ	散布地	縄文・古代	
43	北日詰外谷地Ⅲ	散布地		
44	北日詰外谷地Ⅳ	散布地		
45	北日詰外谷地Ⅴ	散布地	古代	
46	北日詰八卦	散布地	古代	
47	北日詰東ノ坊Ⅳ	散布地	奈良・平安	
48	北日詰東ノ坊Ⅰ	散布地	古代	
49	北日詰東ノ坊Ⅲ	散布地	古代・中世	
50	北日詰東ノ坊Ⅱ	散布地	古代	
51	比爪館	城館跡	平安・近世	紫波町指定史跡
52	五郎沼	散布地	縄文	
53	大日堂	集落・城館跡	近現代	

No.	遺跡名	種別	時代	備考
54	北日詰城内Ⅱ	集落跡	縄文	
55	北条館	城館跡	縄文・古代・中～近世	報告遺跡
56	北日詰下東ノ坊	散布地	古代	
57	北日詰城内Ⅰ	散布地	古代・中世	報告遺跡
58	南日詰大銀Ⅱ	散布地	古代・中世	報告遺跡
59	南日詰大銀Ⅰ	散布地	古代	
60	南日詰小路口Ⅱ	散布地	古代	
61	南日詰小路口Ⅰ	散布地	古代	
62	南日詰小路口Ⅲ	散布地	古代	
63	南日詰宮崎	散布地	古代	
64	南日詰田中Ⅱ	散布地	古代	
65	南日詰梅田	散布地	古代	
66	南日詰梅田Ⅱ	散布地	古代	
67	南日詰長根Ⅱ	散布地	縄文・古代	
68	南日詰川原	散布地	古代	
69	南日詰京田Ⅰ	散布地	縄文・古代	
70	南日詰京田Ⅱ	散布地	古代	
71	南日詰蔭沼Ⅰ	散布地	古代	
72	南日詰蔭沼Ⅱ	散布地	古代	
73	伝蛇塚	散布地		
74	南日詰田中Ⅰ	散布地	古代	
75	南日詰京田Ⅲ	散布地	古代	
76	南日詰	散布地	縄文・古代・近世	
77	伝善知鳥館（善知鳥館）	城館跡	縄文・古代	紫波町指定史跡
78	南日詰滝名川Ⅰ			
79	南日詰滝名川Ⅴ	散布地	縄文	
80	南日詰八坂	散布地	古代	
81	下川原Ⅰ	散布地	古代	
82	片寄越田	散布地	縄文・古代	
83	犬濁谷地田	散布地	古代	
84	南日詰滝名川Ⅲ			
85	南日詰滝名川Ⅳ			
86	犬濁新田堰	散布地	縄文・古代	
87	西田	集落・城館跡	縄文・平安	
88	西田北	集落跡	縄文	
89	西田東	集落跡	縄文・平安	
90	下川原Ⅱ	集落跡	古代	
91	梅ノ木館（八竜）	城館跡	中世	
92	大巻長沢尻Ⅱ	散布地	縄文	
93	大巻門田	散布地	古代	
94	大巻長沢尻	散布地	縄文・古代	
95	赤川館	城館跡	中・近世	
96	彦部久保	散布地	古代	
97	暮坪	散布地	縄文	
98	元町	散布地	古代	
99	間野村	集落跡	平安・中世	令和2年新規
100	日詰西Ⅱ	散布地	奈良・平安	令和元年新規



第4図 周辺の遺跡

Ⅲ 調査の方法

1 野外調査

(1) グリッドの設定 (第1-5図)

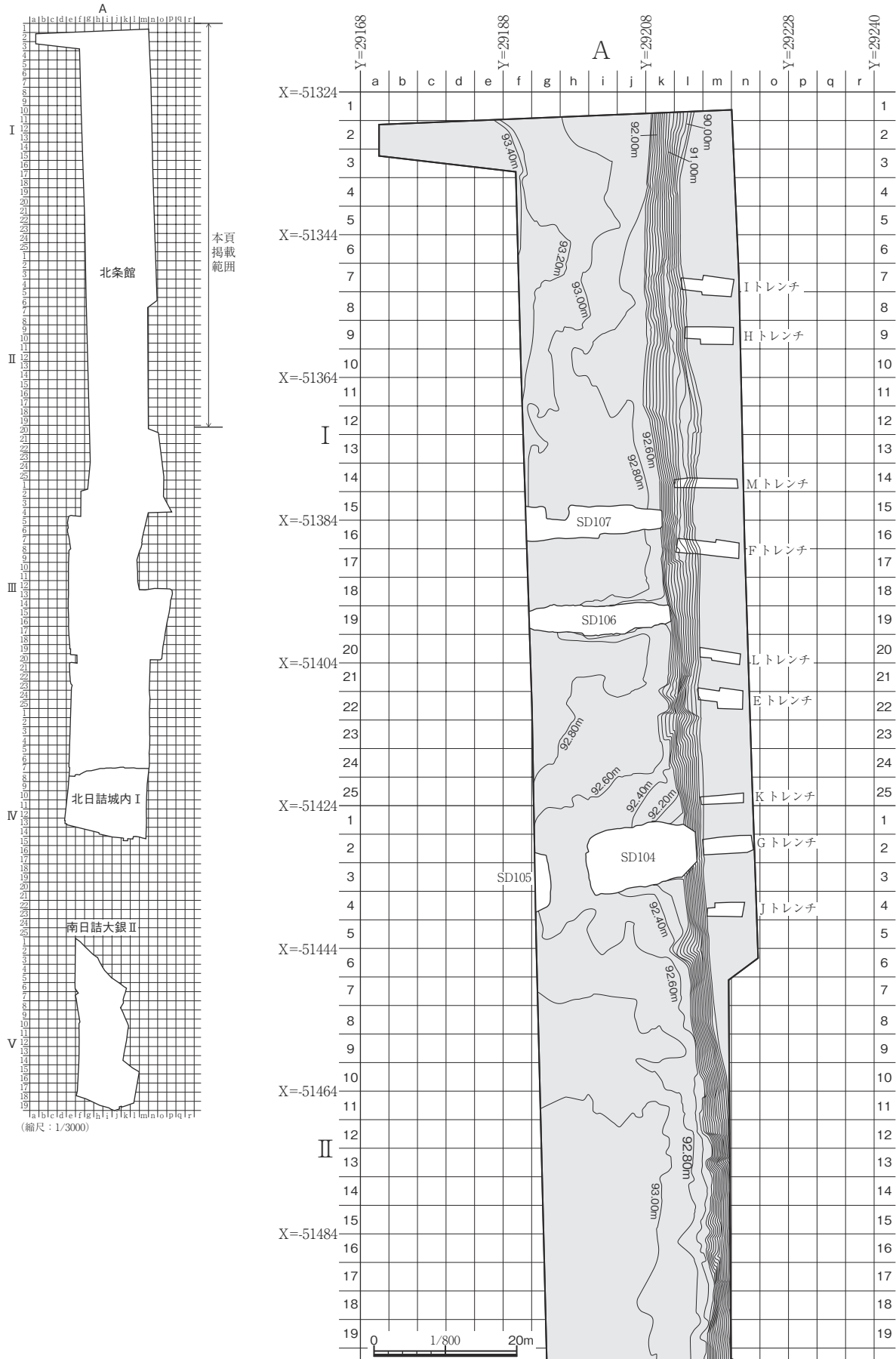
野外調査の実施に際し、3遺跡全ての調査範囲を網羅するように調査区内に平面直角座標系第X系(世界測地系)に従って基準点の設置を行った。具体的には、 $X = -51,324,000$ 、 $Y = 29,168,000$ の座標を基点として一辺100×100mの正方形グリッド(大グリッド)を設定、さらに各辺を10等分して4×4mの小グリッドを設定した。グリッドの呼称は、北西隅を基点として大グリッドは南北方向はI～V、東西方向はへA、小グリッドは南北方向は1～25、東西方向はa～rとし、小グリッドは「IA5b」などと呼称している。

調査区には業務委託によって基準点を打設しており、野外調査ではそれらを基準に測量を行った(第1-2表)。平成30年度は南日詰大銀Ⅱ遺跡と北日詰城内Ⅰ遺跡に3級基準点を各2点、令和元年度は北条館跡に3級基準点2点及び区画点4点を打設した。また、調査の進行に応じて各年度とも測量用の補点を調査員が追加で打設している。令和2年度は前年度に打設した基準点が動いていないことを確認し、それを利用した。

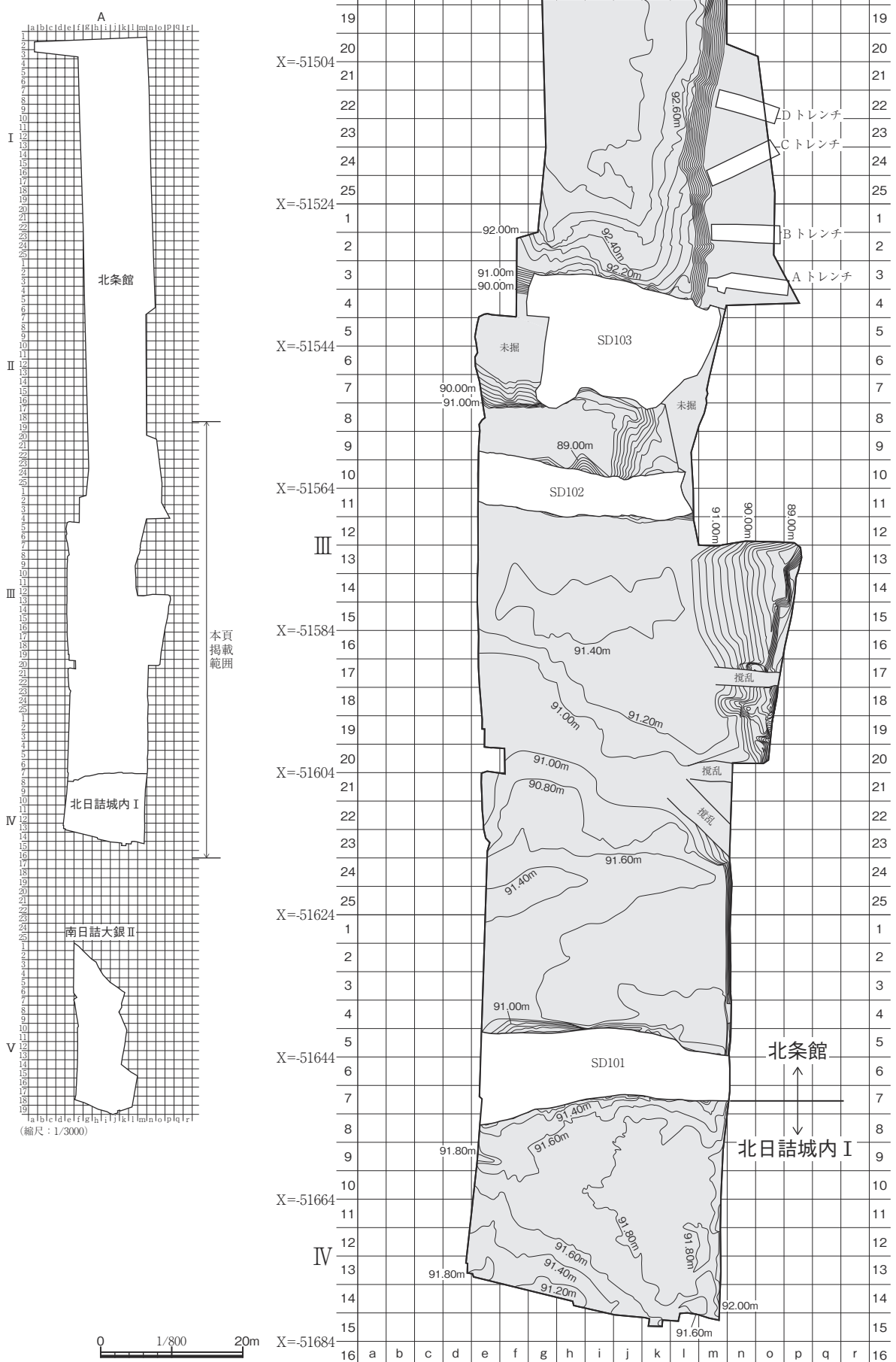
第2表 基準点一覧

平成30年度(南日詰大銀Ⅱ・北日詰城内Ⅰ・北条館)					令和元年度・令和2年度(北条館)				
点名	グリッド	X	Y	標高(m)	点名	グリッド	X	Y	標高(m)
大銀Ⅱ-基1	VA15f	- 51,743.740	29,207.371	91.560	3基1	ⅢA2h	- 51,531.103	29,196.646	93.273
大銀Ⅱ-基2	VA5j	- 51,781.498	29,189.577	92.987	3基2	IA2i	- 51,331.294	29,202.245	93.440
城内Ⅰ-基1	ⅢA20e	- 51,602.243	29,187.388	91.164	区.1	ⅡA14h	- 51,476.000	29,196.000	93.275
城内Ⅰ-基2	ⅣA6m	- 51,646.360	29,218.615	91.628	区.2	ⅡA20h	- 51,500.000	29,196.000	93.365
補-1	VA7f	- 51,748.501	29,188.076	91.610	区.3	IA20h	- 51,404.000	29,196.000	93.192
北補-1	ⅣA15h	- 51,680.649	29,199.742	91.652	区.4	IA16h	- 51,384.000	29,196.000	93.284
北補-2	ⅢA21m	- 51,607.531	29,219.524	92.174	H31補1	ⅡA9j	- 51,459.484	29,205.644	93.458
北補-3	ⅢA4e	- 51,539.155	29,184.918	91.310	H31補2	ⅡA3l	- 51,435.028	29,212.383	92.229
北補-4	ⅣA8p	- 51,654.021	29,229.784	92.384	H31補3	ⅢA1n	- 51,524.649	29,221.628	89.862
北補-5	VA10q	- 51,762.901	29,234.928	89.304	H31補4	ⅡA18i	- 51,492.940	29,203.216	92.785
北補-6	VA6k	- 51,745.241	29,210.756	91.610	H31補5	ⅡA6g	- 51,446.410	29,194.517	92.710
					H31補6	IA18n	- 51,395.417	29,221.522	90.044
					H31補7	ⅡA21l	- 51,506.065	29,214.122	92.634
					H31補8	IA12n	- 51,370.463	29,223.940	89.850
					R1補1	ⅡA11j	- 51,466.217	29,207.464	93.042
					R1補2	ⅢA3k	- 51,533.788	29,210.621	92.199
					R1補3	ⅢA8e	- 51,552.357	29,214.595	90.644
					R2補1	IA25g	- 51,421.955	29,194.313	92.638
					R2補2	ⅡA1h	- 51,427.159	29,199.483	92.690
					R2補3	IA12i	- 51,369.777	29,203.137	93.004
					R2補4	IA14i	- 51,376.014	29,200.925	93.079

1 野外調査

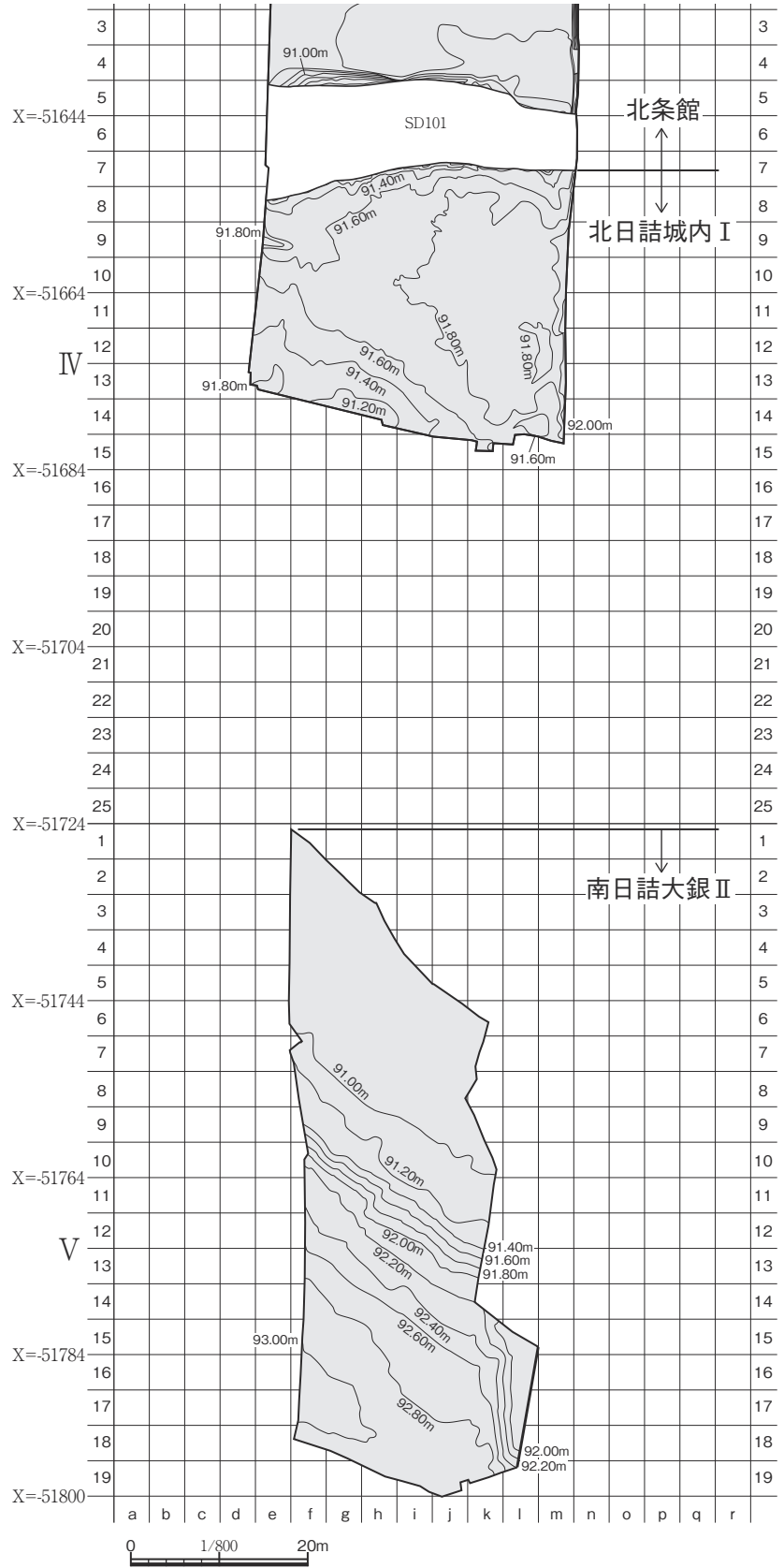
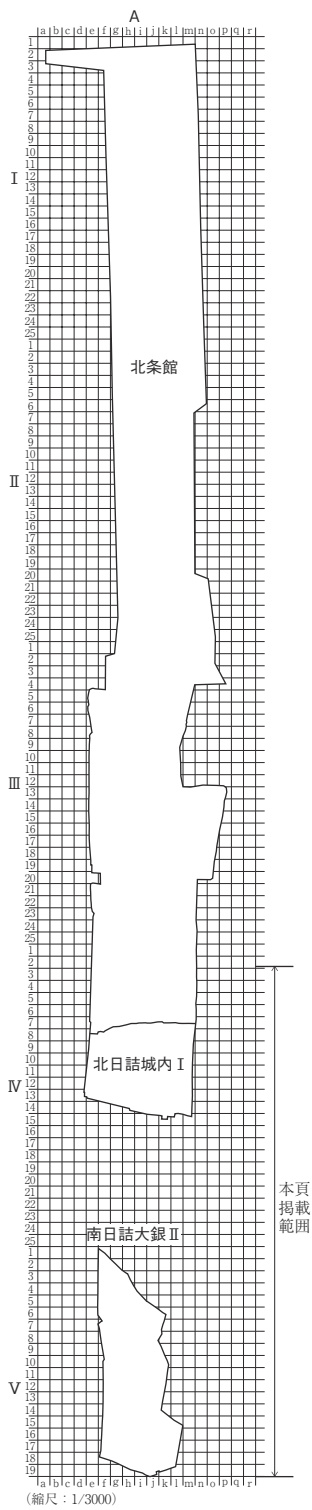


第5図 グリッド・等高線図 (1)



第6図 グリッド・等高線図 (2)

1 野外調査



第7図 グリッド・等高線図 (3)

(2) 精査の方法および遺構の記録

3遺跡とも調査に先立って調査区内の雑物撤去を行い、続いて遺構の有無を確認するために数箇所にてトレンチを設定して人力で試掘を行った。試掘の結果をうけ、遺構検出面までは調査の迅速化と人力掘削量の軽減を図るため、調査員監督の下、重機（バックホー）によって表土（I層）を掘削し、その後人力で遺構検出を行った。

検出した遺構には釘やスプレーを使ってマーキングし、さらに一部の遺構については検出状況の写真撮影を行った。野外調査での遺構名は、平成30年度調査では3遺跡とも略号を用いているが、北条館跡の令和元年度及び2年度調査では前年度との名称の重複を避けるため「〇号竪穴」のような記載を用いた。精査中に遺構種別が変わるものや欠番となったものもあることから、報告書掲載にあたっては最終的に種別ごとに略号に振り替えている。なお、遺構名の新旧関係については各遺跡の報告で掲載している。

遺構の掘り下げは4分法と2分法を使い分け、土層観察を行いながら進めた。掘り下げには主に移植窰を使用し、遺物の集中する地点などでは竹窰なども使用している。遺構のプランや新旧関係が不明な場合は適宜サブトレンチを設定して層位確認を行っている。

遺構については、完掘、土層断面、遺物出土など状況に応じて写真撮影と実測図の作成を行っている。遺構の平面図は、実測用ソフト「遺構くん」(株)Cubic社製)を用いて収集した数値データをもとにパソコン上で図化した。断面図は、簡易遣り方測量とデジタルカメラ画像を用いた写真解析図化作業(業務委託)、「遺構くん」による計測で作成した。

遺構の写真撮影には、6×7cm判カメラ(モノクロ)とデジタルカメラ(キャノン社製一眼レフタイプ、2020万画素)を使用した。6×7cm判は記録保存、デジタルカメラは報告書作成及び広報・普及を目的として撮影しているが、基本的に6×7cm判で撮影したものについてはデジタルカメラでも同一カットの撮影を行っている。

2 調査経過

各遺跡の野外調査の経過について、第3節に記載した普及啓発活動を除いた分の記載を行う。

(1) 南日詰大銀Ⅱ遺跡

平成30年度に野外調査を実施した。4月18日に北日詰城内Ⅰ遺跡と共に器材を搬入し、調査を開始した。開始前に提示された調査対象面積は800㎡である。表土を除去し遺構検出作業を進めたところ、調査区北端で12世紀代の遺物包含層が検出され、これがさらに北側の調査区外へと続くことが確認された。この点について、5月16・22日に岩手県教育委員会生涯学習文化課及び委託者である国土交通省岩手河川国道事務所と協議を行ったところ、遺跡範囲北端まで調査区が拡大することになり、調査対象面積は1,380㎡となった。

期間の途中で調査員・作業員とも北日詰城内Ⅰ遺跡や北条館跡への移動や分散を行いつつ、8月22日に終了確認を受け、8月30日に調査を終了した。

(2) 北日詰城内Ⅰ遺跡

平成30年度に野外調査を実施した。4月18日に器材を搬入し、調査を開始した。開始前に提示さ

れた調査対象面積は2,200㎡である。5月上旬に調査区のほぼ中央で堀1条を検出した。これは北条館跡のSD101であり、したがって北日詰城内I遺跡の調査範囲の北側半分（SD101より北側）については、北条館跡の遺跡範囲とすべきである可能性が出てきた。

この点について、5月16・22日に協議を行ったところ、北日詰城内I遺跡の調査範囲はSD101の南側の範囲のみに縮小した（SD101北側の取扱いについては次項に記載）。一方、調査区南端で遺構の分布が南側の調査区外へと延びることが確認されており、南側については遺跡範囲南端まで調査区が拡大することとなった。この後、5月29日に再度協議を実施し、調査対象範囲は2,200㎡から1,190㎡に変更され、SD101より北側は北条館跡の調査対象範囲に含むことで確定した。

期間の途中で調査員・作業員とも南日詰大銀II遺跡や北条館跡への移動や分散を行いつつ、9月26日に終了確認を受けた。9月28日には南日詰大銀II遺跡・北条館跡と合わせて航空写真撮影を実施して調査を終了し、北条館跡へと移動した。

(3) 北条館跡

3箇年にわたり野外調査を実施していることから、年度ごとに記載を行う。

平成30年度

6月18日から調査を開始した。実質的には開始前から既にSD101の精査は行っており、まず開始以前の経過について記載する。開始前に提示された調査対象面積は6,780㎡である。調査範囲は遺跡範囲の南東側であり、北日詰城内I遺跡の調査範囲からは約70m離れている。なお、両遺跡の間はいずれの遺跡範囲にも含まれていなかったため、本調査は不要とされていた。

しかし、先述の通り北日詰城内I遺跡の調査中に本遺跡南端の堀であるSD101が検出されており、前述の協議を経てこれより北側は本調査不要とされた範囲も含めて全て北条館跡の範囲と判断され、本調査を実施することとなった。これにより面積は大きく拡大し、さらに5月29日の委託者との協議により面積が追加となり、調査対象面積は10,380㎡となった。

作業はSD101の精査から開始したが、掘削土量が多いことから作業が難航した。さらに新たに追加された範囲で堀1条（SD102）や掘立柱建物・土坑・溝などの遺構が多数検出され、当初の調査予定範囲までの終了が困難であると判断されたため、9月26日に協議を実施し、平成30年度の調査範囲は北日詰城内I遺跡から北条館跡へと変更になった範囲と追加範囲の併せて3,700㎡とし、当初予定範囲は令和元年度に繰り越すこととなった。

北日詰城内I遺跡の調査終了後は調査員・作業員とも北条館跡に合流して作業を進め、10月23日に終了確認を受けた。その後、次年度調査区の試掘などを行いながら11月15日に調査を終了、11月16日に業務委託により地形測量を実施した。

令和元年度

4月8日に器材を搬入し、前年度調査区に隣接する南側から調査を開始した。開始前に提示された調査対象面積は6,760㎡である。前年度に実施した試掘調査で柱穴をはじめ多数の遺構が分布することが判明していたが、遺構検出を行ったところ想定よりも多くの遺構が検出された。また、遺存状況が良好で個々の遺構の掘削土量が多く、調査員・作業員とも増員して作業を進めた。6月から調査区南端に位置する堀（SD103）の精査を開始したが、調査区検出面と遺構底面との比高差が3m近くあり、崩落の危険もあったことから精査終了後の8月7日にSD103周辺の500㎡について終了確認を受け、引き渡しを行った。また、9月には斜面部及び下段調査区の調査を開始した。この範囲は城館の切岸及び東端の堀である可能性が想定されていたが、斜面部は既に削平されており、下段調査区は

自然の河川堆積のみ確認されたことからトレンチでの調査に留めた。

これ以降も人員を増員しながら調査を進めたが、遺構の検出数が多く調査区全域ではほぼ遺構密度が同じであったことから当初の調査予定範囲までの終了が困難であると判断された為、11月7日に協議を実施し、令和元年度の調査範囲は調査区南端から中央付近及び下段調査区の4,800㎡とした。この後、11月21日に航空写真撮影、11月26日に終了確認を受け、11月27日に調査を終了した。

令和2年度

4月8日に器材を搬入し、南側から調査を開始した。開始前に提示された調査対象面積は1,880㎡である。前年度に調査区の約半分の表土除去を終えていたため、開始当初から遺構精査に入ることができた。前年度と同じく遺構密度は高く、宅地跡も含まれており攪乱も多かったが、遺構の内容はおおむね想定された通りであった。7月21日に航空写真撮影、8月27日に終了確認を受け、9月3日に調査を終了した。

3 室内整理

(1) 遺 構

今回の調査では一部の遺構について写真解析図化作業を業務委託しており、遺構図面は①「遺構くん」で作成したデジタルデータ、②簡易遣り方測量による断面図、③写真解析によるデジタルデータの3者が作成されている。平面図は原則として①のデータであるため、図面の合成作業（修正図の作成）については断面図のデータ種別に応じて以下の通り整理を行った。

簡易遣り方測量の場合

断面図は実測図を等倍でスキャニング（解像度200～300dpi）してAdobe Illustrator CS4・6でトレースを行う。「遺構くん」データはEPS形式に変換し、トレースした断面図と同縮尺で同じ画面上に貼り付ける。両者のセクションポイントの位置を揃えて調整を行い、修正図を作成する。

写真解析によるデジタルデータの場合

委託先に「遺構くん」で作成したデジタルデータをDXF形式で送付し、一枚の画像の中に①と同じく平面図と断面図が含まれている図面の作成を依頼する。作成された図面は紙ベースに打ち出し、原稿の校正と同じ要領で指示書きをして調整を行う。

なお、修正図完成後は土層注記のテキストデータをファイルに貼り付け、さらに当センターの版面（縦24.0×横16.0cm）に収まるようにIllustratorのデータ上でレイアウト、網掛け処理、キャプションの記入を行い、AI形式のファイルを完成品として印刷業者に納入した。

遺構写真図版については、野外調査時にデジタル一眼レフカメラで撮影した画像（RAWデータ）をJPEG形式に変換し、一部画像のトリミングを行った後にAdobe In Design CS6を用いて割付を行った。印刷時にはIn Designで作成した割付データと画像のJPEGデータを印刷業者に納入し、色調整は校正時に行っている。

(2) 遺 物

遺物の処理は、各年度とも土器類の洗浄から開始した。土器類は水洗・乾燥後に土器（縄文土器・土師器・須恵器・かわらけ）、陶磁器、石器・石製品、金属製品、鉄生産関連遺物（鉄滓・羽口・炉壁）、木製品に選別した。各種別の遺物の処理状況は以下の通りである。

土器・陶磁器 洗浄後、袋ごとに重量を計測しながら注記を行い、遺構・グリッド毎に仕分けを行っ

た。接合をしながら器形の復元が可能なものや器形及び文様に特徴があるものを中心に登録を行い、重量計測後に復元作業を行った。これらの行程を経て、掲載遺物については実測・拓本・トレース・写真撮影を行った。

石器・石製品 洗浄後、加工・使用の有無を確認しながら剥片石器・礫石器・石製品に分類した。分類した後にさらに細分類を行い、登録を行った。登録後に実測・トレース・写真撮影を行っているが、一部のものについては実測の業務委託を実施した。

金属製品 大まかな土と錆を落としながら形状を確認し、明らかに現代と考えられるもの以外は全点登録した。その後、X線透過写真撮影を行って形状を確認し、掲載遺物については実測・トレース・写真撮影を行った。銭貨は全点登録し、拓本・実測が可能なものを掲載した。また、掲載遺物については劣化・破損防止のために保存処理作業を委託している。

鉄生産関連遺物 鉄滓・羽口・炉壁に分類し種別ごとに重量を計測、代表的なものについて実測・写真撮影を行った。

木製品 全点を登録し、水漬けにして保存した。実測・トレース・写真撮影を行い、終了後に劣化・破損防止のために保存処理作業を委託した。また、一部の資料については樹種同定と年代測定も実施している。

4 普及啓発活動

- 平成 30 年 6 月 28 日 遺跡見学（南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡）紫波町教育委員会・ひづめ館懇話会 25 名
- 平成 30 年 7 月 18 日 遺跡見学（南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡）福島県文化振興財団職員 4 名
- 平成 30 年 7 月 28 日 現地説明会（南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡）96 名
- 平成 30 年 7 月 31 日 教職員研修（南日詰大銀Ⅱ遺跡） 岩手県立盛岡青松支援学校・盛岡市立見前南中学校・同黒石野中学校教員各 1 名
- 平成 30 年 9 月 12 日 遺跡見学（北条館跡）赤石公民館 20 名
- 平成 30 年 11 月 6 日 遺跡見学（北条館跡）紫波町中央懇話会 33 名
- 平成 31 年 1 月 26 日 平成 30 年度遺跡報告会（南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡）
- 令和元年 7 月 7 日 シンポジウム「平泉と並び立つ「比爪」の実像を探る」ひづめ館懇話会主催（南日詰大銀Ⅱ遺跡）
- 令和元年 6 月 13 日 遺跡見学（北条館跡）ひづめ館懇話会 20 名
- 令和元年 7 月 27 日 現地説明会（北条館跡）140 名
- 令和元年 8 月 6 日 体験学習（北条館跡）東京都中学生・教員各 1 名
- 令和元年 11 月 7 日 遺跡見学（北条館跡）赤石公民館 20 名
- 令和 2 年 2 月 1 日 令和元年度遺跡報告会（北条館跡）
- 令和 2 年 8 月 4 日 遺跡見学（北条館跡）赤石公民館 17 名参加
- 令和 3 年 1 月 23 日 令和 2 年度遺跡報告会（北条館跡）
- ※人数は各行事の参加者

(村田)

IV 南日詰大銀Ⅱ遺跡の調査

1 調査概要

(1) 調査状況

これまで紫波町教育委員会によって3度の調査が行われており、今回は4度目の調査となる。

調査回数	調査期間	調査主体	調査面積
1次調査	平成27年4～7月	紫波町教育委員会	418㎡
2次調査	平成28年4～7月	紫波町教育委員会	498㎡
3次調査	平成29年9～11月	紫波町教育委員会	836㎡
4次調査	平成30年4～9月(今回)	県埋蔵文化財センター	1,480㎡

調査区は、地形的に南側の一段高い部分と北側の低い部分に分けられる(第1-8～14図)。検出面は、基本土層Ⅳ層の黄褐色砂質シルト面である。上層である黒褐色土層が残存していないため、幾分か削平されていたことがわかる。調査区の東側は、すぐ崖になっており、平沢川へ流れ込む水路によって開析されているようである。したがって、遺跡は東側には延長しないと考えられる。検出した柱穴のうち約5割を使用して掘立柱建物を復元したが、まだ多数の柱穴が残存しており、さらに追加される可能性がある。建物の年代決定は困難であるが、出土遺物や建物方位から12世紀と15～16世紀のいずれかに属すると想定している。そのほか竪穴建物は第3次調査と同一の遺構の北半分である。遺跡が立地する微高地面には、古代の竪穴建物も存在することがわかる。

北側の低地面との境は、約130cmの段差となるが、そこに12世紀の溝が掘削されている。最大幅は、傾斜変換点からみると4m程あり、深さは1.5m程である。地形の境に位置することを考えると、調査区の外側(西方向)に延長することが推定される。

北側の低地面は、標高91m前後である。検出面は南側と異なりⅡ～Ⅲ層で行った。北端付近はⅣ層で行っている。当初は一段下がった範囲までであったが、調査の結果から北側にある水路まで調査範囲を拡張した。遺構の配置から水路よりも北側にも遺構が続きそうである。

北側は、南側ほどの数は無いが掘立柱建物や焼土坑、溝を中心に遺構が検出される。溝跡以外の遺構は、数少ない出土遺物から15～16世紀前後の時期が考えられ、北側に隣接する北日詰城内Ⅰ遺跡、北条館跡とも関連する。12世紀代の遺構は溝のみであるが、微高地よりも下がった北側にも少数ながらも遺構の広がり確認できた。遺構精査後、Ⅱ～Ⅲ層上にトレンチを設定し、Ⅳ層面の確認を行ったが、遺構・遺物とも確認できなかったため、この面で調査を終了している。

検出した遺構と出土した遺物は以下の通りである。

遺構	略号	員数	遺構	略号	員数
竪穴建物	SI	1軒	土坑	SK	9基
掘立柱建物	SB	33棟	炉	SL	6基
溝	SD	3条	柱穴	P	198個

遺物

土器類（土師器・須恵器・かわらけ）	大コンテナ（42×32×30cm）5箱（29,189.8g）
陶磁器類（国産陶器・輸入陶磁器など）	中コンテナ（42×32×20cm）1箱（3,731.3g）
石器	小コンテナ（42×32×10cm）1箱（1,813.6g）
金属製品	小コンテナ（42×32×10cm）1箱（1,236.2g）
土製品・その他	小コンテナ（42×32×10cm）1箱（32,409.1g）
	合計 68,380g

(2) 基本層序（第1-8図、写真図版1-5）

今次調査区は、地形的に1段低い北側と高い南側の2つに分けられる。北側は、粘質シルト～粘土層を主体とし、いわゆる地山とするIV層は粘土である。南側は、砂質シルトを主体とし、段丘基盤礫と想定する礫層の上位層である。それぞれで基本土層の様相は多少異なるが、層序を対応させている。第1-8図は、基本土層模式図である。比較的層序が単純であるため、柱状図で表現している。

I層は、にぶい黄褐色シルト層（10YR5/3）で調査前の旧状は畑であったためこの耕作土と考えられる。基本的には現代の層である。

II層は、黒褐色～黒色粘質シルト層（10YR3/1～2/1）でその色調や層中に十和田aテフラを含む（第6節参照）ことから、縄文から古代の堆積層と想定される。いわゆる黄色ロームの上位に堆積する黒色土層と同じである。北側にのみ存在し、多くの遺構はこの上位から掘り込まれている。

III層は、褐灰色粘土（10YR5/1）II層の黒褐色とIV層の灰白～黄橙色粘土との中間色である粘土層である。漸移層と想定される。

IV層は、灰白色～黄橙色粘土（10YR7/1～10YR8/6）（北側調査区）で遺構確認の最終面である。南側調査区では黄褐色砂質シルト（10YR5/8）がこの層に対応する。最終確認面であることは変わらない。

V層は、礫層で最下部まで断ち割りを行っていないため厚さや層相など詳細は不明である。この礫層上面の高さ（標高）は一様ではなく、高く露頭しているところもあれば、深く沈み込んでいるところもある。

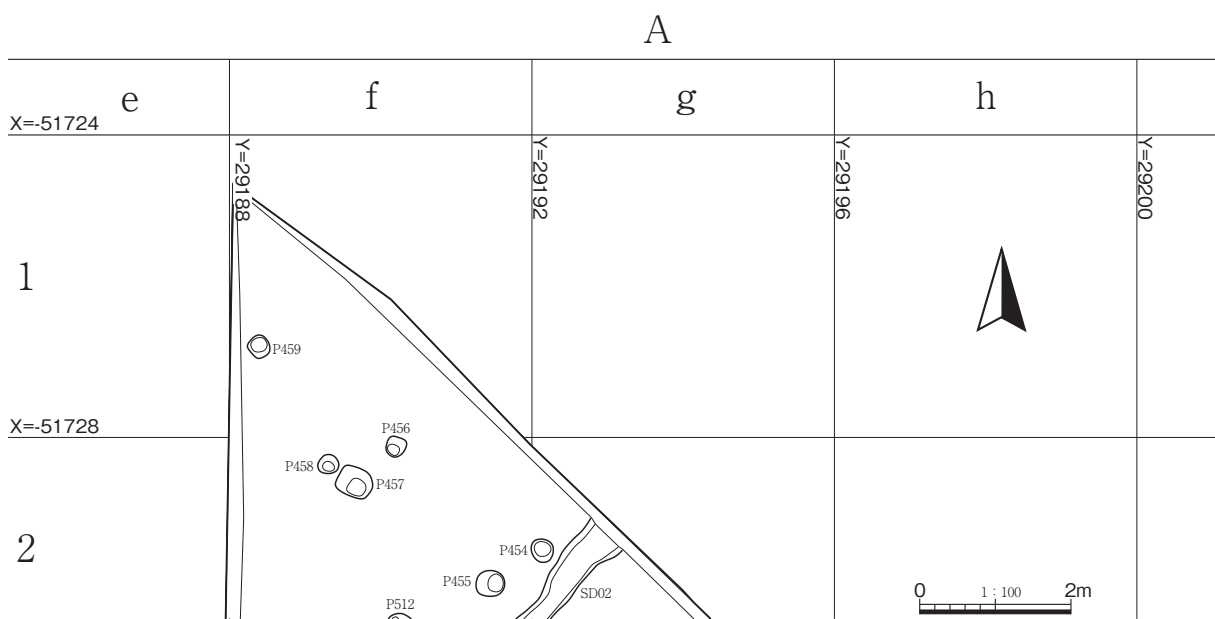
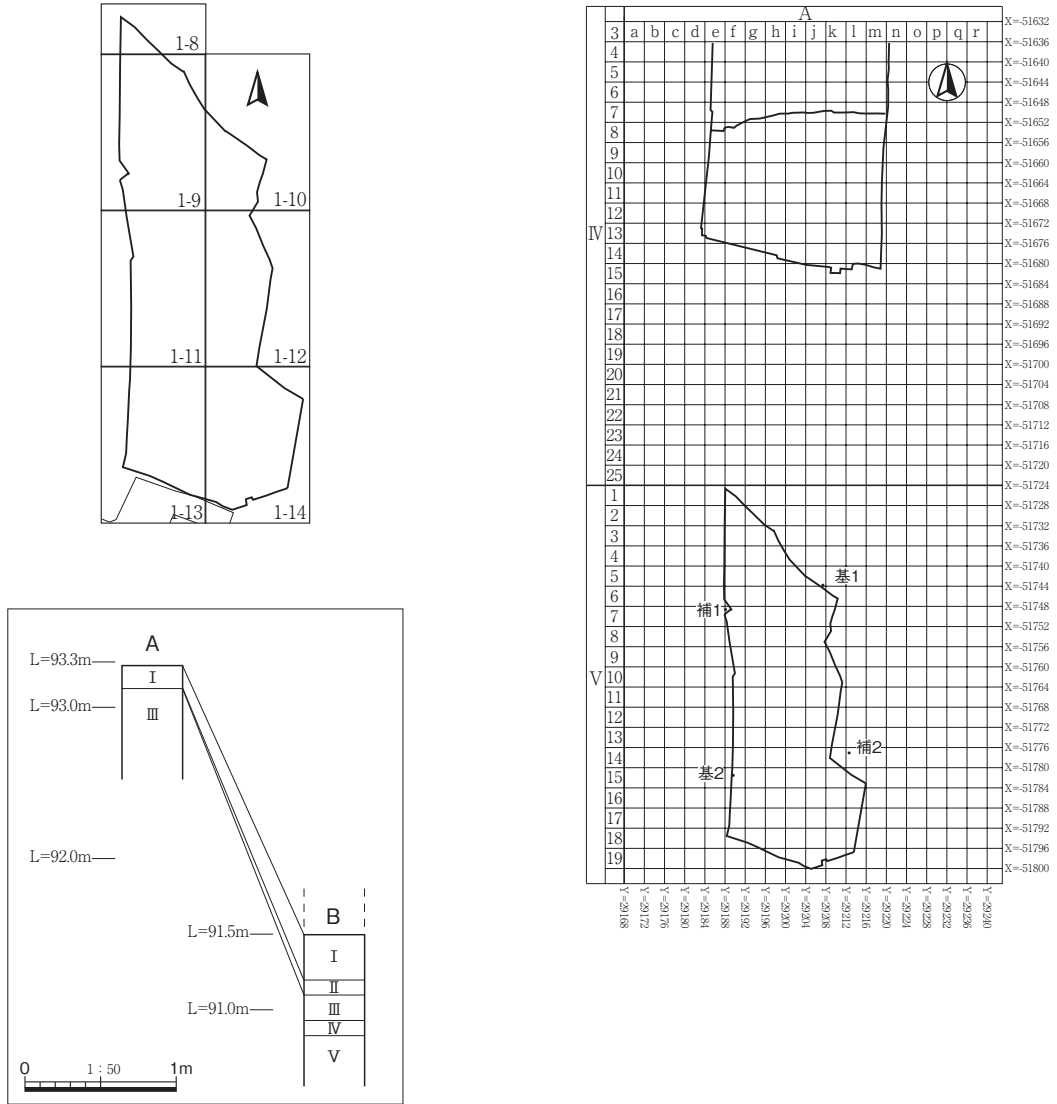
北側調査区では、I～V層の各層が確認できる。遺構検出を行ったのは主にII層中である。SD02付近より北側はII層がほとんどなく、この範囲はIII～IV層で遺構検出を行った。南側調査区では、I層の下位がIV層あることが基本であり、この層上面で遺構検出を行っている。II～III層に相当する層は削平されている可能性がある。また、南側調査区の北端部では、I層直下がV層である礫層が東西に広がっている。

2 検出遺構

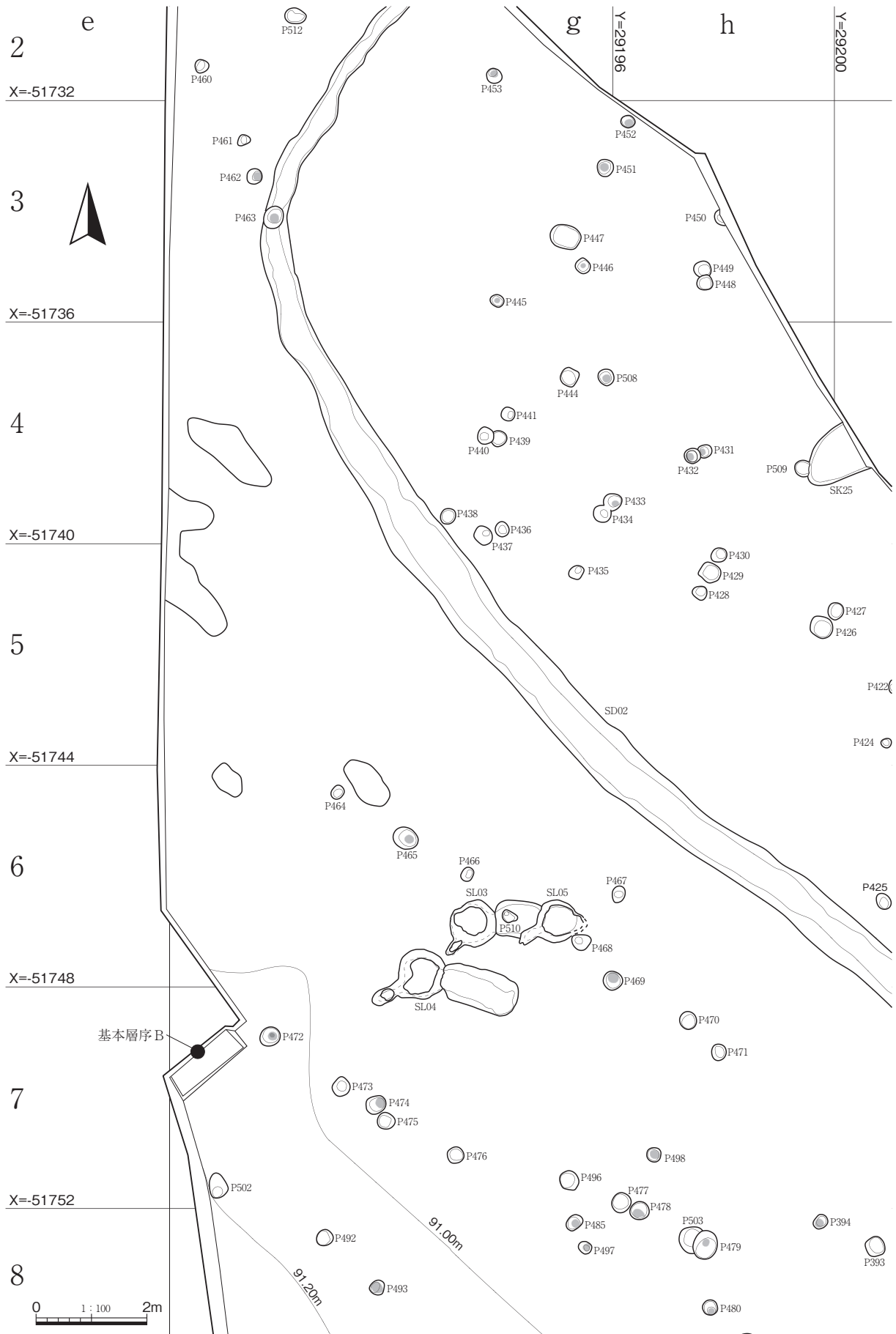
(1) 掘立柱建物

今回の調査区では33棟検出した（第1-15～17図）。調査区南側に複数の建物が集中しているが、北側の一段低い場所にも広がっている。これらには、野外調査時に検出したものや、室内整理時に復元したものが含まれる。建物として使用した柱穴は242個であり、検出した柱穴439個のうち55%の割合である。約半分の柱穴は建物として復元できなかった。

建物の主軸の共通性が同時期に並存した建物群の1つの根拠となるため、南北棟・東西棟にかかわらず北に対する建物の東西方向の傾き（主軸方向）を示す。柱間寸法は、1尺=30.3cmを基準とするが、



第8図 遺構配置図(1)、基本層序模式図

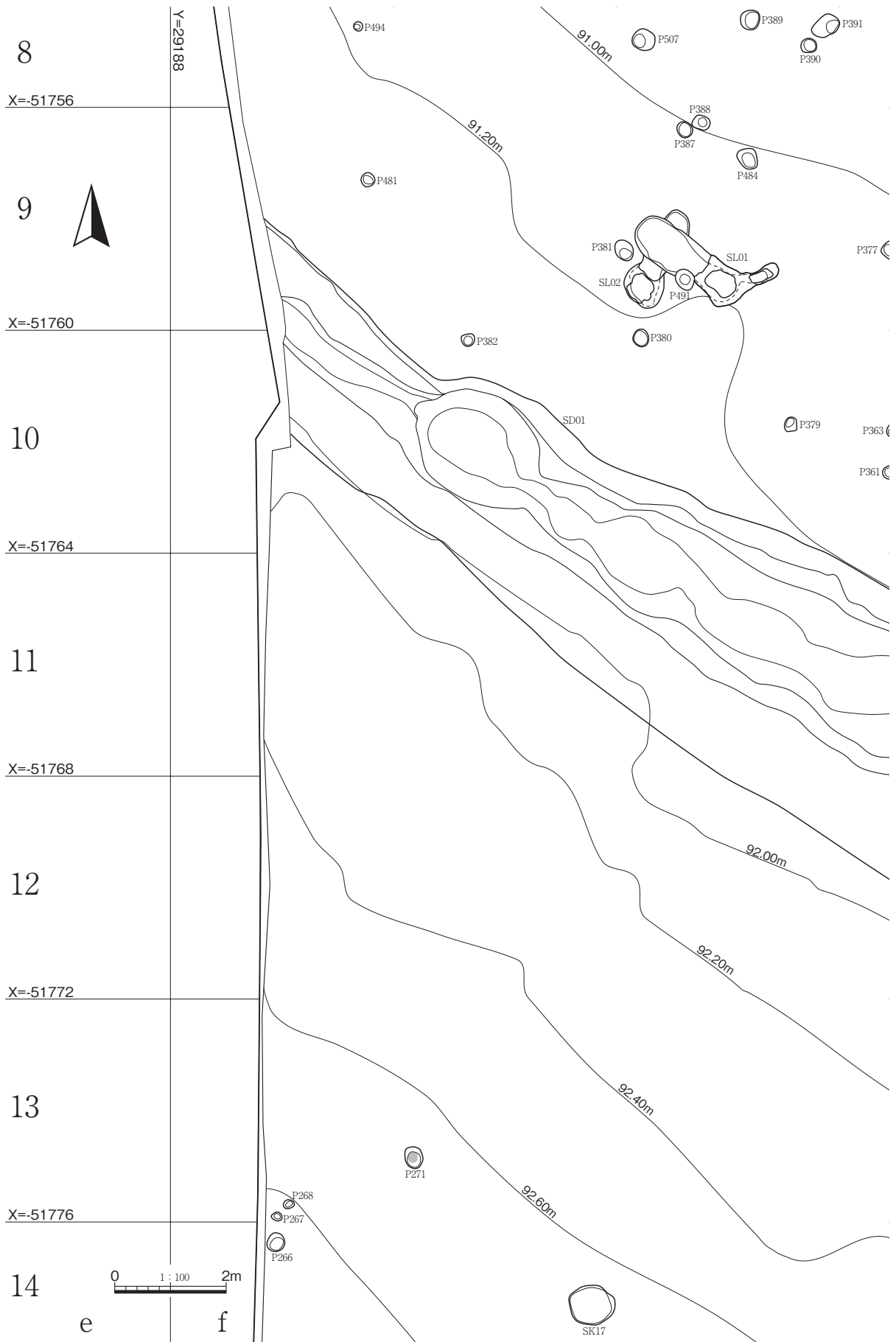


第9図 遺構配置図(2)

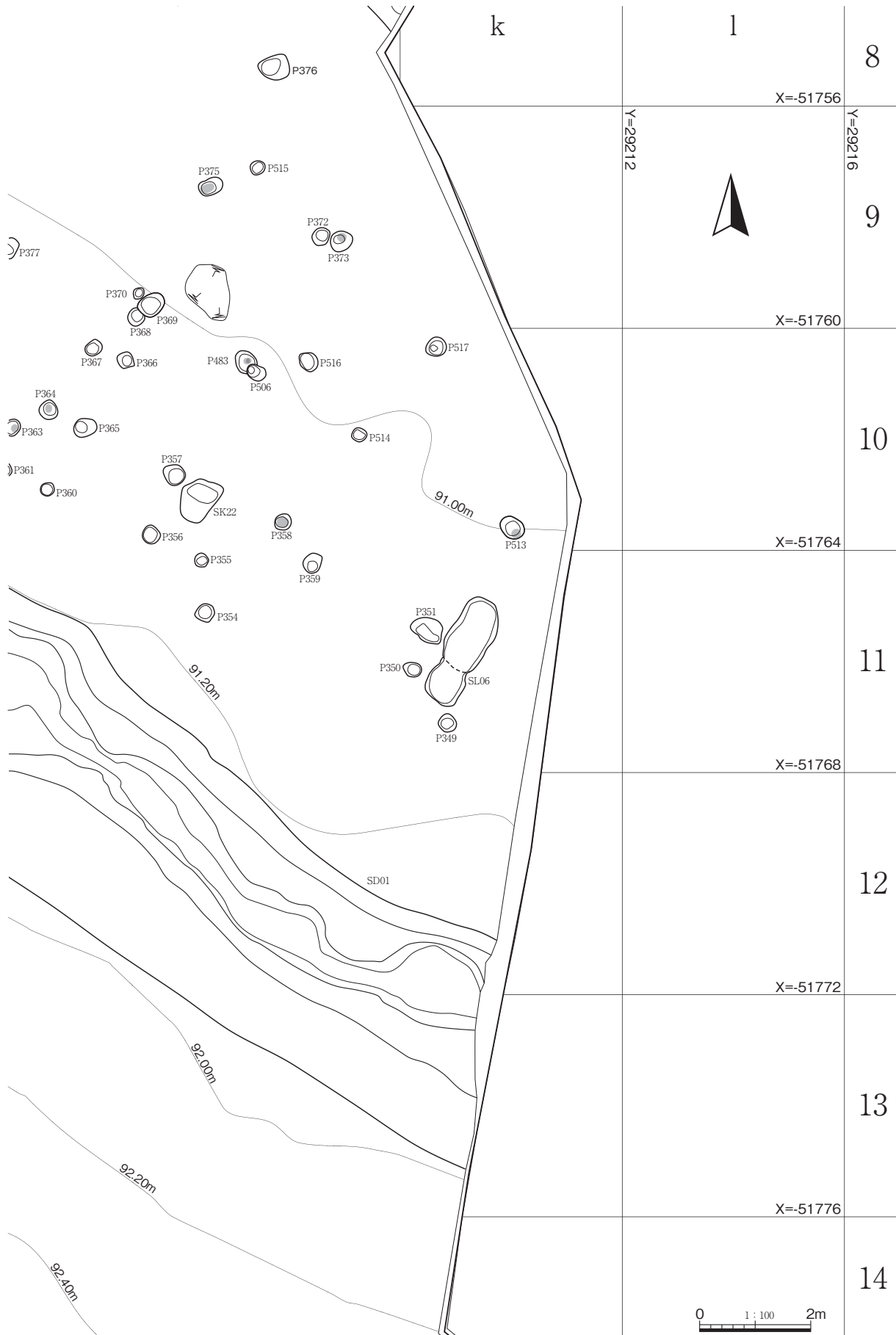


第10図 遺構配置図(3)

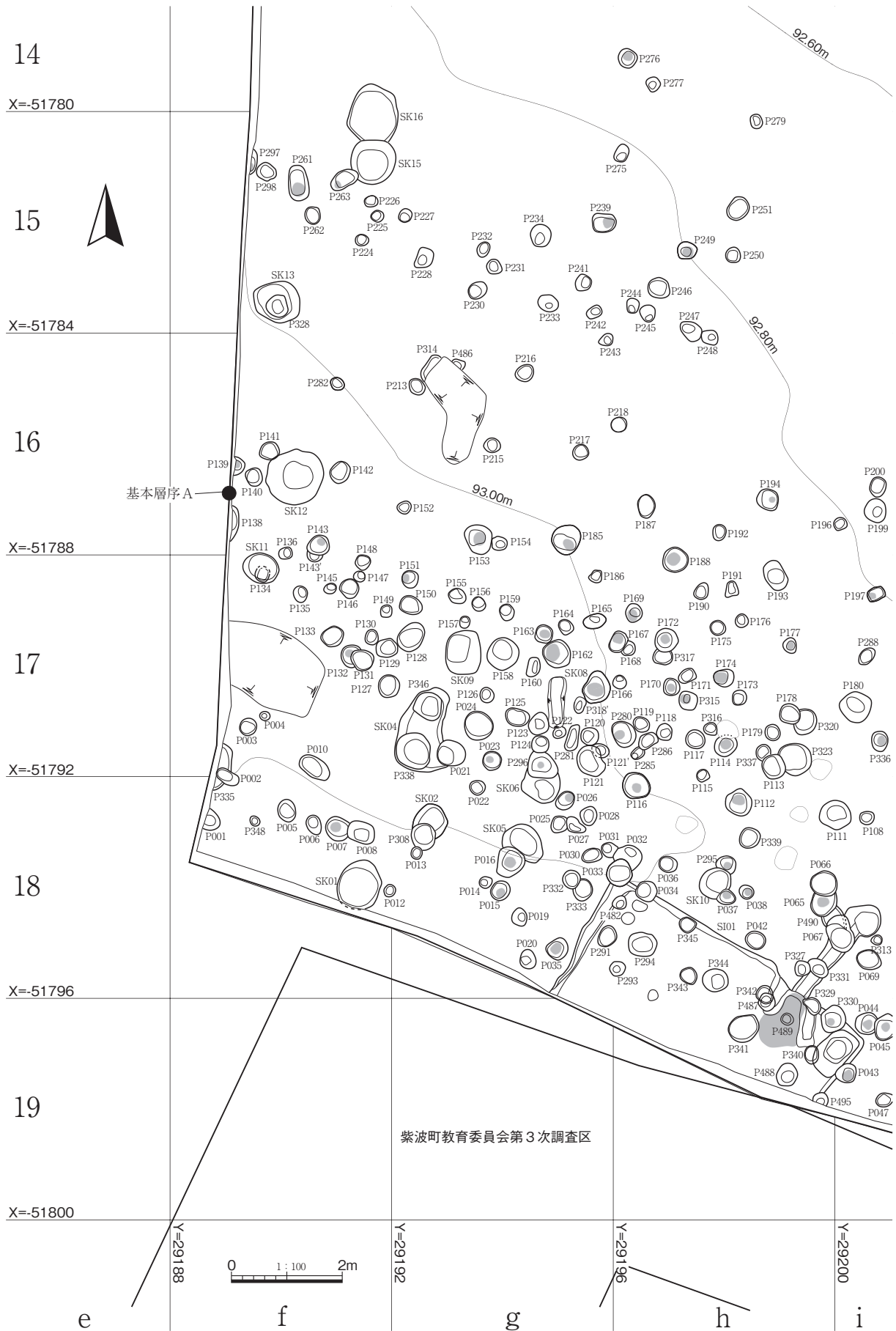
2 検出遺構



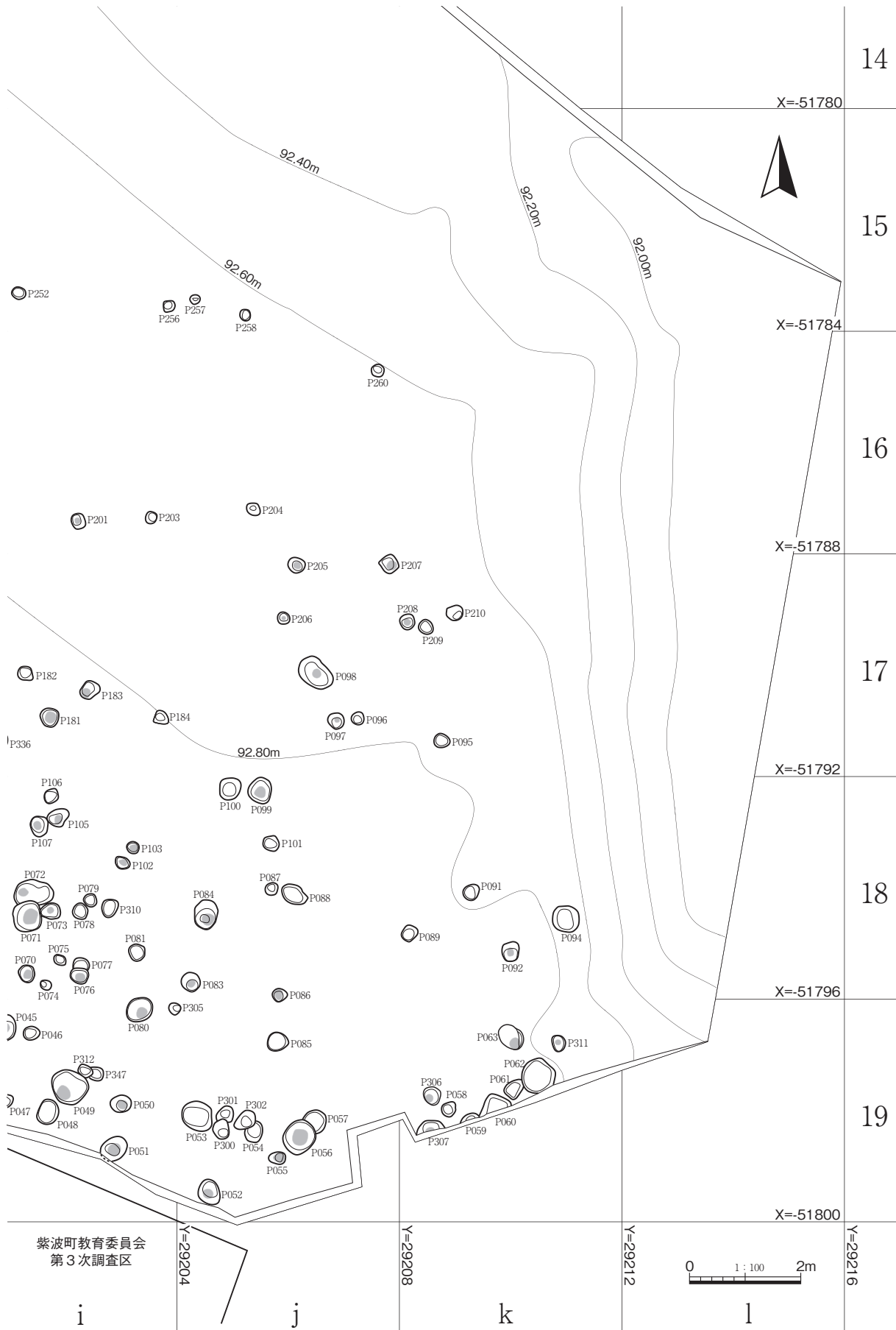
第11図 遺構配置図(4)



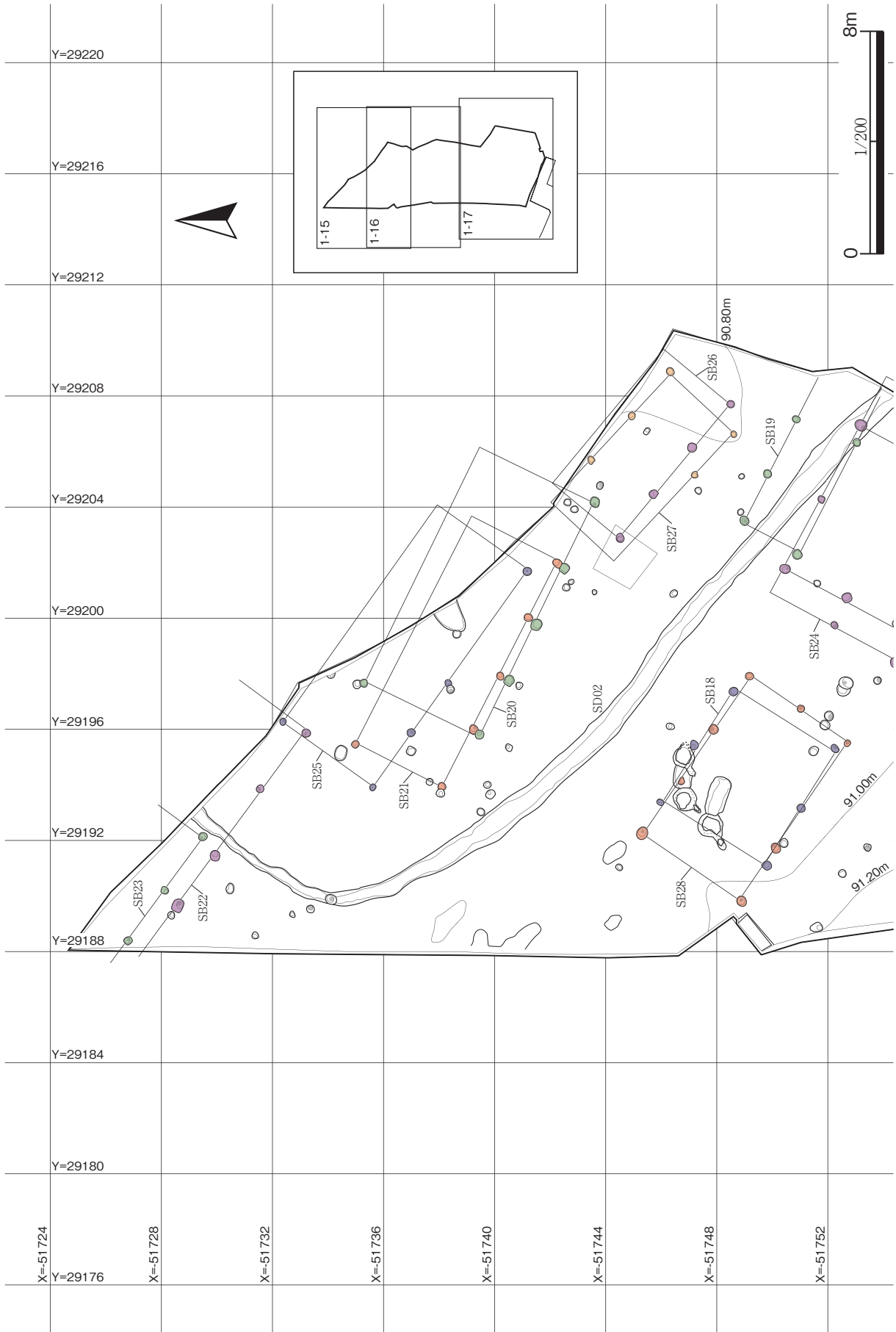
第12図 遺構配置図(5)



第13図 遺構配置図(6)



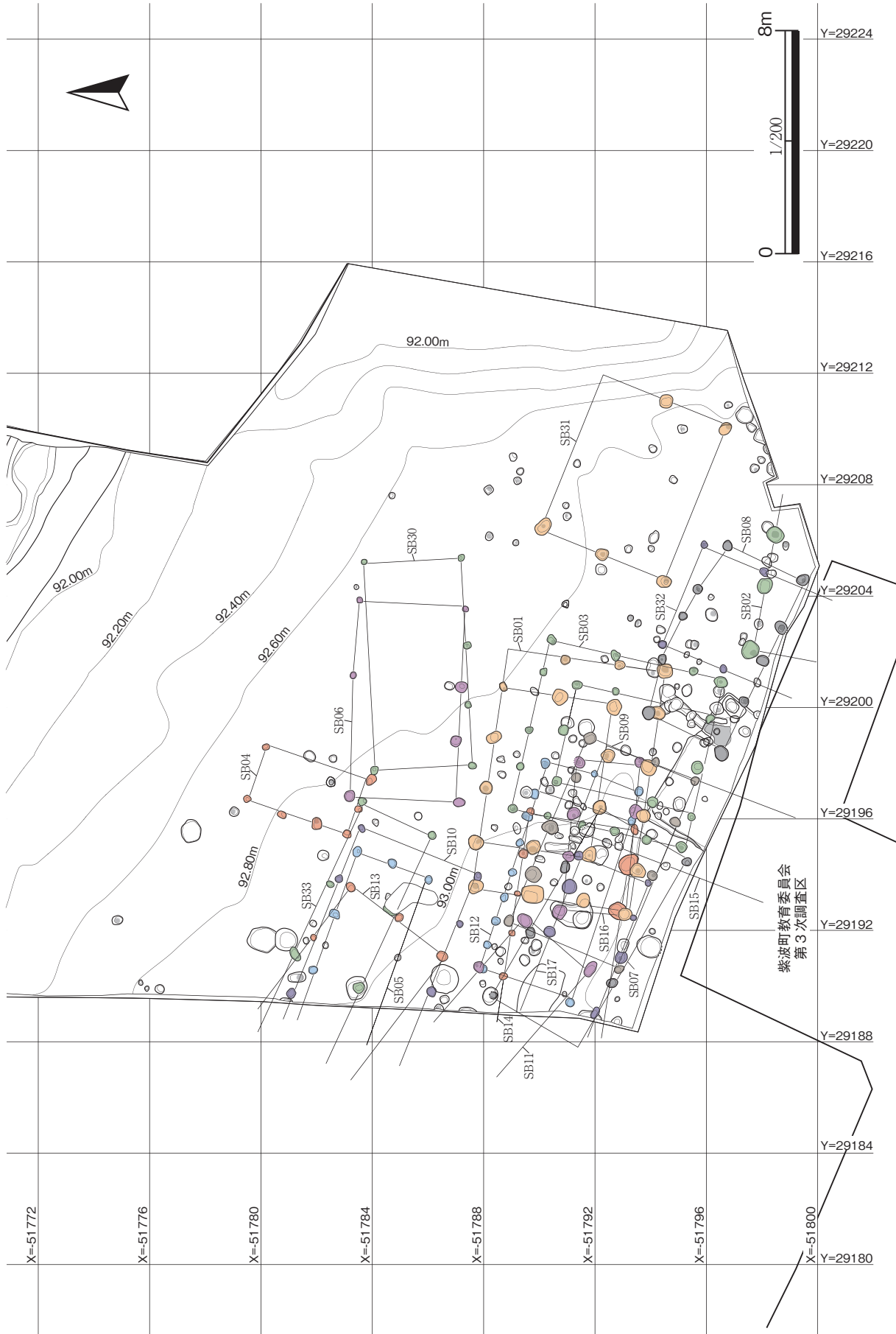
第14図 遺構配置図(7)



第15図 掘立柱建物配置図(1)



第16図 掘立柱建物配置図(2)



第17図 掘立柱建物配置図(3)

小数点の計測は誤差が生じやすいため、実数に近い整数の近似値を使用している。

SB01 (第 1-18 図・写真図版 1-6)

調査区南側、VA17g~18i グリッドに位置する。全体で東西 5 間、南北 3 間の東西棟で、東・西・南側の 3 面に庇をもつ建物に復元した。身舎は桁行 3 間、梁行 2 間である。北東隅の柱穴 1 個は検出できなかった。重複は、SB03・08・12・16・14・07・09・10 とであり、このうち SB08・14・15・16・17 とは直接柱穴が切り合う。SB08・15・17 より古く、SB14・16 より新しい。その他の建物とは柱穴が直接切り合わないため新旧関係は不明である。

規模は東西 8.8 m・南北 5.7 m である。建物主軸は、8.5° 東に傾く (N-8.5°-E)。床面積は、48.7㎡ である。柱間寸法は、東西方向は、西から 1.60・1.90・1.90・1.90・1.40 m、南北方向は、北から 2.00・2.00・1.70 m である。身舎は 1.90 m 等間となるが、西と南庇の柱間は 1.60 m、東庇は 1.40 m であり、やや狭い。柱筋の通りは比較的よい。身舎の柱穴は 0.50~0.60 m、庇は 0.40~0.60 m 前後であり、庇柱穴の方がやや小さい傾向にあるが大差は無い。SK09 だけは規模が異なるため、他遺構の重複とも考えられるが、ここでは本遺構に含めた。柱痕跡が 15 個の柱穴で確認でき、径は平均で 0.20 m である。底面の状況は、深さがほぼ同程度であり、全体的に統一的である。

遺物は、土器・陶器が合計 213.5 g 出土している。このうち 2 点を図示した (1・2)。

SB02 (第 1-19 図・写真図版 1-6)

調査区南端の VA19i~j グリッドに位置する。大部分が南の調査区外へ続くため、調査を行ったのはごく一部にとどまる。検出は 2 間分のみである。柱配置を予想すると東西棟の可能性はある。重複は SB08 とであるが、柱穴同士の切り合いは無く、新旧関係は不明である。建物主軸は 10.6° 東に振れる (N-10.6°-E)。柱穴は、径が 0.60~0.70 m の楕円形であり、底面もほぼ揃っている。柱間寸法は 2 間分しかないが、西から 2.30・1.80 m である。北側 (調査区内) には、この建物の柱穴が展開しないことから、南側、東側に延びると予想している。しかし、南側の 3 次調査区では該当する (P049 の柱筋上) 柱穴は検出していない。その為、建物として復元できるか不明な点も多い。

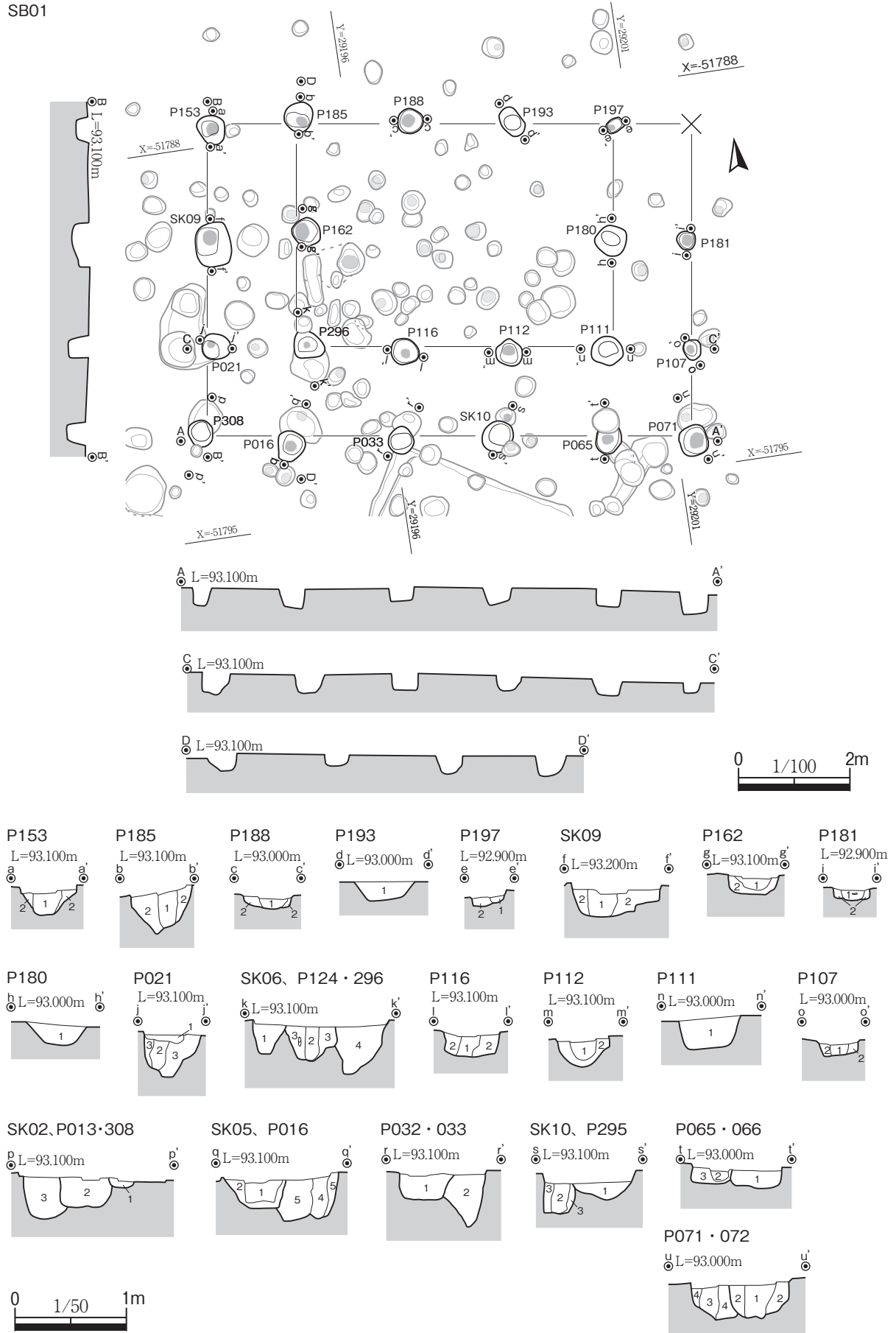
遺物は、P049 からかわらけ (24.0 g) が出土しているが、細片のため図示していない。

SB03 (第 1-20 図)

調査区南側の VA17h~18i グリッドに位置する。東西 4 間、南北 5 間の南北棟の建物で、東・西・北の 3 面に庇をもつ建物として復元した。身舎は、東西 2 間、南北 3 間である。身舎では、西側の柱穴列に 2 個、東柱穴列に 1 個が検出できなかった。庇の東側柱列も 2 個検出できなかったが、うち 1 個は重複により失われている。重複は多く、SB01・08・09・12・14・15・16 とである。多くの建物とは直接柱穴が切り合わず新旧関係は不明であるが、SB15 とは P120 と P120' の柱穴で重複し、後者の方が古い。したがって本遺構は、SB15 よりも古い。

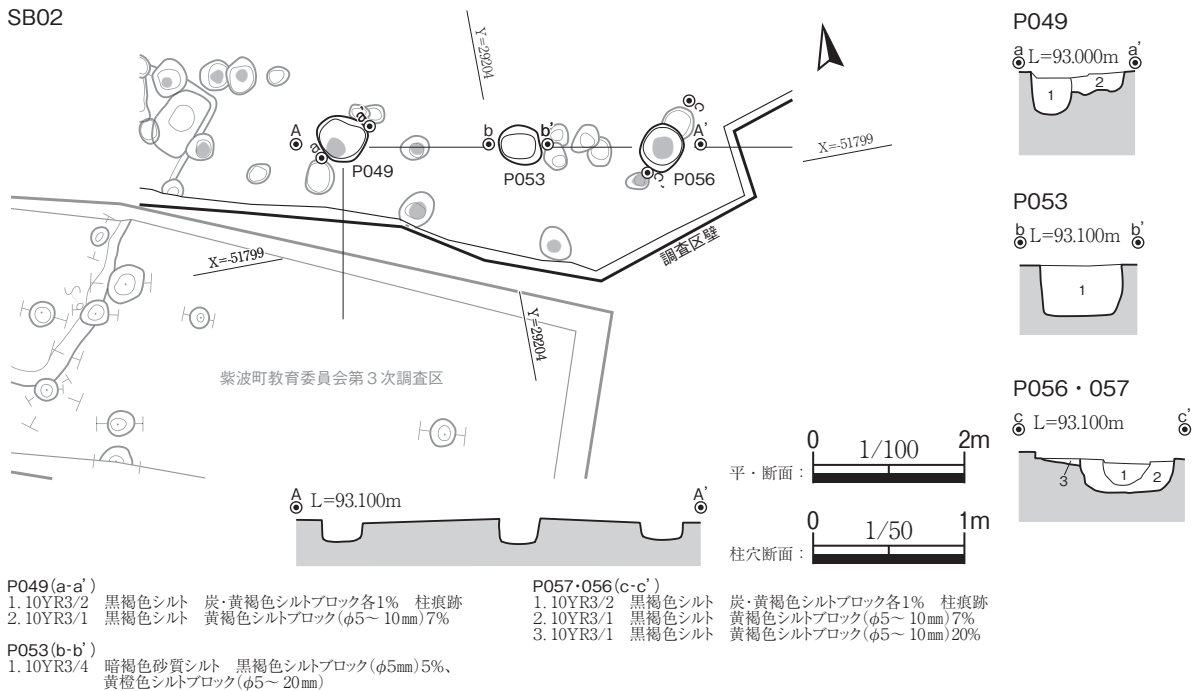
規模は東西 6.2 m・南北 6.4 m・床面積は 39.7㎡ である。建物主軸は、13° 東に振れる (N-13°-E)。梁行の柱間寸法は、北西隅から西に 1.30・1.80・1.80・1.30 m である。桁行は、北西隅から南に 1.30・1.30・1.30・1.20・1.30 m である。柱筋の通りは特に南側柱列で悪く、柱筋を通らない柱穴もある。また、庇の柱穴列と身舎の柱穴列も柱筋の通りが悪いものが多く、両者でずれが生じている。柱穴の平面形は円形基調であり、規模は、身舎側で径 0.27~0.68 m (平均 0.40 m)、庇側で径 0.25~0.50 m 前後 (平均 0.34 m) である。8 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は 0.16~0.20 m である。底面の標高は、

SB01



第 18 図 SB01

- P153(a-a')**
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ10～20mm)3%
- P185(b-b')**
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1%、焼土ブロック(φ10mm) 柱痕跡
 2. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm)40%
- P188(c-c')**
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ10～20mm)3%
- P193(d-d')**
 1. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ10～20mm)3%
- P197(e-e')**
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック炭各1% 柱痕跡
 2. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm)40%
- SK09(f-f')**
 1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)5% 柱痕跡
 2. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7%
- P162(g-g')**
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ10～20mm)3%
- P180(h-h')**
 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20%
- P181(i-i')**
 1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)5% 柱痕跡
 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ10～20mm)3%
- P021(j-j')**
 1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)5%
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 3. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm)40%
- SK06, P124-296(k-k')**
 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7%
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 3. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20%
 4. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7%
- P116(l-l')**
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 2. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm)40%
- P112(m-m')**
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)5%、黄褐色シルトブロック(φ5～20mm)含む
- P111(n-n')**
 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7%
- P107(o-o')**
 1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ10～20mm)3%
- SK02, P013-308(p-p')**
 1. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ10～20mm)3%
 2. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7%
 3. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20%
- SK05, P016(q-q')**
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ10～20mm)3%、黒褐色シルトブロック5%
 3. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 4. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)40%
- P032-033(r-r')**
 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20%
 2. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7%
- SK10, P295(s-s')**
 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20%
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 3. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ10～20mm)3%、黒褐色シルトブロック5%
- P065-066(t-t')**
 1. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)5%、黄褐色シルトブロック(φ5～20mm)含む
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 3. 10YR4/3 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ5mm)
- P071-072(u-u')**
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭1%、黄褐色シルトブロック10% 柱痕跡
 2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)5%
 3. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)20～30%



第19図 SB02

統一的な柱穴もあるが、浅いものもあり一定しない。この建物は、柱筋にみるように構造にばらつきが大きい。

遺物は、P034・035・045・070・105・329・336 から土器類が計43.4gのみ出土している。土師器(9.7g)、かわらけ(30.1g)、かわらけか土師器か判別不能な細片(3.6g)が出土しており、かわらけが主体である。これらはいずれも細片のため図示していない。

P169(a-a') 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐色シルトブロック(φ10～20mm)3%	P105(l-l') 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐色シルトブロック(φ10～20mm)3%
P175(b-b') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ20～30mm)10%	P028(m-m') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20%
P177(c-c') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7% 柱痕跡 2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)5%、 黄褐色シルトブロック(φ5～20mm)	P332・333(n-n') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20% 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐色シルトブロック(φ10～20mm)3%、 黒褐色シルトブロック5%
P182(d-d') 1. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)5%、 黄褐色シルトブロック(φ5～20mm)	P034(o-o') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20%
P183(e-e') 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐色シルトブロック(φ10～20mm)3%	P067、S101 煙出し(p-p') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)40% 2. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7%、 焼土ブロック(φ5～10mm)3% S101煙出し
P166(f-f') 1. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)5%、 黄褐色シルトブロック(φ5～20mm)	P070(q-q') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7% 抜き取り 2. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
P315(g-g') 1. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)5%、 黄褐色シルトブロック(φ5～20mm) 柱痕跡 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐色シルトブロック(φ10～20mm)3%	P035(r-r') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20% 柱痕跡 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐色シルトブロック(φ10～20mm)3%、黒褐色 シルトブロック5%
P178・320(h-h') 1. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 褐色シルトブロック(φ5mm)1% 2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)5%、 黄褐色シルトブロック(φ5～20mm)	P293(s-s') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7%
P336(i-i') 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)5%、 黄褐色シルトブロック(φ5～20mm)	P344(t-t') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20%
P121'(j-j') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7%	P329(u-u') 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 褐色シルトブロック(φ10～20mm)3%、 黒褐色シルトブロック5%
P108(k-k') 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)7%	P044・045(v-v') 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)、黄褐色 シルトブロック(φ5～20mm) 3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)5% 柱痕跡 4. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)20%

SB04 (第1-21図・写真図版1-7)

調査区南側のVA15hグリッドに位置する。桁行3間、梁行1間の南北棟の建物として復元した。南側の梁行中央には柱穴(P244)があり、梁行2間の可能性もある。西側柱列の中央2個の柱穴は見落としによるものか確認できなかった。重複する遺構には、SB06・30があり、SB30とは柱穴が接する。いずれの建物とも直接柱穴が切り合わず新旧関係は不明である。

規模は、東西2.1m・南北3.7m・床面積は7.8㎡である。建物主軸は、19°東に振れる(N-19°-E)。梁行の柱間寸法は2.10m(6.9尺)、桁行は、北から1.30・1.30・1.10mである。1.30m(4.3尺)を多用している。柱筋の通りは、小さな建物であるが、あまり良くない。柱穴の平面形は円形から楕円形で、規模は径0.26～0.44m(平均0.33m)である。1個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は0.20mである。底面の状況は、浅いもののある程度統一である。

遺物は、P277から土師器片(7.4g)が、P244から判別不明な土器細片(0.9g)が出土しているが図示したものはない。

SB05 (第1-21図・写真図版1-7)

調査区南側のVA15f～16gグリッドに位置する。桁行2間以上、梁行2間の東西棟の建物として復元した。西側は調査区外へ延長すると想定されるため、全容が不明である。南側柱列の2個の柱穴は確認できなかった。重複する遺構にはSB10・13・33があるが、直接柱穴が切り合わず新旧関係は不明である。

規模は、現状で東西5.6m以上・南北2.6m以上・床面積は14.6㎡以上である。建物主軸は、19.7°東に振れる(N-19.7°-E)。梁行の柱間寸法は2.60m、桁行は、東から2.30・2.30mであり、2.30m前後(7.6尺)を基準としている。柱筋の通りは、調査区内の現状では比較的良く大きなずれはない。柱穴の平面形は円形基調(一部楕円形)であり、規模は径0.26～0.42m(平均0.34m)である。柱痕跡が確認できる柱穴はない。底面の状況は、浅いもののある程度統一である。

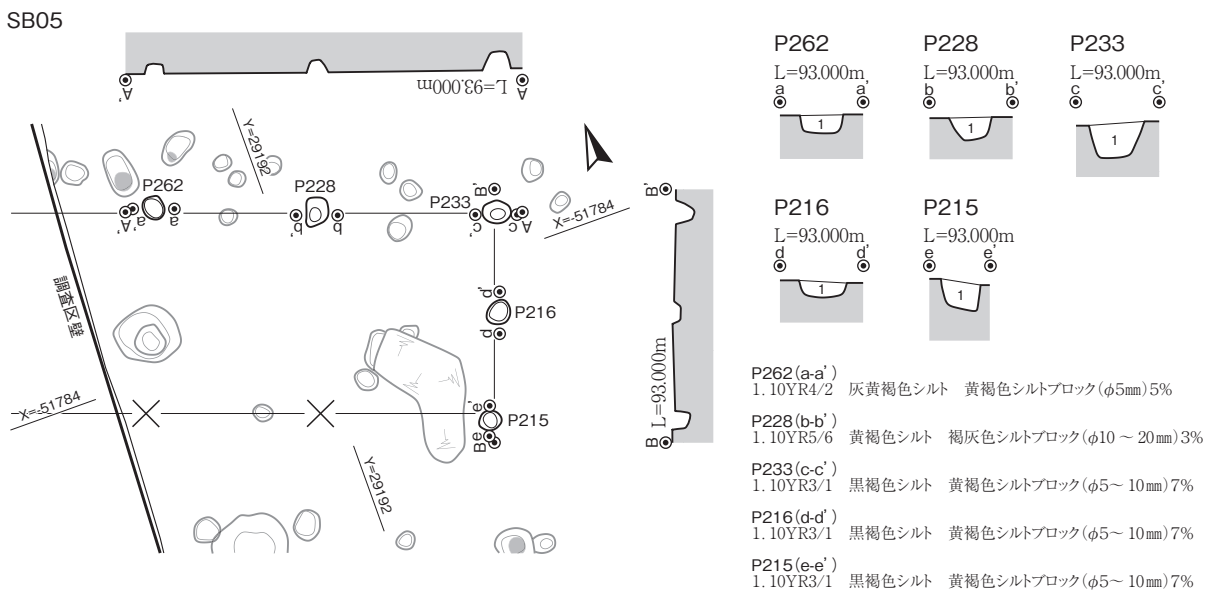
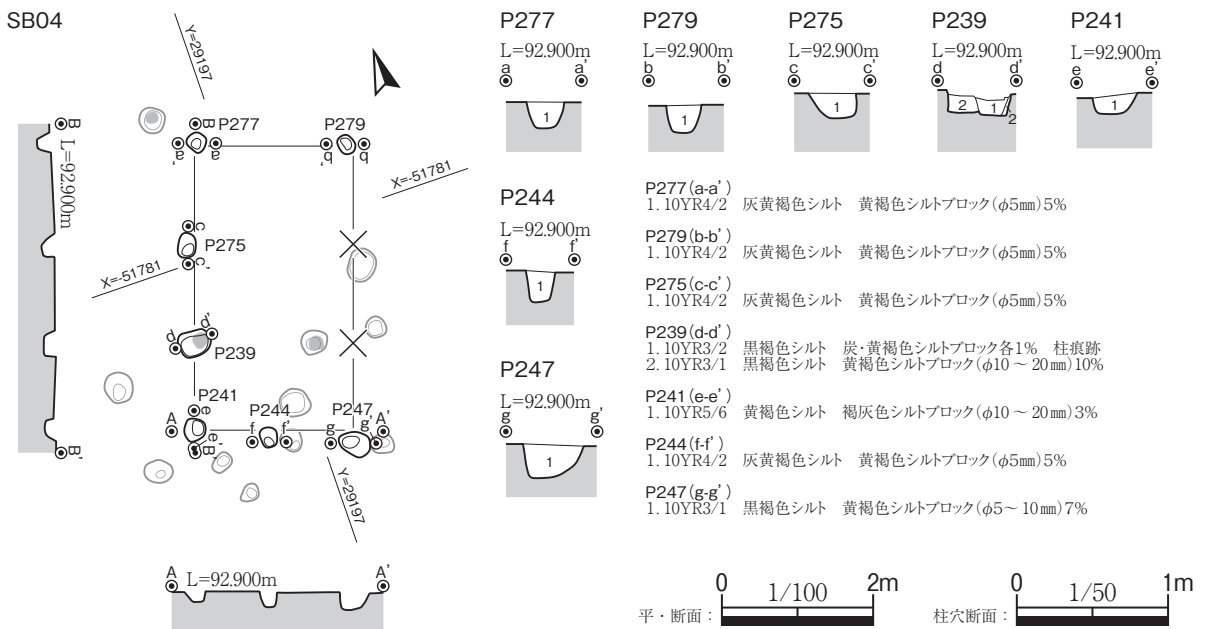
遺物は出土していない。

SB06 (第1-22図・写真図版1-8)

調査区南側のVA16h~iグリッドに位置する。全体で東西(桁行)3間、南北(梁行)1間の東西棟に復元した。北西隅から2個目の柱穴1個は検出できなかった。重複は、SB04・30であるが、柱穴同士が切り合わないため新旧関係は不明である。

規模は東西7.00m・南北3.80mである。建物主軸は、2.7°東に振れる(N-2.7°-E)。床面積は、26.6㎡である。柱間寸法は、東西方向が西から2.10・2.10・2.80m、南北方向が3.80mである。柱筋の通りは良くなく、柱一本分ずれるものもある。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径0.23~0.44m、平均で0.35mである。底面の状況は、浅いものの統一的で揃っている。

遺物はかわらけ(計9.1g)がP203・252より出土しているほか、判別不能な土器細片(0.8g)が出土する。いずれも細片のため図示していない。

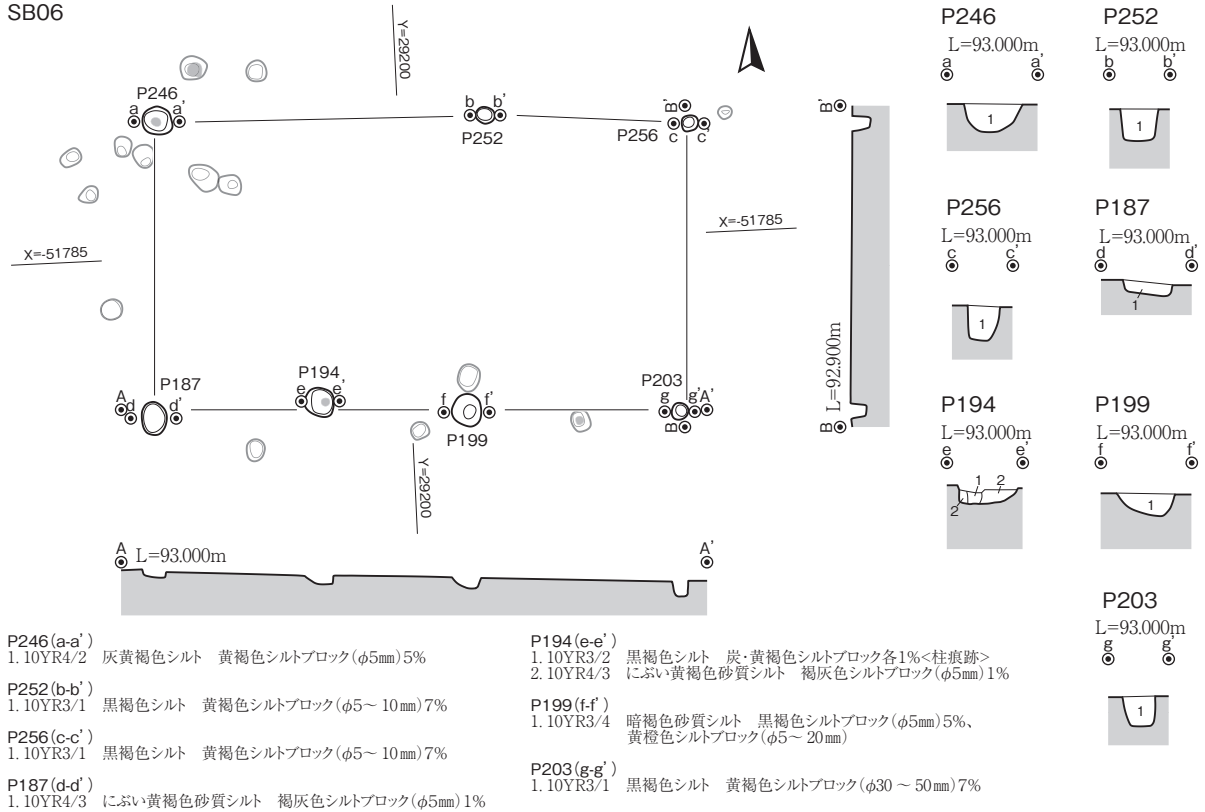


第21図 SB04・05

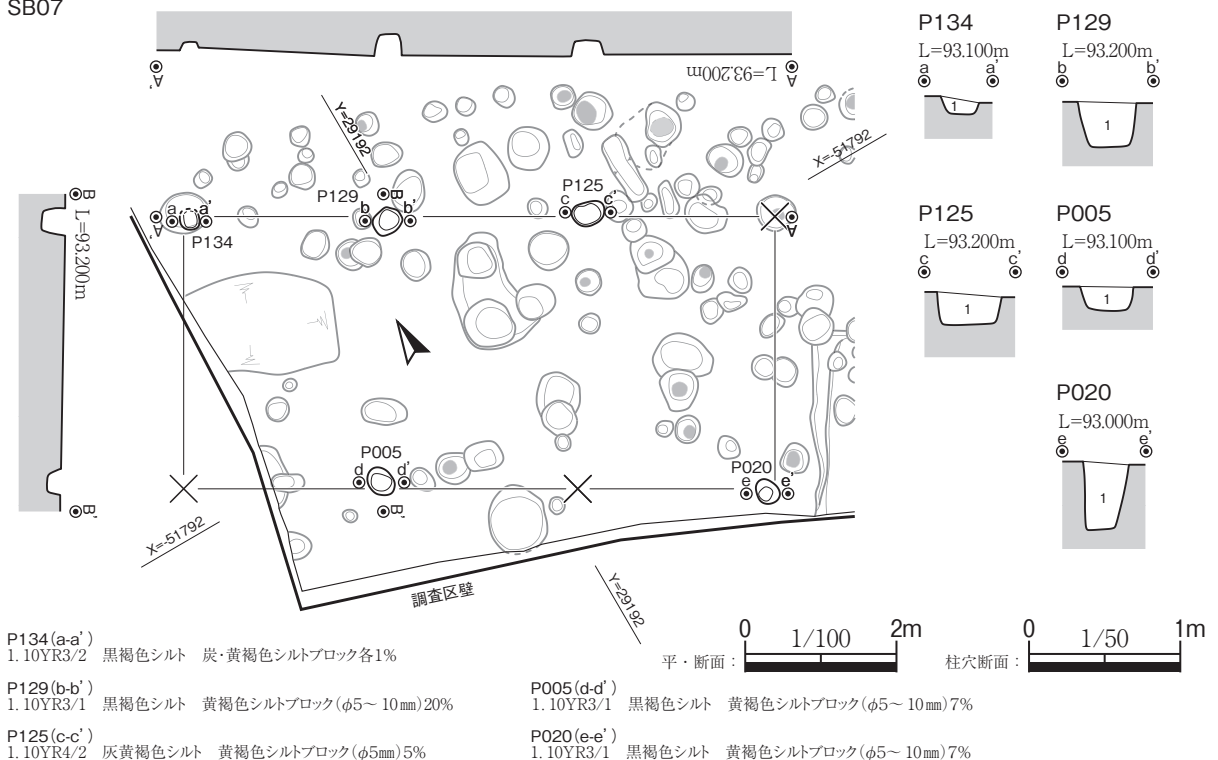
SB07 (第 1-22 図・写真図版 1-8)

調査区南側の VA17f~18g グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟の建物として復元した。西側の調査区外へ展開する可能性もある。3 個の柱穴が想定位置に確認できず、北東隅の柱穴は SB01 と重複、南西隅の柱穴は調査区外にあるためであるが、南側柱列の東から 2 個目の柱穴は見落としの可能性がある。重複する遺構には SB01・03・09・11・12・14・15・16、SK11 がある。その

SB06



SB07



第 22 図 SB06・07

うが、総じてばらつきが大きい。

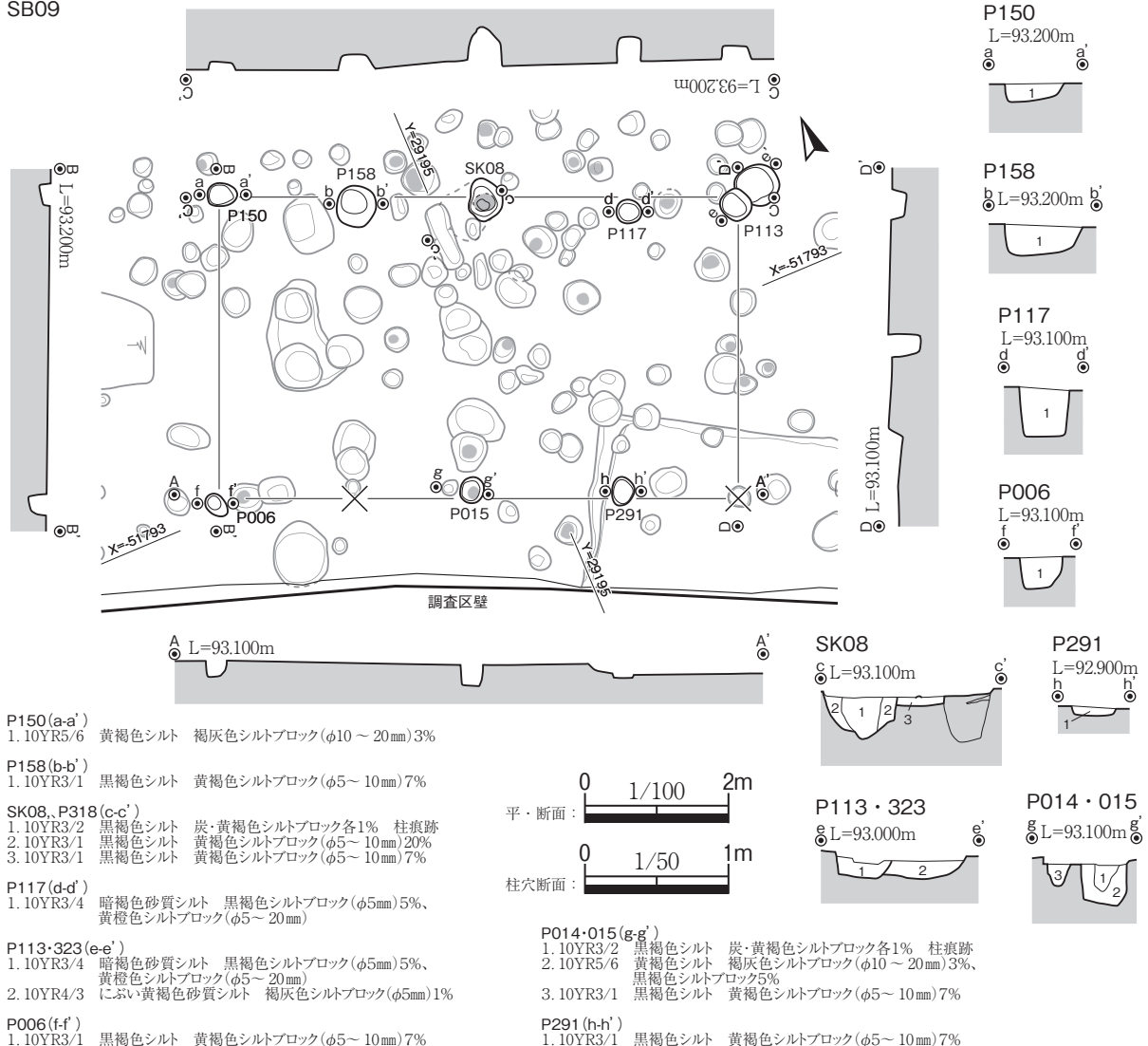
遺物は、かわらけ片、土師器片、陶磁器類、銭貨の合計173.7gが出土している。このうち磁器1点、銭貨1点を図示した(3・4)。

SB09 (第1-24図・写真図版1-9)

調査区南側のVA17f~18hグリッドに位置する。桁行4間、梁行1間の東西棟の建物として復元した。南側柱穴列の西から2つめの柱穴1個を確認できなかった。また、南東隅の柱穴も確認できないが、これは重複するSB15によって壊されたと判断した。重複する遺構には、SB01・03・07・11・12・15・16・17がある。そのうちSB15は上述のようにこの建物を壊したと判断したため、それよりも古い。それ以外の建物とは新旧関係は不明である。

規模は、東西7.2m・南北4.2m・床面積は30.2㎡である。建物主軸は、22.8°東に振れる(N-22.8°-E)。柱間寸法は、梁行が4.20m(約14尺)、桁行は、西から1.90・1.90・1.90・1.50mである。1.90m(約6.3尺)を多用している。柱筋の通りは悪く、北側と南側が対応せず若干ずれる箇所がある。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径0.32~0.60m(平均0.42m)である。3個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は平均で0.2mである。底面の状況は、深さにばらつきがあり統一的不是である。

SB09



第24図 SB09

遺物は、かわらけ・土師器など合計 141.7 g 出土している。このうちかわらけ 2 点を図示した (5・161)。

SB10 (第 1-25 図・写真図版 1-10)

調査区南側の VA15f~16g グリッドに位置する。建物の西半分が調査区外へ続くため、全てが確認できたものではない。調査区内での確認規模は、桁行 2 間以上、梁行 1 間の東西棟である。調査区脇の P298 の東隣に想定される柱穴は検出できなかった。重複は、SB01・05・13・33 であるが、いずれとも柱穴同士が切り合わないため新旧関係は不明である (P153 と P154 は接する)。

規模は、東西(桁行)3.5 m 以上・南北(梁行)4.5 m である。建物主軸は、22° 東に振れる (N-22°-E)。床面積は、15.8㎡ である。柱間寸法は、東西方向が西から 1.90・2.60・1.90 m、南北方向が 4.50 m である。柱筋の通りはあまりよくない。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径 0.26~0.37 m、平均で 0.31 m である。底面の状況は、あまり揃っておらずばらつきがある。

遺物は P298 より出土しているが、判別不明な土器片 (4.3 g) のみである。細片のため図示していない。

SB11 (第 1-25 図)

調査区南側の VA16~17f グリッドに位置する。桁行 1 間以上、梁行 1 間の東西棟の建物として仮に復元した。調査区内では柱穴 3 個のみしか確認しておらず、大部分が西側の調査区外へ展開すると想定される。そのため全容は不明であるため仮として復元した。重複する遺構には、SB07・12・14・17 がある。そのうち SB12 とは直接柱穴が切り合い関係にあり、新旧関係は SB12 の方が古い。その他の建物とは直接切り合わず新旧関係は不明である。

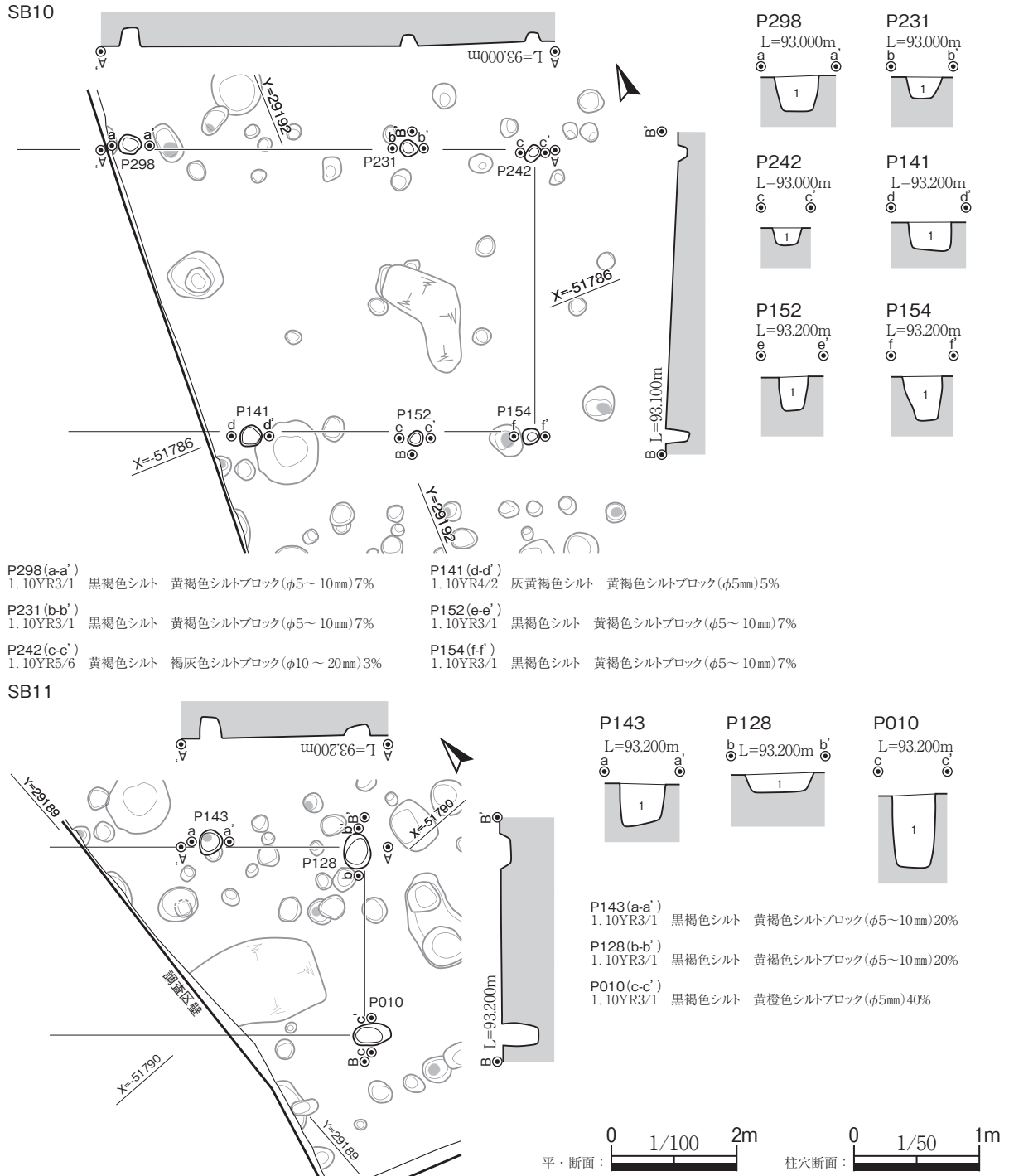
規模は、東西 4.5 m 以上・南北 3.0 m・床面積は 13.5㎡ 以上である。建物主軸は、41.1° 東に振れる (N-41.1°-E)。柱間寸法は、想定梁行が 3.00 m (約 10 尺)・想定桁行が 2.50 m (約 8.3 尺) である。柱筋の通りは部分的なので判断することが難しいが、調査区内においては比較的良い。柱穴の平面形は楕円形を基調とし、規模は径 0.41~0.61 m (平均 0.53 m) である。柱痕跡は確認できなかった。底面の状況も一部のみであるが、あまり統一感がないかもしれない。

遺物は土師器・かわらけの合計 38.8 g が出土している。このうちかわらけ 1 点を図示した (6)。

SB12 (第 1-26 図・写真図版 1-10)

調査区南側の VA17f~18h グリッドに位置する。桁行 4 間、梁行 2 間の東西棟の建物に復元した。東側柱列から 1 間分に間仕切りあるいは庇 (下屋) が付設される。南側柱列の柱穴は中央側の柱穴 6 個が検出できなかった。西側柱列の梁行中央の柱穴は攪乱により欠失したと考えられるが、南側柱列の場合は見落としの可能性もある。建物ではない可能性もあるが、ここでは柱穴のまとまりを重視して 1 つの建物と復元した。本遺構は多くの建物と重複している。順に記すと SB01・03・07・09・11・14・16 である。そのうち直接柱穴同士の切り合いがあるのが、SB11・14・16 とである。本遺構は、SB11 より古く、SB14・16 より新しい。それ以外の建物とは新旧関係が不明である。

全体の規模は、東西 7.8 m・南北 3.5 m である。建物主軸は、18° 東に振れる (N-18°-E)。床面積は、27.3㎡ である。柱間寸法は、東西方向が西から 1.80 m (0.90+0.90 m)・1.80 m (0.90+0.90 m)・2.10 m (1.05+1.05 m)・2.10 m (1.05+1.05 m) であり、1 間の半分ごとに柱穴をおく。南北方向が 1.75・1.75 m である。桁行と同様に 1 間の半分に柱穴をおくのであれば P115 はそれかも知れず、その場合梁行は



第25図 SB10・11

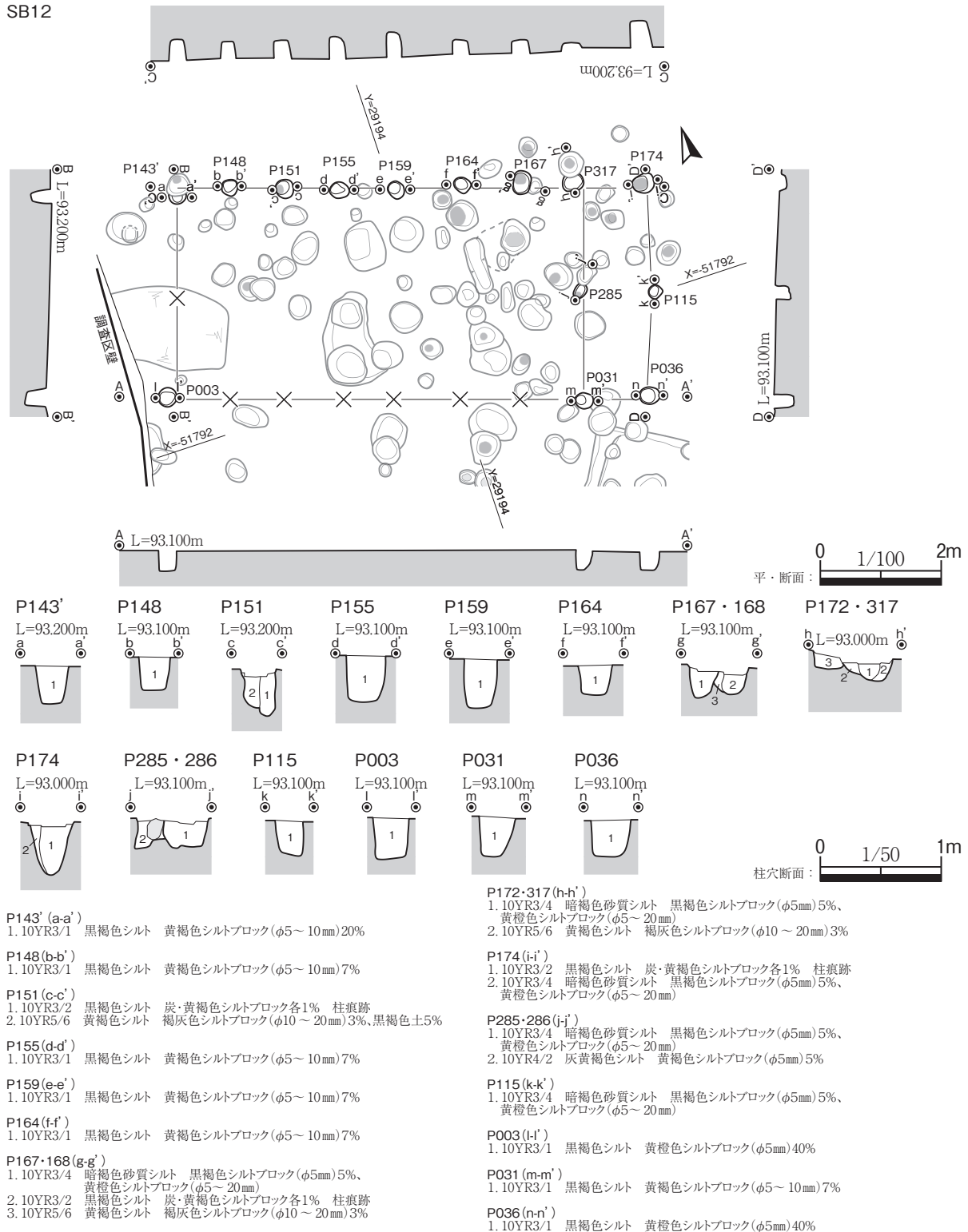
1間とみなすことができる。柱筋の通りはあまり良くなく、柱筋が直線ではない部分がある。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径0.22~0.40m、平均で0.30mである。柱痕跡が2個の柱穴で確認でき、平均すると0.18mである。底面の状況も、あまり揃っておらず、P155やP159のように極端に深いものもあるなど、ばらつきが認められる。

遺物は計10.0g出土している。P036よりかわらけ(7.6g)、P167より判別不明な土器片(1.3g)が出土するのみであり、いずれも細片のため図示していない。

SB13 (第 1-27 図・写真図版 1-11)

調査区南側の VA15f~16g グリッドに位置する。桁行 1 間以上、梁行 2 間の東西棟の建物として仮に復元した。西側の大部分が調査区外へ展開すると想定している。調査を行ったのは 4 個の柱穴のみであるため、全容は不明である。重複する遺構には SB05・10・33 があるがいずれの建物とも直接切り合いがないため新旧関係は不明である。

規模は東西 5.0 m 以上・南北 4.20 m・床面積は 21㎡ 以上である。建物主軸は、37.4° 東に振れる



第 26 図 SB12

(N-37.4°-E)。梁行の柱間寸法は 2.10 m (約 7 尺) の等間・桁行は 1 間のみで、2.30 m (7.6 尺) である。柱筋の通りは、建物の一部のみのため判断が難しいが、比較的良く大きなずれはない。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径 0.24~0.41 m (平均 0.33 m) である。柱痕跡が確認できる柱穴はない。底面の状況は、同じ程度の深さで、ある程度まとまりがある。

遺物は出土していない。

SB14 (第 1-27 図・写真図版 1-11)

調査区南側の VA17f~18g グリッドに位置する。桁行 4 間以上、梁行 1 間の東西棟の建物に復元した。調査区西側に続く可能性がある。南側柱列西側の 2 個の柱穴は見つけられなかった可能性がある。また、南側柱列東側の 2 個は他の柱穴より大きく、土坑との重複の可能性があるが、このまま本建物に付属させた。重複は SB01・12・14・16・17・31・34・36 とである。このうち柱穴の切り合いが確認できるものは、SB12 と SB01 のみである。本遺構は、いずれの遺構よりも古い。それ以外の建物とは新旧関係が不明である。

現状での規模は、東西 5.8 m 以上・南北 3.8 m である。建物主軸は、9° 東に傾く (N-9°-E)。床面積は、22㎡ 以上である。柱間寸法は、東西方向が西から 1.45・1.45・1.45・1.45 m であり、南北方向が 3.80 m である。柱筋の通りは比較的良い。柱穴の平面形は円形を基調とし規模は径 0.22~0.34 m、平均で 0.28 m である。柱痕跡は明確には確認できていない。底面の標高は、93.0 m 前後で比較的統一であるが、P135 のように深いものもある。

遺物は、かわらけ・土師器・縄文土器の合計 69.3 g 出土している。このうち 1 点を図示した(160)。

SB15 (第 1-28 図・写真図版 1-12)

調査区南側の VA17g~19h グリッドに位置する。桁行 4 間、梁行 1 間の南北棟の建物に復元した。調査区南側の 3 次調査の範囲に及ぶ。北東隅の柱穴 1 個は確認できなかった。また 3 次調査においても東側柱列の 1 個の柱穴が見つかっていない。重複は SB01・03・07・09・12・14・16 とであり、このうち直接柱穴の切り合うものは SB01 と SB09 であり、いずれよりも本遺構の方が新しい。他の建物を介在して間接的に新旧関係が確認できるものには SB14・16 がある。いずれも本遺構の方が新しい。その他 SB03・07・12 については新旧関係が不明である。第 3 次調査範囲までを含めた規模は、東西 3.2 m・南北 7.1 m である。建物主軸は、21° 東に振れる (N-21°-E)。床面積は、22.7㎡ である。柱間寸法は、東西方向が 3.20 m であり、南北方向が北から 1.70・1.70・2.00・1.70 m である。柱筋の通りは比較的良い。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径 0.22~0.34 m、平均で 0.31 m である。柱痕跡は P037 でのみ確認でき、それによると 0.16 m である。底面の標高は、多少のばらつきが認められるものの比較的統一である。

遺物は計 7.0 g が出土している。P120 よりかわらけ (4.3 g)、P019・343 より判別不能な土器細片 (2.7 g) である。いずれも細片のため図示していない。

SB16 (第 1-28 図・写真図版 1-12)

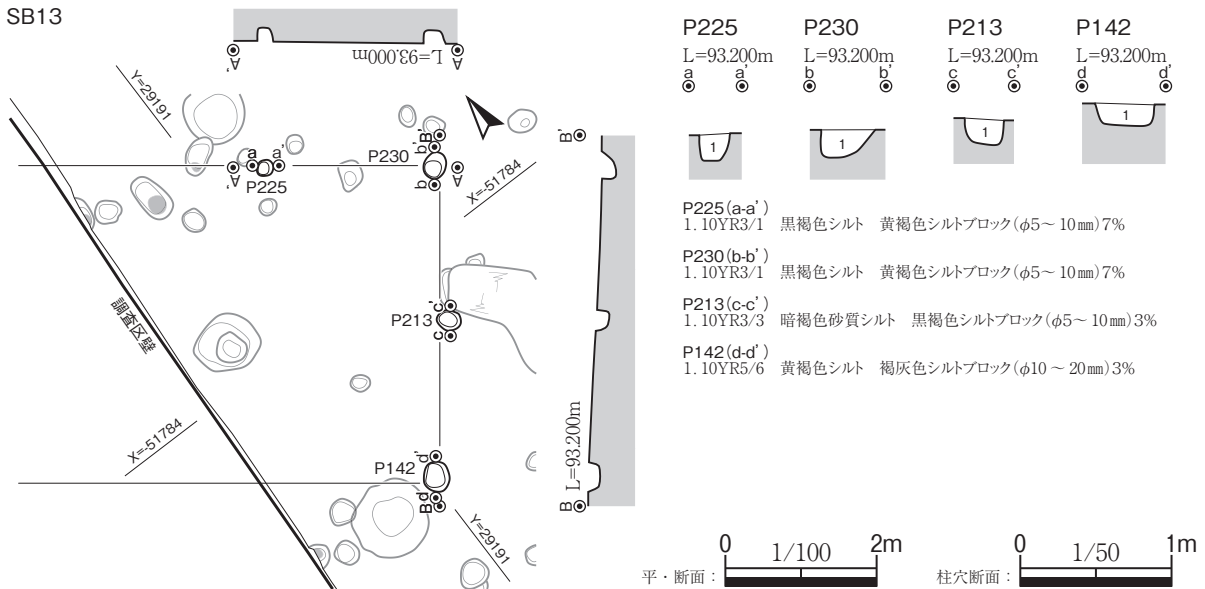
調査区南側の VA17g~18h グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟の建物に復元した。南側柱列西側の柱穴 2 個は他遺構との重複により確認できない。重複は SB01・12・14・15・17・31・34・36 とであり、このうち直接柱穴の切り合いが確認できるものに SB01・12 がある。本遺構は SB01・SB12 の両者よりも古い。その他の建物とは新旧関係は不明である。

2 検出遺構

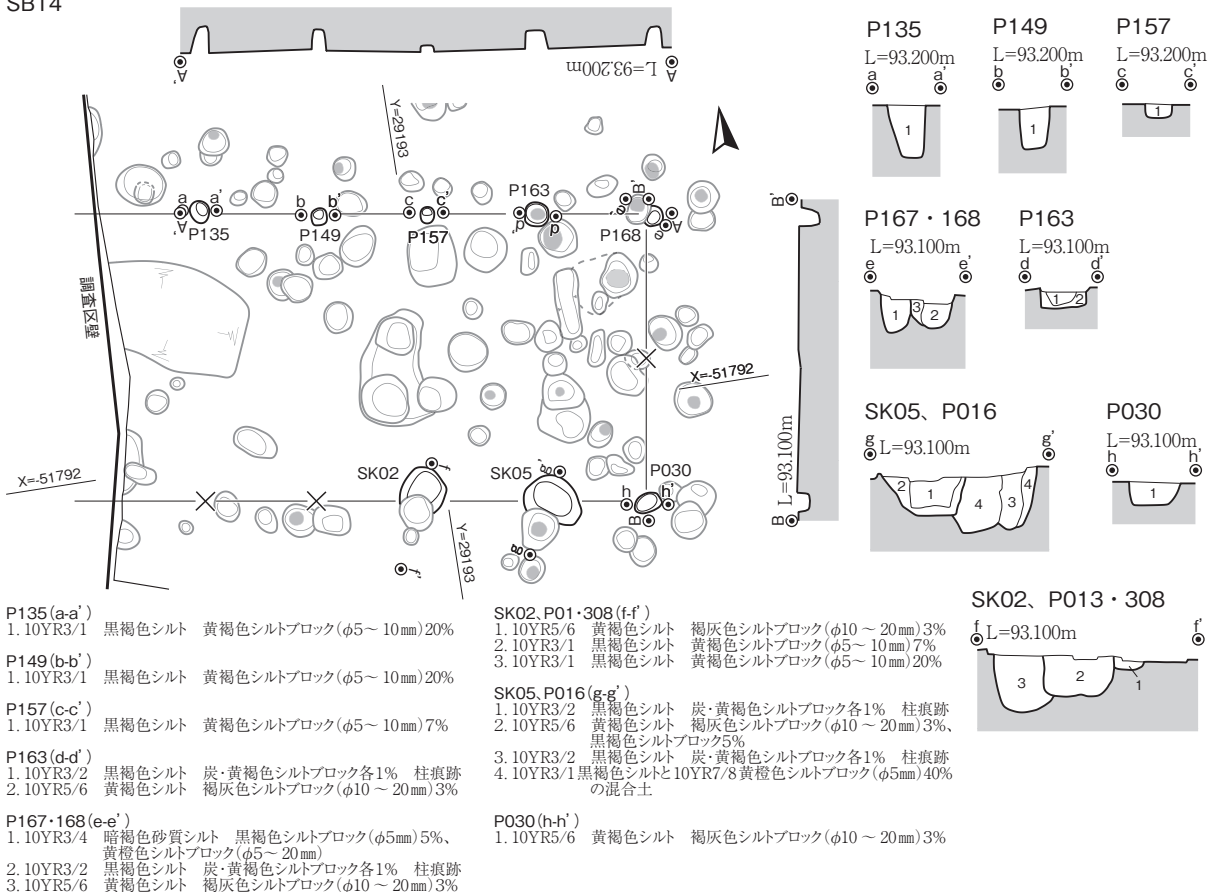
規模は、東西 5.4 m・南北 2.2 m である。建物主軸は、5.4° 東に振れる (N-5.4°-E)。床面積は、11.9m² である。柱間寸法は、東西方向 (桁行) が 1.80・1.80・1.80 m の等間であり、南北方向 (梁行) が 2.20 m である。柱筋の通りは比較的良い。柱穴の平面形はいびつな楕円形を基調とし、規模は径 0.22~0.54 m、平均で 0.41 m である。柱痕跡は P295・114・280 で確認でき、平均すると径 0.18 m である。底面の標高は、92.8~93.0 m 前後にまとまりそうだが、P280 のようにやや深いものがある。

遺物は、かわらけ・土師器・縄文土器などの破片が合計 33.4 g 出土している。このうち 1 点を図示した (7)。

SB13



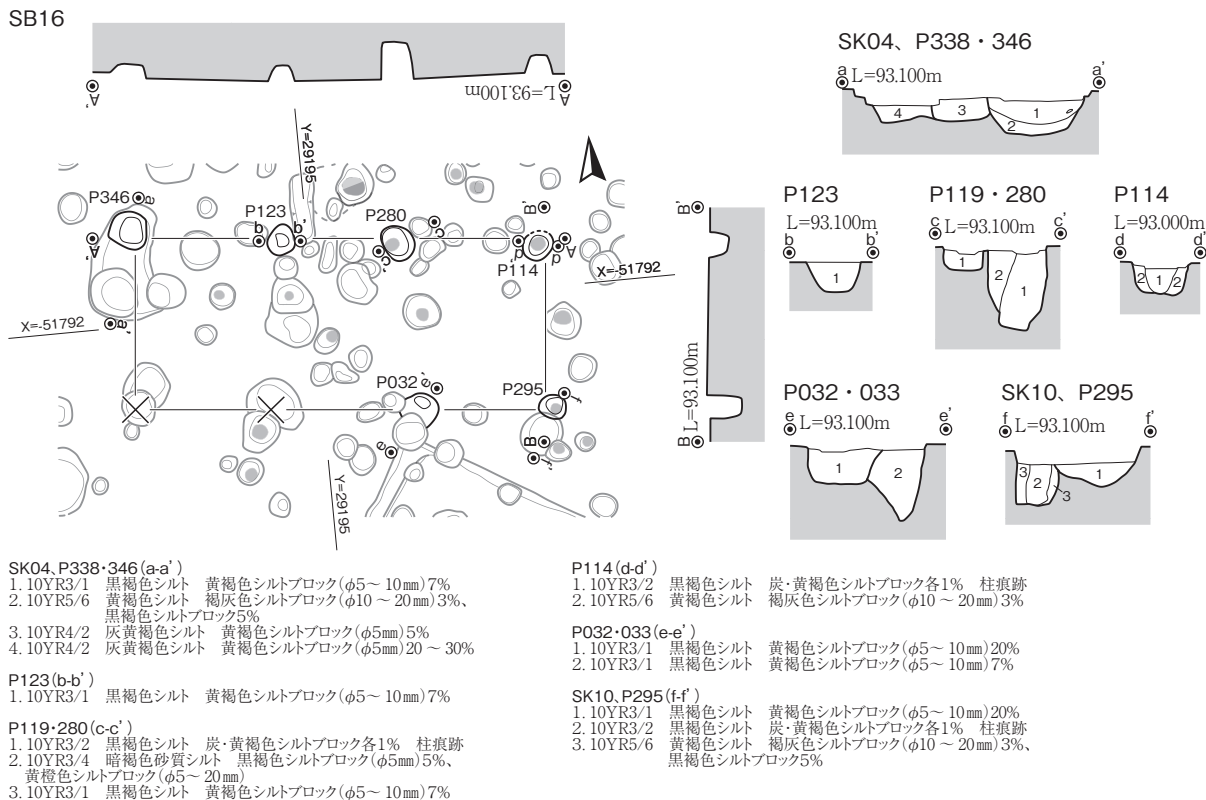
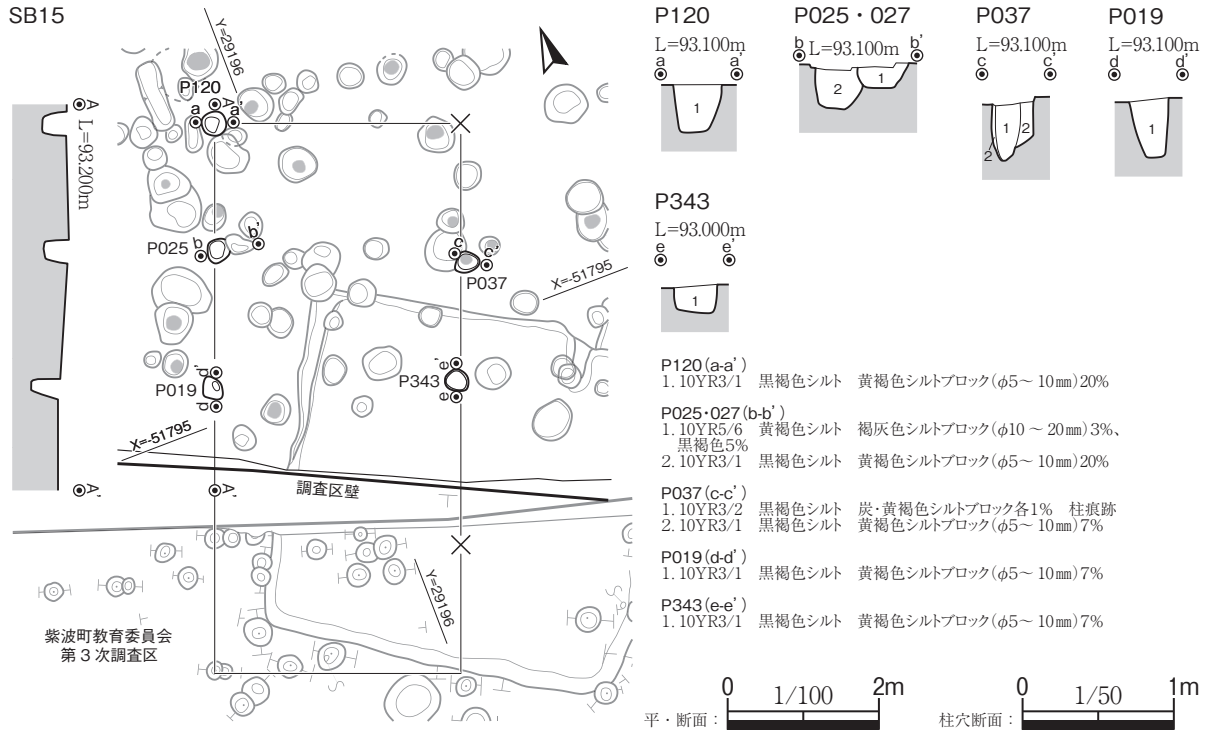
SB14



第 27 図 SB13・14

SB17 (第1-29図・写真図版1-13)

調査区南側のVA17f~18gグリッドに位置する。桁行3間以上、梁行1間の東西棟の建物として復元した。西側は調査区外へ延長すると想定されるため、全容が不明である。北西の調査区際の柱穴はSK03との重複により失われている。重複する遺構にはSB01・12・14・16・34・36・37がある。そのうちSB01とは柱穴が直接切り合い、本遺構が新しい。それ以外の建物とは直接柱穴が切り合わず新旧関係は不明である。



第28図 SB15・16

規模は残存で東西 5.9 m・南北 2.6 m・床面積は 15.3㎡ 以上である。建物主軸は、21.7° 東に振れる (N-21.7°-E)。梁行の柱間寸法は 2.60 m、桁行は、南東隅から西に 1.30・1.80・1.80 m であり、1.80 m 前後 (6 尺) を基準としている。また、東側の 1 間分のみ柱間寸法が短いため、庇あるいは下屋の構造である可能性がある。柱筋の通りは、比較的良好で大ききずれはない。柱穴の平面形は円形基調 (一部楕円形) であり、規模は径 0.27~0.53 m (平均 0.41 m) である。3 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は平均で 0.17 m である。底面の状況は、浅いものが多いが深いものもあり一定しない。

遺物は、P007 からかわらけが (23.3 g) 出土しているが、細片のため図示していない。

SB18 (第 1-29 図・写真図版 1-13)

調査区北側の VA6g~7h グリッドに位置する。桁行 2 間以上、梁行 1 間の東西棟の建物として復元した。重複する遺構には、ほぼ同じ位置に SB28 があるが、柱穴同士が切り合わないため新旧関係は不明である。

規模は東西 4.84 m・南北 4.24 m であり、ほぼ正方形に近い平面形である。床面積は 20.5㎡ である。建物主軸は、32.3° 東に振れる (N-32.3°-E)。梁行の柱間寸法は 4.24 m (14 尺)・桁行は、2.42 m の等間 (8 尺) である。柱筋の通りは、小さい建物にかかわらずあまり良くない。柱穴の平面形は円形基調であり、規模は径 0.26~0.47 m (平均 0.35 m) である。1 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は 0.16 m である。底面の状況は、やや深いものがあるが、総じて統一である。

遺物は、P485 から判別不明な土器細片 (2.8 g) が出土しているのみで、図示していない。

SB19 (第 1-30 図・写真図版 1-14)

調査区北側の VA7i~8j グリッドに位置する。桁行 2 間以上、梁行 1 間の東西棟の建物として復元した。東側は調査区外へ続く可能性がある。重複する遺構には、SB24 があるが柱穴同士が切り合わないため新旧関係は不明である。

規模は東西 4.3 m 以上・南北 2.3 m である。床面積は 9.9㎡ 以上である。建物の主軸は 27.2° 東に振れる (N-27.2°-E)。梁行の柱間寸法は 2.30 m (7.6 尺)・桁行は、西から 2.00・2.30 m (6.6 尺・7.6 尺) であり、2.30 m を多用している。柱筋の通りは、小さい建物のため。比較的良好。柱穴の平面形は円形基調であり、規模は径 0.29~0.35 m (平均 0.32 m) である。1 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は 0.18 m である。底面の状況は、両端の柱穴が深く、中央が浅い傾向にある。

遺物は出土していない。

SB20 (第 1-30 図・写真図版 1-14)

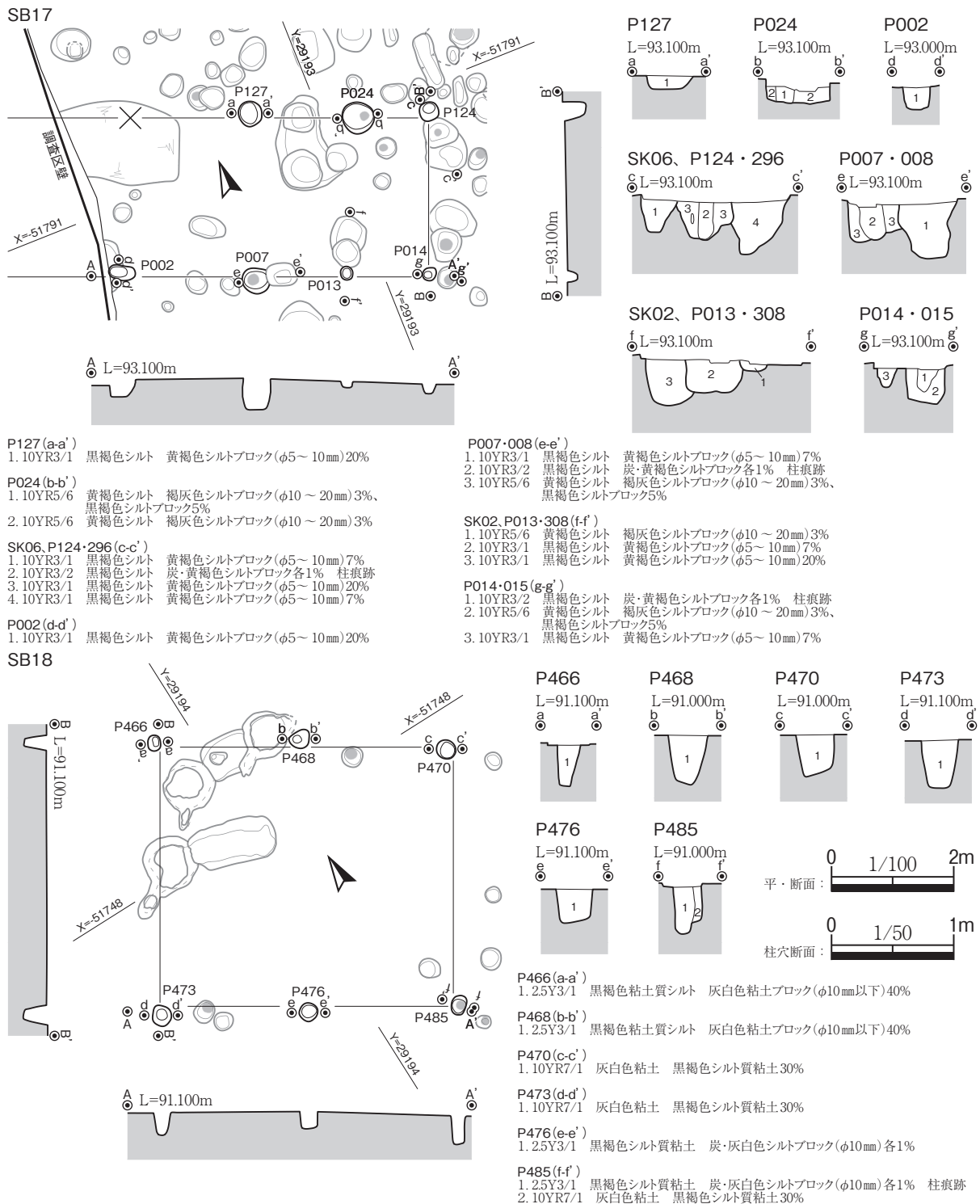
調査区北側の VA4h~5i グリッドに位置する。桁行 4 間、梁行 1 間の東西棟の建物として復元した。北側半分は調査区外へ展開するため、全容が不明である。重複する遺構には SB21・25 があり、前者は P420 と P419、P433 と P434 で柱穴の切り合い関係が確認できる。新旧関係は、本遺構が SB21 よりも古い。後者は直接の切り合いが無く新旧関係は不明である。

規模は残存で東西 9.4 m・南北 4.5 m・床面積 42.3㎡ である。建物主軸は、26° 東に振れる (N-25.9°-E)。梁行の柱間寸法は 4.50 m (約 15 尺)、桁行は、西から 2.30・2.30・2.30・2.50 m であり、2.30 m 前後 (7.6 尺) を基準としている。柱筋の通りは、比較的良好で大ききずれはない。柱穴の平面形は円形基調 (一部楕円形) であり、規模は径 0.29~0.44 m (平均 0.38 m) である。2 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は 0.12 m である。底面の状況は、深さがある程度揃っており、統一である。

遺物は出土していない。

SB21 (第1-31図・写真図版1-15)

調査区北側のVA3g~5iグリッドに位置する。桁行4間、梁行1間の東西棟の建物として復元した。北側は調査区外へ展開すると想定されるため、全容が不明である。北側柱列の西から1つ目と2つ目は、見落としによるものか確認できなかった。重複する遺構にはSB20・25があり、そのうちSB20とは柱穴が切り合い(P419とP420)、本建物が新しい。それ以外の建物とは直接柱穴が切り合わず

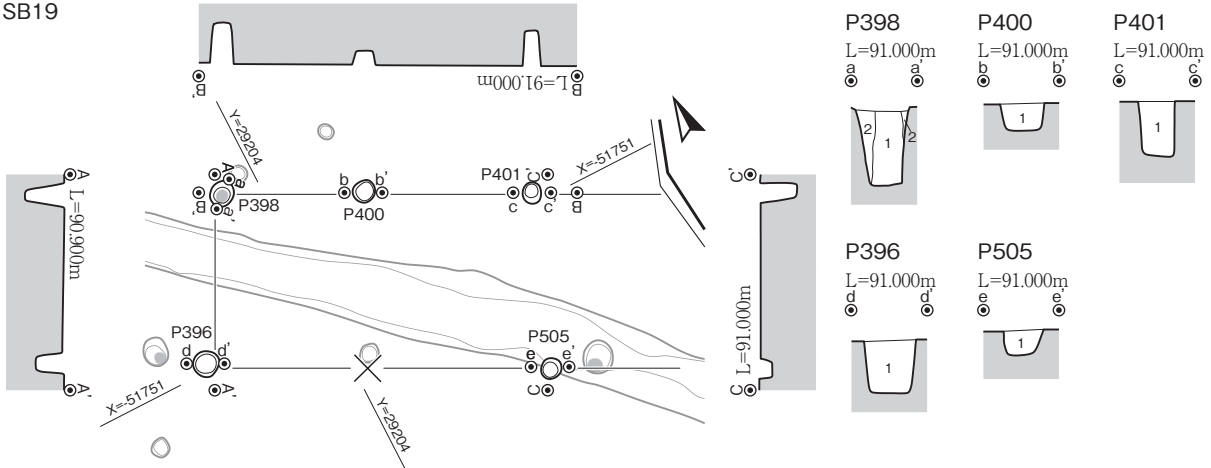


第29図 SB17・18

新旧関係は不明である。

規模は、東西 9.2 m・南北 3.5 m・床面積は 32.2㎡ である。建物主軸は、27° 東に振れる (N-27°-E)。梁行の柱間寸法は 3.50 m (11.6 尺)・桁行は、2.30 m (7.6 尺) 等間である。2.30 m (7.6 尺) を基準としている。柱筋の通りは比較的良好、大きなずれはない。柱穴の平面形は円形基調であり、規模は径 0.29~0.36 m (平均 0.31 m) である。2 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は平均で 0.11 m である。底

SB19

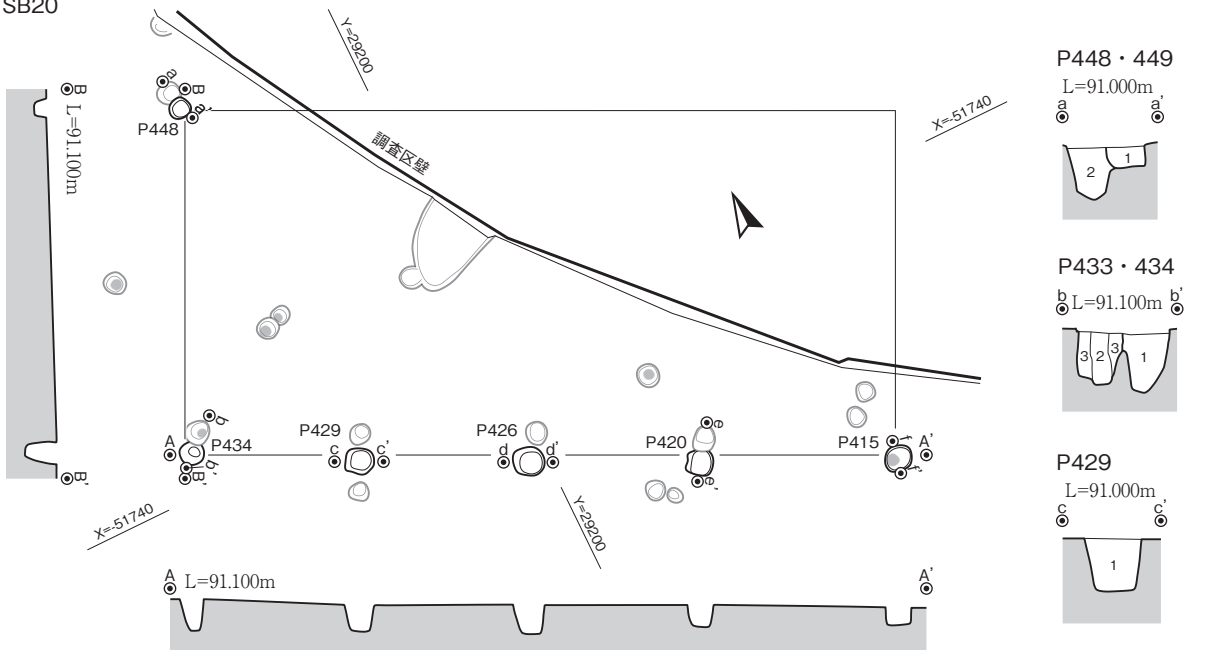


- P398(a-a')**
 1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1% 柱痕跡
 2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P400(b-b')**
 1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%
- P401(c-c')**
 1. 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック(φ10mm以下)40%

- P396(d-d')**
 1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P505(e-e')**
 1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%



SB20



- P448-449(a-a')**
 1. 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック(φ10mm以下)40%
 2. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1%
- P433-434(b-b')**
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土と10YR8/2灰白色粘土ブロックと10YR2/2黒色粘土ブロック(φ10~20mm)の混合土
 2. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
 3. 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック(φ10mm以下)40%
- P429(c-c')**
 1. 10YR3/3暗褐色粘土と10YR8/2灰白色粘土ブロックと10YR2/2黒色粘土ブロック(φ10~20mm)の混合土
- P426(d-d')**
 1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%

- P426**
 L=91.000m
- P419-420**
 L=91.000m
- P415**
 L=91.000m
- P419-420(e-e')**
 1. 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック(φ10mm以下)40%
 2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P415(f-f')**
 1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1% 柱痕跡
 2. 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック(φ10mm以下)40%

第 30 図 SB19・20

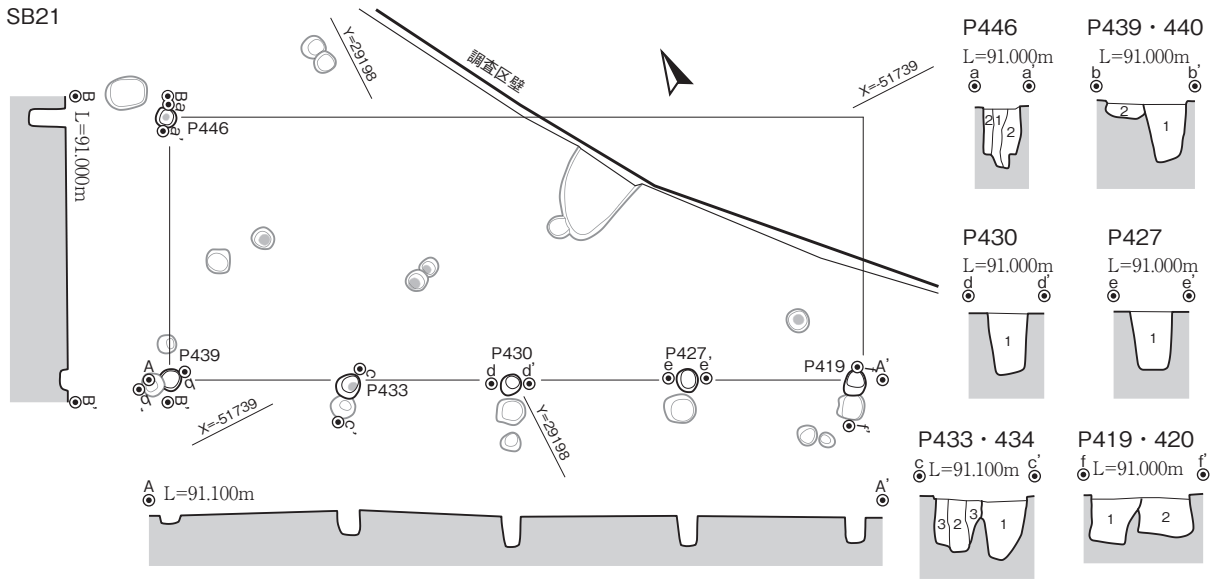
面の状況は、一部で浅いものが多いがある程度統一である。

遺物は出土していない。

SB22 (第1-31図・写真図版1-15)

調査区北側のVA2f~3gグリッドに位置する。桁行3間以上、梁行1間以上の東西棟の建物として復元した。柱穴列は東側や南側には展開しないことから、西側と北側の調査区外へ展開すると想定される。そのため全容が不明である。重複する遺構にはSB23があるが、直接柱穴が切り合わず新旧関

SB21



P446(a-a')
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
 2. 10YR3/3暗褐色粘土と10YR8/2灰白色粘土ブロックと10YR2/2黒色粘土ブロック(φ10~20mm)の混合土

P430(d-d')
 1. 10YR3/3暗褐色粘土と10YR8/2灰白色粘土ブロックと10YR2/2黒色粘土ブロック(φ10~20mm)の混合土

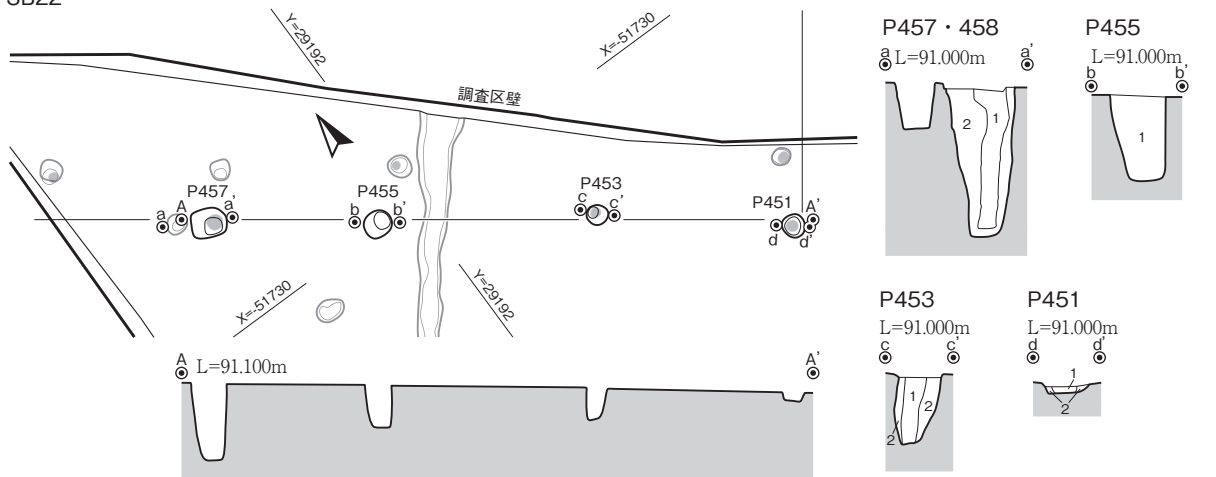
P439-440(b-b')
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1%
 2. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%

P427(e-e')
 1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%

P433-434(c-c')
 1. 10YR3/3暗褐色粘土と10YR8/2灰白色粘土ブロックと10YR2/2黒色粘土ブロック(φ10~20mm)の混合土
 2. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
 3. 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック(φ10mm以下)40%

P419-420(f-f')
 1. 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック(φ10mm以下)40%
 2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%

SB22



P457(a-a')
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
 2. 10YR3/3暗褐色粘土と10YR8/2灰白色粘土ブロックと10YR2/2黒色粘土ブロック(φ10~20mm)の混合土

P451(e-e')
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
 2. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%

P453(d-d')
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
 2. 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック(φ10mm以下)40%

P455(b-b')
 1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%

係は不明である。

規模は残存で東西 9.8 m 以上・南北 1 m 以上で、床面積は 9.8㎡ 以上である。建物主軸は、36.4° 東に振れる (N-36.4°-E)。梁行の柱間寸法は不明であり、桁行は南東隅から西に 2.80・2.80・2.30 m である。2.80 m 前後(9.2 尺)を基準としている。柱筋の通りは、現状では比較的良好で大きなずれはない。柱穴の平面形は円形基調としており、規模は径 0.28~0.50 m (平均 0.37 m) である。3 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は平均で 0.14 m である。底面の状況は、東に向かうにつれ浅くなっている。したがって、旧地表面は傾斜していた可能性がある。

遺物は出土していない。

SB23 (第 1-32 図・写真図版 1-16)

調査区北西端の VA1f~2g グリッドに位置する。桁行 2 間以上、梁行 1 間以上の東西棟の建物として復元した。柱穴列は東側と南側に広がらないことから、調査区外の北側と西側に展開すると想定できる。したがって全容が不明である。また、検出した柱穴列を桁行と想定したが、梁行の可能性もあり、その場合は南北棟になる可能性がある。重複する遺構には SB22・25 があるが、直接の切り合いがないため新旧関係は不明である。

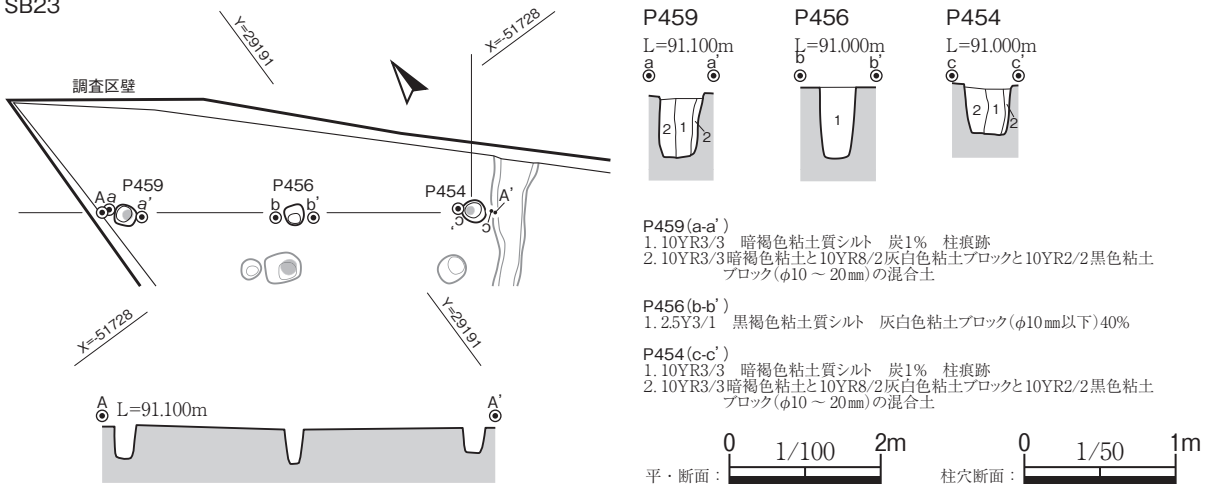
規模は残存で東西 4.9 m・南北 0.8 m 以上・床面積 3.9㎡ 以上である。建物主軸は、36.4° 東に振れる (N-36.4°-E)。梁行の柱間寸法は不明であり、桁行は、東から 2.30・2.30 m であり、2.30 m 前後(7.6 尺)を基準としている。柱筋の通りは、現状では比較的良好で大きなずれはない。柱穴の平面形は円形基調で、規模は径 0.29~0.33 m (平均 0.31 m) である。2 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は 0.12 m である。底面の状況は、調査区内においては、深さがある程度揃っており統一である。

遺物は出土していない。

SB24 (第 1-33・34 図・写真図版 1-16)

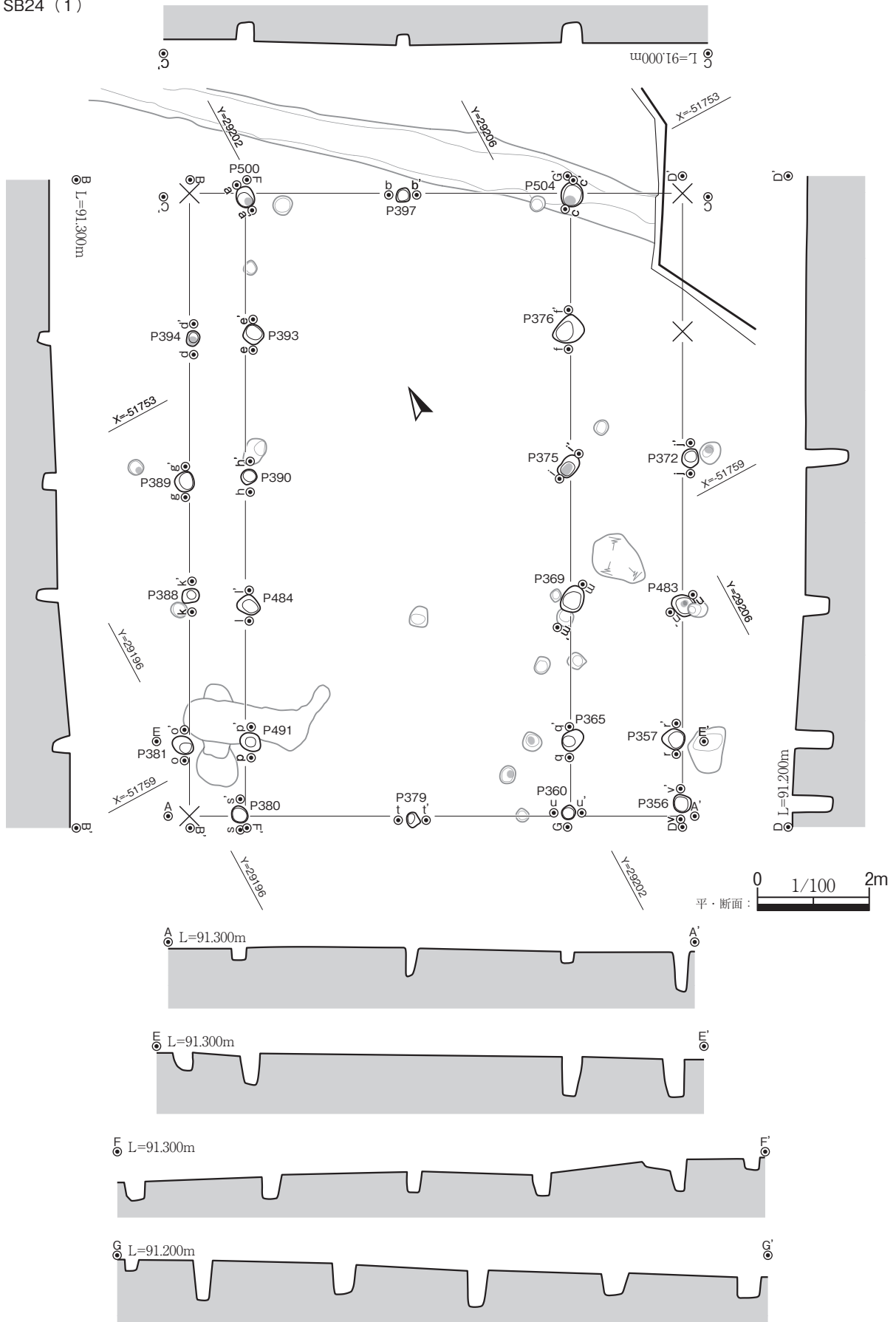
調査区北側の VA7h~10j グリッドに位置する。桁行 5 間以上、梁行 4 間の南北棟の建物として復元した。東西両側には、庇あるいは下屋が 1 間ずつ付設されると想定したが、南側 1 間分も柱間寸法が短く、これも庇あるいは下屋の可能性もある。ここでは梁行中央の柱穴 P379 の存在から東西二面の庇を想定しておく。身舎梁行は 2 間、桁行は 5 間 (あるいは 4 間) である。北西隅と南西隅の角柱穴と東側柱列の北から 2 個の柱穴は木根による攪乱もあり確認できなかった。重複する遺構には SB19・29 があるが、柱穴同士が切り合わないことから新旧関係は不明である。

SB23



第 32 図 SB23

SB24 (1)



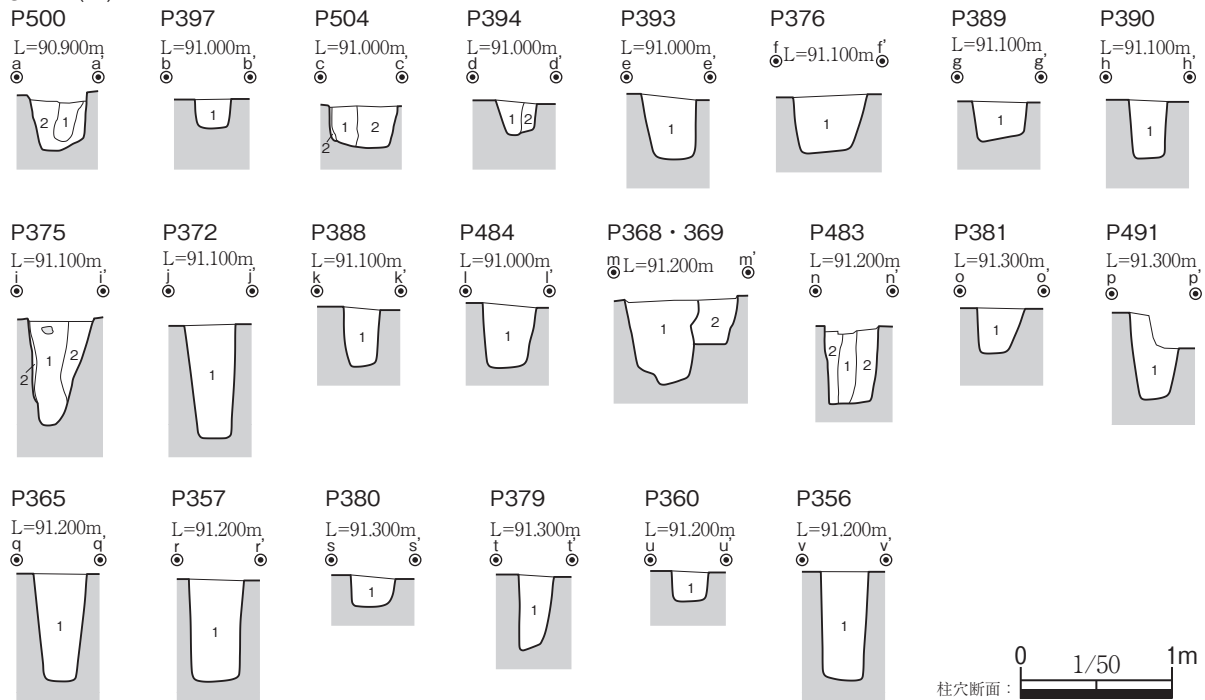
第33図 SB24 (1)

2 検出遺構

規模は東西 8.8 m・南北 11.1 m・床面積は 97.7㎡である。建物主軸は、28.3° 東に振れる (N-28.3°-E)。梁行の柱間寸法は西から 1.00・2.90・2.90・2.00 m で、身舎は 2.90 m の等間である。桁行は、北から 2.50・2.50・2.30・2.50・1.30 m で、2.50 m 前後の尺 (8.3~8.5 尺) を基準としている。また、庇 (下屋) の柱間寸法は、西と東で異なっており、東側の方が広い。柱筋の通りは、概してあまり良くなく、特に身舎と庇の柱筋の通りは悪く、ずれが生じている。柱穴の平面形は円形基調 (一部楕円形) であり、規模は身舎柱穴が径 0.26~0.58 m (平均 0.38 m) であり、庇柱穴が径 0.28~0.43 m (平均 0.36 m) である。4 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は平均で 0.16 m である。底面の状況は、南側の柱穴が概して深いものが多く、北側が浅い傾向にある。

遺物は、かわらけ・土師器・陶磁器類などが合計 227.3 g 出土している。このうち陶磁器 5 点と石器 1 点を図示した (8~12・21)。

SB24 (2)



- P500 (a-a')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック(φ10mm以下)40% 柱痕跡
2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P397 (b-b')**
1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P504 (c-c')**
1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P394 (d-d')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1% 柱痕跡
2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P393 (e-e')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 炭1%、灰白色粘土ブロック(φ10mm以下)40%
- P376 (f-f')**
1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P389 (g-g')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%
- P390 (h-h')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%
- P375 (i-i')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1% 柱痕跡
2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P372 (j-j')**
1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P388 (k-k')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%

- P484 (l-l')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%
- P368・369 (m-m')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%
2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P483 (n-n')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1% 柱痕跡
2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P381 (o-o')**
1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P491 (p-p')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%
- P365 (q-q')**
1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P357 (r-r')**
1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P380 (s-s')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%
- P379 (t-t')**
1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P360 (u-u')**
1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%
- P356 (v-v')**
1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%

第 34 図 SB24 (2)

SB25 (第 1-35 図・写真図版 1-17)

調査区北側の VA3g~5i グリッドに位置する。桁行 4 間、梁行 1 間の東西棟の建物として復元した。北側柱列の大半が調査区外へ展開すると想定されるため、全容が不明である。また、南側柱列東から 2 個目の柱穴は確認することができなかった。重複する遺構には SB27・28・30 があるが、いずれの建物とも直接柱穴が切り合わないため新旧関係は不明である。

規模は東西 9.6 m・南北 4.0 m・床面積は 38.4㎡である。建物主軸は、35.4° 東に振れる (N-35.4°-E)。梁行の柱間寸法は 4.00 m・桁行は、西から 2.30・2.30・2.50・2.50 m に復元した。西から 3 個目の柱穴が確認できなかったため、P431 と P421 間の 5.00 m の半分の 2.50 m をこの柱穴間の柱間寸法とした。2.30 m (7.6 尺) と 2.50 m (8.3 尺) を多用している。柱筋の通りは比較的良く、大きなずれはない。柱穴の平面形は円形基調であり、規模は径 0.25~0.31 m (平均 0.28 m) である。検出した 5 個の柱穴全てで柱痕跡が確認でき、径は平均で 0.13 m である。底面の状況は、多少のぼらつきが確認できるものの、深さはほぼ一定である。

遺物は、陶器片が合計 48.3 g 出土している。この 1 点を図示した (13)。

SB26 (第 1-35 図・写真図版 1-17)

調査区北側の VA5i~7j グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟の建物として仮に復元した。南側柱列のみが調査区内にあり、北側柱列は全て調査区の北側に展開すると想定した。調査を行ったのは南側柱列 4 個の柱穴のみであるため全容は不明であるが、南や東西方向に広がり確認できないため上述のように復元した。重複する遺構には SB27 があるが、直接切り合いがないため新旧関係は不明である。

規模は東西 6.3 m であり、南北は重複する SB27 と同規模と推定し 3.1 m とした。床面積はこの推定でいくと 19.5㎡である。建物主軸は、39.7° 東に振れる (N-39.7°-E)。梁行の柱間寸法は 3.10 m (10.2 尺) で、桁行は 2.10 m (約 7 尺) の等間である。柱筋の通りは、調査区内に限っては、比較的良く大きなずれはない。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径 0.27~0.35 m (平均 0.32 m) である。柱痕跡が確認できる柱穴はない。底面の状況は、西側の柱穴がやや深く、東側の柱穴が浅い。旧地表面が傾斜していた可能性がある。

遺物は出土していない。

SB27 (第 1-36 図・写真図版 1-18)

調査区北側の VA5i~6k グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 1 間の東西棟の建物として復元した。現状の柱穴配置からは、梁行 1 間、桁行 2 間の建物として復元可能であるが、南西隅の柱穴は攪乱によって壊されている可能性があること、重複する SB26 と同規模の建物の可能性があることから、桁行を 3 間とした。南西隅から 2 個目の柱穴は見落としのためか確認できなかった。また北西隅の柱穴 1 個は調査区外に存在すると想定している。重複する遺構には、SB26 があるが、直接柱穴が切り合わないため新旧関係は不明である。

規模は、想定で東西 6.3 m・南北 3.1 m・床面積は 19.5㎡である。建物主軸は、43° 東に振れる (N-43°-E)。柱間寸法は、梁行が 3.10 m (約 10.2 尺)・桁行は、2.10 m (約 7 尺) の等間である。基準寸法は 2.10 m であろう。柱筋の通りは比較的良い。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径 0.24~0.30 m (平均 0.28 m) である。柱痕跡が残る柱穴は確認できなかった。底面の状況は、深さにある程度のまとまりがあり、統一的である。柱間寸法や主軸の傾き、同じ位置に存在することなどから

SB26 と同一規模の建物の可能性がある。

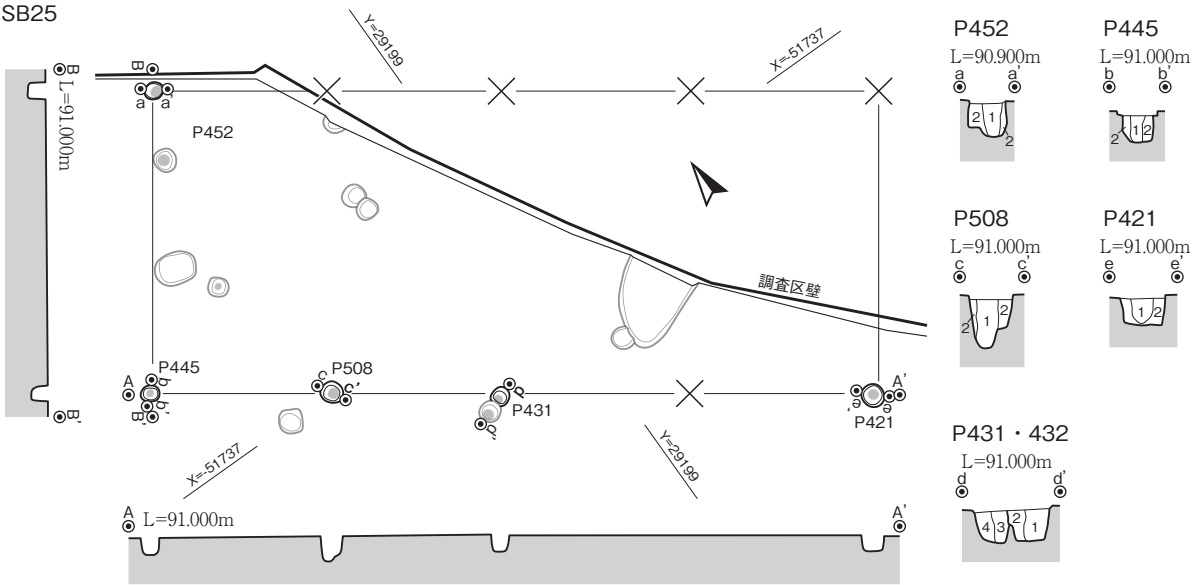
遺物は出土していない。

SB28 (第1-36図・写真図版1-18)

調査区北側のVA6f~8hグリッドに位置する。桁行3間、梁行2間の東西棟の建物として復元した。想定される位置に確認できなかった柱穴は2個あり、西側柱列中央と南東隅から2個目の柱穴の箇所である。重複する遺構には、ほぼ同位置にSB18があるが、直接柱穴が切り合わないため新旧関係は不明である。またいわゆるカマド状遺構であるSL04・03・05とも重複しており、このうちSL03よりは新しい。それ以外とは同時期かも含めて新旧関係は不明である。

規模は、東西6.9m・南北4.2m・床面積は29㎡である。建物主軸は、34.4°東に振れる(N-34.4°-E)。柱間寸法は、梁行が2.10m(約7尺)の等間に、桁行は2.30m(約7.6尺)の等間に復元した。柱筋

SB25



P452(a-a')
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
 2. 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック(φ10mm以下)40%

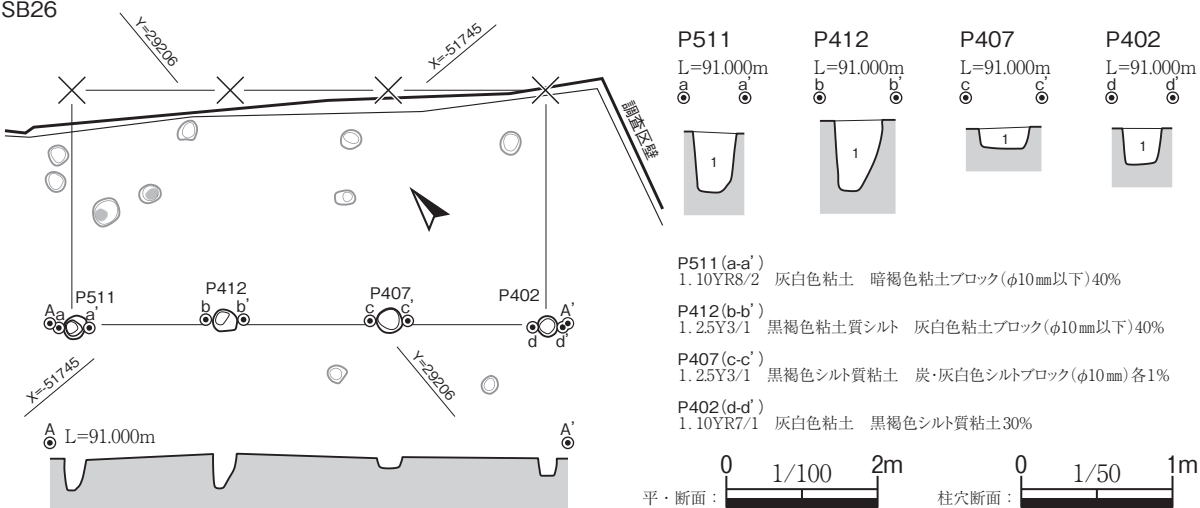
P445(b-b')
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
 2. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%

P508(c-c')
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
 2. 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック(φ10mm以下)40%

P431・432(d-d')
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1%、灰白粘土ブロック3% 柱痕跡
 2. 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック(φ10mm以下)40%
 3. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭・灰白粘土ブロック各1% 柱痕跡
 4. 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック(φ30~50mm)40%

P421(e-e')
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 柱痕跡
 2. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%

SB26



P511
 L=91.000m

P412
 L=91.000m

P407
 L=91.000m

P402
 L=91.000m

P511(a-a')
 1. 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック(φ10mm以下)40%

P412(b-b')
 1. 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック(φ10mm以下)40%

P407(c-c')
 1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%

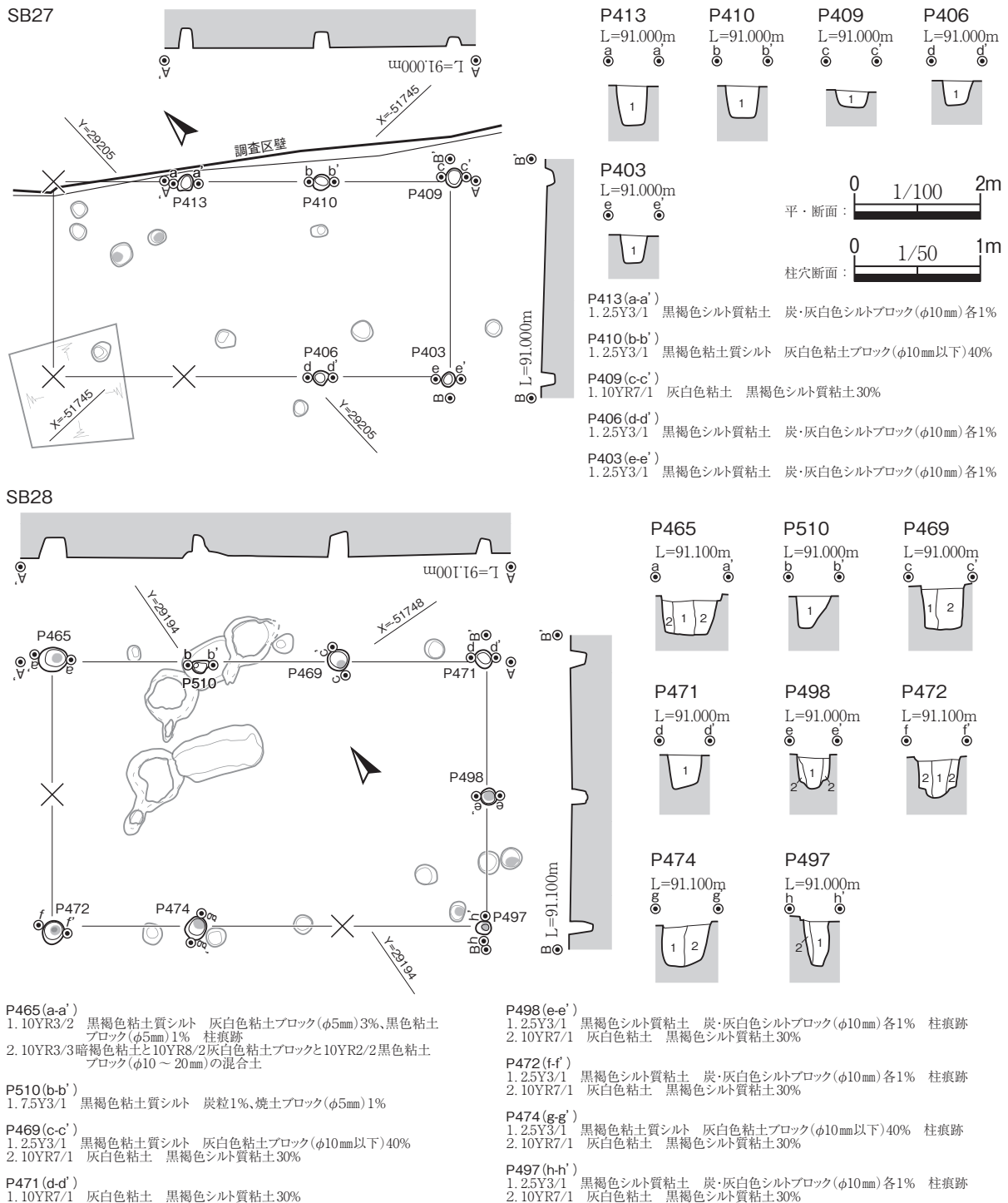
P402(d-d')
 1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%



第35図 SB25・26

の通りは比較的良好。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径0.24~0.47m(平均0.33m)である。6個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は平均0.16mである。底面の状況は、深さにある程度のまとまりがあり、統一性がある。建物内にSL04が収まることから、この遺構の覆屋あるいは工房である可能性が考えられるが、直接これを裏付ける証拠がないため別々の遺構と捉えている。

遺物はP497からかわらけ(2.8g)、P472から判別不明な土器片(1.4g)の計4.2gのみが出土している。いずれも細片のため図示していない。



第36図 SB27・28

SB29 (第 1-37 図)

調査区北側の VA9i~10j グリッドに位置する掘立柱建物跡である。桁行 3 間、梁行 1 間の南北棟の建物として復元した。想定される位置に確認できなかった柱穴は 1 個あり、西側柱列の北から 2 個目の箇所である。重複する遺構には、SB24 があるが、直接柱穴が切り合わないため新旧関係は不明である。

規模は、東西 4.7 m・南北 6.3 m・床面積は 29.6㎡である。建物主軸は、42.3° 東に振れる (N-42.3°-E)。柱間寸法は、梁行が 4.70 m (約 15.5 尺) に、桁行は 2.10 m (約 7 尺) の等間に復元した。柱筋の通りは総じて良い方であるが、想定した柱筋からずれる柱穴もある。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径 0.23~0.38 m (平均 0.30 m) である。2 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は平均 0.16 m である。底面の状況は、深さにある程度のまとまりがあり、大きく高低差は確認できない。

遺物は、P367・P515 から判別不明な土器細片 (7.7 g) が出土しているのみである。細片のため図示していない。

SB30 (第 1-37 図・写真図版 1-19)

調査区南側の VA16h~j グリッドに位置する。桁行 4 間、梁行 1 間の東西棟の建物として復元した。想定される位置に確認できなかった柱穴は 4 個あり、北側柱列中央 3 個と南側柱列の東から 2 個目である。重複する遺構には、SB06 があるが、直接柱穴が切り合わないため新旧関係は不明である。

規模は、東西 7.4 m・南北 3.5 m・床面積は 25.9㎡である。建物主軸は、3.2° 西に振れる (N-3.2°-W)。柱間寸法は、梁行が 3.50 m (約 11.6 尺) に、桁行は西から、2.10・2.10・1.60・1.60 m に復元した。東側 2 つの柱間寸法が 1.60 m (約 5.3 尺) と他よりも短く、あるいはこれらを合わせて 1 間分なのかもしれない。柱筋の通りは総じて良い方であるが、確認した柱が少なく判断しがたい。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径 0.22~0.33 m (平均 0.27 m) である。1 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は 0.10 m である。底面の状況は、東に向かって徐々に深くなる傾向がある。旧地表面が緩やかな傾斜地であった可能性がある。

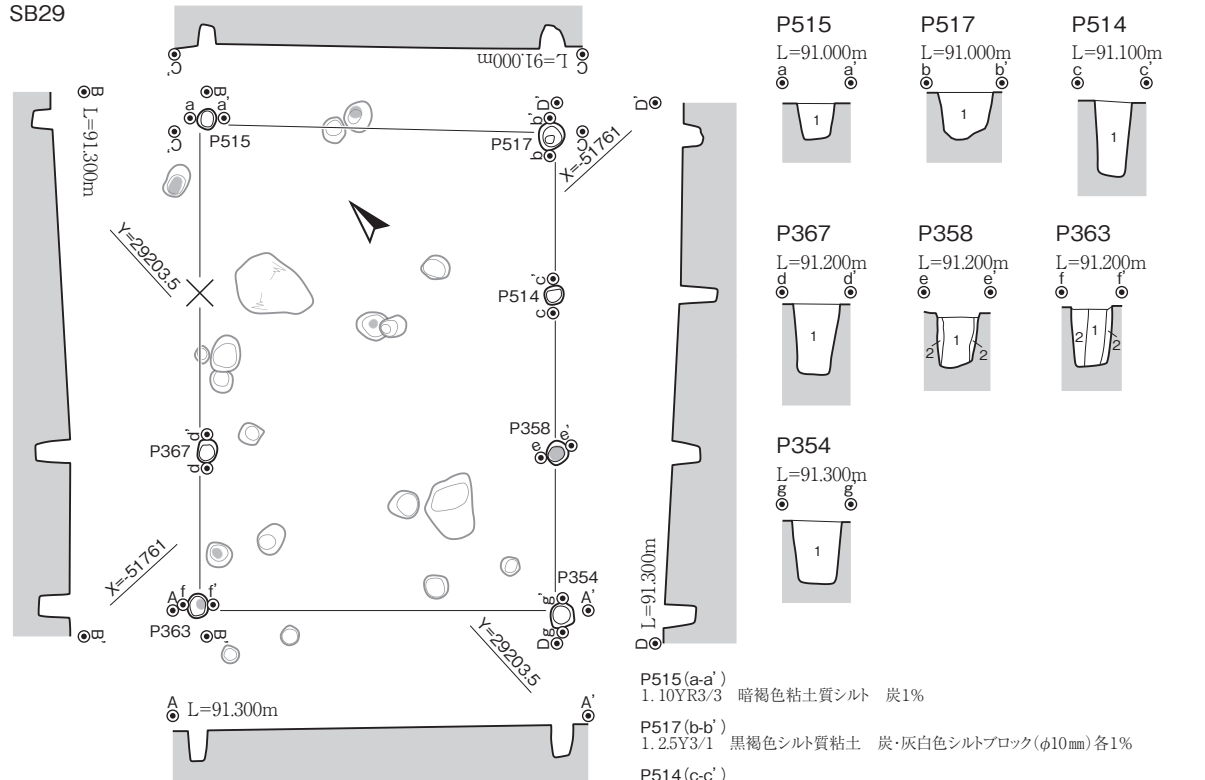
遺物は、P248 の柱穴から須恵器片 (7.3 g) のみが出土している。細片のため図示していない。

SB31 (第 1-38 図・写真図版 1-19)

調査区南側の VA17j~19k グリッドに位置する。桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟の建物として復元した。想定される位置に確認できなかった柱穴は 5 個もあり、建物と復元するのに躊躇する。しかし、柱穴の規模にまとまりのあることや、想定する柱間寸法の位置に柱穴が並ぶことから、いったん建物として復元した。確認できない柱穴は、北側柱列のうち西端を除く 3 個が、南側柱列のうち中央の 2 個が確認できなかった柱穴である。この付近は地形的に東や北に向かって傾斜しはじめており、そのため確認できない柱穴が多かった可能性もある。重複する遺構は無いが、南に近接して SB32 や SB08 がある。

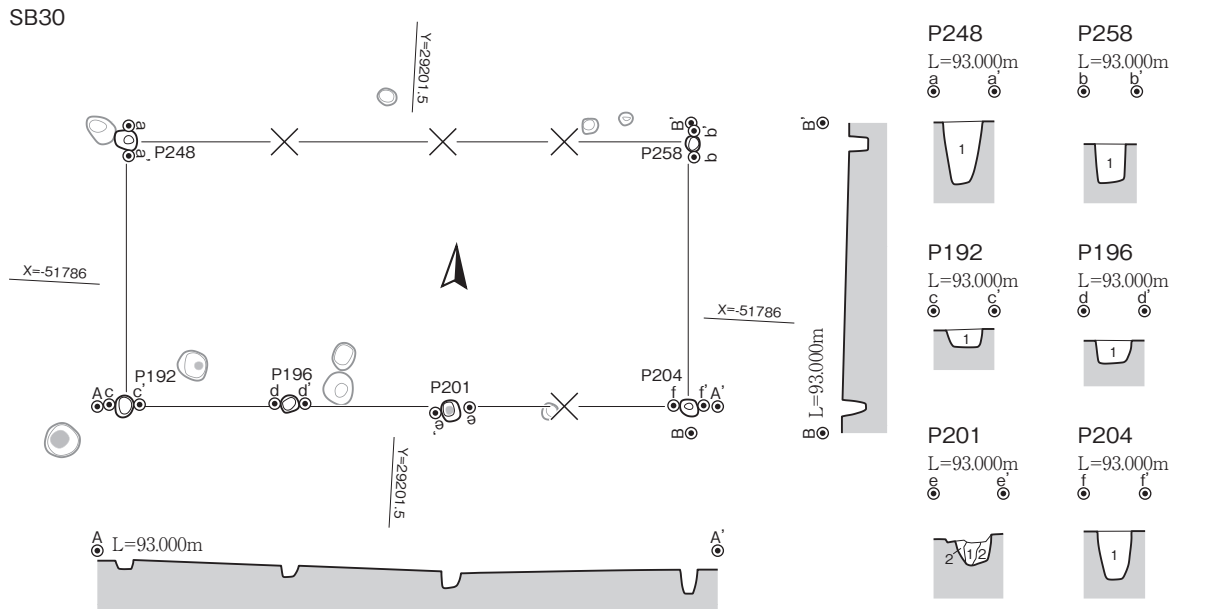
想定する規模は、東西 6.0 m・南北 4.8 m・床面積は 28.8㎡である。建物主軸は、22° 東に振れる (N-22°-E)。柱間寸法は、梁行が 2.40 m (約 8 尺) 等間に、桁行は 2.10 m (6.6 尺) の等間にそれぞれ復元した。柱筋の通りは比較的良い。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径 0.48~0.68 m (平均 0.54 m) であり、今回検出した建物の中では最も大きい。3 個の柱穴で柱痕跡が確認でき、径は平均 0.18 m である。底面の状況は、深さにある程度のまとまりがあり、大きく高低差は確認できない。

遺物は、P084 からかわらけ (19.2 g)、P099 から判別不明な土器細片 (4.0 g) の計 23.2 g が出土し



- P363(f-f')**
 1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1% 柱痕跡
 2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P367(d-d')**
 1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%

- P515(a-a')**
 1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1%
- P517(b-b')**
 1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1%
- P514(c-c')**
 1. 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック(φ10mm以下)40%
- P358(e-e')**
 1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック(φ10mm)各1% 柱痕跡
 2. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%
- P354(g-g')**
 1. 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土30%



- P248(a-a')**
 1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)5%
- P258(b-b')**
 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5~10mm)7%
- P192(c-c')**
 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5~10mm)7%

- P196(d-d')**
 1. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)5%、黄褐色シルトブロック(φ5~20mm)
- P201(e-e')**
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡
 2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)5%
- P204(f-f')**
 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)3%



第37図 SB29・30

ている。いずれも細片のため図示していない。

SB32 (第 1-39 図・写真図版 1-20)

調査区南側の VA18i~19j グリッドに位置する。桁行 2 間以上、梁行 1 間の南北棟の建物として復元した。南側の大部分が調査区外へ展開すると予想されるが、3 次調査区では該当する柱穴が確認されていない。そのため今次調査と 3 次調査区の間隙に柱穴が想定され、その場合桁行は 2 間となる。重複する遺構には、SB09 があるが、直接柱穴が切り合わないため新旧関係は不明である。

規模は、東西 3.8 m・南北 4.2 m 以上 (調査区内の現状)、床面積は 20㎡ 以上である。建物主軸は、22.5° 東に振れる (N-22.5°-E)。柱間寸法は、梁行が 3.80 m (約 12.5 尺) に、桁行は北から、2.40 m (約 8 尺) に復元した。柱筋の通りは、確認できる範囲が少なく判断しがたいが、少なくとも調査区内においては比較的良い。柱穴の平面形は円形を基調とし、規模は径 0.27~0.35 m (平均 0.30 m) である。柱痕跡が確認できる柱穴は確認できなかった。底面の状況は、南側 2 列の柱穴が他よりもやや深い傾向にある。

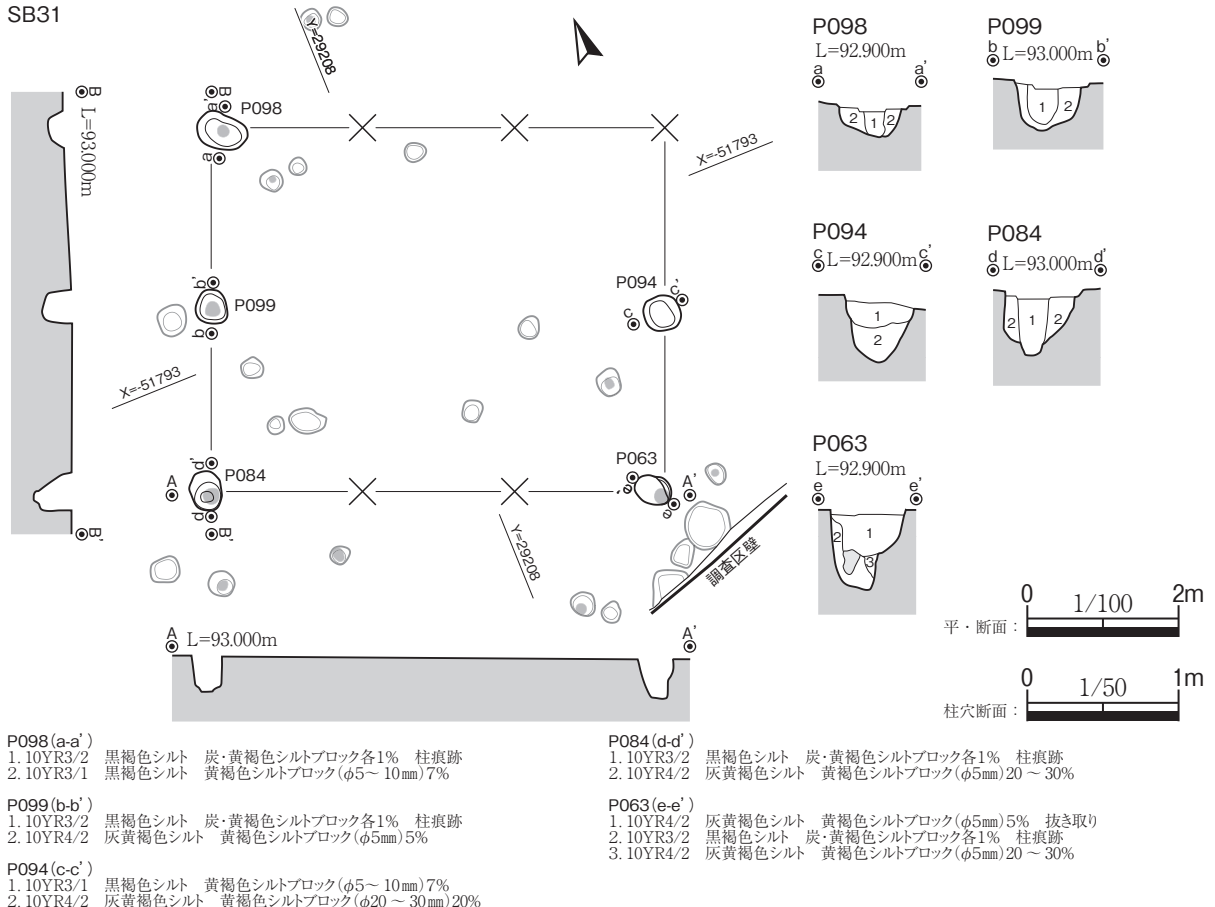
遺物は、P086・301 から判別不明な土器細片 (4.2 g) が出土しているのみで、図示していない。

SB33 (第 1-39 図・写真図版 1-20)

調査区南側の VA15f~16g グリッドに位置する。桁行 2 間、梁行 1 間の東西棟の建物として復元した。柱間寸法からみると西側の調査区外に展開する可能性が残る。重複する遺構には、SB05・04・10・13 があるが、直接柱穴が切り合わないため新旧関係は不明である。

規模は、桁行が 2 間の場合、東西 6.0 m・南北 2.7 m・床面積は 16.2㎡ となる。建物主軸は、24.9°

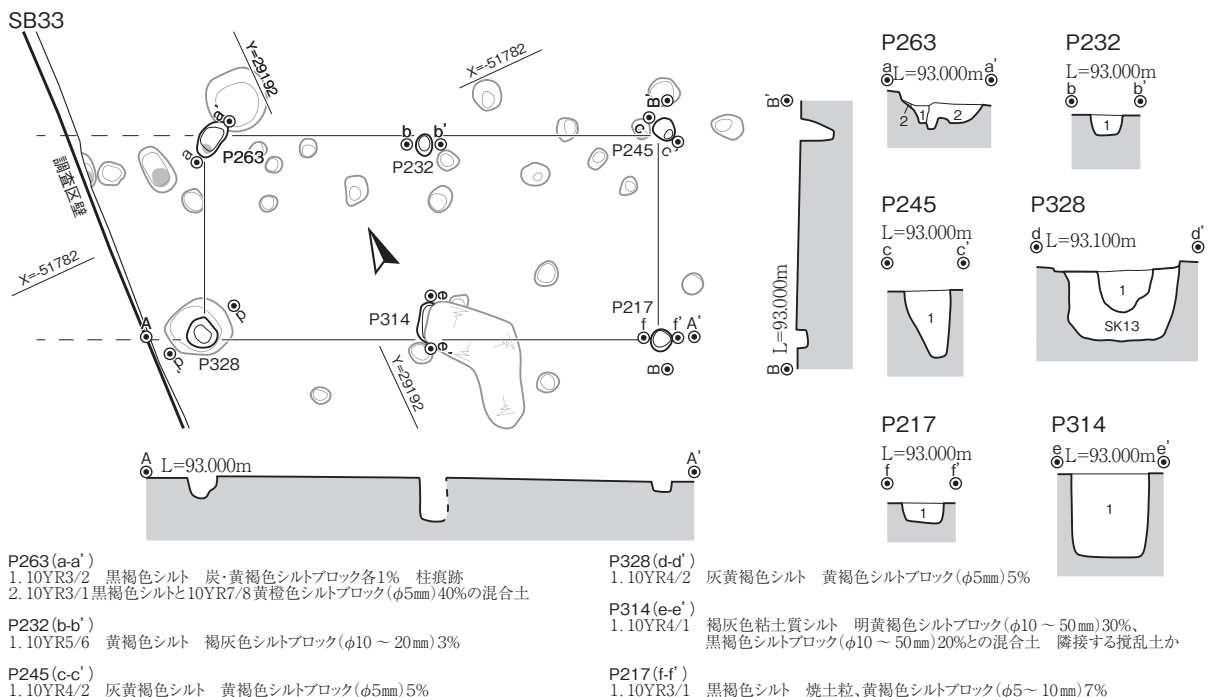
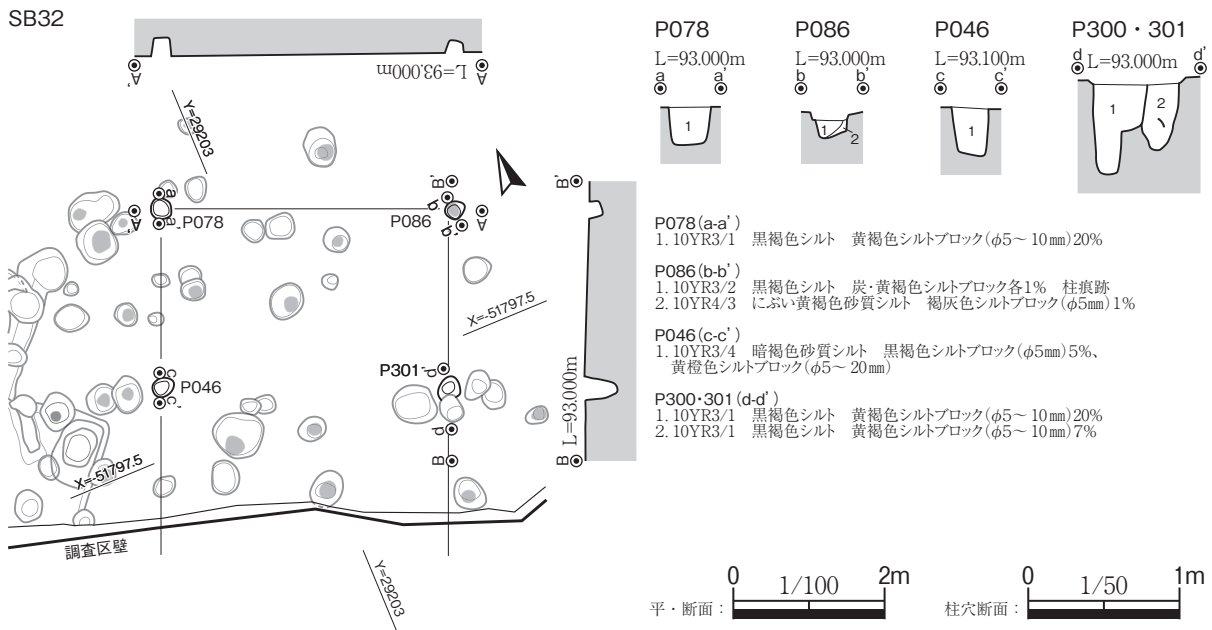
SB31



第 38 図 SB31

東に振れる (N-24.9°-E)。柱間寸法は、梁行が2.70 m (約9尺) に、桁行は東から3.00 m (約10尺) 等間に復元した。柱筋の通りは、確認できる範囲が少なく判断しづらいが、少なくとも調査区内においては比較的良い。柱穴の平面形は円形から楕円形で、規模は径0.29~0.53 m (平均0.39 m) である。柱痕跡が確認できる柱穴は1個のみ確認し、径は0.14 m である。底面の状況は、深さにばらつきが大きく、まとまりがない。

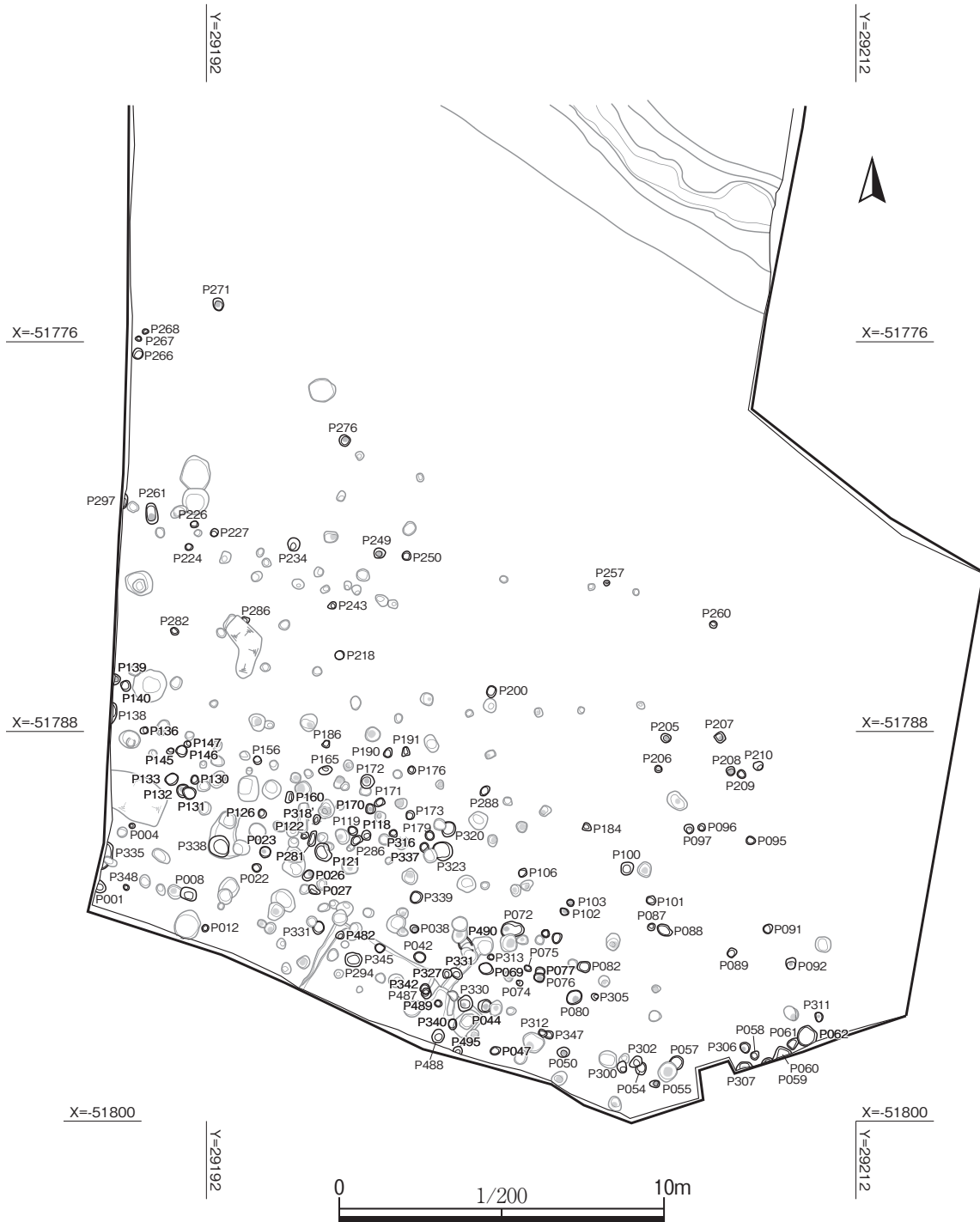
遺物は、陶器片や土器片が計31.9 g 出土している。このうち1点のみを図示した (14)。



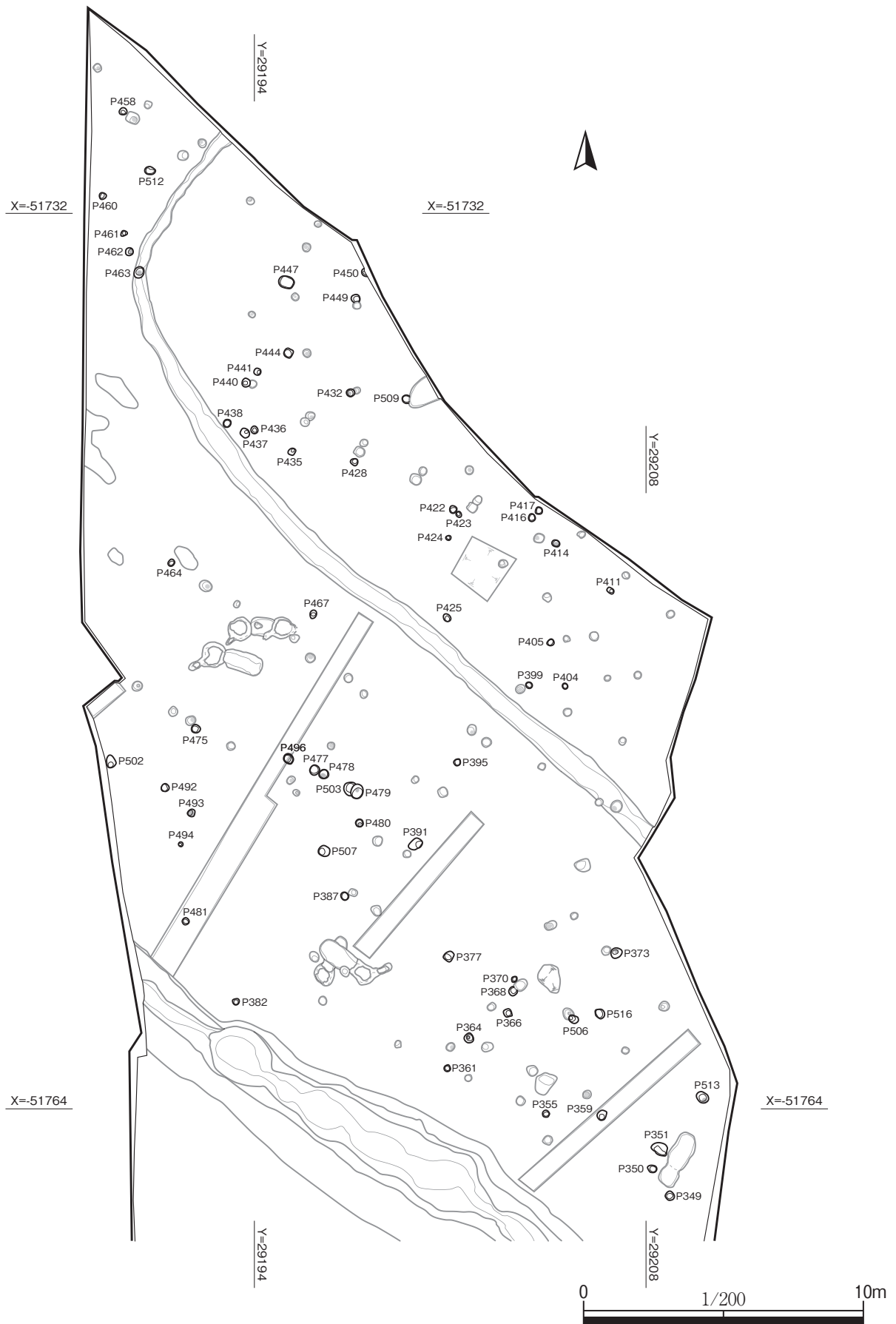
第39図 SB32・33

(2) 柱 穴 (第1-40~42 図)

掘立柱建物に復元できなかった柱穴は、198 個となる。調査区南側に集中しており、柱穴群の広がり
りは南や西に広がるのが予想される。建物として復元できなかったが、今後の検討で新たな建物に
なる可能性がある。ここでは、個々の説明は省略し、詳細は観察表や平面図等を参照されたい。なお、
各柱穴から出土した遺物については第1-4 表によるが、そのうち図示した遺物は10 点である(第1-52
図)。図示していない遺物については、種類や重量のみを記載している。

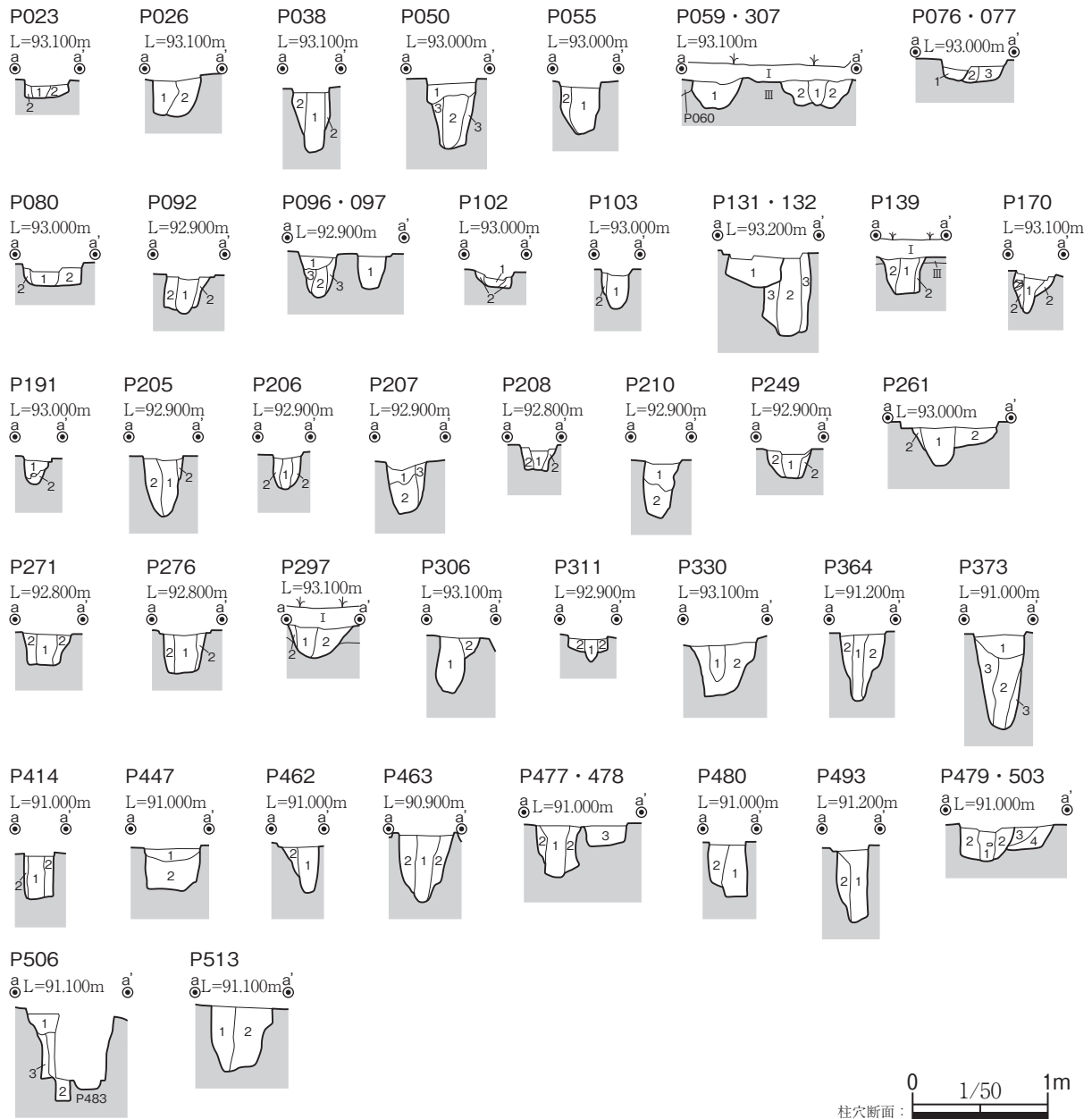


第40 図 柱穴分布図 (1)



第41図 柱穴分布図(2)

2 検出遺構



第 42 図 柱穴断面図

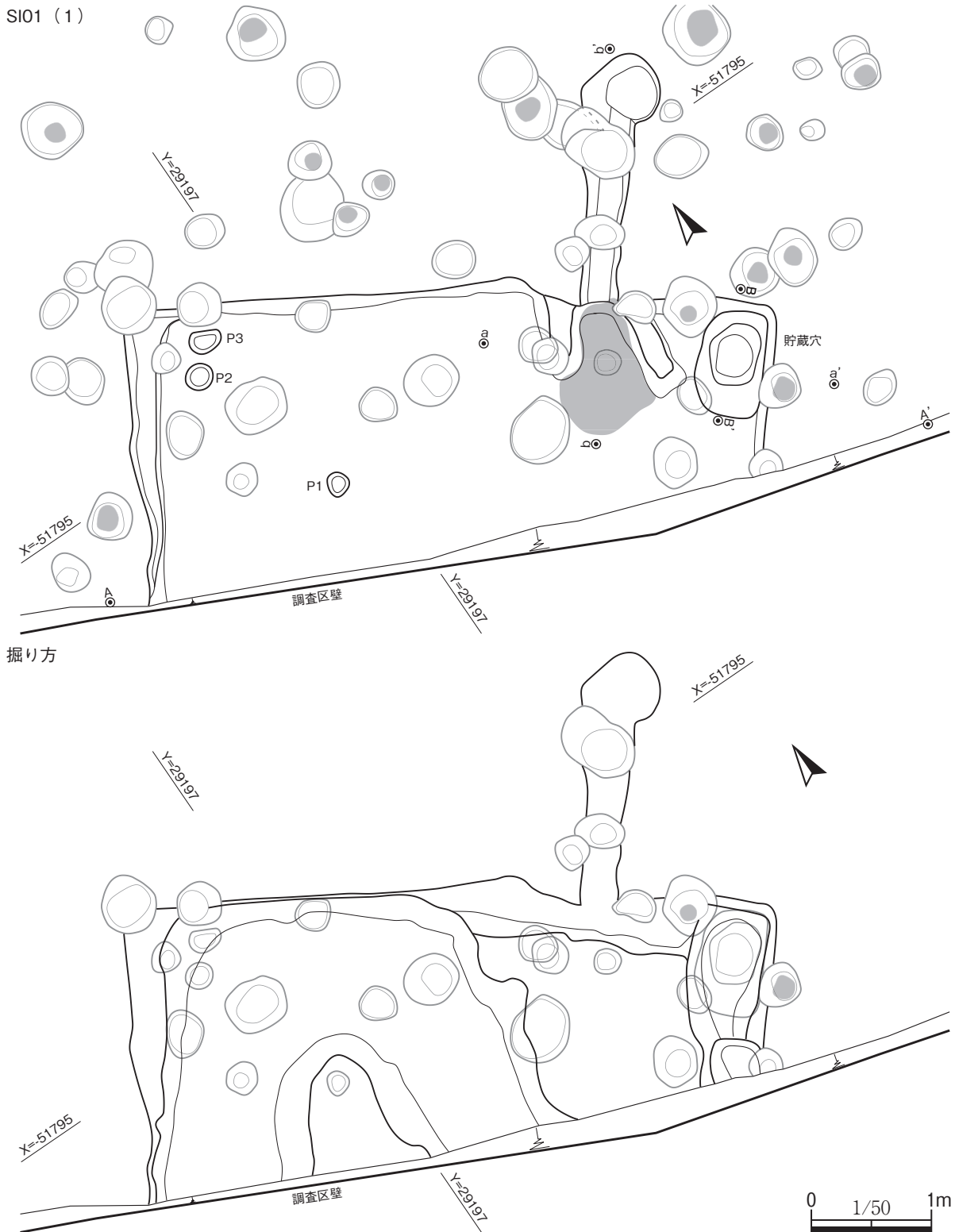
(3) 竪穴建物

1 軒検出した。時期は後述のように古代に属するが、これまでの調査においてもあまり検出されておらず、この時期の集落の様相は定かではない。今回検出した 1 軒は第 3 次調査で調査された竪穴建物の北半分に相当する。

SI01 (第 1-43~45 図・写真図版 1-21・22)

調査区南側の VA18h グリッドに位置する。上述のように南半分は第 3 次調査において調査されており、およそ半分を今回調査した。重複する遺構は、SB01・03・15・08・09 とであり、いずれよりも本遺構の方が古い。北壁側にはカマドが付設される。また、建物に復元できない柱穴とも重複しており、こちらも竪穴建物の方が古い。

SI01 (1)



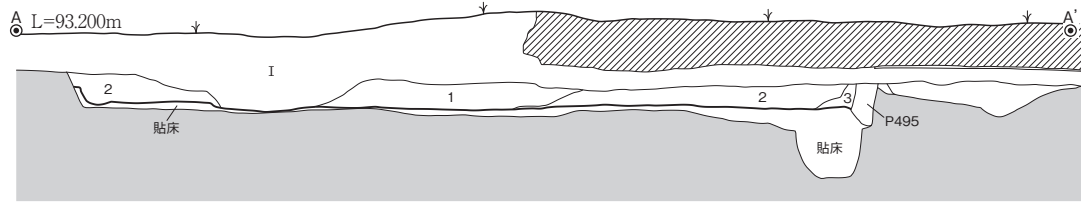
第43図 SI01 (1)

平面形はほぼ正方形状で、規模は東西5.3 m、南北は調査区内で2.1 m、第3次調査分を含めると4.6 mである。建物方位は、カマド主軸を基準にするとN-40°-Eである。

堆積土は3層に大別できる。堆積土の大半が、現代の攪乱（盛土・整地）によって破壊されており、ほぼ下層付近しか残存していないと考えられる。1層は灰黄褐色であるシルト層で、しまり・粘性と

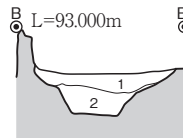
2 検出遺構

SI01 (2)



堆積土断面(A-A')

- 1. 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5~10mm)5%
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ50~100mm)10%
- 3. 10YR2/1 黒色シルト 黄橙色シルトブロック(φ10mm)1%
- I. 10YR4/1 褐灰色粘土~粘土質シルト 黄橙色シルトブロック(φ30~50mm)10%

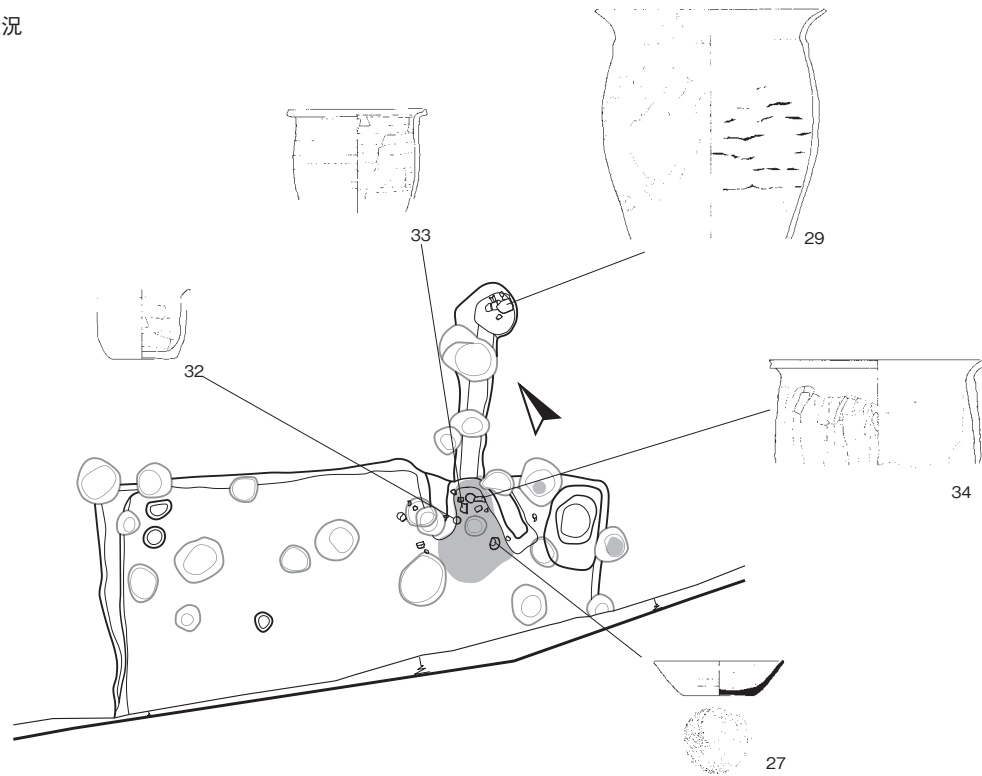


貯蔵穴(B-B')

- 1. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm)3%、炭1%
- 2. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)10%、黄橙色シルトブロック(φ5mm)7%、橙色焼土ブロック1%



遺物出土状況



遺物出土状況 :

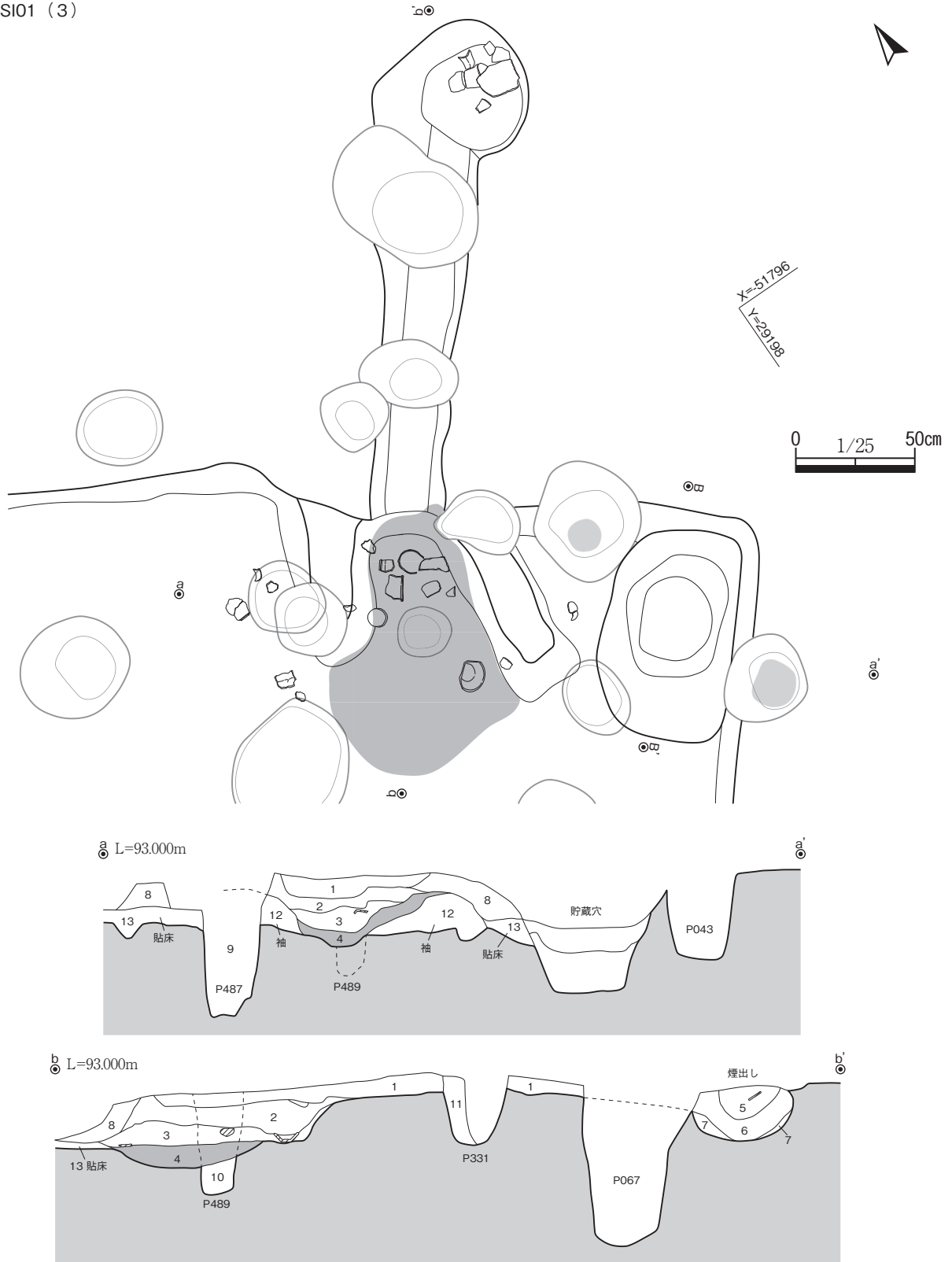
※遺物は1/8

第44図 SI01 (2)

もやや強い。2・3層は黒褐色から黒色であるシルト層で、地山起源と考えられる黄橙色のシルトブロックをそれぞれ含んでいる。床面は、ほぼ平坦に構築されており、貼床がほぼ前面に施されている。厚さは6~10cmである。東端付近ではピット状に深くなる。建物の掘方をみると、カマド周辺は掘り残し、周囲を中心に掘り下げているようである。その下げたところに貼床を施している。

付属施設には、カマド・貯蔵穴・ピット類がある。カマドは北壁の東寄りに位置する。上部は削平により失われているが、下部(カマド袖)や燃焼部・煙道・煙出しピットなどが残存する。カマド両袖間の幅は最大で1.1m、長さは壁から左袖が0.7m・右袖が0.9m・高さは床面より0.12mである。両袖間の堆積土は焼土を含めて4層に区分でき、1層は黒褐色であるシルト層で、煙道部の堆積土と

SI01 (3)



カマド断面(a-a'・b-b')

- | | |
|--|--|
| 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)5%、炭1% | 7. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)1% |
| 2. 10YR7/6 明黄褐色シルト 橙色焼土ブロック(φ10mm)1%、黒褐色シルトブロック(φ10~20mm)5%、浅黄褐色シルトブロック(φ10mm)3% | 8. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ10~30mm)10% |
| 3. 5YR5/3 にぶい赤褐色シルト 橙色焼土ブロック(φ5~10mm)10% | 9. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5mm)5% P487堆積土 |
| 4. 5YR7/8 褐色シルト 焼土部焼土 | 10. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5~10mm)7% P489堆積土 |
| 5. 10YR4/4 褐色シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)1%、橙色焼土ブロック(φ10mm)1% | 11. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)5% P331堆積土 |
| 6. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ5~10mm)3% | 12. 10YR7/6 明黄褐色シルト 黒褐色シルトブロック(φ5mm)3% 袖構築土 |
| | 13. 10YR7/8 黄褐色シルト 黒褐色シルトブロック(φ10mm未満)30% 貼床 |

第45図 SI01 (3)

同じである。2層は明黄褐色であり、天井部の崩落土を主体としている。3層は焼土混じりのシルトで、4層が焼土層となる。この広がりには両袖間を中心に、袖の前方（南側）の床面まで広がっている。これが燃焼部であろう。堆積土のうち3・4層を中心に土壌水洗を行った。詳細は後節によるが、コメをはじめとする穀類が出土している。燃焼面から煙道部の境界には0.2 m程の段差がある。煙道は北壁のやや東寄りの位置にあり、北壁から煙出しピットまで長さは2.1 mで、IV層を掘り込んで構築されている。煙道底面はほぼ水平であるがわずかに上昇している。煙出しピットは0.65×0.5 mの楕円形で、煙道よりも一段深く構築されている。

貯蔵穴はカマドの東側、建物北東隅に位置している。上部の平面形は、隅丸形状であるが、下部（下端）は楕円形状である。規模は、長軸0.9 m・短軸0.58 mで、深さは床面より0.28 mである。そのほか、この遺構に伴うピットとして、P1～3があり、それ以外の柱穴類はいずれも建物よりも新しいと判断している。

遺物は合計3,519.7 g出土している。内訳は、土師器2,917.5 g、須恵器284.3 g、鉄製品38.6 g、混入と考えられる近世磁器29.9 g、縄文土器36.3 g、石器剥片5.8 g、粘土塊など207.3 gである。このうち須恵器3点、土師器10点、鉄製品4点、磁器1点を図示した（26～43）。

(4) 溝

2条検出した。いずれも北側調査区に位置するもので、出土遺物から12世紀に属する遺構と考えられる。

SD01（第1-46・47図・写真図版1-23～25）

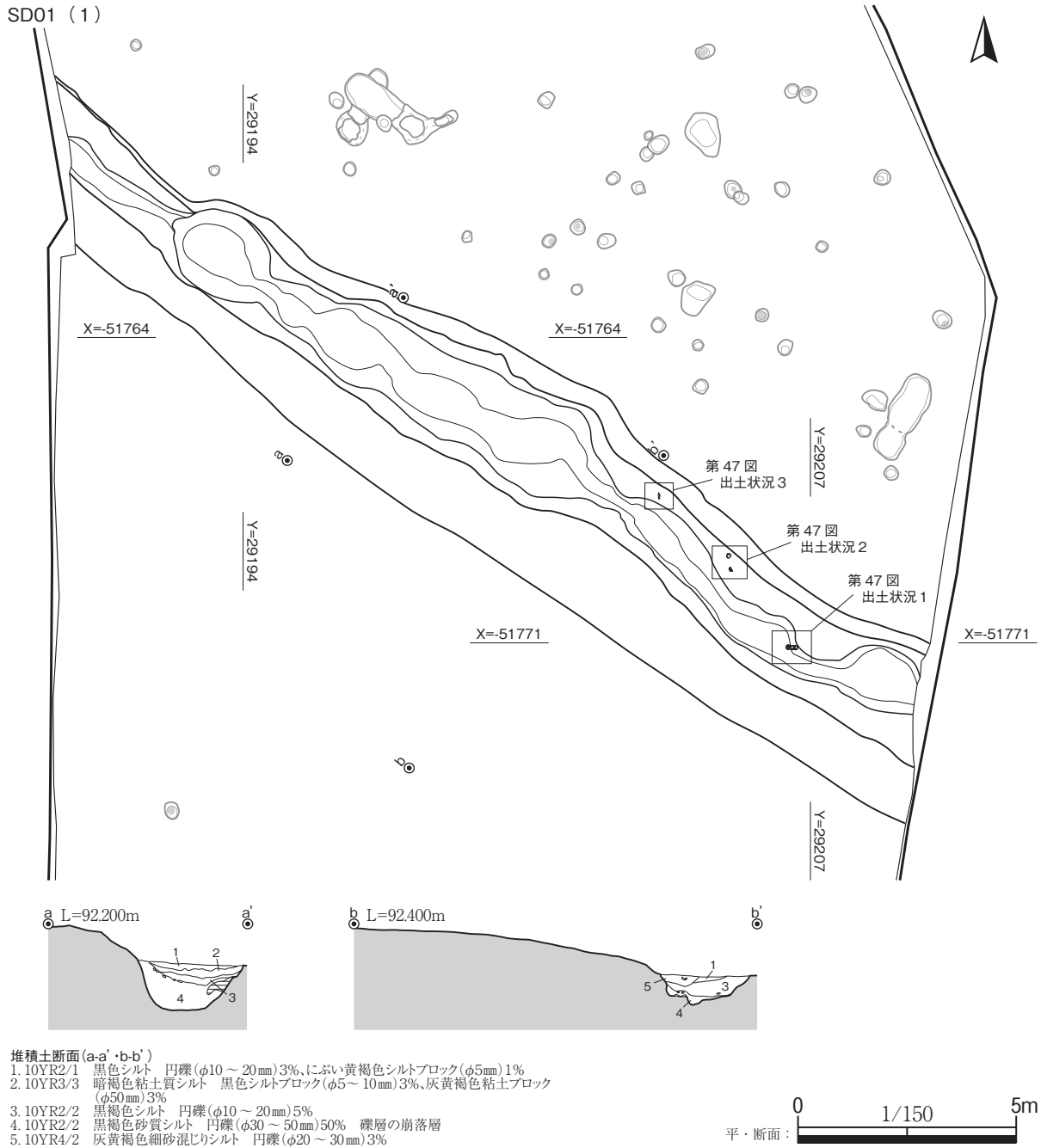
調査区北側のVA9f～13kグリッドにわたって位置する溝である。検出はIV層で行っている。調査区を横断する形で存在しており、調査区の外側（西側と東側）にそれぞれ展開することが予想される。この溝が立地する地点は、南側の高い範囲と北側の低い範囲との境界にあり、約1 mの段差がある。この段差の直下にこの遺構が構築されている。また、この地点では段丘基盤礫とされる礫層（V層）が露出しており、溝跡の南側がこの層を掘り込んで構築されている。地形的にも地質的にも境界に位置する。調査区内においては、他遺構との重複はない。

規模は、直線距離で24.41 m、上幅は礫層上の傾斜変換点からみると最大で4.44 m、掘り込み位置からは最大で2.96 mである。方向は、N-34.7°-Eであり、約35°東に傾く。断面形は逆台形状で、確認面（掘り込み面）からの深さは1.69 m、傾斜変換線からの深さは2.24 mである。堆積土は、上位が黒色から黒褐色系と暗褐色系である粘土質シルト層、下位が径5 cm程度の円礫を多数含む層である。下位層は、南側の立ち上がりが全て段丘基盤礫層（V層）になるため、その崩落と考えられる。

遺物は、上位層から下位層まで豊富に出土している。総計で約17 kg（16,945.1 g）で、内訳は土師器985.8 g、須恵器371.2 g、かわらけ9,483.6 g、陶磁器類2,622.5 g、縄文土器2,125.6 g、石器類208.0 g、金属製品1,138.4 g、粘土塊など10.0 gである。このうち92点を図示した（44～136・198）。

そのほか出土した炭化物のAMS測定を8点行った。詳細は第IV章第6節に記載しているが、11世紀前葉から13世紀初頭までと年代幅があり、中心は11世紀代と12世紀代に大きく2分される。前者の中心年代は11世紀中葉で、多くの測定結果が重なる時期である。後者の中心年代は12世紀後葉で、ここも多くの測定結果が重なる時期である。下位層からの出土遺物とAMS年代測定の結果から、この溝の帰属時期は12世紀代と想定されるが、11世紀代に既に掘削されていた可能性もある。

（西澤）



第46図 SD01 (1)

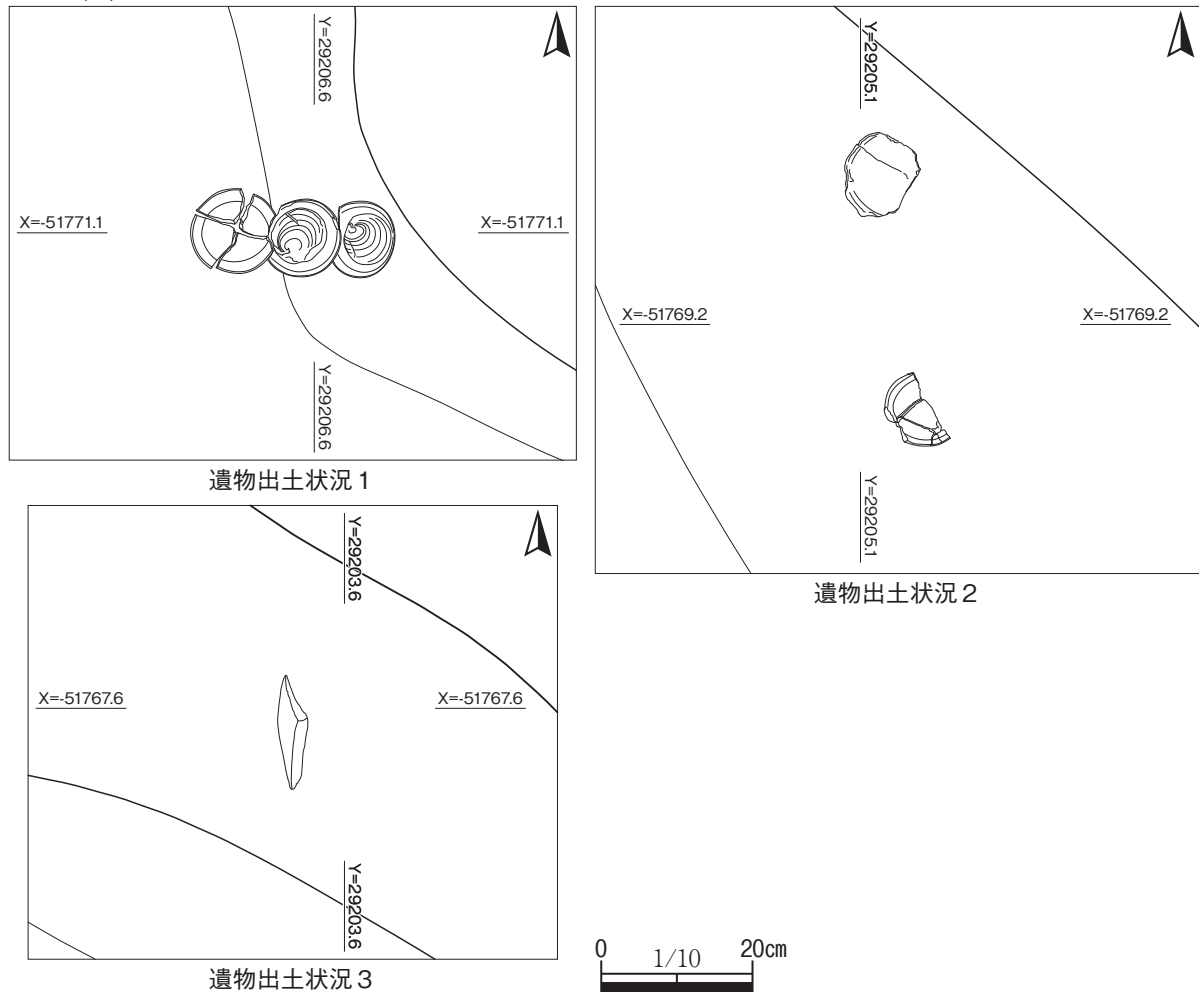
SD02 (第1-48・49図・写真図版1-26~28)

調査区北側のVA2g~8jグリッドに位置する溝である。検出はIV層で行っている。南東から北西に向かいL字にカーブする形で展開している。調査区内においては、SB24の柱穴とSB19の柱穴に切られていることから、これらの建物が建てられた時期より古いと考えられる。

規模は、約33.4m、上幅は、最大で1.1m、最小で0.3mである。深さは、最大で0.4m、最小で0.2mと検出面からは浅い溝である。方向は、N-38.07°-Eであり、約38°東に傾く。断面形は逆台形状である。堆積土は、黒褐色系である粘土質シルト層で、灰白色の粘土ブロックと黒色の粘土ブロックが少量含まれる。北側の底面には、径1~5cm程度の円礫が堆積している。

SD02からは計6,054.5gの遺物が出土している。内訳は、土師器23.5g、かわらけ4,590.7g、陶磁

SD01 (2)



第47図 SD01 (2)

器 51.5 g、縄文土器 96.5 g、石器 1,247.0 g、粘土塊など 45.3 g である。このうち、かわらけ 15 点、陶器 2 点、石器 4 点を図示した (137~157)。

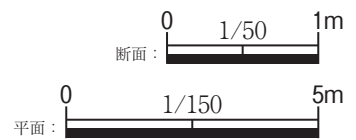
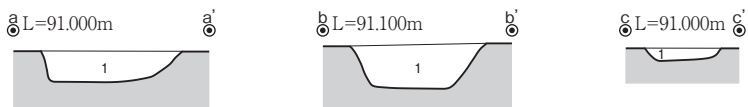
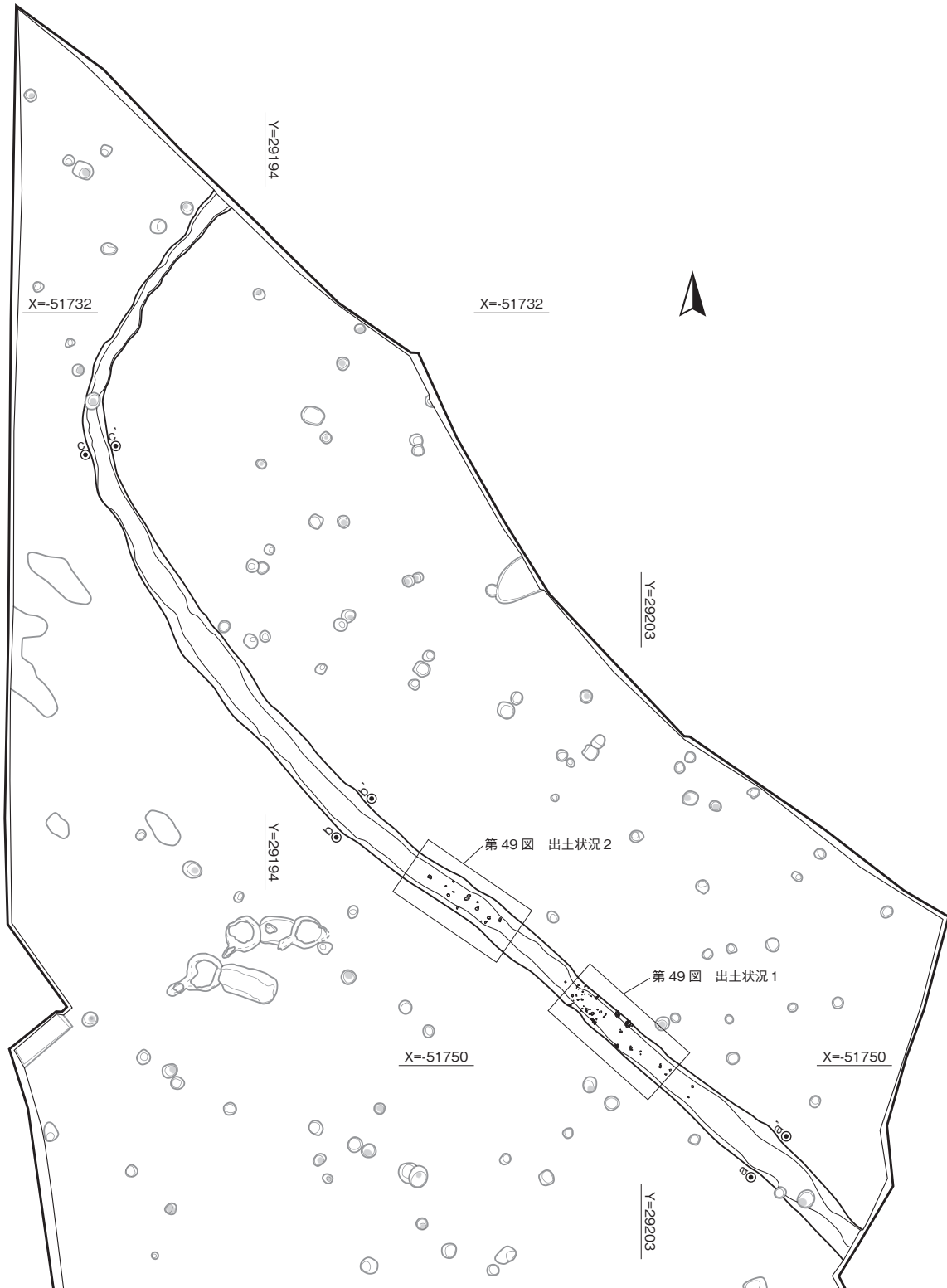
(5) 土 坑 (SK)

柱穴よりも規模が相対的に大きく、平面形が円形または楕円形の遺構を土坑とした。用途・機能として、柱穴や貯蔵穴、墓などへ分類できる可能性があるが、用途不明の遺構が多く含まれるなど多様な内容をもつ。曖昧な内容をもつ遺構であるが、便宜上その他の遺構を一括したものである。今回の調査では、SK の略号を割り振ったものが SK01~25 までであるが、調査・整理の過程で柱穴や攪乱(現代の土坑など)に変更したものがある。結果として土坑として残ったものは合計 11 基となる。

SK01 (第 1-50 図・写真図版 1-29)

調査区南側 VA18f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。重複する遺構は無い。形状は円状で、規模は開口部径 0.9×0.74 m、底部径 0.7×0.69 m、深さ 0.85 m である。底面は平坦で、壁は垂直~外傾して立ち上がる。柱痕跡が確認されたが、対応する柱穴が確認できなかった為、土坑と種別している。堆積土は上位が黒褐色シルトで黄褐色シルトブロックが少量含まれ、抜き取り跡の可能性はある。中央に柱痕跡があり、黒褐色シルトに黄褐色ブロックと焼土が微量含まれる。掘方埋土は、黒褐色シル

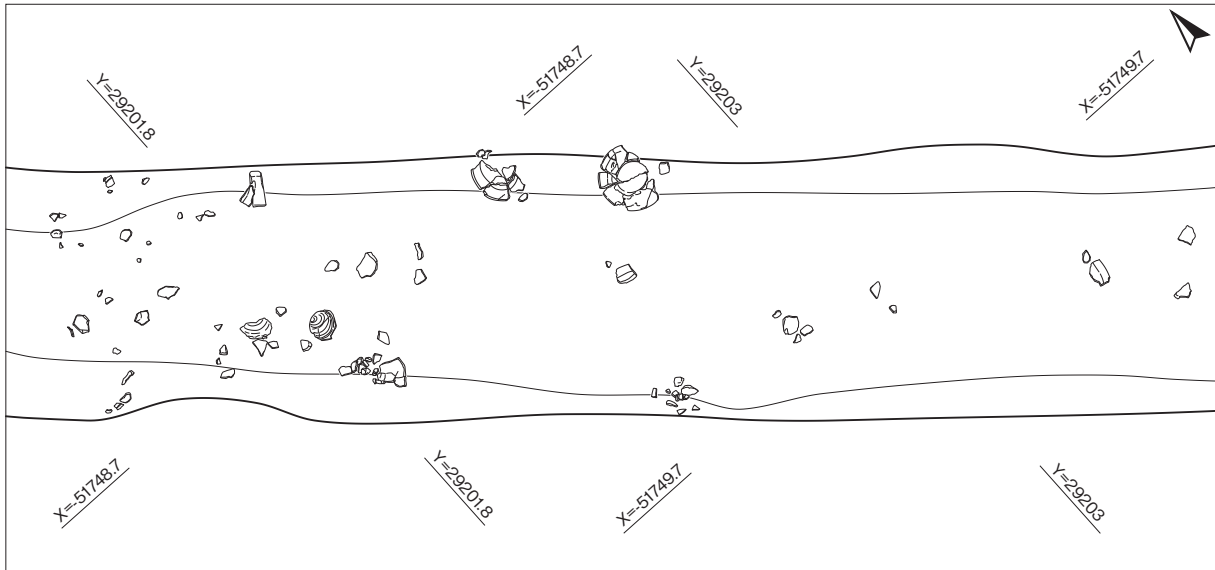
SD02 (1)



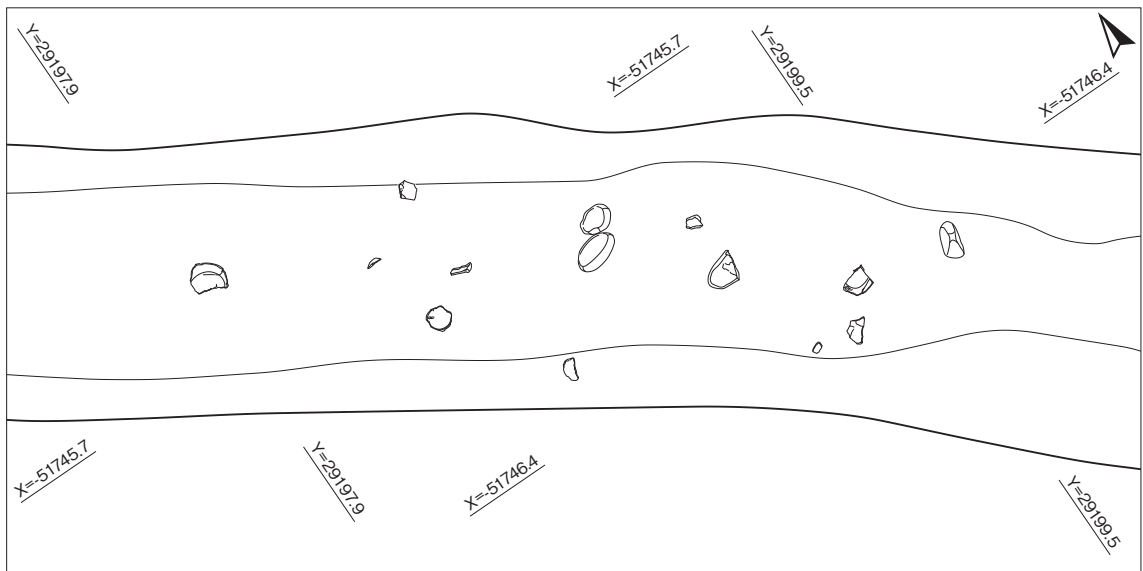
堆積土断面(a-a'・b-b'・c-c')
 1. 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック(φ10mm) 3%、黒色粘土ブロック(φ10~20mm) 1%

第48図 SD02 (1)

SD02 (2)



遺物出土状況 1



遺物出土状況 2



第 49 図 SD02 (2)

トと黄褐色シルトブロックが版築状に堆積している。遺物は、かわらけ 224.0 g、土師器 77.9 g、須恵器 18.0 g の計 319.9 g が出土している。そのうち 2 点を図示した (158・159)。

SK04 (第 1-50 図・写真図版 1-29)

調査区南側 VA17g グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。P021・338・346 と重複し、これらより古い。形状は不整形の楕円状で、規模は開口部径 1.55×1.02 m、底部径 1.3×0.59 m、深さ 0.3 m である。底面は平坦で、壁は垂直～外傾して立ち上がる。自然堆積で、灰黄褐色シルトが主体で黄褐色シルトブロックが微量含まれる。遺物は、かわらけ 25.9 g、土師器 1.6 g の計 27.5 g が出土している。いずれも小片のため図示していない。

SK06 (第 1-50 図・写真図版 1-29)

調査区南側 VA18g グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。P296 と重複するが、本遺構の方が古い。形状は不整形の楕円状で、規模は開口部径 0.74×0.67 m、底部径 0.54×0.3 m、深さ 0.56 m である。底面は不整形で、壁は外傾しながら立ち上がる。自然堆積で、灰黄褐色シルトが主体で黄褐色シルトブロックが微量含まれる。遺物は、土師器 13.2 g、かわらけ 9.9 g の計 23.1 g のみ出土している。いずれも小片のため図示していない。

SK11 (第 1-50 図・写真図版 1-29)

調査区南側 VA17f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。P134 と重複し、SK11 が古い。形状は円状で、規模は開口部径 0.66×0.54 m、底部径 0.52×0.43 m、深さ 0.44 m である。底面は平坦で、壁は垂直～外傾しながら立ち上がる。自然堆積で、黒褐色シルトが主体で黄褐色シルトブロックが上位に微量、中位に少量、下位に中量含まれる遺物は、かわらけ 26.2 g が出土するのみである。いずれも小片のため図示していない。

SK12 (第 1-50 図・写真図版 1-30)

調査区南側 VA16f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。重複する遺構は無い。形状は円状で、規模は開口部径 1.06×1.0 m・底部径 0.54×0.48 m・深さ 0.8 m である。底面は壁側から中央に窄まる形状で、壁は外傾しながら立ち上がる。自然堆積で、黒褐色シルトが主体で黄褐色シルトブロックが上位に微量、中位に少量、下位に中量含まれ、炭化物が上位～中位に微量含まれる。遺物は、土師器 87.5 g、かわらけ 142.8 g、陶磁器 37.0 g の計 267.3 g が出土している。このうち 1 点のみを図示した(162)。

SK13 (第 1-50 図・写真図版 1-30)

調査区南側 VA15f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。P328 と重複し、SK13 が古い。形状は円状で、規模は開口部径 0.9×0.74 m、底部径 0.68×0.57 m、深さ 0.6 m である。底面は平坦で、壁は垂直～外傾しながら立ち上がる。自然堆積で、上部～中位は黒褐色シルトが主体で黄褐色シルトブロックが微量含まれる。下位は、褐灰色シルト～黄褐色シルトが主体で明黄褐色シルトブロックと黒褐色シルトブロックが微量含まれる。遺物は、かわらけ 26.4 g のみが出土している。このうち 1 点のみを図示した(163)。

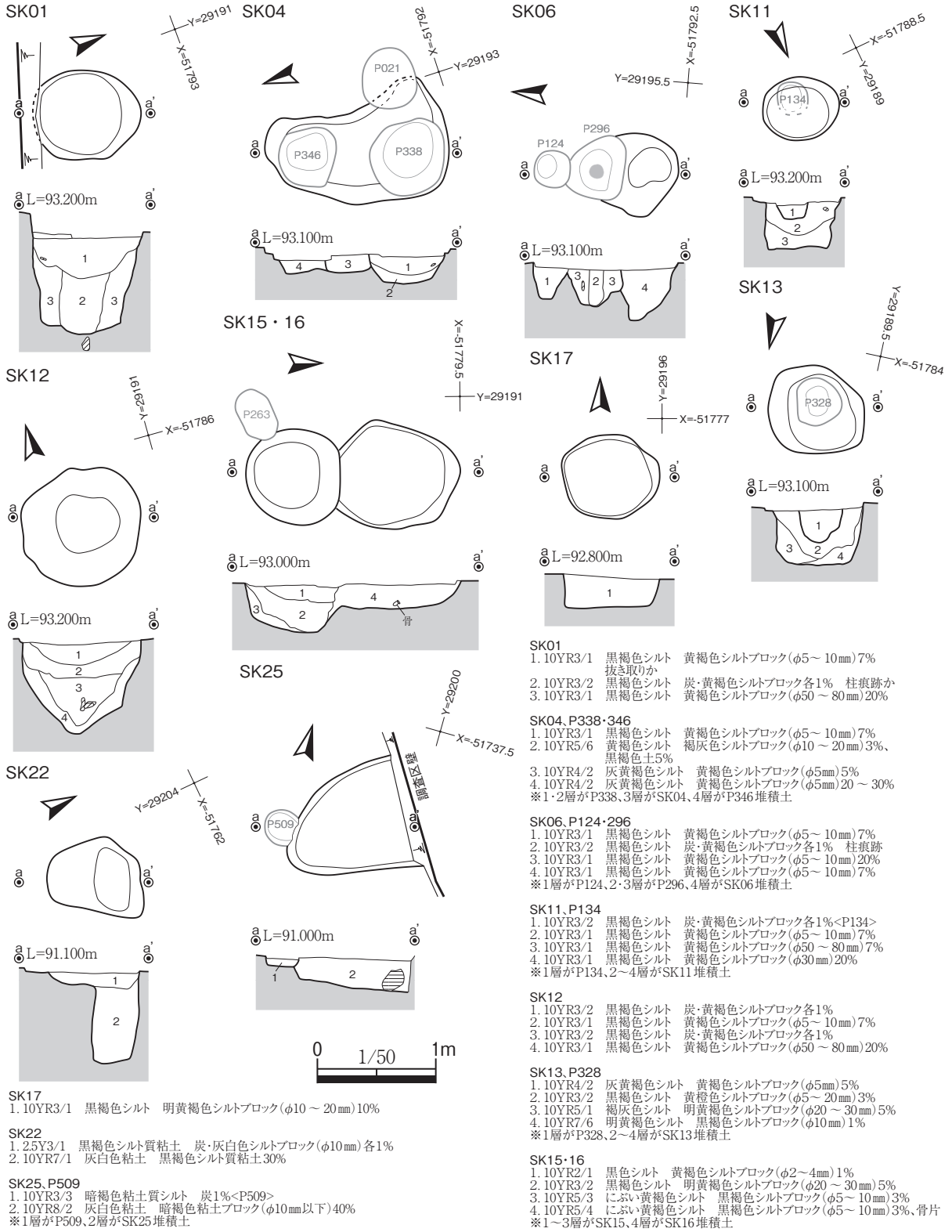
SK15 (第 1-50 図・写真図版 1-30)

調査区南側 VA15f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。SK16 と重複し、SK15 が新しい。形状は円状で、規模は開口部径 0.8×0.79 m、底部径 0.58×0.57 m、深さ 0.4 m である。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。自然堆積で、上部は黒色シルトで明黄褐色シルトブロックが微量含まれる。中位は、黒褐色シルトで明黄褐色シルトブロックが微量含まれる。下位は、にぶい黄褐色シルトで黒褐色シルトブロックが微量含まれる。遺物は、かわらけ 122.4 g、陶器 36.8 g の計 159.2 g が出土している。そのうち 3 点を図示した(164～166)。

SK16 (第 1-50 図・写真図版 1-30)

調査区南側 VA14～15f グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。SK15 と重複し、SK15 が新しい。形状は楕円状で、規模は開口部径 1.1×0.94 m、底部径 0.96×0.84 m、深さ 0.25 m である。底面は平坦で、

壁は外傾しながら立ち上がる。自然堆積で、にぶい黄褐色シルトで黒褐色シルトブロックが微量含まれる。遺物は、かわらけ 3.5 g、骨片 1.4 g の計 4.9 g が出土している。いずれも小片のため図示していない。



第50図 SK01・04・06・11~13・15~17・22・25

SK17 (第 1-50 図・写真図版 1-31)

調査区南側 VA14g グリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。重複する遺構は無い。形状は円状で、規模は開口部径 0.84×0.71 m、底部径 0.76×0.65 m、深さ 0.3 m である。底面は平坦で、壁は垂直～外傾しながら立ち上がる。自然堆積で、黒褐色シルトで明黄褐色シルトブロックが微量含まれる。遺物は、土師器 1.9 g、かわらけ 4.2 g の計 6.1 g のみが出土している。いずれも細片のため図示していない。

SK22 (第 1-50 図・写真図版 1-31)

調査区北側 VA10j グリッドに位置し、Ⅱ～Ⅲ層で検出した。重複する遺構は無い。形状は不整形な楕円状で、規模は開口部径 0.88×0.67 m、底部径 0.55×0.31 m、深さ 0.82 m である。底面は南側が浅く平坦で、北側は深く掘り込まれ、平坦である。壁は垂直～外傾しながら立ち上がる。自然堆積で、上位は黒褐色シルト質粘土で灰白色シルトブロックと炭化物が微量含まれる。遺物は、須恵器(1.8 g)、かわらけ 10.5 g、縄文土器 28.9 g の計 41.2 g が出土している。いずれも小片のため図示していない。

SK25 (第 1-50 図・写真図版 1-31)

調査区北側 VA4h・i グリッドに位置し、Ⅳ層で検出した。P509 と重複し、SK25 が古い。形状は楕円状で、調査区外に展開する。規模は開口部径(1.14)×0.86 m、底部径(0.95)×0.81 m、深さ 0.23 m である。底面は平坦で、壁は外傾しながら立ち上がる。自然堆積で、灰白色粘土で暗褐色粘土ブロックが中量含まれる。遺物は出土していない。(河村)

(6) 炉

いわゆるカマド状遺構であり、6 基検出した。形態は様々であるが、共通する点として細長い楕円形である平面形で、その上半分ほどが円形状あるいはドーム状に焼土が広がる形態である。中央は開口しているようであり、これを燃焼部と仮称する。その一端に細長い張り出しがあり煙道部、細長い楕円形の下半分は開口しており焚口部に、それぞれ仮称する。この遺構の用途・機能が不明のため、これらの名称が妥当か判断つかずさらに誤解を与える可能性もあるが、便宜上この名称を使用して記述する。遺構の向きは燃焼部がある方を上とした。

SL01 (第 1-51 図・写真図版 1-32)

調査区北側の VA9h グリッドに位置する。Ⅱ～Ⅲ層上面で検出を行った。上部は削平されている可能性があるため、本来の形態を表しているわけではない。重複する遺構は SL02 と SB24 であり、SL02 より新しく、SB24 より古い。

平面形は長い楕円形状で、煙道部が東方向(左上)にとりつく。全長は煙道部を除くと、長さ 2.22 m、幅が最大で 0.76 m である。焼土の範囲(燃焼部)は長軸 0.82 m、短軸 0.74 m の大きさで、深さは 0.3 m である。煙道との接合範囲が特に焼け締まっており固い。中央には焼土がなく開口している状態である。燃焼部の底面上に天井崩落土と考えられる固く焼け締まった焼土ブロックが詰まった状態であったため、この開口部は本来もっと狭いと想定される。天井崩落土下部には炭化物層が薄く広がっている。燃焼部の断面形は、焼けた粘土層が内傾しており、底面が広いフラスコ状である。焚き口部は長さ 1.4 m・幅 0.76 m である。底面の状況は、焚き口の底面から燃焼部底面まではゆるやかに下降しており、燃焼部底面の方が深い。堆積土のほとんどに対し水洗選別を行った。炭化種子には、イネ・オオムギ・コムギ・アワ・ヒエなどが検出された。また、炭化物の AMS 測定を行ったところ、暦年較

正年代は15世紀後葉～16世紀前葉であった（第Ⅳ章第4節（1）・（4）参照）。

遺物は、土師器16.1g、須恵器8.4g、石器1.0gのほか、炉壁あるいは焼土塊6,423.2gが出土している。いずれも細片のため図示したものはない。

SL02（第1-51図・写真図版1-32）

調査区北側のVA9hグリッドに位置する。Ⅱ～Ⅲ層上面で検出を行った。上部は削平されている可能性があるため、本来の形態を表しているわけではない。重複する遺構はSL01とSB24とであり、SL01より古く、またこれを介してSB24より古い。

平面形は長い楕円形状で、燃焼部と焼き口部の境界がややくびれる。明確な煙道部は削平されているが焼土の状況から、南東方向（左上）に付設されていた可能性がある。全長は煙道部を除くと、長さ1.8m・幅が最大で0.73mである。最大幅は燃焼部にある。焼土の範囲（燃焼部）は長軸0.8m、短軸0.65mの大きさで、平面形はいびつな円形である。深さは0.22mである。重複するSL01よりは焼土の発達が少ない。燃焼部の底面上には、顕著な焼土ブロックは確認できなかったが、最下層には炭化物がやや多く含む粘土層が堆積する。焼き口部は長さ1.12m、幅0.5mである。底面の状況は、焼き口底面から燃焼部底面まではゆるやかに下降しており、燃焼部底面の方がやや深い。

なおこの遺構についても堆積土のほとんどを水洗し、選別作業を行った。その結果、モモ・イネ・オオムギ・コムギ・アワ・ヒエなどの炭化種実や雑草類などが検出された。また、焼き口から出土した炭化物のAMS測定を行ったところ、暦年較正年代は15世紀末～16世紀前葉であった（第Ⅳ章第4節（1）・（4）参照）。

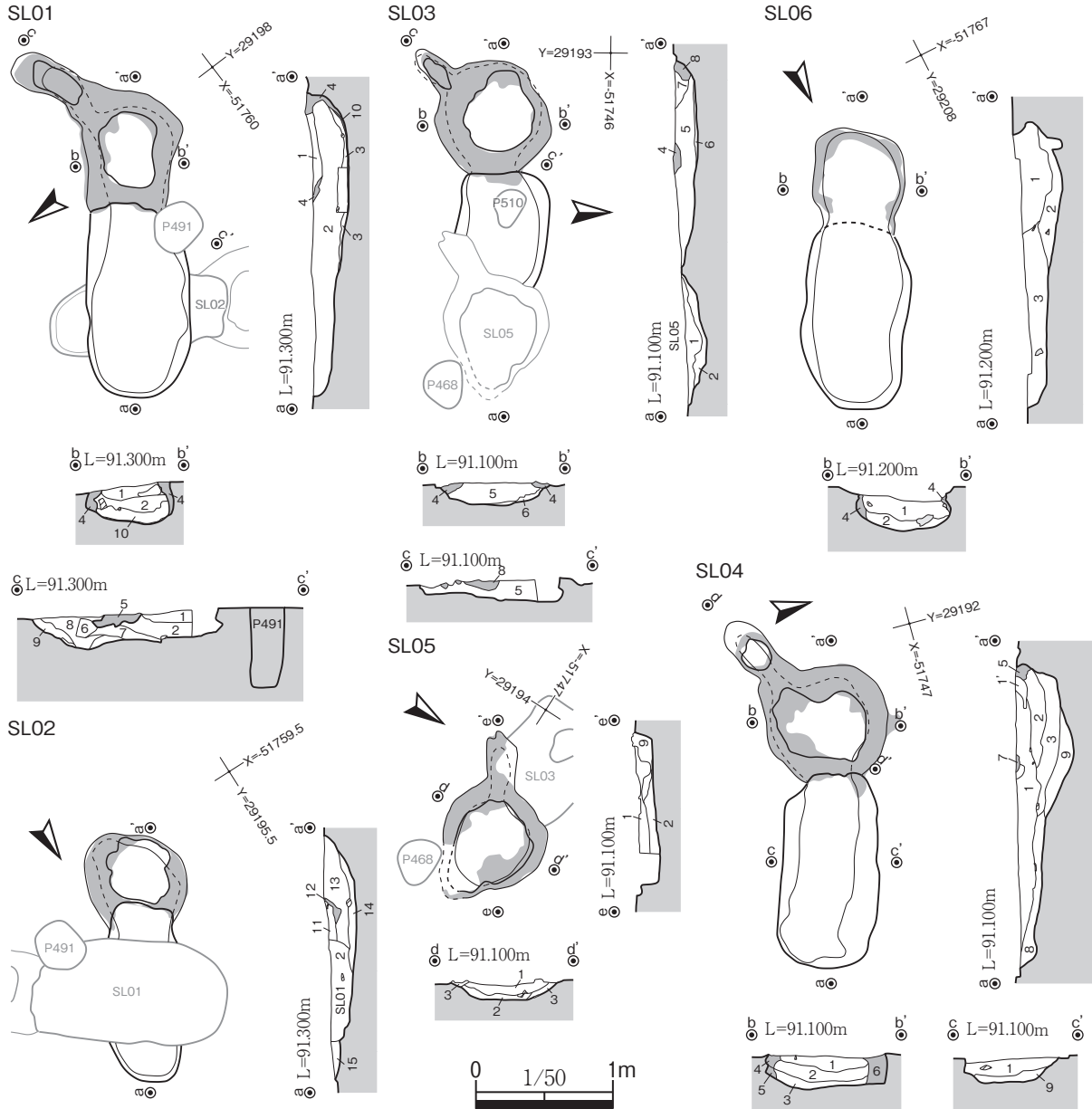
遺物は、土師器3.4g、かわらけ1.3g、炉壁あるいは焼土塊177.8gが出土している。いずれも細片のため図示していない。

SL03（第1-51図・写真図版1-33）

調査区北側のVA6gグリッドに位置する。Ⅱ～Ⅲ層上面で検出を行った。上部は削平されている可能性があるため、本来の形態を表しているわけではない。重複する遺構はSL05、SB18・28とあり、直接切り合うSL05とSB28の方が新しく、本遺構の方が古い。なお、SB18とは新旧関係は不明である。

平面形は長い楕円形状で、燃焼部と焼き口部の境界がくびれる。焼き口の半分は重複するSL05によって壊されている。煙道部は燃焼部の左上（南西方向）に取り付く。全長は煙道部を除き、残存で長さ1.55m、幅が最大で0.85mである。最大幅は燃焼部にある。焼土の範囲（燃焼部）は径0.85mのほぼ円形で、深さは0.16mである。燃焼部と煙道部の接合箇所が特に焼土が固く、焼け締まった状態である。燃焼部の底面上には、顕著ではないが炭化物層が堆積する。燃焼部の断面形は、フラスコ状である。内傾する壁はあまり被熱していない。煙道部は、長さは燃焼部との境から0.3m程度であり、中央が崩落により陥没している。本来はトンネル状と想定される。焼き口部の残存長は0.72m、幅0.65mである。底面の状況は、焼き口底面から燃焼部底面まではゆるやかに下降しており、燃焼部底面の方がやや深い。堆積土のほとんどを水洗し、炭化種子等の採取を行った。その結果、イネ・オオムギ・コムギ・アワ・ヒエなどの炭化種子が検出された。また、焼き口から出土した炭化物のAMS測定を行ったところ、暦年較正年代は15世紀後葉であった（第Ⅳ章第4節（1）・（4）参照）。

遺物は、かわらけ0.6g、炉壁あるいは焼土塊255.5gの計256.1gが出土しているが、いずれも図示したものはない。



- SL01-02**
1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 炭1%、橙色焼土(φ5mm)含む
 2. 2.5Y3/2 黒褐色粘土 炭1%、黒褐色粘土ブロック(φ10mm)3%、青灰色粘土ブロック(φ10mm)5%
 3. 2.5Y2/1 黒色シルト 浅黄橙色15% 炭化物の集積層で炉壁状の固まり
 4. 10YR8/4 浅黄橙色粘土 橙色焼土ブロック(φ5mm)3% 炉壁
 5. 10YR8/4 浅黄橙色粘土 橙色焼土ブロック(φ5mm)10% 天井
 6. 10YR7/4 におい黄橙色粘土 5層の崩落、強く締まる 天井崩落土
 7. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭10%、黄橙色ブロック(φ2mm)7% 煙道堆積土
 8. 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 焼土ブロック(φ5mm)3%
 9. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト 橙色焼土ブロック3%、灰白色シルトブロック(φ20mm)10%、強く焼け締まる 煙道内側構築土
 10. 炭化物層 集積している
 11. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 橙色焼土ブロック(φ5mm以下)1%
 12. 5YR7/8 橙色シルト 灰黄褐色シルトブロック(φ5mm)1% 焼土の塊
 13. 2.5Y4/1 黄灰色粘土 黒色粘土ブロック(φ10mm)5%、灰白色粘土ブロック(φ10mm)3%
 14. 10YR3/1 黒褐色粘土 炭10%、灰白色粘土ブロック(φ50mm)1%
 15. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土 灰白色粘土ブロック(φ50mm)1%
- *1~10層がSL01、11~15層がSL02

- SL03-05**
1. 7.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト 橙色シルトブロック(φ10~20mm)3%
 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 橙色シルトブロック(φ30~50mm)10%
 3. 7.5YR4/2 灰褐色シルト 橙色シルトブロック(φ20mm)10% 炉壁体
 4. 10YR3/2 黒褐色シルトと5YR7/8 橙色シルトの混合土 炭1% 炉壁体
 5. 7.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 炭・焼土ブロック(φ5mm)各1%
 6. 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト 橙色焼土ブロック(φ5mm)3%
 7. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 橙色焼土ブロック(φ10~20mm)10% 天井崩落土
 8. 7.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト 橙色焼土ブロック(φ20~50mm)20%
 9. 5YR7/8 褐色シルト 橙色焼土ブロック(φ10mm)に黒褐色シルトブロック(φ5mm)10% 天井崩落土
- *1~3-9層がSL05、4~8層がSL03

- SL04**
1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト 炭・橙色焼土ブロック(φ5mm)各1%、褐灰色粘土ブロック(φ10mm)5%
 - 1'. 1層に5YR7/8 橙色粘土ブロック(φ30~50mm)20%
 2. 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 橙色焼土ブロック(φ10~50mm)20%
 3. 2.5Y3/2 黒褐色粘土 浅黄橙色シルトブロック(φ10mm、固く締まる)10% 4層崩落土
 4. 10YR8/4 浅黄橙色シルト 固く焼け締まる 炉体崩落土
 5. 10YR8/4 浅黄橙色粘土 焼土ブロックが混じる粘土で固められた炉体(壁) 焼け締まっており固い
 6. 10YR8/4 浅黄橙色粘土 5層とほぼ同じであるが、内側に橙色焼土10% 焼土
 7. 5YR7/8 褐色シルト 固く締まるが、5層より弱い 焼土
 8. 10YR3/2 黒褐色粘土 褐灰色粘土ブロック(φ5mm)1%
 9. 7.5Y3/1 黒褐色粘土 灰黄褐色粘土ブロック(φ20mm)2%
 10. 10YR4/1 褐灰色シルト 浅黄橙色シルトブロック(φ100mm)40% 天井崩落土
 11. 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 褐灰色シルトブロック(φ5mm)2%

- SL06**
1. 7.5YR3/3 暗褐色シルト 橙色焼土・灰白色粘土ブロック(φ5mm)各1%、黒褐色粘土ブロック(φ10mm)3%
 2. 7.5YR2/1 黒色粘土質シルト 橙色焼土ブロック(φ10~30mm)20%、浅黄褐色シルトブロック(φ30~50mm)10% 天井崩落土
 3. 7.5YR3/1 黒褐色粘土質シルト 炭1%、黒褐色粘土ブロック(φ10mm以下)・灰白色粘土ブロック(φ10mm)各10%
 4. 10YR8/4 浅黄橙色粘土 橙色焼土ブロック1% 固く締まる 炉壁

第51図 SL01~06

SL04 (第1-51図・写真図版1-34)

調査区北側のVA6~7gグリッドに位置する焼土遺構である。Ⅱ～Ⅲ層上面で検出を行った。上部と焚き口部は削平されている可能性があるため、本来の形態を表しているわけではない。重複は、SB18・28とで確認されるが、直接切り合い関係がないため、新旧関係は不明である。

平面形は長い楕円形状で、燃焼部と焚き口部の境界がくびれる。煙道部は燃焼部の左上(西方向)取り付く。全長は、煙道部を除き、長さ2.2m、幅が最大で0.9mである。最大幅は燃焼部にある。焼土の範囲(燃焼部)は長径0.9m、短径0.8mのほぼ円形であり、深さは0.4mと深い。燃焼部と煙道部の接合箇所が特に焼土が固く、焼け締まった状態である。中央は焼土が広がらず、開口している。燃焼部の底面上には、径1cm程度の焼け締まった粘土塊状の焼土(炉壁)が多量に詰まっており、これは天井が崩落したものと想定できるため、本来の開口部はさらに狭いと考えられる。燃焼部の断面形は、南側がよく内傾するが、フラスコ状にはならない。壁面は強く被熱し、粘土で構築しているようである。煙道部の長さは、燃焼部との境から0.5m程度であり、中央が崩落により陥没している。本来はトンネル状でていると想定される。焚き口部の長さは1.4m・幅0.7mである。底面の状況は、焚き口底面から燃焼部底面まではゆるやかに下降する。燃焼部の底面は一段と深い。堆積土のほとんどを水洗し、炭化種子等の採取を行った。その結果、イネ・オオムギ・コムギ・アワ・ヒエなどの炭化種子が検出された。また、焚き口から出土した炭化物のAMS測定を行ったところ、暦年較正年代は16世紀中葉～16世紀末頃であった(第Ⅳ章第4節(1)・(4)参照)。

遺物は、土師器7.0g、須恵器4.7g、かわらけ1.8g、縄文土器1.3g、炉壁あるいは焼土塊13,985.8gの計14,000.6gが出土しているが、いずれも細片のため図示していない。

SL05 (第1-51図・写真図版1-33)

調査区北側のVA6gグリッドに位置する。Ⅱ～Ⅲ層上面で検出を行った。上部は削平されている可能性があるため、本来の形態を表しているわけではない。重複する遺構はSL03、SB18・28であり、SL03より新しいが、その他の遺構との新旧関係不明である。

焚き口部の全てが削平されており残存していない。燃焼部と煙道部のみの検出となる。燃焼部の煙道部は燃焼部の左上(南西方向)取り付く。燃焼部の平面形はほぼ円形で、長径0.9m、短径0.8mで、深さは0.15mである。燃焼部と煙道部の接合箇所が特に焼土が固く、焼け締まった状態である。燃焼部の底面上には、顕著な炭化物層はない。燃焼部の断面形は、削平されているためか、浅い皿状である。内傾する壁にはあまり比熱していない。煙道部は、燃焼部との境からの長さは0.34m程度である。天井崩落土の焼土塊が目立つが、本来はトンネル状でていると想定される。

堆積土のほとんどを水洗し、炭化種子等の採取をおこなった。その結果、イネ・オオムギ・コムギ・アワ・ヒエなどの炭化種子が検出された。また、焚き口から出土した炭化物のAMS測定を行ったところ、暦年較正年代は16世紀中葉～17世紀初頭であった(第Ⅳ章第4節(1)・(4)参照)。

遺物は、土師器2.1g、かわらけ14.6g、石器3.9g、炉壁あるいは焼土塊835.1gの計855.7gが出土している。いずれも細片のため図示していない。

SL06 (第1-51図・写真図版1-34)

調査区北側のVA11kグリッドに位置する。Ⅱ～Ⅲ層上面で検出を行った。上部は削平されている可能性があるため、本来の形態を表しているわけではない。他遺構との重複は確認できない。検出時には、他の焼土遺構を検出している面では焼土が確認できなかったが、掘り下げることによって焼土

の広がりが確認できたものである。そのためもしかすると、他の焼土遺構よりも生活面が深い可能性がある。

平面形は長い楕円形状で、燃焼部と焚き口部の境界がくびれる。煙道部は確認できなかった。全長は、煙道部を除き、長さ 2.03 m、幅が最大で 0.78 m である。最大幅は焚き口部にある。焼土の範囲(燃焼部)は長径 0.67 m、短径 0.66 m のほぼ円形であり、確認面からの深さは 0.3 m と深い。焼土はあまり強く焼け締まった箇所はない。中央は焼土が広がらず、開口している。燃焼部の底面上(2層)には、径 1 cm 程度の焼け締まった粘土塊状の焼土(炉壁)が多量に詰まっており、これは天井が崩落したものと想定できるため、本来の開口部はさらに狭いと考えられる。燃焼部の断面形は、西側がよく内傾するが、フラスコ状に近い形態である。壁面は強く被熱し、粘土で構築されている。焚き口部の長さは 1.36 m・幅 0.78 m である。底面の状況は、焚き口底面から燃焼部底面まではゆるやかに下降する。堆積土のほとんどを水洗し、炭化種子等の採取をおこなった。その結果、イネ・オオムギ・コムギ・アワ・ヒエなどの炭化種子が検出され、特にオオムギの検出数が突出して多い傾向にある。また、焚き口から出土した炭化物の AMS 測定を行ったところ、暦年較正年代は 15 世紀中葉頃であった(第Ⅳ章第 4 節(1)・(4)参照)。

遺物は、かわらけ 0.6 g、縄文土器 1.9 g、炭化物 0.1 g、炉壁あるいは焼土塊 9,009.0 g が出土しているが、図示したものはない。(西澤)

3 出土遺物

出土遺物は、合計 68,380.0 g 出土している(第 1-3 表)。内訳は、かわらけ 20,626.4 g、陶磁器類 3,731.3 g、土師器・須恵器 5,562.1 g、縄文土器 2,826.0 g、不明土器類 175.3 g、石器 1813.6 g、金属製品 1,236.2 g、粘土塊・炉壁・羽口など 32,409.1 g の合計 68,380.0 g である。以下では、図化した出土遺物について遺構ごとに記載する(第 1-5~8 表)。

(1) 掘立柱建物

SB01 出土遺物(第 1-52 図・写真図版 1-35)

P016・021・033・071・107・111・116・153・162・180・296・308、SK09・10 の各柱穴から、合計 213.5 g の土器・陶器が出土している。そのうち 87% をかわらけが占めるが、いずれも細片のため図化できなかった。図示したのは陶器 2 点のみである。1 は常滑窯産壺類の口縁部片、2 は渥美窯産甕の胴部片でいずれも細片である。

SB08 出土遺物(第 1-52 図・写真図版 1-35)

P066・073・081 からかわらけ(57.9 g)が、P085・341 から土師器片(31.6 g)が、P051 から明染付皿(75.0 g)と古銭(3.3 g)が出土している。このうち、明染付皿 1 点と古銭 1 点のみを図示している。3 は明の染付皿で、完形ではないが図上で復元できる。見込み(内底面)には、玉取獅子の文様が呉須で描かれており、小野編年 B 群Ⅶ類と考えられる。4 は洪武通宝である。本遺構の帰属時期は、明染付皿の年代観から 15 世紀後葉から 16 世紀前半頃の年代が与えられる。

SB09 出土遺物(第 1-52 図・写真図版 1-35)

P006・015・026・117・158 から計 141.7 g が出土している。内訳はかわらけ(130.1 g)、土師器(7.3 g)、

不明土器類 (4.3 g) である。そのうち、かわらけ 2 点を図化した。5 は、ロクロかわらけ小皿で、P158 から出土している。161 は轆轤かわらけ大皿で、SK08 から出土している。底部を欠損しているが、胴部下半の形状から底部が突出する器形と考えられる。

SB11 出土遺物 (第 1-52 図・写真図版 1-35)

P010・P128・P143 から合計 38.8 g が出土している。P010 から土師器片 (3.0 g) が、P128 からかわらけ (21.3 g) と器形の判別不明な土器細片 (1.9 g) が、P143 から縄文土器 (12.6 g) が出土している。このうちかわらけ小皿 1 点を図示した。6 は轆轤かわらけ小皿で、P128 から出土している。

SB14 出土遺物 (第 1-52 図・写真図版 1-35)

SK02・05 から計 69.3 g が出土している。内訳は、かわらけ (37.1 g)、土師器 (31.4 g)、縄文土器 (0.8 g) である。このうちかわらけ 1 点を図示した。160 は轆轤かわらけの大皿の破片である。口径 19.5cm に復元される。底部は欠損しているが、わずかに突出する可能性がある。

SB16 出土遺物 (第 1-52 図・写真図版 1-35)

P032 からかわらけ (9.4 g)、P114・280 から土師器 (20.1 g)、P295 から縄文土器 (3.9 g) が出土している (計 33.4 g)。これらのうち 1 点を図示した。7 は、土師器坏の底部破片である。全体的に摩滅するが、底部には、ヘラケズリによる再調整痕が残存する。

SB24 出土遺物 (第 1-52 図・写真図版 1-35)

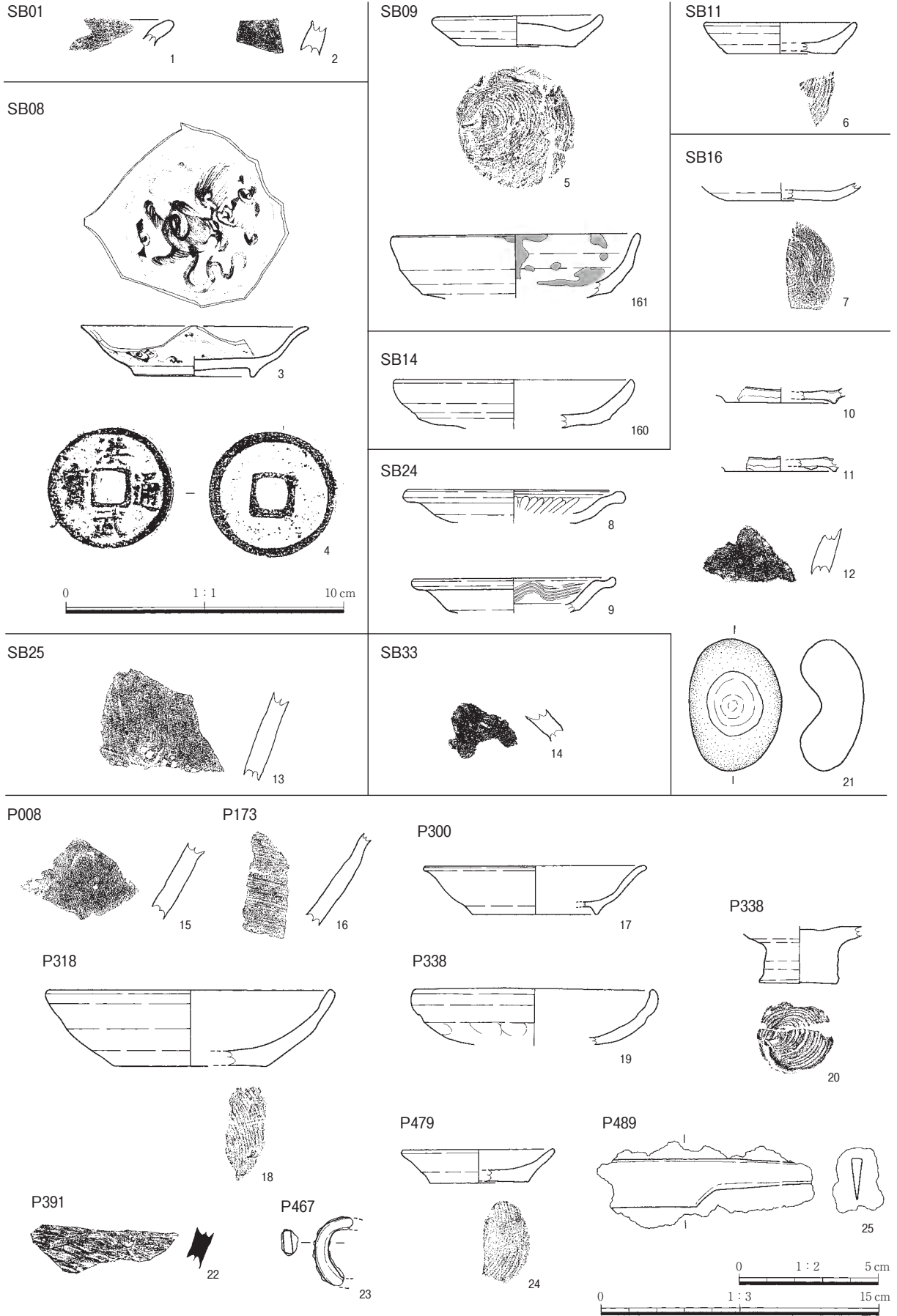
計 227.3 g が出土している。P376・381・388・504 からかわらけ (19.8 g)、P357 から常滑甕 (13.9 g)、P491 から土師器 (5.3 g)、P381・388 から陶器皿類 5 点 (38.8 g)、P372・375・379・389・393 から判別不明な土器片 (31.0 g)、P381 から粘土塊 (炉壁) が合計 227.3 g 出土している。このうち大窯期の皿類 (8・9・10・11) と常滑窯産の甕片 (12) の計 5 点、石器 1 点 (21) を図示した。8・9 は、瀬戸・美濃産の折縁皿である。前者には、棒状工具により花卉状に掻き取りが、後者には、クシ状工具による波状文が施されている。いずれも薄い黄色味のある緑色を呈する灰釉が掛けられている。10 は瀬戸・美濃産の内禿皿である。内底面 (見込み) を釉剥ぎし、わずかに突型を呈する。これらの瀬戸・美濃産の皿類はいずれも藤澤編年の大窯 3～4 段階に位置づけられる。12 は、常滑窯産の甕の胴部片である。21 は、凹み石である。ほぼ中央が大きく陥没している。P375 からの出土である。出土遺物は多種に及ぶが、建物方位とあわせて考えると、最も新しい年代を示す 16 世紀前後がこの建物の時期と考えられる。

SB25 出土遺物 (第 1-52 図・写真図版 1-36)

P452 から常滑窯産の甕片 (48.3 g) が 1 点のみ出土しており、図示している。13 は、渥美窯産甕の胴部片で、押印の一部が確認できる。

SB33 出土遺物 (第 1-52 図・写真図版 1-36)

P314 から陶器甕片 (13.7 g) と P263・328 から判別不明な土器細片 (18.1 g) が計 31.9 g 出土している。このうち甕 1 点を図示した。14 は、常滑窯産と考えられる甕の胴部片であるが細片のため詳細は不明である。



第 52 図 掘立柱建物・柱穴出土遺物

(2) 柱 穴 (第1-52図、写真図版1-36、第1-3・4表)

掘立柱建物として復元できなかった柱穴から出土した遺物は、合計1,083.9gである。このうち10点を図示した。15は渥美窯産甕の胴部片、16は常滑窯産鉢類の胴部片である。前者はP008、後者はP173からの出土である。いずれも細片のため詳細は不明であるが、他の遺物からみて12世紀代に位置づけられる可能性がある。17は中国産の白磁皿で、P300から出土している。18・19・20・24はかわらけ類である。18は轆轤かわらけの大皿で、底部があまり突出しない形態をもつ。19は手づくねかわらけ大皿で、器表には指頭圧痕が明瞭に残る。20は器台（いわゆる柱状高台）である。高台部のみであり、中実の造りである。24は轆轤かわらけの小皿で、P479からの出土である。22は須恵器甕の胴部片である。外面には平行文のタタキ痕が、内面にも平行文の当て具痕が残る。23は鉄製の縁金具片である。輪状に成形された金具で、柄や刀身を締め付ける金具と考えられる。25は刀子片である。銹化が激しく、残存する刀身部が見えないが、関を前後する部分と想定される。

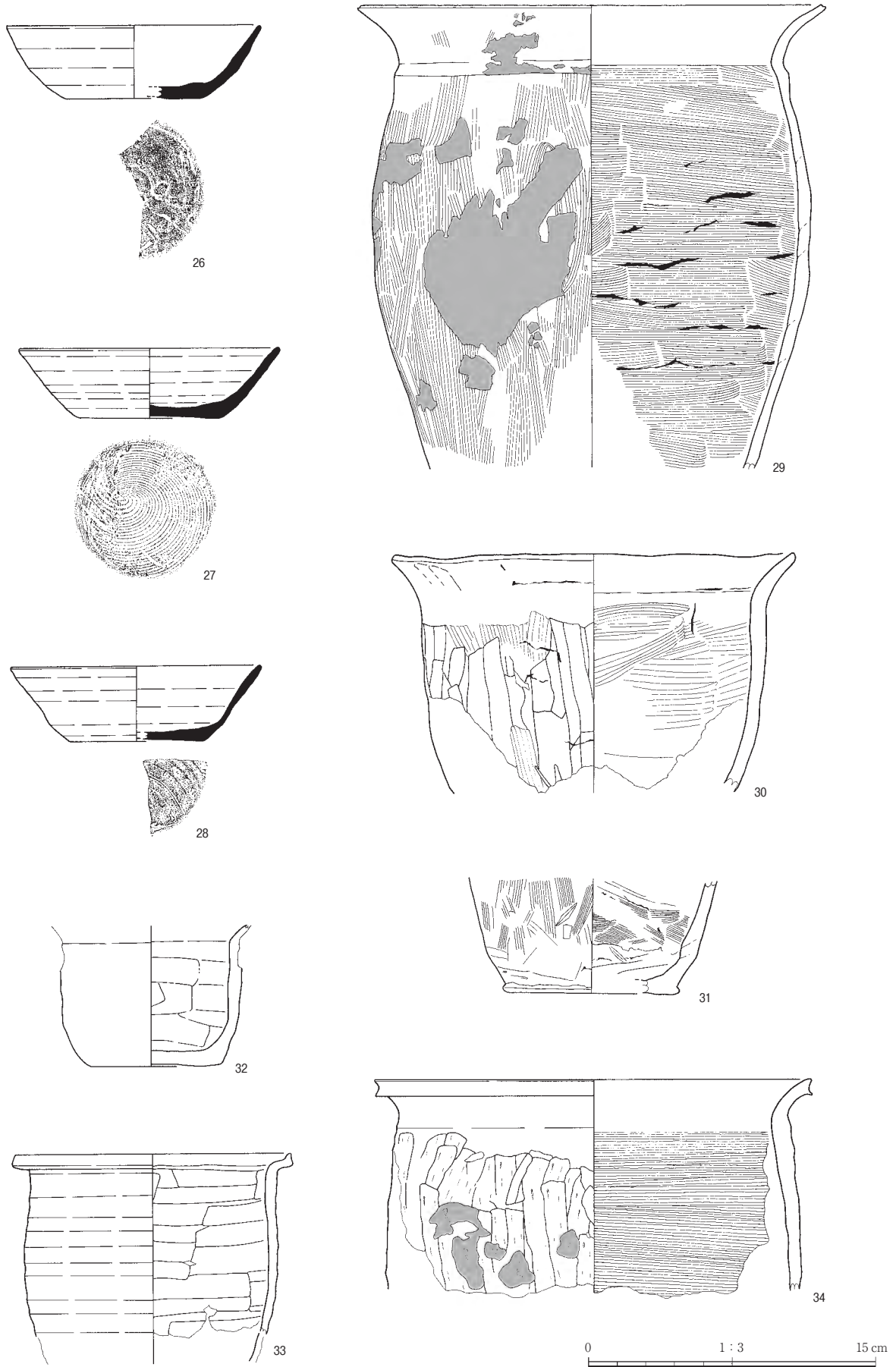
(3) 豎 穴 建 物

SI01 出土遺物 (第1-53・54図・写真図版1-37・38)

合計3,519.7g出土している。図示したのは土師器・須恵器13点、鉄製品4点、磁器1点である。26・27・28は須恵器坏である。口径はいずれも13~13.5cm前後と共通し、形態は26以外が直線的に外傾する胴部をもつ。26はやや内彎する胴部である。底部に残る切り離し技法の痕跡が特徴で、27は回転糸切り痕、26がヘラ切り痕、28が静止糸切り痕である。形態や底部切り離し技法からみると、古い傾向が認められる。29~38は土師器甕である。29・30・31は非轆轤調整、32・33・34・35・36・37・38は轆轤調整の甕である。口径からみると、25cm以上の大型、20cm前後の中型、15cm前後の小型の3種に大別できる。29は底部を欠損しているが、口径24cm、器高24cm以上の大型甕である。外面調整は縦位のハケメ、内面は横位のハケメ調整が施される。頸部には段差が認められ、口縁部は強く外反する。胴部中位付近に最大径をもつ。30は口径20.6cmで、29よりも小さい中型の甕である。口縁部の形態は、29よりも弱く外反する。頸部の段差も不明瞭である。外面調整も類似するが、一部工具がヘラナデ状に浅く（弱く）施されている。31は小型~中型甕の底部片である。内底面は、やや平坦気味である。32は小型の甕で、カマド燃焼部から出土している。倒位で検出したことや、内外面とも二次焼成を受けて著しく摩滅していることから、支脚として転用されていたと考えられる。また、非轆轤調整と判断したが異なるかもしれない。34は轆轤調整の甕である。口径27cmと大型の甕である。口縁部の形態は、端部の上下に肥厚させて面を形成するもので、口縁部を折り返したように見える。外面調整は、轆轤調整後縦位のヘラズリが隙間なく施されている。33・35・36・37・38は、小型の轆轤調整の甕である。口縁部を欠損するものもあるが、おおむね口径14~15cm前後であろう。

39は小札で、2行の孔が穿たれている。42は刀子の茎、40は鉄釘である。41は、現状では正方形を呈する金具とする。中央には径0.4cmの孔が穿たれている。43は、肥前産の染付皿である。堆積土上位から出土しており混入と考えられるが、今回の調査では珍しい近世の遺物である。

本遺構の帰属年代はこれら出土遺物のうち、須恵器の特徴を重視して、8世紀後葉から9世紀前葉の年代を想定した。



第 53 図 SI01 出土遺物 (1)

(4) 溝

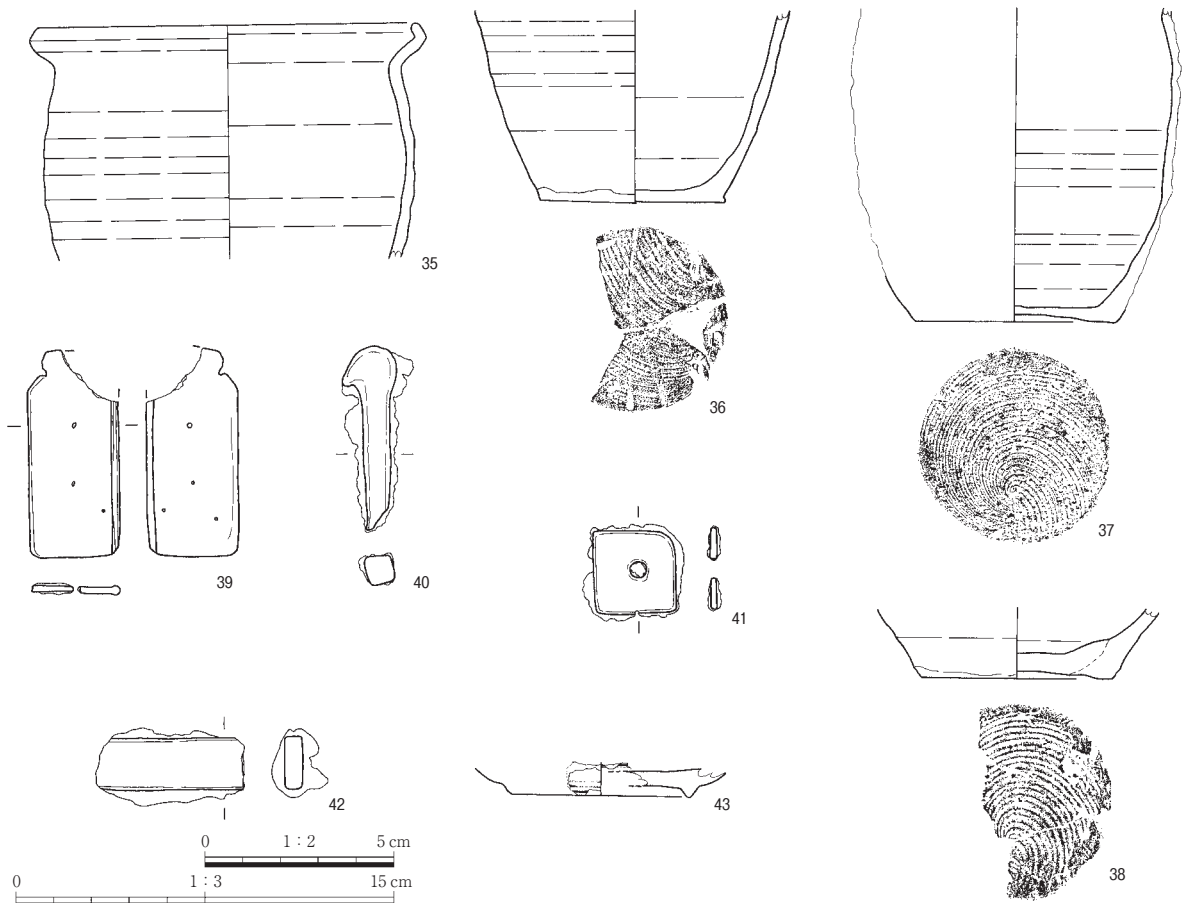
SD01 出土遺物 (第 1-55~59 図・写真図版 1-39~44)

合計 16,945.1 g 出土している。かわらけ・陶磁器類を中心に 94 点を図示した。

44~67 は、轆轤かわらけ小皿の 24 点である。各層から出土しているが、図示したものの中では、最下層からの出土が最も多い。口径は 8~9 cm 代の幅に収まりそうである。形態的には大差ないが、器高が 1.5cm 前後の低いものと 2cm 前のものに 2 分でき、器形的にもやや異なる。44・47・53・55・57 が前者で、それ以外が後者である。底部の切り離しは全て糸切りである。60 などスノコ痕が残るものもある。また、60 には外面に煤が付着している。

68~70 は、手づくねかわらけの小皿である。口径は 8cm 前後、10cm 前後に分かれる可能性があるが点数が少ないため判断がつかない。いずれも口縁部をヨコナデ調整するもので、体部には成形時の指押さえ痕がわずかに残る。

71~86 までが、轆轤かわらけ碗形と大皿である。碗形と大皿は主に器形的な差であるため小皿に対する大きいかわらけという意味で使用する。SD01 から出土したこれら大きい轆轤かわらけは、図示した中では、そのほとんどが底部を突出させた碗(坏)形を呈する形態である。底部が突出しない皿形は 51・86 の 2 点程度である。このように古相を示すかわらけが含まれていたことから、小さい破片でも極力図化を試みた。そのため法量は復元値が多く、全容がわかる個体も少ない。器高は、全容がわかる 81 や 83 をみると、4.5cm 前後と 4cm 前後に分けられそうである。前者は碗形の器形に多いが、後者の値は皿形や皿形に近い器形に多い。口径は、13cm 前後のものが多い傾向にあるが、復元できる例が少ない。86 の口縁端部には油煙の痕跡が残っており、また体部は二次的に強く火を受



第 54 図 SI01 出土遺物 (2)

けたためか、白化している部分がある。

87～89は手づくねかわらけの大皿である。図示したのは3点であるが、全体でも少ない量である。器形は、いずれも低い皿形を呈し、口径は14～15cm前後である。87は、胎土も精良で、白く発色しており、88・89とは胎土・焼成が異なっている。調整は、底部から胴部下半には指押さえ痕(指頭痕)が残り、口縁部にはヨコナデが施される。88と89では2段に渡ってヨコナデが施されている。

90・92は小型の器台である。いわゆる柱状高台であり、中実の高台である。口縁部が欠損しており、全形は不明である。底部には切り離しの糸切り痕が残る。底径は5cmと共通する。

91は小型の碗と考えられる。口縁部が欠損しているため、全形は不明である。あるいは別の器種かもしれない。胎土は精良で白く発色し、かわらけの一部に似ている。小皿の胴部を大きく積み上げて成形したようである。あまり出土例のない器形といえる。

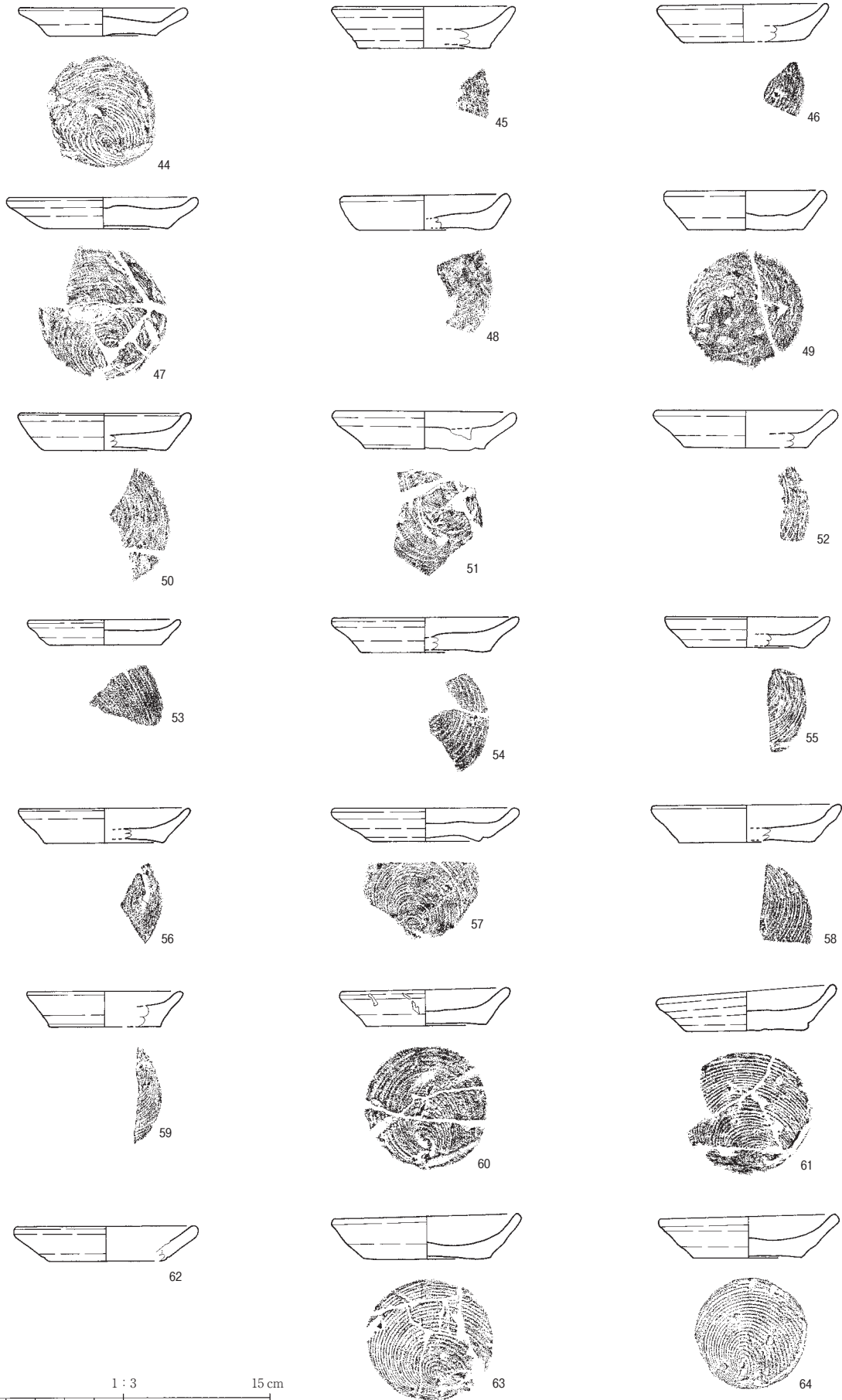
93～102は常滑窯産甕の胴部破片である。10点の出土である。これら陶器類は出土数が希少であるため細片でも全点図示している。いずれも破片のため詳細は不明であるが、押印の位置やかわらけと共伴することから12世紀代の型式と想定される。103～105・107の4点は、常滑窯産の鉢類である。103は底部片で、体部下半には横位のヘラケズリが施される。104・105・107は体部下半の破片であり、内面には、摩滅度には差異があるが、いずれも使用による摩滅が認められる。106は、常滑窯産広口壺の口縁部片である。内外面に自然釉(灰釉)がかかる。胴部以下は欠損している。復元口径は22.8cmである。108～111の4点は渥美窯産甕の胴部片で、いずれも全容は知れない。112は底部片である。底面には砂底の痕跡が残る。113は水沼産の甕である。1点のみで、破片でもあり産地は不明確である。断面が赤褐色に発色している。器表には押印の痕跡が残る。114は、中国産白磁壺類の胴部片である。小破片であるが、胴部径の比較的大きな壺類の可能性はある。釉調や器表にのこる小さな凹みなどから大宰府分類のⅡ類に相当しよう。115は、大堀相馬産壺類の口縁部片と考えられる。小破片のため全容は知れないが、釉調から大堀相馬と判断した。壺類の出土は例数が少ないため位置づけに困るが、この陶器は混入と考えられる。

116～123の8点が土師器坏である。116・117・119は内面に黒色処理が施されるが、残り5点は非内黒の坏である。器形はいずれも体部が緩やかに内彎する碗形を呈する。口径は、復元のものが多く正確ではないが13cm前後、15cm前後の2者がある。器高はいずれも5cm程度である。124～127の4点は須恵器甕の胴部片である。そのほか図示していない破片も多数ある。外面にタタキ痕、内面に当て具痕が残る。

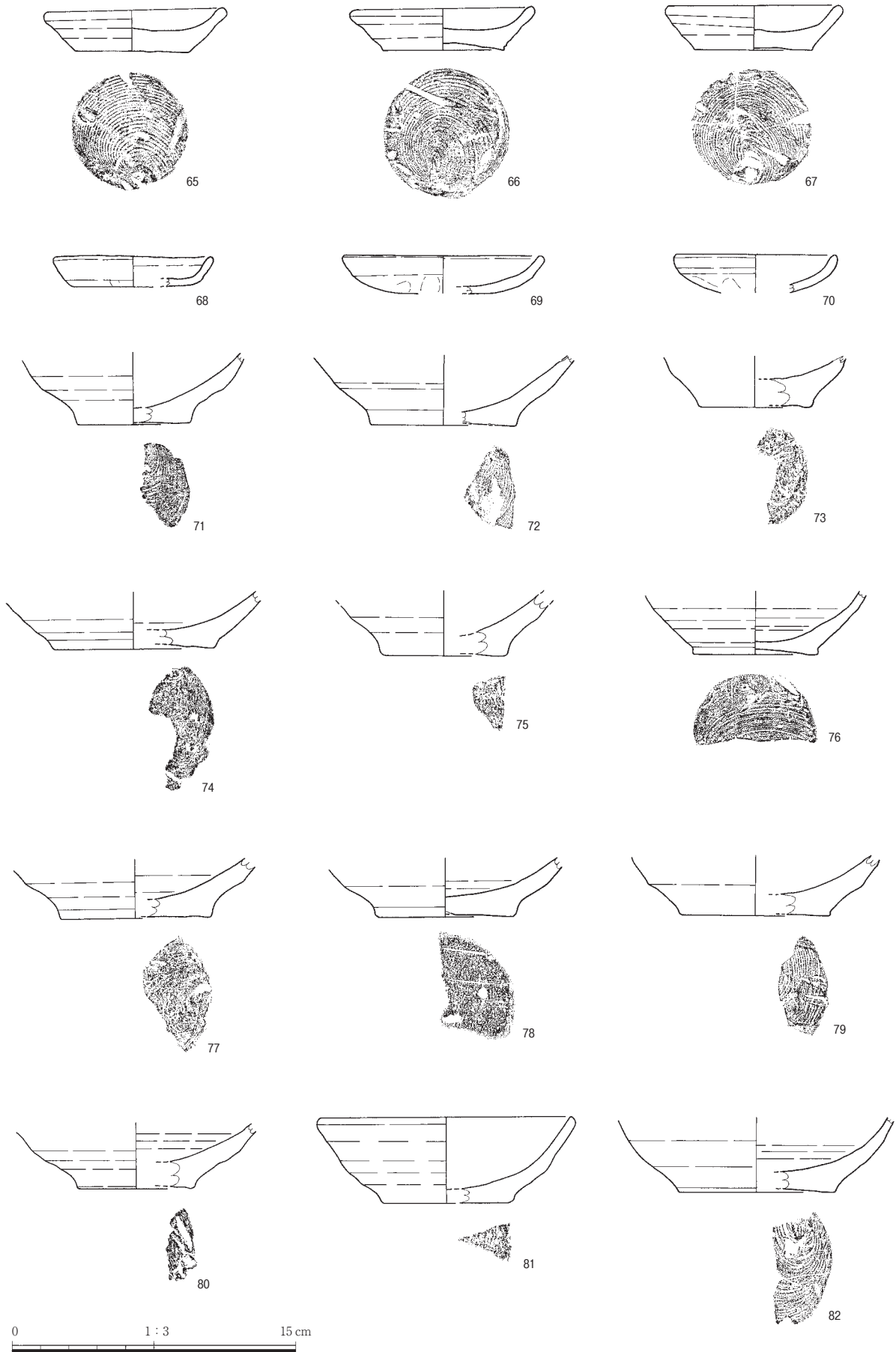
128は、鉄製羽釜(湯窯)の鏝部片と考えられる。復元した径が58cmと大型品と推定されるため、出土した破片はほんのわずかな部品となる。そのため鏝と想定したが別物になる可能性がある。一端が完存していることから傾斜が推定できる。形状はわずかに彎曲し傘状に広がっている。断面は厚いものの鑄造と考えられる。最下層の礫層中より出土した。非常に希少な遺物と考えられ、どのように使用されたのか興味深い遺物である。

129～135は縄文土器片7点である。129～133は深鉢の口縁部片である。口唇部に押圧が施され、口縁部には沈線が配される。いずれも詳細な形式を特定できないが晩期に所属するであろう。132は壺形土器の胴部片で、変形工字文が施される。大洞A式と判断した。134は鉢の口縁部片である。頸部に刺突列が施される。大洞A式であろう。135は小型の鉢の口縁部片である。小片であるが、晩期に属するものであろう。136は砥石である。厚さ1.5cm程の扁平な円礫で、全体的に摩滅している。使用面として平らな1面に擦痕が残る。

198は漆椀である。外面の漆膜及び胴部の一部が残存している。

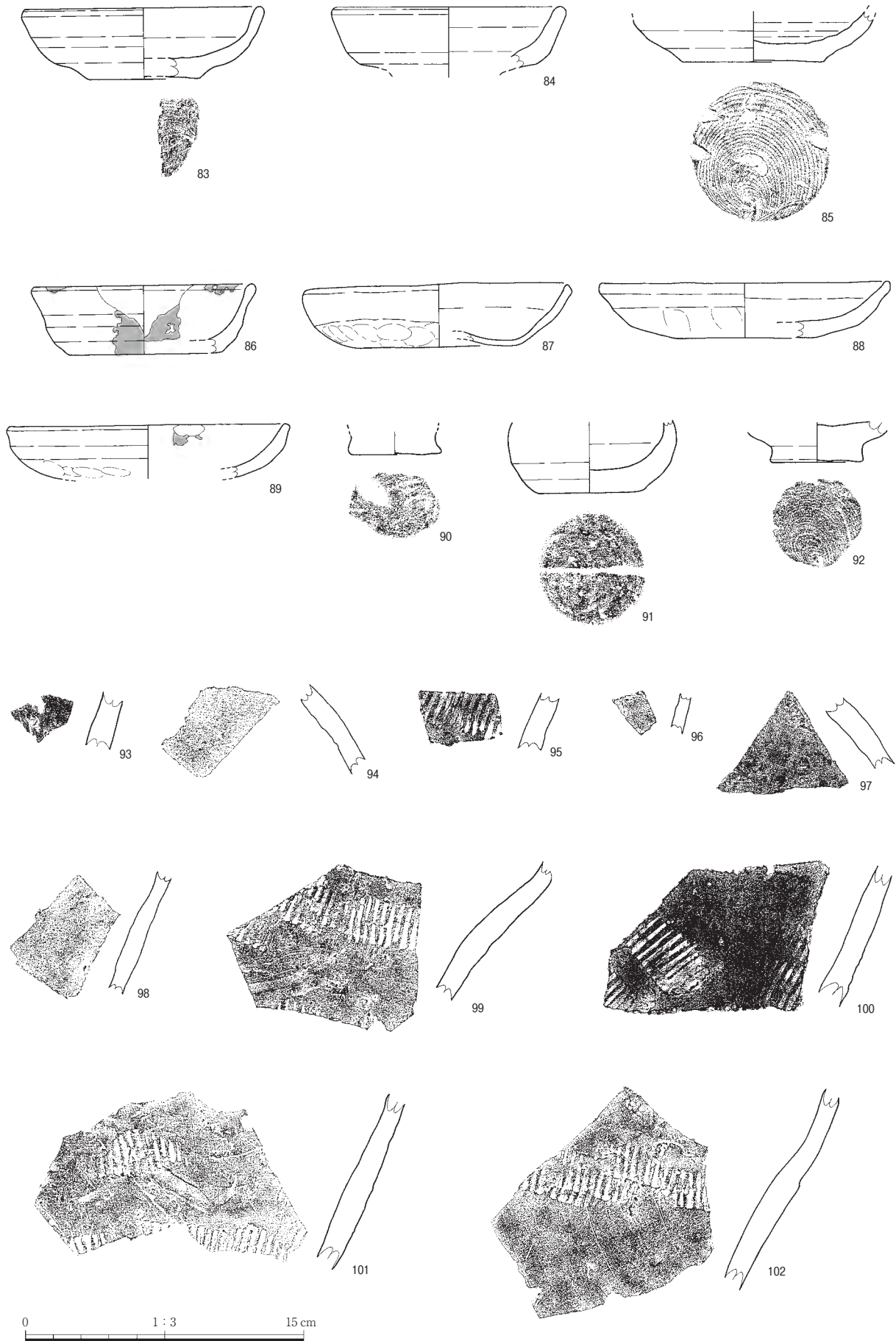


第 55 図 SD01 出土遺物 (1)

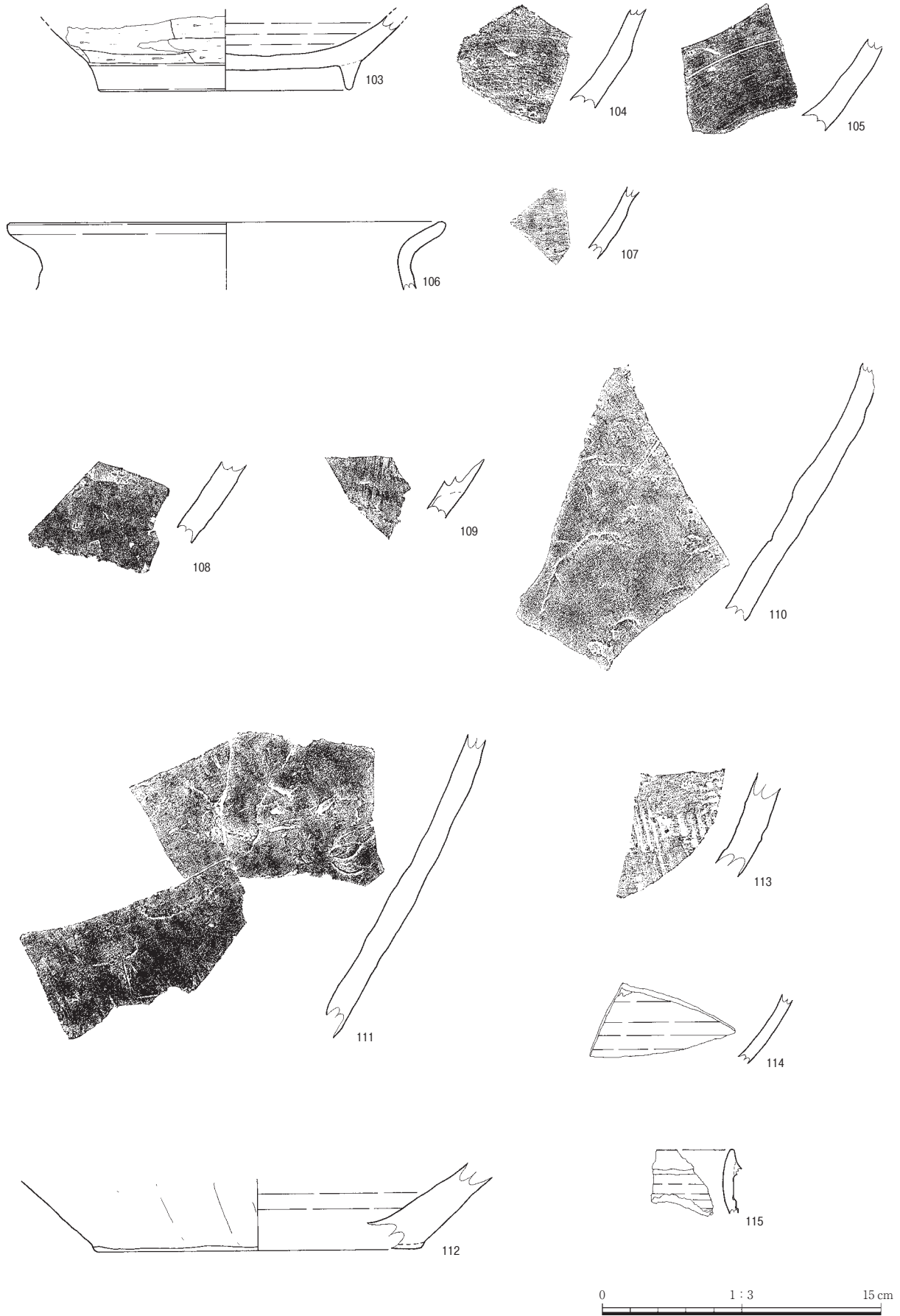


第56図 SD01 出土遺物 (2)

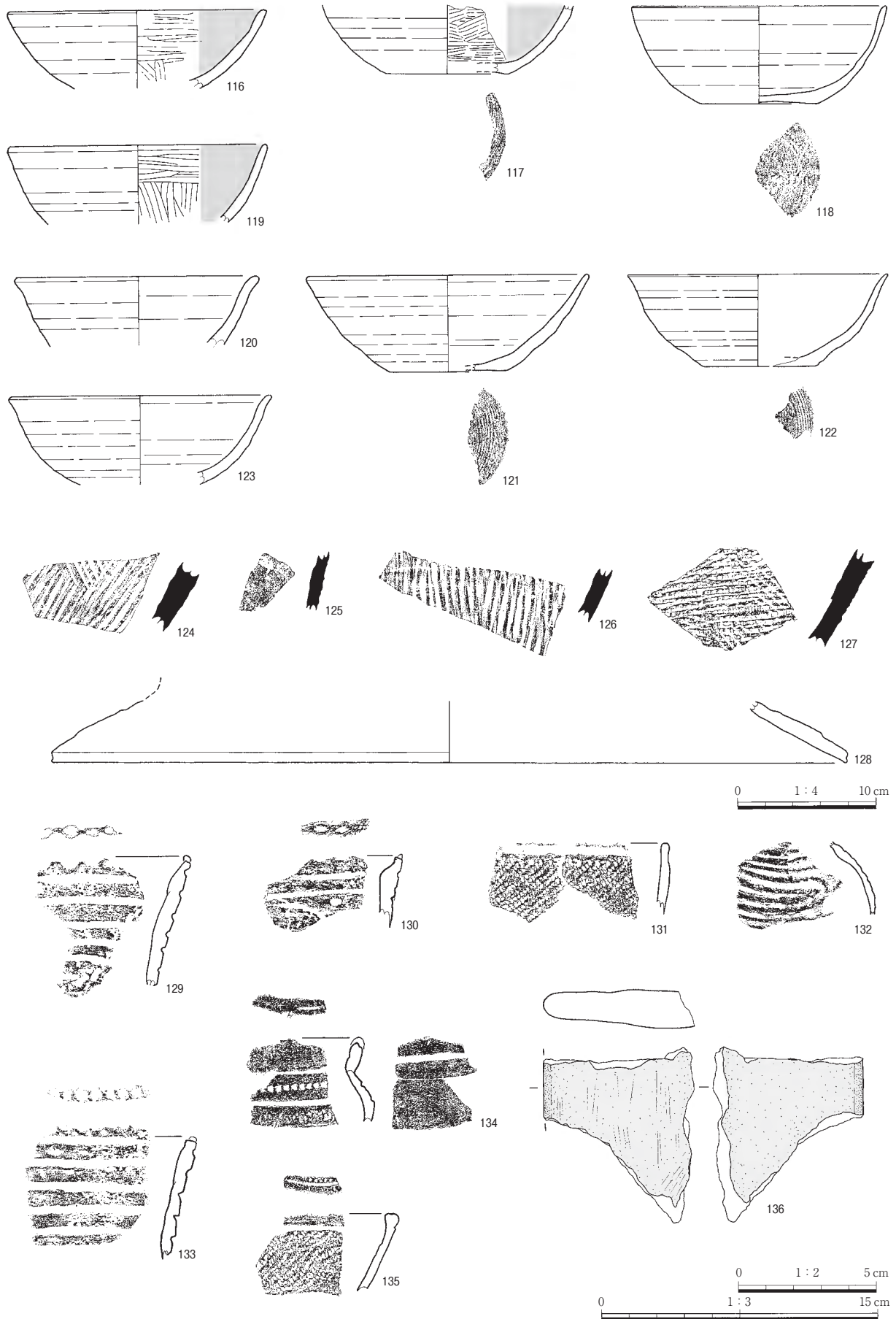
3 出土遺物



第 57 図 SD01 出土遺物 (3)



第58図 SD01出土遺物(4)



第 59 図 SD01 出土遺物 (5)

SD02 出土遺物 (第 1-60・61 図・写真図版 1-44・45)

合計 6,054.5 g 出土している。図示したのは、かわらけ 15 点、陶器 2 点、石器 4 点である。137～139 の 3 点は、轆轤かわらけの小皿である。138 のみやや小さいが、いずれも口径 8～9 cm の大きさで器高が 2.3cm、底径 6.6～6.8cm の間におさまる。137・138 の器形は、底部付近にくびれがある（底部が突出する）のが特徴的である。140 は手づくねかわらけの小皿で、口径 9.2cm、器高 1.8cm である。141～151 の 11 点は、轆轤かわらけ大皿である。この遺構から出土する大皿は、ほぼ同様の器形である。142・145 のみは皿形に近いが、それ以外は、碗形と皿形の中間的な形態を呈する。底部は碗形のようにやや突出するが器高が低く、碗形のかかわらけを上から押しつぶしたような形を呈する。器高は 4 cm 前後におさまるものが多く、口径も 13～14cm 前後にまとまる。復元した数値が多いため多少の幅はありそうである。152 と 153 は陶器の破片である。152 は常滑窯産壺類の口縁部片で、153 は渥美窯産甕の胴部片である。その他磨石が 3 点、砥石が 1 点出土している。

(5) 土 坑

SK01 出土遺物 (第 1-62 図・写真図版 1-46)

合計 319.9 g 出土しているが、2 点のみ図示した。158 は手づくねかわらけの小皿で、口径 8 cm、器高 1.7cm である。159 は須恵器甕の胴部片である。外面にタタキ痕、内面に当て具痕が残る。

SK12 出土遺物 (第 1-62 図・写真図版 1-46)

162 は渥美窯産壺の胴部片である。器壁が薄く、甕よりも小型と考えられる為壺とした。

SK13 出土遺物 (第 1-62 図・写真図版 1-46)

163 は轆轤かわらけ小皿である。逆台形状を呈す器形で、口径 8.3cm・器高 2.0cm・底径 6.0cm で他のものと共通する数値である。

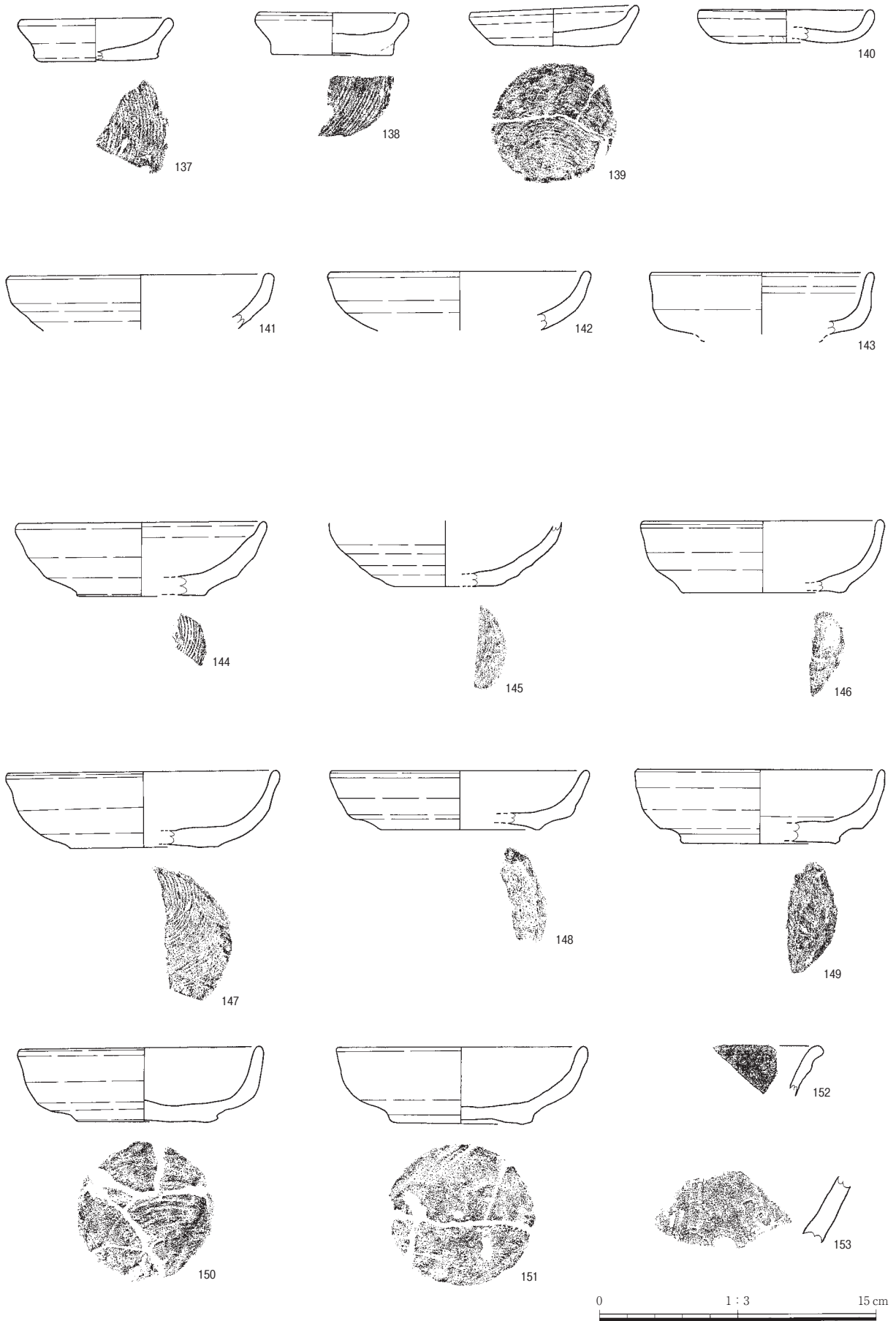
SK15 出土遺物 (第 1-62 図・写真図版 1-46)

164 は轆轤かわらけ小皿で、口径 8.6cm、器高 1.9cm、底径 5.8cm と他と共通する法量であり、規格的に製作されていたことを窺わせる。165 は轆轤かわらけ大皿である。底部を欠損しているが、皿形の器形は観察できる。166 は常滑窯産甕の胴部片で、格子模様の押印が施されている。

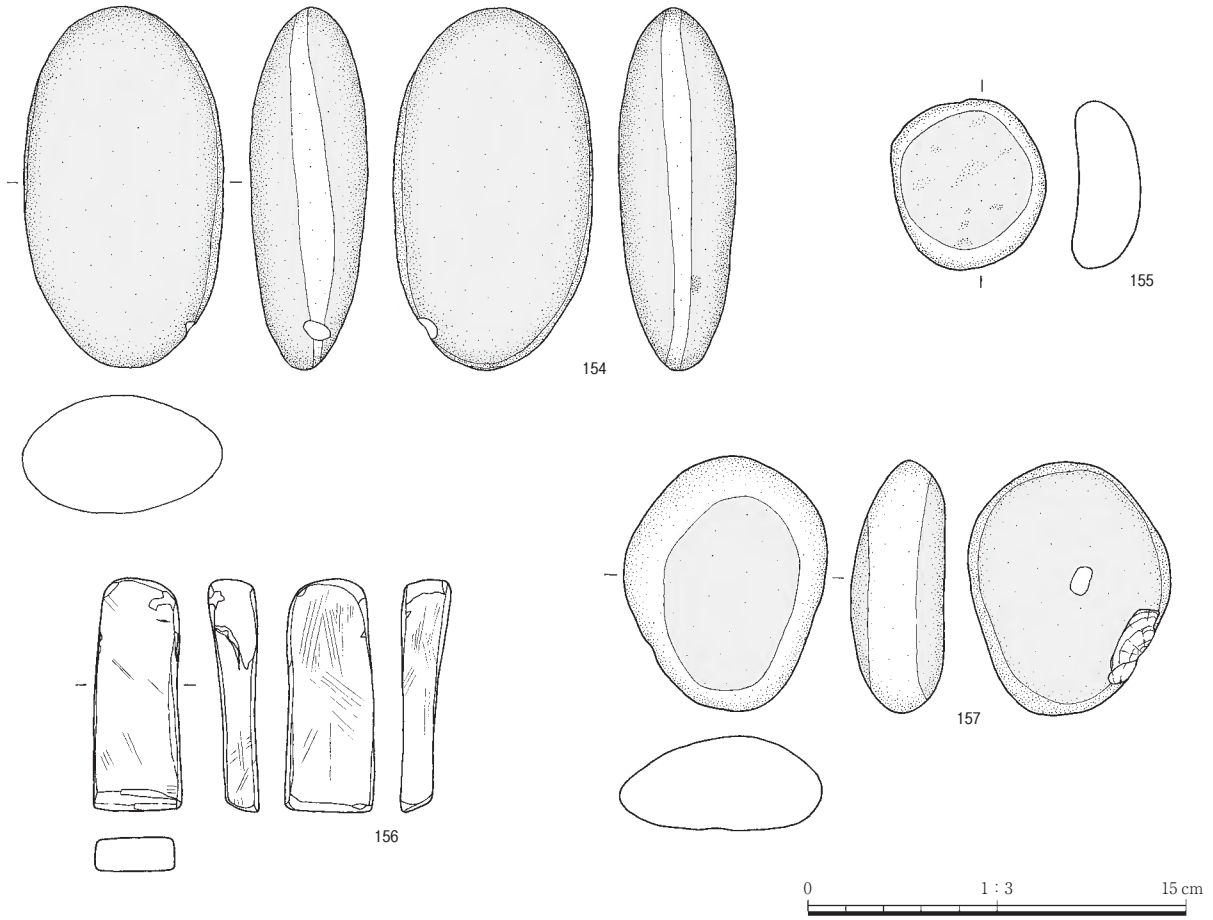
(6) 遺 構 外 (第 1-63・64 図・写真図版 1-46・47)

遺構検出時や遺構以外の包含層から出土した遺物であるが、出土地点は遺物の大半が出土した北側調査区の SD01・02 付近に偏っている。その為、本来 SD01・02 に伴う遺物も多く含まれていると考えられるが、厳密な帰属が不明であることから遺構外出土遺物として記載する。

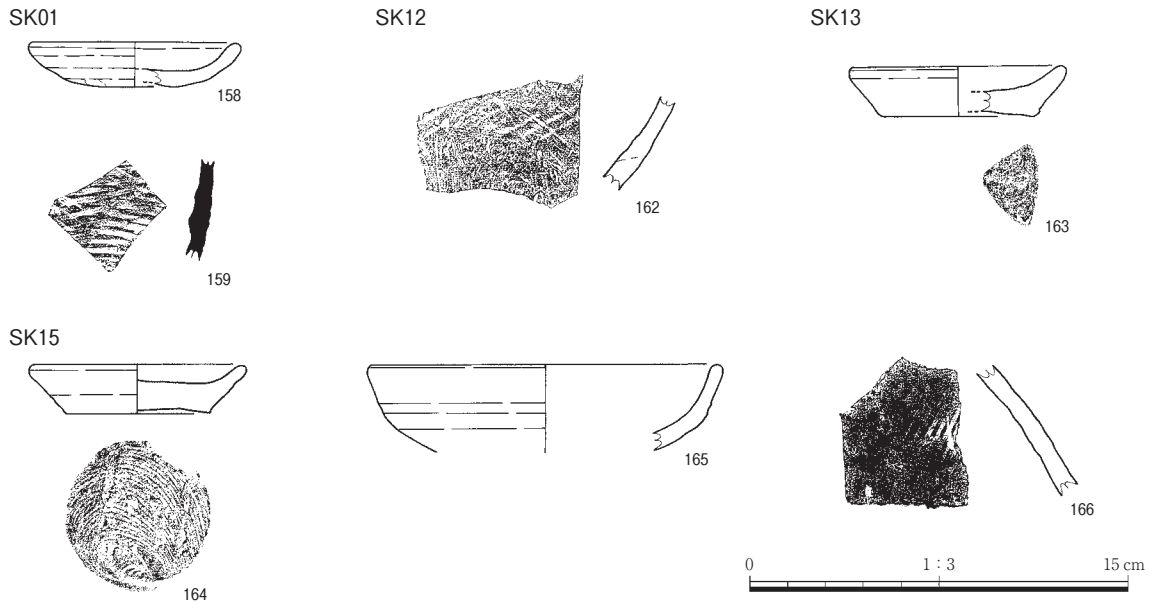
167 は縄文土器深鉢の底部片である。付近から出土している縄文土器がおよそ晩期を中心とする時期のため、これも同時期の可能性がある。168 は土師器杯で、口縁部を欠損している。復元底径が 6.8 cm で、内面に黒色処理が施される。169・170・171 は須恵器である。169 は須恵器坏で、器形は胴部が緩やかに内彎する。器高はやや高く 4.9cm で、口径は 14cm である。170 は甕あるいは壺（瓶）類の頸部から肩部の破片であろう。171 は瓶類の底部片と想定した。貼付けの高台部をもつ。器壁が薄く小型から中型品と考えられる。



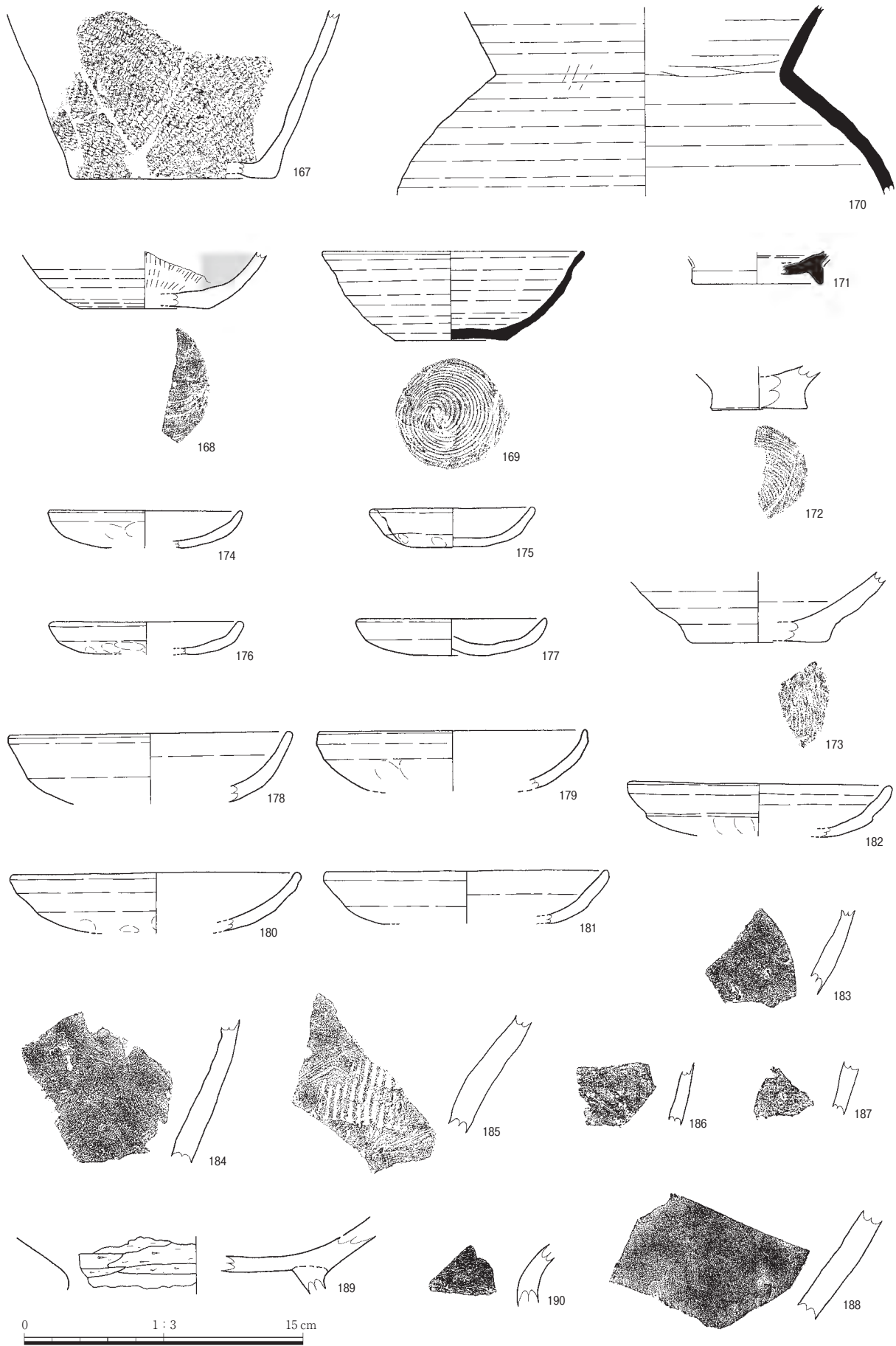
第 60 図 SD02 出土遺物 (1)



第 61 図 SD02 出土遺物 (2)



第 62 図 土坑出土遺物



第 63 図 遺構外出土遺物 (1)

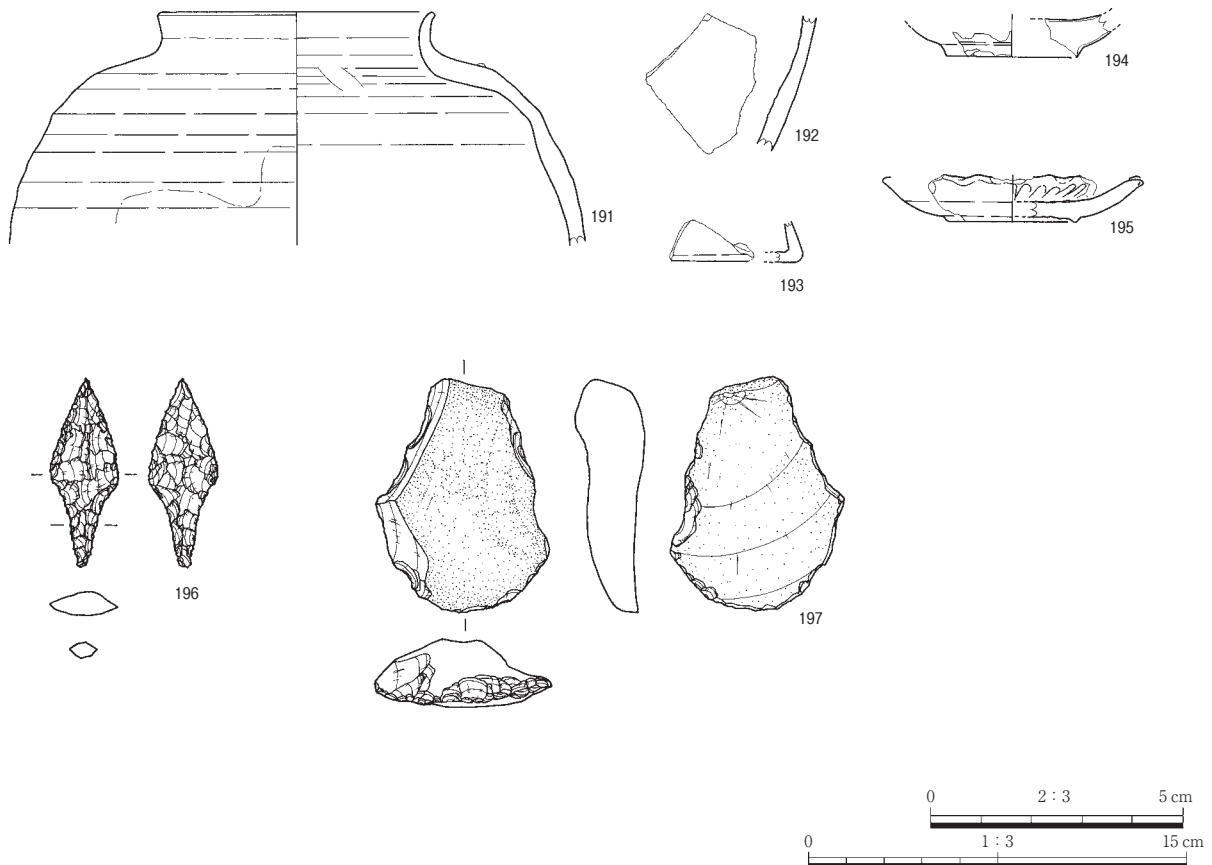
172は小型器台（柱状高台）の高台部である。中実の高台部で、復元底径5.15cmで、糸切り痕が残る。

173と178は轆轤かわらけである。173は碗（坏）形を、178は皿形の器形である。174～177の4点は手づくねかわらけの小皿である。いずれも口径9～10cm前後である。175には粘土板をまわして製作する際の接合箇所の痕跡が残っている。

179～182の4点は、手づくねかわらけ大皿である。口径が14～15cmで、器高も3cm前後におさまるように共通性がある。

183～188の6点は、常滑窯産甕の胴部片である。185は外面に押印が施される。他の陶器片は、ヘラナデの痕跡が残るのみである。189は常滑窯産鉢類の底部片である。外面に横位ヘラケズリが、内面には使用による摩耗痕が残る。190は渥美窯産壺類の頸部片で、内面に降灰が及ぶ。

191は産地未確定ながら、中国産陶器の可能性を考えている。壺類の破片と考えられる。口縁が直立気味に外彎し、端部に面取りが施されている。肩部までの破片であり、自然釉がこの辺りまで掛かる。胴部以下は欠損するが、胴が長い形態の可能性もある。192は、白磁壺類の胴部片で、釉調からⅡ類に位置づけられる。193は中国産青白磁と考えられるが、器種は不明である。方形基調の形や内面に残る布目などから陶枕の可能性はあるが定かではない。194は、青磁碗の底部付近の破片である。中国産で、貫入が認められる。195は瀬戸・美濃産の稜皿と考えられる皿である。低い削り出しの高台をもち、口縁部が波状になる。内面を棒状工具で掻き取っている。藤澤編年、大窯3～4期に位置づけられる。



第64図 遺構外出土遺物（2）

3 出土遺物

第3表 遺構別出土遺物一覧

遺構名	土師器	須恵器	かわらけ	不明 土器類	12世紀 陶磁器	中世 陶磁器	近世 陶磁器	金属製品	縄文土器	石器	その他	合計重量
SB01	15.6	1.2	185.4	1.1	10.2							213.5
SB02			24.0									24.0
SB03	9.7		30.1	3.6								43.4
SB04	7.4		0.0	0.9								8.3
SB05	出土遺物なし											0.0
SB06			9.1	0.8								9.9
SB07	1.1			4.8								5.9
SB08	56.6		57.9			75.0		3.3			5.9	198.7
SB09	7.3		130.1	4.3								141.7
SB10				4.3								4.3
SB11	3.0		21.3	1.9					12.6			38.8
SB12			7.6	2.4								10.0
SB13	出土遺物なし											0.0
SB14	31.4		37.1						0.8			69.3
SB15			4.3	2.7								7.0
SB16	20.1		9.4						3.9			33.4
SB17			23.3									23.3
SB18				2.8								2.8
SB19	出土遺物なし											0.0
SB20	出土遺物なし											0.0
SB21	出土遺物なし											0.0
SB22	出土遺物なし											0.0
SB23	出土遺物なし											0.0
SB24	5.3		19.8	31.0	13.9	38.8				113.9	4.6	227.3
SB25					48.3							48.3
SB26	出土遺物なし											0.0
SB27	出土遺物なし											0.0
SB28			2.8	1.4								4.2
SB29				7.7								7.7
SB30		7.3										7.3
SB31			19.2	4.0								23.2
SB32				4.2								4.2
SB33	7.3			10.9	13.7							31.9
SI01	2917.5	284.3					29.9	38.6	36.3	5.8	207.3	3519.7
SD01	985.8	371.2	9483.6		2614.4		8.1	1138.4	2125.6	208.0	10.0	16945.1
SD02	23.5		4590.7		51.5				96.5	1247.0	45.3	6054.5
SK01	77.9	18.0	224.0									319.9
SK04	1.6		25.9									27.5
SK06	13.2		9.9									23.1
SK11			26.2									26.2
SK12	87.5		142.8		37.0							267.3
SK13			26.4									26.4
SK15			122.4		36.8							159.2
SK16			3.5								1.4	4.9
SK17	1.9		4.2									6.1
SK22		1.8	10.5						28.9			41.2
SK25	出土遺物なし											0.0
SL01	16.1	8.4								1.0	6423.2	6448.7
SL02	3.4		1.3								177.8	182.5
SL03			0.6								255.5	256.1
SL04	7.0	4.7	1.8						1.3		13985.8	14000.6
SL05	2.1		14.6							3.9	835.1	855.7
SL06			0.6						1.9		9009.1	9011.6
柱穴	75.3	28.0	518.7	80.1	48.5	14.2		55.9	11.4	197.4	9.4	1038.9
遺構外	195.7	263.9	4837.3	6.4	658.6	14.9	17.5	0.0	506.8	36.6	1438.7	7976.4
合計	4573.3	988.8	20626.4	175.3	3470.7	142.9	55.5	1236.2	2826.0	1813.6	32409.1	68380.0

*個別の柱穴分の出土遺物は別表に記載している

*単位はすべてグラム (g) である

*その他とは、粘土塊 (炉壁を含む)、種子、骨などである

第4表 柱穴一覽 (1)

柱穴番号	長径	計測値 (m) 短径	柱径	所属建物	柱穴位置	出土遺物 (g) ※ () 内数字は重量、[] 内数字は掲載番号	土層注記
P001	0.388	0.24	0.361	-		土器片 (2.6)	10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%
P002	0.438	0.238	0.299	SB17			第29 図
P003	0.262	0.222	0.34	SB12			第26 図
P004	0.188	0.162	0.15	-			10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%
P005	0.411	0.317	0.189	SB07		土器片 (1.5)	第22 図
P006	0.364	0.258	0.255	SB09		かわらけ (5.1)	第24 図
P007	残 0.431	残 0.424	0.545	SB17		かわらけ (23.3)	第29 図
P008	0.523	0.39	0.521	-		土器片 (1.6)、渥美薬類 [15] (30)	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P009	欠番						
P010	0.605	0.348	0.602	SB11		土師器 (3.0)	第25 図
P011	欠番						
P012	0.229	0.203	0.167	-			10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%
P013	残 0.205	0.197	0.111	SB17			第29 図
P014	残 0.270	0.233	0.173	SB17			第29 図
P015	0.368	0.325	0.323	SB09		かわらけ (6.9)	第24 図
P016	0.568	0.515	0.408	SB01		土師器 (7.6)	第18 図
P017	欠番						
P018	欠番						
P019	0.34	0.271	0.417	SB15		土器片 (2.4)	第28 図
P020	0.351	0.289	0.454	SB07		土師器 (1.1)	第22 図
P021	0.52	0.478	0.422	SB01		かわらけ (不明 11.2・轆轤小1.4)、土師器 (4.4)	第18 図
P022	0.283	0.262	0.169	-		土師器 (1.5)	10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%
P023	0.349	0.331	0.288	-			1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR5/6 黄褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 3 10YR4/1 褐灰色粘質シルト 酸化鉄の斑点が入る 溝は攪乱か
P024	0.53	0.51	0.327	SB17			第29 図
P025	0.239	0.198	0.33	SB15			第28 図
P026	0.377	0.292	0.358	-		かわらけ (8.5)、土器 (3.1)	1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 20%
P027	0.396	0.255	0.279	-		かわらけ (2.2)	3 10YR4/1 褐灰色粘質シルト 酸化鉄の斑点が入る 溝は攪乱か
P028	0.347	0.305	0.011	SB03	庇		1 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%、黒褐色土 5%
P029	欠番						第20 図
P030	0.326	残 0.248	0.177	SB14			第27 図
P031	残 0.279	残 0.167	0.333	SB12			第26 図
P032	0.219	0.14	0.542	SB16		かわらけ (9.4)	第28 図
P033	0.497	0.461	0.266	SB01		かわらけ (10.9)	第18 図
P034	0.388	0.368	0.758	身舎		かわらけ (8.8)	第20 図
P035	0.406	0.395	0.576	SB03	庇	かわらけ (9.4)	第20 図
P036	0.335	0.285	0.326	SB12		かわらけ (7.6)	第26 図
P037	0.296	0.286	0.432	SB15			第28 図
P038	0.27	0.245	0.44	-		土器 (4.2)	1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 20%
P039	欠番						
P040	欠番						
P041	欠番						
P042	0.369	0.32	0.341	-		かわらけ (38.8)	10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルト ブロック (φ 5~20mm) 含む
P043	0.391	0.341	0.38	SB08		かわらけ (14.5)	第23 図
P044	0.422	0.392	0.426	-		土器 (3.0)	第20 図

第4表 柱穴一覽(2)

柱穴番号	長さ	計測値 短径 深さ	柱径	所属 建物	柱穴 位置	出土遺物 (g) ※ () 内数字は重量、[] 内数字は掲載番号 土器 (0.5)	土層注記
P045	0.495	0.397 0.41	0.16	SB03	庇	第20図	
P046	0.299	0.242 0.321	-	SB32		第39図	
P047	0.33	0.251 0.266	-	-		10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%	
P048	0.451	0.365 0.301	-	SB08		第23図	
P049	0.677	0.601 0.296	0.26	SB02	かわらけ (24.0)	第19図	
P050	0.379	0.307 0.561	0.18	-		かわらけ (9.7)、土器 (2.7)	1 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5% 2 10YR3/2 黒褐色シルト 灰・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 3 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 20%
P051	0.505	0.401 0.657	0.26	SB08		第23図	
P052	0.476	0.387 0.35	0.2	SB08		第19図	
P053	0.603	0.508 0.346	-	SB02		10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P054	0.388	0.312 0.188	-	-		明染付皿 [3] (75.0)、古銭 [4] (3.3)	
P055	0.307	0.224 0.454	0.2	-		1 10YR3/2 黒褐色シルト 灰・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 20%	
P056	0.519	0.497 0.224	0.3	SB02		第19図	
P057	0.426	0.423 0.114	-	-		10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 20%	
P058	0.288	0.248 0.182	-	-		10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P059	0.365	残 0.119 0.098	-	-		10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%	
P060	0.617	残 0.305 0.189	-	-		10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%	
P061	0.388	0.285 0.141	-	-		10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 20%	
P062	0.637	0.595 0.121	-	-		10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P063	0.502	0.384 0.539	-	SB31		第38図	
P064	欠番						
P065	0.541	0.46 0.345	0.16	SB01		第18図	
P066	0.495	0.46 0.332	-	SB08	かわらけ (45.9)	第23図	
P067	0.677	0.443 0.662	-	SB03	身舎	第20図	
P068	欠番 (SI01 煙出しに変更)						
P069	0.461	0.36 0.299	-	-		かわらけ (52.1)	10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルトブロック (φ 5~20mm) 含む
P070	0.32	0.282 0.383	-	SB03	庇	第20図	
P071	0.586	0.559 0.431	0.27	SB01		第18図	
P072	0.714	0.455 0.406	-	-		かわらけ (4.3) かわらけ (74.0)、常滑壺類 [1] (3.9) ※かわらけのうち 21.8g は P072 と一括 かわらけ (11.0) ※かわらけのうち 21.8g は P071 と一括	
P073	0.37	0.291 0.238	0.12	SB08	かわらけ (8.5)	第23図	
P074	0.207	0.176 0.295	-	-		かわらけ (5.8)、土器 (3.0)	10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルトブロック (φ 5~20mm) 含む
P075	0.241	0.181 0.204	-	-		10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P076	0.283	0.209 0.255	0.1	-		10YR5/6 黄褐色シルト 陶灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%	
P077	0.303	0.221 0.163	-	-		1 10YR3/2 黒褐色シルト 灰・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P078	0.298	0.276 0.251	-	SB32		第39図	
P079	0.245	0.234 0.157	-	-		10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルトブロック (φ 5~20mm) 含む	
P080	0.508	0.427 0.341	0.2	-		1 10YR3/2 黒褐色シルト 灰・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR5/6 黄褐色シルト 陶灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%	
P081	0.309	0.292 0.285	-	SB08	かわらけ (3.5)	第23図	
P082	欠番						
P083	0.353	0.335 0.476	0.16	SB08		第23図	
P084	0.534	0.421 0.496	0.2	SB31	かわらけ (19.2)	第38図	

第4表 柱穴一覧(3)

柱穴 番号	計測値(m)		柱径	所属 建物	柱穴 位置	出土遺物(φ) ※()内数字は重量、[]内数字は掲載番号	土層注記
	長さ	短径 深さ					
P085	0.383	0.333	0.243	SB08	土師器(6.6)	第23図	
P086	0.272	0.24	0.275	SB32	土器(1.2)	第39図	
P087	0.247	0.222	0.237	-	縄文土器(9.1)	10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5~10mm)7%	
P088	0.493	0.337	0.17	-	土師器(3.7)	10YR3/4 暗褐色砂質シルト黒褐色シルトプロック(φ5~20mm)含む	
P089	0.308	0.275	0.257	-		10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5~10mm)7%	
P090	欠番						
P091	0.312	0.27	0.272	-	土器(4.2)	1 10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5~10mm)7%	
P092	0.372	0.321	0.385	-	かわらけ(9.2)	1 10YR3/2 黒褐色シルト炭・黄褐色シルトプロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5~10mm)7%	
P093	欠番						
P094	0.516	0.492	0.434	SB31		第38図	
P095	0.287	0.253	0.321	-	かわらけ(9.3)	10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5~10mm)7%、黄色プロック(φ20~30mm)20%	
P096	0.235	0.23	0.288	-		注記なし	
P097	0.304	0.276	0.367	-	かわらけ(8.2)	注記なし	
P098	0.682	0.469	0.22	SB31		第38図	
P099	0.477	0.425	0.401	SB31	土器(4.0)	第38図	
P100	0.433	0.393	0.307	-		第38図	
P101	0.303	0.281	0.432	-		10YR4/2 灰黄褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5mm)5%	
P102	0.285	0.219	0.143	-	土器(0.3)	10YR4/2 灰黄褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5mm)5%	
P103	0.229	0.213	0.309	-	須恵器(1.3)	1 10YR3/2 黒褐色シルト炭・黄褐色シルトプロック各1% 柱痕跡 2 10YR5/6 黄褐色シルト褐色シルトプロック(φ10~20mm)3%	
P104	欠番						
P105	0.408	0.319	0.282	SB03	かわらけ(3.3)	第20図	
P106	0.294	0.248	0.249	-		10YR3/4 暗褐色砂質シルト黒褐色シルトプロック(φ5mm)5%、黄褐色シルトプロック(φ5~20mm)含む	
P107	0.376	0.314	0.186	SB01	かわらけ(0.7)	第18図	
P108	0.272	0.247	0.217	SB03	身舎	第20図	
P109	欠番						
P110	欠番						
P111	0.572	0.513	0.312	SB01	かわらけ(13.1)	第18図	
P112	0.494	0.477	0.28	SB01	須恵器(6.3)	第18図	
P113	0.455	0.439	0.207	SB09		第24図	
P114	0.424	0.367	0.278	SB16	土師器(6.2)	第28図	
P115	0.236	0.231	0.31	SB12		第26図	
P116	0.522	0.471	0.292	SB01	かわらけ(2.4)、土器(1.1)	第18図	
P117	0.355	0.334	0.408	SB09	土器(2.4)	第24図	
P118	0.31	0.291	0.389	-	土器(7.5)	10YR3/4 暗褐色砂質シルト黒褐色シルトプロック(φ5mm)5%、黄褐色シルトプロック(φ5~20mm)含む	
P119	0.226	0.202	0.154	-		10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5~10mm)7%	
P120	0.332	0.325	0.328	SB15	かわらけ(4.3)	第28図	
P120'	0.326	0.219	0.542	SB03	此	第20図	
P121	0.584	0.453	0.391	-	かわらけ(23.1)、土器(2.6)	10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5~10mm)7%	
P122	0.251	0.187	0.23	-		10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5~10mm)20%	
P123	0.418	0.362	0.231	SB16		第28図	
P124	0.431	残	0.424	SB17		第29図	
P125	0.439	0.312	0.222	SB07		第22図	
P126	0.279	0.249	0.492	-		10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロック(φ5~10mm)7%	

第4表 柱穴一覧 (4)

柱穴番号	長径	計測値 (m)	短径	深さ	柱径	所属建物	柱穴位置	出土遺物 (g) ※ () 内数字は重量、[] 内数字は掲載番号	土層注記
P127	0.415	0.383	0.126	-	-	SB17	第29図		
P128	0.56	0.428	0.183	-	-	SB11	第25図		
P129	残0.399	0.274	0.338	-	-	SB07	第22図		
P130	0.277	0.237	0.266	-	-	-	10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%、黒褐色土5% 2 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/4 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 40% 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7% 第22図		
P131	0.419	0.389	0.617	0.17	-	-	第27図		
P132	0.412	0.266	0.371	-	-	-	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%		
P133	0.42	0.356	0.192	-	-	-	土器 (2.5)		
P134	0.28	0.206	0.15	-	-	SB07	第27図		
P135	0.299	0.254	0.361	-	-	SB14			
P136	0.253	0.224	0.258	-	-	-			
P137	欠番								
P138	0.648	0.135	0.263	-	-	-	10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡		
P139	0.34	残0.196	0.368	0.14	-	-	10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡		
P140	0.331	0.318	0.132	-	-	-	10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡		
P141	0.366	0.335	0.237	-	-	SB10	第25図		
P142	0.405	0.346	0.15	-	-	SB13	第27図		
P143	0.413	0.364	0.356	-	-	SB11	第25図		
P143	残0.357	残0.256	0.345	-	-	SB12	土師器 (3.6)、縄文土器 (12.6)		
P144	欠番								
P145	0.233	0.187	0.279	-	-	-	10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%、黒褐色土5%		
P146	0.355	0.345	0.133	-	-	-	かわらけ (1.7)		
P147	0.21	0.189	0.104	-	-	-	第26図		
P148	0.22	0.177	0.276	-	-	SB12	第27図		
P149	0.243	0.224	0.284	-	-	SB14	第24図		
P150	0.415	0.321	0.167	-	-	SB09	第26図		
P151	0.321	0.304	0.309	0.13	-	SB12	第25図		
P152	0.257	0.226	0.281	-	-	SB10	かわらけ (3.3)		
P153	0.56	0.475	0.263	0.25	-	SB01	第18図		
P154	0.324	0.244	0.373	-	-	SB10	第25図		
P155	0.33	0.271	0.857	-	-	SB12	第26図		
P156	0.263	0.23	0.791	-	-	-	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%		
P157	0.22	0.186	0.592	-	-	SB14	第27図		
P158	0.59	0.563	0.755	-	-	SB09	第24図		
P159	0.3	0.268	0.913	-	-	SB12	第26図		
P160	0.367	0.236	0.651	-	-	-	10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%		
P161	欠番								
P162	0.537	0.495	0.781	0.2	-	SB01	第18図		
P163	0.337	0.335	0.263	-	-	SB14	かわらけ (3.2)		
P164	0.215	0.181	0.246	-	-	SB12	第27図		
P165	0.416	0.258	0.815	-	-	-	第26図		
P166	0.249	0.245	0.526	-	-	SB03	土器 (5.3)		
P167	0.402	残0.274	0.237	-	-	SB12	10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルト ブロック (φ 5~20mm) 含む		
P168	0.278	0.245	0.281	-	-	SB14	第20図		
P169	0.339	0.301	0.426	0.2	-	SB03	第27図		
P170	0.322	0.308	0.243	0.14	-	-	土器 (2.9)		
							1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルト ブロック (φ 5~20mm) 含む		

第4表 柱穴一覽 (5)

柱穴番号	長径	計測値 (m)	短径	深さ	柱径	帰属建物	柱穴位置	出土遺物 (g)	※ () 内数字は重量、[] 内数字は掲載番号	土層注記
P171	0.326	0.239	0.181	-	-	-	-	かわらけ (9.5)		10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P172	0.436	0.409	0.219	-	-	-	-			10YR3/4 暗褐色シルト黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルトブロック (φ 5~20mm) 含む
P173	0.287	0.268	0.133	-	-	-	-	土器 (2.7)、常滑鈳類 [16] (18.5)		10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P174	0.369	0.318	0.452	0.23	-	SB12	-			第26図
P175	0.286	0.267	0.222	-	-	SB03	庇			第20図
P176	0.248	0.236	0.134	-	-	-	-	土器 (3.1)		10YR3/4 暗褐色砂質シルト黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルトブロック (φ 5~20mm) 含む
P177	0.283	0.241	0.45	0.12	-	SB03	庇			第20図
P178	0.397	0.368	0.115	-	-	SB03	庇			第20図
P179	0.297	0.274	0.126	-	-	-	-			10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 褐灰色シルトブロック (φ 5mm) 1%
P180	0.584	0.561	0.212	-	-	SB01	-	かわらけ (3.9)		第18図
P181	0.351	0.334	0.144	0.2	-	SB01	-			第18図
P182	0.303	0.265	0.238	-	-	SB03	庇			第20図
P183	0.372	0.301	0.328	0.18	-	SB03	身舎			第20図
P184	0.287	0.257	0.21	-	-	-	-			10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 褐灰色シルトブロック (φ 5mm) 1%
P185	0.547	0.5	0.323	0.18	-	SB01	-			第18図
P186	0.255	0.226	0.18	-	-	-	-			10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 褐灰色シルトブロック (φ 5mm) 1%
P187	0.44	0.331	0.104	-	-	SB06	-			第22図
P188	0.473	0.448	0.148	0.26	-	SB01	-			第18図
P189	矢番									
P190	0.314	0.246	0.205	-	-	-	-			10YR3/4 暗褐色砂質シルト黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルトブロック (φ 5~20mm) 含む
P191	0.313	0.239	0.227	-	-	-	-	かわらけ (1.6)		1 10YR4/2 灰黄褐色シルト黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5% 2 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%
P192	0.293	0.242	0.145	-	-	SB30	-			第37図
P193	0.554	0.371	0.201	-	-	SB01	-			第18図
P194	0.424	0.383	0.122	0.1	-	SB06	-			第22図
P195	矢番									
P196	0.247	0.24	0.157	-	-	SB30	-			第37図
P197	0.332	0.253	0.195	0.12	-	SB01	-			第18図
P198	矢番									
P199	0.437	0.392	0.157	-	-	SB06	-			第22図
P200	0.273	0.237	0.113	-	-	-	-			10YR3/4 暗褐色砂質シルト黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルトブロック (φ 5~20mm) 含む
P201	0.29	0.259	0.221	0.1	-	SB30	-			第37図
P202	矢番									
P203	0.233	0.218	0.225	-	-	SB06	-	かわらけ (2.5)		第22図
P204	0.273	0.223	0.322	-	-	SB30	-			第37図
P205	0.311	0.279	0.452	0.14	-	-	-	かわらけ (12.6)		1 10YR3/2 黒褐色シルト炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P206	0.232	0.217	0.264	0.1	-	-	-			2 10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P207	0.365	0.341	0.401	0.2	-	-	-			1 10YR3/2 黒褐色シルト炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/2 黒褐色シルト炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 3 10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%
P208	0.287	0.277	0.268	0.12	-	-	-			注記なし
P209	0.274	0.247	0.415	-	-	-	-			10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P210	0.313	0.24	0.418	-	-	-	-			注記なし
P211	矢番									

第4表 柱穴一覧(6)

柱穴番号	長さ 欠番	計測値(m) 短径	柱径	帰属 建物	柱穴 位置	出土遺物(g) ※()内数字は重量、[]内数字は掲載番号	土層注記
P212	欠番						
P213	欠番	0.265	0.173	SB13			第27図
P214	欠番						
P215	欠番	0.305	0.262	SB05			第21図
P216	欠番	0.263	0.225	SB05			第21図
P217	欠番	0.294	0.278	SB33			第39図
P218	欠番	0.293	0.262	-			10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P219	欠番						
P220	欠番						
P221	欠番						
P222	欠番						
P223	欠番						
P224	欠番	0.242	0.207	-			10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P225	欠番	0.235	0.214	SB13			第27図
P226	欠番	0.246	0.202	-			10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P227	欠番	0.258	0.233	-			10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%
P228	欠番	0.416	0.325	SB05			第21図
P229	欠番						
P230	欠番	0.361	0.293	SB13			第27図
P231	欠番	0.291	0.269	SB10			第25図
P232	欠番	0.286	0.215	SB33			第39図
P233	欠番	0.378	0.303	SB05			第21図
P234	欠番	0.411	0.371	-			10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 1%、黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 3%
P235	欠番						
P236	欠番						
P237	欠番						
P238	欠番						
P239	欠番	0.437	0.345	SB04			第21図
P240	欠番		0.2				
P241	欠番	0.313	0.284	SB04			第21図
P242	欠番	0.288	0.208	SB10			第25図
P243	欠番	0.276	0.213	-			10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P244	欠番	0.272	0.236	SB04		土器 (0.9)	第21図
P245	欠番	0.308	0.277	SB33			第39図
P246	欠番	0.418	0.37	SB06			第22図
P247	欠番	0.434	0.312	SB04			第21図
P248	欠番	0.331	0.274	SB30		須恵器 (7.3)	第37図
P249	欠番	0.359	0.321	-			1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 褐灰色シルトブロック (φ 5mm) 1%
P250	欠番	0.281	0.275	-			10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%
P251	欠番	0.444	0.355	-			10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 褐灰色シルトブロック (φ 5mm) 1%
P252	欠番	0.255	0.218	SB06		かわらけ (6.6)、土器 (0.8)	第22図
P253	欠番						
P254	欠番						
P255	欠番						
P256	欠番	0.238	0.218	SB06			第22図
P257	欠番	0.185	0.169	-		土器 (2.6)	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%
P258	欠番	0.215	0.194	SB30			第37図

第4表 柱穴一覧 (7)

柱穴番号	長さ 欠番	計測値 短径	計測値 深さ	柱径	帰属 建物	柱穴 位置	出土遺物 (g) ※ () 内数字は掲載番号 ※ () 内数字は重量、[] 内数字は掲載番号	土層注記
P259	欠番	0.233	0.227	0.158	-	-	かわらけ (58)	10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%
P261	0.643	0.364	0.209	0.25	-	-	1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%	第21図 第39図
P262	0.322	0.279	0.128	-	SB05	-	土器 (1.1)	
P263	0.533	0.299	0.216	0.14	SB33	-		
P264	欠番							
P265	欠番							
P266	0.339	0.31	0.203	-	-	-	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P267	0.194	0.156	0.114	-	-	-	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P268	0.199	0.157	0.057	-	-	-	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P269	欠番							
P270	欠番							
P271	0.402	0.322	0.26	0.15	-	-	1 10YR4/2 灰黄褐色シルト 褐色シルトブロック (φ 5mm) 1% 2 10YR4/1 褐色シルト 褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 5%	
P272	欠番							
P273	欠番							
P274	欠番							
P275	0.329	0.234	0.177	-	SB04	-	第21図	
P276	0.357	0.34	0.346	0.16	-	-	1 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~30mm) 5% 2 10YR4/3 にぶい・黄褐色シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 3%	
P277	0.272	0.263	0.188	-	SB04	-	土師器 (7.4)	
P278	欠番							
P279	0.263	0.215	0.198	-	SB04	-	第21図	
P280	0.494	0.399	0.546	0.2	SB16	-	土師器 坏 [7] (13.9)	
P281	0.499	0.223	0.2	-	-	-	土師器 (2.9)	
P282	0.261	0.221	0.253	-	-	-	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 20% 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 3%	
P283	欠番							
P284	欠番							
P285	残 0.250	0.193	0.261	-	SB12	-	第26図	
P286	0.373	0.254	0.234	-	-	-	10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルト ブロック (φ 5~20mm) 含む	
P287	欠番							
P288	0.258	0.202	0.16	-	-	-	10YR5/6 黄褐色シルト 褐色シルト 褐色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%	
P289	欠番							
P290	欠番							
P291	0.402	0.312	0.1	-	SB09	-	第24図	
P292	欠番							
P293	0.287	0.262	0.384	-	SB03	身舎	第20図	
P294	0.518	0.449	0.118	-	-	-	10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%	
P295	残 0.412	0.468	0.454	0.14	SB16	-	第28図	
P296	0.594	0.503	0.338	0.12	SB01	-	縄文土器 (3.9)	
P297	0.467	残 0.113	0.169	0.15	-	-	かわらけ (37.8)、渥美壺 [2] (6.3)、須恵器 (1.2)	1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR5/6 黄褐色シルト 褐色シルト 褐色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%
P298	0.363	0.313	0.326	-	SB10	-	土器 (4.3)	第25図
P299	欠番							
P300	0.361	0.291	0.587	-	-	-	かわらけ (6.2)、白磁皿 [17] (14.2)、土師器 (26.3)、 土器 (4.7)、粘土塊 (4.2)	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 20%
P301	0.348	0.284	0.433	-	SB32	-	土器 (3.0)	第39図
P302	0.429	0.304	0.217	-	-	-	10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%	

第4表 柱穴一覧(8)

柱穴番号	長さ 欠番	計測値 短径	深さ	柱径	所属 建物	柱穴 位置	出土遺物 (g) ※ () 内数字は掲載番号 [] 内数字は重量、[] 内数字は掲載番号	土層注記
P303	欠番							
P304	欠番							
P305	0.219	0.209	0.308	-	-	かわらけ (7.5)	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P306	0.344	0.307	0.454	0.22	-	かわらけ (2.5)	1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%	
P307	0.529	残 0.199	0.085	0.12	-		1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5mm) 20~30%	
P308	0.484	0.434	0.362	-	SB01	かわらけ (1.7)	第18図	
P309	欠番							
P310	0.345	0.282	0.156	-	-		10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%	
P311	0.296	0.24	0.259	0.1	-		注記なし	
P312	0.271	0.214	0.298	-	-	土師器 (2.5)	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P313	0.203	0.179	0.109	-	-	かわらけ (4.9)	10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルト ブロック (φ 5~20mm) 含む	
P314	0.531	0.375	0.582	-	SB33	常滑甕 [14] (13.7)	第39図	
P315	0.373	0.343	0.641	0.2	SB03	身舎	第20図	
P316	0.258	0.231	0.105	-	-		10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%	
P317	0.357	残 0.273	0.148	-	SB12		第26図	
P318	欠番							
P318	0.255	0.21	0.271	-	-	土器 (5.6)、甕 かわらけ大皿 [18] (44.4)、粘土塊 (5.2)	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P319	欠番							
P320	0.486	0.362	0.119	-	-		10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルト ブロック (φ 5~20mm) 含む	
P321	欠番							
P322	欠番							
P323	0.628	0.577	0.201	-	-		10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 褐灰色シルトブロック (φ 5mm) 1%	
P324	欠番							
P325	欠番							
P326	欠番							
P327	0.296	0.289	0.289	-	-		10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック (φ 5mm) 5%、黄褐色シルト ブロック (φ 5~20mm) 含む	
P328	0.408	0.4	0.28	-	SB33	土師器 (7.3)、土器 (9.8)	第39図	
P329	0.363	0.258	0.143	-	SB03	かわらけ (4.3)、土師器 (9.7)	第20図	
P330	0.513	0.455	0.421	0.12	-	土師器 (7.1)	1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・黄褐色シルトブロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P331	0.417	0.286	0.282	-	-		10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 褐灰色シルトブロック (φ 5mm) 1%	
P332	0.339	0.323	0.415	-	SB03	身舎	第20図	
P333	0.403	0.348	0.286	-	-		10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック (φ 10~20mm) 3%、黒褐色土 5%	
P334	欠番							
P335	0.858	0.219	0.126	-	-		10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P336	0.367	0.299	0.433	0.18	SB03	土器 (3.1)	第20図	
P337	0.301	0.265	0.151	-	-		10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 褐灰色シルトブロック (φ 5mm) 1%	
P338	0.694	0.627	0.277	-	-	かわらけ (29.1)、甕 かわらけ (206)、柱状高台 (10.2)、 縄文土器 (2.3)	第28図	
P339	0.397	0.363	0.128	-	-		10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 褐灰色シルトブロック (φ 5mm) 1%	
P340	0.332	0.252	0.178	-	-		10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P341	0.57	0.481	0.152	-	SB08	土師器 (25.0)	第23図	
P342	0.334	0.302	0.062	-	-	土師器 (14.5)	10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P343	0.323	0.287	0.187	-	SB15	土器 (0.3)	第28図	

第4表 柱穴一覽 (9)

柱穴番号	長径	計測値 (m) 短径	柱径	所属建物	柱穴位置 身舎	出土遺物 (g) ※ () 内数字は重量、[] 内数字は掲載番号	土層注記
P344	0.47	0.415	0.5	SB03		第20 図	
P345	0.259	0.241	0.286	-		10YR3/1 黒褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P346	0.536	0.526	0.198	SB16		第28 図	
P347	0.297	0.266	0.217	-		10YR3/1 黒褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 20%	
P348	0.198	0.165	0.137	-		10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトブロック (φ 5~10mm) 7%	
P349	0.33	0.329	0.24	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P350	0.342	0.26	0.523	-		10YR7/1 灰白色粘土・黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P351	0.609	0.438	0.55	-		10YR7/1 灰白色粘土・黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P352 欠番							
P353 欠番							
P354	0.358	0.336	0.444	SB29		第37 図	
P355	0.256	0.246	0.407	-	かわらけ (2.1)	2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P356	0.339	0.323	0.743	SB24		第34 図	
P357	0.413	0.376	0.688	SB24		第34 図	
P358	0.226	0.193	0.374	SB29		第37 図	
P359	0.376	0.318	0.455	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P360	0.26	0.24	0.21	SB24		第34 図	
P361	0.245	0.231	0.232	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P362 欠番							
P363	0.261	0.207	0.42	SB29		第37 図	
P364	0.354	0.34	0.607	-		1 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1% 2 10YR7/1 灰白色粘土・黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P365	0.422	0.331	0.719	SB24		第34 図	
P366	0.343	0.296	0.428	-	土器 (1.6)	2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P367	0.318	0.264	0.466	SB29		第37 図	
P368	0.329	0.306	0.357	-	土器 (4.1)	2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P369	0.5	0.39	0.563	-	土器 (97.4)	第34 図	
P370	0.234	0.189	0.226	-		第34 図	
P371 欠番						10YR7/1 灰白色粘土・黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P372	0.343	0.303	0.785	SB24		第34 図	
P373	0.413	0.356	0.916	-	土器 (1.0)	1 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1% 2 H 層 灰白色粘土ブロック (φ 10mm) 5% 3 10YR7/1 灰白色粘土・黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P374 欠番							
P375	0.446	0.294	0.655	SB24		第34 図	
P376	0.578	0.478	0.398	SB24		土器 (2.3)、石器 (11.39)	
P377	0.398	0.354	0.437	-	かわらけ (4.0)	第34 図	
P378 欠番						10YR7/1 灰白色粘土・黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P379	0.274	0.242	0.536	SB24		第34 図	
P380	0.317	0.285	0.215	SB24		第34 図	
P381	0.402	0.313	0.32	SB24		第34 図	
P382	0.243	0.236	0.235	-	かわらけ (1.0)、土器 (7.4)、大甕Ⅲ [11] (16.5)、粘土塊 (4.6)	10YR7/1 灰白色粘土・黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P383 欠番							
P384 欠番							
P385 欠番							
P386 欠番							
P387	0.295	0.262	0.309	-	土器 (1.7)	2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P388	0.327	0.266	0.409	SB24		第34 図	
P389	0.373	0.356	0.277	SB24		土器 (6.9)	

第4表 柱穴一覽 (10)

柱穴番号	長さ	計測値 (m) 短径 深さ	柱径	帰属建物	柱穴位置	出土遺物 (g) ※ () 内数字は重量、[] 内数字は掲載番号	土層注記
P390	0.287	0.269	0.392	SB24		第34図	
P391	0.526	0.364	0.541	-		かわらけ (45)、須恵器 [22] (20.4)	2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%
P392	欠番					土器 (9.9)	
P393	0.374	0.368	0.428	SB24		第34図	
P394	0.277	0.227	0.238	SB24		第34図	
P395	0.262	0.237	0.192	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P396	0.353	0.346	0.371	SB19		第30図	
P397	0.287	0.255	0.204	SB24		第34図	
P398	0.352	0.303	0.55	SB19		第30図	
P399	0.243	0.222	0.161	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P400	0.305	0.288	0.193	SB19		第30図	
P401	0.285	0.246	0.482	SB19		第30図	
P402	0.274	0.263	0.25	SB26		第35図	
P403	0.237	0.214	0.231	SB27		第36図	
P404	0.216	0.189	0.233	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P405	0.26	0.227	0.231	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P406	0.257	0.235	0.217	SB27		第36図	
P407	0.345	0.33	0.149	SB26		第35図	
P408	欠番						
P409	0.303	0.268	0.156	SB27		第36図	
P410	0.278	0.245	0.259	SB27		第36図	
P411	0.274	0.193	0.236	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P412	0.333	0.306	0.482	SB26		第35図	
P413	0.3	0.241	0.317	SB27		第36図	
P414	0.288	0.235	0.354	-		1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト炭1% 2 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P415	0.395	0.348	0.248	SB20		第30図	
P416	0.279	0.243	0.363	-		2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P417	0.269	0.267	0.215	-		10YR3/3 暗褐色粘土質シルト炭1%	
P418	欠番						
P419	0.355	0.286	0.345	SB21		第31図	
P420	0.394	0.372	0.345	SB20		第30図	
P421	0.312	0.295	0.215	SB25		第35図	
P422	0.275	0.264	0.127	-		2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P423	0.218	0.183	0.143	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P424	0.19	0.169	0.165	-		2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P425	0.303	0.242	0.184	-		10YR3/3 暗褐色粘土質シルト炭1%	
P426	0.437	0.391	0.414	SB20		第30図	
P427	0.311	0.279	0.398	SB21		第31図	
P428	0.267	0.244	0.176	-		10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P429	0.409	0.377	0.361	SB20		第30図	
P430	0.297	0.26	0.417	SB21		第31図	
P431	残0.258	0.247	0.232	SB25		第35図	
P432	0.299	0.277	0.249	-		第35図	
P433	0.34	0.312	0.372	SB21		第31図	
P434	0.327	0.318	0.42	SB20		第30図	
P435	0.291	0.243	0.337	-		10YR3/3 暗褐色粘土質シルト炭1%	
P436	0.275	0.248	0.125	-		10YR3/3 暗褐色粘土質シルト炭1%	
P437	0.358	0.308	0.448	-		10YR3/3 暗褐色粘土質シルト炭1%	

第4表 柱穴一覧 (11)

柱穴番号	長さ	計測値 (m) 短径 深さ	柱径	帰属建物	柱穴位置	出土遺物 (g) ※ () 内数字は重量、[] 内数字は掲載番号	土層法記
P438	0.302	0.266	0.169	-		10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P439	0.293	0.283	0.111	SB21		第31図	
P440	0.313	0.29	0.578	-		10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1%	
P441	0.256	0.255	0.316	-		10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P442	欠番						
P443	欠番						
P444	0.358	0.348	0.299	-		10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P445	0.253	0.218	0.222	SB25		第35図	
P446	0.285	0.273	0.485	SB21		第31図	
P447	0.561	0.426	0.362	-	かわらけ (4.4)	1 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40% 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1%	
P448	0.291	0.285	0.171	SB20		第30図	
P449	0.324	0.301	0.386	-		10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1%	
P450	0.312	残0.139	0.202	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P451	0.316	0.297	0.119	SB22		第31図	
P452	0.26	0.226	0.242	SB25		第35図	
P453	0.275	0.241	0.14	SB22	滲美甕 [13] (48.3)	第31図	
P454	0.325	0.29	0.337	SB23		第32図	
P455	0.377	0.319	0.589	SB22		第31図	
P456	0.287	0.273	0.511	SB23		第32図	
P457	0.498	0.442	1.015	SB22		第31図	
P458	0.278	0.252	0.315	-		10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1%	
P459	0.309	0.297	0.438	SB23		第32図	
P460	0.253	0.24	0.445	-		10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P461	0.246	0.183	0.262	-		10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1%	
P462	0.291	0.278	0.464	-		1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 2 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P463	0.42	0.348	0.511	-		1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 2 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P464	0.261	0.214	0.498	-		1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 2 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P465	0.465	0.383	0.337	SB28		1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 炭1% 2 10YR8/2 灰白色粘土 暗褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P466	0.259	0.208	0.367	SB18	土器 (1.2)	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40%	
P467	0.311	0.232	0.48	-	鉄製品 [23] (2.5)	第36図	
P468	0.35	0.283	0.413	SB18		第29図	
P469	0.351	0.343	0.413	SB28		10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P470	0.325	0.303	0.364	SB18		第29図	
P471	0.298	0.264	0.292	SB28		第36図	
P472	0.381	0.334	0.347	SB28	土器 (1.4)	第36図	
P473	0.357	0.318	0.405	SB18		第29図	
P474	0.377	0.318	0.583	SB28		第36図	
P475	0.322	0.303	0.307	-		2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1%	
P476	0.308	0.304	0.277	SB18		第29図	
P477	0.366	0.343	0.253	-		10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P478	0.35	0.326	0.337	-		1 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40% 2 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P479	0.519	0.431	0.25	0.12	かわらけ (4.5)、甕、轆轤かわらけ小皿 [24] (20.8)	1 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 40% 2 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P480	0.278	0.274	0.556	0.16	土師器 (4.6)、土器 (4.9)	1 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1% 2 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	
P481	0.249	0.241	0.196	-		1 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土 炭・灰白色シルトブロック (φ 10mm) 各1% 2 10YR7/1 灰白色粘土 黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	

第4表 柱穴一覽 (12)

柱穴番号	長さ	計測値 短径	計測値 深さ	柱径	帰属 建物	柱穴 位置	出土遺物 (g) ※ () 内数字は重量、[] 内数字は掲載番号	土層注記
P482	0.265	0.237	0.218	—	—	—	10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロロック (φ 5~10mm) 7%	第34図
P483	0.429	0.372	0.462	0.12	SB24	—	—	第34図
P484	0.422	0.342	0.485	—	SB24	—	—	第34図
P485	0.325	0.241	0.492	0.16	SB18	土器 (28)	—	第29図
P486	0.243	0.141	0.234	—	—	—	10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロロック (φ 5~10mm) 7%	第34図
P487	0.328	0.302	0.476	—	—	土師器 (54)、土器 (19)	10YR4/2 灰黄褐色シルト黄褐色シルトプロロック (φ 5mm) 5%	第34図
P488	0.431	0.357	0.281	—	—	鉄製品 [25] (53.4)	1 10YR3/2 黒褐色シルト炭・黄褐色シルトプロロック各1% 柱痕跡 2 10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロロック (φ 5~10mm) 7%	第34図
P489	0.232	0.215	0.286	—	—	土師器 (53)	10YR3/1 黒褐色シルト黄褐色シルトプロロック (φ 5~10mm) 7%	第34図
P490	0.401	残0.297	0.175	—	—	—	—	第34図
P491	0.396	0.322	0.585	—	SB24	—	—	第34図
P492	0.281	0.278	0.31	—	—	—	—	第34図
P493	0.284	0.265	0.619	0.12	—	—	1 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・灰白色シルトプロロック (φ 10mm) 各1% 2 10YR7/1 灰白色粘土・黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	第34図
P494	0.169	0.161	0.191	—	—	—	—	第34図
P495	0.284	0.191	0.24	—	—	—	—	第34図
P496	0.369	0.315	0.279	—	—	—	—	第34図
P497	0.244	0.21	0.419	0.15	SB28	かわらけ (28)	10YR7/1 灰白色粘土・黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む	第36図
P498	0.266	0.265	0.236	0.19	SB28	—	—	第36図
P499	欠番	—	—	—	—	—	—	第36図
P500	0.381	0.318	0.352	0.16	SB24	—	—	第34図
P501	欠番	—	—	—	—	—	—	第34図
P502	0.452	0.334	0.673	—	—	土器 (74)	2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトプロロック (φ 10mm) 各1%	第34図
P503	0.494	0.232	0.228	—	—	—	1 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 褐灰色粘土プロロック (φ 10mm) 1% 2 10YR2/2 黒褐色粘土 灰白色粘土プロロック (φ 5mm) 1%、炭極微量	第34図
P504	0.439	0.391	0.39	0.18	SB24	かわらけ (63)	—	第34図
P505	0.288	0.265	0.194	—	SB19	—	—	第30図
P506	0.133	0.112	0.565	—	—	—	1 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトプロロック (φ 10mm) 各1% 2 10YR7/1 灰白色粘土・黒褐色シルト質粘土と灰白色粘土を3:7で含む 柱痕跡 3 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト 灰白色粘土プロロック (φ 10mm以下) 40%	第30図
P507	0.418	0.398	0.373	—	—	土器 (16)	—	第35図
P508	0.303	0.285	0.346	0.15	SB25	—	—	第35図
P509	0.303	残0.268	0.091	—	—	—	—	第35図
P510	0.286	0.205	0.257	—	SB28	—	—	第36図
P511	0.334	0.28	0.386	—	SB26	—	—	第35図
P512	0.387	0.284	0.119	—	—	—	—	第35図
P513	0.462	0.362	0.598	0.18	—	—	1 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土・炭・灰白色シルトプロロック (φ 10mm) 1% 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト炭1% 3:3の割合で混合)	第37図
P514	0.279	0.256	0.507	—	SB29	—	—	第37図
P515	0.274	0.252	0.279	—	SB29	土器 (36)	—	第37図
P516	0.379	0.312	0.447	—	—	—	—	第37図
P517	0.381	0.342	0.266	—	SB29	—	—	第37図
SK02	残0.473	残0.407	0.436	—	SB14	土師器 (23.4)、かわらけ [160] (19.5)、縄文土器 (0.8)	—	第27図
SK05	0.8	残0.497	0.407	—	SB14	土師器 (8.0)、かわらけ [176]	—	第27図
SK08	0.601	0.475	0.118	0.28	SB09	土師器 (7.3)、かわらけ [161] (18.4)、かわらけ (13.6)、土器 (1.9)	—	第24図
SK09	0.837	0.699	0.284	0.28	SB01	かわらけ (20.2)	—	第18図
SK10	0.564	0.522	0.32	—	SB01	かわらけ (1.6)	—	第18図

第5表 土器観察表(1)

掲載No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	口径	計測値(cm)	器高	重量(g)	調整(外面/内面/底部)	色調	備考	図版No.	写真No.
5	かわらけ	甕	P158 堆積土中～下位	完形	9.0	6.4	1.8	79.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙	甕 小B類	52	35
6	かわらけ	甕	P128 柱裏跡直下	口～底	(8.0)	(6.1)	<1.7>	9.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5Y6/4 におい橙	甕 小B類	52	35
7	土師器	環	P280 柱裏跡直下	底部	-	(6.0)	-	13.9	回転ナデ/-/回転糸切り→ケズリ	5YR5/6 明赤褐		52	35
18	かわらけ	甕	P318 床面直上(カマド南)	口～底	(15.1)	(8.2)	4.1	44.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙		52	36
19	かわらけ	手づくね 大	P338 土師器	口～胴	(12.6)	-	<3.0>	21.0	構ナデ・指頭押圧/構ナデ/-	10YR6/2 灰白		52	36
20	かわらけ	甕	P338 土師器	高台部	-	(4.1)	<3.1>	60.5	回転ナデ/-/回転糸切り	7.5YR7/4 におい橙		52	36
24	かわらけ	甕	P479 土師器	口～底	(8.0)	(5.4)	1.8	20.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/4 におい黄橙	甕 小B類	52	36
26	須恵器	環	S101 カマド No.8	口～底	(13.0)	(7.6)	3.8	43.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	2.5Y6/2 灰黄		53	37
27	須恵器	環	S101 カマド No.1	完形	13.6	7.3	3.7	172.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR4/1 褐灰	内外面に火傷痕	53	37
28	須恵器	環	S101 床面直上(カマド南)	口～底部	(12.9)	(6.9)	3.9	25.1	回転ナデ/回転ナデ/静止糸切り	5Y5/1 灰		53	37
29	土師器	甕	S101 カマド 裡出し一括	口～胴	(24.0)	-	<24.1>	571.5	縦ハケ→横ハケ/横ハケ/-	7.5YR7/3 におい橙		53	37
30	土師器	甕	S101 2層	口～胴	(20.6)	-	<12.4>	211.9	横ナデ・縦ハケ→ヘラナデ/横ナデ・横ハケ/-	5YR6/8 橙		53	37
31	土師器	甕	S101 カマド周辺 堆積土上位	底部	-	(8.8)	<6.0>	7.38	縦ハケ/横ハケ/-	5YR5/8 明赤褐		53	37
32	土師器	甕	S101 カマド No.3・9	頸～底	(10.4)	7.4	<7.3>	161.5	ナデ/横ナデ/-	7.5YR5/4 におい褐	非甕 成形、二次被熱、器面摩耗	53	37
33	土師器	甕	S101 カマド No.3～5、2層 P340 P487	口～胴	14.3	-	<10.9>	241.9	回転ナデ/ヘラナデ/-	10YR6/3 におい黄橙		53	37
34	土師器	甕	S101 カマド No.6	口～胴	(27.0)	-	<11.1>	168.1	回転ナデ→ヘラケズリ/回転ナデ→ヘラケ/-	5YR7/8 橙		53	38
35	土師器	甕	S101 堆積土	口～胴	(14.8)	-	<9.3>	47.6	回転ナデ/回転ナデ/-	7.5YR6/4 におい橙		54	38
36	土師器	甕	S101 カマド No.9	底部	-	7.2	<7.6>	92.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/8 橙	ススコケ	54	38
37	土師器	甕	S101 カマド No.10	胴～底	-	7.8	<12.4>	176.1	-/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR5/4 におい褐		54	38
38	土師器	甕	S101 カマド No.11	底部	-	(7.6)	-	83.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR7/6 橙		54	38
44	かわらけ	甕	SD01 C区 堆積土上位	完形	8.7	5.6	1.5	38.0	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙	甕 小A類 器面摩耗、甕 小B類	55	39
45	かわらけ	甕	SD01 B区 堆積土上位	口～底	(9.0)	(6.8)	<2.2>	14.1	回転ナデ/回転ナデ/-	10YR7/3 におい黄橙		55	39
46	かわらけ	甕	SD01 A区 堆積土上位	口～底	(8.4)	(6.4)	<1.9>	10.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/2 におい黄橙		55	39
47	かわらけ	甕	SD01 C区 堆積土上位	完形	9.8	6.6	1.7	71.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙		55	39
48	かわらけ	甕	SD01 A区 堆積土上位	口～底	(8.8)	(6.8)	1.9	19.9	回転ナデ/回転ナデ/-	10YR7/3 におい黄橙		55	39
49	かわらけ	甕	SD01 B区 堆積土上位	口～底	(8.4)	(6.0)	<2.0>	40.7	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/4 におい橙		55	39
50	かわらけ	甕	SD01 C区 堆積土上位	口～底	(8.8)	(6.4)	<1.9>	27.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR7/6 橙		55	39
51	かわらけ	甕	SD01 A区 堆積土上位	口～底	(9.1)	(6.2)	2.0	44.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/3 におい橙		55	39
52	かわらけ	甕	SD01 C区 堆積土下位	口～底	(9.0)	(6.4)	<2.4>	12.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/4 におい橙		55	39
53	かわらけ	甕	SD01 B区 堆積土下位	口～底	(8.8)	(5.8)	1.3	13.1	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/2 におい黄橙		55	39
54	かわらけ	甕	SD01 B区 堆積土最下位(礫層)	口～底	(9.6)	(6.6)	<1.8>	19.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/3 におい黄橙		55	39
55	かわらけ	甕	SD01 B区 堆積土最下位(礫層)	口～底	(8.2)	(6.0)	<1.6>	15.1	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/2 におい黄橙		55	39
56	かわらけ	甕	SD01 B区 堆積土最下位(礫層)	口～底	(8.8)	(6.2)	<2.7>	11.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/4 におい黄橙		55	39
57	かわらけ	甕	SD01 A区 底面直上(礫層)	口～底	(9.6)	(5.5)	1.7	33.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙		55	39
58	かわらけ	甕	SD01 A区 底面直上(礫層)	口～底	(9.7)	(7.0)	<1.9>	19.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR6/2 灰黄褐		55	39
59	かわらけ	甕	SD01 A区 底面直上(礫層)	口～底	(7.9)	(5.7)	2.0	16.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR5/2 灰黄褐		55	39
60	かわらけ	甕	SD01 A区 底面直上(礫層)	完形	8.3	6.4	1.9	61.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り・スノコ痕	5YR6/6 橙	スス、甕 小B類	55	39
61	かわらけ	甕	SD01 A区 遺物集中1～4、C区 堆積土下位	完形	(9.2)	(6.3)	<2.3>	69.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/4 におい橙		55	40
62	かわらけ	甕	SD01 A区 遺物集中1～4	口～底	(9.1)	(5.8)	1.8	8.9	回転ナデ/回転ナデ/-	10YR5/1 褐灰		55	40
63	かわらけ	甕	SD01 A区 遺物集中1～4、C区 堆積土下位	完形	9.4	6.5	2.3	78.1	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙		55	40
64	かわらけ	甕	SD01 A区 遺物集中1～4	完形	8.9	5.6	2.2	75.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/4 におい橙		55	40
65	かわらけ	甕	SD01 A区 遺物集中1～4	完形	(9.6)	(6.1)	<2.3>	102.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/4 におい橙		56	40
66	かわらけ	甕	SD01 A区 遺物集中1～4	完形	(9.7)	(6.5)	<2.2>	99.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR6/6 橙		56	40
67	かわらけ	甕	SD01 A区 遺物集中1～4	完形	(8.2)	(6.2)	<2.4>	93.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/4 におい橙		56	40
68	かわらけ	手づくね 小	SD01 C区 堆積土上位	口～底	(9.3)	(6.8)	<1.6>	7.5	構ナデ/横ナデ/指頭押圧	10YR7/2 におい黄橙		56	40
69	かわらけ	手づくね 小	調査区北側 黒褐色土	口～底	(10.3)	-	2.0	17.8	横ナデ/横ナデ/指頭押圧	5YR6/6 橙		56	40

第5表 土器観察表(2)

掲載No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	口径	計測値 (cm)	器高	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	色調	備考	図版 No.	写図 No.
70	かわらけ	手づくね 小	調査区北側 黒褐色土	口~胴	(84)	-	<20>	6.9	横ナデ/横ナデ/指頭押圧	7.5YR6/6 橙		56	40
71	かわらけ	甕 環形	SD01 B区 堆積土上位	胴~底	-	(60)	<37>	380	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/3 にぶい黄橙	甕大A類	56	40
72	かわらけ	甕 環形	SD01 A区 堆積土上位	胴~底	-	(77)	<37>	370	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR6/2 灰黄褐	甕大A類	56	40
73	かわらけ	甕 環形	SD01 A区 堆積土上位	底部	(96)	(60)	<27>	430	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR6/3 にぶい黄橙	甕大A類	56	41
74	かわらけ	甕 環形	SD01 B区 堆積土上位	底部	-	(84)	<30>	601	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/3 にぶい黄橙	甕大A類	56	41
75	かわらけ	甕 環形	SD01 A区 堆積土下位	胴~底	-	(64)	3.4	263	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	甕大A類	56	41
76	かわらけ	甕 環形	SD01 A区 堆積土下位	胴~底	-	6.5	<34>	695	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/4 にぶい黄橙	甕大A類	56	41
77	かわらけ	甕 環形	SD01 A区 堆積土下位	胴~底	-	(79)	<31>	599	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/4 にぶい黄橙	甕大A類	56	41
78	かわらけ	甕 環形	SD01 B区 堆積土最下位 (礫層)	底部	-	(72)	<30>	740	回転ナデ/回転ナデ/スノコ裏	2.5Y5/2 暗灰黄	甕大A類	56	41
79	かわらけ	甕 環形	SD01 B区 堆積土最下位 (礫層)	胴~底	-	(80)	<32>	397	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/3 にぶい黄橙	甕大A類	56	41
80	かわらけ	甕 環形	SD01 B区 堆積土最下位 (礫層)	胴~底	-	(62)	<35>	422	回転ナデ/回転ナデ/スノコ裏	2.5Y7/2 灰黄	甕大A類	56	41
81	かわらけ	甕 環形	SD01 B区 堆積土最下位 (礫層)	口~底	(13.3)	(66)	4.6	31.8	回転ナデ/回転ナデ/-	10YR7/3 にぶい黄橙	器面摩耗、甕大A類	56	41
82	かわらけ	甕 環形	SD01 A区 底面直上 (礫層)	胴~底	-	(82)	<40>	71.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/2 にぶい黄橙	甕大A類	56	41
83	かわらけ	甕 大	SD01 A区 底面付近	口~底	(12.7)	(60)	3.8	47.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/4 にぶい橙	甕大A類	57	41
84	かわらけ	甕 大	SD01 B区 堆積土下位	口~胴	(12.0)	-	<34>	26.3	回転ナデ/回転ナデ/-	5YR6/6 橙	北弘張区検出中(黒褐色土)、甕大A類	57	41
85	かわらけ	甕 大	SD01 B区 堆積土最下位 (礫層)	胴~底	-	8.6	-	117.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り・スノコ裏か	5YR6/6 橙	甕大A類	57	41
86	かわらけ	甕 大	SD01 A区 堆積土上位	口~底	(11.8)	(80)	3.7	21.0	回転ナデ/回転ナデ/-	5YR6/6 橙	内面に油脂付着、二次被熱、ススコケ、燈明皿、甕大B類か	57	41
87	かわらけ	手づくね 大	SD01 C区 底面直上・堆積土上位	完形	13.9	8.6	3.5		指頭押圧→横ナデ(一段)/横ナデ(一段)/指頭押圧	10YR7/3 にぶい黄橙		57	41
88	かわらけ	手づくね 大	SK11 堆積土上位	口~底	(15.3)	-	3.0	29.1	指頭押圧→横ナデ/横ナデ/-	5YR7/6 橙		57	41
89	かわらけ	甕 器台 (柱状高台)	SD01 B区 堆積土最下位 (礫層)	口~底	(14.8)	-	<2.9>	27.6	横ナデ/横ナデ/-	5YR7/4 にぶい橙	油脂付着か	57	41
90	かわらけ	甕 器台 (柱状高台)	SD01 B区 堆積土上位	高台部	-	(5.0)	<2.3>	42.4	回転ナデ/-/回転糸切り	5YR6/6 橙	器面摩耗	57	41
91	かわらけ	甕 大	SD01 A区 底面付近	胴~底	-	5.8	<3.8>	116.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/3 にぶい橙	器面摩耗	57	41
92	かわらけ	甕 器台 (柱状高台)	SD01 BC間ベルト 堆積土最下位 (礫層)	高台部	-	5.0	-	73.3	回転ナデ/-/回転糸切り	10YR8/2 灰白		57	41
116	土師器	環	SD01 C区 堆積土上位	口~胴	(13.8)	-	<4.2>	32.0	回転ナデ/黒色処理・ミガキ/-	10YR6/4 にぶい黄橙		59	43
117	土師器	環	SD01 B区 堆積土上位	胴~底	-	(6.4)	<37>	25.2	回転ナデ/黒色処理・ミガキ/回転糸切り	10YR6/4 にぶい黄橙		59	43
118	土師器	環	SD01 C区 堆積土上位	口~底	(13.6)	(6.3)	5.3	43.2	回転ナデ/回転ナデ/回転ケズリ	5YR5/8 明赤褐		59	43
119	土師器	環	SD01 B区 堆積土最下位 (礫層)	口~底	(13.8)	-	<4.3>	17.8	回転ナデ/黒色処理・ミガキ/-	10YR6/4 にぶい黄橙		59	43
120	土師器	環	SD01 C区 堆積土上位	口~胴	(13.0)	-	<3.7>	16.0	回転ナデ/回転ナデ/-	10YR7/4 にぶい黄橙		59	43
121	土師器	環	SD01 B区 堆積土下位	口~底	(15.2)	(6.4)	5.2	49.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR6/1 褐灰		59	43
122	土師器	環	SD01 B区 堆積土上位	口~底	(13.8)	(6.2)	<5.0>	16.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR6/3 にぶい黄橙		59	43
123	土師器	環	SD01 B区 堆積土上位	口~胴	(14.0)	-	<4.8>	20.0	沈線、口縁端部押圧/ナデ/-	7.5YR6/4 にぶい黄橙	晩期	59	43
129	縄文土器	深鉢	SD01 AB間ベルト 堆積土上位	口縁部	-	-	-	28.0	沈線、口縁端部押圧/ナデ/-	10YR5/3 にぶい黄褐	晩期	59	44
130	縄文土器	深鉢	SD01 B区 堆積土上位	口縁部	-	-	-	20.1	沈線、刺突文、口縁端部押圧/ナデ/-	10YR6/4 にぶい黄褐	晩期	59	44
131	縄文土器	深鉢	SD01 B区 堆積土上位	口縁部	-	-	-	21.4	結節 LR/ナデ/-	10YR4/2 灰黄褐	晩期か	59	44
132	縄文土器	壺	SD01 C区 堆積土下位	胴部	-	-	-	10.5	工字文/ナデ/-	10YR6/3 にぶい黄橙	大洞A式	59	44
133	縄文土器	深鉢	SD01 C区 堆積土上位	口縁部	-	-	-	46.1	沈線、口縁端部押圧/ナデ/-	10YR5/2 灰黄褐	晩期	59	44
134	縄文土器	鉢	SD01 C区 堆積土下位	口縁部	-	-	-	16.8	LR→沈線、刺突文/沈線/-	10YR4/2 灰黄褐	大洞A式	59	44
135	縄文土器	鉢	P143 (SB11)	口~胴	-	-	-	12.6	LR→沈線、刺突文/ナデ/-	10YR6/4 にぶい黄橙	晩期	59	44
137	かわらけ	甕 小	SD02 C区 堆積土	口~底	(80)	(6.8)	<2.3>	21.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/4 にぶい橙	甕小A類	60	44
138	かわらけ	甕 小	SD02 A区 堆積土上位	口~底	(7.4)	(6.6)	<2.3>	20.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/4 にぶい橙	甕小A類	60	44
139	かわらけ	甕 小	SD02 A区 遺物集中6	完形	8.9	6.6	2.3	86.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙	甕小B類	60	44
140	かわらけ	手づくね 小	SD02 A区 遺物集中5	口~底	(9.2)	-	1.8	15.9	横ナデ/横ナデ/指頭押圧	10YR7/3 にぶい黄橙		60	44
141	かわらけ	甕 大	SD02 A区 堆積土上位	口~胴	(14.0)	-	<3.0>	21.0	回転ナデ/回転ナデ/-	5YR6/6 橙	器面摩耗	60	44

第5表 土器観察表 (3)

掲載No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	色調	備考	図版No.	写真No.
142	かわらけ	甕	SD02 A区 堆積土上位 遺物集中3	口~胴	口径 (140) 器高 <32> 底径 -	16.1	回転ナデ/回転ナデ/-	10YR7/3 にぶい黄橙	器面摩耗	60	44
143	かわらけ	甕	SD02 B区 堆積土上位	口~胴	口径 (11.9) 器高 <33> 底径 -	11.3	回転ナデ/回転ナデ/-	5YR6/6 橙	器面摩耗、甕大A類	60	44
144	かわらけ	甕	SD02 A区 遺物集中2	口~底	口径 (130) 器高 40 底径 (70)	50.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙	甕大A類	60	45
145	かわらけ	甕	SD02 B区 遺物集中8	胴~底	口径 - 器高 - 底径 (6.2)	31.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR7/4 にぶい橙	甕大A類	60	44
146	かわらけ	甕	SD02 A区 遺物集中5	口~底	口径 (12.8) 器高 39 底径 (8.7)	30.2	回転ナデ/回転ナデ/-	7.5YR7/4 にぶい橙	器面摩耗、甕大A類	60	45
147	かわらけ	甕	SD02 B区 遺物集中9	口~底	口径 (160) 器高 41 底径 (80)	80.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙	甕大A類	60	45
148	かわらけ	甕	SD02 A区 遺物集中5	口~底	口径 (140) 器高 32 底径 (85)	33.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/4 にぶい橙	甕大A類	60	45
149	かわらけ	甕	SD02 B区 遺物集中8	口~底	口径 (13.2) 器高 40 底径 (8.2)	49.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	7.5YR7/4 にぶい橙	器面摩耗、甕大A類	60	44
150	かわらけ	甕	SD02 A区 遺物集中3	口~底	口径 (12.8) 器高 4.2 底径 7.5	19.1	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙	甕大A類	60	45
151	かわらけ	甕	SD02 A区 遺物集中4・8	完形	口径 13.6 器高 4.2 底径 7.7	187.9	回転ナデ/回転ナデ/-	5YR6/6 橙	器面摩耗、甕大A類	60	45
158	かわらけ	手づくね 小	SK01 堆積土下位	口~底	口径 (80) 器高 1.7 底径 -	12.2	横ナデ/横ナデ/指頭押圧	5YR6/6 橙	A類	62	46
160	かわらけ	甕	SK02 堆積土	口~胴	口径 (16.3) 器高 <27> 底径 -	19.5	回転ナデ/回転ナデ/-	5YR6/6 橙		52	35
161	かわらけ	甕	SK08 堆積土上位	口~底	口径 (130) 器高 <34> 底径 -	18.4	回転ナデ/回転ナデ/-	10YR7/3 にぶい黄橙	油脂付着	52	35
163	かわらけ	甕	SK13 堆積土上位	口~底	口径 (8.3) 器高 20 底径 (60)	15.7	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙	甕小B類	62	46
164	かわらけ	甕	SK15 堆積土	口~底	口径 (8.6) 器高 <1.9> 底径 (5.8)	61.7	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	5YR6/6 橙	甕小B類	62	46
165	かわらけ	甕	SK15 堆積土中~下位	口~胴	口径 (13.6) 器高 <3.4> 底径 -	12.3	回転ナデ/回転ナデ/-	5YR6/6 橙		62	46
167	縄文土器	深鉢	北側低地 黒褐色土	胴~底	口径 - 器高 (11.0) 底径 <8.9>	97.0	RL/ナデ/-	10YR6/3 にぶい黄橙		63	46
168	土師器	坏	北側拡張区 黒褐色土	胴~底	口径 - 器高 <3.0> 底径 (6.8)	38.6	回転ナデ/黒色処理・ミガキ/回転糸切り	10YR6/3 にぶい黄橙		63	46
169	須置器	坏	北側拡張区 検出中	口~底	口径 13.9 器高 6.0 底径 4.9	92.3	回転ナデ/回転ナデ/-	10YR7/2 にぶい黄橙		63	46
170	須置器	甕	北側拡張区 検出中	頸~胴	口径 - 器高 <10.2> 底径 -	55.4	タタキ→回転ナデ/回転ナデ/-	10YR7/2 にぶい黄橙		63	46
172	かわらけ	甕	北側拡張区 検出中	高台部	口径 - 器高 <2.3> 底径 (5.2)	40.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR7/4 にぶい黄橙		63	46
173	かわらけ	甕	北側低地 トレンナ① 黒褐色土	胴~底	口径 - 器高 <3.8> 底径 (7.3)	70.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	10YR6/4 にぶい黄橙	甕大A類	63	46
174	かわらけ	手づくね 小	北側低地 黒褐色粘土	口~底	口径 (10.2) 器高 <2.0> 底径 -	14.6	横ナデ・指頭押圧/横ナデ/指頭押圧	5YR6/6 橙		63	47
175	かわらけ	手づくね 小	北側拡張区 黒褐色土	口~底	口径 (8.9) 器高 2.1 底径 -	32.9	横ナデ/横ナデ/指頭押圧	7.5YR8/4 浅黄橙		63	46
176	かわらけ	手づくね 小	北側拡張区 検出中	口~胴	口径 (10.0) 器高 <1.8> 底径 -	11.1	横ナデ・指頭押圧/横ナデ/スノコ裏	10YR7/3 にぶい黄橙		63	47
177	かわらけ	手づくね 小	北側拡張区 検出中	口~底	口径 (10.0) 器高 2.0 底径 -	20.8	横ナデ/横ナデ/-	5YR6/4 にぶい黄橙	器面摩耗	63	47
178	かわらけ	手づくね 大	北側低地 黒褐色粘土	口~胴	口径 (15.0) 器高 <3.7> 底径 -	22.7	回転ナデ/回転ナデ/-	7.5YR7/3 にぶい黄橙		63	47
179	かわらけ	手づくね 大	北側低地 黒褐色土	口~底	口径 (14.3) 器高 <3.1> 底径 -	19.0	横ナデ・指頭押圧/横ナデ/-	7.5YR7/4 にぶい黄橙		63	47
180	かわらけ	手づくね 大	北側低地 トレンナ① 黒褐色土	口~底	口径 (15.2) 器高 <3.1> 底径 -	20.0	横ナデ・指頭押圧/横ナデ/-	5YR6/6 橙		63	47
181	かわらけ	手づくね 大	出土地点不明	口~胴	口径 (15.0) 器高 2.8 底径 -	18.3	横ナデ/横ナデ/-	5YR6/6 橙	器面摩耗	63	47
182	かわらけ	手づくね 大	北側拡張区 黒褐色土	口~底	口径 (13.8) 器高 <2.8> 底径 -	21.9	横ナデ (二段)・指頭押圧/横ナデ/指頭押圧	5YR6/6 橙		63	47

※計測値欄の () は復元値、< > は残存値

第6表 陶磁器観察表(1)

掲載No.	種別	器種	産地	製作年代	遺構・地点・層位	残存部位	重量(g)	釉薬	文様・調整など	備考	図版No.	写真No.
1	陶器	甕	常滑	12C	P071	口縁部	39	自然釉			52	35
2	陶器	甕	瀬美	12C	P296	胴部	6.3	透明釉			52	35
3	磁器	染付 皿	中国	15~16C	P51	口~底	75.0	灰釉	球取獅子	小野福年B-VII	52	35
8	陶器	折縁皿	瀬美	大窯3~4	P388	口~胴	11.7	灰釉	内面、丸ノミ状工具によるソギ、灰釉(黄色味が強い)		52	35
9	陶器	折縁皿	瀬美	大窯3~4	P388	口~胴	7.7	灰釉	内面、丸ノミ状工具による波状文、内外面に灰釉		52	35
10	陶器	内弁皿	瀬美	大窯3~4	P388	底部	2.9	灰釉	内底面種削ぎ、灰釉、底面に重ね焼きの痕跡		52	35
11	陶器	内弁皿	瀬美	大窯3~4	P381	底部	13.3	灰釉	内底面種削ぎ、灰釉、底面に重ね焼きの痕跡		52	35
12	陶器	甕	常滑?	12C?	P357	胴部	13.9	透明釉	内外面赤褐色		52	35
13	陶器	甕	瀬美	12C	P452	胴部	48.3	透明釉	押し印(格子文)		52	36
14	陶器	甕	常滑?	12C?	P314	胴部	13.7	自然釉	内外面 部分的に自然釉		52	36
15	陶器	鉢	瀬美	12C	P008	胴部	30.0	透明釉			52	36
16	陶器	鉢	常滑	12C	P173	胴部	18.5	自然釉	上半部に自然釉、内面摩耗		52	36
17	磁器	白磁 皿	中国	16C前	P300	口~底	14.2	透明釉	裏面に砂粒、白濁釉に黒色粒が少量混入	E-26	52	36
22	須臾器	皿	-	9~10C	P391	胴部	20.4	透明釉	外：平行タタキ、内：平行当て具痕、断面紫色		52	36
43	磁器	皿	肥前	18~19C	SD01	胴部	10.3	透明釉	染付		54	38
85	陶器	輪轆 大	-	12C	SD01 B区	胴~底	117.9	透明釉	底部糸切痕、外面輪轆ナデ		57	41
93	陶器	甕	瀬美	12C	SD01 C区	胴部	16.5	透明釉	押し印		57	42
94	陶器	甕	常滑	12C	SD01 C区	胴部	27.3	透明釉	内面が赤褐色に発色、外面は灰色		57	42
95	陶器	甕	常滑	12C	SD01 B区	胴部	25.2	透明釉	押し印(格子文)		57	42
96	陶器	甕	常滑	12C	SD01 B区	胴部	4.5	透明釉			57	42
97	陶器	甕	常滑	12C	SD01 A区	胴部	45.9	透明釉			57	42
98	陶器	甕	常滑	12C	SD01 C区	胴部	37.5	透明釉	内外面赤褐色に発色		57	42
99	陶器	甕	常滑	12C	SD01 B区	胴部	156.5	透明釉	押し印(長格子文)		57	42
100	陶器	甕	常滑	12C	SD01 B区	胴部	143.4	透明釉	押し印(長格子文)		57	42
101	陶器	甕	常滑	12C	SD01 A区	胴部	174.5	透明釉	押し印(長格子文)		57	42
102	陶器	鉢	常滑	12C	SD01 B区	胴部	217.2	透明釉	押し印(格子文)		57	42
103	陶器	鉢	常滑	12C	SD01 B区	胴部	331.3	透明釉	外：横位ヘラケズリ	底部内面摩滅(使用痕)	58	42
104	陶器	鉢	常滑	12C	SD01 A区	胴部	49.0	透明釉	外：横位ヘラケズリ	内面摩滅(使用痕)	58	42
105	陶器	鉢	常滑	12C	SD01 A区	胴部	66.4	透明釉	外：横位ヘラケズリ	内面摩滅(使用痕)	58	42
106	陶器	甕	常滑	12C	SD01 B区	胴部	32.5	自然釉			58	42
107	陶器	鉢	常滑	12C	SD01 B区	胴部	10.5	自然釉	内：降灰(自然釉まだらに)		58	42
108	陶器	甕	常滑	12C	SD01 B区	胴部	66.8	透明釉	輪轆痕に粗いナデ		58	42
109	陶器	甕	瀬美	12C	SD01 B区	胴部	22.5	透明釉	押し印(長格子文)		58	42
110	陶器	甕	瀬美	12C	SD01 B区	胴部	238.4	透明釉	輪轆痕を粗くナデ(ヘラナデ)		58	42
111	陶器	甕	瀬美	12C	SD01 A区	胴部	334.0	透明釉	縦~斜位、ヘラナデ		58	43
112	陶器	甕	瀬美	12C	SD01 B区	胴部	182.4	透明釉	内底面に降灰あり		58	43
113	陶器	甕	水沼?	12C	SD01 B区	胴部	72.1	透明釉	押し印(格子文)、断面赤褐色		58	42
114	磁器	白磁 壺	中国	12C	SD01 A区	胴部	26.0	透明釉	貫入あり、外面あばた状にくぼむ	大宰府分類II系	58	43
115	陶器	甕	大甕相馬	18C	SD01 C区	口縁部	8.1	灰釉	徳利か、口縁部片		58	43
124	須臾器	甕	-	9~10C	SD01 B区	胴部	42.3	透明釉	外：平行タタキ(交差)、内：平行当て具痕、断面紫色		59	43
125	須臾器	甕	-	9~10C	SD01 C区	胴部	6.1	透明釉	外：平行タタキ、内：当て具痕が、断面赤褐色		59	43
126	須臾器	甕	-	9~10C	SD01 堆積土最下位(礫層)	胴部	32.0	透明釉	外：平行タタキ、内：当て具痕		59	43
127	須臾器	甕	-	9~10C	SD01 A区	胴部	56.5	透明釉	外：平行タタキ、内：同心円当て具痕		59	43
152	陶器	壺	常滑	12C	SD02 B区	胴部	7.6	透明釉			60	45
153	陶器	壺	瀬美	12C	SD02 A区	胴部	43.9	透明釉			60	45
159	須臾器	甕	-	9~10C	SK01	胴部	12.1	透明釉	外：平行タタキ、内：当て具痕		62	46
162	陶器	壺	瀬美	12C	SK12	胴部	37.0	透明釉	縦~斜位ヘラナデ		62	46
166	陶器	甕	常滑	12C	SK15	胴部	36.8	自然釉	押し印(格子文)		62	46
171	須臾器	甕	-	9~10C	北側坂区 II層	胴部	19.0	透明釉	高台貼付 底部粘土口縁痕も観察される		63	46
183	陶器	甕	常滑	12C	北側坂区 検出中	胴部	25.9	透明釉	内面に降灰		63	47
184	陶器	甕	常滑	12C	北側坂区 検出中	胴部	92.6	透明釉	斜位ヘラナデ		63	47
185	陶器	甕	常滑	12C	北側坂区 検出中	胴部	86.7	透明釉	押し印(格子文)		63	47
186	陶器	甕	常滑	12C	出土地点不明	胴部	13.9	透明釉			63	47
187	陶器	甕	常滑	12C	北側低地 II層	胴部	8.8	透明釉			63	47
188	陶器	甕	常滑	12C	北側低地 II層	胴部	108.2	透明釉			63	47
189	陶器	鉢	常滑	12C	北側坂区 検出中	底部	103.4	透明釉	外：横位ヘラケズリ	底部内面摩滅(使用痕)	63	47

第6表 陶磁器観察表 (2)

掲載 No.	掲載	種別	器種	産地	製作年代	遺構・地点・層位	残存部位	重量 (g)	釉薬	文様・調整など	備考	図版 No.	写真 No.
190	陶器	壺	瀬美	中国	12C	北側拡張区 検出中	頸部	16.2	自然釉			63	47
191	陶器	壺	中国	中国	12C	北側拡張区 検出中	口~胴	163.9	自然釉			64	47
192	磁器	白磁 壺	中国	中国	12C	北側低地 黒褐色土	胴部	17.7	透明釉		大塚序分類II系	64	47
193	磁器	青白磁 杖	中国	中国	12C?	北側低地 黒褐色粘土	不明	4.7	透明釉		内面に布目痕	64	47
194	磁器	青磁 碗	中国	中国	12C	北側拡張区 検出中	底部	16.6	青磁釉		貫入あり	64	47
195	陶器	磁皿	瀬戸美濃	中国	大塚 3~4	北側拡張区 I層	胴~底	14.9	灰釉			64	47
198	漆器	椀			中世か	SD01 堆積土	胴部	-	-		外：赤漆・黒漆	-	43

第7表 金属製品観察表

掲載 No.	材質	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)	重量 (g)	備考	図版 No.	写真 No.
4	銅	洪武通宝	P51 堆積土上位	2.2 2.2 0.1	3.3	初鋳1368年	52	35
23	鉄	縁金具	P467	2.6 0.9 0.3	2.5		52	36
25	鉄	刀子	P489	[7.7] 1.7 0.4	53.4	刃部先端・基部端欠損	52	36
39	鉄	小札	SI01 カマド周辺 堆積土	5.5 2.5 0.2	7.8	穿孔6~8個か	54	38
40	鉄	釘	SI01 カマド周辺 堆積土	4.9 0.7 0.7	14.8		54	38
41	鉄	不明	SI01 カマド 土塊サンプル	3.2 3.2 0.2	5.1	中央部に穿孔1個	54	38
42	鉄	刀子	SI01 堆積土上位	[3.9] [1.4]	10.9		54	38
128	鉄	羽釜	SD01 B区 堆積土最下位 (礫層)	[4.4] (57.2)	355.6	鈎部分、長は器高、幅は直径	59	44

※計測値欄の () は復元値、[] は残存値

第8表 石器観察表

掲載 No.	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)	重量 (g)	石質	備考	図版 No.	写真 No.
21	敲磨器	P375	7.15 4.97 3.41	113.9	安山岩		52	35
136	砥石	SD01 A区 底面直土 (礫層)	(9.44) (8.27) (2.49)	202.3	砂岩	敲磨C類	59	44
154	敲磨器	SD02 B区 遺物集中7	14.2 8.9 4.5	688.3	砂岩	敲磨A類	62	45
155	敲磨器	SD02 堆積土上位	6.65 5.95 2.72	134.9	砂岩	敲磨A類	62	45
156	砥石	SD02 A区 遺物集中1	9.22 3.51 1.91	77.8	凝灰岩		62	45
157	敲磨器	SD02 B区 遺物集中7	9.93 7.93 3.87	346	砂岩	敲磨AB類	62	45
196	石鏃	北側副帯区 黒褐色粘土	3.71 1.37 0.45	1.6	頁岩	有舌式	64	47
197	搔器	北側副帯区 SD01付近 黒褐色土	4.62 3.53 1.40	21.0	頁岩	磨減	64	47

※計測値欄の [] は残存値

4 自然科学分析

(1) 放射性炭素年代測定

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

南日詰大銀Ⅱ遺跡は、岩手県紫波郡紫波町大字南日詰字小路口地内（北緯 39°31'59"1029、東経 141°10'22"3992）に所在する。測定対象試料は、遺構から出土した炭化物 55 点である（表 1）。

2 測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) δ¹³C は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C 年代は δ¹³C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。¹⁴C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差 (±1σ) は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

(3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。

ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、Ox-Calv4.2 較正プログラム (Bronk RamSly 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表 1、2 に示す。

試料の年代値には幾つかのまとまりが認められる為、以下まとまりごとに古い順に記述する。

試料 13・39 の ^{14}C 年代は、13 が $2470 \pm 30\text{yrBP}$ 、39 が $2560 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、13 が 750~517 cal BC の間に 4 つの範囲、39 が 799~767 cal BC の範囲で示される。13 は縄文時代晩期後葉~末頃、39 は縄文時代晩期中葉~後葉頃に相当する (小林 2017、小林編 2008)。

試料 18 の ^{14}C 年代は $1310 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 (1σ) は 664~764 cal AD の間に 3 つの範囲で示される。

試料 1~12・25~34・37・41~49 の ^{14}C 年代は、 $1020 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 25) から $870 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 48) の範囲にまとまる。暦年較正年代 (1σ) は、これらの中で最も古い 25 が 995~1026 cal AD の範囲、最も新しい 48 が 1160~1209 cal AD の範囲で示される。

試料 14~17・19~24・35・36・38・40・50・51・53・54・56・57 の ^{14}C 年代は、 $430 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 24) から $210 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 40) の範囲にまとまる。暦年較正年代 (1σ) は、これらの中で最も古い 24 が 1436~1461 cal AD の範囲、最も新しい 40 が 1654~1799 cal AD 間に 2 つの範囲と 1942 cal AD 以降の範囲で示される。なお、40 の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する (表 2 下の警告参照)。

なお、今回試料となった炭化物は、細片で確認できないものもあるが、多くは木炭と観察されている。それらのうち、樹皮が残存する 12・32・40・42・44・47・49 を除き、本来の最外年輪を確認できなかった。この為、多くの試料については次に記す古木効果を考慮する必要がある。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる (古木効果)。今回測定された試料のうち、樹皮が確認されなかった試料について、試料となった木が死んだ年代は測定された年代値よりも新しい可能性がある。

試料の炭素含有率は、全て 60% 以上の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360
 小林謙一 2017 縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素 14 年代—, 同成社
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55 (4), 1869-1887
 Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表 1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						LibbyAge (yrBP)	pMC (%)
IAAA-181867	1	P021	炭化物	AAA	-25.71 ± 0.22	890 ± 20	89.46 ± 0.26
IAAA-181868	5	P069	炭化物	AAA	-25.29 ± 0.22	980 ± 20	88.52 ± 0.25
IAAA-181869	8	P072	炭化物	AAA	-26.47 ± 0.23	950 ± 20	88.89 ± 0.26
IAAA-181870	9	P180	炭化物	AAA	-25.13 ± 0.21	930 ± 20	89.02 ± 0.26
IAAA-181871	11	P328+SK13	炭化物	AAA	-24.82 ± 0.20	960 ± 20	88.77 ± 0.26
IAAA-181872	14	P375	炭化物	AAA	-25.00 ± 0.21	360 ± 20	95.65 ± 0.28
IAAA-181873	16	P389 上層	炭化物	AAA	-26.67 ± 0.21	330 ± 20	96.01 ± 0.28
IAAA-181874	21	P457 下層	炭化物	AAA	-22.04 ± 0.21	350 ± 20	95.70 ± 0.27
IAAA-181875	28	SK02	炭化物	AAA	-25.23 ± 0.20	890 ± 20	89.54 ± 0.26
IAAA-181876	33	SK13 上層	炭化物	AAA	-27.45 ± 0.23	890 ± 20	89.53 ± 0.26
IAAA-181877	35	SK21	炭化物	AAA	-27.20 ± 0.21	320 ± 20	96.12 ± 0.27
IAAA-181878	38	SK23 前庭部	炭化物	AAA	-23.22 ± 0.23	420 ± 20	94.92 ± 0.27
IAAA-181879	41	SD01 A区 上層	炭化物	AAA	-27.69 ± 0.26	930 ± 20	89.11 ± 0.26
IAAA-181880	47	SD01 C区 (サブトレイ括) 下層	炭化物	AAA	-25.45 ± 0.21	880 ± 20	89.63 ± 0.26
IAAA-181881	48	SD02 A区 西端	炭化物	AAA	-27.69 ± 0.21	870 ± 20	89.72 ± 0.25
IAAA-181882	50	SX03 前庭部	炭化物	AAA	-26.53 ± 0.23	390 ± 20	95.21 ± 0.27
IAAA-181883	51	SX04 前庭部	炭化物	AAA	-27.26 ± 0.23	320 ± 20	96.06 ± 0.26
IAAA-181884	54	SX05 炉底部	炭化物	AAA	-26.77 ± 0.22	340 ± 20	95.92 ± 0.26
IAAA-181885	56	SX01	炭化物	AAA	-27.31 ± 0.25	360 ± 20	95.66 ± 0.26
IAAA-181886	57	SX02 炉本体 最下層炭層	炭化物	AAA	-29.55 ± 0.24	340 ± 20	95.80 ± 0.26
IAAA-181889	2	P021 上層	炭化物	AAA	-26.05 ± 0.23	930 ± 20	89.05 ± 0.27
IAAA-181890	3	P041	炭化物	AAA	-26.18 ± 0.23	950 ± 20	88.87 ± 0.27
IAAA-181891	4	P041	炭化物	AAA	-24.72 ± 0.24	900 ± 20	89.37 ± 0.27
IAAA-181892	6	P071	炭化物	AAA	-26.26 ± 0.24	930 ± 20	89.08 ± 0.27
IAAA-181893	7	P071	炭化物	AAA	-26.14 ± 0.24	910 ± 20	89.28 ± 0.26
IAAA-181894	10	P181	炭化物	AAA	-26.00 ± 0.23	930 ± 20	89.10 ± 0.27
IAAA-181895	12	P338	炭化物	AAA	-24.78 ± 0.22	940 ± 20	88.91 ± 0.27

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						LibbyAge (yrBP)	pMC (%)
IAAA-181896	13	P371	炭化物	AAA	-25.88 ± 0.27	2,470 ± 30	73.57 ± 0.23
IAAA-181897	15	P388	炭化物	AAA	-25.19 ± 0.22	390 ± 20	95.22 ± 0.28
IAAA-181898	17	P389	炭化物	AAA	-25.25 ± 0.22	380 ± 20	95.33 ± 0.29
IAAA-181899	18	P392	炭化物	AAA	-23.67 ± 0.28	1,310 ± 20	84.97 ± 0.26
IAAA-181900	19	P393 上層	炭化物	AAA	-23.65 ± 0.25	400 ± 20	95.13 ± 0.29
IAAA-181901	20	P399	炭化物	AAA	-24.87 ± 0.21	350 ± 20	95.73 ± 0.28
IAAA-181902	22	P483	炭化物	AAA	-23.96 ± 0.24	350 ± 20	95.76 ± 0.29
IAAA-181903	23	P463 下層	炭化物	AAA	-24.64 ± 0.24	370 ± 20	95.54 ± 0.29
IAAA-181904	24	P507	炭化物	AAA	-24.16 ± 0.22	430 ± 20	94.74 ± 0.29
IAAA-181905	25	SK01 上層	炭化物	AAA	-23.46 ± 0.23	1,020 ± 20	88.12 ± 0.27
IAAA-181906	26	SK01 2層	炭化物	AAA	-24.78 ± 0.23	930 ± 20	89.10 ± 0.27
IAAA-181907	27	SK01 下層	炭化物	AAA	-25.05 ± 0.23	920 ± 20	89.19 ± 0.27
IAAA-181908	29	SK04	炭化物	AAA	-25.21 ± 0.25	930 ± 20	89.10 ± 0.27
IAAA-181909	30	SK05	炭化物	AAA	-23.53 ± 0.26	980 ± 20	88.53 ± 0.27
IAAA-181910	31	SK09	炭化物	AAA	-24.88 ± 0.23	990 ± 20	88.43 ± 0.27
IAAA-181911	32	SK12 2層	炭化物	AAA	-23.58 ± 0.23	920 ± 20	89.14 ± 0.28
IAAA-181912	34	SK17	炭化物	AAA	-25.08 ± 0.24	970 ± 20	88.67 ± 0.27
IAAA-181913	36	SK21	炭化物	AAA	-23.79 ± 0.23	370 ± 20	95.47 ± 0.29
IAAA-181914	37	SK21 3層	炭化物	AAA	-24.92 ± 0.24	970 ± 20	88.65 ± 0.27
IAAA-181915	39	SK24 上層	炭化物	AAA	-23.51 ± 0.23	2,560 ± 30	72.68 ± 0.24
IAAA-181916	40	SK25	炭化物	AAA	-27.25 ± 0.25	210 ± 20	97.42 ± 0.29
IAAA-181917	42	SD01 A区 最下層 (礫層)	炭化物	AAA	-25.41 ± 0.24	880 ± 20	89.57 ± 0.28
IAAA-181918	43	SD01 B区 上層	炭化物	AAA	-26.23 ± 0.25	990 ± 20	88.46 ± 0.27
IAAA-181919	44	SD01 C区 上層	炭化物	AaA	-24.02 ± 0.23	880 ± 20	89.61 ± 0.28
IAAA-181920	45	SD01 C区 上層	炭化物	AAA	-23.82 ± 0.23	920 ± 20	89.20 ± 0.27
IAAA-181921	46	SD01 C区 上層	炭化物	AAA	-23.50 ± 0.24	980 ± 20	88.46 ± 0.27
IAAA-181922	49	SD02 A区 上層	炭化物	AAA	-25.85 ± 0.23	920 ± 20	89.19 ± 0.28
IAAA-181923	53	SL04 前庭部	炭化物	AAA	-25.73 ± 0.22	390 ± 20	95.31 ± 0.28

[IAA 登録番号 : #9385, 9387]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181867	910 ± 20	89.33 ± 0.25	894 ± 23	1050calAD-1083calAD (30.7%) 1125calAD-1136calAD (6.9%) 1151calAD-1187calAD (30.7%)	1043calAD-1103calAD (39.4%) 1118calAD-1213calAD (56.0%)
IAAA-181868	980 ± 20	88.46 ± 0.24	979 ± 22	1019calAD-1044calAD (44.8%) 1100calAD-1119calAD (20.9%) 1143calAD-1146calAD (2.5%)	1015calAD-1053calAD (50.3%) 1080calAD-1153calAD (45.1%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181869	970 \pm 20	88.62 \pm 0.26	946 \pm 23	1032calAD-1050calAD (15.7%) 1083calAD-1126calAD (39.3%) 1136calAD-1151calAD (13.3%)	1027calAD-1155calAD (95.4%)
IAAA-181870	940 \pm 20	88.99 \pm 0.26	934 \pm 23	1040calAD-1053calAD (10.7%) 1079calAD-1110calAD (26.3%) 1115calAD-1152calAD (31.1%)	1033calAD-1157calAD (95.4%)
IAAA-181871	950 \pm 20	88.80 \pm 0.25	957 \pm 23	1027calAD-1048calAD (22.1%) 1087calAD-1123calAD (36.0%) 1138calAD-1149calAD (10.1%)	1022calAD-1059calAD (29.5%) 1065calAD-1155calAD (65.9%)
IAAA-181872	360 \pm 20	95.65 \pm 0.27	357 \pm 23	1470calAD-1522calAD (39.0%) 1576calAD-1584calAD (4.5%) 1591calAD-1623calAD (24.7%)	1455calAD-1527calAD (48.2%) 1555calAD-1633calAD (47.2%)
IAAA-181873	360 \pm 20	95.67 \pm 0.27	327 \pm 23	1514calAD-1530calAD (11.1%) 1540calAD-1600calAD (44.0%) 1617calAD-1635calAD (13.1%)	1486calAD-1643calAD (95.4%)
IAAA-181874	310 \pm 20	96.27 \pm 0.27	353 \pm 22	1478calAD-1522calAD (33.4%) 1575calAD-1625calAD (34.8%)	1457calAD-1529calAD (45.2%) 1551calAD-1634calAD (50.2%)
IAAA-181875	890 \pm 20	89.49 \pm 0.26	887 \pm 23	1053calAD-1079calAD (21.0%) 1152calAD-1206calAD (47.2%)	1045calAD-1095calAD (30.3%) 1119calAD-1217calAD (65.1%)
IAAA-181876	930 \pm 20	89.08 \pm 0.26	888 \pm 23	1052calAD-1080calAD (23.1%) 1152calAD-1206calAD (45.1%)	1045calAD-1095calAD (31.5%) 1119calAD-1216calAD (63.9%)
IAAA-181877	350 \pm 20	95.68 \pm 0.27	318 \pm 22	1521calAD-1591calAD (54.3%) 1620calAD-1638calAD (13.9%)	1491calAD-1603calAD (75.1%) 1613calAD-1644calAD (20.3%)
IAAA-181878	390 \pm 20	95.27 \pm 0.26	418 \pm 22	1441calAD-1469calAD (68.2%)	1434calAD-1491calAD (93.0%) 1602calAD-1610calAD (2.4%)
IAAA-181879	970 \pm 20	88.61 \pm 0.25	926 \pm 23	1044calAD-1100calAD (42.7%) 1119calAD-1154calAD (25.5%)	1034calAD-1160calAD (95.4%)
IAAA-181880	890 \pm 20	89.55 \pm 0.25	879 \pm 22	1155calAD-1211calAD (68.2%)	1047calAD-1088calAD (19.3%) 1122calAD-1139calAD (4.3%) 1148calAD-1219calAD (71.8%)
IAAA-181881	920 \pm 20	89.22 \pm 0.25	871 \pm 22	1160calAD-1209calAD (68.2%)	1050calAD-1083calAD (10.9%) 1126calAD-1136calAD (1.6%) 1151calAD-1222calAD (82.9%)
IAAA-181882	420 \pm 20	94.90 \pm 0.26	394 \pm 22	1449calAD-1486calAD (68.2%)	1442calAD-1517calAD (81.5%) 1596calAD-1619calAD (13.9%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181883	360 \pm 20	95.61 \pm 0.25	322 \pm 21	1520calAD-1530calAD (8.7%) 1538calAD-1593calAD (46.1%) 1619calAD-1635calAD (13.4%)	1490calAD-1603calAD (75.6%) 1612calAD-1643calAD (19.8%)
IAAA-181884	360 \pm 20	95.57 \pm 0.26	335 \pm 21	1495calAD-1526calAD (20.8%) 1556calAD-1602calAD (34.8%) 1616calAD-1632calAD (12.6%)	1481calAD-1639calAD (95.4%)
IAAA-181885	400 \pm 20	95.20 \pm 0.25	356 \pm 21	1472calAD-1521calAD (39.3%) 1577calAD-1583calAD (3.5%) 1591calAD-1622calAD (25.4%)	1456calAD-1527calAD (47.9%) 1555calAD-1634calAD (47.5%)
IAAA-181886	420 \pm 20	94.90 \pm 0.25	344 \pm 21	1490calAD-1523calAD (27.2%) 1572calAD-1603calAD (25.2%) 1610calAD-1630calAD (15.9%)	1468calAD-1530calAD (37.0%) 1539calAD-1635calAD (58.4%)
IAAA-181889	950 \pm 20	88.86 \pm 0.27	931 \pm 24	1040calAD-1057calAD (12.6%) 1076calAD-1110calAD (26.0%) 1116calAD-1154calAD (29.5%)	1032calAD-1159calAD (95.4%)
IAAA-181890	970 \pm 20	88.65 \pm 0.26	948 \pm 24	1031calAD-1050calAD (16.8%) 1083calAD-1126calAD (38.5%) 1136calAD-1151calAD (12.9%)	1026calAD-1155calAD (95.4%)
IAAA-181891	900 \pm 20	89.42 \pm 0.26	902 \pm 24	1046calAD-1093calAD (38.5%) 1121calAD-1140calAD (13.1%) 1147calAD-1169calAD (16.6%)	1040calAD-1110calAD (47.5%) 1115calAD-1207calAD (47.9%)
IAAA-181892	950 \pm 20	88.85 \pm 0.26	929 \pm 24	1042calAD-1058calAD (12.7%) 1075calAD-1107calAD (25.5%) 1117calAD-1154calAD (30.1%)	1032calAD-1160calAD (95.4%)
IAAA-181893	930 \pm 20	89.08 \pm 0.26	910 \pm 23	1046calAD-1093calAD (40.9%) 1121calAD-1140calAD (15.2%) 1147calAD-1162calAD (12.1%)	1036calAD-1185calAD (95.4%)
IAAA-181894	940 \pm 20	88.92 \pm 0.27	927 \pm 24	1044calAD-1103calAD (41.4%) 1119calAD-1154calAD (26.8%)	1033calAD-1160calAD (95.4%)
IAAA-181895	940 \pm 20	88.95 \pm 0.27	944 \pm 24	1034calAD-1050calAD (14.8%) 1083calAD-1126calAD (39.9%) 1136calAD-1151calAD (13.5%)	1028calAD-1155calAD (95.4%)
IAAA-181896	2,480 \pm 20	73.44 \pm 0.23	2,465 \pm 25	750 calBC-683 calBC (28.7%) 668 calBC-637 calBC (12.9%) 622 calBC-616 calBC (1.9%) 591 calBC-517 calBC (24.7%)	764 calBC-477 calBC (92.7%) 464 calBC-454 calBC (1.0%) 445 calBC-431 calBC (1.7%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181897	400 ± 20	95.18 ± 0.28	393 ± 23	1448calAD-1489calAD (62.4%) 1603calAD-1609calAD (5.8%)	1441calAD-1521calAD (79.7%) 1592calAD-1620calAD (15.7%)
IAAA-181898	390 ± 20	95.28 ± 0.28	384 ± 24	1450calAD-1495calAD (54.4%) 1602calAD-1616calAD (13.8%)	1445calAD-1522calAD (71.3%) 1575calAD-1624calAD (24.1%)
IAAA-181899	1,290 ± 20	85.21 ± 0.26	1,308 ± 24	664calAD-695calAD (43.8%) 703calAD-708calAD (4.2%) 746calAD-764calAD (20.2%)	659calAD-722calAD (68.4%) 741calAD-768calAD (27.0%)
IAAA-181900	380 ± 20	95.40 ± 0.28	400 ± 24	1447calAD-1485calAD (68.2%)	1440calAD-1516calAD (83.2%) 1596calAD-1619calAD (12.2%)
IAAA-181901	350 ± 20	95.76 ± 0.28	350 ± 23	1485calAD-1522calAD (29.6%) 1574calAD-1627calAD (38.6%)	1460calAD-1530calAD (41.9%) 1541calAD-1635calAD (53.5%)
IAAA-181902	330 ± 20	95.96 ± 0.28	348 ± 24	1485calAD-1523calAD (28.0%) 1572calAD-1630calAD (40.2%)	1462calAD-1530calAD (40.0%) 1539calAD-1635calAD (55.4%)
IAAA-181903	360 ± 20	95.61 ± 0.29	366 ± 24	1462calAD-1518calAD (46.9%) 1594calAD-1619calAD (21.3%)	1451calAD-1525calAD (54.9%) 1557calAD-1633calAD (40.5%)
IAAA-181904	420 ± 20	94.91 ± 0.29	433 ± 24	1436calAD-1461calAD (68.2%)	1426calAD-1486calAD (95.4%)
IAAA-181905	990 ± 20	88.40 ± 0.27	1,015 ± 24	995calAD-1026calAD (68.2%)	980calAD-1041calAD (94.5%) 1110calAD-1116calAD (0.9%)
IAAA-181906	920 ± 20	89.14 ± 0.27	927 ± 24	1044calAD-1103calAD (41.4%) 1119calAD-1154calAD (26.8%)	1033calAD-1160calAD (95.4%)
IAAA-181907	920 ± 20	89.19 ± 0.26	918 ± 24	1045calAD-1095calAD (41.7%) 1120calAD-1142calAD (17.5%) 1147calAD-1158calAD (9.0%)	1031calAD-1168calAD (95.4%)
IAAA-181908	930 ± 20	89.06 ± 0.26	927 ± 24	1044calAD-1103calAD (41.4%) 1119calAD-1154calAD (26.8%)	1033calAD-1160calAD (95.4%)
IAAA-181909	950 ± 20	88.80 ± 0.27	978 ± 24	1019calAD-1045calAD (39.7%) 1095calAD-1120calAD (24.5%) 1142calAD-1147calAD (4.0%)	999calAD-1003calAD (0.5%) 1012calAD-1055calAD (46.4%) 1077calAD-1154calAD (48.5%)
IAAA-181910	990 ± 20	88.46 ± 0.26	987 ± 24	1016calAD-1045calAD (48.3%) 1098calAD-1120calAD (17.8%) 1143calAD-1146calAD (2.2%)	993calAD-1050calAD (60.8%) 1083calAD-1127calAD (27.4%) 1136calAD-1152calAD (7.2%)
IAAA-181911	900 ± 20	89.40 ± 0.27	923 ± 24	1045calAD-1095calAD (42.2%) 1120calAD-1142calAD (18.6%) 1147calAD-1156calAD (7.4%)	1033calAD-1163calAD (95.4%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181912	970 \pm 20	88.65 \pm 0.26	966 \pm 24	1024calAD-1046calAD (29.8%) 1093calAD-1121calAD (31.8%) 1141calAD-1147calAD (6.6%)	1018calAD-1059calAD (35.9%) 1075calAD-1155calAD (59.5%)
IAAA-181913	350 \pm 20	95.71 \pm 0.28	372 \pm 23	1457calAD-1514calAD (51.7%) 1600calAD-1617calAD (16.5%)	1449calAD-1523calAD (62.2%) 1572calAD-1630calAD (33.2%)
IAAA-181914	970 \pm 20	88.66 \pm 0.27	968 \pm 24	1023calAD-1046calAD (31.2%) 1093calAD-1121calAD (30.7%) 1141calAD-1147calAD (6.3%)	1017calAD-1058calAD (37.4%) 1076calAD-1155calAD (58.0%)
IAAA-181915	2,540 \pm 30	72.90 \pm 0.23	2,563 \pm 26	799 calBC-767 calBC (68.2%)	805 calBC-749 calBC (79.7%) 684 calBC-667 calBC (5.2%) 639 calBC-589 calBC (9.5%) 578 calBC-569 calBC (1.0%)
IAAA-181916	250 \pm 20	96.97 \pm 0.28	210 \pm 23	1654calAD-1673calAD (22.6%) * 1778calAD-1799calAD (31.4%) * 1942calAD-... (14.2%) *	1648calAD-1683calAD (30.7%) * 1737calAD-1756calAD (5.2%) * 1761calAD-1804calAD (42.5%) * 1936calAD-... (17.0%) *
IAAA-181917	890 \pm 20	89.50 \pm 0.27	884 \pm 24	1056calAD-1076calAD (15.4%) 1154calAD-1207calAD (52.8%)	1045calAD-1095calAD (27.0%) 1119calAD-1219calAD (68.4%)
IAAA-181918	1,010 \pm 20	88.24 \pm 0.26	985 \pm 24	1016calAD-1045calAD (46.6%) 1097calAD-1120calAD (19.3%) 1143calAD-1146calAD (2.3%)	994calAD-1051calAD (57.8%) 1082calAD-1128calAD (29.7%) 1135calAD-1152calAD (7.9%)
IAAA-181919	870 \pm 20	89.79 \pm 0.27	881 \pm 24	1058calAD-1075calAD (11.4%) 1154calAD-1210calAD (56.8%)	1045calAD-1094calAD (23.6%) 1120calAD-1141calAD (6.4%) 1147calAD-1220calAD (65.4%)
IAAA-181920	900 \pm 20	89.42 \pm 0.26	917 \pm 24	1045calAD-1095calAD (41.5%) 1120calAD-1142calAD (17.3%) 1147calAD-1159calAD (9.4%)	1031calAD-1169calAD (95.4%)
IAAA-181921	960 \pm 20	88.74 \pm 0.27	984 \pm 24	1017calAD-1045calAD (45.2%) 1097calAD-1120calAD (20.0%) 1142calAD-1147calAD (3.0%)	995calAD-1051calAD (56.2%) 1082calAD-1129calAD (30.9%) 1135calAD-1152calAD (8.3%)
IAAA-181922	930 \pm 20	89.03 \pm 0.27	919 \pm 24	1045calAD-1095calAD (41.8%) 1120calAD-1142calAD (17.7%) 1147calAD-1158calAD (8.7%)	1031calAD-1167calAD (95.4%)
IAAA-181923	400 \pm 20	95.18 \pm 0.28	385 \pm 23	1450calAD-1494calAD (55.1%) 1602calAD-1615calAD (13.1%)	1444calAD-1522calAD (72.8%) 1575calAD-1624calAD (22.6%)

[参考値]

*** Warning! Date may extend out of range**

(この警告は較正プログラム OxCalが発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)

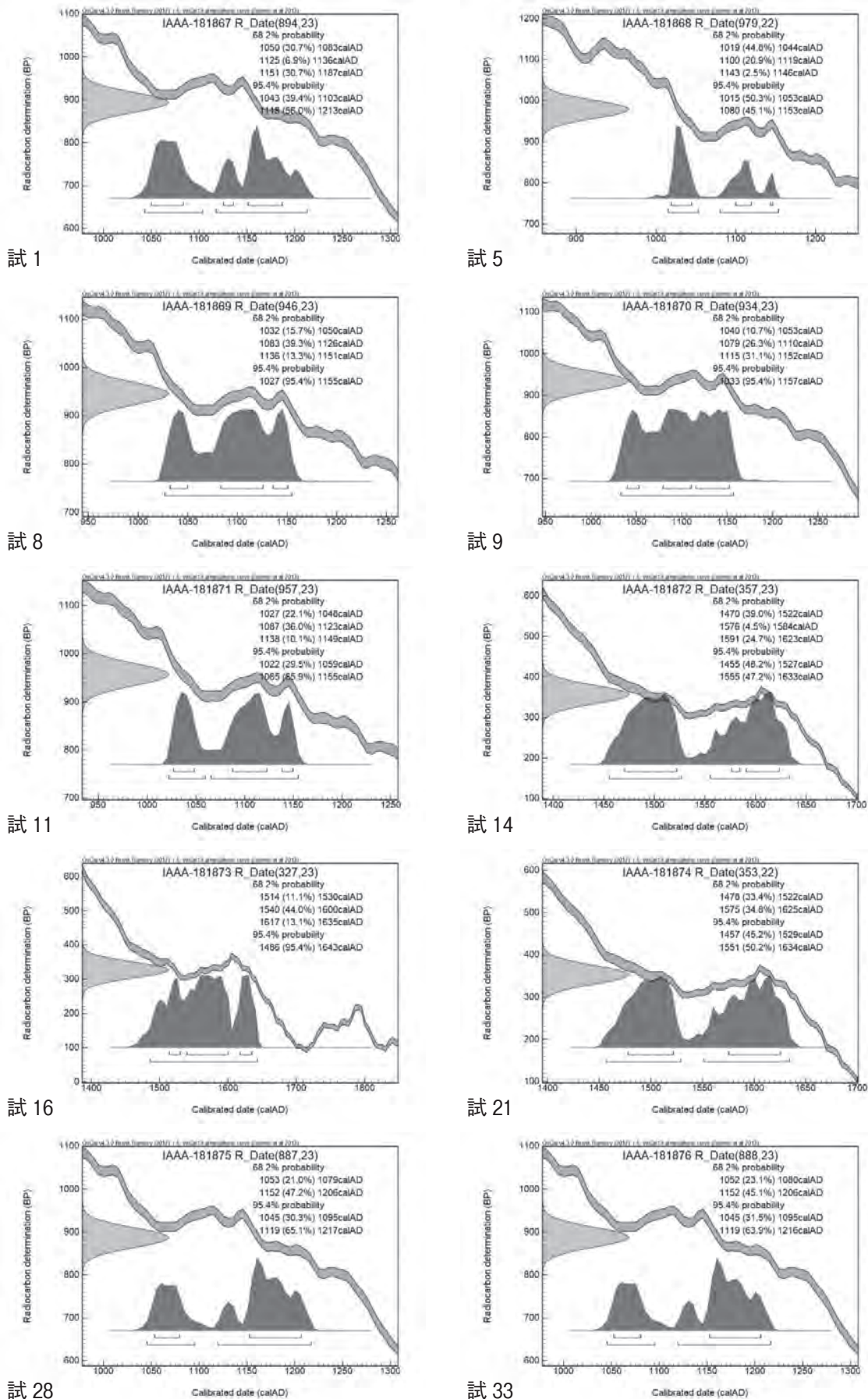
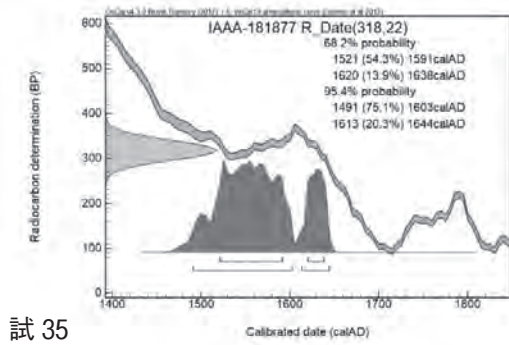
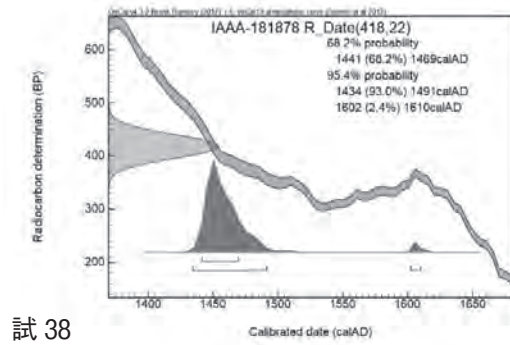


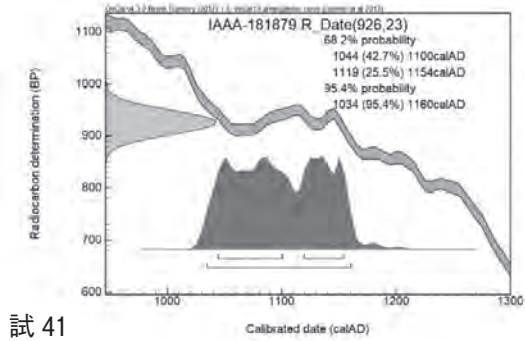
図1 暦年較正年代グラフ (参考) (1)



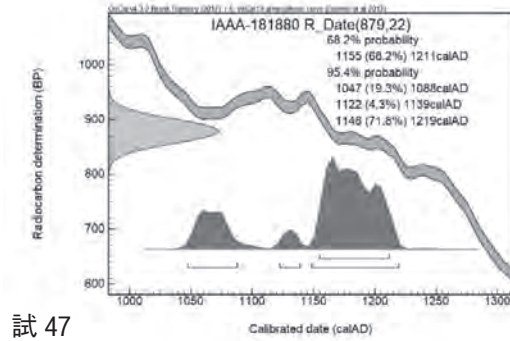
試 35



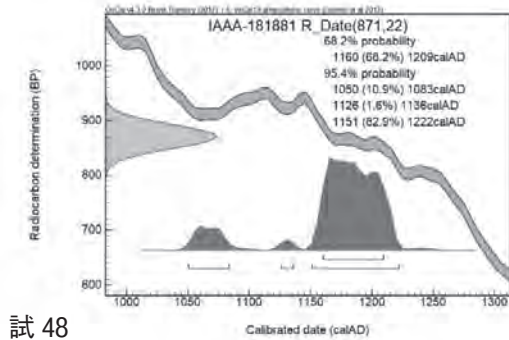
試 38



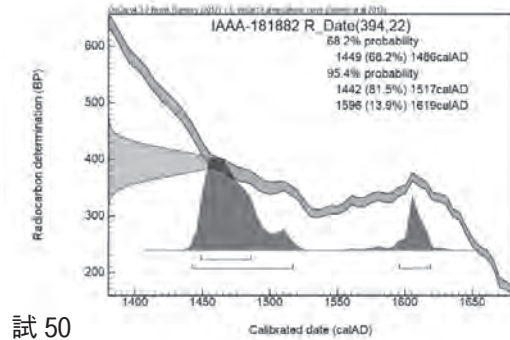
試 41



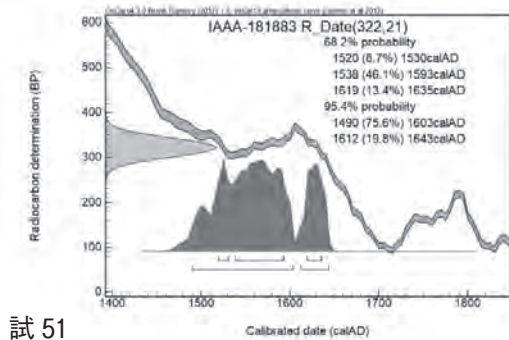
試 47



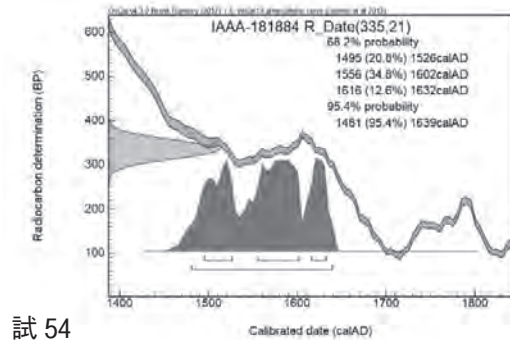
試 48



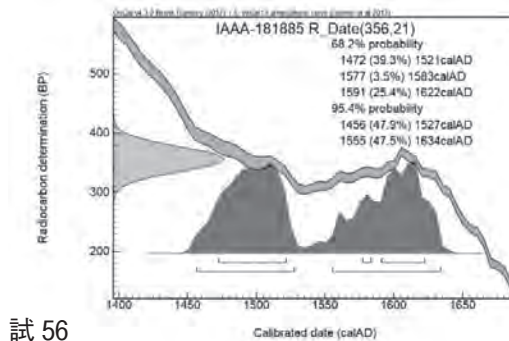
試 50



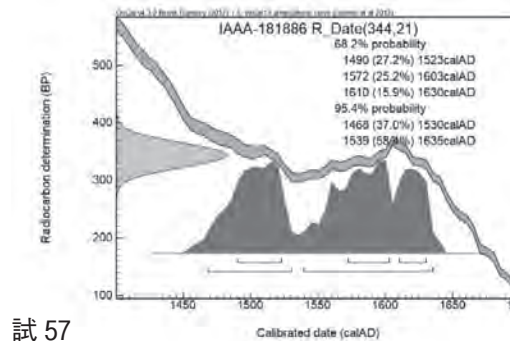
試 51



試 54



試 56



試 57

図 2 暦年較正年代グラフ (参考) (2)

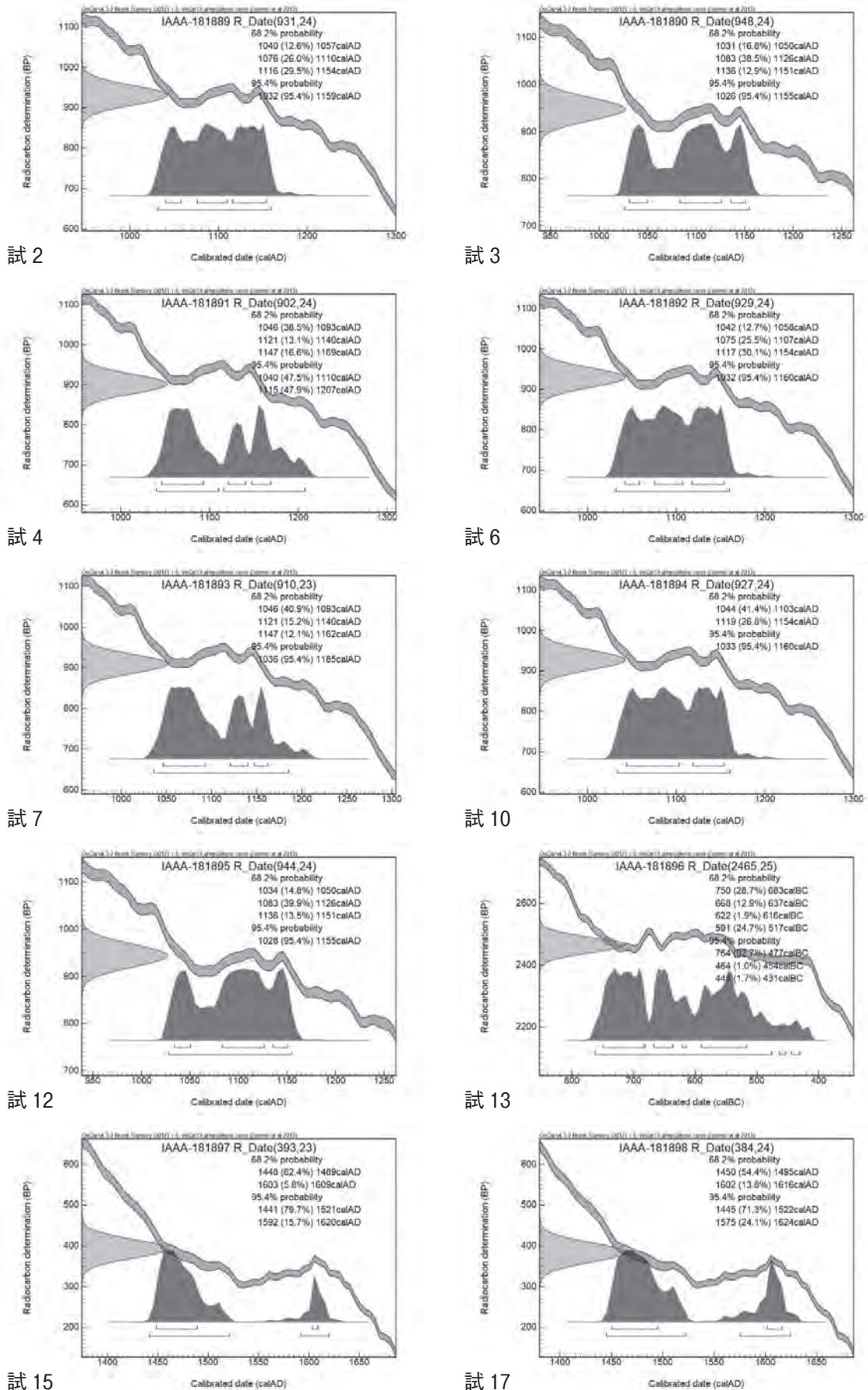


図3 暦年較正年代グラフ (参考) (3)

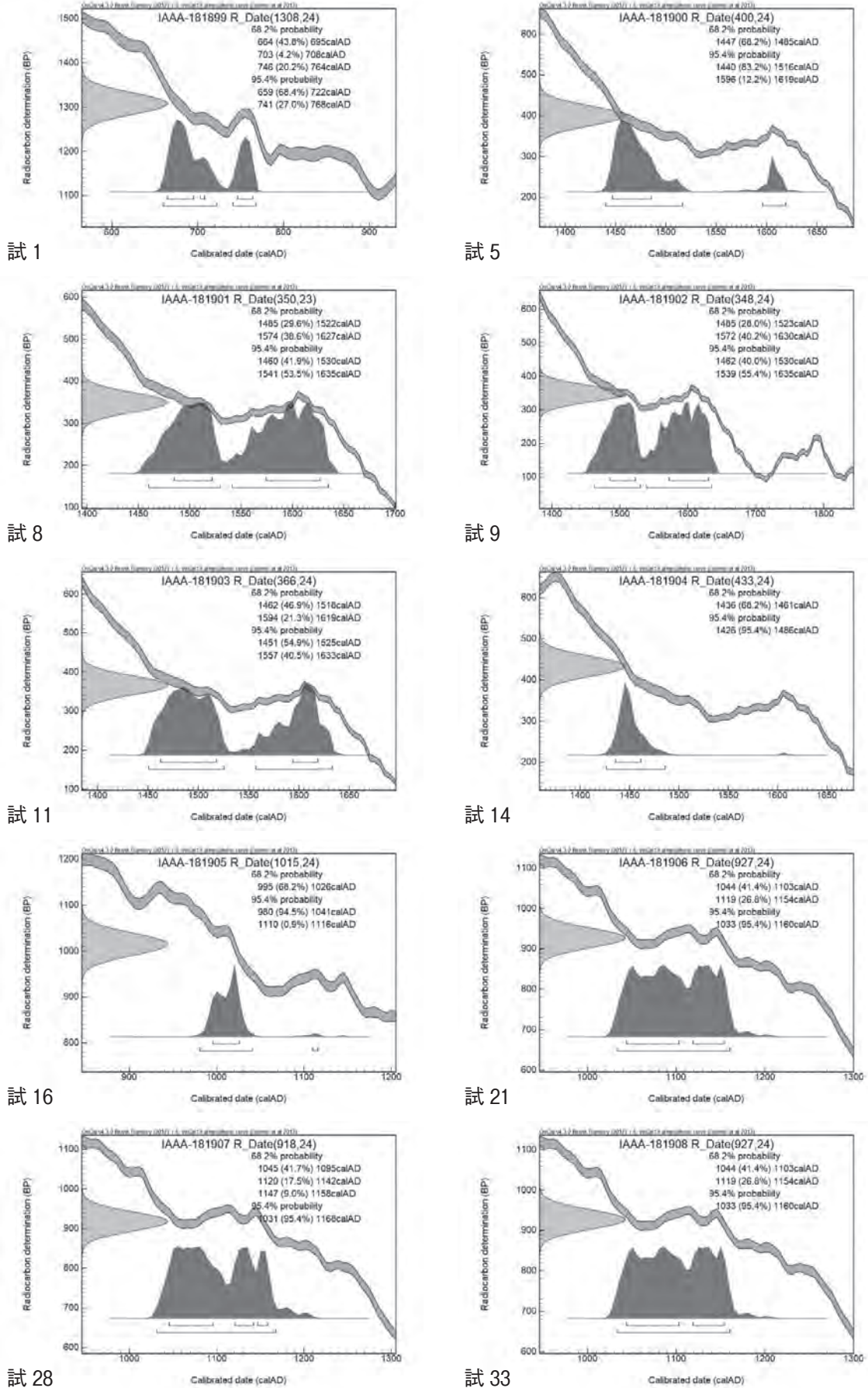
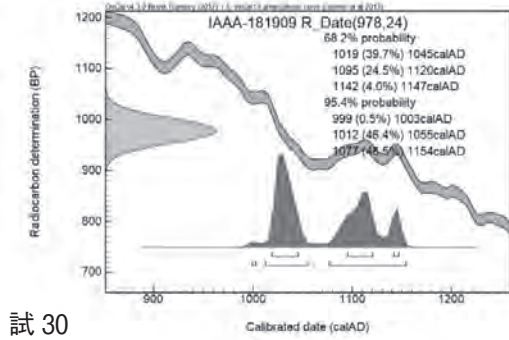
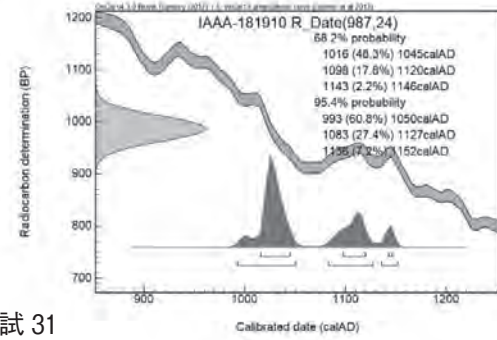


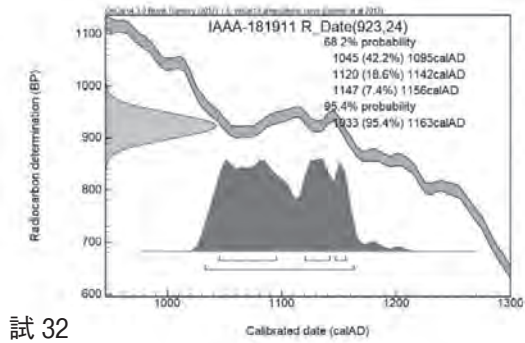
図4 暦年較正年代グラフ (参考) (4)



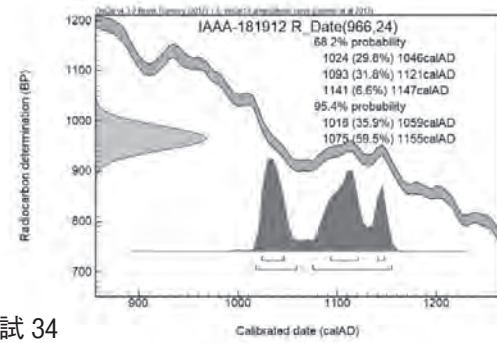
試 30



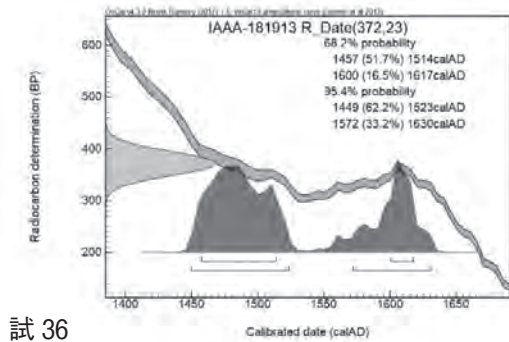
試 31



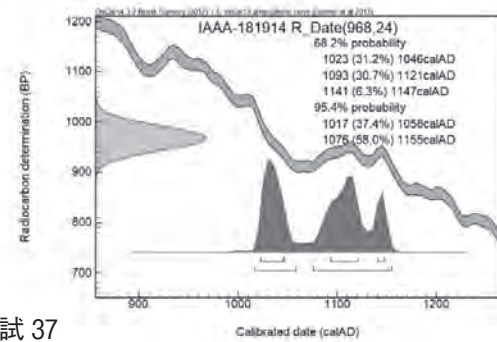
試 32



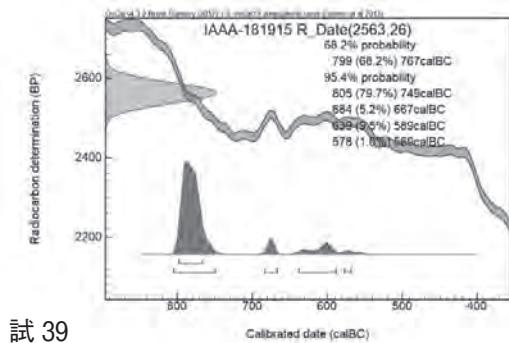
試 34



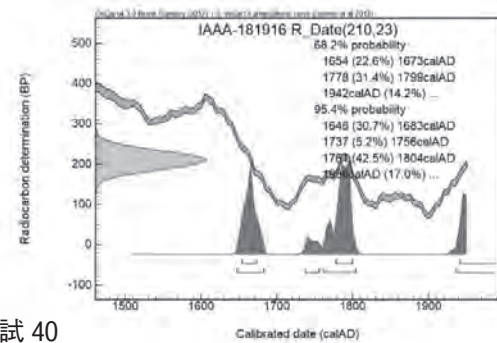
試 36



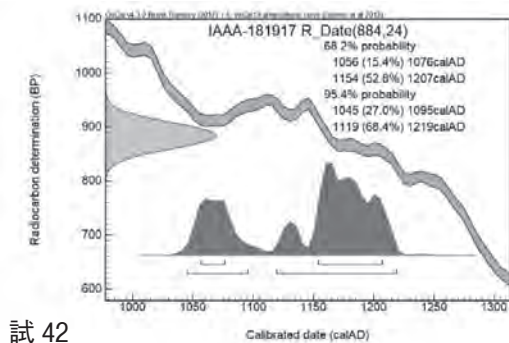
試 37



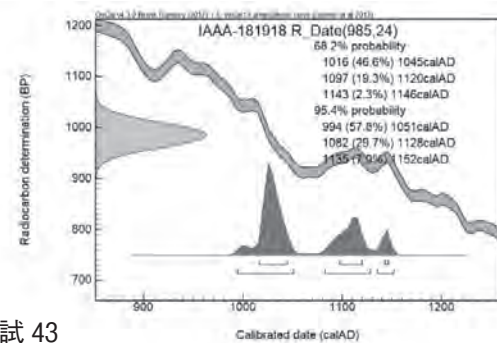
試 39



試 40



試 42



試 43

図5 暦年較正年代グラフ (参考) (5)

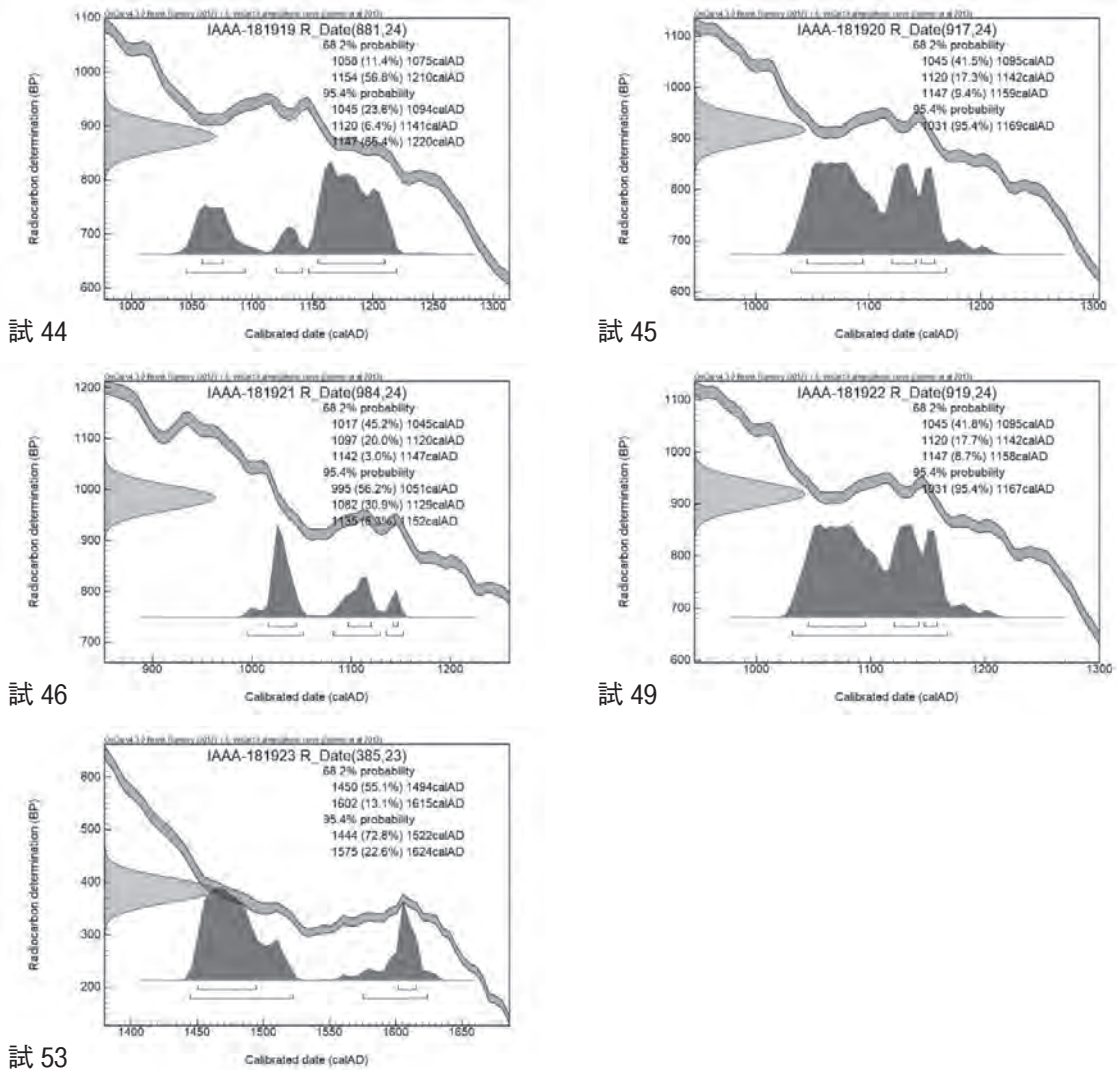


図 6 暦年較正年代グラフ (参考) (6)

(2) 火山灰分析

株式会社 火山灰考古学研究所

1 はじめに

岩手県の県央・県南部の地層や土壌の中には、十和田、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、鳴子、肘折など東北地方の火山のほか、浅間や御岳など中部地方、さらには、洞爺、三瓶、阿蘇、始良、鬼界など北海道、中国地方、九州地方など遠方の火山に由来するテフラが数多く挟在されている。特に、後期更新世以降の多くのテフラについては、層相や年代さらに岩石記載的特徴がテフラ・カタログ(町田・新井, 2011)などに収録されており、考古遺跡で調査分析を実施し、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、地形や地層だけでなく、考古学的遺物・遺構の層位や年代などがわかるようになっている。

紫波町南日詰大銀Ⅱ遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な土層が検出されたことから、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、テフラ分析(テフラ検出分析・テフラ組成分析・火山ガラスの屈折率測定)を実施して、土層の層位や形成年代に関する情報を得ることになった。分析の対象

は基本土層・Ⅱ層である。

2 テフラ検出分析

(1) 分析 方 法

最初に、基本土層・Ⅱ層に含まれるテフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 電子天秤で試料 8 g を秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去後に、恒温乾燥器により 80°C で恒温乾燥。
- 3) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分 析 結 果

テフラ検出分析の結果を表 1 に示す。基本土層・Ⅱ層には、無色透明や淡褐色の繊維束状軽石型やバブル型の火山ガラスが少量認められる。また、磁鉄鉱など不透明鉱物以外の重鉱物として、斜方輝石や単斜輝石、そして少量の角閃石が含まれている。ただし、テフラ粒子以外に由来する可能性が高い粒子が認められる。

3 テフラ組成分析

(1) 分 析 方 法

次に、分析対象となった基本土層・Ⅱ層に含まれるテフラ粒子の量や特徴を定量的に把握するために、テフラ組成分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) テフラ検出分析済みの試料について、分析篩を用いて >1/4mm、1/4~1/8mm、1/8~1/16mm、<1/16mm の粒子に篩別。
- 2) 偏光顕微鏡下で 1/4~1/8mm の 250 粒子を観察して、火山ガラスの形態（一部色調）別含有率、軽鉱物と重鉱物の含有率を求める（火山ガラス比分析）。
- 3) 偏光顕微鏡下で 1/4~1/8mm の重鉱物 250 粒子を観察して、重鉱物組成を明らかにする（重鉱物組成分析）。

(2) 分 析 結 果

テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして図 1 に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果の内訳を表 2 と表 3 に示す。基本土層・Ⅱ層には火山ガラスが 2.4% 含まれており、その内訳は中間型 (1.2%)、繊維束状軽石型 (0.8%)、無色透明バブル型 (0.4%) である。また、軽鉱物と重鉱物の含有率は、38.8% と 10.0% である。磁鉄鉱など不透明鉱物以外の重鉱物としては、斜方輝石 (64.8%)、単斜輝石 (15.2%)、角閃石 (2.0%) が認められる。

4 屈折率測定（火山ガラス）

(1) 測定試料と測定方法

基本土層・Ⅱ層に含まれる火山ガラスの屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定精度を向上させることになった。測定方法は温度変化型屈折率法（壇原，1993）で、測定対象は 1/8~1/16mm 粒子中の火山ガラスである。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を表4に示す。また、すでに知られている指標テフラとの比較のために表5を作成した。基本土層・Ⅱ層に含まれる火山ガラス(31粒子)の屈折率(n)のrangeは、1.496-1.513である。この値は、n:1.496-1.504(28粒子)とn:1.510-1.513(3粒子)からなる。

5 考察－指標テフラとの同定

基本土層・Ⅱ層を対象として実施したテフラ検出分析およびテフラ組成分析のうちの火山ガラス比分析では、試料に含まれる火山ガラスの量は少なく、テフラ以外に由来する粒子が多く含まれていることが明らかになった。このことに、屈折率のrangeが広いこと、そして数多くのテフラが本遺跡周辺に降灰してきたことを合わせて考えると、試料中には多くのテフラが混在している可能性がある。実際、少量ではあるが、角閃石が検出されたことは、比較的古いテフラが混入している可能性を示唆しているようにも思われる。

これらの分析で検出された火山ガラスのうち、無色透明の繊維束状軽石型や中間型ガラスの多くは、岩相から屈折率が比較的低いもの(n:1.496-1.504)に対応すると思われる。この火山ガラスに関しては、その形態や色調、さらに屈折率特性から、915年に十和田火山から噴出した十和田aテフラ(To-a, 大池, 1972, Hayakawa, 1985, 町田ほか, 1981)に由来する可能性が高い。なお低屈折率の火山ガラスの中には、鳴子火山に起源をもつ、旧石器時代の鳴子潟沼上原テフラ(Nr-KU, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003, 2011)に由来するものが含まれているのかも知れない。

一方、屈折率が高い少量の火山ガラスについては、この試料中に有色の繊維束状軽石型ガラスが認められることやその屈折率特性などから、十和田中振テフラ(To-Cu, 約6,000~6,200年前, 大池ほか, 1966, 早川, 1983, 町田・新井, 1992, 2003, 2011, 工藤・佐々木, 2007)に由来する可能性が高い。

試料が採取された土層断面の写真では、基本土層・Ⅱ層中に明色の堆積物ブロックが含まれているようにみえる。分析対象とこの堆積物の関係は不明であるが、これが細粒のテフラ層であればTo-aの可能性が最も高いように思われる。ただし、火山ガラスの含有率の低さを考えると、To-aやTo-Cuに由来するテフラ粒子を含む砂質堆積物のように考えられる。いずれにしても、基本土層・Ⅱ層の最終的な形成はTo-a降灰後と推定されよう。

今後、テフラの同定精度をさらに向上させる場合には、火山ガラスの含有率が低いために収集に手間はかかるが、信頼度が高い電子線マイクロアナライザ(EPMA)を用いた火山ガラスの主成分分析が有効となろう。

6 まとめ

紫波町南日詰大銀Ⅱ遺跡の発掘調査の際に採取された基本土層・Ⅱ層の試料を対象に、テフラ分析(テフラ検出分析・テフラ組成分析・火山ガラスの屈折率測定)を実施した。その結果、試料の中に十和田a火山灰(To-a, 915年)のほか、少量の十和田中振テフラ(To-Cu, 約6,000~6,200年前)が含まれている可能性が高いことが明らかになった。

参考文献

新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法 2」, 東京大学出版会, p.138-149.
 壇原 徹 (1993) 温度変化型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法 2」, 東京大学出版会, p.149-158.
 早川由紀夫 (1983) 十和田中堰テフラ層の分布, 粒度, 組成, 年代. 火山, 28, p.263-273.
 Hayakawa, Y. (1985) Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo, 60, p.507-592.
 工藤 崇・佐々木 寿 (2007) 十和田火山後カルデラ期噴出物の高精度噴火史編年. 地学雑, 116, p.653-663.
 町田 洋・新井房夫 (1992) 「火山灰アトラス」. 東京大学出版会, 276p.
 町田 洋・新井房夫 (2003) 「新編火山灰アトラス」. 東京大学出版会, 336p.
 町田 洋・新井房夫 (2011) 「新編火山灰アトラス (第2刷)」. 東京大学出版会, 336p.
 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海をわたってきたテフラ. 科学, 51, p.562-569.
 大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年. 第四紀研究, 11, p.232-233.
 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 (1966) 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰. 第四紀研究, 5, p.29-35.
 早田 勉 (1989) テフロクロロジーによる前期旧石器時代遺物包含層の検討. 第四紀研究, 28, p.269-282.

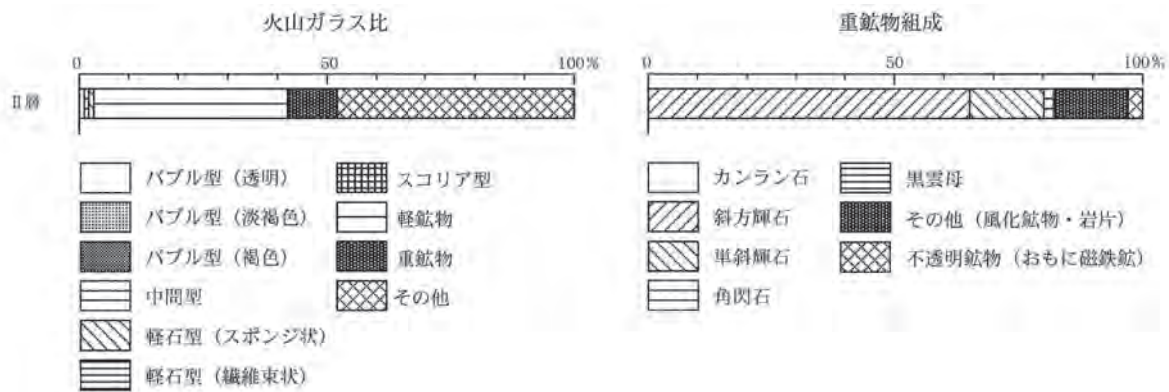


図1 基本土層・II層のテフラ組成ダイヤグラム

表1 テフラ検出分析結果

試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物 (不透明鉱物以外)	
	量	色調	最大径	量	形態	色調		
基本土層・II層				*	pm (fb) > bw	無色透明, 淡褐	opx, cpx, (am)	

***: とくに多い, **: 多い, *: 中程度, *: 少ない, (*): 非常に少ない, 最大径の単位は, mm.
 bw: バブル型, pm: 軽石型, md: 中間型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, md: 中間型.
 重鉱物は強磁性鉱物以外, ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母.

表2 火山ガラス比分析結果

試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
基本土層・II層	1	0	0	3	0	2	97	25	122	250

表3 重鉱物組成分析結果

試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
基本土層・II層	0	162	38	5	0	38	7	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, opq: 不透明鉱物. 数字は粒子数.

表4 基本土層・II層の屈折率測定結果 (火山ガラス)

屈折率 (n)	粒子数
1.4930~1.4939	0
1.4940~1.4949	0
1.4950~1.4959	2
1.4960~1.4969	0
1.4970~1.4979	3
1.4980~1.4989	6
1.4990~1.4999	6
1.5000~1.5009	4
1.5010~1.5019	4
1.5020~1.5029	2
1.5030~1.5039	0
1.5040~1.5049	1
1.5050~1.5059	0
1.5060~1.5069	0
1.5070~1.5079	0
1.5080~1.5089	0
1.5090~1.5099	1
1.5100~1.5109	1
1.5110~1.5119	0
1.5120~1.5129	0
1.5130~1.5139	1
1.5140~1.5149	0
1.5150~1.5159	0
測定粒子の合計	31

測定：温度変化型屈折率測定法 (壇原、1993)

表5 屈折率測定結果

試料・テフラ	火山ガラス		文献
	屈折率 (n)	測定点数	
南日詰大銀II遺跡・基本土層・II層	1.496-1.513	31	本報告
	(1.496-1.504)	(28)	
	(1.510-1.513)	(3)	
< 岩手県中南部の後期更新世後半のガラス質テフラ >			
十和田 a (To-a) 青森	1.496-1.508		1)
岩手	1.500-1.508		1)
十和田中掬 (To-Cu) 青森	1.510-1.514		1)
岩手	1.508-1.512		1)
肘折尾花沢 (Hj-O)	1.499-1.504		1)
十和田八戸 (To-H)	1.505-1.509		1)
鳴子湯沼上原 (Nr-KU)	1.492-1.500		1)
始良 Tn (AT)	1.499-1.501		1)
十和田大不動 (To-Of)	1.506-1.510		1)
西岩手雪浦・生出 (Iw-Y, Od)	1.505-1.508		1)
鳴子柳沢 (Nr-Y)	1.500-1.503		1)
焼石山形 (Yk-Y)	1.501-1.503		1)
焼石村崎野	1.503-1.508		1)
阿蘇 4 (Aso-4)	1.509-1.512		1)
鳴子荷坂 (Nr-N)	1.500-1.502		1)
北原 (Kth)	1.499-1.502		1)
御岳第1 (On-Pm1)	1.500-1.503		1)
三瓶木次 (SK)	1.495-1.498		1)
洞爺 (Toya)	1.496-1.498		1)

1)：町田・新井 (2011), 温度一定湯屈折率測定法 (新井, 1972, 1993).
本報告：温度変化型屈折率測定法 (壇原, 1993).

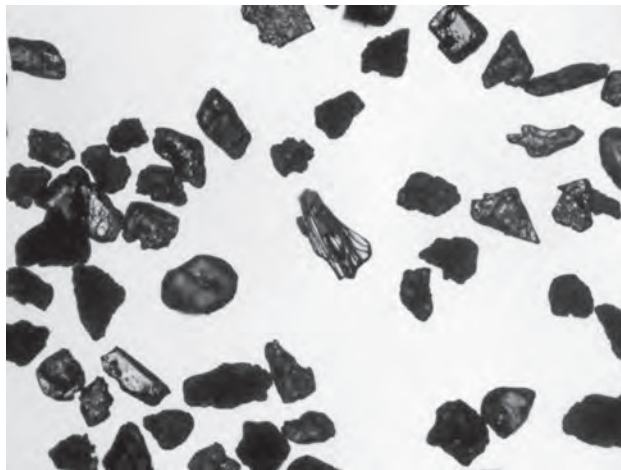


写真1 基本土層・II層 (透過光)
中央：繊維束状軽石型ガラス。
右上 (有色鉱物)：斜方輝石。

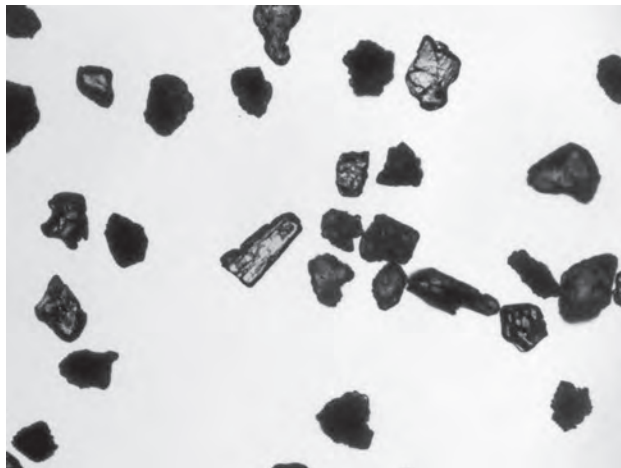


写真2 基本土層・II層 (透過光)
中央左 (有色鉱物)：斜方輝石。

0.2mm

(3) 骨分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

南日詰大銀Ⅱ遺跡（岩手県紫波郡紫波町大字南日詰に所在）の周辺は、上位段丘の石鳥谷段丘、中位段丘の二枚橋段丘、低位段丘の都南段丘の3つに区分されており（中川ほか、1963など）、岩手県企画開発室（1974）によると、これら段丘と北上川に挟まれる場所が谷底平野及び氾濫平野とされている。本遺跡は、この地形区分で言えば谷底平野及び氾濫平野にあたる。

これまでの発掘調査により、本遺跡では県内でも希少な12世紀代に該当する遺構や遺物が検出されている他、古代や中世の掘立柱建物・竪穴建物・土坑・柱穴などが確認されている。本分析調査では、調査区内の土坑から検出された小動物とされる骨について種類および部位を明らかにするために骨同定を行った。

1 試料

試料は、SK16の底面から採取された5点（試料名：骨①、骨②、骨③-①、骨③-②、骨上面こぼれたもの）、および試料名が記入されていない1点である。いずれも乾燥した状態で、土壌と骨が混在する状態である。

2 分析方法

骨と土壌を分離するためふるい分けを行った後、フルイ上に残ったものから骨を抽出した。抽出した骨を肉眼で観察し、形態的特徴から種・部位を同定する。また、一部の試料は、接合関係がみられたため、必要な計測を行った後、接合・復元する。

3 結果及び考察

同定結果を表1に示す。SK16で検出された骨は、ヒトであり、頭蓋骨、左上顎骨の可能性がある破片、下顎骨、上顎骨/下顎骨、遊離歯牙、左大腿骨、大腿骨、左右脛骨、右腓骨などである。遊離歯牙の一部は、下顎骨と接合する。なお、骨格各部の名称を図1に示す。

検出された歯牙の歯式を表2に示す。歯牙は、左上顎第1切歯～第1大白歯、右上顎第1切歯～犬歯、左下顎第1切歯～第2大白歯、右下顎第1切歯～第1小白歯と第1・2大白歯が確認される。右下顎第2小白歯は検出されず、歯槽が吸収していることから生前に歯牙が脱落していたとみられる。なお、これら検出される歯牙は、藤田（1949）に従いデジタルノギス等を用いて計測した。その結果を表3に示す。

検出された人骨は、全身の骨格が揃っていないものの、頭蓋、歯牙、下肢骨が確認される。土坑から検出されていることを考えると、SK16が土坑墓であり、埋葬された人骨であった可能性が高い。咬耗状況は、第1大白歯は象牙質が一部露出する程度（Broca II）、第2大白歯はエナメル質が咬耗するが象牙質が露出しない（Broca I）である。検出される大腿骨や脛骨などの四肢骨は全体的に華奢なイメージがある。また、歯牙の計測値を権田（1959）と比較すると女性的である。以上のことから、本人骨は、成年（16～20歳程度）と考えられ、性別は女性の可能性がある。

一方、試料名が記入されていない骨は、イヌの右上顎骨である。第1後臼歯、第2後臼歯が植立す

る。第2後臼歯が萌出していることから5ヶ月齢以上と考えられ、咬耗がそれほど進んでいないことから老齢個体ではなかったと考えられる。一部のみの出土であり、詳細不明である。

引用文献

藤田 恒太郎, 1949, 歯の計測基準について. 人類学雑誌, 61, 27-32.
 権田 和良, 1959, 歯の大きさの性差について. 人類学雑誌, 67, 151-163.
 岩手県企画開発室 (北上山系開発), 1974, 北上山系開発地域 土地分類基本調査 日誌 (5万分の1). 36p.
 中川久夫・石田琢二・佐藤二郎・松山 力・七崎 修, 1963, 北上川上流沿岸の第四系および地形—北上川流域の第四紀地史 (1). 地質学雑誌, 69, p.163~171.

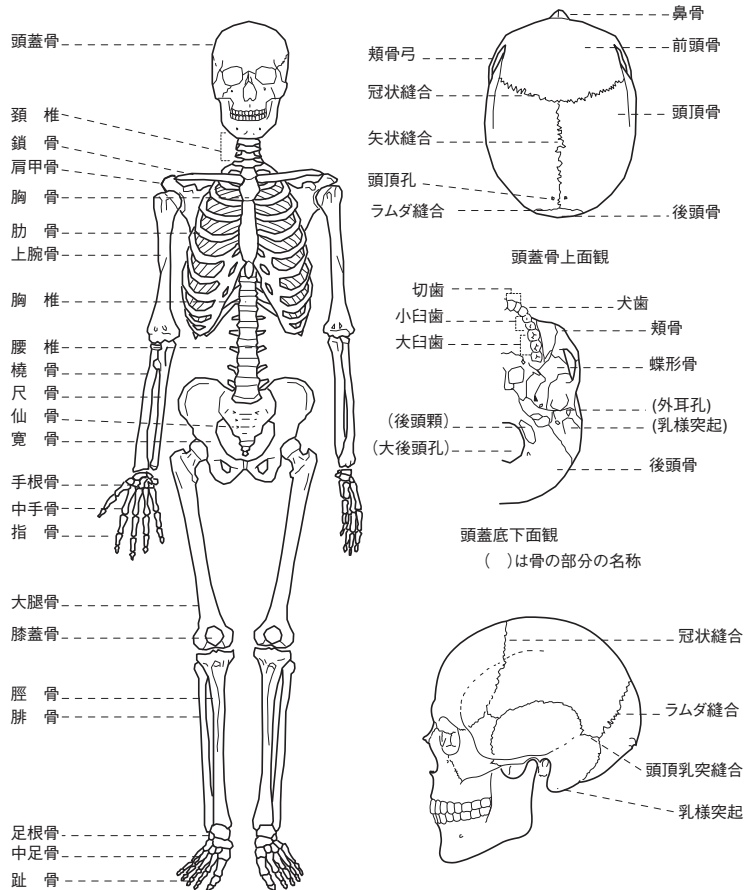
表2 歯式

	右								左							
	M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3
上顎	/	/	/	/	/	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	/
下顎	/	○	◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	/

注) ◎: 植立 ○: 遊離 - : 歯槽吸収 / : 歯槽破損

表3 歯牙計測結果

計測部位		歯冠幅		歯冠厚	
		左	右	左	右
上顎	I ¹	7.75	7.94	6.61	6.41
	I ²	-	6.99	6.71	6.96
	C	7.73	7.76	7.68	7.74
	P ¹	7.35		8.87	
	P ²	6.83		8.49	
	M ¹	9.81		10.77	
	M ²				
下顎	I ¹	5.14	5.00	5.32	5.48
	I ²	5.79	5.82	6.52	5.93
	C	6.45	-	7.09	6.97
	P ¹	7.51	7.08	7.78	7.85
	P ²	8.34		7.66	
	M ¹	11.15	11.13	9.60	9.78
	M ²	10.88	10.49	9.62	9.55
M ³					



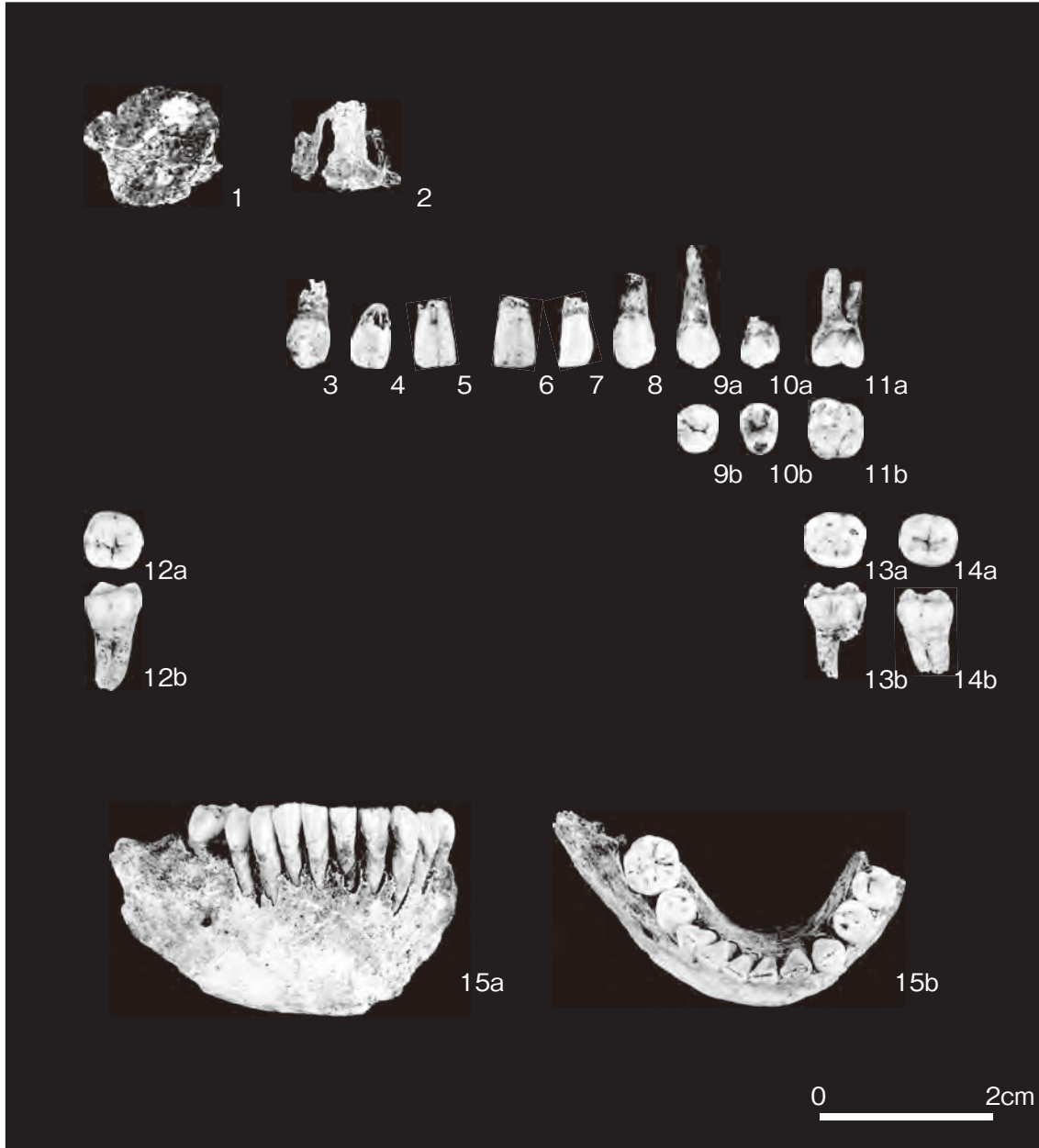
手根骨: 舟状骨, 月状骨, 有頭骨, 有鈎骨, 三角骨, 大菱形骨, 小菱形骨, 豆状骨
 足根骨: 距骨, 踵骨, 舟状骨, 立方骨, 内側楔状骨, 中間楔状骨, 外側楔状骨

図1 人体骨格各部の名称

表1 骨同定結果

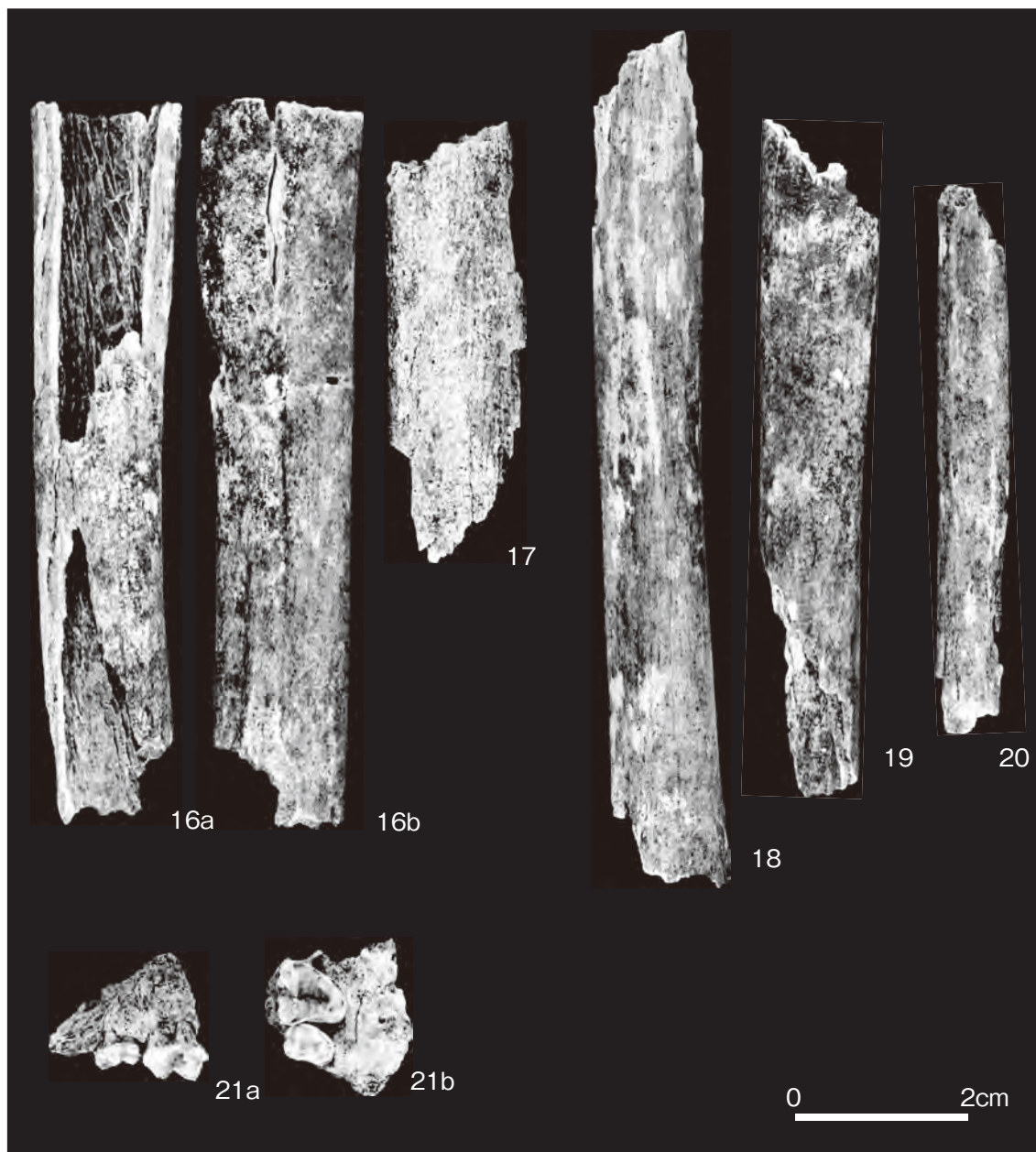
遺構	試料名	種類	部位	左	右	状態	数量	備考
SK16 底面	骨①	ヒト	大腿骨			破片	2	骨幹部
			四肢骨			破片	6	
			不明			破片	-	9.6 g
		残渣					-	12.5 g
SK16 底面	骨②	ヒト	大腿骨	左		破片	1	骨幹部
			脛骨		右	破片	1	骨幹部
			不明			破片	-	9.7 g
		残渣					-	61.6 g
SK16 底面	骨③-①	ヒト	上顎第2切歯		右	破片	1	歯根部欠
			下顎第2大白歯	左		破片	1	歯根一部欠
			脛骨	左		破片	1	骨幹部
			腓骨		右	破片	1	骨幹部
			不明			破片	-	7.7 g
		残渣					-	79.8 g
SK16 底面	骨③-②	ヒト	上顎第1切歯	左		破片	1	歯根部欠
					右	破片	1	歯根部欠
			上顎第2切歯	左		破片	1	歯冠部破損、歯根部欠
			上顎犬歯	左		破片	1	歯根部欠
					右	破片	1	歯根部欠
			上顎第1小白歯	左		略完	1	
			上顎第2小白歯	左		破片	1	歯根部欠
			下顎第1切歯	左		略完	1	下顎骨(骨③-②)と接合
					右	略完	1	
			下顎第2切歯	左		略完	1	下顎骨(骨③-②)と接合
					右	略完	1	
			下顎犬歯	左		略完	1	下顎骨(骨③-②)と接合
					右	略完	1	
			下顎第1小白歯	左		略完	1	下顎骨(骨③-②)と接合
					右	略完	1	
			下顎第2小白歯	左		略完	1	下顎骨(骨③-②)と接合
			下顎第1大白歯	左		破片	1	歯根一部欠
			下顎第2大白歯		右	略完	1	
			歯牙			破片	1	歯根部のみ残存
			上顎骨?	左?		破片	1	
			上顎骨/下顎骨			破片	1	
			下顎骨	左	右	破片	1	右第2小白歯抜部歯槽吸収
			頭蓋骨			破片	1	
			不明			破片	-	11.8 g
			残渣					-
		SK16 底面	骨上面 こぼれた もの	ヒト	上顎第1大白歯	左		破片
下顎第1大白歯					右	略完	1	下顎骨(骨③-②)と接合
不明						破片	-	5.2 g
残渣	残渣						-	40.9 g
		イヌ	上顎骨		右	破片	1	第1・2後臼歯植立
			不明			破片	-	4.2 g
		残渣	残渣				-	0.3 g

図版1 出土骨 (1)



1. ヒト頭蓋骨 (SK16底面; 骨③-②)
2. ヒト左上顎骨? (SK16底面; 骨③-②)
3. ヒト右上顎犬歯 (SK16底面; 骨③-②)
4. ヒト右上顎第2切歯 (SK16底面; 骨③-①)
5. ヒト右上顎第1切歯 (SK16底面; 骨③-②)
6. ヒト左上顎第1切歯 (SK16底面; 骨③-②)
7. ヒト左上顎第2切歯 (SK16底面; 骨③-②)
8. ヒト左上顎犬歯 (SK16底面; 骨③-②)
9. ヒト左上顎第1小臼歯 (SK16底面; 骨③-②)
10. ヒト左上顎第2小臼歯 (SK16底面; 骨③-②)
11. ヒト左上顎第1大臼歯 (SK16底面; 骨上面こぼれたもの)
12. ヒト左下顎第2大臼歯 (SK16底面; 骨③-①)
13. ヒト左下顎第1大臼歯 (SK16底面; 骨③-②)
14. ヒト左下顎第2大臼歯 (SK16底面; 骨③-①)
15. ヒト左右下顎骨 (SK16底面; 骨③-②)

図版2 出土骨 (2)



16.ヒト左大腿骨(SK16底面;骨②)

17.ヒト大腿骨(SK16底面;骨①)

18.ヒト左脛骨(SK16底面;骨③-①)

19.ヒト右脛骨(SK16底面;骨②)

20.ヒト右腓骨(SK16底面;骨③-①)

21.イヌ右上顎骨(試料名無し)

(4) 炭化種実分析

吉川純子（古代の森研究舎）

1 はじめに

南日詰大銀Ⅱ遺跡は紫波町に立地する古代～中世の集落跡である。本遺跡の竪穴建物竈及び炉から採取した堆積物から炭化種実を検出したため、当時の植物質食料の利用状況を調査する目的で炭化種実分析をおこなった。試料はあらかじめ選別された炭化種子試料と水洗後の残渣試料があり、残渣試料については双眼実体顕微鏡下で同定可能な植物部位を選別し観察・同定した。同定に充てた試料は57試料である。

2 同定結果

本遺跡から出土した遺構別種実出土個数を表1にまとめ、試料毎の出土種実内訳は表2に示した。出土した分類群は木本がスギ、オニグルミ、モモ、ブドウ属、草本は穀類のイネ、オオムギ、コムギ、アワ、キビ近似種、ヒエを出土し、そのほかにエノコログサ属、タイヌビエ近似種、ヒエ属、イネ科、スゲ属、シンジュガヤ、コゴメガヤツリ、ウキヤガラ、ホタルイ属、ツユクサ、アカザ属、ザクロソウ、スベリヒユ、ハナタデ近似種、イヌタデ属、ミドリハコベ近似種、ササゲ属、ゲンゲ属、ダイコン属、ゲンバイナズナ、エノキグサ、アカネ科、メハジキ属、シソ科、オニノゲシ、タンポポ属、不明果実を出土した。

本遺跡では穀類のオオムギ、コムギ、アワを大変多く出土しており、イネ、ヒエはやや少なく、キビ近似種は少なかった。オオムギは穂軸を共伴する遺構が2か所あり、穎や穂軸がついたまま炭化したと考えられる。オオムギは完熟種子で6mm前後の大きい種子も多く、コムギも完熟種子の比率が高かった。出土数が少なかったイネは完熟が少なく不熟が多かった。穀類以外の食用植物では、僅かであるがオニグルミ、モモ、ダイコン属を出土している。なお、ササゲ属は小さいタイプの種子であるため食用の可能性は低く、雑草種子が炭化したと考えられる。

非炭化種実はアカザ属とアカネ科が3遺構でやや多く出土するが、後世の混入かどうかは不明である。アカザ属は堆積物がこびりついているので当時の種子である可能性が高いと考えられる。

3 考察

本遺跡の中世の竈及び炉からはオオムギ、コムギ、アワを多く出土し、これらの雑穀の利用頻度が高かったと考えられる。オオムギはイネとともに粒食とされるか家畜の飼料とするのが一般的であるが、コムギは皮を剥くと崩れて粉状となりやすいため粒食にむかず、粉食として利用する場合がほとんどである。アワもイネとともに粒食とされる場合が多い。中世には穀類の食べ方が多様化していたと考えられる。県内では久慈市の北ノ越遺跡の中世とされる竈出土炭化種実の分析において、コムギが多くオオムギを共伴する、という点で本遺跡と類似性がある。本遺跡の竈や炉の炭化物には炭化材片や草本の茎などの細い枝状のものが多いことから燃料材残渣と考えられ、食料残渣などをこの遺構で燃やしたと考えられる。

以下に出土した炭化種実のうち特筆すべき分類群の形態記載をおこなう。

オオムギ：出土した種子は現在の栽培オオムギとほとんど大きさは変わらず、楕円形であるが基部が細く上下端は尖っていて厚さが幅より薄い。片面中央には縦に深い溝がある。

コムギ：種子は上下が斜めに切れた俵型で下端に孔状のへそがあり上端は平らである。熱を受けて種子の一部が脱落しているものが多い。

アワ：一部内穎のみ残った状態、あるいは種子の状態の出土が多い。種子は球形で1.3-1.4mm、背面にある胚は種子長半分よりやや大きく腹面にやや縦長のへそがある。炭化すると背腹方向に膨張しやすい。

表1 遺構別種実出土個数

分類群	出土部位\遺構	SI01	SL01	SL02	SL03	SL04	SL05	SL06	SL06	SD01	SL06	不明
食用植物												
オニグルミ	炭化内果皮破片	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モモ	炭化核完形	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ	炭化穎破片	-	5	-	-	3	9	1	-	-	-	-
	炭化胚乳	26	75	5	22	58	14	10	3	-	15	-
オオムギ	炭化種子	5	87	6	20	145	7	207	-	-	388	19
	穂軸	-	1	-	-	1	-	2	-	-	28	-
コムギ	炭化種子	71	298	4	6	86	1	3	-	-	3	11
アワ	炭化種子	8	11	95	251	46	62	23	-	-	140	-
キビ近似種	炭化種子	-	3	-	5	1	13	-	-	-	-	-
ヒエ	炭化種子	4	17	30	79	23	19	7	-	-	19	-
ダイコン属	炭化種子	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
雑草等												
ブドウ属	炭化種子	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ムギ類	炭化種子	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タイヌビエ近似種	炭化種子	-	1	-	15	2	5	-	-	-	-	-
ヒエ属	炭化種子	1	-	-	9	-	2	-	-	1	-	-
イネ科	炭化種子	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウキヤガラ	炭化果実	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ササゲ属	炭化種子	1	5	2	4	11	3	-	-	-	-	-
ゲンゲ属	炭化種子	-	3	-	3	8	6	-	-	-	-	-
グンバイナズナ	炭化種子	-	-	-	-	8	-	1	-	-	3	-
不明	炭化果実	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
非炭化種実												
スギ	雄花序	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-
	種子	-	-	1	-	-	1	2	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
エノコログサ属	穎	1	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ属	穎	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	穎	7	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
スゲ属	果実	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シンジュガヤ	果実	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コゴメガヤツリ	果実	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
ホタルイ属	果実	1	1	1	5	4	-	-	-	-	-	-
ツユクサ	種子	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
アカザ属	種子	75	2	-	1	4	1	3	-	2	-	-
ザクロソウ	種子	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
スベリヒユ	種子	10	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ハナタデ近似種	果実	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イスタデ属	果実	-	1	-	3	1	-	-	-	-	-	-
ミドリハコベ近似種	種子	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
エノキグサ	種子	3	7	-	1	1	-	1	-	-	-	-
アカネ科	種子	-	-	-	-	-	-	17	-	-	24	-
メハジキ属	果実	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
シソ科	果実	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニノゲシ	果実	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
タンポポ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

表2 出土炭化種実一覧

分類群	試料番号 遺構 地点 出土部位\層位等	712	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814
		SL06 炉	SI01 カマド	SI01 カマド	SI01 カマド	SL01 カマド	SL01 カマド	SL01 カマド	SL01 カマド	SL01 カマド	SL01 カマド	SL01 カマド	SL01 カマド	SL02 カマド	SL02 カマド	SL02 カマド
スギ	雄花序	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニグルミ	炭化内果皮破片	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モモ	炭化核完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ	炭化穎破片	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-
	炭化胚乳	-	2	13	6	3	-	2	32	12	17	2	-	-	5	8
オオムギ	炭化種子	1	2	3	-	6	16	4	30	8	7	1	-	4	2	4
	穂軸	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
コムギ	炭化種子	-	-	71	-	40	31	13	103	58	36	7	-	4	-	1
ムギ類	炭化種子	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アワ	炭化種子	-	5	2	1	-	-	-	1	2	5	3	-	84	11	107
エノコログサ属	穎	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ近似種	炭化種子	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ	炭化種子	-	-	4	-	-	6	3	7	-	-	-	-	27	3	36
タイヌビエ近似種	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	15
ヒエ属	穎	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	穎	-	2	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スゲ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
シンジュガヤ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
コメガヤツリ	果実	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウキヤガラ	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ホタルイ属	果実	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	2
ツルクサ	種子	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ属	種子	-	20	28	24	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1
ザクロソウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スベリヒユ	種子	-	4	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハナタデ近似種	果実	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
イヌタデ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ミドリハコベ近似種	種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ササゲ属	炭化種子	-	-	1	-	-	-	-	-	2	2	1	-	1	1	-
ゲンゲ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ダイコン属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゲンバインナズナ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	種子	-	-	2	1	1	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-
アカネ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メハジキ属	果実	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シソ科	果実	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニノゲシ	果実	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タンポポ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	炭化果実	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

分類群	試料番号 遺構 地点 出土部位\層位等	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829
		SL03 炉	SL03 炉	SL04 炉	SL04 炉	SL04 カマド	SL04 カマド	SL04 カマド	SL05 炉	SL05 炉	SL05 カマド	SL06 カマド	SL06 カマド	SL06 カマド	SL06 カマド	SD01 A区
スギ	雄花序	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
オニグルミ	炭化内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モモ	炭化核完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ	炭化穎破片	-	-	1	-	1	-	1	9	-	-	1	-	-	-	-
	炭化胚乳	-	14	7	2	11	26	3	2	-	11	5	4	3	-	8
オオムギ	炭化種子	1	14	12	2	27	62	12	-	-	5	75	1	-	-	183
	穂軸	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	28
コムギ	炭化種子	-	5	-	-	4	13	1	-	-	-	3	-	-	-	-
ムギ類	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アワ	炭化種子	14	130	3	-	31	9	3	15	5	42	22	-	-	-	140
エノコログサ属	穎	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ近似種	炭化種子	-	5	1	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ	炭化種子	6	37	6	2	4	5	5	5	11	3	7	-	-	-	19
タイヌビエ近似種	炭化種子	-	-	-	2	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ属	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	4	5	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-
イネ科	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スゲ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シンジュガヤ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コメガヤツリ	果実	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウキヤガラ	炭化果実	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ホタルイ属	果実	-	3	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツルクサ	種子	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ属	種子	-	-	1	-	1	2	-	1	-	-	3	-	-	2	-
ザクロソウ	種子	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スベリヒユ	種子	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ハナタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌタデ属	果実	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミドリハコベ近似種	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ササゲ属	炭化種子	-	2	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゲンゲ属	炭化種子	-	2	1	-	-	4	-	1	1	4	-	-	-	-	-
ダイコン属	炭化種子	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゲンバインナズナ	炭化種子	-	-	6	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3
エノキグサ	種子	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
アカネ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	24
メハジキ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
シソ科	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニノゲシ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
タンポポ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

4 自然科学分析

分類群	遺構 地点 出土部位\層位等	SL02 カマド 灰口付近	SI01 カマド 土壌	SI01 カマド 焼土	SL01 炉 本体	SL01 炉 体内	SL01 炉 本体部	SL01 炉 本体最下層	SL01 炉 前庭部	SL01 -	SL03 カマド 本体内	SL03 - 前庭部	SL04 炉 本体	SL04 カマド 体内	SL04 - 前庭部	SL04 - 前庭部内
スギ	雄花序	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニグルミ	炭化内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モモ	炭化核完形	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ	炭化穎破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化胚乳	-	5	-	1	-	-	1	5	-	-	-	1	2	5	-
オオムギ	炭化種子	-	-	-	5	-	-	2	3	5	-	1	11	1	2	3
	穂軸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コムギ	炭化種子	-	-	-	6	2	-	1	1	-	-	-	-	1	67	-
ムギ類	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アワ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノコログサ属	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ近似種	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ	炭化種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
タイヌビエ近似種	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ属	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スゲ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シンジュガヤ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コゴメガヤツリ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウキヤガラ	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ホタルイ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツユクサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ属	種子	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ザクロソウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スベリヒユ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハナタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌタデ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミドリハコベ近似種	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-
ササゲ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゲンゲ属	炭化種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ダイコン属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゲンバインズナ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカネ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メハジキ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シソ科	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニノゲシ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タンポポ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

分類群	遺構 地点 出土部位\層位等	試料番号 SL05 炉 本体	845 SL05 カマド 体内	846 SL05 カマド 体内	847 SL06 炉 本体	848 SL06 前庭部	849 SL06 炉内 焼土	850 SL06 炉内 焼土内	851 不明 不明	852 SL04 前庭部	853 SL04 前庭部	854 SL01 カマド 体内	855 SL03 カマド 体内	856 SL06 前庭部
スギ	雄花序	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニグルミ	炭化内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モモ	炭化核完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
イネ	炭化穎破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化胚乳	-	1	1	-	4	3	-	1	-	-	-	-	-
オオムギ	炭化種子	-	2	129	1	135	69	19	13	-	-	-	1	-
	穂軸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コムギ	炭化種子	1	-	-	-	3	-	11	-	-	-	-	-	-
ムギ類	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アワ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
エノコログサ属	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ近似種	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タイヌビエ近似種	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ属	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スゲ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シンジュガヤ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コゴメガヤツリ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウキヤガラ	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ホタルイ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツユクサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ザクロソウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スベリヒユ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハナタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌタデ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミドリハコベ近似種	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	1	2	-	-	-	-	-	-	-	3	2	1	-
ササゲ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゲンゲ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ダイコン属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゲンバインズナ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカネ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メハジキ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シソ科	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニノゲシ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
タンポポ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



図版1 炭化種実

1. スギ、葉 (No.825) 2. スギ、雄花序 (No.825) 3. スギ、種子 (No.825) 4. オニグルミ、炭化内果皮破片 (No.803) 5. モモ、炭化核 (No.830) 6. ブドウ属、炭化種子 (No.852) 7. イネ、炭化胚乳 (No.849) 8. イネ、炭化穎基部 (No.822) 9. オオムギ、炭化種子 (No.849) 10. オオムギ、穂軸 (No.829) 11. コムギ、炭化種子 (No.825) 12. ムギ類、炭化種子 (No.802) 13. アワ、炭化穎果 (No.829) 14. キビ近似種、炭化種子 (No.822) 15. ヒエ、炭化種子 (No.823) 16. エノコログサ属、穎破片 (803) 17. タイヌビエ近似種、炭化種子 (No.822) 18. ヒエ属、穎 (No.801) 19. イネ科、穎 (No.801) 20. コゴメガヤツリ、果実 (No.801) 21. ウキヤガラ、炭化果実 (No.820) 22. ホタルイ属、果実 (No.803) 23. ツユクサ、種子 (No.802) 24. アカザ属、種子 (No.801) 25. スベリヒユ、種子 (No.801) 26. ハナタデ近似種、果実 (No.803) 27. ミドリハコベ近似種、種子 (No.825) 28. エノキグサ、種子 (No.825) 29. ダイコン属、種子 (No.820) 30. グンバイナズナ、炭化種子 (No.825) 31. ササゲ属、炭化種子 (No.839) 32. ゲンゲ属、炭化種子 (No.822) 33. アカネ科、種子 (No.825) 34. メハジキ属、果実 (No.801) 35. シソ科、果実 (No.802) 36. タンポポ属、果実 (No.829) 37. オニノゲシ、果実 (No.825) 38. 不明、果実 (No.844)

※スケールは1mm

5 小 結

第4次調査の成果について、以下の項目ごとに若干の検討を加えつつまとめとしたい。

(1) 各遺構の年代について

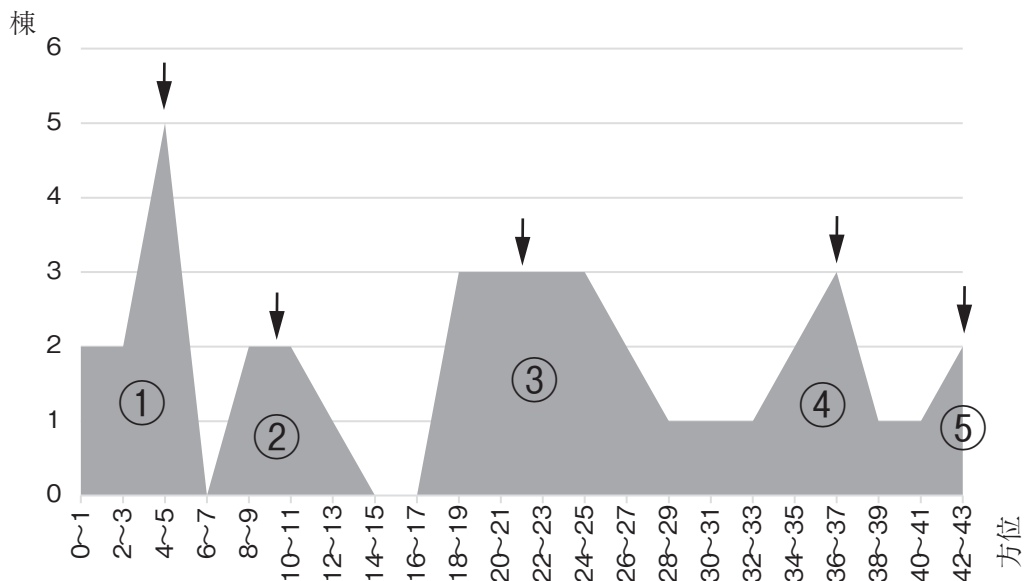
今回調査を行った各遺構の時期決定は、ある意味最も重要な作業であるため、その決定根拠を示すこととする。掘立柱建物については、建物方位、柱穴の重複関係、出土遺物、AMS測定を根拠として時期決定を行う。竪穴建物については、主に出土遺物から年代を決定した。土坑については、主に出土遺物やAMS測定を根拠としたが、それらが無い場合は不明としたものが多い。焼成遺構については、ほとんど出土遺物がないか少量のため、主にAMS測定年代を根拠としている。このように遺構によって年代決定の根拠が異なる点に注意されたい。

掘立柱建物

建物方位から 掘立柱建物の方位（向き）については、第2節で記載の通り、南北、東西棟に関わらず東西方向に対する傾きを計測した（第1-65図）。これらの建物方位を2°ごとにまとめ、その棟数をグラフにしたものが第1-65図である。これを見ると、棟数のピークが5箇所あることがわかる。4°～5°、8°～11°、16°～25°、36°～37°、42°～43°である。これは、この頂点の数値を頂点とし、その山が下がるまでの範囲を含むひとつのグループとして捉えられる。建物方位にある程度のまとまりがあることは、これらピークの数値を指向している可能性がある。また、この数字に幅があるのは当時の構築時によるものや現在の計測誤差が含まれるからと思われる。今回の調査では、①0～5°、②8～13°、③18～30°、④31～40°、⑤41～43°の5つのグループに分けられた。なお、基準数値は、現状から導き出されたもので、分析棟数が増えれば数値は多少変更になる可能性や別のグループに分割される可能性がある。それぞれ所属する建物跡は以下の通りである。

①建物方位 0～5° の建物跡 SB06・16・30

②建物方位 8～13° の建物跡 SB01～03・14



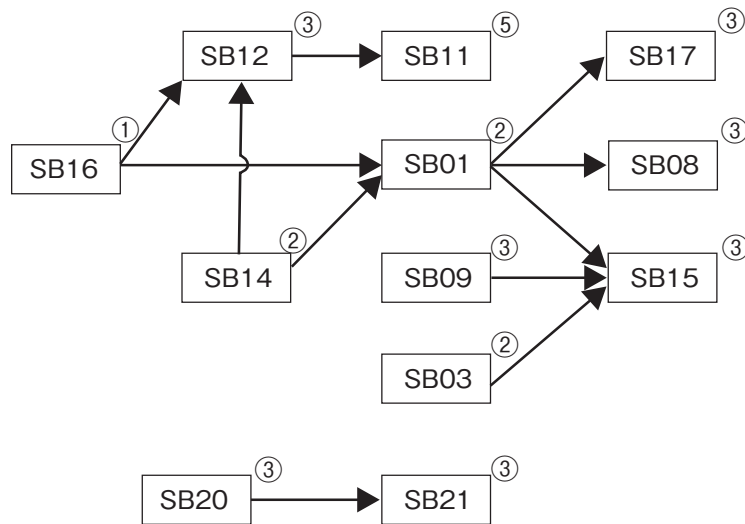
第65図 建物方位分布図

- ③建物方位 18°~30° の建物跡 SB04・05・07~10・12・15・17・19~21・24・30~33
- ④建物方位 31°~40° の建物跡 SB13・18・22・23・25・26・28
- ⑤建物方位 41°~43° の建物跡 SB11・27・29

建物方位の共通性がある程度の時期の共通性を表すという前提から、これらの各グループ内の建物跡は重複関係にあっても同じような時期関係にあると考えられる。

重複関係から 次に、①~⑤のまとまりに属する建物が、いつの時期に相当するのかが問題となる。そのため、まず重複関係を検討する。掘立柱建物の場合、構成する柱穴が直接重複する場合と、建物空間が重複する場合がある。後者の場合の新旧関係は不明となる。前者の関係が確認できる例は、SB04<SB01（旧<新、以下同じ）、SB01<SB08、SB16<SB01、SB09<SB15、SB12<SB11、SB20<SB21、SB01<SB17、SB16<SB12、SB03<SB15 の 9 例が確認できる。掘立柱建物とその他の遺構との重複関係は、SB07>SK11、SB28>SL03 の 2 例のみ確認できる。掘立柱建物の重複関係をまとめたのが第 1-66 図である。

それぞれの建物には所属する建物方位グループ名を記した。したがって、重複関係から建物方位グループを並べると①→②→③→⑤の順に相対的に新しくなることがわかる。④グループの建物は重複関係にあるものがなく、重複関係からはその位置づけは不明となる。



第 66 図 掘立柱建物の重複関係

出土遺物から 出土遺物から検討を加える。第 1-3 表を参考に

出土遺物の主体となる種類（重量割合）を時期ごとにまとめると、土師器・須恵器が主体のもの、かわらけ・12 世紀に属する陶磁器が主体のもの、15~16 世紀に属する陶磁器が主体のもの、土師器とかわらけの出土割合が拮抗しているもの、主体となる遺物が不明のものに分けられる。それぞれに属する遺構は以下の通りである。掘立柱建物以外の遺構からの出土遺物もここでまとめておく。

土師器・須恵器主体	SB16・30/SI01
かわらけ・陶磁器（12 世紀）主体	SB01~03・06・09・11・12・14・15・17・25・31・33
中世陶磁器（15~16 世紀）主体	SB08・24
土師器とかわらけ同程度	SB14/SK06
主体となる遺物不明	SB04・07・10・13・18~23・26~29・32

各柱穴から出土する遺物についてはその出土量が極めて少なく、それが本来の所属を示しているとは限らないが、参考程度にあげておく。

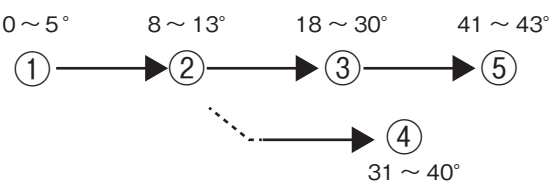
AMS 測定から 今回の調査では AMS 測定をいくつか行っている。測定結果のうち、 1σ の暦年代範囲（複数ある場合は最も確度の高い値）を指標にして、測定遺構の暦年較正年代をまとめると以下のようなになる。なお、暦年較正年代を世紀表記に変換し、前葉・中葉・後葉の3区分にしている。また、複数計測を行った遺構もあるが、それぞれ併記している。

- SB01（方位②） 11世紀前葉～中葉、11世紀中葉、11世紀中葉～12世紀前葉、11世紀後葉、
12世紀前葉～中葉、12世紀後葉
- SB14（方位②） 11世紀前葉～中葉
- SB22（方位④） 16世紀後葉～17世紀前葉
- SB24（方位③） 15世紀後葉～16世紀前葉、16世紀中葉～17世紀前葉、
16世紀後葉～17世紀前葉
- SB33（方位③） 11世紀後葉～12世紀前葉

AMS測定による暦年較正年代においても、9世紀代を除き、11世紀～12世紀前後の時期、15世紀～17世紀前後の時期の2時期に分けられることがわかった。9世紀代の遺構（竪穴建物）からはサンプルを供していないため、暦年較正年代を測定していない。建物方位との対応関係では、建物方位②が12世紀前後の時期、④が16～17世紀前後の時期であることがわかる。③の時期は、15～16世紀の年代を示す例が多いが、一部12世紀前後の値を示す場合があることは注意したい。

また、これらの結果から、今回の調査した遺構は、少なくとも3時期に分けられることが判明した。そのため、これら時期のまとまりごとに、9世紀をⅠ期、12世紀をⅡ期、15～16世紀をⅢ期とした。④グループは、AMS年代が16～17世紀と他のグループより後出的であるが、測定例が1例のみである点と重複例などの根拠に乏しいため、Ⅳ期とするよりⅢ期以降として捉えておく。

掘立柱建物の年代について 以上の結果から、これまで不明であった建物方位④が16世紀～17世紀前後を示すことから、③・⑤の時期に近いことがわかり、少なくとも建物方位②よりも後出的といえる。この結果をまとめたのが、第1-67図である。これにより、Ⅱ期の建物には、SB01・03・06・14・16・30が、Ⅲ期前後の建物にはSB04・05・07～
0～5° 8～13° 18～30° 41～43°
12・15・17・19～21・24・27・29・30～33が、Ⅲ期
以降の建物には、SB13・18・22・23・25・26・28が
それぞれ位置づけられることになる。



第67図 建物方位グループの新旧関係

その他の遺構

土坑・溝跡・焼成遺構の年代については、出土遺物とAMS測定結果から導くほかはない。出土遺物をまとめると以下のようなようである。

土師器・須恵器主体	SI01
かわらけ・陶磁器（12世紀）主体	SD01・02/SK01・04・12・13・15
中世陶磁器（15～16世紀）主体	無し
土師器とかわらけ同程度	SK06
主体となる遺物不明	SK16・17・22・25/SL01～SL06

AMS 測定の結果をまとめると、以下の通りである。

- SD01 11 世紀前葉～中葉、11 世紀中葉～後葉、11 世紀中葉～12 世紀前葉、
12 世紀中葉～13 世紀前葉
- SD02 12 世紀中葉～13 世紀前葉
- SK01 10 世紀後葉～11 世紀前葉、11 世紀中葉～後葉、12 世紀中葉～13 世紀前葉
- SK04 11 世紀中葉～12 世紀前葉
- SK12 11 世紀中葉～後葉
- SK13 12 世紀中葉～13 世紀前半
- SK17 11 世紀後葉～12 世紀前半
- SK25 18 世紀後葉
- (SK21 →攪乱 11 世紀前葉～中葉、15 世紀中葉～16 世紀前葉、16 世紀前葉～後葉)
- SL01 15 世紀後葉～16 世紀前葉
- SL02 15 世紀後葉～16 世紀前葉
- SL03 15 世紀中葉～後葉
- SL04 15 世紀中葉～後葉、16 世紀中葉～後葉
- SL05 16 世紀中葉～17 世紀前葉
- SL06 15 世紀中葉

焼成遺構については、出土遺物が極めて少なく年代決定の根拠は AMS 測定が主体となる。なお、SK21 については調査途中から整理作業過程において攪乱と判断したが、AMS 測定の結果をみると遺構と同様の年代が得られており、遺構の可能性もある。各遺構の年代については第 1-9 表にまとめておく。

竪穴建物

竪穴建物 (SI01) の時期決定については、出土土器を根拠とする。SI01 は第 3 次調査で南半分を、今回の第 4 次調査で北半分を調査したものである。遺物があまり豊富では無く、出土した土器が遺構の時期を表しているか不安な点が残る。ここでは、出土須恵器を基準としてその年代的な位置づけについて検討する。27・28 の須恵器坏の形態は、体部が直線的に開くもので、26 はやや体部が内彎するものである。底径は、26 が 7.6cm、27 が 7.3cm、28 が 6.9cm といずれも 7 cm 前後と大きい。口径もそれぞれ 13cm、13.55cm、12.9cm である。大きな特徴として、底部切り離し技法は 26 がヘラ切り、27 が回転糸切り、28 が小破片であるが静止糸切りの可能性がある。27 はまた静止糸切りが複合しているようにも観察できる。こうした形態や底部切り離し技法をもつ杯は、多賀城跡 SI2153 や SI2160 出土遺物に類似していると考えられる。また志波城出土土器とも共通点が多い。多賀城の土器編年に拠れば、9 世紀第 1 四半期に位置づけることが可能であろう (柳沢 1994)。したがって、本遺構出土の須恵器坏だけからみれば、志波城出土土器と同じ (8 世紀末から) 9 世紀初頭頃に位置づけても可能であろうが、土師器の坏が出土せず図示可能な遺物も少なく確実ではないため、広く 9 世紀前葉頃としておきたい。

以上、今回の調査によって調査した各遺構の年代についてその決定根拠を明示しながら検討を加えた。決定根拠は、各遺構とも統一されたものではないが、出土遺物が主体となる。掘立柱建物については、出土遺物による決定が困難であるため、建物方位を主体として決定した。今回は AMS 測定を

積極的に行った。これらの成果は、同時期・他地域の成果と合わせていずれ検証しておく必要がある。今回の分析結果は、おおむね既存の年代観と整合性をもつ。そのため、遺物の出土のない焼成遺構は AMS 測定の結果に拠った。なお、Ⅱ期（12世紀）の暦年較正年代には11世紀を示す値が多いことは注意しておく必要がある。また、Ⅱ期としたかわらけについては、ここでは細分しないが、既存の編年（羽柴2011、八木2016a）に当てはめると、12世紀前半から後半までの時期を含んでいることが判明している。特にSD01から出土する轆轤かわらけは底部が突出しており、坏形に近い形態をもつものが多い。90・92のような柱状高台も含まれる。これらは12世紀でも前半代に位置づけられよう（羽柴前掲）。もっともSD01は12世紀後半代の遺物も混在している。これらのⅡ期の遺物（12世紀のかわらけ）は、いずれ紫波町域全体の中で検討しなければならない問題であるため、今後の課題としたい。いずれにせよ、SD01の出土遺物からみると、12世紀前半代から遺跡が存続していたことが想定される。

(2) Ⅱ期の遺構について

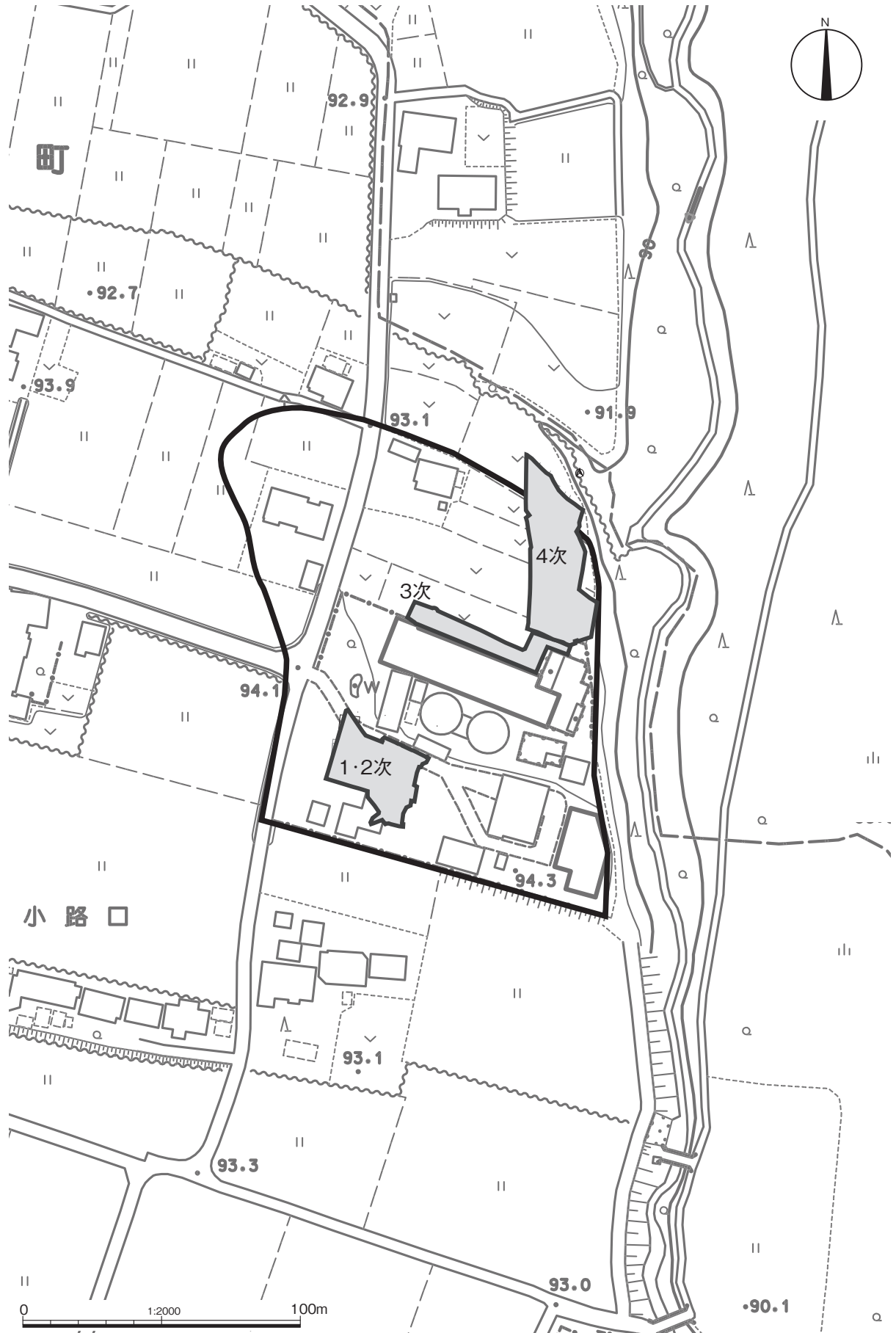
前節の遺構の年代決定に伴い各時期の様相を簡単に触れると、Ⅰ期は堅穴建物が1棟のみであり、まだその様相は不明な点が多い。Ⅱ期は、掘立柱建物や溝、土坑などが存在する。Ⅲ期は、掘立柱建物や焼成遺構が展開する様相が想定される。この時期は、北側に隣接する北条館跡の主要な時期と重なるため、それと一体に検討しなければならない問題である。そのため、ここではⅡ期の遺構に限定し、過去の調査も踏まえながら若干の検討を行っていきたい。

Ⅱ期（12世紀）とした遺構には、掘立柱建物（第4次調査SB01（以下4SB01）～03・06・14・16・30）、溝（4SD01・02）、土坑（4SK01・04・06・12～15・17）があげられる。これまでの調査（第1～3次）では、Ⅱ期に属する遺構として、掘立柱建物（1SB01～08）、門とそれに取り付く塀（2SA01）、塀跡（2SA02・03）、井戸がある（第1-68・69図：紫波町教育委員会2019）。したがって、遺跡は、Ⅱ期においては、掘立柱建物、門、塀、井戸、溝から構成されることがわかった。このなかで、掘立柱建物、溝を中心に若干の検討を行う。

掘立柱建物 Ⅱ期に属する掘立柱建物は、第1～3次調査で9棟、第4次調査で7棟となる（第1-70図）。これらの平面形式は、1SB01（第1次調査のSB01を称する、以下同様）・1SB02・1SB08・4SB01・4SB03の5棟は庇建物である。1SB04・1SB07・1SB03・1SB05・3SB09の5棟は総柱建物としたが、このうち1SB03・1SB05・3SB09は側柱よりも内側の柱穴が小さく、床束などの可能性もあ

第9表 各遺構の想定時期一覧

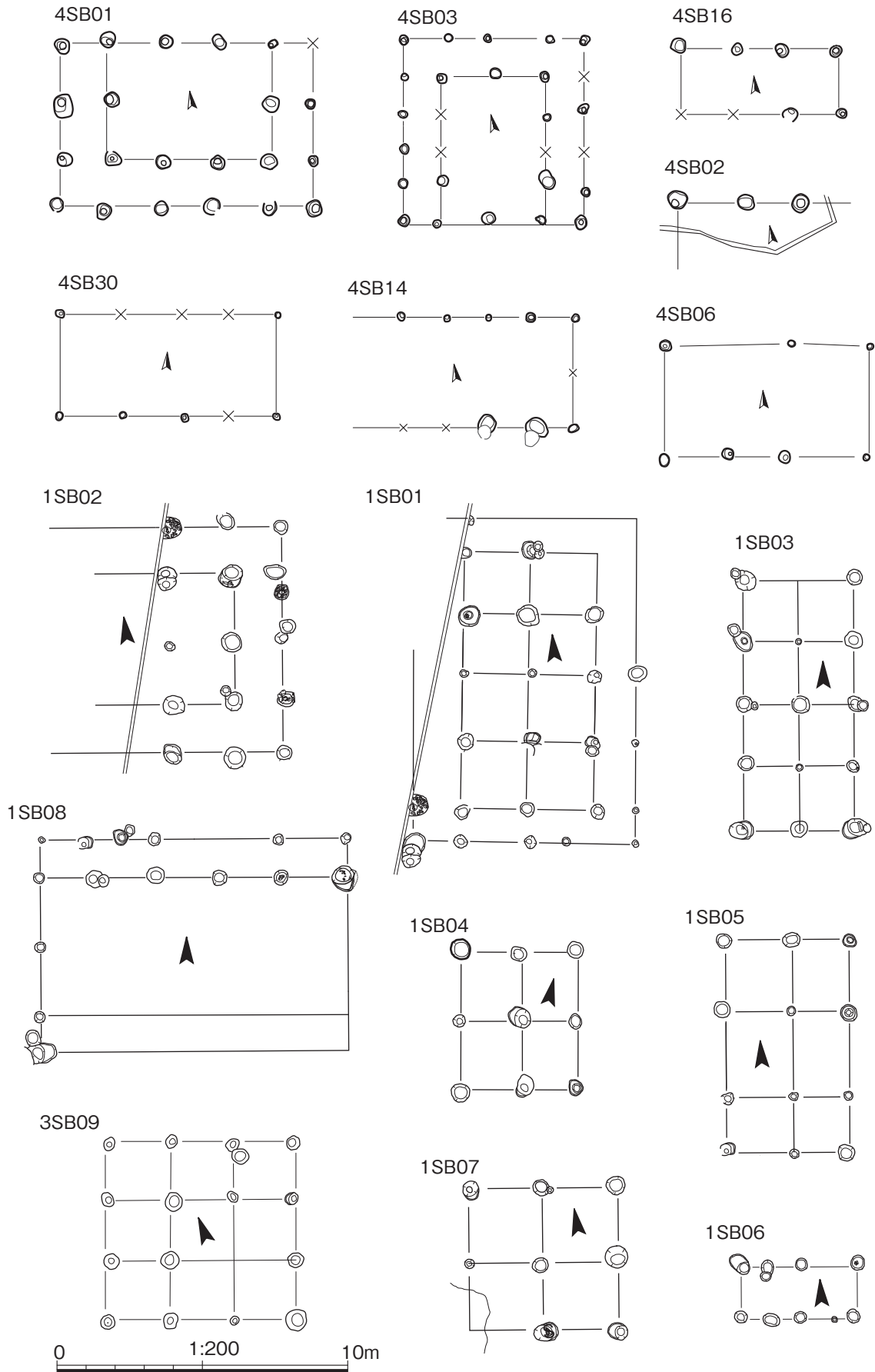
遺構名	想定時期	その他	遺構名	想定時期	その他
SB01	Ⅱ期		SB27	Ⅲ期	
SB02	Ⅱ期		SB28	Ⅲ期以降	
SB03	Ⅱ期		SB29	Ⅲ期	
SB04	Ⅲ期		SB30	Ⅱ期	
SB05	Ⅲ期		SB31	Ⅲ期	
SB06	Ⅱ期		SB32	Ⅲ期	
SB07	Ⅲ期		SB33	Ⅲ期	
SB08	Ⅲ期		SD01	Ⅱ期	
SB09	Ⅲ期		SD02	Ⅱ期	
SB10	Ⅲ期		SK01	Ⅱ期	
SB11	Ⅲ期		SK04	Ⅱ期	
SB12	Ⅲ期		SK06	I～Ⅱ期	
SB13	Ⅲ期以降		SK11	不明	
SB14	Ⅱ期		SK12	Ⅱ期	
SB15	Ⅲ期		SK13	Ⅱ期	
SB16	Ⅱ期		SK15	Ⅱ期	
SB17	Ⅲ期		SK16	不明	
SB18	Ⅲ期以降		SK17	Ⅱ期	
SB19	Ⅲ期		SK22	不明	
SB20	Ⅲ期		SK25	Ⅲ期以降	
SB21	Ⅲ期		SL01	Ⅲ期	
SB22	Ⅲ期以降		SL02	Ⅲ期	
SB23	Ⅲ期以降		SL03	Ⅲ期	
SB24	Ⅲ期		SL04	Ⅲ期	
SB25	Ⅲ期以降		SL05	Ⅲ期	
SB26	Ⅲ期以降		SL06	Ⅲ期	



第 68 図 南日詰大銀Ⅱ遺跡調査区位置図



第 69 図 南日詰大銀Ⅱ遺跡第 1～3 次調査区遺構配置図



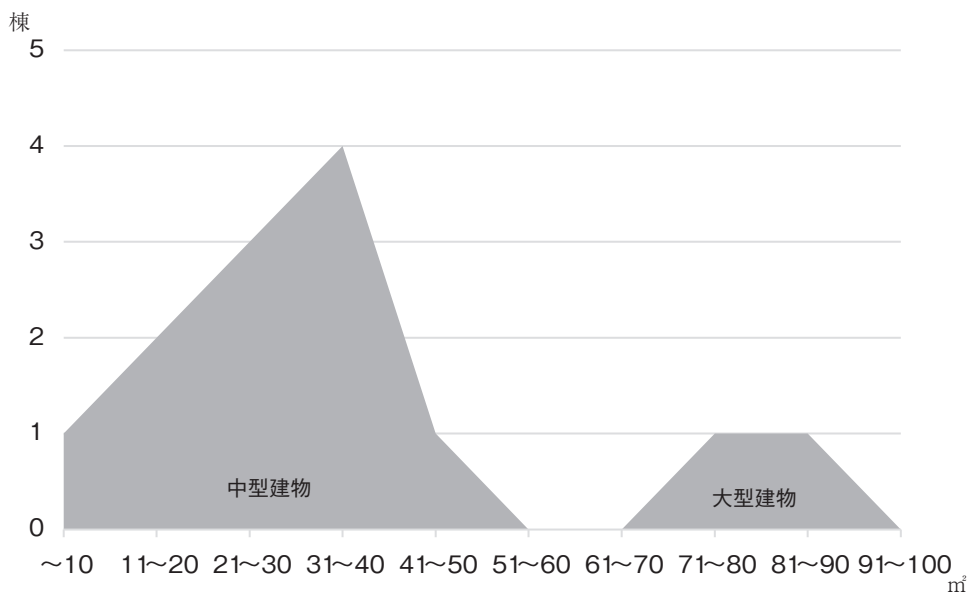
第 70 図 南日詰大銀Ⅱ遺跡の掘立柱建物

るため、無庇建物の可能性がある。それ以外の建物は、無庇建物（いわゆる側柱建物）である。建物方位は、第1～3次調査をみると、1°・4°・5°・11°・14°東に傾く5種類と、4°西に傾く1種類に分けられる。これらは先述の建物方位グループに換算すると、1°・4°・5°は、建物方位①のまとまりに、11°・14°のものは建物方位②のまとまりに含まれる。西に傾く1SB04については、類例の増加を待って検討したい。これらの結果は、第4次調査で導いた建物方位グループや年代観とも齟齬はない。ちなみに、八木の分析（八木 2016a）によれば、比爪館跡の掘立柱建物の建物方位とも整合性を持ちそうである。この建物方位グループは建物数が増加すれば基準数値が多少の変更になる可能性がある。重複関係は、第1次調査の建物では直接柱穴が重複する例はない。1SB03<1SB06のみが確認され、いずれも建物方位グループは①である。また、① SA01<1SB06となる。1SA01の方位は直線ではなく、計測が難しいが、②の方位に近いと考えられる。そのため、この重複例では②<①となり、これまでの順とは異なる点は注意したい。掘立柱建物と塀の違いなどが影響する可能性はあるが、今後重複例の増加を待って検証する必要がある。少なくとも掘立柱建物においては、12世紀

の間に①→②へと変化した可能性を指摘しておきたい。さて、次に建物規模をみておくことにする。Ⅱ期の掘立柱建物の床面積は第1-10表にまとめた。これによると、最小の7.1㎡（1SB06）から、最大の87.3㎡（1SB01）の床面積までが確認できる。この床面積の分布をみたのが第1-71図である。これをみると2つの山があることがわかる。1つは30～40㎡を頂点とする50㎡前後までの山と60㎡以上の山である。したがって、建物の床面積は、おおよそそれらの数値をもって区別される可能性がある。そこで、最も棟数が多い60㎡以下の建物を中型建物、数が少ない60㎡以上の建物を大型建物と呼称することにしたい。なお、この傾向は、本遺跡のⅠ期に相当する平安時代における周辺遺跡の掘立柱建物の分析結果（西澤 2010・11）や平泉における掘

第10表 掘立柱建物の平面型式と床面積

建物名	平面形式	床面積 (㎡)	その他
1SB01	庇建物	87.3	四面か
1SB02	庇建物	-	四面か
1SB03	総柱	33.2	
1SB04	総柱	19.9	
1SB05	総柱	32.6	
1SB06	無庇	7.1	
1SB07	総柱	26	
1SB08	庇建物	77.7	二面
3SB01	総柱	38.9	
4SB01	庇建物	48.7	三面
4SB02	無庇	-	
4SB03	庇建物	39.7	三面
4SB06	無庇	26.6	
4SB14	無庇無庇	22.0+	
4SB16	無庇無庇	11.6	
4SB30	無庇	25.9	



第71図 掘立柱建物の床面積分布

立柱建物の分析結果（西澤 2020）とも対応する結果となっている。そのようにみると、本遺跡においては、3棟（1SB01・1SB08・1SB02）の大型建物が含まれることになる（1SB02は東西棟の四面庇建物と想定、西半分が未調査であるが大型建物の可能性大のため）。これらの大型建物跡の存在は、中心建物が存在した可能性を示唆し、また門や塀が存在することはそれらによって囲まれた空間が存在することを表している。

溝 掘立柱建物以外のⅡ期に属する遺構として溝をあげる。特に第4次調査で検出したSD01は、調査区を東西に横断する形で存在しており、地形の変化点に位置する。この変化点は、南側の高い地点と北側の低い地点との間に約1mの段差である。この段差の直下に、段差に沿ってこの溝が構築されている。そのため同様の地形がつづく調査区の外側（西側と東側）にそれぞれ延長していくことが予想される。なお、第4次調査の出土遺物のうち大半がこの溝からの出土である。段差付近においては、柱穴の分布（建物の分布）が減少することから、遺構の希薄な「周縁」の状況を示すと考えられる。地形や遺構の様相を総合すると、この溝（4SD01）は遺跡の外側を区画する区画溝としての機能が想定される。そのように考えると、この溝の延長が気になるところである。そのため、まず南日詰大銀Ⅱ遺跡周辺の遺跡について見ておくことにしよう（第1-72図）。これまで、本遺跡の北側については触れたが（北日詰城内Ⅰ遺跡・北条館跡が連続し、調査成果は本書に記載）、4SD01は東西方向に延長することから、本遺跡の西側の状況についてここで触れておこう。まず本遺跡推定範囲南西側にはすぐに隣接して南日詰小路口Ⅰ遺跡がある。新幹線の高架を挟んで西側には南日詰小路口Ⅱ遺跡が続く。さらに西側には、少し間を空けて比爪館跡が位置する。また、南日詰小路口ⅠとⅡ遺跡間には、南日詰大銀Ⅰ遺跡が存在する。南日詰大銀Ⅱから比爪館跡間の距離は約650m程である。この東西の距離のなかに、多少の空隙を空けながらも上記の遺跡が連続していることがわかる。比爪館跡は、これまで30回以上の発掘調査が行われ、この時期の遺跡としては調査が進んでいる遺跡である。数多くの掘立柱建物や豊富な遺物の出土がみられ、この地域を拠点として活躍した平泉藤原氏の一族である比爪（樋爪）氏の居館（根拠地）として認識されている。この両遺跡の間で発掘調査が行われたのが、南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡である。これらの調査成果を参照しながら、この溝跡4SD01の行方を追っていくことにしよう。先に触れたように、この溝は地形の段差に沿って延びていくことが予想され、これに沿って延長していくと、現在の国道4号付近では高低差が不明瞭になるが、第1-73図のように比爪館跡北側の段差（堀）方向に延びてゆくことがわかる。さらに、南日詰小路口Ⅰ遺跡で部分的に調査されたSD34が北側に延長すると仮定すると（第1-74図）、第4次調査区から西に200m付近の場所で合流することになる。したがって、4SD01は最低限この付近までは延長する可能性が高い。いっぽう南側では、南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡SD34は部分的であるが、東方向にL字型に屈曲することが確認されている（第1-75図）。この位置は、地形の段差が確認できるところでもある。途中に攪乱が入っており、中間の状況は不明であるが、東方向には段差に沿ってSD27が確認される。これが先述の東に折れ曲がったSD34と同一の溝とすると、L字形に囲まれていることがわかる。4SD01が北西隅でこのSD34と合流しているのならば、東辺の状況が不明ながら、南北最大で約240m、東西約240m四方の区画が想定できる（北辺と南辺は平行していないが）。この区画内はおおよそ現在の水田面よりも一段高い場所でもある。南日詰大銀Ⅱ遺跡はちょうどこの区画内に収まることから、区画はこの遺跡の区画と判断しても妥当と考えられる（現在の遺跡範囲はこの区画よりも狭く、また南日詰小路口Ⅰ遺跡の一部が含まれる）。この結果は、南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡で部分的に調査された溝の延長線を単純につなげたに過ぎずないため仮定の部分も多く決定的なものではない

が、周辺地域を広く見渡し既存の調査成果を総合することで、現状では合理的な結論と考えている。この結論は、第4次調査で検出されたSD01の意義、ひいては本遺跡の性格を考える上では重要な論点であると考えている。

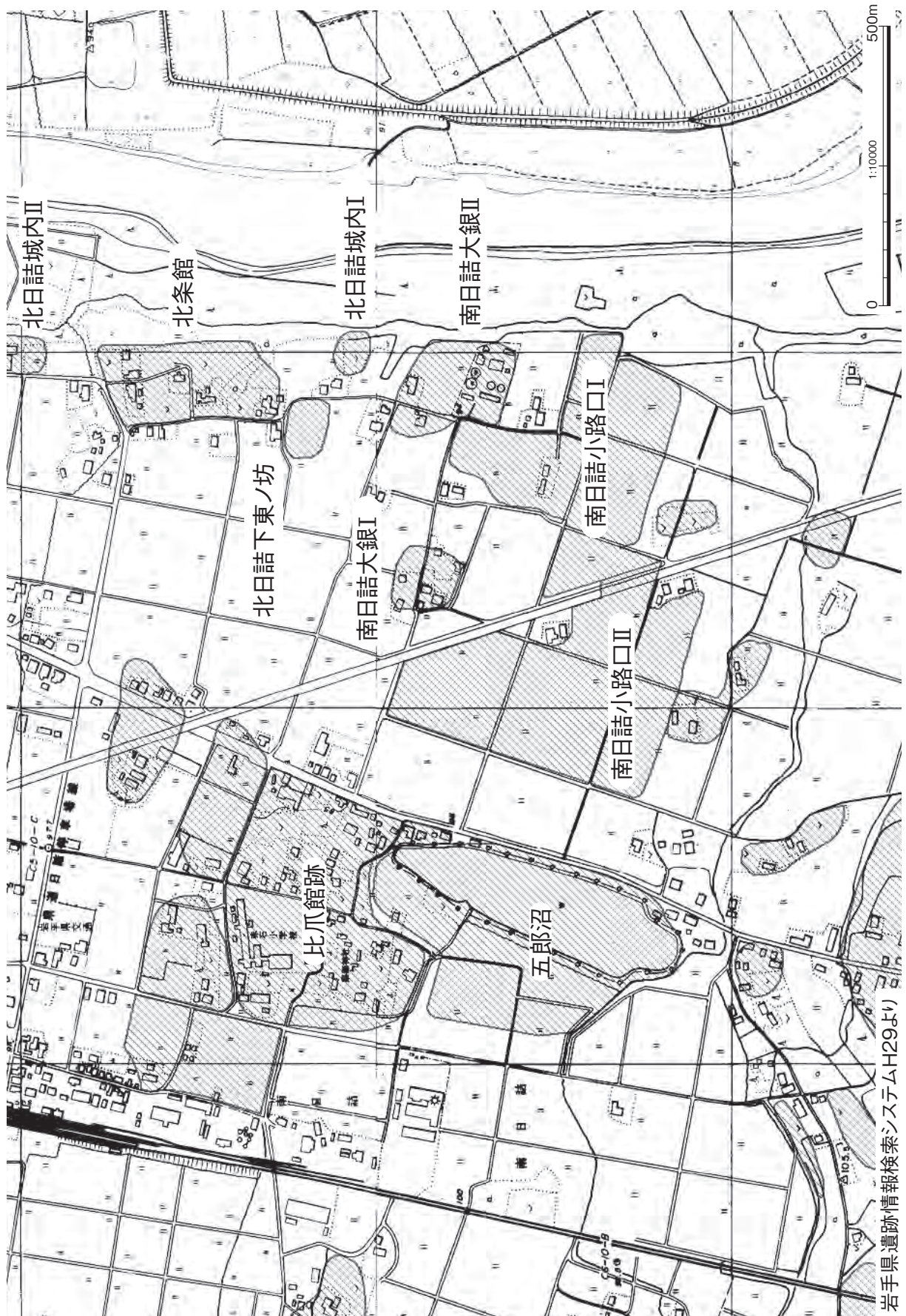
居館である可能性 本遺跡は、上述のような大区画になるかどうかはさておき、外側には区画溝が存在することは確かであろう。そして、その内部には塀や門、溝などによりさらに区画されていたと考えられる。こうした外部区画と内部区画による二重の区画の存在は、比爪館跡と共通する構造である。八木光則はこの時期の遺跡について、遺跡構造や四面庇建物、土器・陶磁器組成から類型化を行っている（八木2016b）。その際の重要な視点として囲郭施設の有無を取り上げている。そこでは、比爪館跡をⅡ類型：地域拠点の居館（館：たち）と位置づけている。もしそうであれば、本遺跡についても同様の評価を与えることができよう。このようにみると外側を区画する溝の存在は重要であり、先に想定した方形の区画ではなくても、この遺跡が居館である証拠となろう。これまでの南日詰大銀Ⅱ遺跡の4次にわたる調査や周辺遺跡の成果を参照することにより、二重に区画された構造や大型建物の存在、出土遺物の種類や量などから比爪館に類似する構造をもつ可能性が高いことが明らかとなった。また、これら居館の周辺には、第1-75図のように南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡で検出された、南北や東西方向の多数の溝がある。これらはⅡ期に属するものも多く、一定の方位をもって存在するようである。調査区幅の狭い調査であったため、溝の延長は不明な点が多いが、先述と同様の区画溝の可能性や、道路側溝である可能性が想定できる。この場合、居館の周辺はいくつかの区画に挟まれた街区のようなものが存在していたと推定される。このように想定すると、南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査は、比爪館跡から南日詰大銀Ⅱ遺跡まで間にⅡ期（12世紀）の遺構や遺物の広がり確認できた点は非常に重要である。

今後の問題 南日詰大銀Ⅱ遺跡が居館だとすると、その存続年代からみて、少なくとも一定の期間比爪館と共存していることになる。構造も含め多くの類似点がある。調査回数之差こそあるが、比爪館跡と同規模の調査が行われれば、この遺跡がこの地域におけるもう一つの拠点としての姿が浮かび上がると予想される。もとよりこの両者が誰の居館であるのか、どのように機能が分かれていたのかなど新たな問題が浮上してくる。この遺跡は、まだ今回の調査を含めて4回の調査しか行っておらず、発掘調査地点も限られている。そのため推論の部分が多く、論理が飛躍した部分もあろうかと思う。これらは今後の調査の進展や研究によって修正していく必要がある。また、先に想定した方形の範囲には、周知の遺跡として遺跡範囲に含められていない部分もあるなど、課題も多く残る。比爪館跡と南日詰大銀Ⅱ遺跡の間の調査が進展することを期待する。いずれにせよ、この調査を端緒として議論が深まればと願う。

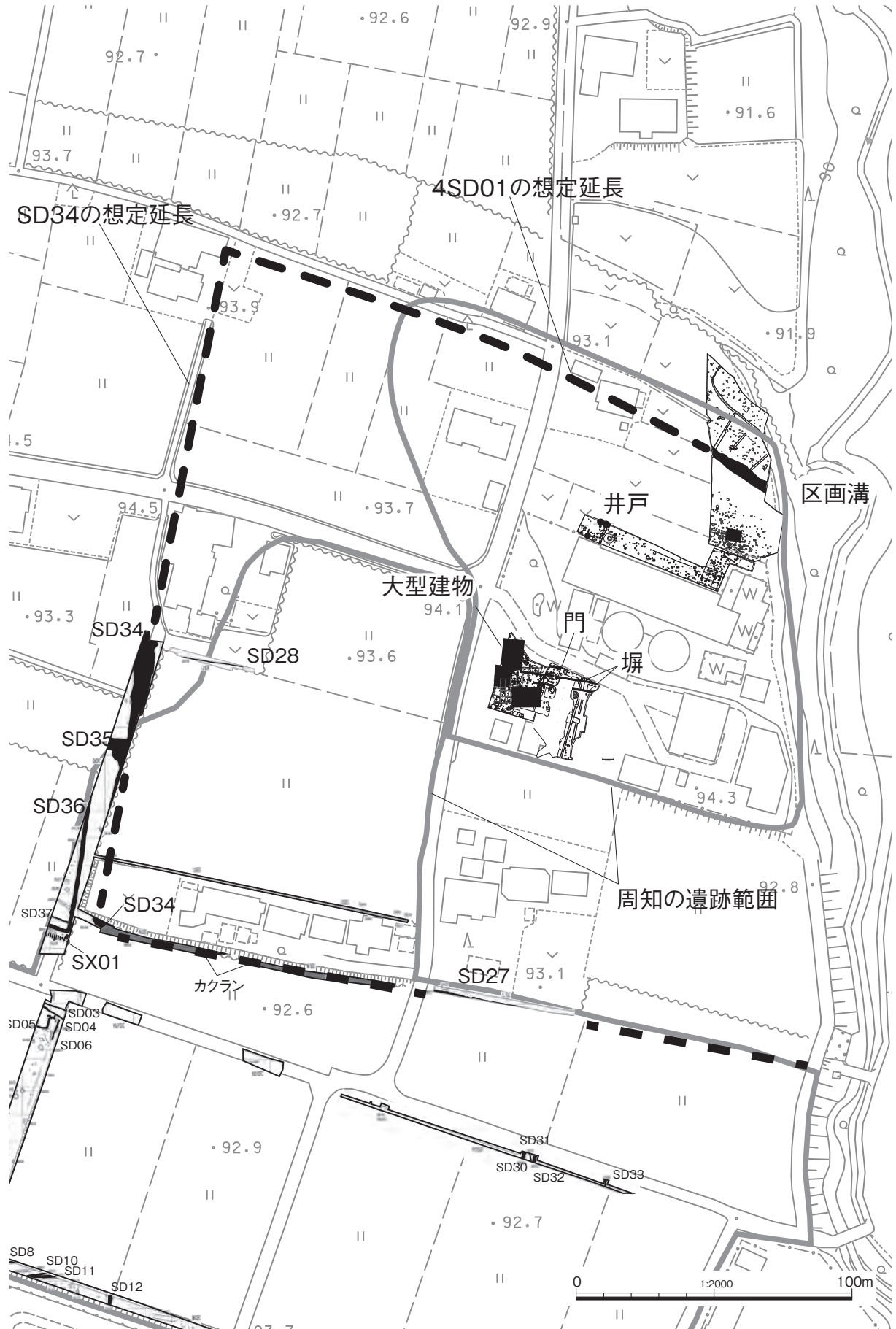
(3) 炉（焼成遺構）について

焼成遺構と考えられる炉が6基検出された。これはいわゆるカマド状遺構と呼ばれてきた遺構である。その用途については様々であり、当初考えられてきた屋外カマドであるとは単純にいえなくなってきた（茅野2008）。ここではこの問題についてあまり踏み込まず、遺構内土壌のフローテーションによる炭化種実の同定やAMS測定の結果をまとめ、今後の研究の一助としたい。

炭化種実 SL01～06まで計6基の遺構全てにおいて堆積土のフローテーションを行い、検出できた



第 72 図 周辺の遺跡



第74図 南日詰大銀II遺跡の大区画



第75図 大区画南西隅から南日詰小路口I・II遺跡

炭化種子などを外部機関で同定した（第Ⅳ章第4節（4）参照）。燃焼部と焚き口部（分析報告では前庭部）にわけて、おおむね下層に相当する堆積土から検出されたものである。分析結果から、オムギ・コムギ・アワなどの穀類がどの遺構からも多く出土することが判明した。そのほか食用の炭化種子も種類が多く出土する。このことは一見食用の残渣と想定することも可能であるが、同定報告に拠れば穎や穂軸がついたまま炭化したものがあり、脱穀（脱稈）をせず燃料用として使用された可能性も考えられる。この点は報告内でも、草本類の茎など細い枝状のものが多くことから燃料残渣である可能性が指摘されている。燃焼部と焚き口部の有為な違いはあまり見いだせないが、SL04については焚き口部の方が穀類の検出数は多い傾向にある。こうした焼成遺構から穀類が検出される例は、ほかに平安時代の土器（土師器）を焼成した遺構と考えられる土坑がある（村上・高木 2016、丸山・高木 2017 など）。焼成遺構の構造が異なるが燃料用として利用されたと考えると、興味深い共通点である。したがって、焼成遺構内から検出される炭化種子は、食料残渣ではなく燃料残渣の可能性の方が高い。用途論については、今回の調査からは直接見いだす証拠は見いだせなかった。

AMS 分析 先述の遺構の年代決定の際に焼成遺構全てにおいて AMS 測定を行った。その結果（1 σ の範囲）、SL01：15 世紀後葉～16 世紀前葉、SL02：15 世紀後葉～16 世紀前葉、SL03：15 世紀中葉～後葉、SL04：15 世紀中葉～後葉、16 世紀中葉～後葉、SL05：16 世紀中葉～17 世紀前葉、SL06：15 世紀中葉という暦年較正年代結果が提示されている。どの遺構もあまり年代のばらつきが少なく、15 世紀後半前後から 16 世紀までの年代に集中する。この時期は、主に遺物から導き出されたⅢ期の年代観とも整合する。したがって、これら焼成遺構については全てⅢ期に属することになり、かなり年代を限定できたと考えている。この遺構の最大の問題点である用途については検討できなかったが、その基礎的な資料については提示できたとと思う。

（4）ま と め

第4次調査を中心にして南日詰大銀Ⅱ遺跡の調査内容について述べてきた。これまでの成果を、過去の調査を含め、時期ごとに再度まとめておきたい。

I 期（9 世紀頃）：堅穴建物から構成される集落と考えられるが、遺構数が少なく判明する事実はまだ少ない。地形からみると、第4次調査の北側（一段低い）には広がらず、南側に集落が展開する可能性がある。集落数が爆発的に増加する時期よりも古い時期である点は注目される。

Ⅱ期（12 世紀）：この時期の様相はこれまでの調査成果と今回の検討により徐々に明らかになりつつある。要点は、①南日詰大銀Ⅱ遺跡の外側（地形の段差）は比較的大きな溝で囲まれそうであること（第4次調査）、②その内部は大型建物が分布する区域を中心に建物が複数存在すること、③大型建物が存在する区域には近接して塀や門があること、④本稿では触れていないが、第3次調査では井戸が集中している区域が存在すること、⑤個別の遺構の年代はさておき、遺跡全体の年代は12世紀前葉から後葉かけて存在する、にまとめられる。今回の第4次調査最大の成果は、4SD01の発見であり、この存在により先述までの検討が行うことが可能になったのである。比爪館跡と類似するような居館が新たに見つかったという点は今回の調査成果の中では最も重要なことであろう。

Ⅲ期（15～16 世紀中心）：複数の掘立柱建物、焼成遺構（いわゆるカマド状遺構）から構成される様相である。今回この時期についてはあまり触れていない。本遺跡だけでは構造があまりよくわからないが、隣接して調査している（本書記載の）北日詰城内Ⅰ遺跡、北条館跡と強く関連すると思われる。これらの遺跡は、利用時期が本遺跡と同様であり、ただ中心となる時期が異なる。南日詰大銀Ⅱ遺跡

はⅡ期が中心であるが、北条館跡はⅢ期が中心となる。そのため、Ⅲ期の南日詰大銀Ⅱ遺跡については、北条館の中心時期と強く関連しており、この城館跡の関連施設の可能性がある。また、焼成遺構については、いまだその機能について不明な点も多い。この遺構については北条館跡にも検出されており、Ⅲ期については北条館跡の章（第2分冊第Ⅵ章）で詳細に検討されよう。

以上、南日詰大銀Ⅱ遺跡第4次調査の成果をまとめた。改めて日詰地区は、12世紀に関わる重要な遺跡が存在していることがわかった。これまでの成果を改めて整理検討するとともに、新たな調査が期待される。また、戦国期の様相についても徐々に明らかになりつつある。この地域の歴史の豊かさが改めて感じられる。

引用・参考文献

- 五十川伸矢 1990 「中世前半の大型鉄鋳物」『京都大学構内遺跡調査年報 1987年度』
 五十川伸矢 1992 「古代・中世の鉄鋳物」『国立歴史民俗博物館研究報告』第46集
 岩手県立博物館 2016 『前平泉文化関連遺跡調査報告書』第33冊
 鈴木賢治編 2019 『南日詰大銀Ⅱ遺跡 第1次～第3次調査発掘報告書』紫波町教育委員会
 茅野嘉雄 2008 「カマド状遺構の集成と今後の研究課題について」『研究紀要 第13号』青森県埋蔵文化財調査センター
 中野俊雄 2005 「茶の湯釜と鉄瓶の歴史と替底方法」『鋳造工学』第77巻第2号
 西澤正晴 2011・12 「北上盆地周辺における平安時代の集落について(上・下)」『紀要』30・31(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
 西澤正晴 2020 「平泉の建築遺構」『平泉を掘る』吉川弘文館
 羽柴直人 2011 『東日本初期武家政権の考古学的研究－平泉勢力圏の位置づけを中心に－』総合研究大学院大学学位論文
 羽柴直人 2014 『比爪－もうひとつの平泉－』岩手県立博物館テーマ展パンフレット
 八木光則 2010 「兵 安倍・清原氏の柵」『蝦夷から平泉藤原氏へ－蝦夷、安倍・清原・藤原氏－』蝦夷研究会50回記念公開シンポジウム資料
 八木光則 2016a 「平泉期の奥六郡」『考古学の諸相Ⅳ』坂詰秀一先生傘寿記念論文集
 八木光則 2016b 「北奥における12世紀の居館と居宅」『岩手大学平泉文化研究センター年報』第4集
 柳沢和明 1994 「東北の施釉陶器－陸奥を中心に－」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東3 施釉陶器－』古代の土器研究会

発掘調査報告書（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書は岩文振第〇集と略記）

- 阿部勝則編 2011 『南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振第584集
 紫波町教育委員会 1966 『比爪館跡発掘調査報告書』
 紫波町教育委員会 1974 『比爪館跡発掘調査報告書－岩手県紫波郡紫波町所在－』
 紫波町教育委員会 1976 『比爪館跡第四次・第五次発掘調査報告書－岩手県紫波郡紫波町所在－』文化財調査報告書第九集
 紫波町教育委員会 1983 『比爪館遺跡－第6次発掘調査報告書－』紫波町文化財調査報告書第11集
 紫波町教育委員会 1986 『比爪館遺跡－昭和60年度第7次発掘調査報告書－』
 紫波町教育委員会 1992 『比爪館 第9・10次発掘調査報告書』紫波町文化財調査報告書第24集
 紫波町教育委員会 2002 『比爪館 第11次～第18次発掘調査報告書』
 紫波町教育委員会 2004 『比爪館 第8次・第19～22次発掘調査報告書』
 紫波町教育委員会 2013 『比爪館跡 第23次・第24次発掘調査報告書』岩手県紫波町埋蔵文化財調査報告書2012
 紫波町教育委員会 2013 『比爪館跡 第28次・第29次発掘調査報告書』紫波町埋蔵文化財調査報告書2012
 紫波町教育委員会 2013 『比爪館跡 第30次発掘調査報告書 個人住宅建設に伴う緊急発掘調査』紫波町埋蔵文化財調査報告書2012
 紫波町教育委員会 2015 『比爪館 第31次・第32次発掘調査報告書』紫波町埋蔵文化財調査報告書2014
 高橋義介編 1991 『比爪館跡発掘調査報告書 国道4号拡幅工事関連遺跡発掘調査』岩文振第151集
 丸山直美・高木晃編 2017 『中村遺跡発掘調査報告書』岩文振第671集
 村上絵美・高木晃編 2016 『千苜遺跡発掘調査報告書』岩文振第652集

V 北日詰城内 I 遺跡の調査

1 調査概要

(1) 調査状況

調査区は台形状である（第 1-76 図）。規模は、北側幅 34.5 m、南側幅 33.5 m、西側幅 23.5 m、東側幅 31.0 m で、面積 1,190m² である。調査区内はほぼ平坦で、標高は 91.2～91.8 m である。

検出遺構は、柵列（掘立柱建物の可能性あり）1 列、掘立柱建物 2 棟、竪穴建物（工房）4 棟、土坑 17 基（うち 1 基は井戸の可能性あり）、溝 17 条、また柱穴 163 個である。狭い調査区に遺構が密集しており、重複するものも多い。

遺構の時期については、ほとんどの遺構が遺物を共伴しないため、放射性炭素年代を根拠としている。その結果、全て 15～16 世紀代の遺構と判断した。

出土遺物は縄文土器、土師器、かわらけ、近世以降の陶磁器などが大コンテナ 0.5 箱、縄文時代の石器や近世以降の石製品が大コンテナ 1 箱、他に羽口片、金属製品、粘土塊、銭貨（永楽通宝）2 枚がある。遺構内から出土するものもあるが、遺物の残存状態や出土状況から見て、流れ込みによる混入が多いと考えている。

(2) 基本層序

調査区西壁のほぼ中央で確認した（第 1-76 図）。

I 層：にぶい黄褐色粘質シルト（10YR5/4） 層厚 45～55cm 表土

粘性やや強、しまりやや密、粒子やや細かい。

II 層：黒褐色シルト質粘土（10YR3/2） 層厚 15～40cm

粘性強、しまり密、粒子粗い。土質は遺構内堆積土に類似し、遺物を微量包含する。ただし、遺物の時期は縄文時代から近世までと幅広く、プライマリーな遺物包含層ではない。

III a 層：灰黄褐色シルト質粘土（10YR5/2） 層厚 5～20cm II - III b 層の斬移層

粘性強、しまり密、粒子細かい。上面が遺構検出面であるが、堆積しない範囲もある。

III b 層：にぶい黄橙色シルト質粘土（10YR7/2） 層厚 35～45cm 地山の無遺物層

粘性やや強、しまり密、粒子細かい。土質は III a 層とほぼ同じだが、色調は明るい。調査区全域で堆積を確認しており、上面が遺構検出面。本文中の「地山ブロック」はこの層の土を指す。また、層下部はやや砂質。

IV 層：褐灰色シルト質粘土（10YR5/1） 層厚 10cm 地山下の無遺物層

粘性強、しまり密、粒子細かい。III b 層下に帯状に堆積する、暗い土色の層。

V 層：浅黄橙色細砂（10YR8/3） 層厚不明 地山下の無遺物層

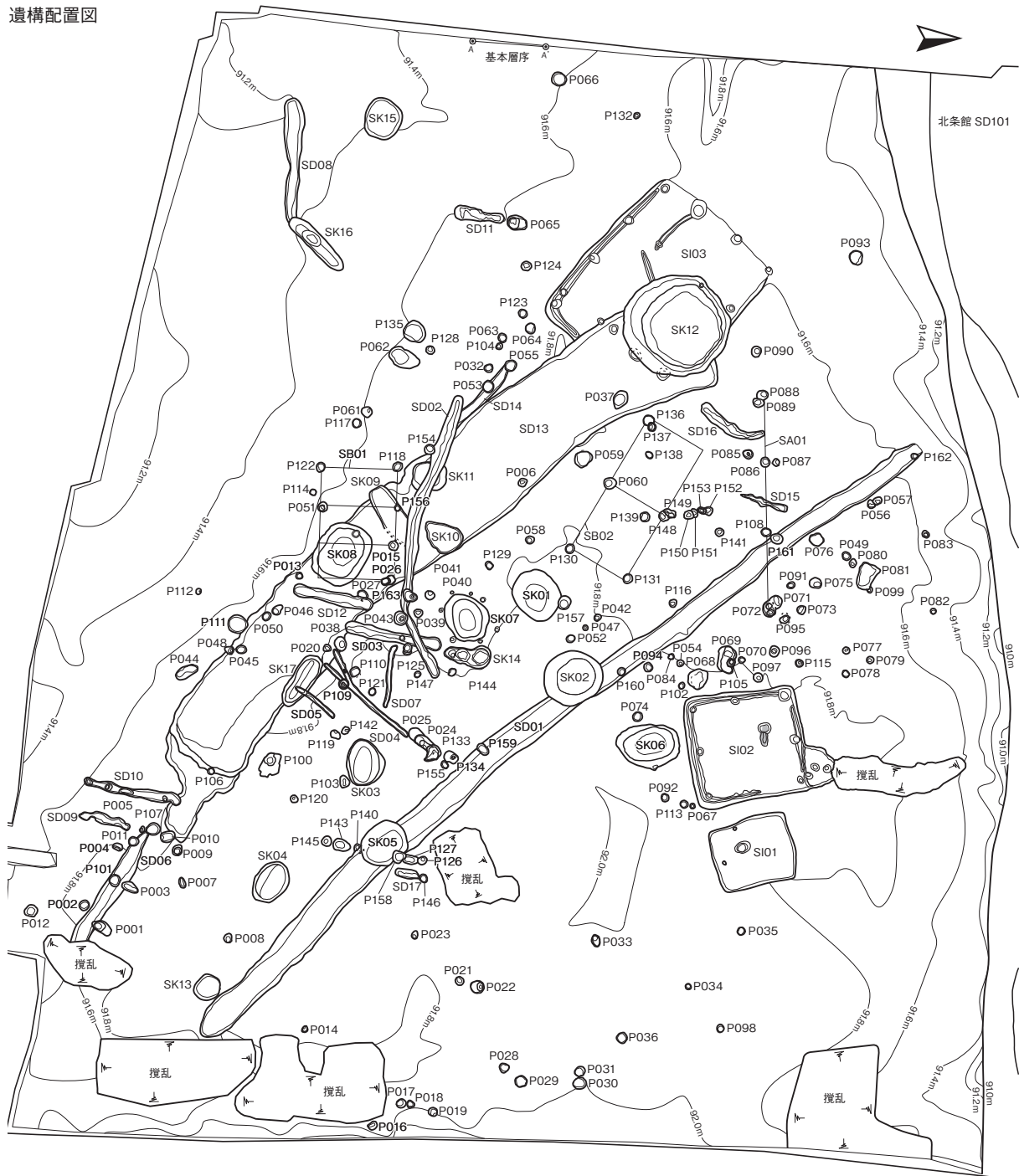
粘性やや弱、しまりやや疎、粒子やや粗い。本来は灰黄褐色（10YR4/2）であったと思われるが、グライ化によって変色している。φ5～20cm 大の礫を多く含む。

出土遺物は主に II 層と遺構内から出土し、遺構は III 層（III a・b 層）上面で検出した。また地山とした III b 層からさらに V 層まで掘り下げたが、遺構、遺物ともに検出されず、また V 層は下がるほどに混入する礫が増えるので、それ以上掘り下げても遺構、遺物共に見受けられないと判断し、これ

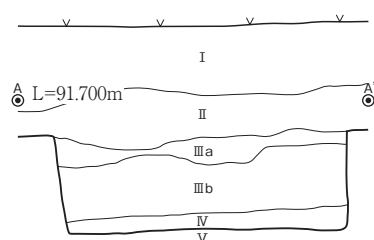
1 調査概要

以上は掘り下げていない。

遺構配置図



基本層序



第76図 遺構配置図、基本層序

2 検出遺構

(1) 柵列

SA01 (第 1-77 図、写真図版 1-49)

[位置・検出状況] 調査区北端、IV A9 g~i グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で検出した。

[他遺構との重複] SD01・15・16 と重複するが、直接重複する柱穴が無いため新旧関係は不明である。

[規模] 長さ 6.75 m

[使用した柱穴] 4 個 (P072・086・088・108) である。規模は径 25~50cm、深さ 30cm 前後である。P086・088 で柱痕跡を確認した。

[建物の方向] N-90°-W

[出土遺物] 無し

[時期] 不明

(2) 掘立柱建物

SB01 (第 1-78 図、写真図版 1-50)

[位置・検出状況] 調査区中央、IV A12h・i グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で検出した。

[他遺構との重複] SK08・09、SD13 と重複する。柱穴の重複関係から SD13 より新しいと判断できるが、SK08・09 との新旧関係は不明である。

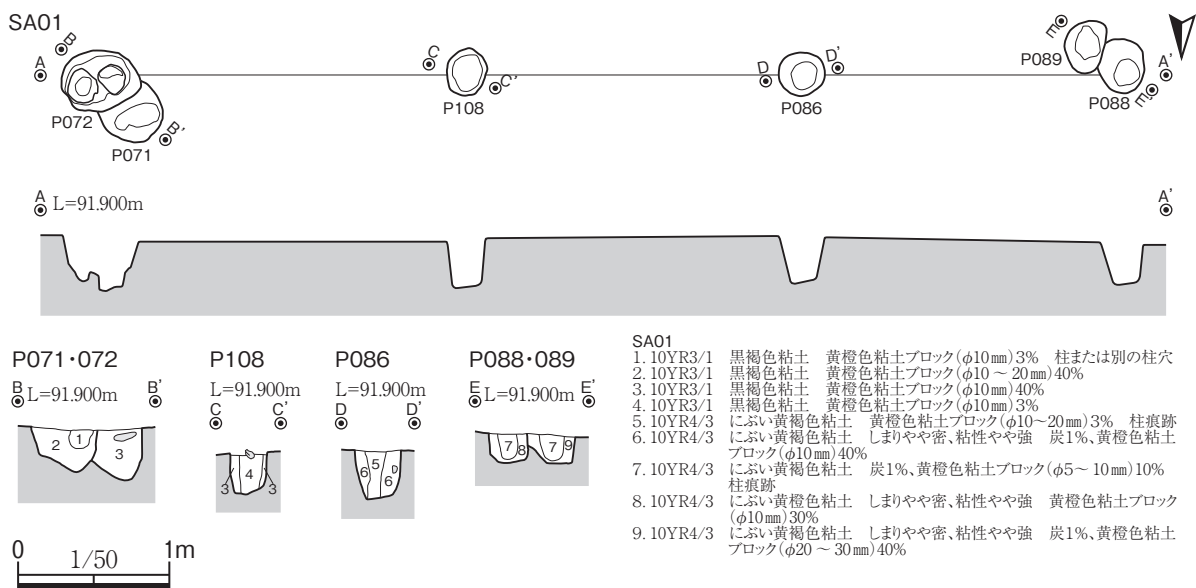
[規模] 桁行 3.60 m、梁間 2.40 m で、床面積は 8.64㎡ である。

[使用した柱穴] 6 (7) 個 (P015・026・027・051・118・122・156) である。南東端の柱穴は確認できなかった。規模は径 30cm 前後、深さ 15~35cm 前後である。柱痕跡が残る柱穴は無い。

[建物の方向] N-86°-W

[出土遺物] 無し

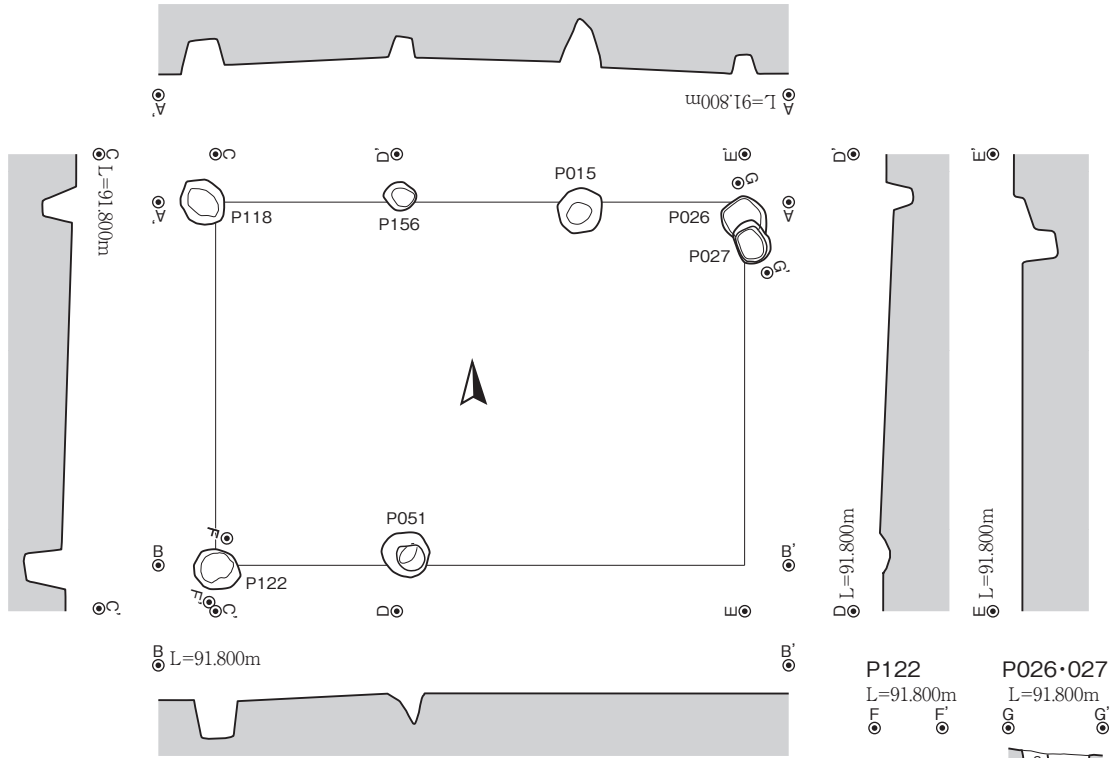
[時期] 不明



第 77 図 SA01

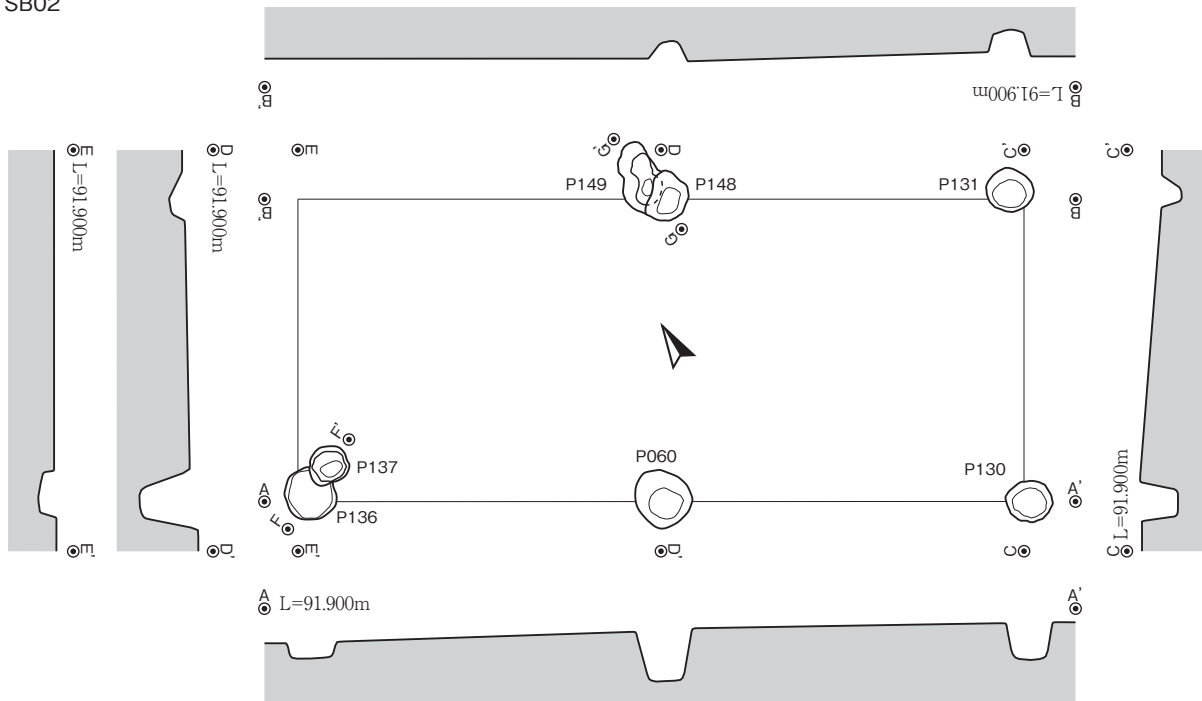
2 検出遺構

SB01

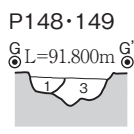
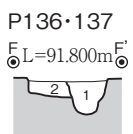


- SB01
1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 灰黄褐色粘土ブロック(φ5mm)1%
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト 黄褐色粘土ブロック(φ10mm)10%、黒褐色粘土ブロック(φ10mm以下)5%
 3. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄褐色粘土ブロック(φ10mm)3%
 4. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄褐色粘土ブロック(φ10mm)30%

SB02



- SB02
1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄褐色粘土ブロック(φ10mm)30%
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト 黄褐色粘土ブロック(φ10mm)10%、黒褐色粘土ブロック(φ10mm以下)5%
 3. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄褐色粘土ブロック(φ10mm)10%



第78図 SB01・02

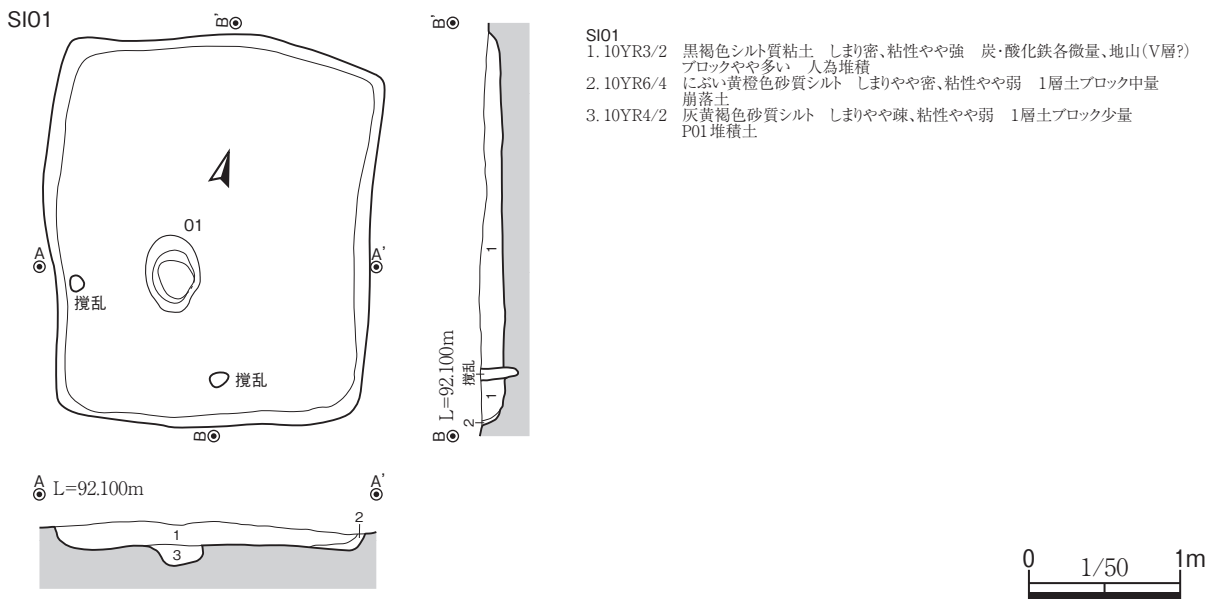
SB02 (第 1-78 図、写真図版 1-50)

- [位置・検出状況] 調査区中央、IV A9・10h・i グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で検出した。
- [他遺構との重複] P138・139 と重複するが、直接重複する柱穴が無いので新旧関係は不明である。
- [規模] 桁行 4.81 m、梁間 2.00 m で、床面積は 9.62㎡ である。
- [使用した柱穴] 5 (7) 個 (P060・130・131・136・137・148・149) である。北西端の柱穴は確認できなかった。規模は径 30~40cm、深さ 10~35cm 前後である。柱痕跡が残る柱穴は無い。
- [建物の方向] N-60°-W
- [出土遺物] 無し
- [時期] 不明

(3) 竪穴建物 (工房)

SI01 (第 1-79 図、写真図版 1-51)

- [位置・検出状況] 調査区北端、IV A9k グリッドに位置する。Ⅲ a 層上面で、やや薄い黒色のプランで検出した。
- [他遺構との重複] 無し
- [平面形] 長方形
- [規模] 上面 256×217cm、深さ 15cm
- [堆積土] 2 層に分層した。1 層 (黒褐色シルト質粘土) が主体で、2 層は崩落土である。
- [床面・壁] Ⅲ a 層上面を床面と判断した。ほぼ平坦であるが、東側は若干、低い。壁は全周する。わずかに外へと開くが、ほぼ直立気味である。
- [付属施設] 床面中央から西側寄りて柱穴 1 個を検出した。規模は 52×35cm、深さ 13cm で、用途は不明である。なお床面上に小穴 2 個があるが、どちらも攪乱である。
- [出土遺物] 無し
- [用途] 出土遺物が無く詳細は不明であるが、平面形と軸方向が隣接する SI02 に類似していることから SI02 に付属する施設 (工房か) の可能性がある。
- [時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、隣接する SI02 の炭素年代の結果を参考に、16 世紀後半から 17 世紀初めと推定する。



第 79 図 SI01

SI02 (第1-80図、写真図版1-52)

[位置・検出状況] 調査区北端、IV A8・9j・kグリッドに位置する。Ⅲ a層上面で、やや薄い黒色のプランで検出した。検出プランの様相は隣接するSI01より本遺構の方がやや薄い黒色である。また本遺構は張出し部の先端を攪乱によって壊されている。

[他遺構との重複] 無し

[平面形] 正方形

[規模] 張出し部を除いた上面は367×360cm、深さ35cmである。

[堆積土] 2層に分層した。1層(暗褐色シルト質粘土)が主体で、2層は崩落土である。

[床面・壁] Ⅲ a層上面を床面と判断した。ほぼ平坦である。壁は全周する。わずかに外へと開きながら立ち上がる。

[炉] 床面の中央から北寄りで1基検出した。規模は74×41cmで、2個の浅い掘り込みを重ねたような平面形である。深さは床面から3cmで浅い。炉の底面はやや歪で、全体が被熱で赤色化している。人為的に埋められており、堆積土(1層)には炭化物や焼土塊が混じる。

[付属施設] 壁際に7個柱穴が並ぶ。壁一辺につき、3個ずつであるが、東壁は両端に2個しか見受けられない。深さは30cm前後である。壁溝は、北東側を除き全周する。幅15~20cm、深さ10cm前後で柱穴に切られている。また、北東端に不整な三角形の張出部が付く。規模は90×140cmで先端部が攪乱で壊されている。本体の床面よりもわずかに高く、北側に向うにつれ、高くなる。また張出部の床面上で柱穴3個を確認した。

[出土遺物] 堆積土中から出土した石器・金属製品・粘土塊各1点を掲載した(1・2・49)。また、炉の付近から多量の炭化種実が出土しており、分析を行ったところイネやアワが多く検出されている(第V章第4節(2)参照)。

[用途] 出土遺物は乏しいが、平面形と炉を有する点から工房と推定する。

[時期] 炭素年代(AMS)の結果、1467calAD-1520calADという結果を得ており、したがって15世紀後半から16世紀初めと推定する。

SI03 (第1-81図、写真図版1-53)

[位置・検出状況] 調査区北西側、IV A9・10f・gグリッドに位置する。Ⅲ a層上面で、やや薄い暗褐色のプランで検出した。本遺構は北西壁側が現代の削平によって消失している。

[他遺構との重複] SK12、SD13と重複し、本遺構が最も古い。

[平面形] 長方形

[規模] 残存する床面と壁から、残存する上面は(600)×488cmで、深さ24cmである。

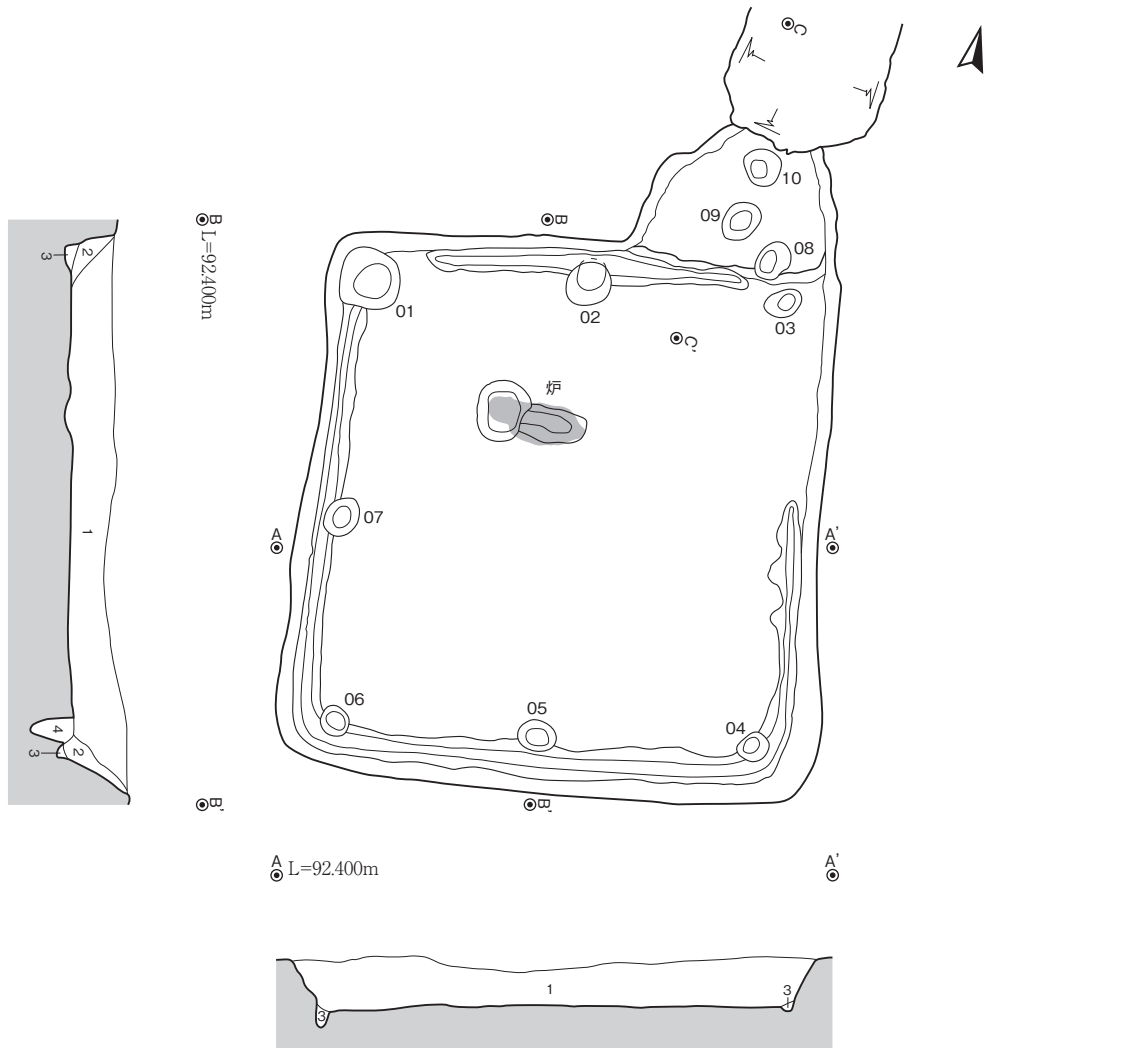
[堆積土] 5層に分層した。黒~暗褐色シルト質粘土(3・4層)を主体とし、炭化物や地山土が混入する。

[床面・壁] Ⅲ a層上面を床面と判断した。ほぼ平坦である。壁は南西壁と北東壁の一部のみ確認したが、壁の上部はほとんど削平のため消失している。外へと開きながら立ち上がる。

[炉] 見受けられないが、SK12によって削平された可能性がある。

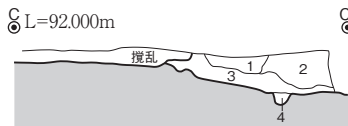
[付属施設] 床面で15個柱穴を確認した。壁際に4個ずつ並んでおり、また内側にも4個並ぶので本来は16個で構成されていた可能性がある。深さは20~40cmである。壁溝は、南西壁で確認した。幅15~25cm、深さ5~10cmで、柱穴に切られている。床面の中央から北西側で間仕切溝2条を確認した。北側の溝は、長さ150cmで、柱穴に切られている。床面中央の溝は長さ102cm残存し、SK12

SI02



- 堆積土 (A-A'・B-B')
1. 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭微量、地山(Ⅲb層土)ブロックやや多い 人為堆積
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭・地山(Ⅲb層土)各微量
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまりやや密、粘性弱 暗褐色シルトブロック・地山(Ⅲb層土)各少量 壁薄堆積土
 4. 10YR7/4 にぶい黄褐色粘質シルト しまりやや密、粘性やや強 炭微量、暗褐色シルトブロック少量 P05堆積土

張出部断面

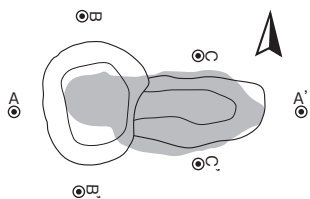


張出部 (C-C')

1. 10YR6/4 にぶい黄褐色粘質シルト しまりやや密、粘性強 炭・地山(Ⅲb層土)ブロック各微量
2. 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 堆積土1層と同じ
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまりやや密、粘性強 炭・地山(Ⅲb層土)ブロック各少量

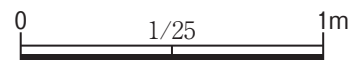
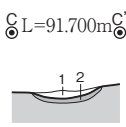
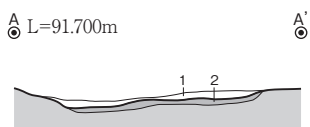
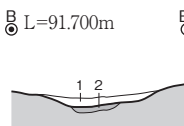


炉



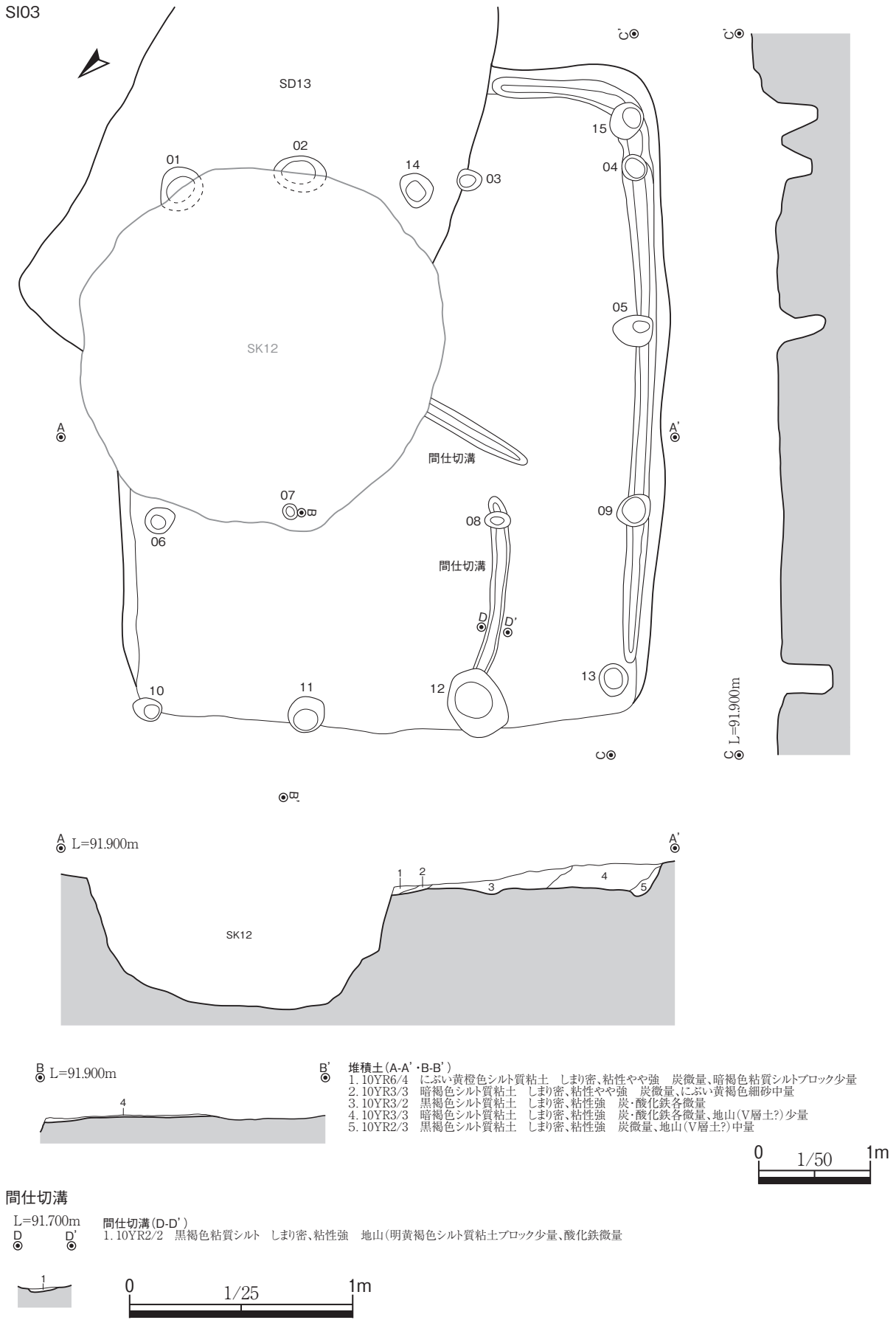
炉

1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭・地山(V層土?) ブロック各少量、焼土微量 人為堆積
2. 5YR4/6 赤褐色焼土 しまりやや密、粘性弱 地山(V層土?)が被熱により赤色化した層 被熱は強いが一部にぶい赤褐色



第 80 図 SI02

2 検出遺構



第 81 図 SI03

に切られている。

[出土遺物] 堆積土中から出土した縄文土器・土師器・銭貨各 1 点と石器 2 点を掲載した (3~5・35・40)。

[用途] 出土遺物が乏しく詳細は不明であるが、平面形から工房と推定する。

[時期] 炭素年代 (AMS) の結果、1575calAD-1626calAD という結果を得ており、したがって 16 世紀後半から 17 世紀初めと推定する。

(4) 土 坑

SK01 (第 1-82 図、写真図版 1-54)

[位置・検出状況] 調査区ほぼ中央、IV A10・11i グリッドに位置する。Ⅲ a 層上面で、黒色のプランで検出した。

[他遺構との重複] P157 と重複し、本遺構の方が古い。

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面 165×141cm、深さ 62cm

[堆積土] 5 層に分層した。黒～暗褐色シルト質粘土を主体とし、層下部には灰黄褐色シルト質粘土が堆積する。堆積土中には炭化物、地山ブロック、酸化鉄が混入している。

[底面・壁] Ⅲ b 層を底面とした。ほぼ平坦である。壁は全周する。大きく外へと開ながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 明確には分からない。貯蔵用か。

[時期] 炭素年代 (AMS) の結果、1436calAD-1457calAD という結果を得ており、したがって 15 世紀代と推定する。

SK02 (第 1-82 図、写真図版 1-54)

[位置・検出状況] 調査区ほぼ中央、IV A10i・j グリッドに位置する。SD01 のプランを検出した際、一部膨らむ範囲があり、トレンチを入れたところ、SD01 とは別の重複する土坑であることが分かり、本遺構とした。

[他遺構との重複] SD01 と重複し、本遺構の方が新しい。

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面 191×165cm、深さ 54cm

[堆積土] 2 層に分層したが、ほぼ 1 層の単層である。暗褐色シルト質粘土を主体とし、人為堆積と推定する。

[底面・壁] Ⅲ b 層を底面とした。丸く窪んでいる。壁は全周する。緩やかに外へと広がりながら立ち上がる。

[出土遺物] 堆積土上位から出土した土器 2 点と粘土塊 5 点を掲載した (6・7・50~54)。

[用途] 明確には分からない。貯蔵用か。

[時期] 炭素年代 (AMS) の結果、1435calAD-1452calAD という結果を得ており、したがって 15 世紀代と推定する。

SK03 (第 1-82 図、写真図版 1-54)

[位置・検出状況] 調査区ほぼ中央、IV A12j グリッドに位置する。Ⅲ a 層上面で、薄い黒色のプラ

ンで検出した。

[他遺構との重複] 無し

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面 147×132cm、深さ 53cm

[堆積土] 4層に分層した。黒～暗褐色シルト質粘土を主体とし、炭化物や地山ブロックが混入する。

[底面・壁] Ⅲb層を底面とした。丸く窪んでいる。壁は全周する。外へと広がりながら広がり、上部でさらに外へと屈曲する。

[出土遺物] 堆積土中から出土した石器2点を掲載した(8・9)。

[用途] 明確には分からない。貯蔵用か。

[時期] 炭素年代(AMS)の結果、1466calAD-1521calADという結果を得ており、したがって15世紀後半から16世紀初めと推定する。

SK04 (第1-82図、写真図版1-54)

[位置・検出状況] 調査区南東側、IV A13kグリッドに位置する。Ⅲa層上面で、薄い黒色のプランで検出した。

[他遺構との重複] 無し

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面 142×101cm、深さ 7cm

[堆積土] 単層で、暗褐色シルト質粘土を主体とし、炭化物や地山ブロックが混じる。

[底面・壁] Ⅲa層(Ⅲb層?)を底面とした。ほぼ平坦であるが、北側はわずかに高くなっている。壁は全周する。外へと大きく広がりながら立ち上がる。

[出土遺物] 堆積土中から出土した陶磁器1点を掲載した(44)。

[用途] 不明

[時期] 堆積土中から出土した陶磁器の年代観から19世紀以降と考えられる。

SK05 (第1-82図、写真図版1-55)

[位置・検出状況] 調査区南東側、IV A12kグリッドに位置する。SD01のプランを検出した際、一部膨らむ範囲があり、トレンチを入れたところ、SD01とは別の重複する土坑であることが分かり、本遺構とした。

[他遺構との重複] SD01、P140・158と重複し、本遺構は、P140・158よりは古く、SD01より新しい。

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面 154×123cm、深さ 16cm

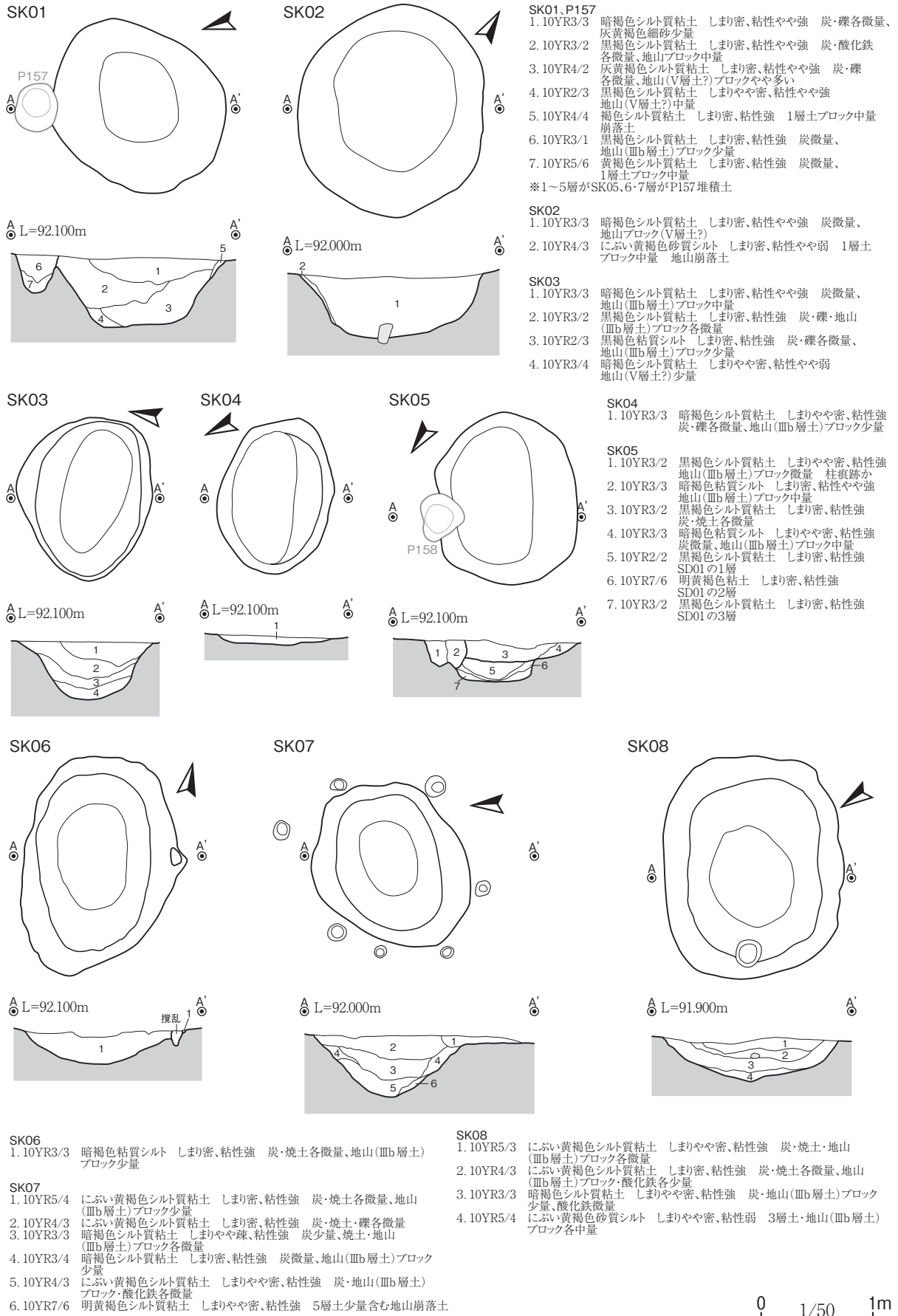
[堆積土] SD01、P158と合わせて7層に分層したが、本遺構に伴うのは3・4層である。黒褐色シルト質粘土と暗褐色粘質シルトで構成され、炭化物、焼土、地山ブロックが混じる。

[底面・壁] 底面は断面で確認した。ほぼSD01の上面が本遺構の底面となっている。ほぼ平坦だが、緩やかに窪んでいる。壁はP158に壊されている範囲を除き、全周する。外へと大きく開きながら、立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 炭素年代(AMS)の結果、1490calAD-1523calADという結果を得ており、したがって15



第 82 図 SK01~08

世紀後半から 16 世紀初めと推定する。

SK06 (第 1-82 図、写真図版 1-55)

[位置・検出状況] 調査区中央やや東寄り、IV A9・10j グリッドに位置する。Ⅲ a 層上面で、薄い黒色のプランで検出した。

[他遺構との重複] 無し

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面 200×145cm、深さ 24cm

[堆積土] 暗褐色粘質シルトの単層で、炭化物、焼土、地山ブロックが混じる。

[底面・壁] Ⅲ b 層を底面とした。丸く窪んでいる。壁は全周する。外へと大きく広がりながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明である。

[時期] 炭素年代 (AMS) の結果、1436calAD-1459calAD という結果を得ており、したがって 15 世紀代と推定する。

SK07 (第 1-82 図、写真図版 1-55)

[位置・検出状況] 調査区中央、IV A11i グリッドに位置し、Ⅲ b 層上面で、地山よりもやや暗い色のプランで検出した。また本遺構を取り囲むように小穴が 7 個巡っており、これらは、検出状況や堆積土の様相が本遺構に類似しているため、本遺構の付属施設とした。

[他遺構との重複] 無し

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面 158×130cm、深さ 54cm

[堆積土] 6 層に分層したが、遺構内堆積土は 2～6 層の 5 層である。にぶい黄褐色シルト質粘土を主体とし、炭化物や焼土、地山ブロックが混じる。

[底面・壁] Ⅲ b 層を底面とした。やや円錐状で、底面はすぼまる。壁は全周する。外へと直線的に開きながら立ち上がる。

[付属施設] 周辺に小穴 7 個が巡る。径 10～20cm で、深さは 20cm 前後である。本遺構の上端に沿うように巡るが、その配列はやや不規則である。本遺構に上屋があった場合、そのための柱穴の可能性もあるが、不明である。

[出土遺物] 無し

[用途] 明確には分からない。貯蔵用か。

[時期] 炭素年代 (AMS) の結果、1489calAD-1523calAD という結果を得ており、したがって 15 世紀後半から 16 世紀初めと推定する。

SK08 (第 1-82 図、写真図版 1-55)

[位置・検出状況] 調査区中央、IV A12h・i グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、地山よりもやや暗い色のプランで検出した。

[他遺構との重複] SB01、SD13 と重複している。SD13 より、本遺構の方が新しい。SB01 は本遺構と柱穴が重複していないので、不明である。

[平面形] 楕円形

[規模] 上面 199×161cm、深さ 36cm

[堆積土] 4層に分層した。にぶい黄褐色シルト質粘土と暗褐色シルト質粘土を主体とし、炭化物や地山ブロックが混じる。

[底面・壁] III b層を底面とした。緩やかに丸く窪んでいる。壁は全周する。外へと開きながら湾曲気味に立ち上がる。

[出土遺物] 堆積土中から出土した石器 1点を掲載した (10)。

[用途] 明確には分からない。貯蔵用か。

[時期] 炭素年代 (AMS) の結果、1443calAD-1472calAD という結果を得ており、したがって 15世紀代と推定する。

SK09 (第 1-83 図、写真図版 1-56)

[位置・検出状況] 調査区中央、IV A12h グリッドに位置し、III a層上面で、SD02 のプランから枝分かれするような形状の黒色のプランを検出し、トレンチを入れたところ、SD02 と重複する別の土坑と判断し、本遺構とした。なお本遺構は北東側を SD02 により壊されている。

[他遺構との重複] SB01 (P156)、SD02・13 と重複する。SD13 より新しく、SD02 より古い、SB01 との新旧関係は不明である。

[平面形] 隅丸長方形

[規模] 上面 (192)×79cm、深さ 16cm

[堆積土] 黒褐色シルト質粘土の単層で、炭化物や地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] III a層を底面とした。緩やかに丸く窪んでいる。壁は SD02 に壊されている部分を除き、全周する。緩やかに外へと開きながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 炭素年代 (AMS) の結果、1538calAD-1596calAD という結果を得ており、したがって 16世紀代と推定する。

SK10 (第 1-83 図、写真図版 1-56)

[位置・検出状況] 調査区中央、IV A11h・i グリッドに位置し、III a層上面で、黒色のプランを検出した。

[他遺構との重複] SD13 と重複しており、本遺構の方が新しい。

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面 130×94cm、深さ 9cm

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色シルト質粘土を主体とし、地山ブロックや酸化鉄が混じる。

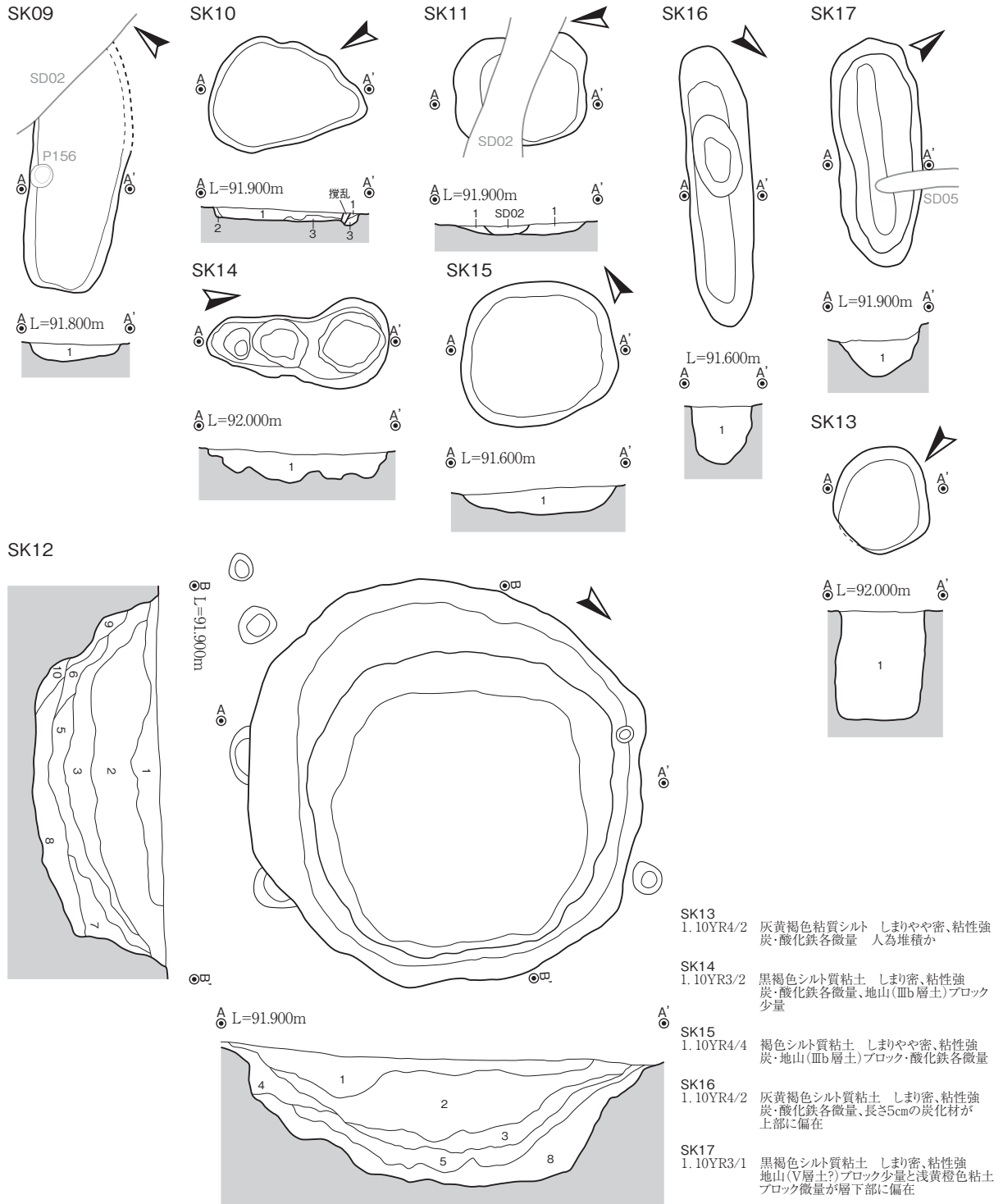
[底面・壁] III a層を底面とした。ほぼ平坦である。壁は全周する。わずかに外へと開くが、ほぼ直立である。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 炭素年代 (AMS) の結果、46 calBC-7calAD という結果を得ているが、周辺の遺構の時期とはかけ離れており、むしろ隣接する遺構群の時期から、15世紀から 16世紀の範疇と推定する。

2 検出遺構



- SK09**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭微量、地山(V層土?)ブロック・酸化鉄各少量
- SK10**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 地山(IV層土?)ブロック微量、酸化鉄少量
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 1層土ブロック少量
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 1層土ブロック少量、酸化鉄中量
- SK11**
1. 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭微量、地山(IV層土?)ブロック・酸化鉄各少量

- SK12**
1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト しまり密、粘性強 炭・礫(φ50mm)酸化鉄各微量、地山(V層土)ブロック少量 人為堆積
2. 10YR3/3 暗褐色粘質シルト しまり密、粘性強 炭微量、礫(φ50mm)・灰黄褐色細砂各少量、地山(V層土)ブロック中量 人為堆積
3. 10YR2/3 黒褐色粘質シルト しまり密、粘性強 炭微量、礫(φ50~100mm)・灰黄褐色細砂各少量、地山(V層土)ブロックやや多い 人為堆積
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭・酸化鉄各微量、地山(V層土)ブロック少量
5. 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 灰白色粘土・酸化鉄各微量、地山(V層土)ブロック少量
6. 10YR7/4 におい黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 灰白色粘土やや多、酸化鉄少量 崩落土か
7. 10YR5/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 地山(V層土)ブロック中量、酸化鉄微量 崩落土か
8. 10YR7/3 におい黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 灰白色粘土少量、酸化鉄中量 人為堆積か
9. 10YR5/2 灰黄褐色細砂 しまり密、粘性弱 灰白色粘土中量
10. 10YR6/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 におい黄褐色粘土中量、酸化鉄少量



第 83 図 SK09~17

SK11 (第 1-83 図、写真図版 1-56)

[位置・検出状況] 調査区中央、IV A11・12h グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、SD02 のプラン上で、円形に膨らむ別の黒色プランを検出し、トレンチを入れ SD02 とは別の土坑との重複と判断した。

[他遺構との重複] SD02、SD13 と重複しており、本遺構は SD13 よりは新しく、SD02 より古い。

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面 106×(90) cm、深さ 7 cm

[堆積土] 暗褐色シルト質粘土の単層で、炭化物、地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。ほぼ平坦である。壁は SD02 に壊されている範囲を除き、全周する。わずかに外へと開くが、ほぼ直立である。

[出土遺物] 堆積土中位から出土した土器 1 点を掲載した (11)。

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が乏しく根拠に乏しいが、重複する SD02 の炭素年代の結果を参考に、15 世紀後半から 16 世紀前葉と推定する。

SK12 (第 1-83 図、写真図版 1-56・57)

[位置・検出状況] 調査区北西、IV A9・10 g グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、大きな黒色のプランで検出した。当初は竪穴建物や竪穴状遺構を想定していたが、平面形や断面の様相からそれらとは異なる遺構であると判断した。ただし調査区内に類似する遺構は無く、便宜的に土坑とした。

[他遺構との重複] SI03、SD13 と重複しており、本遺構が最も新しい。

[平面形] 不整円形

[規模] 上面 360×347cm、深さ 102cm

[堆積土] 10 層に分層した。黒～暗褐色シルト質粘土を主体とし、炭化物、地山ブロック、酸化鉄のほか、5～10cm 大の礫が多く混じる。また層下部には灰黄褐色シルト質粘土が堆積する (8 層)。この様相から人為堆積と推定するが、6・7・9・10 層は壁の崩落により堆積しており、したがって数回にわたり人為的な埋戻しと壁の崩落があったことが推測される。

[底面・壁] IV 層を底面とした。ほぼ平坦である。また底面の平面形は上面の平面形とは異なり、隅丸方形である。壁は全周する。北～東壁は緩やかに外へと開きながら立ち上がる。一方、南～西壁は大きく外へと開いているが、壁が崩落したための可能性がある。

[出土遺物] 堆積土中から出土した縄文土器 1 点、土器 2 点、石器 6 点、永楽通宝 1 点を掲載した (13～19・36・41・42)。

[用途] 不明であるが、形態や規模から井戸の可能性も考えられる。

[時期] 炭素年代 (AMS) の結果、1522calAD-1578calAD という結果を得ており、したがって 16 世紀代と推定する。

SK13 (第 1-83 図、写真図版 1-57)

[位置・検出状況] 調査区南東、IV A131 グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、薄い黒色のプランで検出した。

[他遺構との重複] 無し

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面 88×78cm、深さ 87cm

[堆積土] 灰黄褐色粘質シルトの単層で、炭化物、酸化鉄が混じる。堆積土の様相から人為堆積と推定する。

[底面・壁] IV層を底面とした。ほぼ平坦である。壁は全周する。直立で、北側はわずかにオーバーハングしている。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明であるが、形態から、小型だが井戸の可能性も考えられる。

[時期] 出土遺物や他遺構との重複関係が無く根拠に乏しいが、炭素年代（AMS）の結果から近代以降の可能性もある。

SK14（第1-83図、写真図版1-57）

[位置・検出状況] 調査区中央、IV A11i・jグリッドに位置し、Ⅲ a層上面で、黒色のプランで検出した。

[他遺構との重複] P097と重複し、本遺構の方が新しい。

[平面形] 歪な楕円形を呈し、北端が円形に膨らむ。

[規模] 上面の長さ147cm、幅は北側が72cm、南側は50cm、深さは24cmである。

[堆積土] 黒褐色シルト質粘土の単層で、炭化物、地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a層を底面とした。全体に凹凸があり、歪である。壁は全周する。外へと開きながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 炭素年代（AMS）の結果、1726calAD-1765calADという結果を得ており、したがって18世紀代と推定する。

SK15（第1-83図、写真図版1-57）

[位置・検出状況] 調査区南西、IV A12eグリッドに位置し、Ⅲ a層上面で、褐色のプランで検出した。

[他遺構との重複] 無し

[平面形] 不整楕円形

[規模] 上面127×116cm、深さ22cm

[堆積土] 褐色シルト質粘土の単層で、炭化物、地山ブロック、酸化鉄が混じる。堆積土の様相から人為堆積と推定する。

[底面・壁] Ⅲ a層を底面とした。緩やかに丸く窪む。壁は全周する。大きく外へと開きながら立ち上がる。

[出土遺物] 堆積土中から出土した石器1点を掲載した（12）。

[用途] 不明

[時期] 炭素年代（AMS）の結果、663calAD-693calADという結果を得ており、したがって7世紀代と推定する。

SK16（第1-83図、写真図版1-58）

[位置・検出状況] 調査区西側、IV A12fグリッドに位置し、Ⅲ a層上面で、灰黄褐色のプランで検出した。検出段階では「L」字状の溝を想定して掘り進めていたが、途中でSD08と本遺構とが重複

したものと判断した。

[他遺構との重複] SD08 と重複し、本遺構の方が新しい。

[平面形] 長楕円形

[規模] 上面 226×52cm、深さ 46cm

[堆積土] 灰黄褐色シルト質粘土の単層で、炭化材や炭化物が比較的多く混じる。堆積土の様相から人為堆積と推定する。

[底面・壁] III a 層を底面とした。ほぼ平坦である。壁は全周する。大きく外へと開きながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、隣接する SK15 の時期を参考とし、7 世紀代と推定する。

SK17 (第 1-83 図、写真図版 1-58)

[位置・検出状況] 調査区西側、IV A12・13i・j グリッドに位置し、III a 層上面で、黒色のプランで検出した。

[他遺構との重複] SD05・13 と重複し、SD13 より新しく、SD05 より古い。

[平面形] 長楕円形

[規模] 上面 185×70cm、深さ 34cm

[堆積土] 黒褐色シルト質粘土の単層で、地山ブロックや地山に起因する浅黄橙色粘土ブロックが混じる。

[底面・壁] III a 層を底面とした。丸く窪む。壁は全周する。外へと開きながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、隣接する SK03 の時期を参考とし、15～16 世紀代と推定する。

(5) 溝

SD01 (第 1-84～87 図、写真図版 1-58)

[位置・検出状況] 調査区のほぼ中央、北端から南端、IV A8h～IV A13l グリッドに位置し、III a 層上面で、黒色のプランで検出した。

[他遺構との重複] SK02・05 と重複し、本遺構が最も古い。

[規模] 長さ 29.3 m、幅 60～95cm、深さは南北端が 10cm 前後、中央付近は 35cm である。

[方向] N-35°-W

[堆積土] 黒褐色シルト質粘土 (2 層) が主体で、灰黄褐色シルト質粘土や酸化鉄が混じる。中央付近の深い場所は 4 層に分層でき、間に灰黄褐色シルト質粘土や明黄褐色粘土を挟む。

[底面・壁] III a 層から III b 層を底面とした。ほぼ平坦である。壁はわずかに外へと開くが概ね直立する。

[出土遺物] 堆積土下位から出土した縄文土器 6 点と土器・石器・金属製品を各 1 点掲載した (20・21・28～31・34・38・43)。

[用途] 区画溝か。北端は北条館南端の堀である SD101 の手前で浅くなって途切れているので、堀

と関連がある区画溝の可能性がある。

[時期] 出土遺物が乏しいが、重複する SK02・05 の時期を参考とし 15 世紀代と推定する。

SD02 (第 1-84~87 図、写真図版 1-58)

[位置・検出状況] 調査区西側、IV A11 g~12i グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、黒色のプランで検出した。本遺構は東側が一部曲っており、2 条の溝の可能性もあるが、プランの検出状況や堆積土の様相から、1 条の溝と判断した。

[他遺構との重複] SK11、SD03、P041・043 と重複し、SK11、SD03 より新しく、P041・043 より古い。

[規模] 長さ 8.9 m、幅 24~43cm、深さは 19cm 前後

[方向] N-70°-W

[堆積土] 暗褐色シルト質粘土の単層で、炭化物、地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。緩やかに丸く窪む。壁は外へと開き立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 炭素年代 (AMS) の結果、1469calAD-1521calAD という結果を得ており、したがって 15 世紀後半~16 世紀前半と推定する。

SD03 (第 1-84・85・87 図、写真図版 1-59)

[位置・検出状況] 調査区南側、IV A11・12i グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、黒色のプランで検出した。

[他遺構との重複] SD02・13、P125 と重複し、SD13、P125 より新しく、SD02 より古い。

[規模] 長さ 3.5 m、幅 14cm、深さは 10cm 前後

[方向] N-5°-E

[堆積土] 黒褐色シルト質粘土の単層で、炭化物、地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。丸く窪む。壁は外へと開き立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、重複する SD02 の時期を参考にし、15~16 世紀代と推定する。

SD04 (第 1-84・85・87 図、写真図版 1-59)

[位置・検出状況] 調査区南側、IV A11・12i・j グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、地山よりもやや暗い色調のプランで検出した。なお南側が二又になっており、2 条の溝の重複も考えたが、堆積土に違いはないので、1 条の溝と判断した。

[他遺構との重複] P109 と重複し、本遺構の方が古い。

[規模] 長さ 3.7 m、幅 43cm、深さは 10cm 前後

[方向] N-40°-E

[堆積土] におい黄褐色粘質シルトの単層で、地山ブロックや酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。丸く窪む。壁はほぼ直立である。

[出土遺物] 堆積土中から出土した縄文土器 1 点を掲載した (33)。

[用途] 不明

[時期] 出土遺物は縄文土器のみであるが、隣接する SD02 の時期を参考にし、15～16 世紀代と推定する。

SD05 (第 1-84・85・87 図、写真図版 1-59)

[位置・検出状況] 調査区南側、IV A12j グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、地山よりもやや暗い色調のプランで検出した。

[他遺構との重複] SK17、SD13 と重複し、本遺構が最も新しい。

[規模] 長さ 1.5 m、幅 15cm、深さは 8 cm 前後

[方向] N-36°-E

[堆積土] 灰黄褐色粘質シルトの単層で、炭化物や地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。丸く窪む。壁は緩やかに外へと開きながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、隣接する SD02 の時期を参考にし、15～16 世紀代と推定する。

SD06 (第 1-84・85・87 図、写真図版 1-59)

[位置・検出状況] 調査区南東端、IV A14k・1 グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、地山よりもやや暗い色調のプランで検出した。本遺構は東側が攪乱により失われている。

[他遺構との重複] P001・003・005・011・101・107 と重複し、本遺構が最も古い。

[規模] 長さ (4.22) m、幅 25～55cm、深さは 13cm 前後

[方向] N-35°-W

[堆積土] にぶい黄褐色粘質シルトの単層で、炭化物や地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。ほぼ平坦である。壁は外へと大きく開きながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、隣接する SD02 の時期を参考にし、15～16 世紀代と推定する。

SD07 (第 1-84・85・87 図、写真図版 1-60)

[位置・検出状況] 調査区中央、IV A12i・j グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、地山よりもやや暗い色調のプランで検出した。

[他遺構との重複] 無し

[規模] 長さ 1.99 m、幅 13～18cm、深さは 5 cm 前後

[方向] N-85°-W

[堆積土] にぶい黄褐色粘質シルトの単層で、炭化物や地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。ほぼ平坦である。壁はわずかに開くが、直立する。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、隣接する SD02 の時期を参考にし、15～16 世紀代と推定する。

SD08 (第 1-86・87 図、写真図版 1-60)

[位置・検出状況] 調査区南西、IV A12・13e・f グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、地山よりもやや黄色味のある色調でプランを検出した。

[他遺構との重複] SK16 と重複し、本遺構の方が古い。

[規模] 長さ (3.94) m、幅 26～65cm、深さは 6 cm 前後

[方向] N-90°-W

[堆積土] 灰黄褐色シルト質粘土の単層で、地山ブロックや酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。ほぼ平坦である。壁はわずかに開くが、直立する。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、周辺遺構の時期から 15～16 世紀代と推定する。

SD09 (第 1-84・85・87 図、写真図版 1-60)

[位置・検出状況] 調査区南東、IV A14k グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、地山よりもやや暗い色調のプランを検出した。

[他遺構との重複] 無し

[規模] 長さ 1.64 m、幅 13～33cm、深さは 8 cm 前後

[方向] N-16°-E

[堆積土] にぶい黄褐色粘質シルトの単層で、炭化物や地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。ほぼ平坦である。壁はわずかに開くが、直立する。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物や他遺構との重複関係が無く根拠に乏しいが、周辺遺構の時期から 15～16 世紀代と推定する。

SD10 (第 1-84・85・87 図、写真図版 1-60)

[位置・検出状況] 調査区南端、IV A13・14j・k グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、やや薄い黒色のプランを検出した。

[他遺構との重複] SD13 と重複し、本遺構の方が新しい。

[規模] 長さ 3.1 m、幅 17～34cm、深さは 9 cm 前後

[方向] N-12°-E

[堆積土] 暗褐色粘質シルトの単層で、炭化物や地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。丸く窪む。壁はわずかに開きながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、周辺遺構の時期から 15～16 世紀代と推定する。

SD11 (第 1-86・87 図、写真図版 1-61)

[位置・検出状況] 調査区西側、IV A11f グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、検出段階では一列に並ぶ柱穴列と考えていたが、柱穴間も掘り下がることが分かり、溝と判断した。

[他遺構との重複] 無し

[規模] 長さ 1.60 m、幅 29~45cm、深さは 12cm

[方向] N-8°-E

[堆積土] 暗褐色粘質シルトの単層である。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。ほぼ平坦である。壁はわずかに開きながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物や他遺構との重複関係が無く根拠に乏しいが、周辺遺構の時期から 15~16 世紀代と推定する。

SD12 (第 1-84~87 図、写真図版 1-61)

[位置・検出状況] 調査区南東、IV A12i グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、地山よりもやや暗い色調のプランを検出した。

[他遺構との重複] SD13、P027 と重複し、本遺構が最も新しい。

[規模] 長さ 2.55 m、幅 31~43cm、深さは 10cm 前後

[方向] N-13°-E

[堆積土] にぶい黄褐色粘質シルトの単層で、炭化物や地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。概ね緩やかに丸く窪む箇所と凹凸の激しい箇所がある。壁は、外へと開ながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、周辺遺構の時期から 15~16 世紀代と推定する。

SD13 (第 1-84~87 図、写真図版 1-61)

[位置・検出状況] 調査区北西から南東にかけて、IV A9 g~13k グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、やや薄い黒色のプランを検出した。

[他遺構との重複] SI03、SK08・09・10・11・12・17、SD02・03・05・10・12・14、P006・013・015・020・026・027・037・045・046・048・050・106・111・154・156・163 と重複し、SI03 よりも新しく、その他の遺構より古い。

[規模] 長さ (25.0) m、幅 2.5~2.7 m、深さは 19cm 前後

[方向] N-40°-W

[堆積土] 黒褐色粘質シルトの単層で、炭化物や地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲ b 層を底面とした。ほぼ平坦であるが、南端と北東側には段を有する。壁は北東側が大きく開きながら立ち上がり、南西側はほぼ直立である。

[出土遺物] 堆積土中から出土した縄文土器 2 点と土師器・粘土塊を各 3 点、石器・陶磁器を各 1 点掲載した (22~25・27・32・45・55~57)。

[用途] 他の溝とは平面形、規模が異なる。底面の幅が広いこともあり、道路状遺構の可能性もある

が、定かではない。

[時期] 出土遺物は縄文時代から陶磁器までと幅があるが、重複する遺構群の時期を参考にし15～16世紀代と推定する。

SD14 (第1-85・86・87図、写真図版1-61)

[位置・検出状況] 調査区ほぼ中央、IV A11gグリッドに位置し、Ⅲa層上面で、地山よりもやや暗い色調のプランを検出した。

[他遺構との重複] SD02・13と重複し、本遺構が最も古い。

[規模] 長さ(2.21)m、幅23～31cm、深さは12cm前後

[方向] N-48°-W

[堆積土] にぶい黄褐色粘質シルトの単層で、地山ブロック、酸化鉄が混じる。

[底面・壁] Ⅲa層を底面とした。ほぼ平坦である。壁は、部分的に外へと開ながら立ち上がるが、ほぼ直立である。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物が無く根拠に乏しいが、周辺遺構の時期から15～16世紀代と推定する。

SD15 (第1-84～87図、写真図版1-62)

[位置・検出状況] 調査区北側、IV A9hグリッドに位置し、Ⅲa層上面で、黒色のプランを検出した。

[他遺構との重複] 無し

[規模] 長さ1.54m、幅12～24cm、深さは7cm前後

[方向] N-21°-E

[堆積土] 黒褐色シルト質粘土の単層で、地山ブロックが混じる。

[底面・壁] Ⅲa層を底面とした。丸く窪むが、壁際はやや歪である。壁はほぼ直立である。

[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物や他遺構との重複関係が無く根拠に乏しいが、周辺遺構の時期から15～16世紀代と推定する。

SD16 (第1-85～87図、写真図版1-62)

[位置・検出状況] 調査区北側、IV A9g・hグリッドに位置し、Ⅲa層上面で、黒色のプランを検出した。

[他遺構との重複] 無し

[規模] 長さ2.19m、幅21～35cm、深さは5cm前後。

[方向] N-31°-E

[堆積土] 黒褐色シルト質粘土の単層で、地山ブロックが混じる。

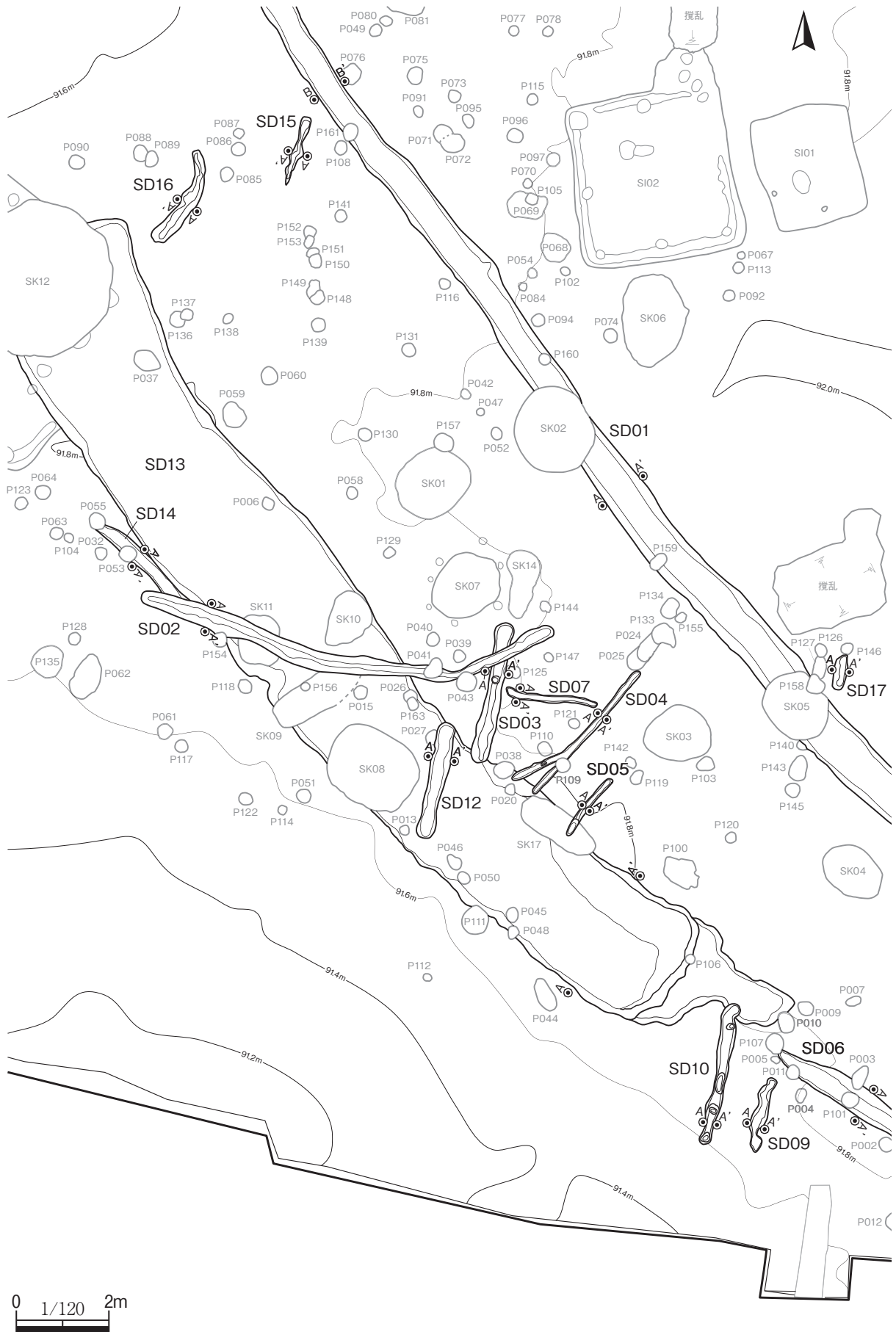
[底面・壁] Ⅲa層を底面とした。丸く窪むが、壁際はやや歪である。壁は外へと大きく開きながら立ち上がる。

[出土遺物] 無し

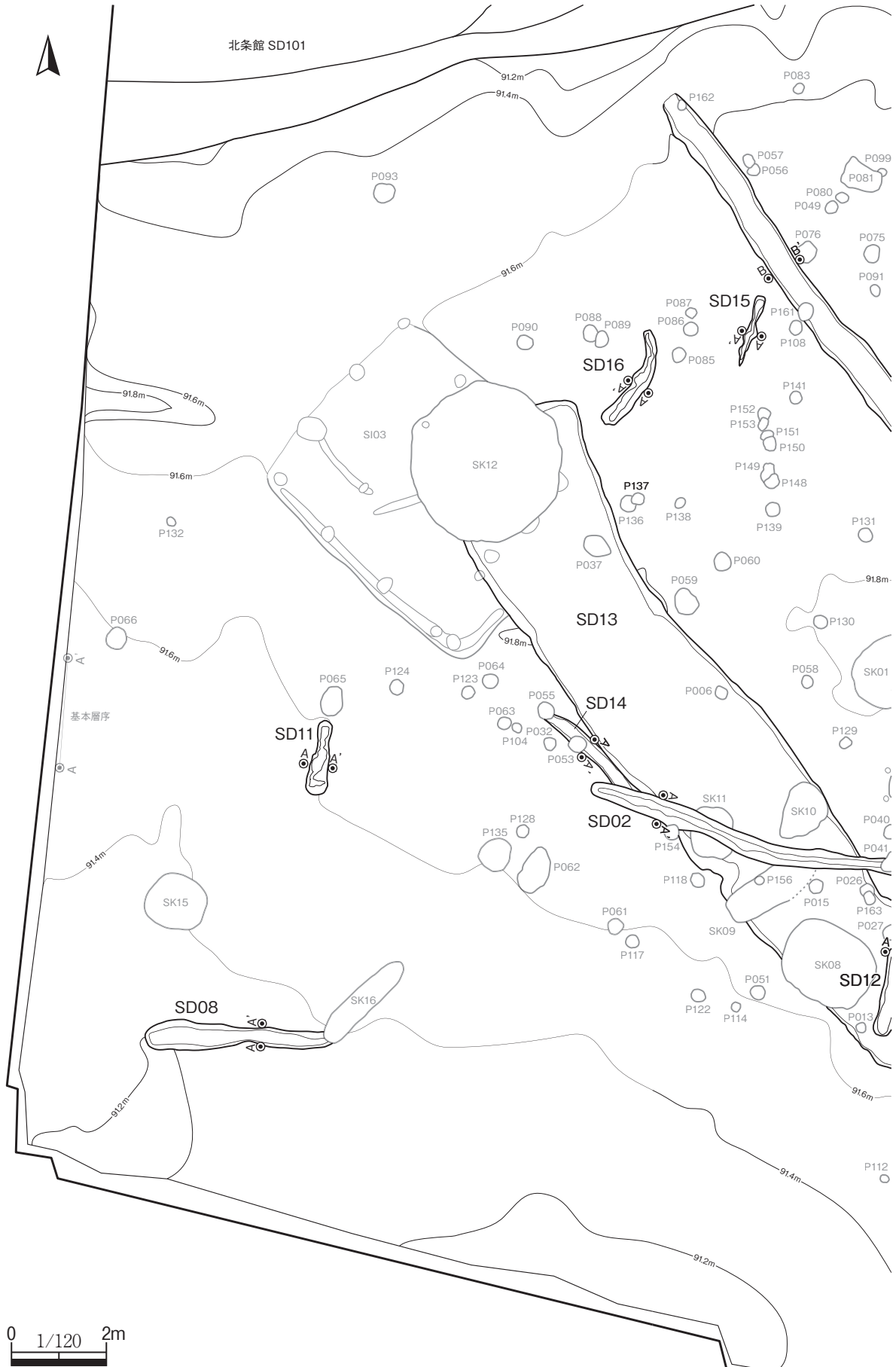
[用途] 不明



第 84 図 溝配置図 (1)

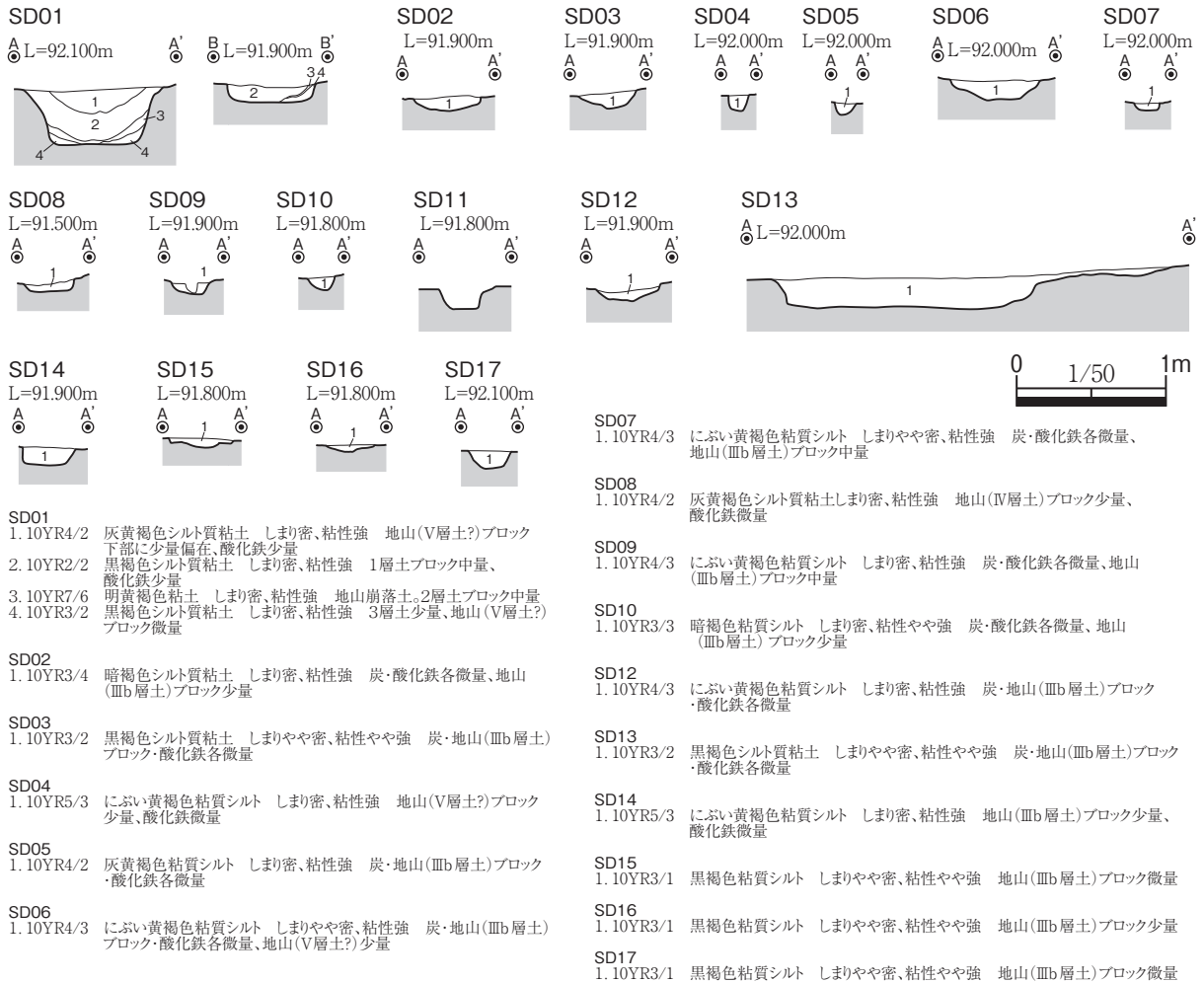


第85図 溝配置図(2)



第 86 図 溝配置図 (3)

2 検出遺構



第 87 図 溝断面図

[時期] 出土遺物や他遺構との重複関係が無く根拠に乏しいが、周辺遺構の時期から 15～16 世紀代と推定する。

SD17 (第 1-84・85・87 図、写真図版 1-62)

[位置・検出状況] 調査区東側、Ⅳ A11・12k グリッドに位置し、Ⅲ a 層上面で、黒色のプランを検出した。

[他遺構との重複] P146 と重複し、本遺構の方が古い。

[規模] 長さ 0.78 m、幅 24～30cm、深さは 10cm 前後である。

[方向] N-15°-E

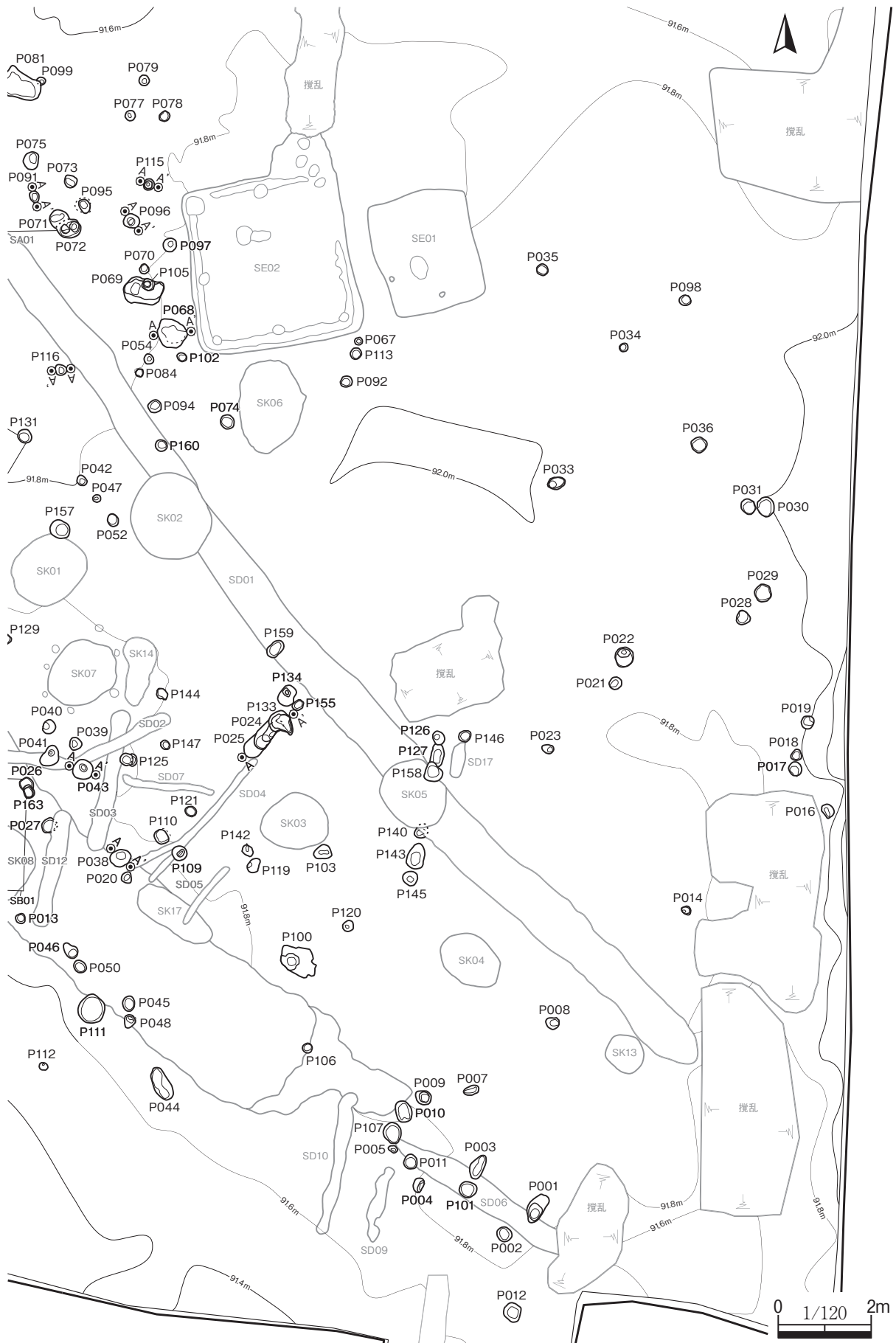
[堆積土] 黒褐色シルト質粘土を主体とする単層で、地山ブロックが混じる。

[底面・壁] Ⅲ a 層を底面とした。丸く窪む。壁は緩やかに外へと開きながら立ち上がる。

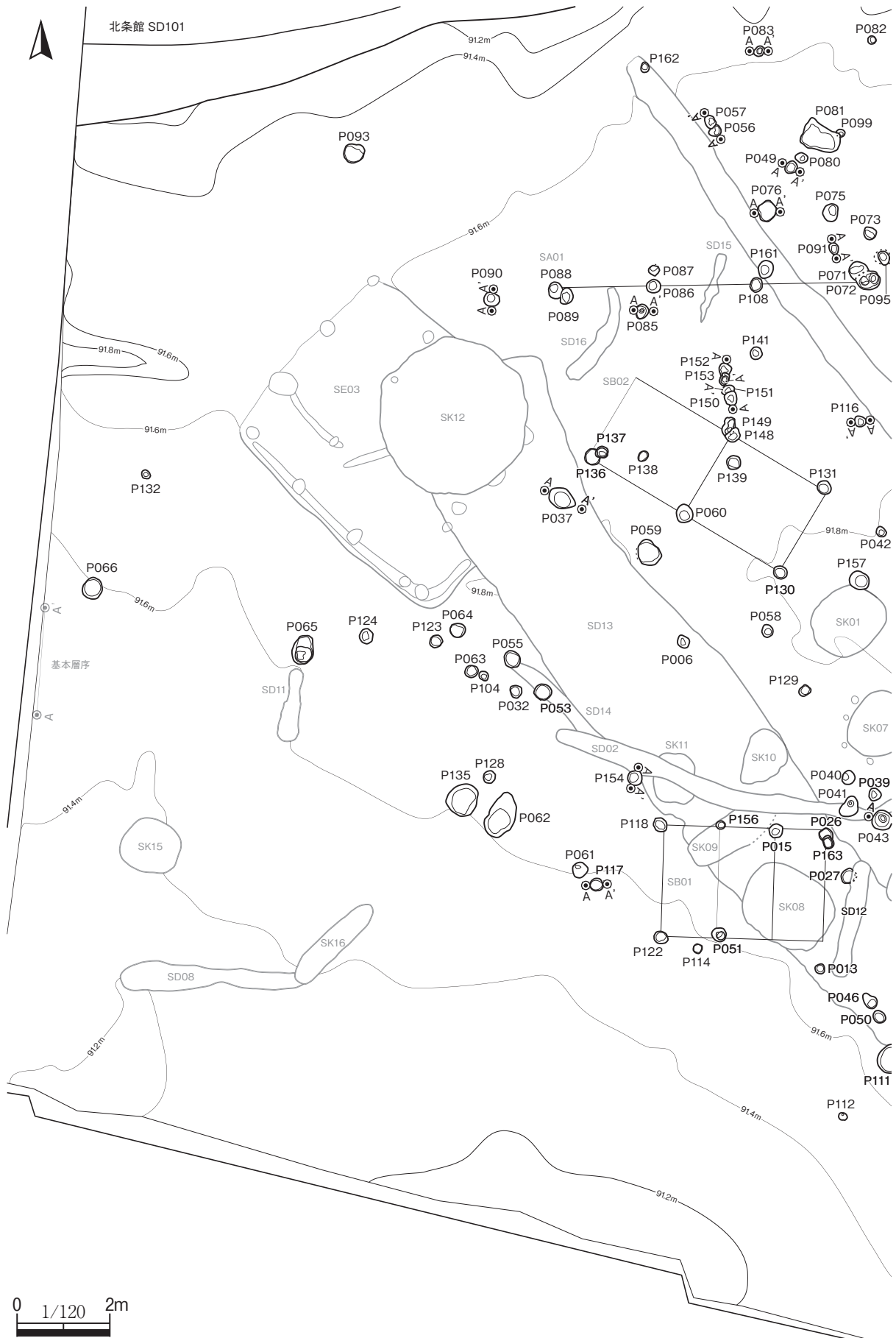
[出土遺物] 無し

[用途] 不明

[時期] 出土遺物や他遺構との重複関係が無く根拠に乏しいが、周辺遺構の時期から 15～16 世紀代と推定する。



第 88 図 柱穴配置図 (1)



第 89 図 柱穴配置図 (2)

(6) 柱 穴 (第 1-88~90 図、第 1-11 表)

[位置・検出状況] 掘立柱建物及び柵列を構成するものを含めて 163 個検出した。調査区ほぼ全域で、特に竪穴建物、土坑、溝が分布する範囲に集中する。多くの柱穴の検出面はⅢ a・b 層上面で、黒色の円形プランとして検出している。

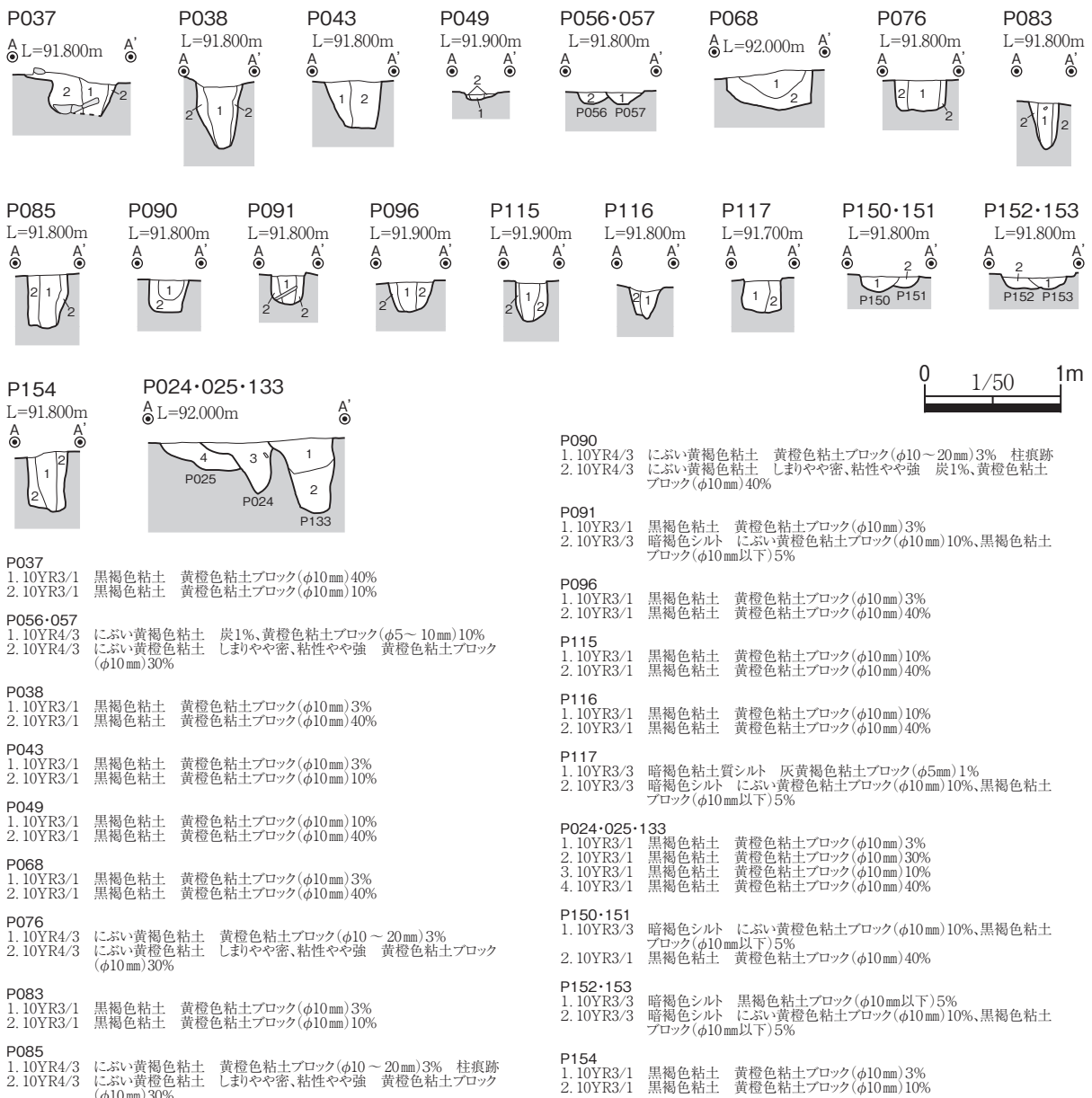
[他遺構との重複] 他遺構との重複関係などは第 1-11 表に記した。

[規模] 径 15~30cm、深さは 8~70cm (平均 26.3cm) である。

[堆積土] 黒褐色シルト質粘土及びにぶい黄褐色シルト質粘土を主体とする。また柱痕跡が残るものもある。

[出土遺物] 土器の小片や礫石器が出土しているが、いずれも流れ込みによる混入と判断した。このうち P064 から出土した縄文土器 1 点と P165 から出土した石器 1 点を掲載した (26・37)。

[用途] 上記の遺構の周辺に分布することから、これらの遺構を補助する用途が推測される。



第 90 図 柱穴断面図

2 検出遺構

第11表 柱穴一覧 (1)

柱穴 No.	グリッド	深さ (cm)	底面標高 (m)	土層注記	備考
1	IV A14l	24.6	91.640	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
2	IV A14k	34.0	91.510	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
3	IV A14k	27.4	91.580	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10~20mm) 3%	
4	IV A14k	31.0	91.540	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
5	IV A14k	28.0	91.464	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
6	IV A11h	-	-	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
7	IV A13k	15.4	91.730	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
8	IV A13l	32.0	91.530	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
9	IV A13k	47.8	91.364	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
10	IV A13k	17.4	91.620	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
11	IV A14k	15.4	91.620	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
12	IV A15k	13.2	91.624	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1%	
13	IV A12i	12.0	91.444	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
14	IV A12l	29.4	91.596	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
15	IV A12i	33.8	91.282	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	SB01
16	IV A12m	14.0	91.800	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1%	
17	IV A12 m	30.2	91.642	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
18	IV A12 m	21.0	91.762	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	
19	IV A11 m	34.4	91.616	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
20	IV A12i	43.0	91.230	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
21	IV A11l	31.0	91.630	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
22	IV A11l	23.4	91.736	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
23	IV A12l	21.8	91.724	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
24	IV A11j	45.2	91.392	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
25	IV A11j	24.0	91.596	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	
26	IV A12i	13.4	91.530	10YR3/3 黒褐色 におい黄褐色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	SB01
27	IV A12i	29.2	91.352	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
28	IV A11 m	17.8	91.806	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
29	IV A11 m	11.0	91.840	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
30	IV A10 m	29.8	91.706	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1%	
31	IV A10 m	38.2	91.602	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
32	IV A11 g	17.0	91.584	10YR3/3 暗褐色粘質土 灰黄褐色粘土ブロック (φ 5mm) 1%	
33	IV A10l	16.2	91.802	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
34	IV A9l	16.4	91.762	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
35	IV A9l	9.0	91.800	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
36	IV A10l	17.8	91.794	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
37	IV A10 g	35.8	91.314	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
38	IV A12i	56.6	91.214	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	
39	IV A12i	10.0	91.634	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
40	IV A11i	70.0	91.044	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
41	IV A12i	37.0	91.350	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
42	IV A10i	31.4	91.530	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
43	IV A12i	60.8	91.122	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
44	IV A13j	15.2	91.554	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
45	IV A13i	15.6	91.524	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10~20mm) 3%	
46	IV A13i	18.0	91.494	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1%	
47	IV A10i	18.0	91.690	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
48	IV A13i	16.8	91.524	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10~20mm) 3%	
49	IV A8i	8.4	91.676	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	
50	IV A13i	19.6	91.484	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
51	IV A12h	37.8	91.252	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	SB01
52	IV A10i	25.0	91.600	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
53	IV A11 g	26.8	91.506	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1%	
54	IV A10j	25.2	91.570	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
55	IV A11 g	14.0	91.626	10YR3/3 黒褐色 におい黄褐色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
56	IV A8h	12.8	91.542	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
57	IV A8h	12.6	91.546	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1%	
58	IV A12i	28.0	91.500	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
59	IV A10h	45.2	91.372	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
60	IV A10h	39.0	91.420	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	SB02
61	IV A12h	25.4	91.390	10YR3/3 黒褐色 におい黄褐色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
62	IV A12 g	13.4	91.570	10YR3/3 黒褐色 におい黄褐色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
63	IV A11 g	22.4	91.530	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1%	
64	IV A11 g	28.4	91.500	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	縄文土器 (37)
65	IV A11f	34.4	91.360	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
66	IV A10e	26.2	91.354	10YR3/3 黒褐色 におい黄褐色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
67	IV A9k	13.6	91.806	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
68	IV A10j	43.6	91.426	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	
69	IV A9i	35.0	91.470	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
70	IV A9i	26.6	91.544	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
71	IV A9i	40.2	91.344	310YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	
72	IV A9i	37.0	91.364	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	SA01
73	IV A8i	22.8	91.516	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
74	IV A10j	26.8	91.644	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
75	IV A8i	23.2	91.532	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
76	IV A8i	23.6	91.500	1. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10~20mm) 3% 2. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
77	IV A8i	27.2	91.504	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
78	IV A10j	13.4	91.650	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	

第 11 表 柱穴一覧 (2)

柱穴 No.	グリッド	深さ (cm)	底面標高 (m)	土層注記	備考
79	IV A8i	22.8	91.504	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
80	IV A8i	20.8	91.544	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1%	
81	IV A8i	8.0	91.660	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10~20mm) 3%	
82	IV A7i	54.0	90.994	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
83	IV A7h	35.6	91.236	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
84	IV A9i	8.2	91.732	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
85	IV A9h	40.6	91.314	1. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10~20mm) 3% 柱痕跡 2. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
86	IV A9h	33.0	91.400	1. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10~20mm) 3% 柱痕跡 2. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1%	SA01
87	IV A9h	30.2	91.420	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
88	IV A9 g	28.6	91.404	1. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1% 柱痕跡 2. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 20~30mm) 40%、炭 1%	SA01
89	IV A9 g	22.0	91.482	1. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
90	IV A9 g	27.4	91.400	1. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10~20mm) 3% 2. 10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%、炭 1%	
91	IV A9i	26.2	91.484	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3% 2. 10YR3/3 暗褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
92	IV A10k	16.8	91.786	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
93	IV A8f	11.6	91.404	注記無し	
94	IV A10j	36.6	91.490	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
95	IV A9i	48.4	91.284	注記無し	
96	IV A9i	24.2	91.534	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	
97	IV A10j	26.2	91.560	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
98	IV A9 l	27.0	91.672	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
99	IV A8i	29.0	91.426	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
100	IV A13j	57.2	91.282	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
101	IV A14k	29.8	91.542	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
102	IV A10j	11.8	91.766	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
103	IV A12j	19.0	91.700	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
104	IV A11 g	17.0	91.576	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
105	IV A10j	56.2	91.240	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
106	IV A13j	28.0	91.420	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
107	IV A14k	9.6	91.610	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
108	IV A9h	34.6	91.374	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	SA01
109	IV A12j	58.2	91.240	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
110	IV A12j	48.8	91.324	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
111	IV A13i	17.6	91.500	10YR3/3 黒褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
112	IV A13i	33.6	91.184	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
113	IV A9k	16.2	91.792	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
114	IV A12h	20.0	91.374	10YR3/3 暗褐色粘質土 灰黄褐色粘土ブロック (φ 5mm) 1%	
115	IV A10j	31.2	91.470	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	
116	IV A9i	22.8	91.406	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	
117	IV A12h	28.8	91.306	1. 10YR3/3 暗褐色粘質土 灰黄褐色粘土ブロック (φ 5mm) 1% 2. 10YR3/3 暗褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
118	IV A12h	28.2	91.410	10YR3/3 暗褐色粘質土 灰黄褐色粘土ブロック (φ 5mm) 1%	SB01
119	IV A12j	22.4	91.642	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
120	IV A12k	19.0	91.692	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
121	IV A12j	17.0	91.684	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
122	IV A12h	28.2	91.302	1. 10YR3/3 暗褐色粘質土 灰黄褐色粘土ブロック (φ 5mm) 1% 2. 10YR3/3 暗褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	SB01
123	IV A11 g	16.0	91.600	10YR3/3 黒褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
124	IV A11f	27.8	91.492	10YR3/3 黒褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
125	IV A12i	69.0	91.112	10YR3/3 黒褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
126	IV A11k	22.0	91.726	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
127	IV A12k	13.6	91.746	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
128	IV A11 g	24.0	91.464	10YR3/3 暗褐色粘質土 灰黄褐色粘土ブロック (φ 5mm) 1%	
129	IV A12i	13.2	91.654	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
130	IV A10i	25.8	91.564	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	SB02
131	IV A10i	20.6	91.496	10YR4/3 におい黄褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 5~10mm) 10%、炭 1%	SB02
132	IV A10e	10.8	91.534	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
133	IV A11j	63.0	91.270	1. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3% 2. 10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
134	IV A11j	47.2	91.394	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
135	IV A12 g	14.6	91.514	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
136	IV A10h	13.2	91.564	10YR3/3 暗褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	SB02
137	IV A10h	24.2	91.444	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	
138	IV A10h	15.6	91.506	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
139	IV A10h	17.0	91.542	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
140	IV A12k	21.2	91.722	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
141	IV A9h	21.6	91.514	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
142	IV A12j	33.6	91.524	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
143	IV A12k	20.0	91.694	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
144	IV A11j	21.8	91.596	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
145	IV A12k	27.8	91.622	注記無し	
146	IV A11k	16.0	91.786	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
147	IV A12j	18.8	91.662	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	石器 (26)

第11表 柱穴一覧(3)

柱穴 No.	グリッド	深さ (cm)	底面標高 (m)	土層注記	備考
148	IV A10h	13.6	91.594	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 30%	SB02
149	IV A9h	21.6	91.514	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%	
150	IV A9h	14.2	91.592	10YR3/3 黒褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
151	IV A9h	11.8	91.614	210YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 40%	
152	IV A9h	14.0	91.580	10YR3/3 暗褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
153	IV A9h	11.8	91.594	10YR3/3 暗褐色粘質土 灰黄褐色粘土ブロック (φ 5mm) 1%	
154	IV A11h	43.0	91.300	10YR3/1 黒褐色粘土 黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 3%	
155	IV A11j	21.8	91.666	10YR3/3 暗褐色 におい黄橙色粘土ブロック (φ 10mm) 10%、黒褐色粘土ブロック (φ 10mm 以下) 5%	
156	IV A12h	21.0	91.404	注記無し	SB01
157	IV A10i	-	-	注記無し	
158	IV A12k	23.0	91.686	注記無し	
159	IV A11j	39.2	91.494	注記無し	
160	IV A10j	43.4	91.380	注記無し	
161	IV A9h	24.0	91.484	注記無し	
162	IV A8h	22.0	91.364	注記無し	
163	IV A12i	36.8	91.352	10YR3/3 暗褐色粘質土 灰黄褐色粘土ブロック (φ 5mm) 1%	

[時期] 不明なものがほとんどであるが、周辺遺構の時期をもとにこれらに伴う可能性があると考えられるものは中世(15~16世紀代)あるいは近代(19世紀以降)に属すると推定される。

3 出土遺物(第1-91~93図、第12~17表、写真図版1-63・64)

今回の調査では、土器(縄文土器・土師器)・石器・金属製品・陶磁器・粘土塊等の遺物が出土した。以下では種別毎に概要を記載する。

縄文土器(第1-93図27~38)

深鉢・鉢・壺があり、12点掲載した(掲載重量267.9g)。いずれも晩期に属すると考えられるが、全形がわかるものは無い。

土師器・かわらけ(第1-91図3・6・7・11、第1-92図13・14・20・22~24)

土師器とかかわらけがあり、10点掲載した(掲載重量125.2g)。土師器は坏・高台坏・甕があり、坏・高台坏はいずれも轆轤成形で、13・14は内面に黒色処理が施される。甕(20)は、非轆轤成形である。かわらけは大皿と小皿があり、いずれも轆轤成形であるが、全形がわかるものは無い。

金属製品(第1-91図2・4、第92図15・21)

刀子・金具・銭貨があり、4点掲載した。2は、鉄製刀子の刃部破片である。21は銅製金具で、筒状でありL字状に折れ曲がっている。4・15は永楽通宝である。

石器(第1-91図1・5・8~10、第1-92図12・16~19・25、第1-93図26・40~43)

礫石器と剥片があり、16点掲載した(掲載重量84,472.3g)。礫石器には敲磨器と台石、用途不明の円礫があり、石材は、多い順に安山岩・閃緑岩・細粒閃緑岩・デイサイトである。敲磨器が9点と最も多く、北条館跡と同じく使用痕の位置等により、磨石として使用されたものをA類、敲石として使用されたものをB類、表面に敲打による凹みが認められるものをC類とした(第2分冊第VI章第3節参照)。剥片はいずれも頁岩で、41~43は二次加工剥片である。

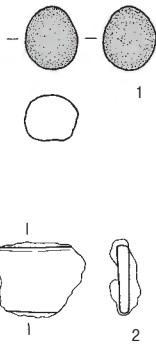
陶磁器(写真図版1-64-44~48)

いずれも近世~近現代の製品と考えられ、5点を写真掲載した(掲載重量24.7g)。全形がわかるものは無い。磁器は染付碗と折縁鉢または向付があり、染付碗のうち46・48は型紙摺絵である。陶器は鉢と考えられるもので、外面に金色の粉が振り掛けられている。

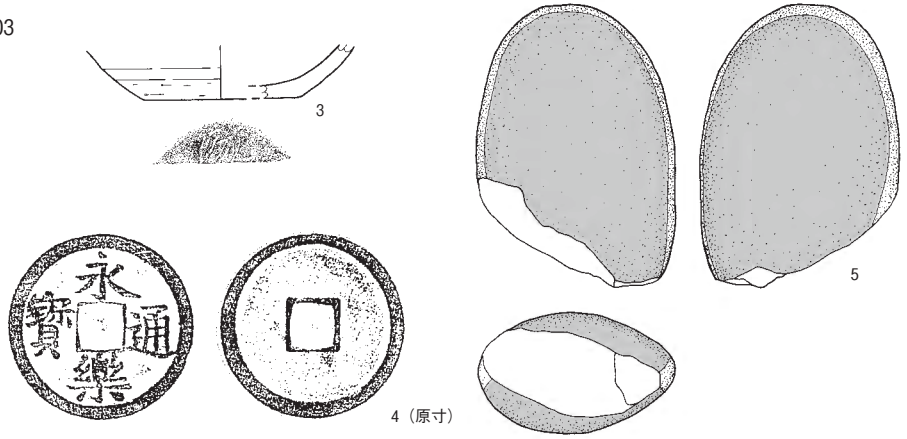
粘土塊(写真図版1-64-49~57)

いずれも中世の遺構から出土したもので、9点を写真掲載した(掲載重量38.5g)。不定形で、色調は赤褐色~橙色である。

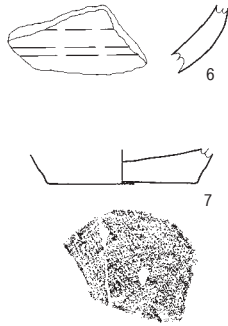
SI02



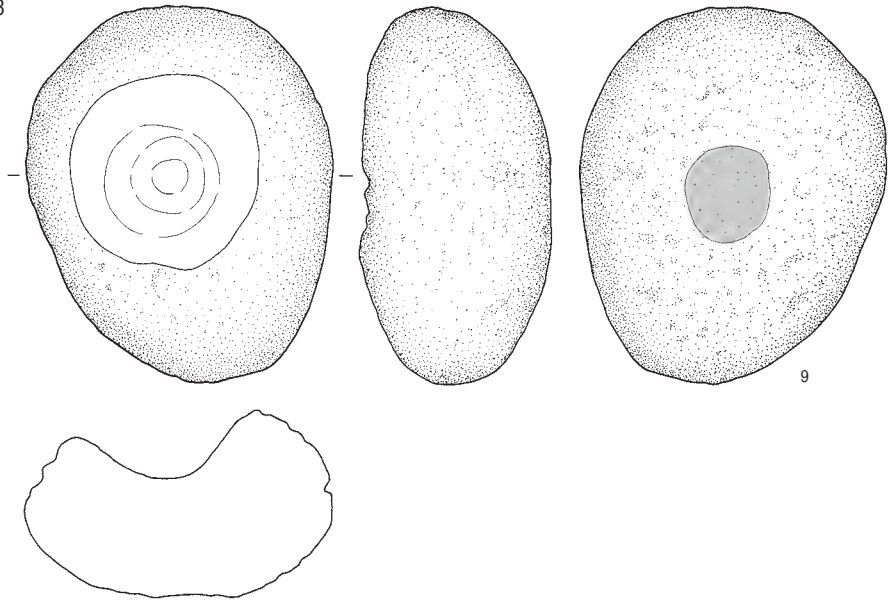
SI03



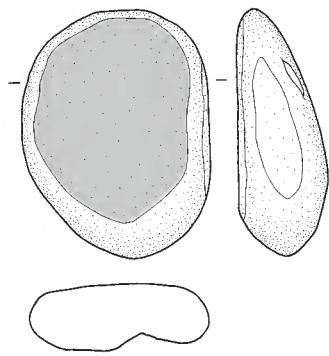
SK02



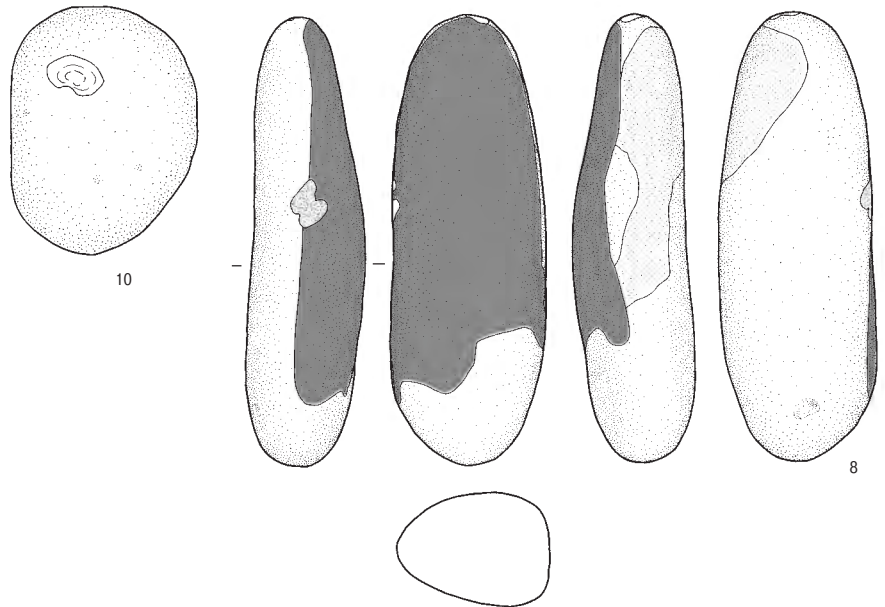
SK03



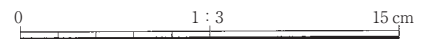
SK08



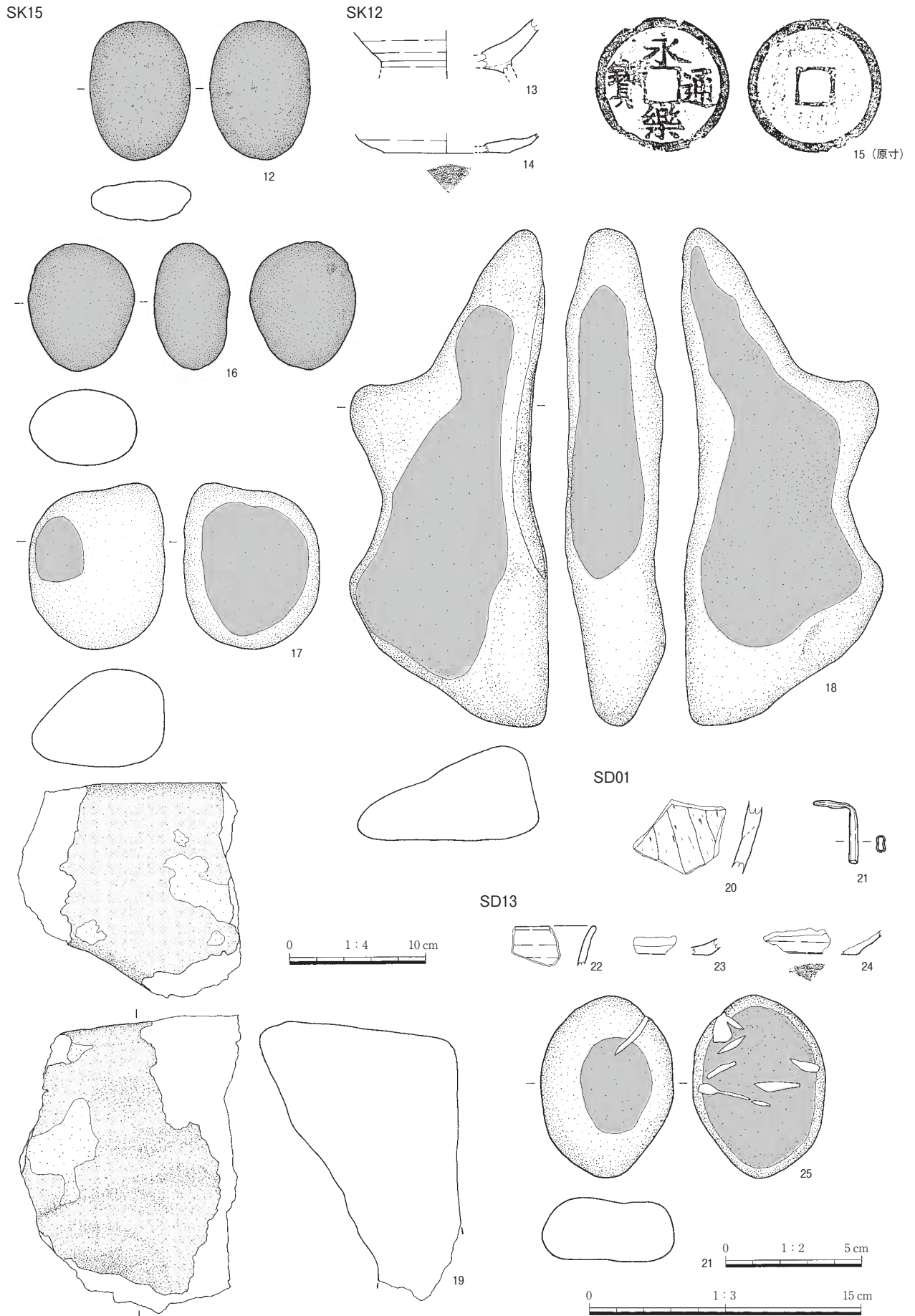
SK03



SK11

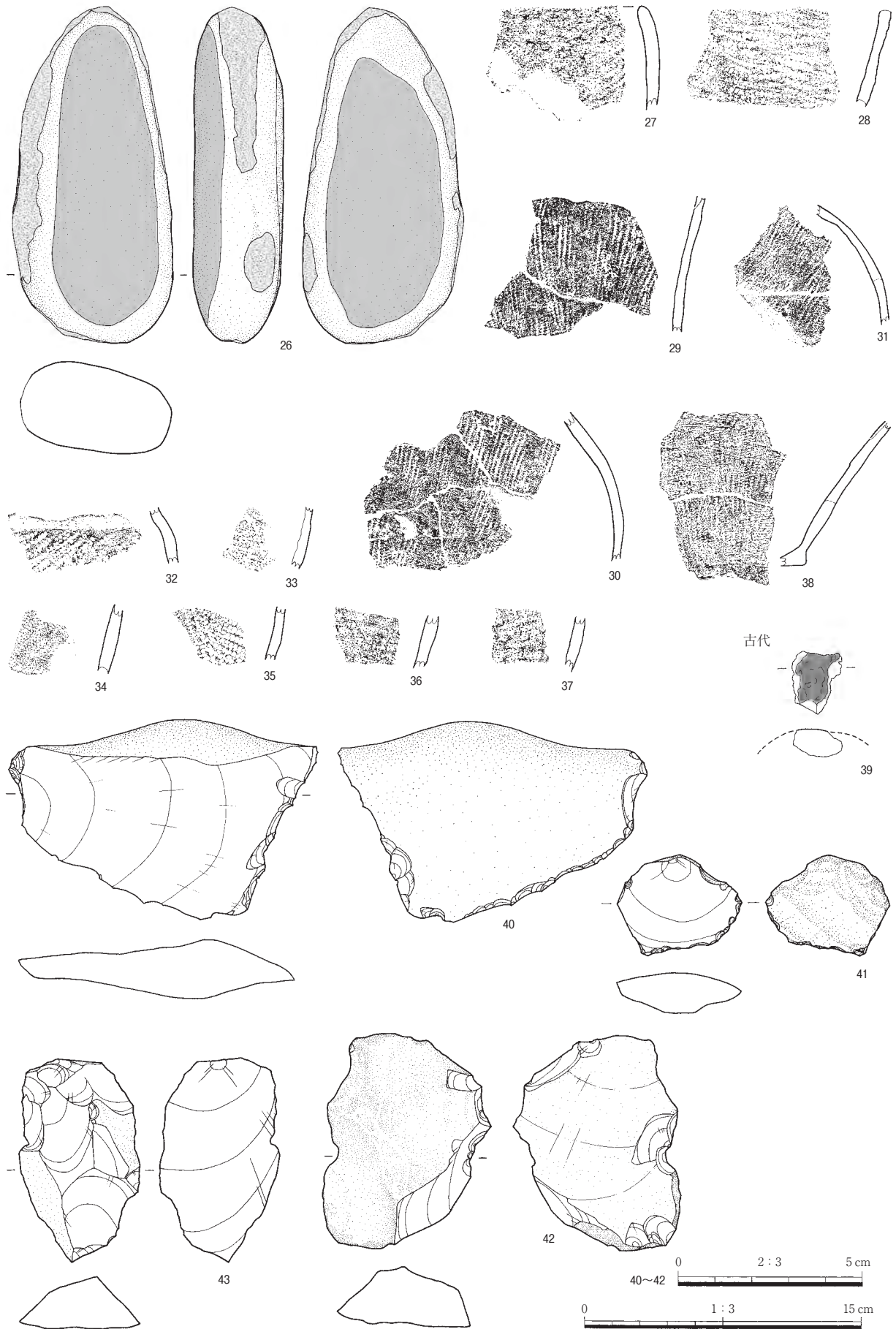


第91図 出土遺物 (1)



第92図 出土遺物(2)

P165



第93図 出土遺物(3)

第12表 縄文土器観察表

掲載 No.	器種	遺構・地点・層位	残存部位	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	色調 (外面/内面)	胎土・混和物	焼成	時期	備考	図版 No.	写真 No.
27	深鉢	SD13 ベルト一括	口縁部	346	LR 縦/ナデ/-	橙/にぶい黄橙	砂質・長石	良好	晩期?		93	64
28	深鉢	SD01 堆積土	胴部	42	LR 縦/ナデ/-	浅黄橙/にぶい黄橙	砂質・長石	不良	晩期		93	64
29	鉢?	SD01 堆積土	胴部	354	RL 斜/ナデ/-	淡黄橙/浅黄橙	砂質・長石	不良	晩期		93	64
30	深鉢	SD01 堆積土上位	胴部	437	RL 斜/ナデ/-	にぶい黄褐/浅黄橙	砂質・長石	不良	晩期	スス	93	64
31	壺?	SD01 堆積土下位	胴部	164	RL 斜/ナデ/-	浅黄橙/にぶい黄橙	砂質・長石	不良	晩期		93	64
32	深鉢?	SD13 堆積土	胴部	167	LR 横/ナデ/-	にぶい黄褐/にぶい黄橙	砂質・長石	やや不良	晩期	スス	93	64
33	深鉢?	SD14 堆積土	胴部	33	RL 横/-/-	にぶい黄褐/にぶい黄橙	砂質	良好	晩期?		93	64
34	鉢?	SD01 堆積土下位	胴部	95	LR 横/ナデ/-	浅黄橙/浅黄橙	砂質・長石	不良	晩期	コケ	93	64
35	深鉢	SK03 堆積土	胴部	87	LR 縦/ナデ/-	にぶい黄橙/にぶい黄橙	砂質・雲母	やや不良	晩期		93	64
36	深鉢	SK12 堆積土下位	胴部	93	LR 縦/ナデ/-	にぶい黄橙/にぶい黄橙	砂質・黒色粒	やや良好	晩期?		93	64
37	深鉢	F064 堆積土	胴部	77	RL 縦/?/ナデ/-	明褐/暗褐	砂質	良好	晩期?		93	64
38	鉢	SD01 堆積土上位	胴-底部	406	RL 斜/ケズリ→ナデ/-	にぶい黄褐/浅黄橙	砂質・長石	不良	晩期	スス	93	64

第13表 土器・土製品観察表

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真 No.
					口径	底径					
3	土師器	坏	SI03 張出し部	底部	-	(2.1)	202	回転ナデ→回転ヘラケズリ/回転ナデ/-		91	63
6	かわらけ	轆轤 大	SK02 堆積土上位	胴部	-	-	141	回転ナデ/回転ナデ/-		91	63
7	かわらけ	轆轤 小	SK02 堆積土上位	底部	-	(1.4)	330	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	91	63
11	土師器	坏	SK11 堆積土中位	口縁部	-	-	35	回転ナデ/回転ナデ/-		91	63
13	土師器	高台坏	SK12 堆積土中位	底部	-	[6.4]	253	回転ナデ/ミガキ・黒色処理/-		92	63
14	土師器	坏	SK12 堆積土上位	底部	-	[7.0]	62	回転ナデ/ミガキ・黒色処理/回転糸切り	器面摩耗	92	63
20	土師器	甕	SD01 A断面付近	胴部	-	-	147	ケズリ/ナデ/-		92	64
22	土師器	坏	SD13 堆積土	口縁部	-	-	26	回転ナデ/回転ナデ/-		92	64
23	かわらけ	轆轤 小	SD13 ベルト一括	底部	-	-	27	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	内面剥落	92	64
24	かわらけ	轆轤 小	SD13 堆積土	底部	-	-	29	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	92	64
39	土製品	羽口	出土地点不明	-	-	[3.4]	9.3	ナデ/ナデ	器高は残存長	93	64

※計測値欄の () は復元値、[] は残存値

第14表 金属製品観察表

掲載 No.	材質	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)			備考	図版 No.	写真 No.
				長	幅	厚			
2	鉄	刀子	SI02 堆積土上位	[2.6]	1.8	0.4	刃部片	91	63
4	銅	水菜通宝	SK03 堆積土	2.4	2.4	0.1	初鑄 1408年	91	63
15	銅	水菜通宝	SK12 堆積土	2.4	2.4	0.1	初鑄 1408年	92	63
21	銅	金具	SD01 堆積土上位	2.3	0.3	0.1	筒状、L字の折れ曲がる	92	64

※計測値欄の [] は残存値

第15表 石器・石製品観察表

掲載No.	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅					
1	円礫	S02 張出し部 堆積土	2.5	2.1	7.1	安山岩		91	63
5	敲磨器	S03 堆積土上位	[11.2]	7.8	555.3	細粒閃緑岩	敲磨 A 類	91	63
8	敲磨器	SK03 堆積土	1.8	6.1	768.5	閃緑岩	敲磨 B 類、複熱	91	63
9	敲磨器	SK03 堆積土	15.1	12.0	1,396.8	安山岩	敲磨 C 類	91	63
10	敲磨器	SK08 堆積土下位	9.8	7.4	305.2	閃緑岩	敲磨 AC 類	91	63
12	敲磨器	SK15 堆積土	7.7	5.6	108.4	安山岩	敲磨 A 類	92	63
16	敲磨器	SK12 堆積土	7.1	5.8	4.1	安山岩	敲磨 A 類	92	63
17	敲磨器	SK12 堆積土	9.6	7.6	372.5	安山岩	敲磨 A 類	92	63
18	台石?	SK12 堆積土	2.7	1.1	16,197.0	アイサイト		92	63
19	台石?	SK12 堆積土	2.2	1.7	63,000.0	安山岩		92	63
25	敲磨器	SD13 堆積土	1.0	7.4	254.7	安山岩	敲磨 A 類	92	64
26	敲磨器	P146 堆積土上位	1.8	8.6	1,224.5	細粒閃緑岩	敲磨 AB 類	93	64
40	剥片	S03 堆積土	5.4	8.4	57.8	頁岩	二次加工剥片	93	64
41	剥片	SK12 堆積土	2.7	3.3	10.6	頁岩	二次加工剥片	93	64
42	剥片	SK12 堆積土上位	5.9	4.8	44.6	頁岩	二次加工剥片	93	64
43	剥片	SD01 堆積土上位	5.5	3.2	21.1	頁岩		93	64

*計測値欄の [] は残存値

第16表 陶磁器観察表

掲載No.	種別	器種	産地	製作年代	遺構・地点・層位 (新)	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	釉薬	文様・調整など	図版 No.	写真 No.
							口径	高さ					
44	磁器	染付 碗	不明	19C	SK04 堆積土	脚部	-	-	2.6	透明釉	回転ナズ、内外：染付	-	64
45	磁器	折縁鉢か向付	不明	不明	SD13 堆積土	口縁部	-	-	4.7	透明釉	回転ナズ 釉は若干緑色	-	64
46	磁器	染付 碗	不明	19C以降	調査区東端 検出面	口縁部	-	-	5.6	透明釉	回転ナズ、内外：雷文	-	64
47	陶器	鉢?	不明	不明	調査区南側 I層	口縁部	-	-	5.5	鉄釉	回転ナズ、外：金色の粉張り掛け	-	64
48	磁器	染付 碗	不明	19C以降	調査区南側 I層	口縁部	-	-	6.3	透明釉	回転ナズ、内外：雷文 内面は黒紙障絵	-	64

第17表 粘土塊観察表

掲載No.	種別	遺構・地点・層位 (新)	計測値 (cm)		重量 (g)	備考	図版 No.	写真 No.
			口径	高さ				
49	粘土塊	S02 Q2 堆積土上位	-	-	7.9		-	64
50	粘土塊	SK02 堆積土上位	-	-	11.7		-	64
51	粘土塊	SK02 堆積土上位	-	-	5.0		-	64
52	粘土塊	SK02 堆積土上位	-	-	2.7		-	64
53	粘土塊	SK02 堆積土上位	-	-	2.5		-	64
54	粘土塊	SK02 堆積土上位	-	-	5.0		-	64
55	粘土塊	SD13 西側 堆積土	-	-	1.7		-	64
56	粘土塊	SD13 西側 堆積土	-	-	1.0		-	64
57	粘土塊	SD13 西側 堆積土	-	-	1.0		-	64

4 自然科学分析

(1) 放射性炭素年代測定

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

北日詰城内 I 遺跡は、岩手県紫波町大字北日詰字城内 234 番地ほかに所在する。測定対象試料は、遺構から出土した炭化物 16 点である (表 1)。

2 測定の意義

試料を採取した遺構は遺物を伴わないため、年代測定で遺構の時期を推測する。

3 化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

(2) 酸 - アルカリ - 酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

(3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。

(4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

(5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。

(6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

(1) δ¹³C は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2) ¹⁴C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C 年代は δ¹³C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。¹⁴C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差 (±1σ) は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.3 較正プログラム (Bronk RamSly 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表 1・2 に示す。

試料 16 点のうち、試料 11・13~15 を除く 12 点の ^{14}C 年代は、 $440 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 3・4) から $320 \pm 20\text{yrBP}$ (試料 12) の狭い範囲にまとまる。暦年較正年代 (1σ) は、これらの中で最も古い試料 4 が 1435~1452cal AD の範囲、最も新しい試料 12 が 1522~1638cal AD の間に 3 つの範囲で示される。

これら以外の試料の ^{14}C 年代は、試料 11 が $2020 \pm 20\text{yrBP}$ 、試料 13 が Modern、試料 14 が $140 \pm 20\text{yrBP}$ 、試料 15 が $1310 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、試料 11 が 46 cal BC~16cal AD の間に 2 つの範囲で示され、弥生時代中期から後期頃に相当する (小林 2009)。試料 13 は 1950 年以降である。試料 14 は 1679~1940cal AD の間に 6 つの範囲、試料 15 は 663~763cal AD の間に 2 つの範囲で示される。なお、試料 14 の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する (表 2 下の警告参照)。

なお、今回試料となった炭化物は、細片で確認できないものもあるが、多くは木炭と見られる。このため、次に記す古木効果を考慮する必要がある。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる (古木効果)。今回測定された試料にはいずれも樹皮が確認されていないことから、試料となった木が死んだ年代は測定された年代値よりも新しい可能性がある。

試料の炭素含有率は、試料 2 を除く 15 点が約 60% を超える十分な値であった。試料 2 は、木炭の内部にまで土が入り込み、十分除去できなかった。炭素含有率は 27% で、木炭としては低いが、測定結果に影響するほどではないと見られる。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51 (1), 337-360
- 小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55 (4), 1869-1887
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19 (3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-181369	1	SI02 Q1 床面直上 (炉)	炭化物	AAA	-29.20 ± 0.22	360 ± 20	95.60 ± 0.25
IAAA-181370	2	SI03 AA' ベルト 3層下床面直上	炭化物	AaA	-26.08 ± 0.20	350 ± 20	95.73 ± 0.27
IAAA-181371	3	SK01 堆積土下位	炭化物	AAA	-27.23 ± 0.20	440 ± 20	94.72 ± 0.27
IAAA-181372	4	SK02 堆積土下位	炭化物	AAA	-26.12 ± 0.22	440 ± 20	94.63 ± 0.26
IAAA-181373	5	SK03 堆積土	炭化物	AAA	-25.16 ± 0.22	360 ± 20	95.59 ± 0.27
IAAA-181374	6	SK05 堆積土下位	炭化物	AAA	-26.56 ± 0.23	340 ± 20	95.80 ± 0.26
IAAA-181375	7	SK06 堆積土中位	炭化物	AAA	-28.14 ± 0.22	430 ± 20	94.74 ± 0.26
IAAA-181376	8	SK07 堆積土下位	炭化物	AAA	-27.37 ± 0.24	350 ± 20	95.79 ± 0.26
IAAA-181377	9	SK08 堆積土下位	炭化物	AAA	-24.94 ± 0.19	410 ± 20	95.00 ± 0.27
IAAA-181378	10	SK09 堆積土上位	炭化物	AaA	-26.81 ± 0.25	330 ± 20	96.03 ± 0.26
IAAA-181379	11	SK10 堆積土中	炭化物	AaA	-27.04 ± 0.26	2,020 ± 20	77.77 ± 0.22
IAAA-181380	12	SK12 5層	炭化物	AAA	-27.83 ± 0.22	320 ± 20	96.11 ± 0.26
IAAA-181381	13	SK13 堆積土下位	炭化物	AaA	-29.18 ± 0.27	Modern	105.51 ± 0.28
IAAA-181382	14	SK14 堆積土中位	炭化物	AAA	-26.76 ± 0.18	140 ± 20	98.25 ± 0.27
IAAA-181383	15	SK15 堆積土	炭化物	AaA	-28.64 ± 0.19	1,310 ± 20	84.94 ± 0.25
IAAA-181384	16	SD02 堆積土	炭化物	AAA	-27.22 ± 0.20	360 ± 20	95.63 ± 0.26

[IAA 登録番号: #9298]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181369	430 ± 20	94.78 ± 0.25	361 ± 21	1467calAD-1520calAD (44.4%) 1592calAD-1620calAD (23.8%)	1455calAD-1524calAD (52.2%) 1558calAD-1632calAD (43.2%)
IAAA-181370	370 ± 20	95.52 ± 0.27	350 ± 22	1485calAD-1522calAD (29.9%) 1575calAD-1626calAD (38.3%)	1461calAD-1529calAD (42.0%) 1543calAD-1635calAD (53.4%)
IAAA-181371	470 ± 20	94.29 ± 0.26	435 ± 22	1436calAD-1457calAD (68.2%)	1427calAD-1477calAD (95.4%)
IAAA-181372	460 ± 20	94.42 ± 0.26	443 ± 22	1435calAD-1452calAD (68.2%)	1425calAD-1469calAD (95.4%)
IAAA-181373	370 ± 20	95.55 ± 0.27	362 ± 22	1466calAD-1521calAD (45.0%) 1592calAD-1620calAD (23.2%)	1454calAD-1525calAD (52.7%) 1558calAD-1632calAD (42.7%)
IAAA-181374	370 ± 20	95.49 ± 0.26	344 ± 21	1490calAD-1523calAD (27.2%) 1572calAD-1603calAD (25.2%) 1610calAD-1630calAD (15.9%)	1468calAD-1530calAD (37.0%) 1539calAD-1635calAD (58.4%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181375	490 ± 20	94.14 ± 0.26	433 ± 22	1436calAD-1459calAD (68.2%)	1428calAD-1479calAD (95.4%)
IAAA-181376	380 ± 20	95.32 ± 0.26	345 ± 22	1489calAD-1523calAD (27.5%) 1573calAD-1603calAD (24.4%) 1609calAD-1630calAD (16.3%)	1467calAD-1530calAD (37.7%) 1539calAD-1635calAD (57.7%)
IAAA-181377	410 ± 20	95.01 ± 0.27	412 ± 22	1443calAD-1472calAD (68.2%)	1436calAD-1498calAD (90.3%) 1601calAD-1615calAD (5.1%)
IAAA-181378	360 ± 20	95.67 ± 0.26	325 ± 22	1516calAD-1530calAD (10.5%) 1538calAD-1596calAD (44.3%) 1618calAD-1635calAD (13.4%)	1489calAD-1604calAD (75.5%) 1610calAD-1643calAD (19.9%)
IAAA-181379	2,050 ± 20	77.45 ± 0.22	2,019 ± 23	46 calBC-7calAD (66.1%) 13calAD-16calAD (2.1%)	90 calBC-73 calBC (3.5%) 59 calBC-53calAD (91.9%)
IAAA-181380	370 ± 20	95.55 ± 0.25	318 ± 21	1522calAD-1578calAD (48.4%) 1583calAD-1591calAD (6.2%) 1621calAD-1638calAD (13.7%)	1492calAD-1603calAD (75.3%) 1614calAD-1644calAD (20.1%)
IAAA-181381	Modern	104.61 ± 0.27	Modern		
IAAA-181382	170 ± 20	97.89 ± 0.27	142 ± 22	1679calAD-1696calAD (10.3%) * 1726calAD-1765calAD (21.0%) * 1800calAD-1814calAD (7.9%) * 1836calAD-1845calAD (3.7%) * 1850calAD-1877calAD (11.5%) * 1917calAD-1940calAD (13.7%) *	1669calAD-1708calAD (15.9%) * 1718calAD-1780calAD (28.8%) * 1797calAD-1888calAD (33.9%) * 1911calAD-1944calAD (16.8%) *
IAAA-181383	1,370 ± 20	84.31 ± 0.24	1,311 ± 23	663calAD-693calAD (49.8%) 748calAD-763calAD (18.4%)	658calAD-720calAD (70.4%) 741calAD-767calAD (25.0%)
IAAA-181384	400 ± 20	95.19 ± 0.25	359 ± 21	1469calAD-1521calAD (43.6%) 1592calAD-1620calAD (24.6%)	1455calAD-1525calAD (50.4%) 1557calAD-1633calAD (45.0%)

[参考値]

Warning! Date may extend out of range*Warning! Date probably out of range**

(この警告は較正プログラム OxCalが発するもので、試料の 14C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)

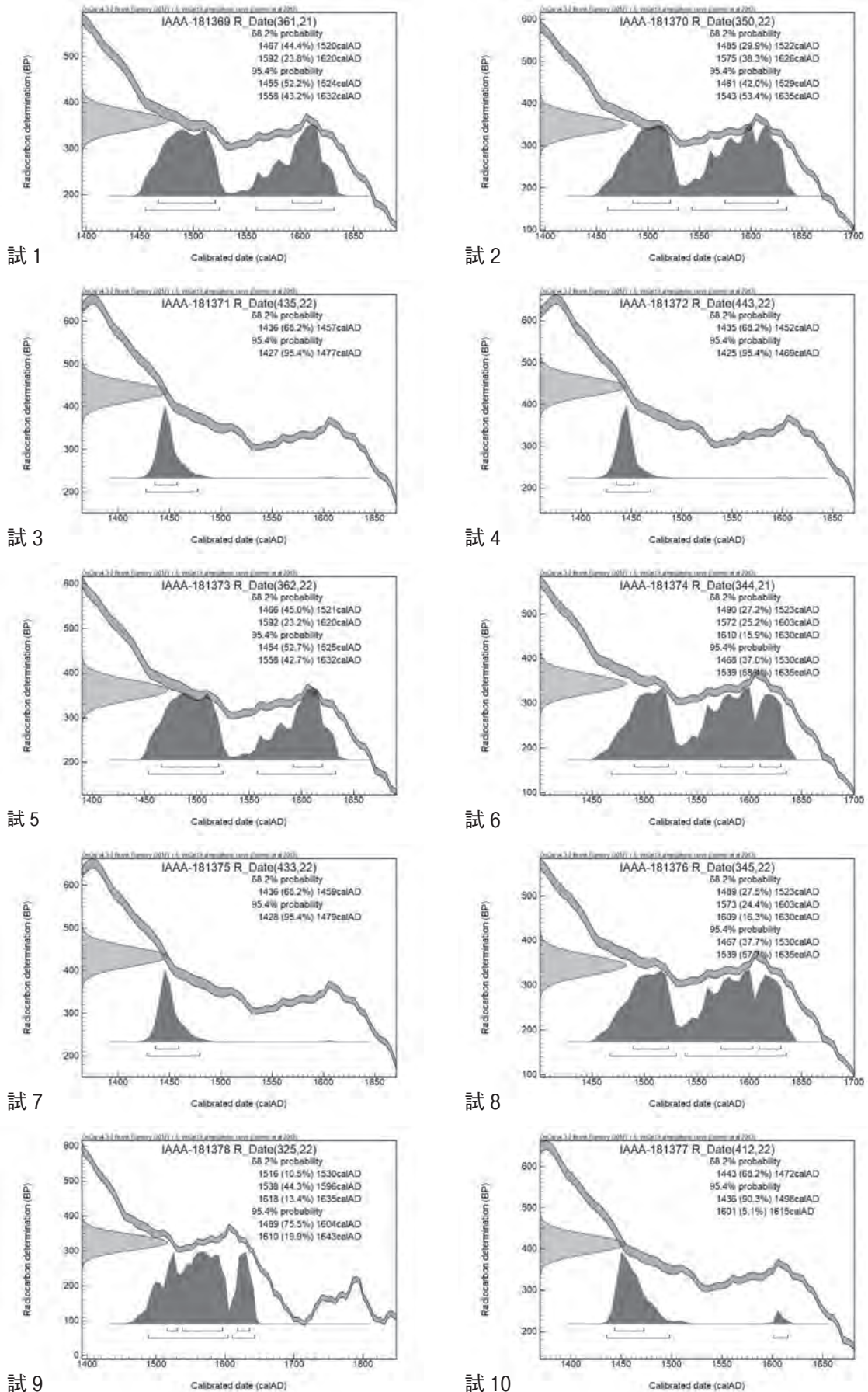


図1 暦年較正年代グラフ (参考) (1)

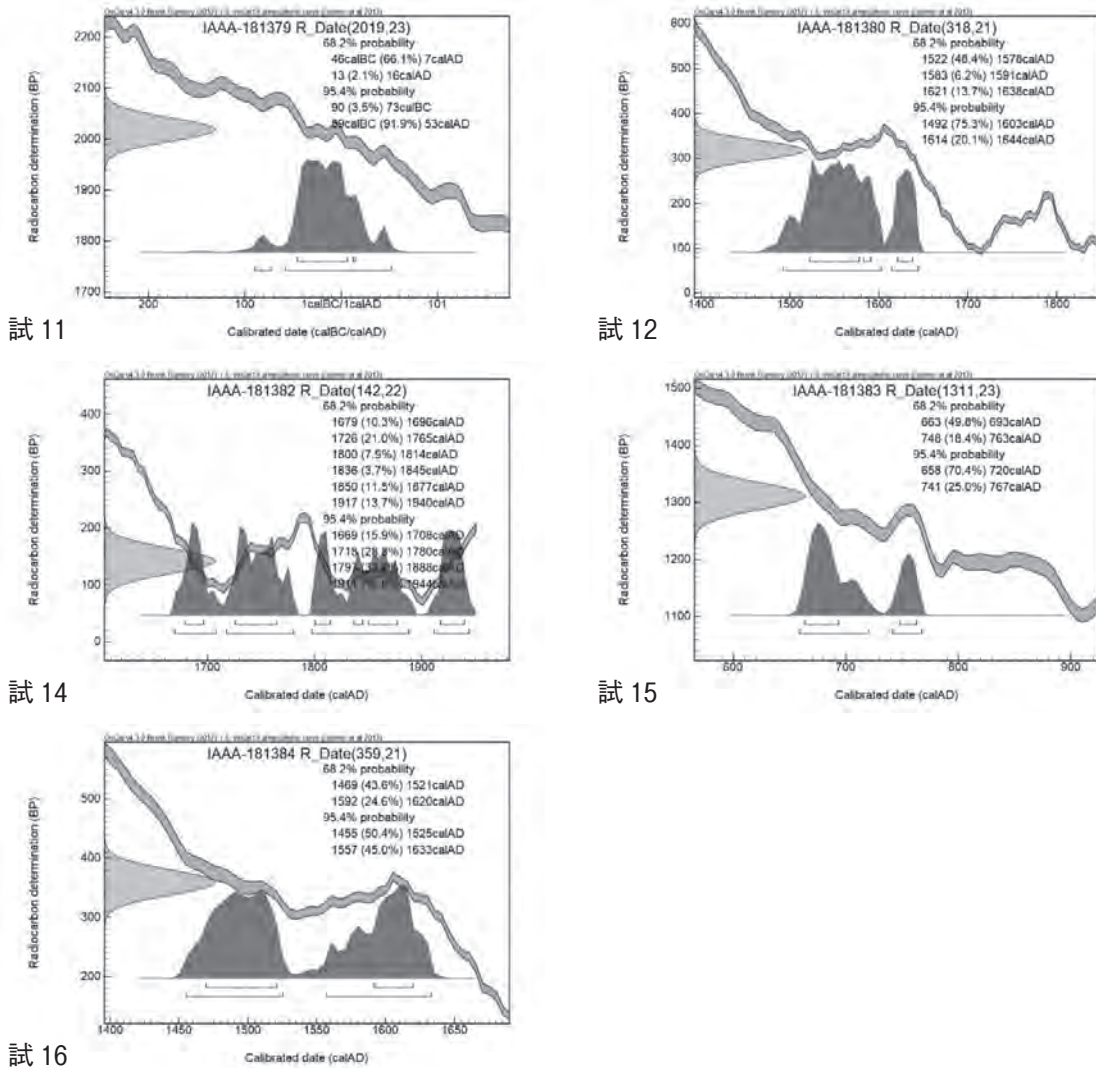


図2 暦年較正年代グラフ (参考) (2)

(2) 種実同定

吉川純子 (古代の森研究舎)

はじめに

北日詰城内 I 遺跡は岩手県紫波郡紫波町大字北日詰字城内 234 番地ほかに所在する、中世を中心とする遺跡である。炉跡(カマド状遺構)及び竪穴建物から炭化物が検出され、炭化種実が残っていると考えられたことから、当時の植物質食料の利用状況を調査する目的で炭化種実分析を行った。試料は水洗後の残渣試料で、双眼実体顕微鏡下で同定可能な植物部位を選別し観察・同定した。なお、分析は北条館跡の試料と同時に行っており、その結果も併せて記載している。同定に充てた試料は39袋、20 試料である。

1 同定結果

北日詰城内 I 遺跡及び北条館跡から出土した種実同定結果を表1及び表2に示す。なお北日詰城内 I 遺跡 SI02A-A' ベルトからは同定可能な種実が検出されなかったため表には掲載されていない。

出土した分類群は木本がスギ、サワラ、ウルシ属で、草本は穀類のイネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエ、ソバを出土し、穀類以外の食用植物はダイズ属とササゲ属、食用の可能性のある種類としてシソ属を出土した。そのほかの草本はエノコログサ属、イネ科、シンジュガヤ、ホタルイ属、ギシギシ属、ハナタデ近似種、サナエタデ近似種、アカザ属、スベリヒユ、ノミノツヅリ近似種、ゲンゲ属、エノキグサを出土した。

両遺跡ではイネ、アワを多く出土する傾向にあり、コムギは北日詰城内 I 遺跡SF01*で多く出土した。また北条館 SI04 でソバを多く出土した。オオムギ、ヒエは出土するが少ない傾向にあった。イネ、アワ、ヒエは穎が残っているものがあり、穎果の状態で炭化したと考えられる。北条館 SI04 では穎つきのイネと果皮付きソバが塊状で出土している。オオムギは一部穎が残っているものもみられ、コムギは種子内の一部が欠落しているものも多く見られた。穀類以外の食用植物ではササゲ属とダイズ属を少数出土している。非炭化種実には北条館 SL04 にかなり多く見られ、ヒエの穎、シソ属、ハナタデ近似種が多く出土するが、後世の混入かどうかは不明である。ほかにもスギ、サワラ、エノコログサ属、イネ科、シンジュガヤ、アカザ属、エノキグサなどが非炭化で出土した。

2 考 察

両遺跡の中世の炉からはイネ、アワを多く出土し、これらの利用頻度が高かったと考えられる。また北日詰城内 I SF01*ではコムギを多く出土した。北条館 SI04 ではイネとソバを塊状で出土したことから保管してあった穀類が焼けたと考えられる。イネ、アワは粒食とされる主食であるが、コムギは皮を剥くと崩れて粉状となりやすいため粒食にむかず、粉食という点で利用形態が異なっている。またソバも一般に粉食で利用されている。イネとアワが多く出土した遺構とコムギを多く出土した遺構は地区が異なっており、住居の利用形態が違っていた可能性がある。イネの出土は大きな館跡や鍛冶集落などに偏る傾向にあり、本遺跡も城館の可能性があるとされることから食用としていた穀類もイネ中心だった可能性がある。北条館 SL04 では非炭化種実が特異的に多く、混入の可能性も否定できないが、他試料と同時期に行われた採取であり、種実内部まで土壌がこびりついていることから当時の堆積である可能性は高いと思われる。他遺構との立地条件の微妙な違いなどで非炭化種実の保存状況が良かったことも考えられる。

以下に出土した炭化種実のうち特筆すべき分類群の形態記載を行う。

オオムギ：楕円形であるが基部が細く上下端は尖っていて厚さが幅より薄い。片面中央には縦に深い溝がある。

コムギ：種子は上下が斜めに切れた俵型で下端に孔状のへそがあり上端は平らである。熱を受けて粉になりやすく種子の一部が脱落しているものが多い。

アワ：一部内穎のみ残った状態、あるいは種子の状態の出土が多い。種子は球形で背面にある胚は種子長半分よりやや大きく腹面にやや縦長のへそがある。炭化すると背腹方向に膨張しやすい。

ヒエ：非炭化の穎は高さが詰まった卵形で背腹2面、先端が長く伸びて穎全面にやや長い毛がある。炭化した種子は丸みを帯びた縦に長いひし形で背面に種子長の3分の2程度の大きな胚があり腹面には丸みを帯びた三角形のへそがある。

ソバ：果実は1面がひし形の3面形で先端は尖り、果皮面中央に1本線があり線から斜め上に細い筋が密布する。

ダイズ属：炭化した種子は楕円形で幅と厚さがほぼ同じで側面にあるへそは種子長の3分の1程度である。出土した種子は6.3mmとやや小さい。

ササゲ属：炭化した種子は角ばった楕円形で半分に割れた内面に初生葉の痕跡が確認できる。

シソ属：非炭化の果実を出土した。果実は球形で下端にくちばし状に平たくなったへそがあり、全面に糸を貼り付けたような粗い網目がある。果実長は 2mm~1.3mm とかなり変異幅があり漸移的であるが、大きい果実はエゴマに近似している。

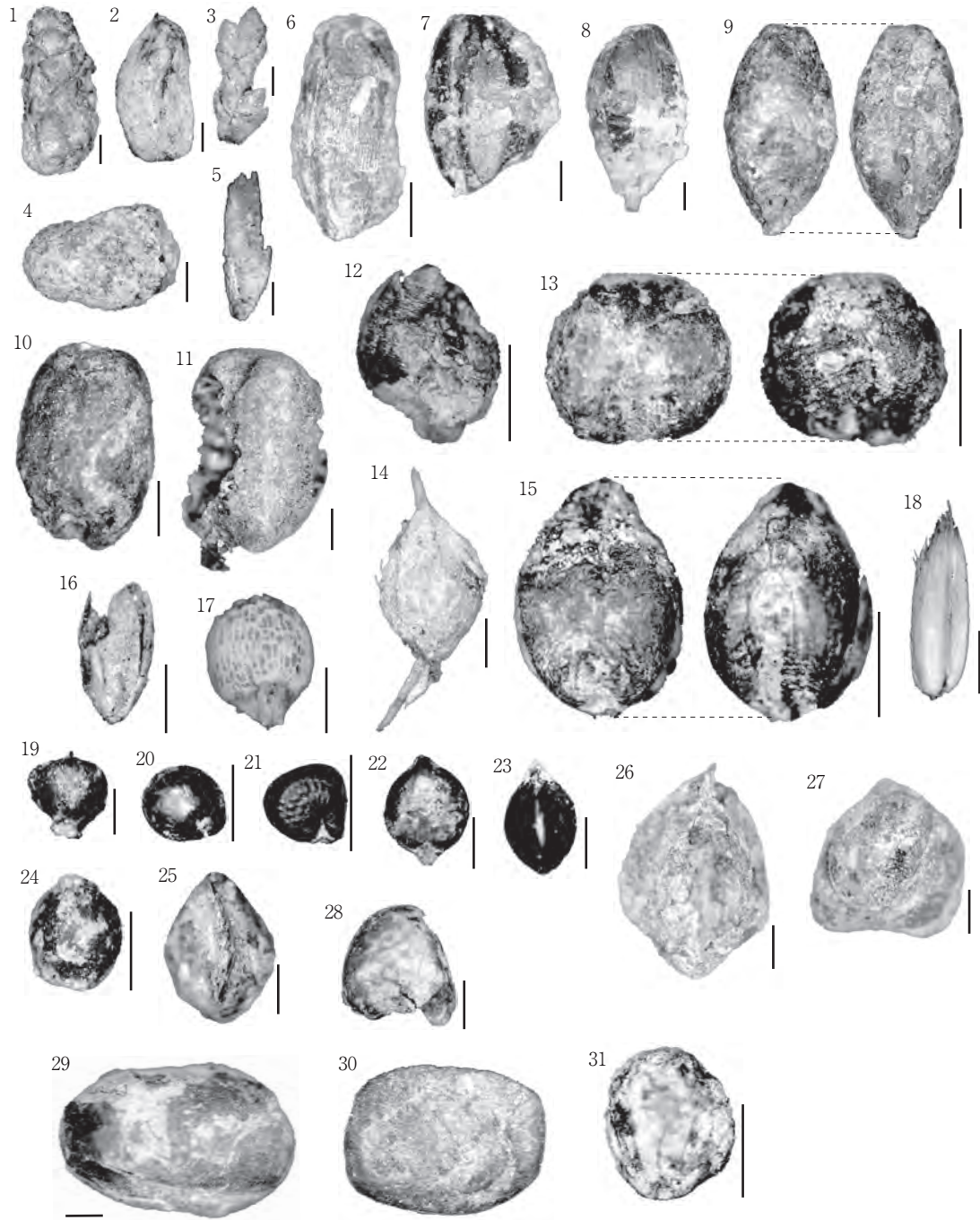
※北日詰城内 I 遺跡 SF01 は、P072 の北西側で検出した焼土の広がり、焼土上で炭化物の分布を確認した。ただし精査を進め、遺構ではないと判断し、遺構として登録していない。

表 1 北日詰城内 I 遺跡出土炭化種実

分類群	遺構 地点 出土部位\層位等	SF01	SI02	SI02	SI02	SI02	SI02	SI02	SI02	SI02	SI02
		堆積土	炉① 堆積土	炉② 堆積土	炉③ 堆積土	炉④ 堆積土	炉⑤ 堆積土	炉⑥ 堆積土	張出部 堆積土	B-B' ベルト	C-C' ベルト
スギ	雄花序	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サワラ	葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウルシ属	炭化内果皮	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
イネ	穎破片	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-
	炭化胚乳	9	-	1	1	-	6	1	22	2	1
	穎付着炭化胚乳	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-
オオムギ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
コムギ	炭化種子	108	1	1	-	-	-	-	8	-	-
アワ	炭化種子	3	-	-	-	-	-	1	27	-	-
	炭化穎果	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-
エノコログサ属	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種子	4	-	-	-	-	-	-	11	-	-
イネ科	穎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シンジュガヤ	果実	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ホタルイ属	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ギシギシ属	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハナタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
アカザ属	種子	4	-	-	-	-	-	-	4	-	-
スベリヒユ	種子	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
ノミノツヅリ近似種	種子	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ダイズ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
ササゲ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ゲンゲ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	種子	3	-	-	-	-	-	-	4	-	-
シソ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
穀類	炭化塊	-	4	-	-	5	10	2	-	9	-

表 2 北条館跡出土炭化種実

分類群	遺構 地点 出土部位\層位等	SL01	SL02	SL02	SL02	SL03	SL04	SI04	SI04
		-	炉内	-	-	土壌	-	1区	断面 C (1区)
		-	-	1層	-	-	-	45	4層 (床面直上)
スギ	雄花序	-	-	-	-	-	2	-	-
	種子	1	-	-	-	-	-	-	-
サワラ	葉	-	-	-	-	-	3	-	-
ウルシ属	炭化内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ	穎破片	-	1	-	-	-	1	-	-
	炭化胚乳	313	-	-	8	-	9	-	-
	穎付着炭化胚乳	74	-	-	-	-	-	1700	150
オオムギ	炭化種子	12	-	1	6	-	-	-	-
コムギ	炭化種子	2	-	-	7	-	-	-	-
アワ	炭化種子	206	-	-	1	-	-	-	-
	炭化穎果	-	-	-	-	-	-	13	-
エノコログサ属	穎	1	-	-	-	-	-	-	-
ヒエ	穎	-	1	-	-	2	32	-	1
	炭化種子	89	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	穎	2	-	-	-	-	-	-	-
シンジュガヤ	果実	-	10	-	-	-	-	-	-
ホタルイ属	炭化果実	1	-	-	-	-	-	-	-
ソバ	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	500
ギシギシ属	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-
ハナタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	90	-	-
サナエタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	1	-	-
アカザ属	種子	2	1	-	-	-	6	-	-
スベリヒユ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-
ノミノツヅリ近似種	種子	-	-	-	-	-	-	-	-
ダイズ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-
ササゲ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-
ゲンゲ属	炭化種子	1	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	種子	1	-	-	-	-	3	-	-
シソ属	果実	-	1	-	-	-	120	-	-
穀類	炭化塊	-	-	-	-	-	-	-	-



1. スギ、雄花序 (SL04) 2. スギ、種子 (SL01) 3. サワラ、小枝 (SL04) 4. ウルシ属、炭化内果皮 (SI02 炉②)
 5. イネ、穎破片 (SI02 張出部) 6・7. イネ、炭化胚乳 (SL01) 8. オオムギ、炭化種子穎付 (SL01)
 9. オオムギ、炭化種子 (SL01) 10. コムギ、炭化種子 (SL01) 11. コムギ、炭化種子 (SF01)
 12. アワ、炭化種子穎付 (SI02 張出部) 13. アワ、炭化種子 (SL01) 14. ヒエ、穎 (SL04) 15. ヒエ、炭化種子 (SL01)
 16. エノコログサ属、穎 (SL01) 17. シンジュガヤ、果実 (SI02 張出部) 18. イネ科、穎 (SL01)
 19. ホタルイ属、炭化果実 (SL01) 20. アカザ属、種子 (SL01) 21. スベリヒユ、種子 (SI02 張出部)
 22. サナエタデ近似種、果実 (SL04) 23. ハナタデ近似種、果実 (SL04) 24. エノキグサ、種子 (SL01)
 25. ギシギシ属、炭化果実 (SI02 張出部) 26. ソバ、炭化果実 (SI04) 27. ソバ、炭化種子 (SI04)
 28. ゲンゲ属、炭化種子 (SL01) 29. ダイズ属、炭化種子 (SI02 張出部) 30. ササゲ属、炭化種子 (SI02 張出部)
 31. シソ属、果実 (SL04) スケールは1mm

図版1 北日詰城内I遺跡及び北条館跡出土炭化種実

5 小 結

北日詰城内 I 遺跡は、北上川の西岸、北上川から約 20 m の自然堤防上に立地する。調査区の面積は 1,190㎡ で、調査区の北側には北条館跡の外堀に相当する SD101 が隣接する（第 1-94 図）。

今回の調査では、柵列 1 列、掘立柱建物 2 棟、竪穴建物 3 軒、土坑（井戸？含む）17 基、溝 17 条を検出し、比較的狭い調査区に密集している。

これらの遺構の時代については、ほとんどの遺構が遺物を共伴しないが、採取した炭化物で放射性炭素年代測定を試みており、その結果、7 世紀代、15 世紀後半～16 世紀初頭（前半）、16 世紀後半～17 世紀初頭などの結果を得ており、そのうち 15 世紀後半～16 世紀初頭（前半）に帰属するものももっとも多かった。また他に、そこまで限定できなくても、15 世紀～16 世紀の範疇に収まる遺構も多い。隣接する北条館跡は、堀などを含めた多くの遺構が 15～16 世紀に帰属しており、したがって、本遺跡は、北条館跡に関連した遺跡に位置付けることができそうである。

その点を踏まえた上で再度遺構群をみると、竪穴建物 3 軒が北条館跡 SD101 と平行するように位置している。竪穴建物のうち SI02 は炉を伴っており、工房であると考えている。どのような工房であったかは定かではないが、遺構外から羽口の破片が出土しており、鍛冶関連の工房の可能性はある。SI02 のような平面形の竪穴建物は花巻市域や八戸市域に分布する中世城館で事例が報告されており、したがって本遺跡の竪穴建物も北条館跡に関連する工房と考えられ、他の遺構も含め、今回の調査区は北条館跡の曲輪の外に展開する工房群（生産域）とすることができそうである。

（須原）

写 真 图 版



遺跡範囲全景（南から）



調査区全景（南から）



調査区北側終了全景（直上、右が北）



調査区南側終了全景（直上、右が北）



調査前現況（北西から）



調査前現況（西から）



調査区北側検出状況（東から）



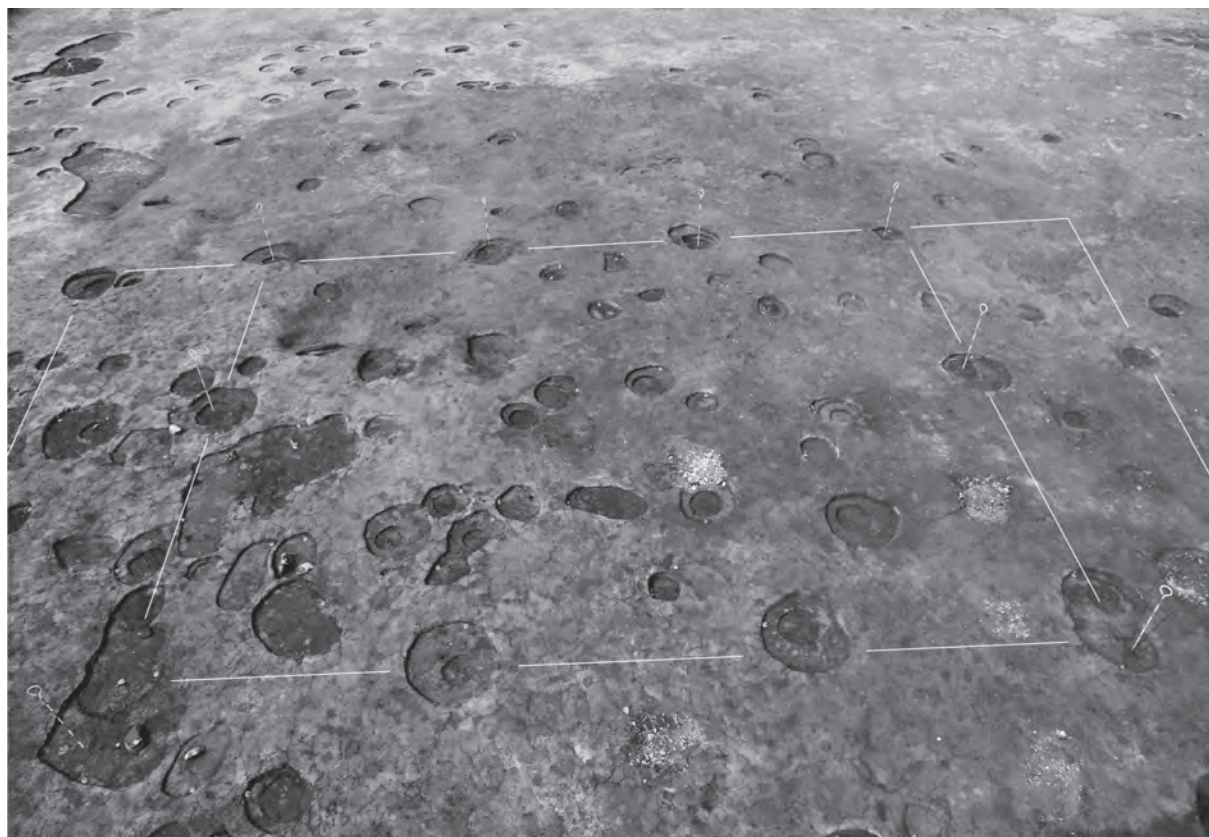
調査区南側検出状況（南東から）



北側基本層序（東から）



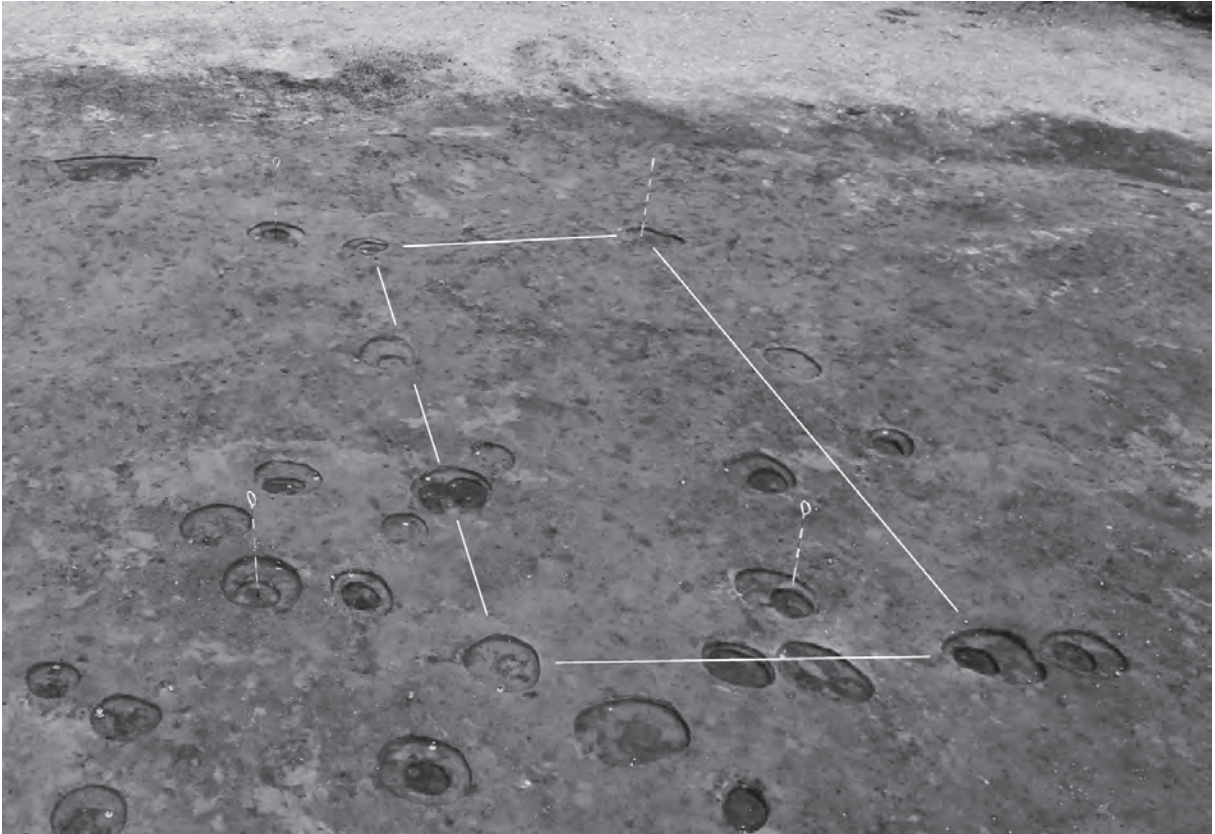
南側基本層序（南から）



SB01 全景 (南から)



SB02 全景 (東から)



SB04 全景 (南から)



SB05 全景 (南から)



SB06 全景（南から）



SB07 全景（南から）



SB08 全景 (北から)



SB09 全景 (北から)



SB10 全景（南から）



SB12 全景（北から）



SB13 全景（南から）



SB14 全景（北から）



SB15 全景（北から）



SB16 全景（北から）



SB17 全景（北から）



SB18 全景（東から）



SB19 全景 (西から)



SB20 全景 (南から)



SB21 全景 (南から)



SB22 全景 (東から)



SB23 全景 (南から)



SB24 全景 (西から)



SB25 全景 (南から)



SB26 全景 (南から)



SB27 全景（南から）



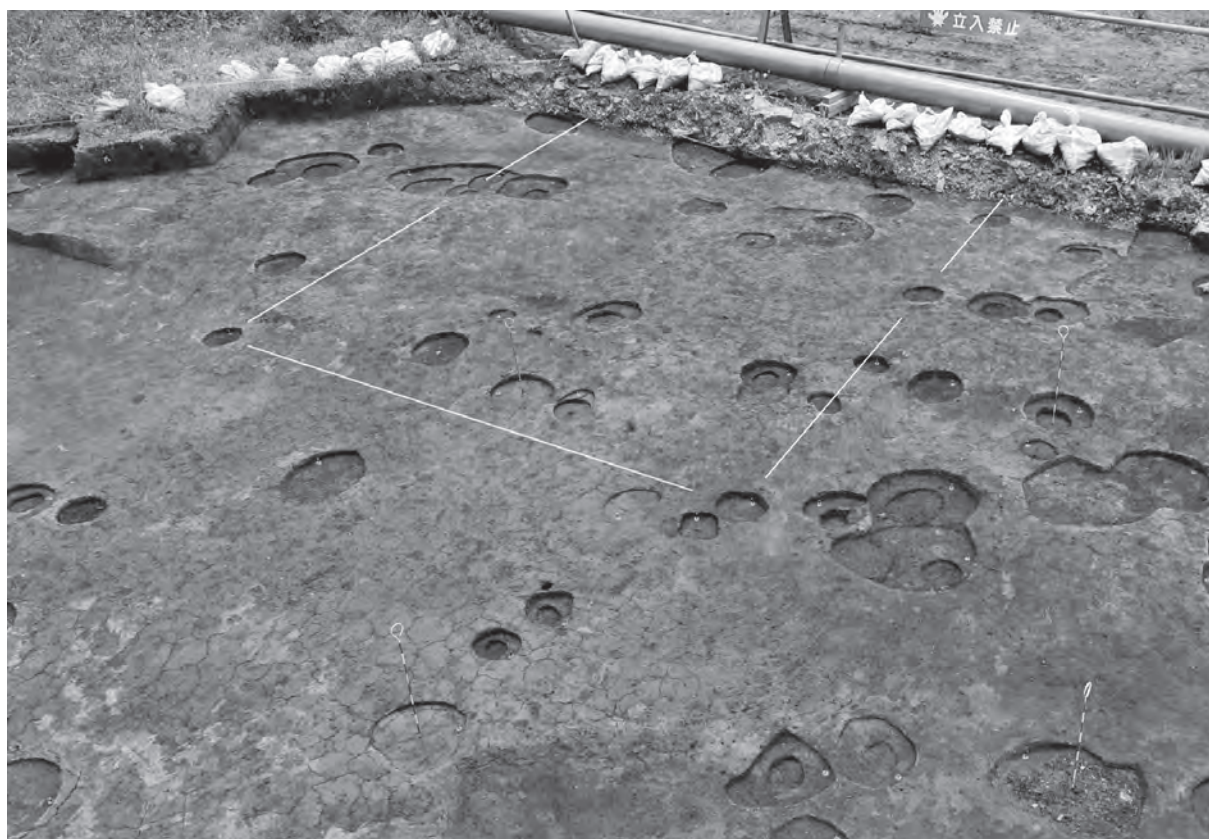
SB28 全景（東から）



SB30 全景 (南から)



SB31 全景 (南から)



SB32 全景 (北から)



SB33 全景 (南から)



完掘（西から）



堆積土断面（北から）



カマド完掘 (南から)



カマドA断面 (南から)



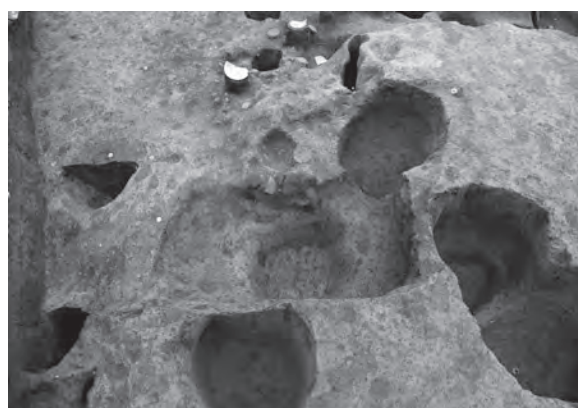
カマドB断面 (東から)



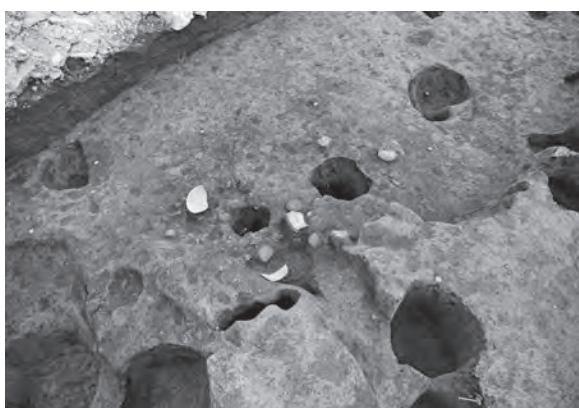
カマド断ち割り断面 (南から)



カマド断ち割り断面 (東から)



貯蔵穴 (南から)



カマド完掘 (北東から)



掘り方 (西から)



完掘（南東から）



A断面（南東から）



B断面（南東から）



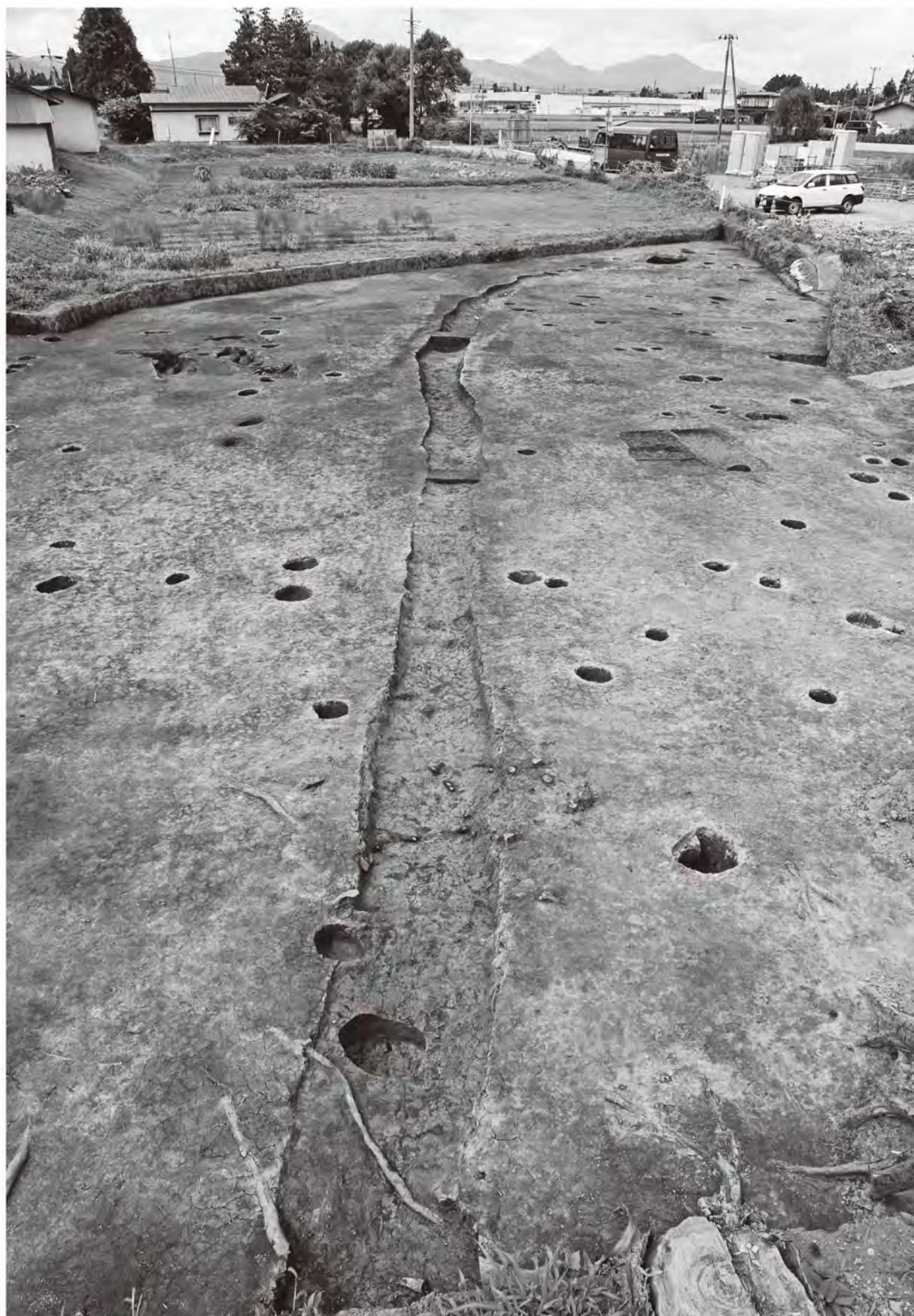
南東側断面（南東から）



遺物出土状況①（北から）



遺物出土状況②（北から）



完掘（南東から）



A断面（南東から）



B断面（南東から）



C断面（東から）



遺物出土状況①（南から）



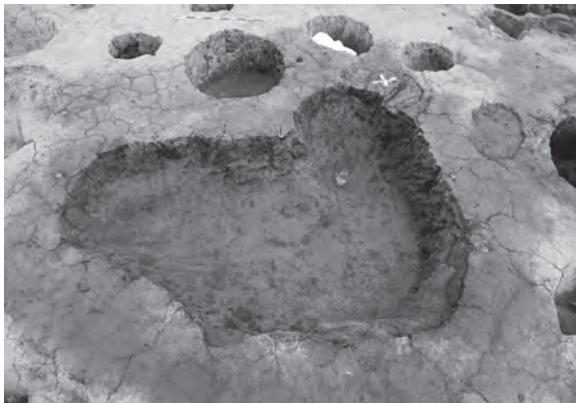
遺物出土状況②（東から）



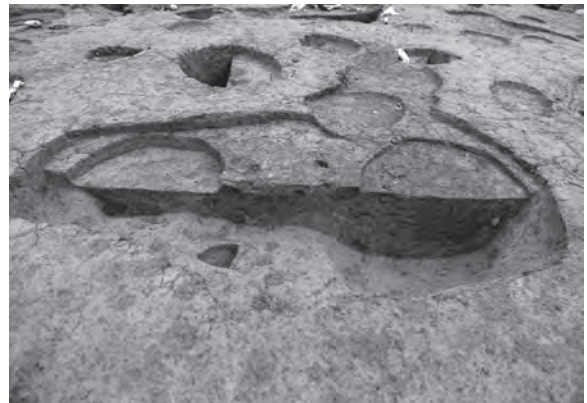
SK01 完掘 (北から)



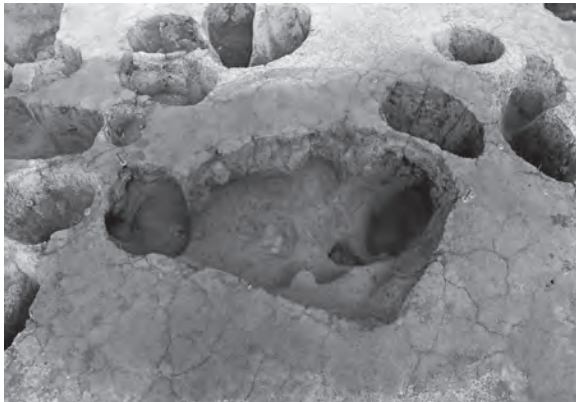
SK01 断面 (東から)



SK04 完掘 (西から)



SK04 断面 (西から)



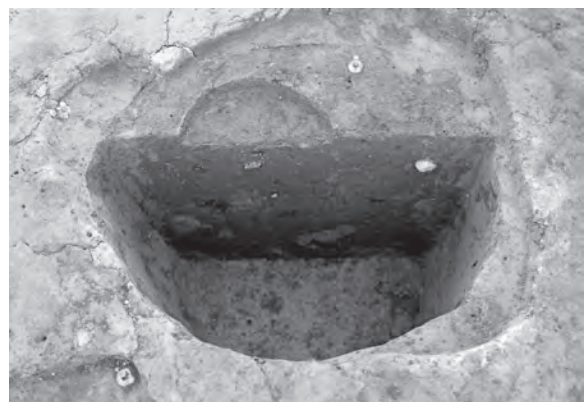
SK06 完掘 (西から)



SK06 断面 (西から)



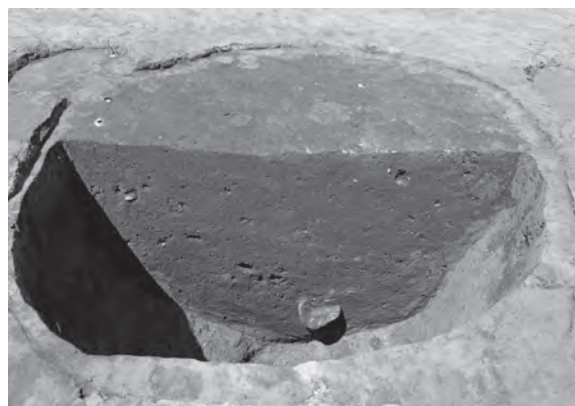
SK11 完掘 (北東から)



SK11 断面 (北から)



SK12 完掘 (東から)



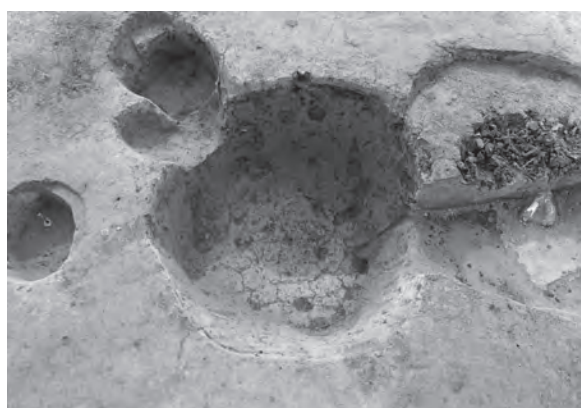
SK12 断面 (南から)



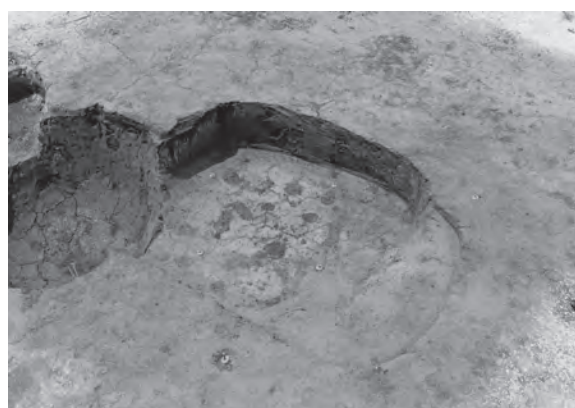
SK13 完掘 (南から)



SK13・P328 断面 (北から)



SK15 完掘 (東から)



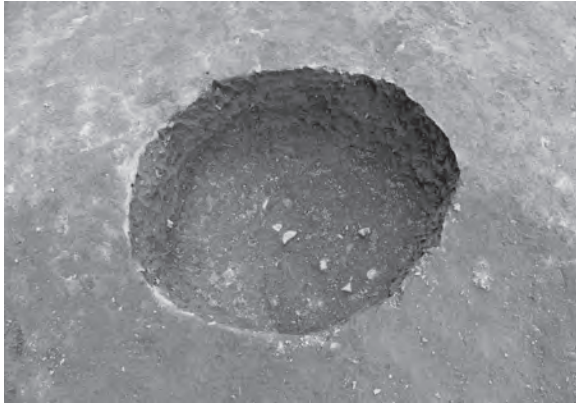
SK16 完掘 (東から)



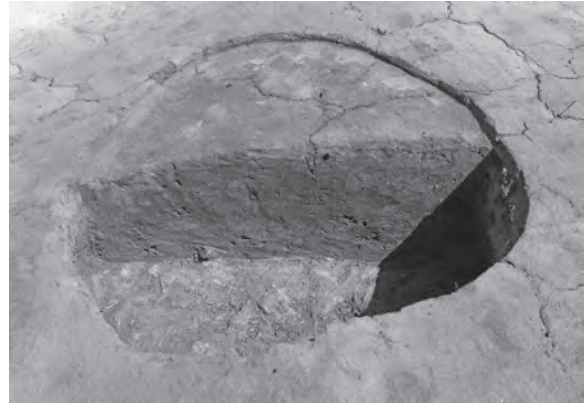
SK15・16 断面 (東から)



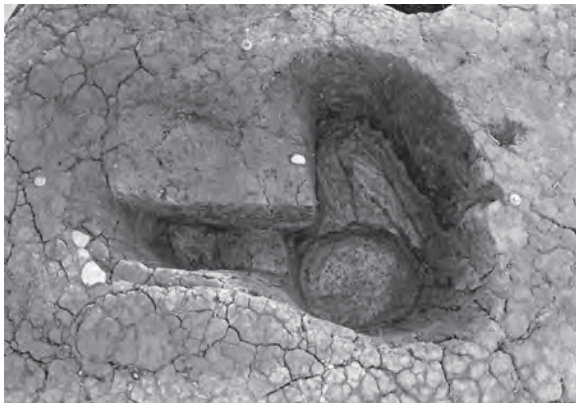
SK16 骨出土状況 (東から)



SK17 完掘 (北から)



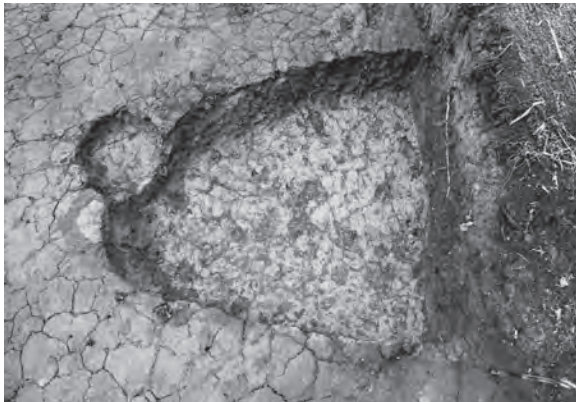
SK17 断面 (南から)



SK22 完掘 (東から)



SK22 断面 (東から)



SK25 完掘 (南から)



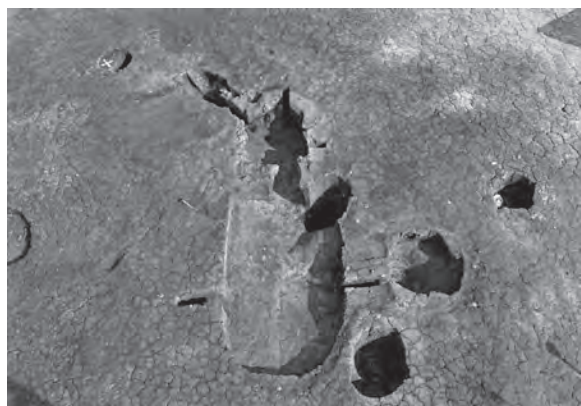
SK25・P509 断面 (南から)



作業風景 1



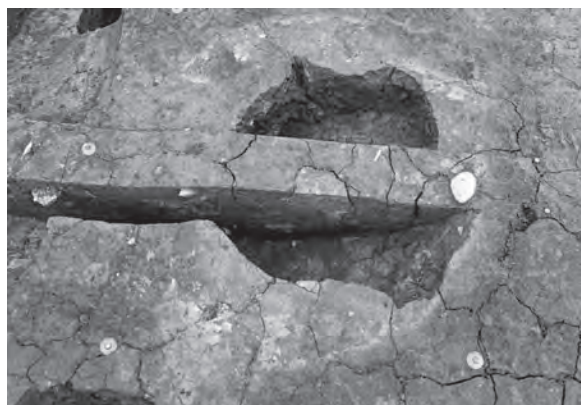
作業風景 2



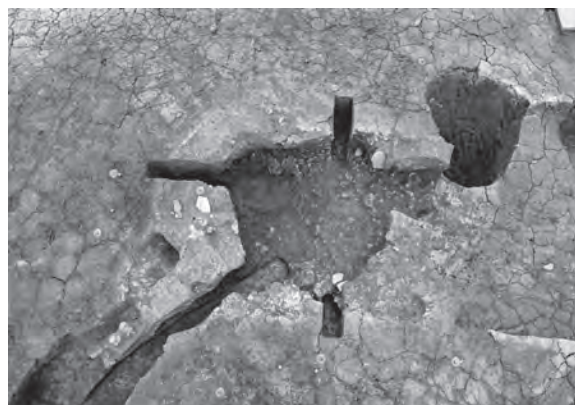
SL01 完掘 (西から)



SL01・02 A断面 (南から)



SL01・02 D断面 (西から)



SL01 炉体内天井崩落状況 (北から)



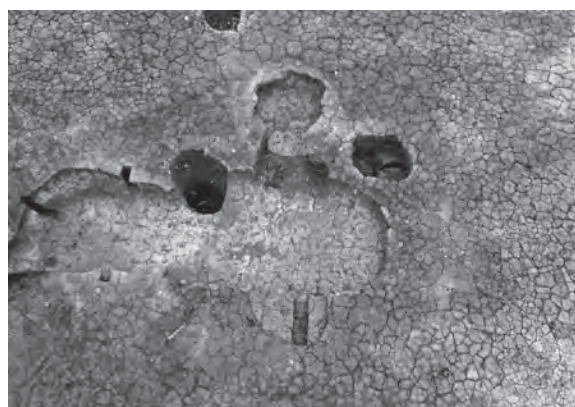
SL01 炉体内天井崩落状況 (西から)



SL01 底面断ち割り (西から)



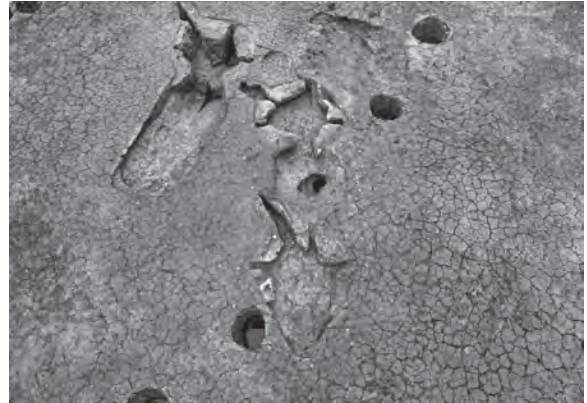
SL01 炉体内炭化物検出状況 (西から)



SL02 完掘 (北から)



SL03・05 検出 (東から)



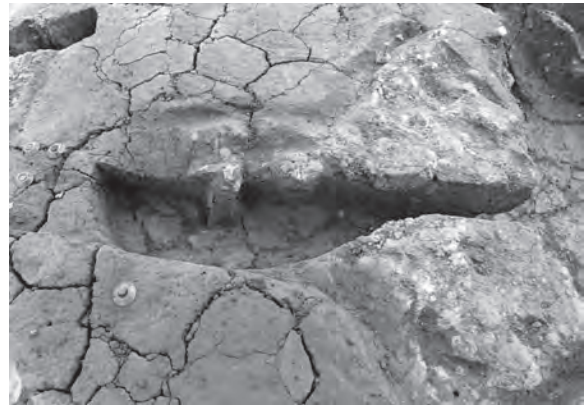
SL03 完掘 (東から)



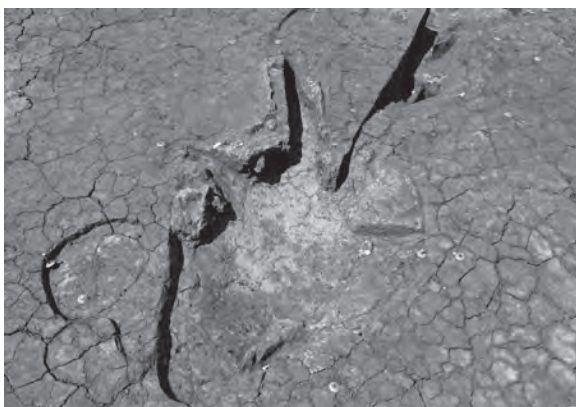
SL03 B断面 (東から)



SL03・05 A断面 (北から)



SL03 C断面 (南東から)



SL05 完掘 (北から)



SL05 D断面 (東から)



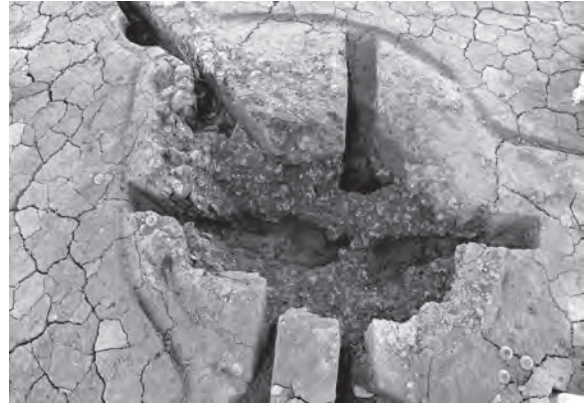
SL04 完掘 (東から)



SL04 A断面 (北から)



SL04 D断面 (南東から)



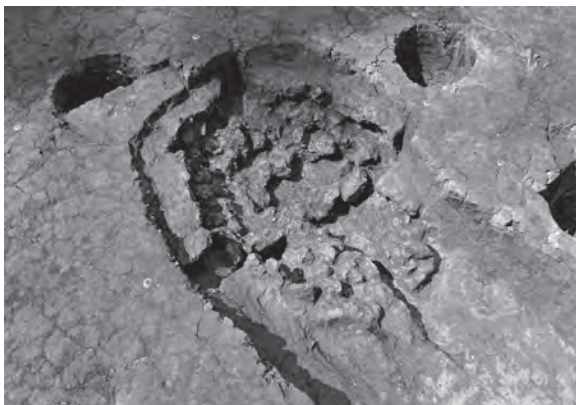
SL04 炉体内天井崩落状況 (東から)



SL06 完掘 (北から)



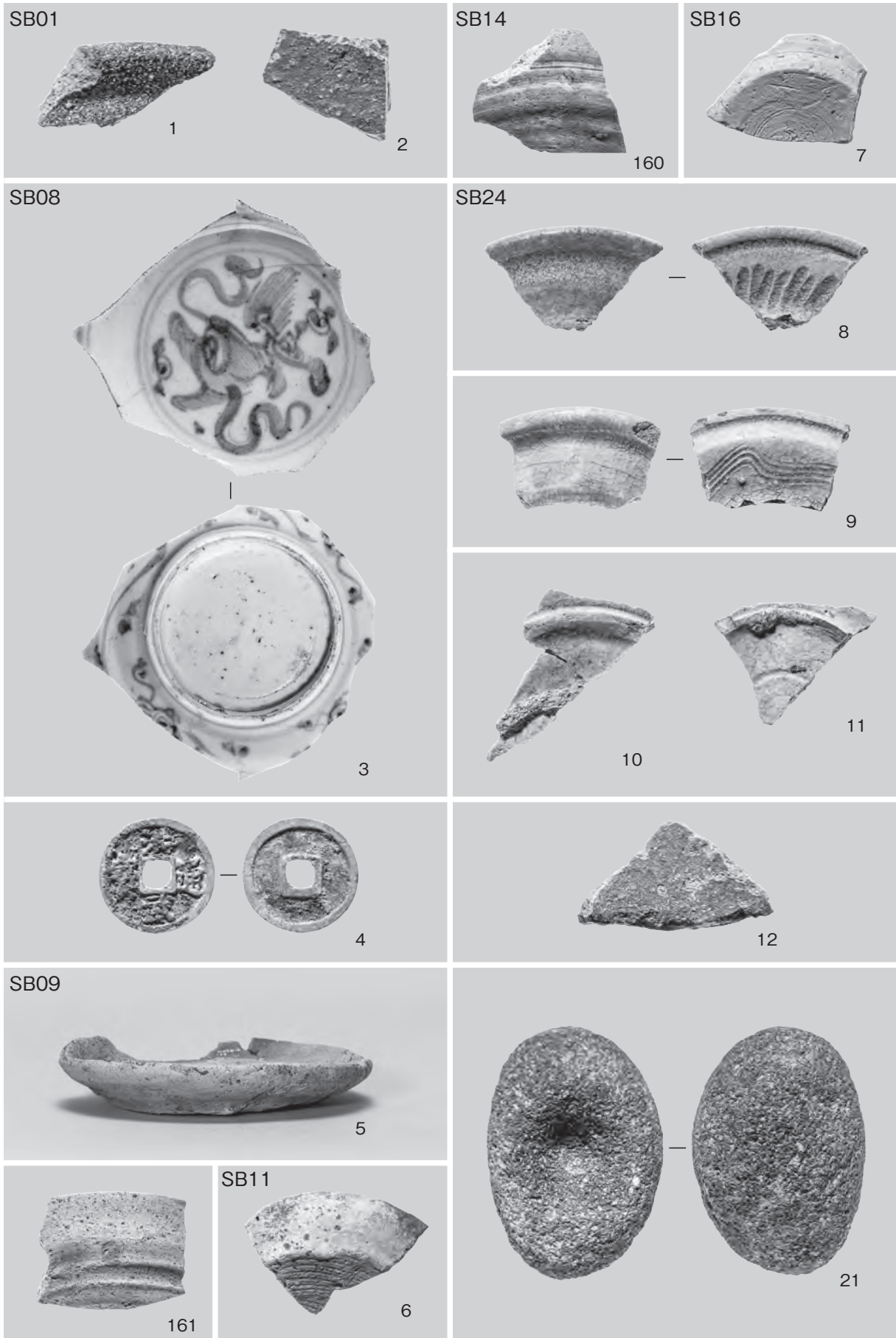
SL06 A断面 (西から)



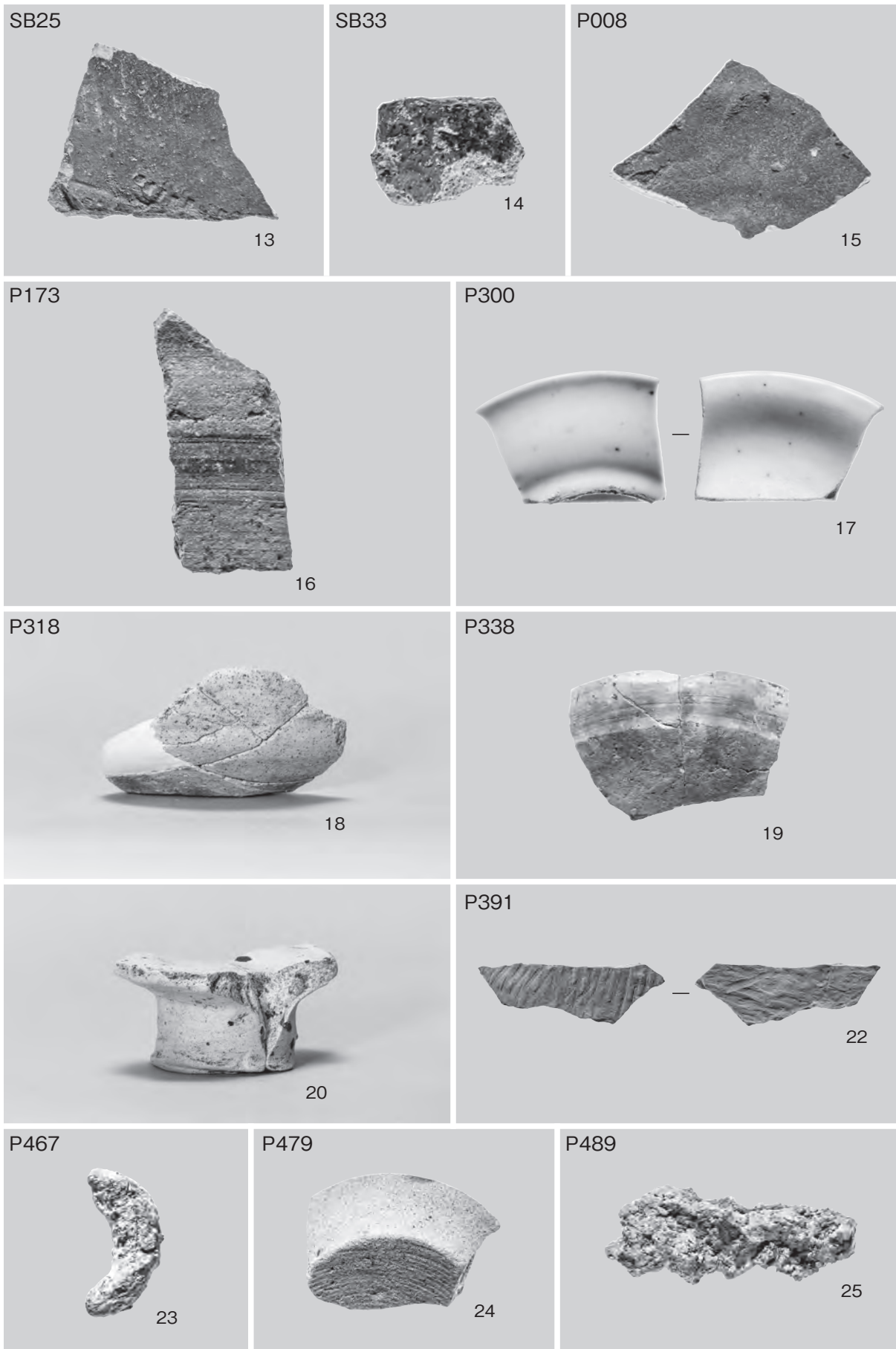
SL06 天井崩落状況 (北から)



SL06 炭化物出土状況 (北から)



写真図版 35 掘立柱建物・柱穴出土遺物 (1)

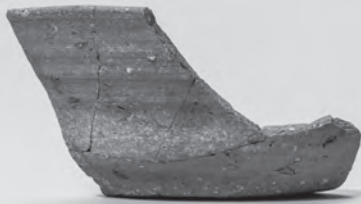


写真図版 36 掘立柱建物・柱穴出土遺物 (2)

SI01



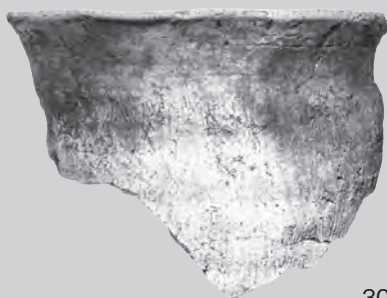
26



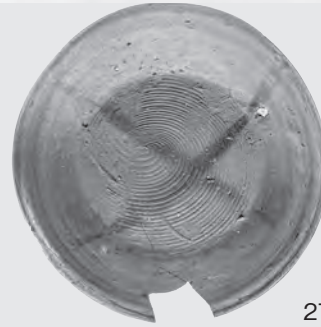
28



29



30



27



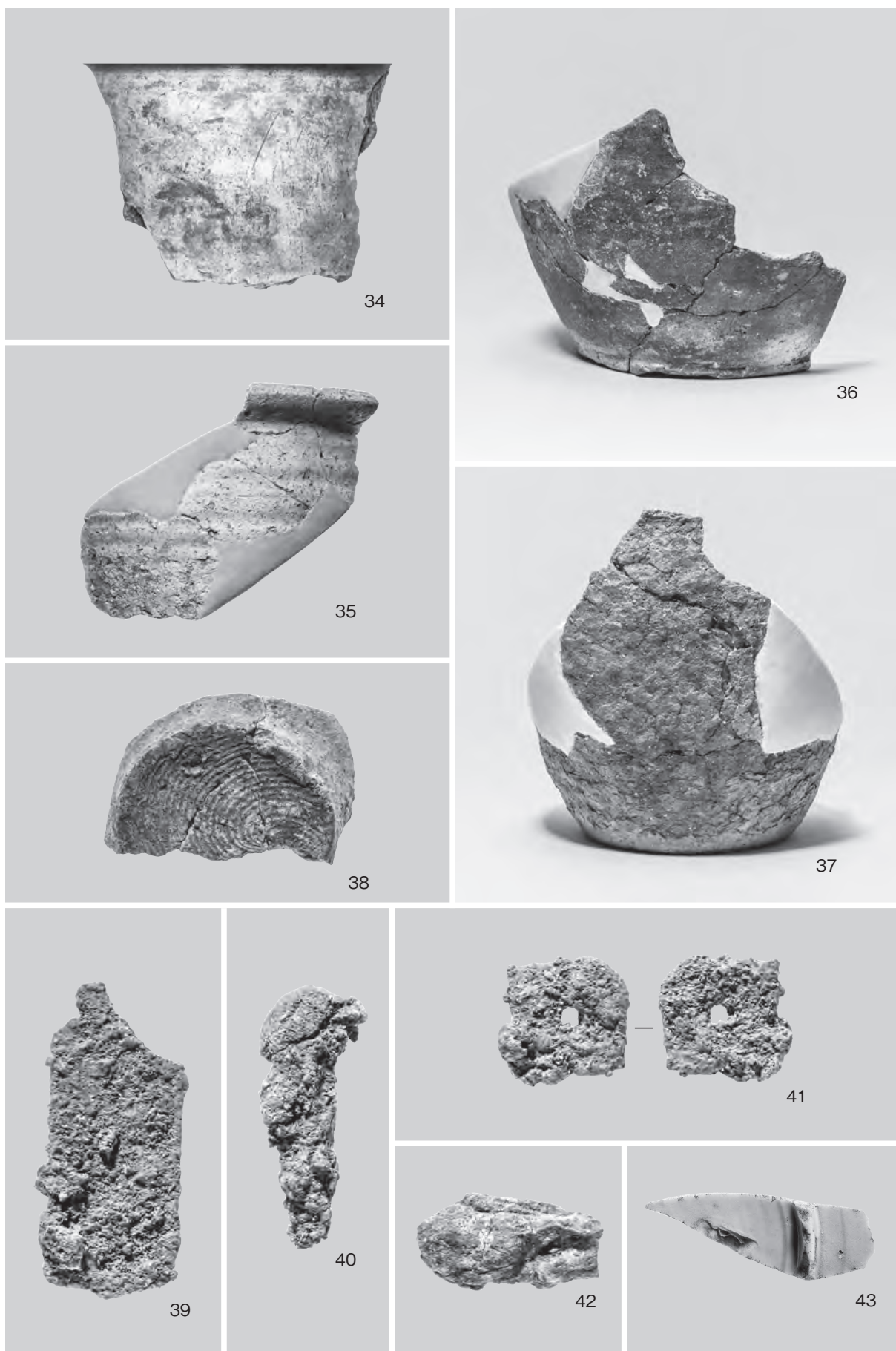
31



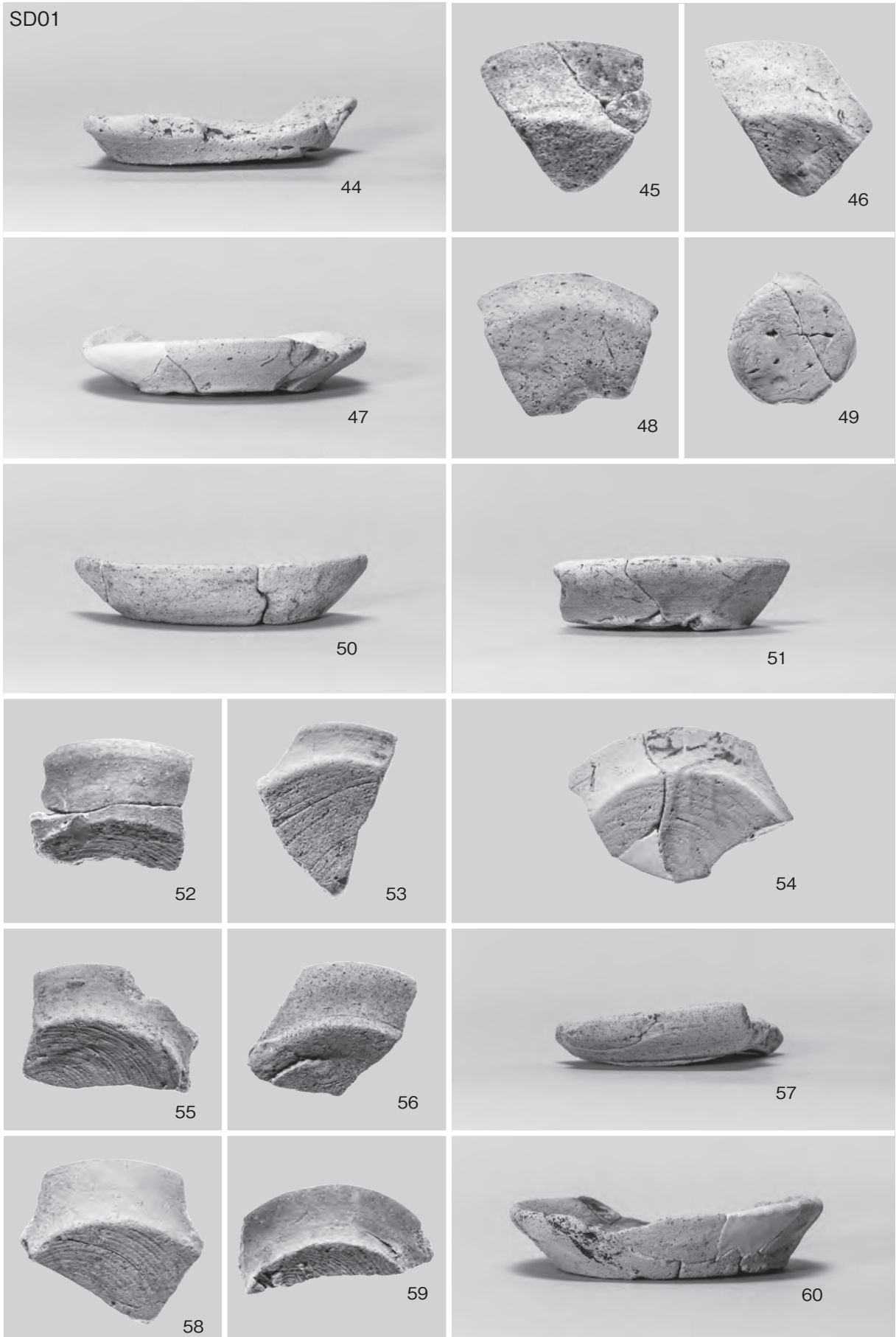
32



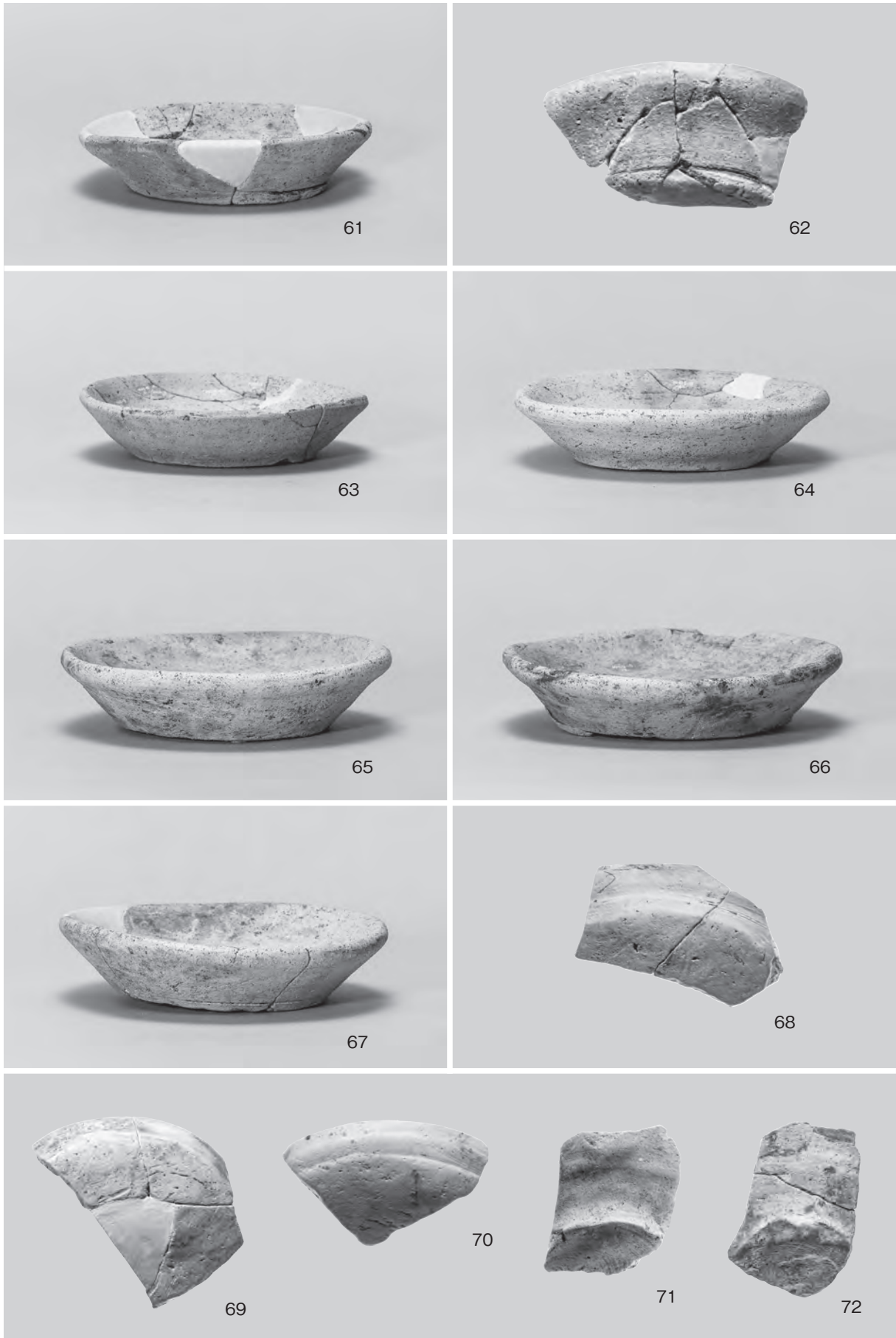
33



写真図版 38 竪穴建物出土遺物 (2)



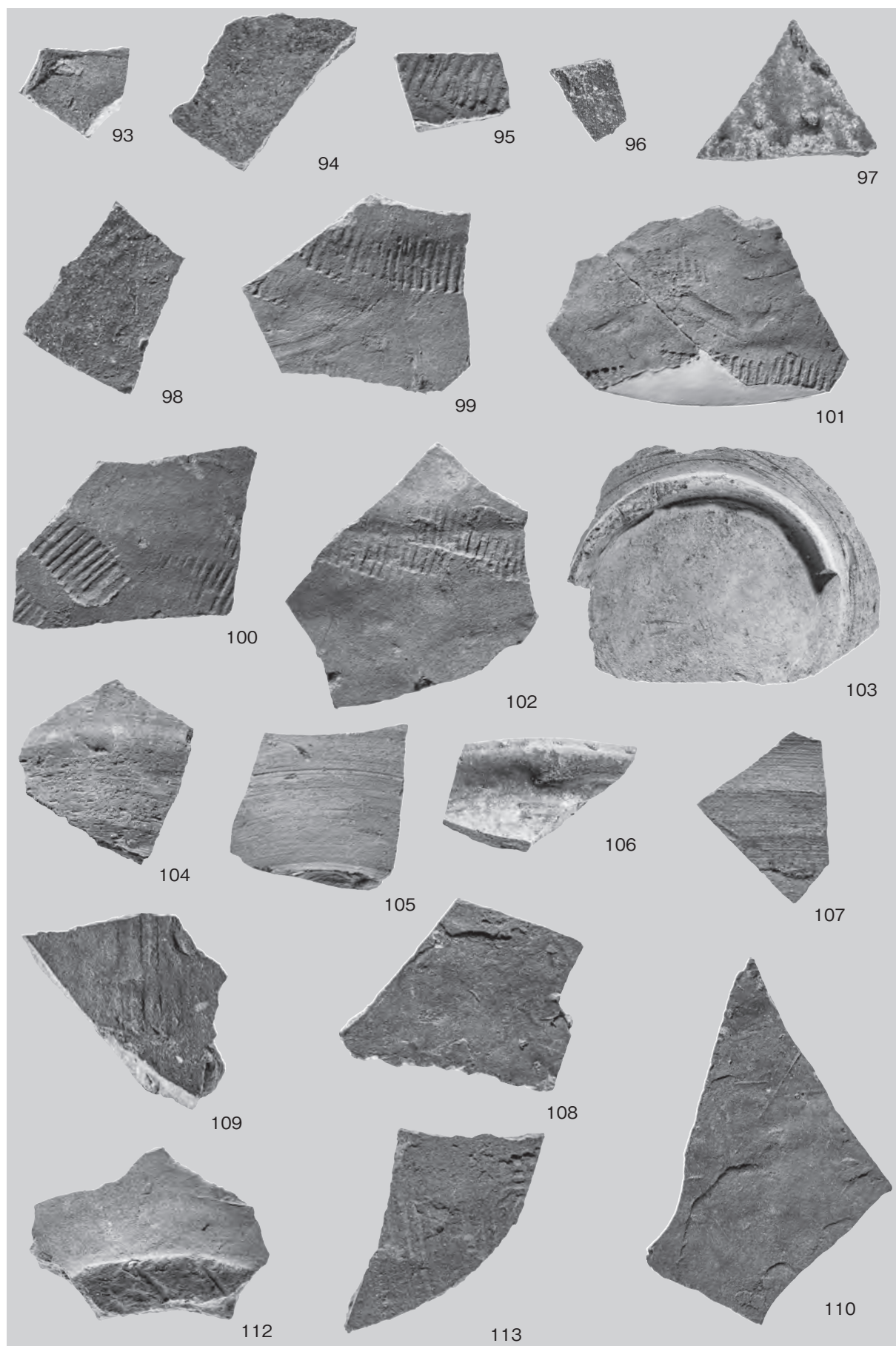
写真図版 39 溝出土遺物 (1)



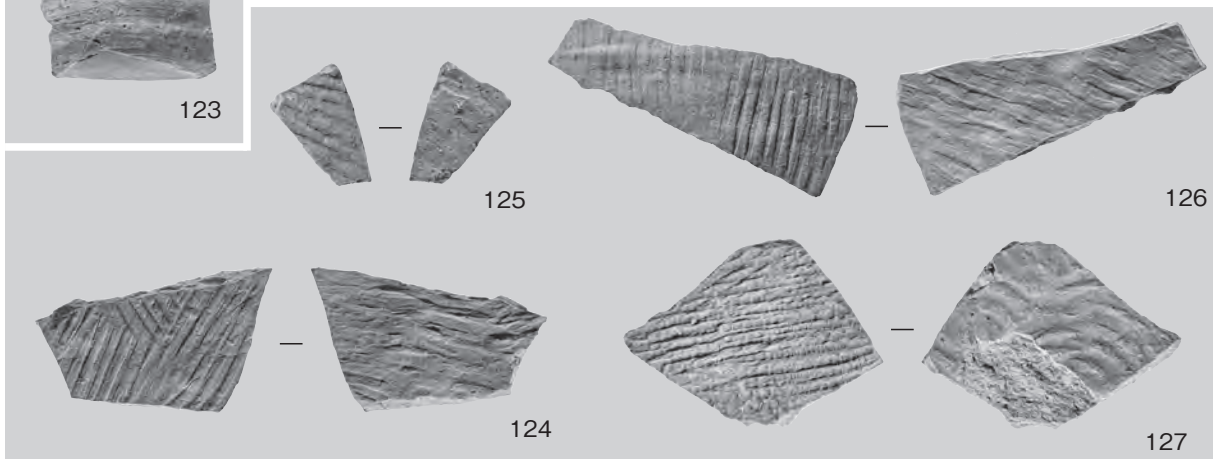
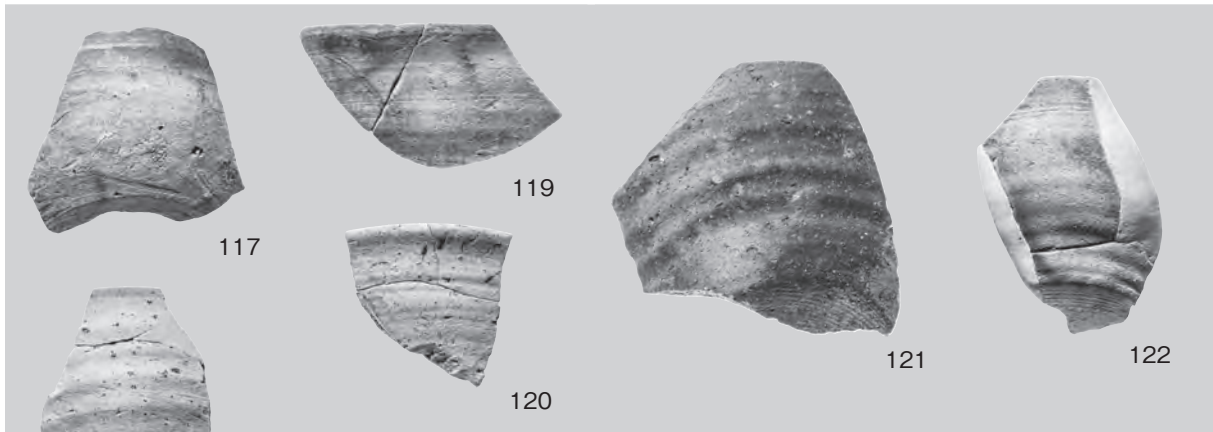
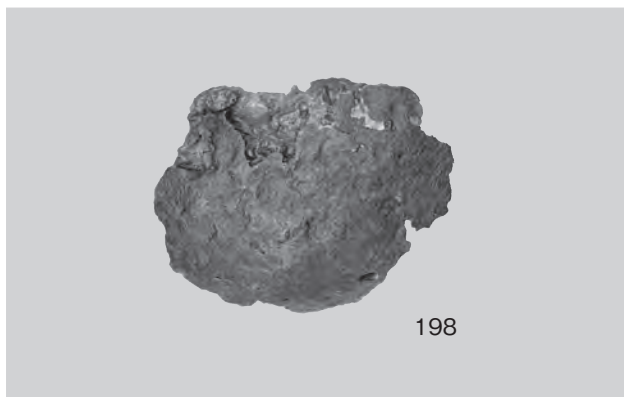
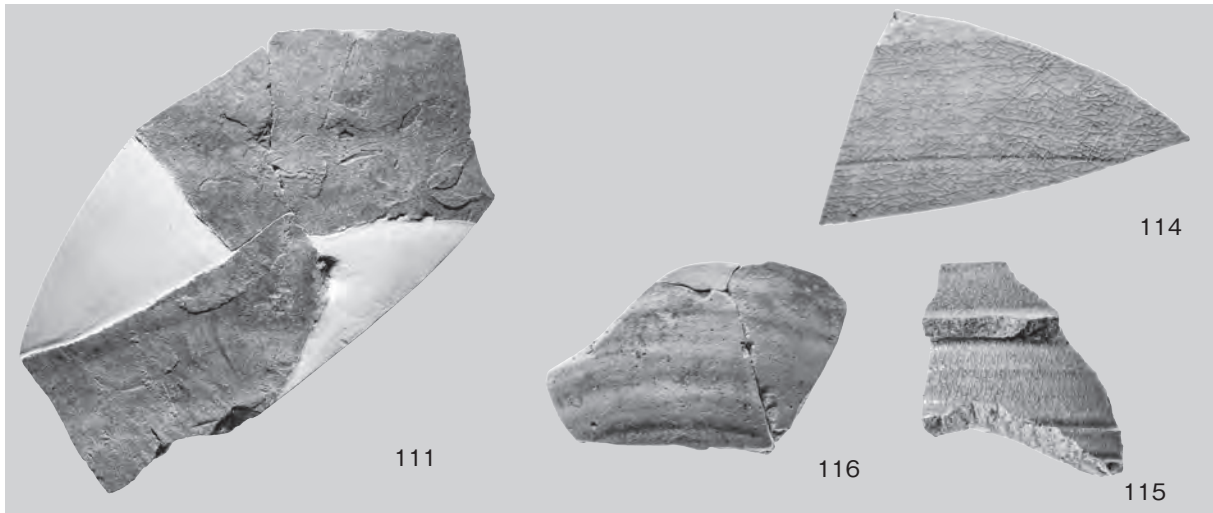
写真図版 40 溝出土遺物 (2)

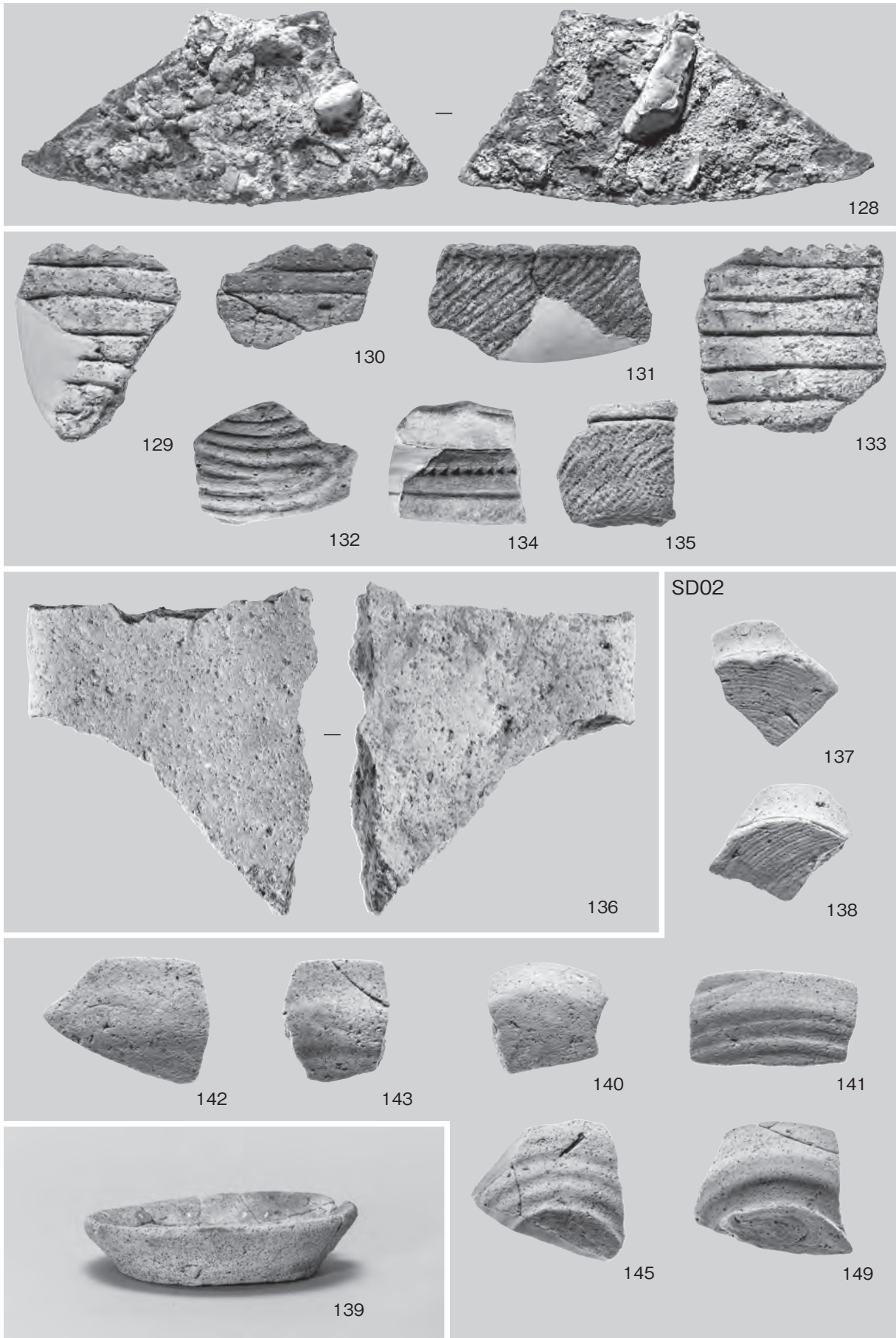


写真図版 41 溝出土遺物 (3)



写真図版 42 溝出土遺物 (4)

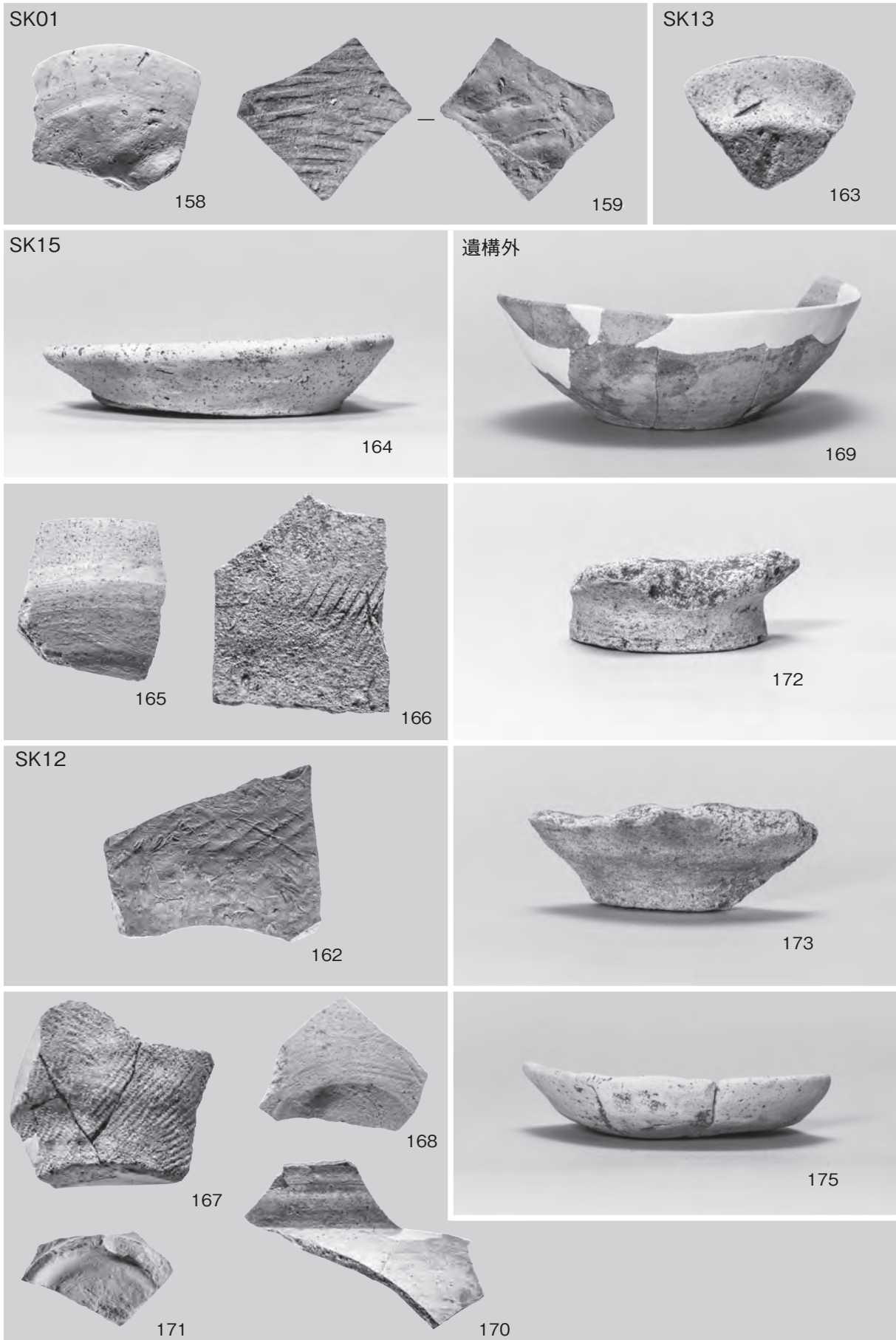




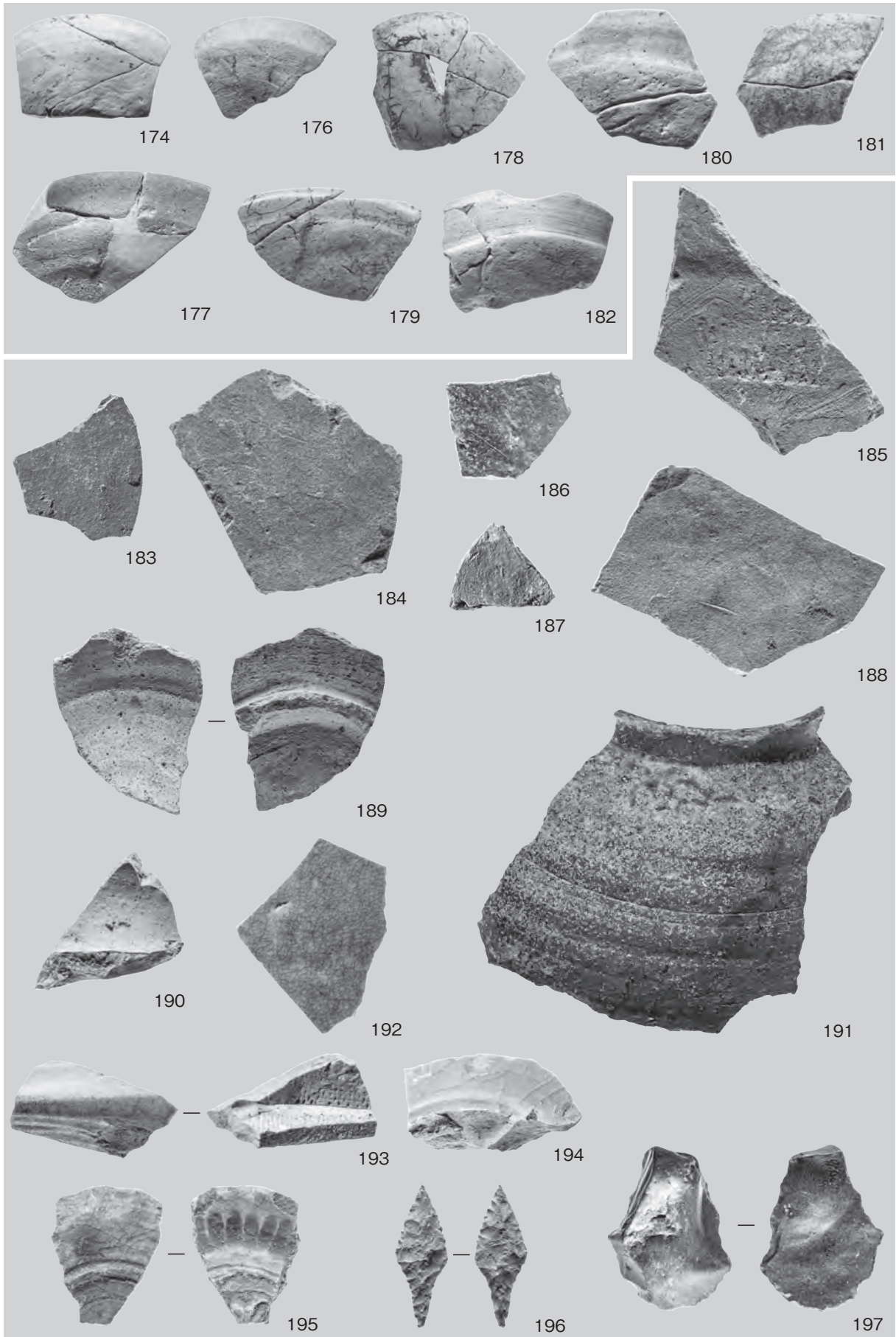
写真図版 44 溝出土遺物 (6)



写真図版 45 溝出土遺物 (7)



写真図版 46 土坑出土遺物、遺構外出土遺物 (1)



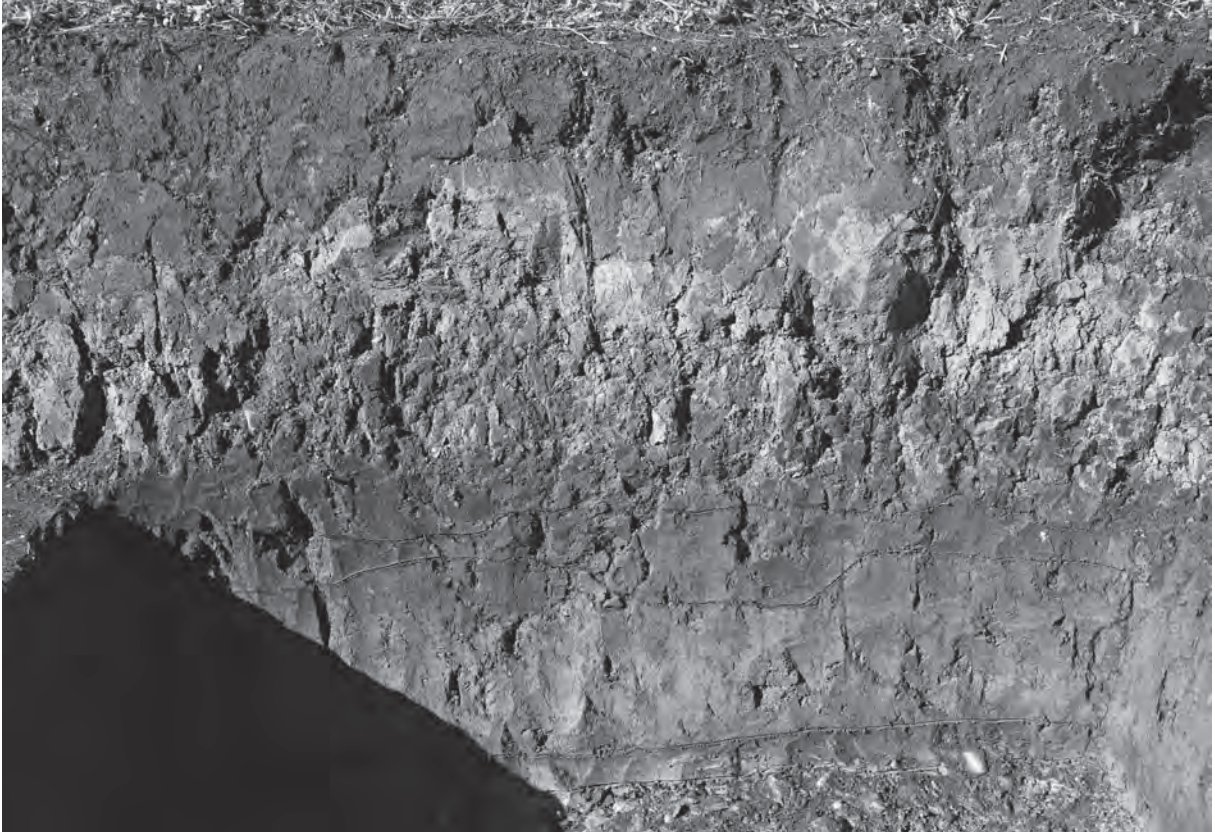
写真図版 47 遺構外出土遺物 (2)



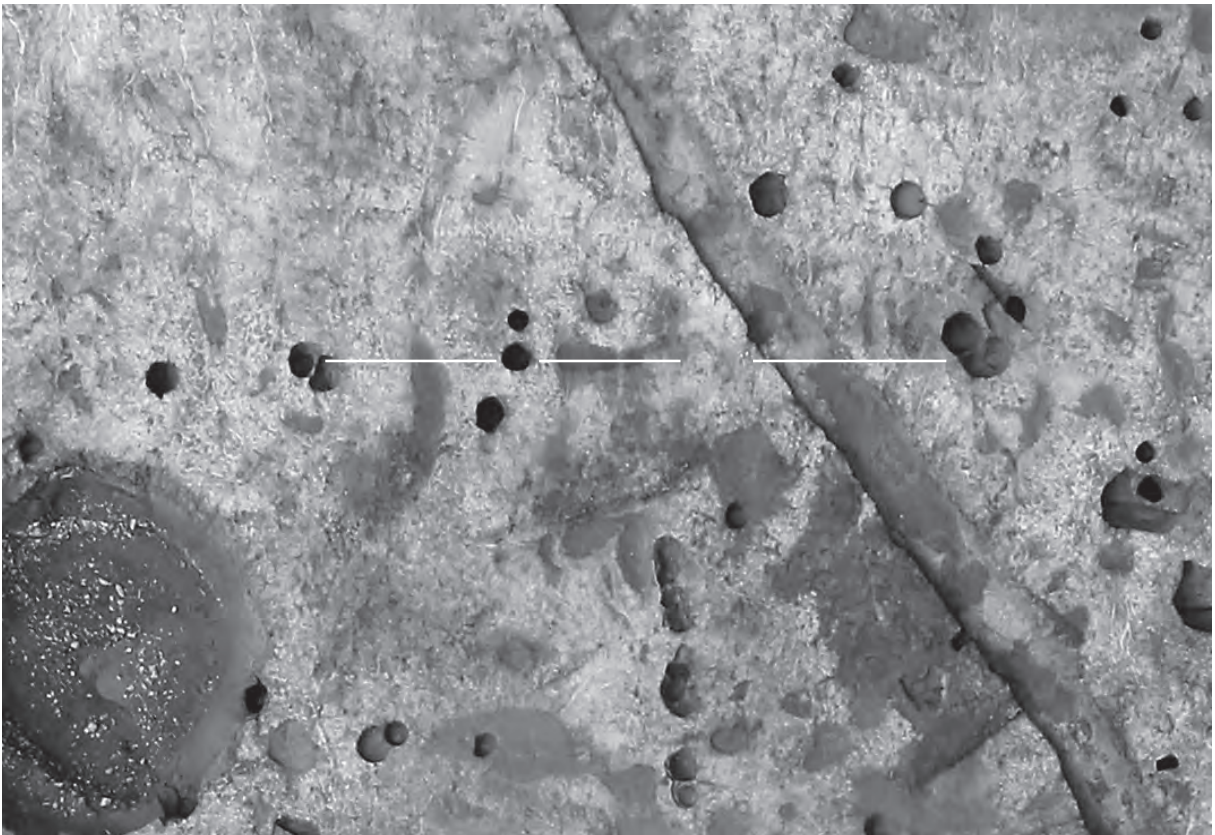
調査区全景（南東から）



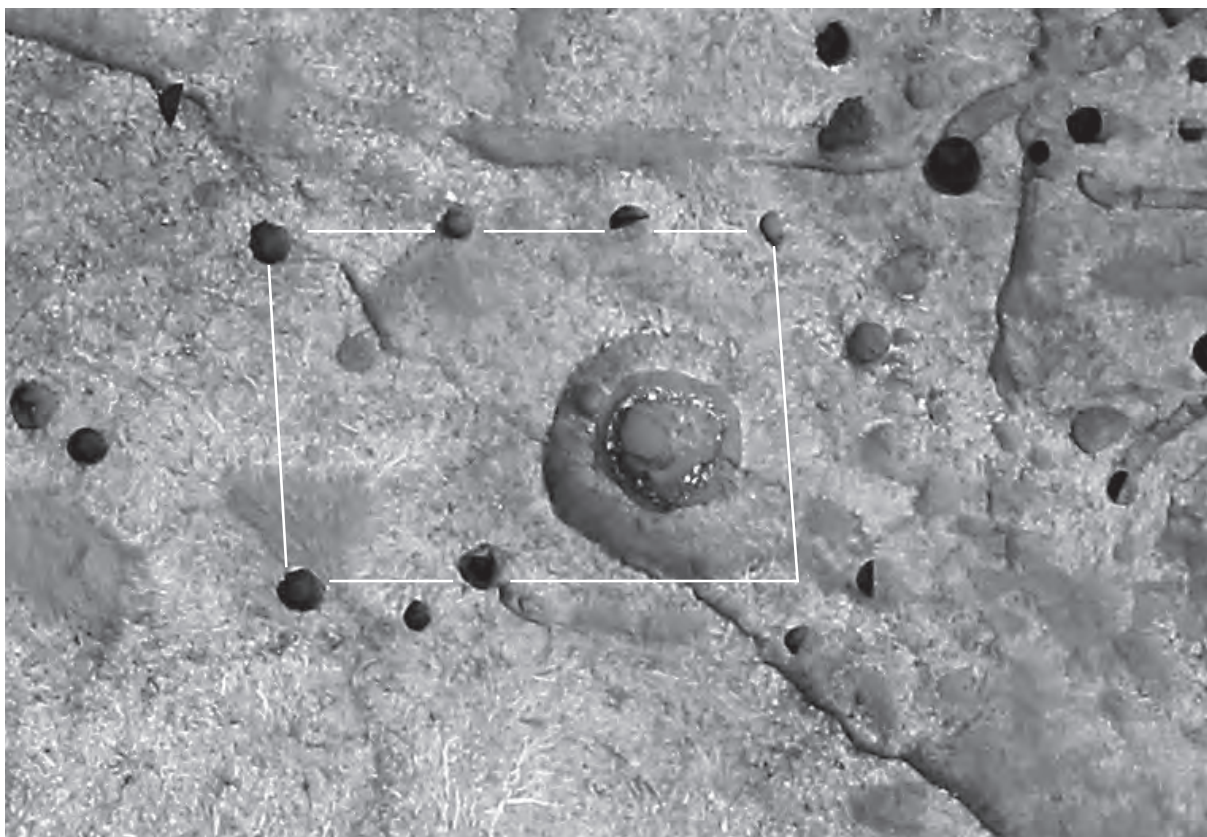
調査区全景（直上、右が北）



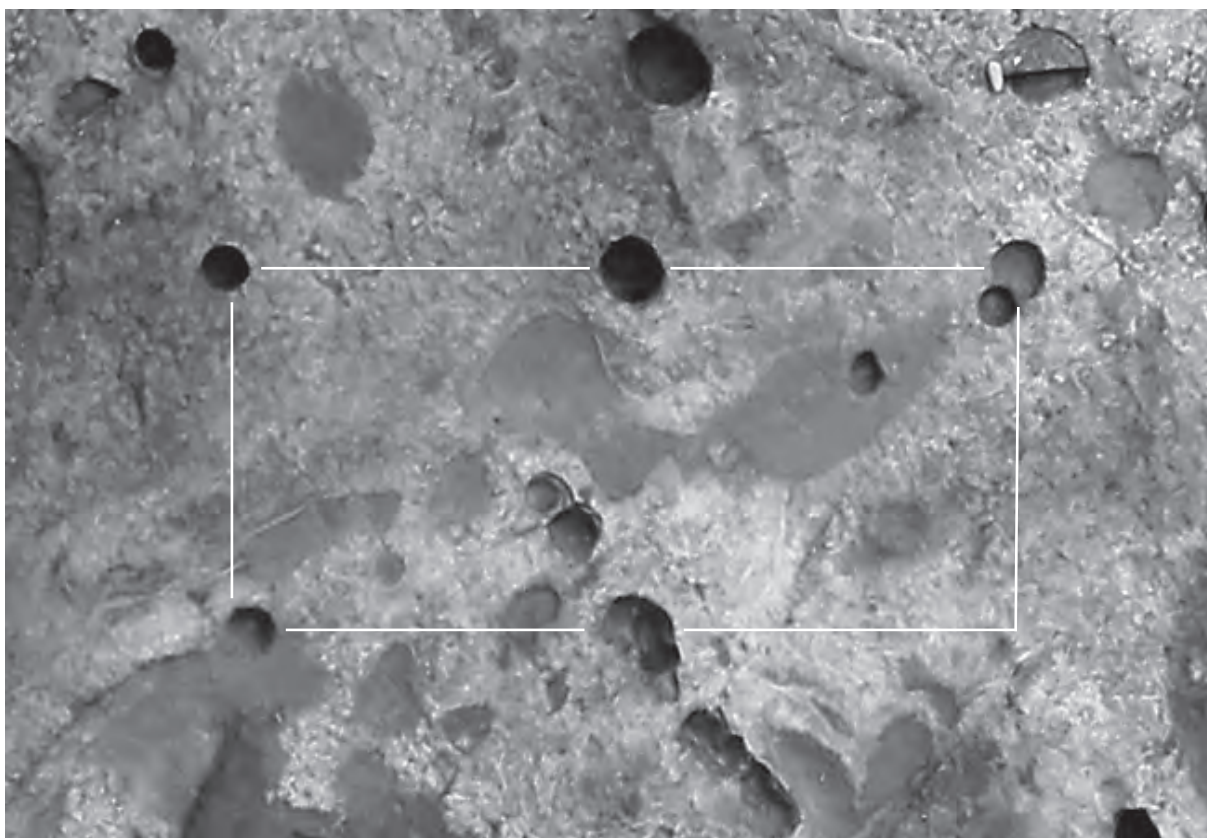
基本層序（東から）



SA01 全景（直上、上が北）



SB01 全景 (直上、上が北)



SB02 全景 (直上、上が南西)



完掘 (南から)



A断面 (南から)



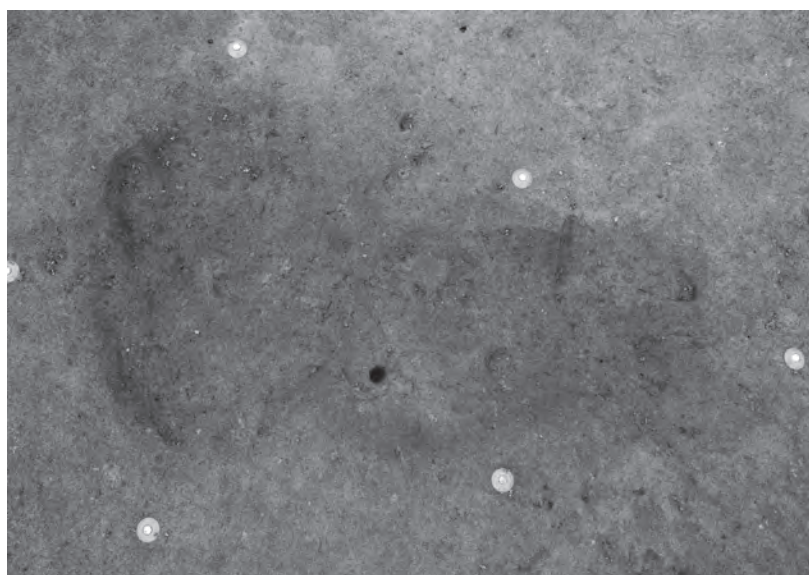
B断面 (東から)



完掘 (南から)



B断面 (西から)



炉全景 (南から)



完掘（北西から）



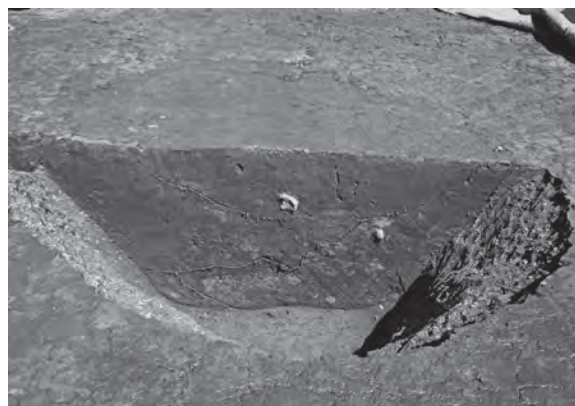
A断面（北西から）



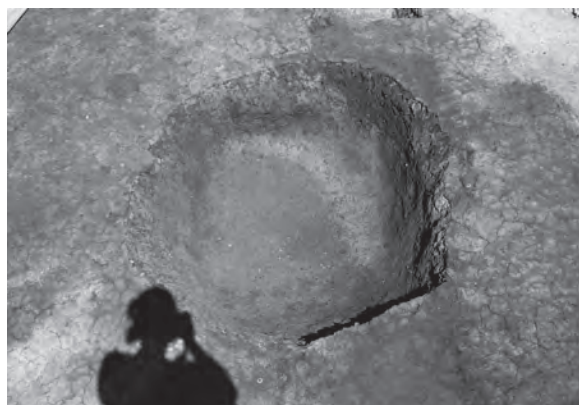
間仕切溝断面（北から）



SK01 完掘 (東から)



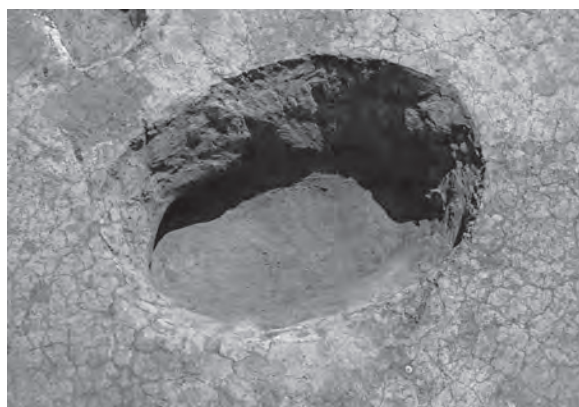
SK01 断面 (西から)



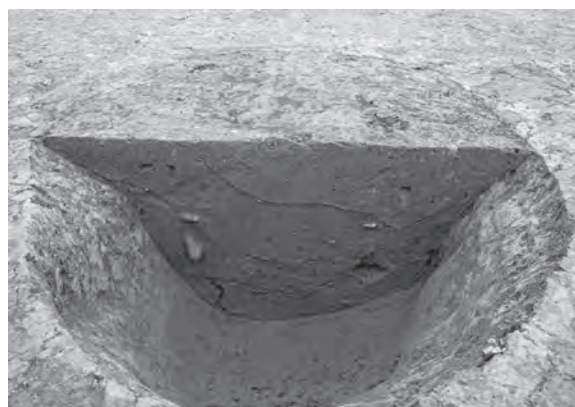
SK02 完掘 (南東から)



SK02 断面 (南東から)



SK03 完掘 (北から)



SK03 断面 (西から)



SK04 完掘 (西から)



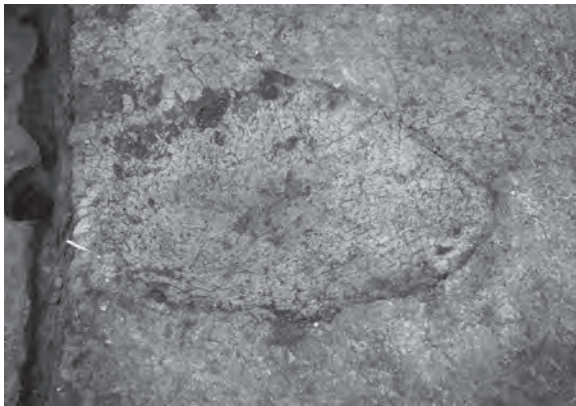
SK04 断面 (西から)



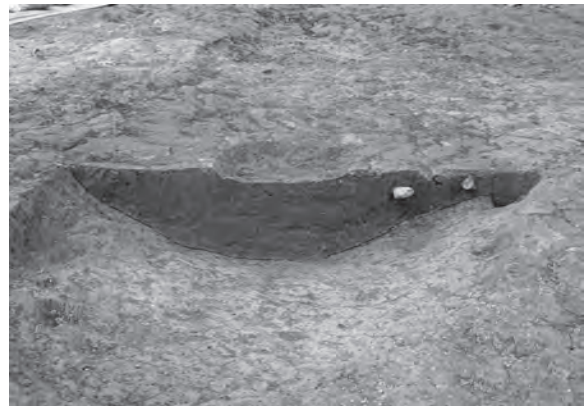
SK05 完掘 (北西から)



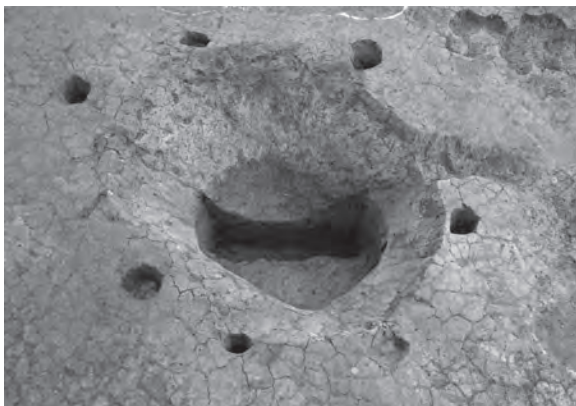
SK05 断面 (北西から)



SK06 完掘 (西から)



SK06 断面 (南から)



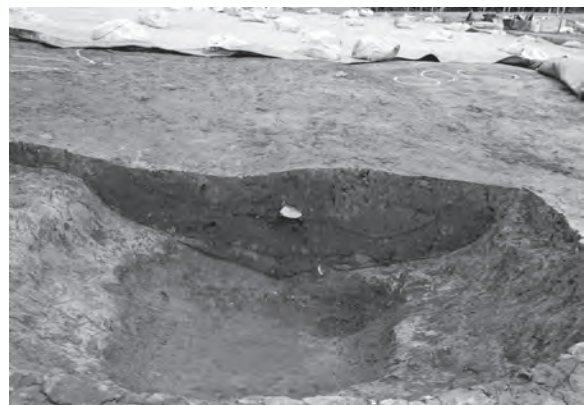
SK07 完掘 (西から)



SK07 断面 (西から)



SK08 完掘 (北西から)



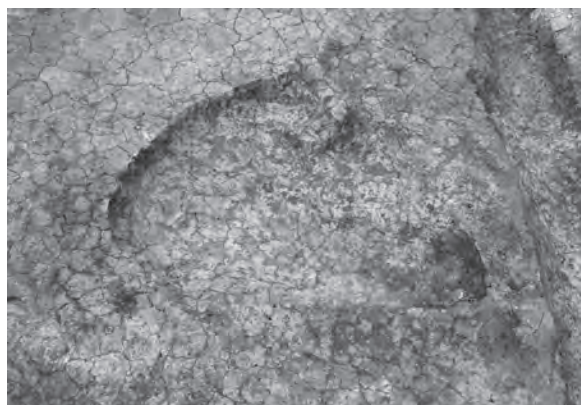
SK08 断面 (西から)



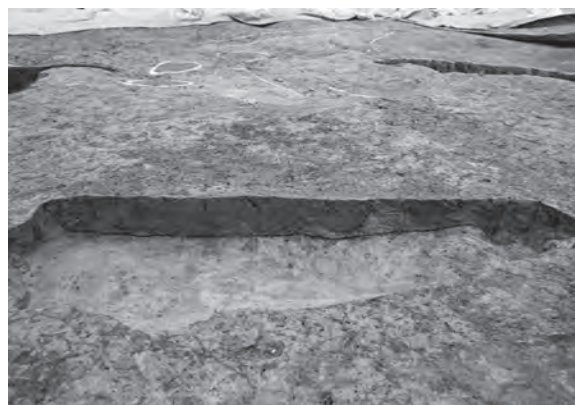
SK09 完掘 (北東から)



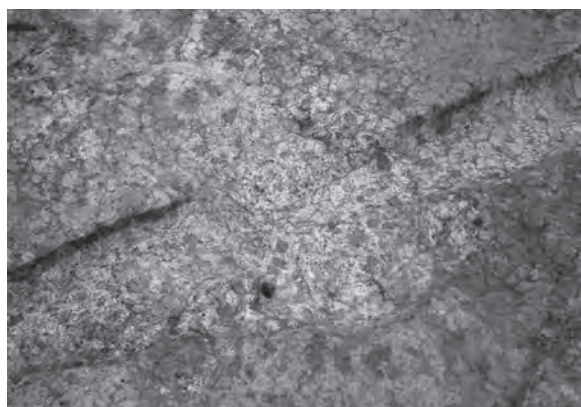
SK09 断面 (南西から)



SK10 完掘 (西から)



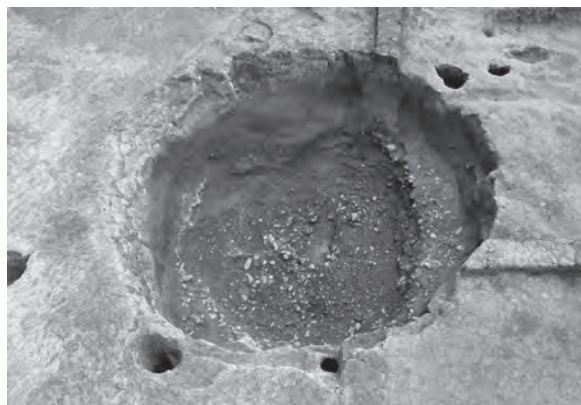
SK10 断面 (西から)



SK11 完掘 (南西から)



SK11 断面 (西から)



SK12 完掘 (北西から)



SK12 断面 (東から)



SK12 A断面 (北東から)



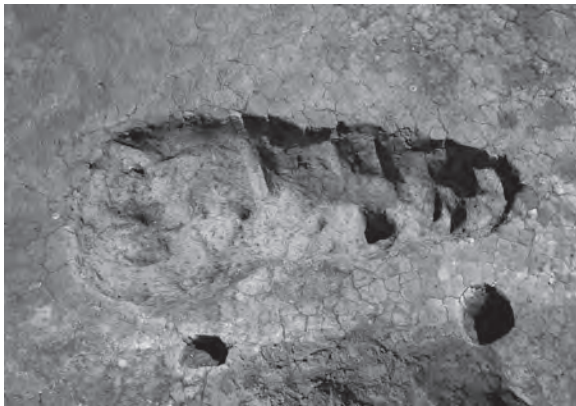
SK12 B断面 (南西から)



SK13完掘 (西から)



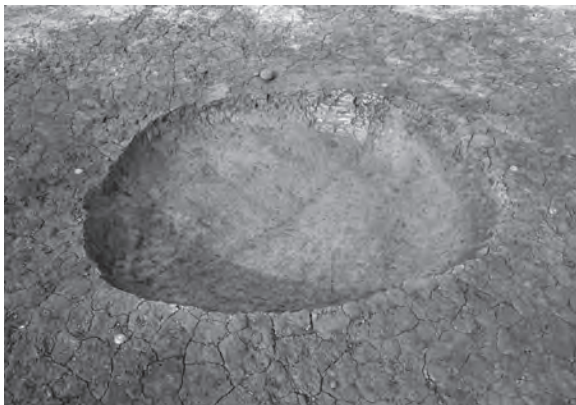
SK13断面 (西から)



SK14完掘 (西から)



SK14断面 (東から)



SK15完掘 (南西から)



SK15断面 (南西から)



SK16 完掘 (東から)



SK16 断面 (南西から)



SK17 完掘 (北西から)



SK17 断面 (南東から)



SD01 完掘 (南東から)



SD01 断面 (南東から)



SD02 完掘 (東から)



SD02 断面 (西から)



SD03 完掘 (南西から)



SD03 断面 (南から)



SD04 完掘 (南西から)



SD04 断面 (南西から)



SD05 完掘 (南西から)



SD05 断面 (南西から)



SD06 完掘 (南東から)



SD06 断面 (北西から)



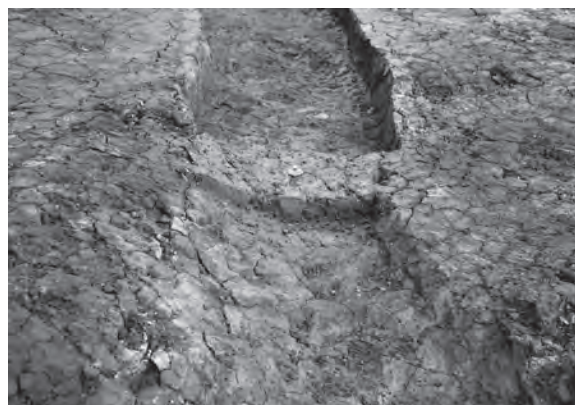
SD07 完掘 (東から)



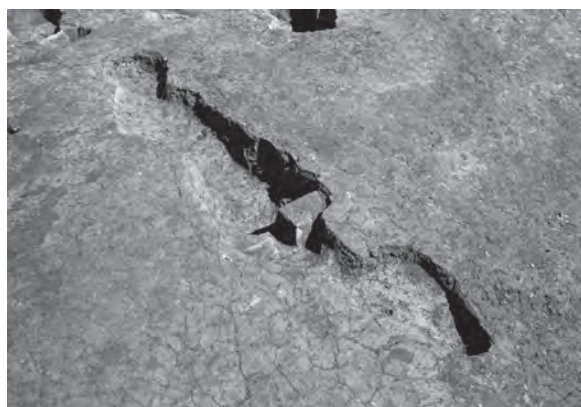
SD07 断面 (西から)



SD08 完掘 (東から)



SD08 断面 (東から)



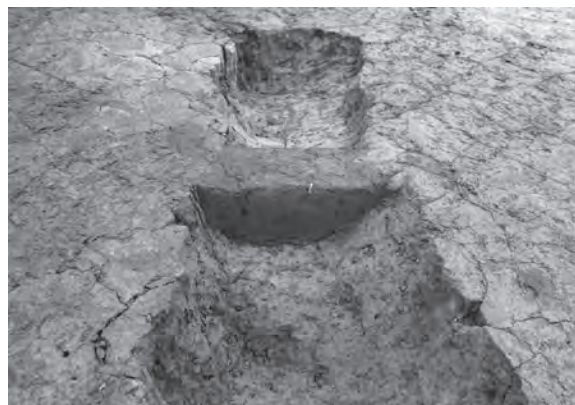
SD09 完掘 (南西から)



SD09 断面 (南から)



SD10 完掘 (南から)



SD10 断面 (北から)



SD11 完掘 (南から)



SD11 断面 (南から)



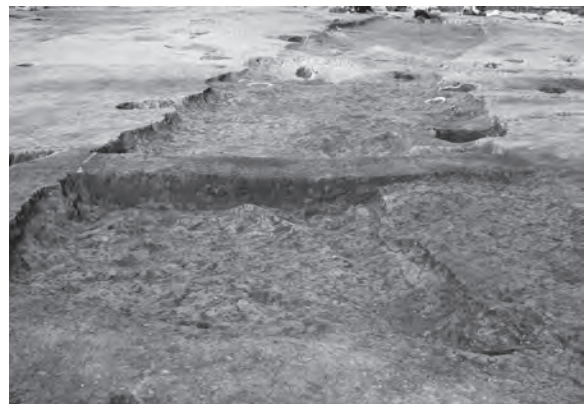
SD12 完掘 (南西から)



SD12 断面 (南西から)



SD13 完掘 (南東から)



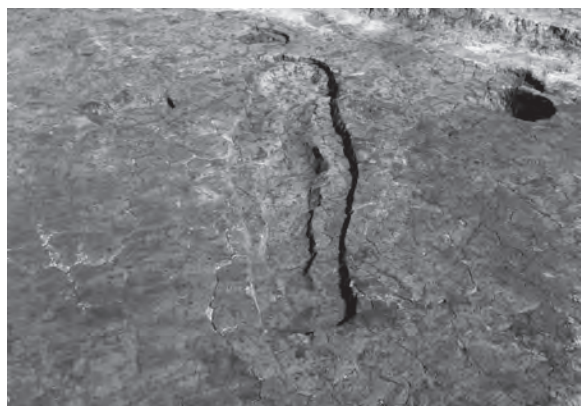
SD13 断面 (南東から)



作業風景



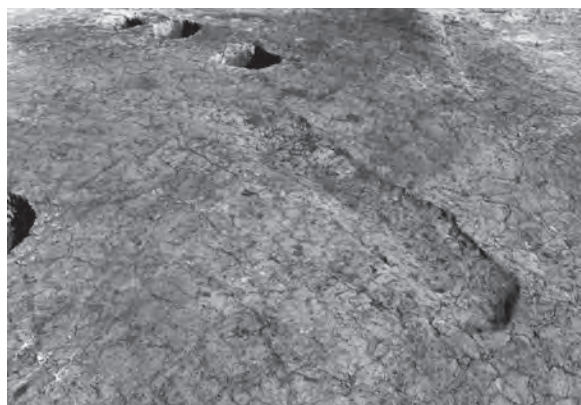
SD14 断面 (北西から)



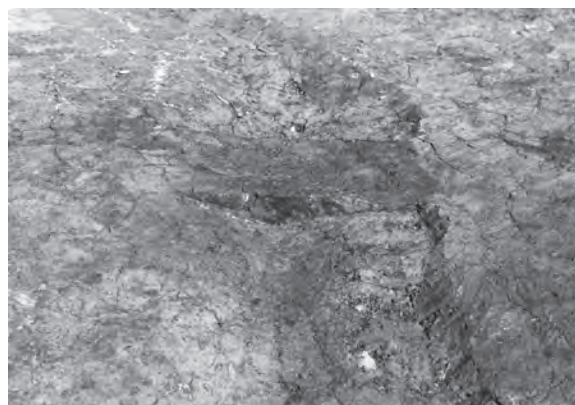
SD15 完掘 (南西から)



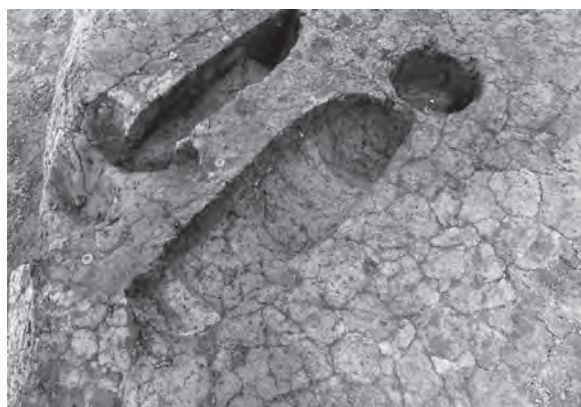
SD15 断面 (北東から)



SD16 完掘 (南西から)



SD16 断面 (北東から)



SD17 完掘 (南東から)



SD17 断面 (南から)



作業風景

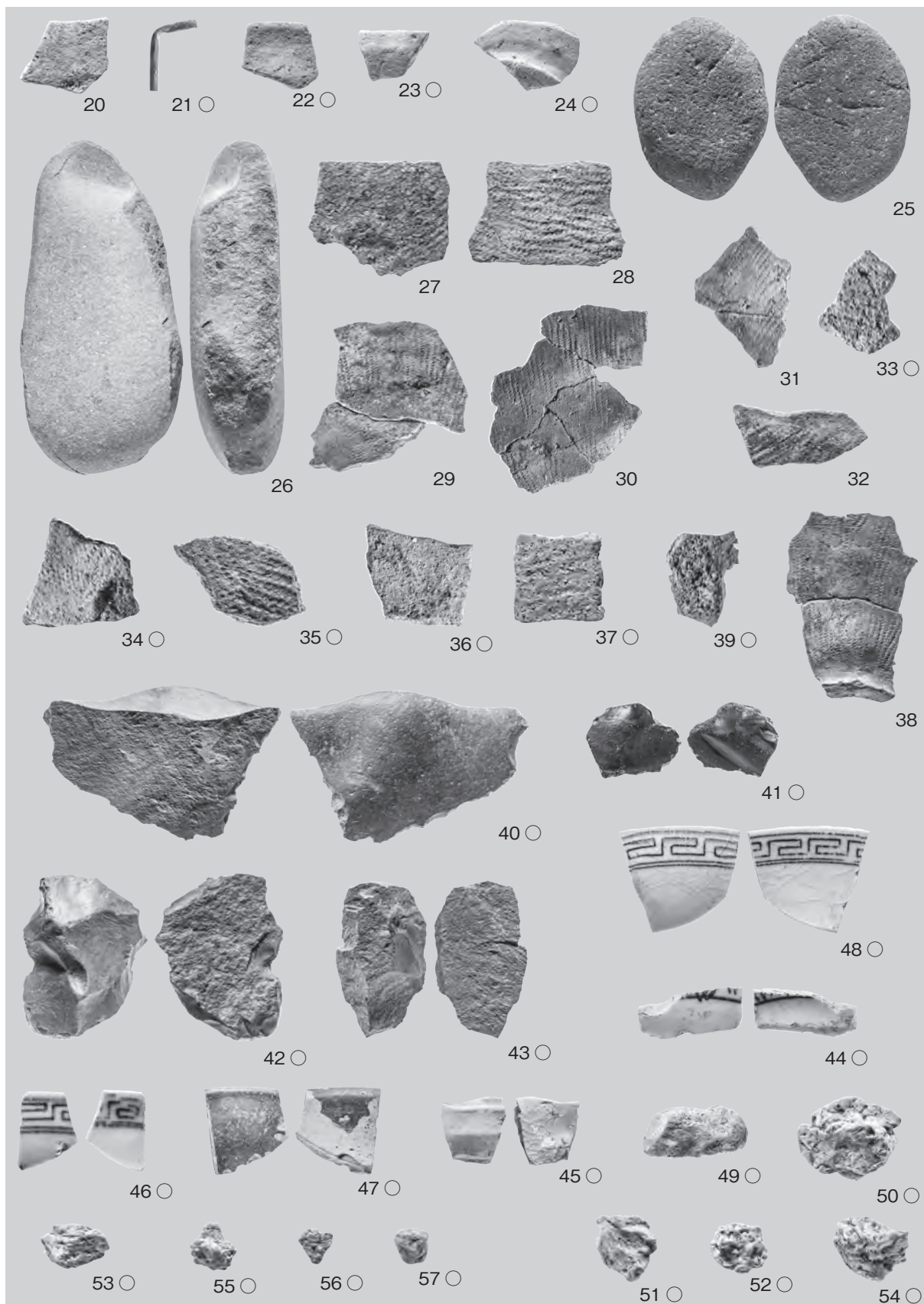


現地説明会



1・2 = SI02、3～5 = SI03、6・7 = SK02、8・9 = SK03、
 10 = SK08、11 = SK11、12 = SK15、13～19 = SK12
 ※縮尺（無印：1/3、●：1/1、○：1/2、◎：1/4）

写真図版 63 出土遺物 (1)



20・21・28～31・34・38・43 = SD01、22～25・27・32・45・55～57 = SD13、26 = P195

33 = SD04、35・40 = SI03、36・41・42 = SK12、37 = P064、39 = 出土地点不明

44 = SK04、46～48 = 遺構外、49 = SI02、50～54 = SK02

※縮尺（無印：1/3、○：1/2）

写真図版 64 出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	みなみひづめだいぎんにいせきだいよんじ・きたひづめじょうないいちいせきだい いちじ・ほうじょうだてあとだいいちじ はっくつちょうさほうこくしょ							
書名	南日詰大銀Ⅱ遺跡第4次・北日詰城内Ⅰ遺跡第1次・北条館跡第1次発掘調査報告書							
副書名	北上川緊急治水対策事業関連遺跡発掘調査							
巻次	1							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第736集							
編著者名	村田 淳・西澤正晴・須原 拓・河村美佳							
編集機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地 TEL (019)638-9001							
発行年月日	2023年3月10日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みなみひづめだいぎんに 南日詰大銀Ⅱ 遺跡	いわてけんしわぐん 岩手県紫波郡 紫波町大字南日詰 小路口地内	03321	LE77-1104	39度 31分 59秒	141度 10分 22秒	2018.04.16 ～ 2018.08.30	1,380㎡	北上川緊急 治水対策事 業
きたひづめじょうないいち 北日詰城内Ⅰ 遺跡	いわてけんしわぐん 岩手県紫波郡 紫波町大字北日詰 城内234番地ほか	03321	LE77-0194	39度 32分 03秒	141度 10分 23秒	2018.04.16 ～ 2018.09.28	1,190㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南日詰大銀Ⅱ遺跡	集落	古代 中世	竪穴建物1軒 掘立柱建物33棟 土坑11基 溝2条 炉6基 柱穴198個	土器(縄文土器・土師器・ 須恵器・かわらけ) 陶磁器(国産陶器・輸入陶 磁器) 石器(砥石等) 金属製品(小札・銭貨等) 土製品・炭化種子		掘立柱建物は12世紀代 と15～16世紀代が主体		
北日詰城内Ⅰ遺跡	集落	古代 中世 近世	竪穴建物3軒 掘立柱建物2棟 柵列1条 土坑17基 柱穴163個	土器(縄文土器・土師器・ かわらけ) 陶磁器(国産陶器・輸入陶 磁器) 石器(礫石器等) 金属製品(永楽通宝) 土製品・炭化種子		土坑のうち1基は井戸の 可能性有		
要約	<p>南日詰大銀Ⅱ遺跡は、過去の調査成果から古代末期(12世紀前半代)の居館と考えられる遺跡であり、今回が第4次の調査となる。遺構は掘立柱建物が主体であり、12世紀代に属するものも多い。また、調査区北端で検出された溝(SD01)は走行方向から西側に隣接する南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡SD34と一連のものであり、居館の外縁に巡らされた区画溝と考えられる。遺物はかわらけをはじめとして12世紀中葉頃のものが多く、特にSD01からは多量のかわらけが出土している。また、掘立柱建物や炉は中世(15～16世紀代)に属するものも検出されている。</p> <p>北日詰城内Ⅰ遺跡は南日詰大銀Ⅱ遺跡と北条館跡の間に位置しており、今回の調査区は北条館跡の南端を区画する堀に隣接する範囲である。遺物が出土する遺構は少ないが、放射性炭素年代測定の結果から15～16世紀代に属するものが主体であると考えられる。なかには工房と推定される竪穴建物も含まれており、北条館の城域外に位置する本遺跡でも鍛冶等の生産活動が行われていたと考えられる。</p>							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 736 集

南日詰大銀Ⅱ遺跡第 4 次
北日詰城内Ⅰ遺跡第 1 次
北条館跡第 1 次発掘調査報告書

北上川緊急治水対策事業関連遺跡発掘調査
(第 1 分冊 南日詰大銀Ⅱ遺跡・北日詰城内Ⅰ遺跡)

印刷 令和 5 年 3 月 1 日

発行 令和 5 年 3 月 10 日

編 集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11 地割185 番地
電話 (019) 638-9001

発 行 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
〒020-0066 岩手県盛岡市上田 4 丁目 2 番 2 号
電話 (019) 624-3131

(公財) 岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号
電話 (019) 654-2235

印 刷 山口北州印刷株式会社
〒020-0184 岩手県盛岡市青山 4 丁目 10 番 5 号
電話 (019) 641-0585

第736集 南日詰大銀Ⅱ遺跡第4次・北日詰城内Ⅰ遺跡第1次・北条館跡第1次
発掘調査報告書 付属CD-ROM収録データ一覧

第1分冊

1. IV-4-1 南日詰大銀Ⅱ遺跡放射性炭素年代測定暦年較正グラフ (PDF)
2. V-4-1 北日詰城内Ⅰ遺跡放射性炭素年代測定暦年較正グラフ (PDF)

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-181867	1	P021	炭化物	AAA	-25.71 ± 0.22	890 ± 20	89.46 ± 0.26
IAAA-181868	5	P069	炭化物	AAA	-25.29 ± 0.22	980 ± 20	88.52 ± 0.25
IAAA-181869	8	P072	炭化物	AAA	-26.47 ± 0.23	950 ± 20	88.89 ± 0.26
IAAA-181870	9	P180	炭化物	AAA	-25.13 ± 0.21	930 ± 20	89.02 ± 0.26
IAAA-181871	11	P328+SK13	炭化物	AAA	-24.82 ± 0.20	960 ± 20	88.77 ± 0.26
IAAA-181872	14	P375	炭化物	AAA	-25.00 ± 0.21	360 ± 20	95.65 ± 0.28
IAAA-181873	16	P389 上層	炭化物	AAA	-26.67 ± 0.21	330 ± 20	96.01 ± 0.28
IAAA-181874	21	P457 下層	炭化物	AAA	-22.04 ± 0.21	350 ± 20	95.70 ± 0.27
IAAA-181875	28	SK02	炭化物	AAA	-25.23 ± 0.20	890 ± 20	89.54 ± 0.26
IAAA-181876	33	SK13 上層	炭化物	AAA	-27.45 ± 0.23	890 ± 20	89.53 ± 0.26
IAAA-181877	35	SK21	炭化物	AAA	-27.20 ± 0.21	320 ± 20	96.12 ± 0.27
IAAA-181878	38	SK23 前庭部	炭化物	AAA	-23.22 ± 0.23	420 ± 20	94.92 ± 0.27
IAAA-181879	41	SD01 A区 上層	炭化物	AAA	-27.69 ± 0.26	930 ± 20	89.11 ± 0.26
IAAA-181880	47	SD01 C区(サブトレイ括) 下層	炭化物	AAA	-25.45 ± 0.21	880 ± 20	89.63 ± 0.26
IAAA-181881	48	SD02 A区 西端	炭化物	AAA	-27.69 ± 0.21	870 ± 20	89.72 ± 0.25
IAAA-181882	50	SX03 前庭部	炭化物	AAA	-26.53 ± 0.23	390 ± 20	95.21 ± 0.27
IAAA-181883	51	SX04 前庭部	炭化物	AAA	-27.26 ± 0.23	320 ± 20	96.06 ± 0.26
IAAA-181884	54	SX05 炉底部	炭化物	AAA	-26.77 ± 0.22	340 ± 20	95.92 ± 0.26
IAAA-181885	56	SX01	炭化物	AAA	-27.31 ± 0.25	360 ± 20	95.66 ± 0.26
IAAA-181886	57	SX02 炉本体 最下層炭層	炭化物	AAA	-29.55 ± 0.24	340 ± 20	95.80 ± 0.26
IAAA-181889	2	P021 上層	炭化物	AAA	-26.05 ± 0.23	930 ± 20	89.05 ± 0.27
IAAA-181890	3	P041	炭化物	AAA	-26.18 ± 0.23	950 ± 20	88.87 ± 0.27
IAAA-181891	4	P41	炭化物	AAA	-24.72 ± 0.24	900 ± 20	89.37 ± 0.27
IAAA-181892	6	P071	炭化物	AAA	-26.26 ± 0.24	930 ± 20	89.08 ± 0.27
IAAA-181893	7	P071	炭化物	AAA	-26.14 ± 0.24	910 ± 20	89.28 ± 0.26
IAAA-181894	10	P181	炭化物	AAA	-26.00 ± 0.23	930 ± 20	89.10 ± 0.27
IAAA-181895	12	P338	炭化物	AAA	-24.78 ± 0.22	940 ± 20	88.91 ± 0.27

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-181896	13	P371	炭化物	AAA	-25.88 ± 0.27	2,470 ± 30	73.57 ± 0.23
IAAA-181897	15	P388	炭化物	AAA	-25.19 ± 0.22	390 ± 20	95.22 ± 0.28
IAAA-181898	17	P389	炭化物	AAA	-25.25 ± 0.22	380 ± 20	95.33 ± 0.29
IAAA-181899	18	P392	炭化物	AAA	-23.67 ± 0.28	1,310 ± 20	84.97 ± 0.26
IAAA-181900	19	P393 上層	炭化物	AAA	-23.65 ± 0.25	400 ± 20	95.13 ± 0.29
IAAA-181901	20	P399	炭化物	AAA	-24.87 ± 0.21	350 ± 20	95.73 ± 0.28
IAAA-181902	22	P483	炭化物	AAA	-23.96 ± 0.24	350 ± 20	95.76 ± 0.29
IAAA-181903	23	P463 下層	炭化物	AAA	-24.64 ± 0.24	370 ± 20	95.54 ± 0.29
IAAA-181904	24	P507	炭化物	AAA	-24.16 ± 0.22	430 ± 20	94.74 ± 0.29
IAAA-181905	25	SK01 上層	炭化物	AAA	-23.46 ± 0.23	1,020 ± 20	88.12 ± 0.27
IAAA-181906	26	SK01 2層	炭化物	AAA	-24.78 ± 0.23	930 ± 20	89.10 ± 0.27
IAAA-181907	27	SK01 下層	炭化物	AAA	-25.05 ± 0.23	920 ± 20	89.19 ± 0.27
IAAA-181908	29	SK04	炭化物	AAA	-25.21 ± 0.25	930 ± 20	89.10 ± 0.27
IAAA-181909	30	SK05	炭化物	AAA	-23.53 ± 0.26	980 ± 20	88.53 ± 0.27
IAAA-181910	31	SK09	炭化物	AAA	-24.88 ± 0.23	990 ± 20	88.43 ± 0.27
IAAA-181911	32	SK12 2層	炭化物	AAA	-23.58 ± 0.23	920 ± 20	89.14 ± 0.28
IAAA-181912	34	SK17	炭化物	AAA	-25.08 ± 0.24	970 ± 20	88.67 ± 0.27
IAAA-181913	36	SK21	炭化物	AAA	-23.79 ± 0.23	370 ± 20	95.47 ± 0.29
IAAA-181914	37	SK21 3層	炭化物	AAA	-24.92 ± 0.24	970 ± 20	88.65 ± 0.27
IAAA-181915	39	SK24 上層	炭化物	AAA	-23.51 ± 0.23	2,560 ± 30	72.68 ± 0.24
IAAA-181916	40	SK25	炭化物	AAA	-27.25 ± 0.25	210 ± 20	97.42 ± 0.29
IAAA-181917	42	SD01 A区 最下層(礫層)	炭化物	AAA	-25.41 ± 0.24	880 ± 20	89.57 ± 0.28
IAAA-181918	43	SD01 B区 上層	炭化物	AAA	-26.23 ± 0.25	990 ± 20	88.46 ± 0.27
IAAA-181919	44	SD01 C区 上層	炭化物	AaA	-24.02 ± 0.23	880 ± 20	89.61 ± 0.28
IAAA-181920	45	SD01 C区 上層	炭化物	AAA	-23.82 ± 0.23	920 ± 20	89.20 ± 0.27
IAAA-181921	46	SD01 C区 上層	炭化物	AAA	-23.50 ± 0.24	980 ± 20	88.46 ± 0.27
IAAA-181922	49	SD02 A区 上層	炭化物	AAA	-25.85 ± 0.23	920 ± 20	89.19 ± 0.28
IAAA-181923	53	SX04 前庭部	炭化物	AAA	-25.73 ± 0.22	390 ± 20	95.31 ± 0.28

[IAA 登録番号 : #9385, 9387]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181867	910 ± 20	89.33 ± 0.25	894 ± 23	1050calAD - 1083calAD (30.7%) 1125calAD - 1136calAD (6.9%) 1151calAD - 1187calAD (30.7%)	1043calAD - 1103calAD (39.4%) 1118calAD - 1213calAD (56.0%)
IAAA-181868	980 ± 20	88.46 ± 0.24	979 ± 22	1019calAD - 1044calAD (44.8%) 1100calAD - 1119calAD (20.9%) 1143calAD - 1146calAD (2.5%)	1015calAD - 1053calAD (50.3%) 1080calAD - 1153calAD (45.1%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181869	970 \pm 20	88.62 \pm 0.26	946 \pm 23	1032calAD - 1050calAD (15.7%) 1083calAD - 1126calAD (39.3%) 1136calAD - 1151calAD (13.3%)	1027calAD - 1155calAD (95.4%)
IAAA-181870	940 \pm 20	88.99 \pm 0.26	934 \pm 23	1040calAD - 1053calAD (10.7%) 1079calAD - 1110calAD (26.3%) 1115calAD - 1152calAD (31.1%)	1033calAD - 1157calAD (95.4%)
IAAA-181871	950 \pm 20	88.80 \pm 0.25	957 \pm 23	1027calAD - 1048calAD (22.1%) 1087calAD - 1123calAD (36.0%) 1138calAD - 1149calAD (10.1%)	1022calAD - 1059calAD (29.5%) 1065calAD - 1155calAD (65.9%)
IAAA-181872	360 \pm 20	95.65 \pm 0.27	357 \pm 23	1470calAD - 1522calAD (39.0%) 1576calAD - 1584calAD (4.5%) 1591calAD - 1623calAD (24.7%)	1455calAD - 1527calAD (48.2%) 1555calAD - 1633calAD (47.2%)
IAAA-181873	360 \pm 20	95.67 \pm 0.27	327 \pm 23	1514calAD - 1530calAD (11.1%) 1540calAD - 1600calAD (44.0%) 1617calAD - 1635calAD (13.1%)	1486calAD - 1643calAD (95.4%)
IAAA-181874	310 \pm 20	96.27 \pm 0.27	353 \pm 22	1478calAD - 1522calAD (33.4%) 1575calAD - 1625calAD (34.8%)	1457calAD - 1529calAD (45.2%) 1551calAD - 1634calAD (50.2%)
IAAA-181875	890 \pm 20	89.49 \pm 0.26	887 \pm 23	1053calAD - 1079calAD (21.0%) 1152calAD - 1206calAD (47.2%)	1045calAD - 1095calAD (30.3%) 1119calAD - 1217calAD (65.1%)
IAAA-181876	930 \pm 20	89.08 \pm 0.26	888 \pm 23	1052calAD - 1080calAD (23.1%) 1152calAD - 1206calAD (45.1%)	1045calAD - 1095calAD (31.5%) 1119calAD - 1216calAD (63.9%)
IAAA-181877	350 \pm 20	95.68 \pm 0.27	318 \pm 22	1521calAD - 1591calAD (54.3%) 1620calAD - 1638calAD (13.9%)	1491calAD - 1603calAD (75.1%) 1613calAD - 1644calAD (20.3%)
IAAA-181878	390 \pm 20	95.27 \pm 0.26	418 \pm 22	1441calAD - 1469calAD (68.2%)	1434calAD - 1491calAD (93.0%) 1602calAD - 1610calAD (2.4%)
IAAA-181879	970 \pm 20	88.61 \pm 0.25	926 \pm 23	1044calAD - 1100calAD (42.7%) 1119calAD - 1154calAD (25.5%)	1034calAD - 1160calAD (95.4%)
IAAA-181880	890 \pm 20	89.55 \pm 0.25	879 \pm 22	1155calAD - 1211calAD (68.2%)	1047calAD - 1088calAD (19.3%) 1122calAD - 1139calAD (4.3%) 1148calAD - 1219calAD (71.8%)
IAAA-181881	920 \pm 20	89.22 \pm 0.25	871 \pm 22	1160calAD - 1209calAD (68.2%)	1050calAD - 1083calAD (10.9%) 1126calAD - 1136calAD (1.6%) 1151calAD - 1222calAD (82.9%)
IAAA-181882	420 \pm 20	94.90 \pm 0.26	394 \pm 22	1449calAD - 1486calAD (68.2%)	1442calAD - 1517calAD (81.5%) 1596calAD - 1619calAD (13.9%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181883	360 \pm 20	95.61 \pm 0.25	322 \pm 21	1520calAD - 1530calAD (8.7%) 1538calAD - 1593calAD (46.1%) 1619calAD - 1635calAD (13.4%)	1490calAD - 1603calAD (75.6%) 1612calAD - 1643calAD (19.8%)
IAAA-181884	360 \pm 20	95.57 \pm 0.26	335 \pm 21	1495calAD - 1526calAD (20.8%) 1556calAD - 1602calAD (34.8%) 1616calAD - 1632calAD (12.6%)	1481calAD - 1639calAD (95.4%)
IAAA-181885	400 \pm 20	95.20 \pm 0.25	356 \pm 21	1472calAD - 1521calAD (39.3%) 1577calAD - 1583calAD (3.5%) 1591calAD - 1622calAD (25.4%)	1456calAD - 1527calAD (47.9%) 1555calAD - 1634calAD (47.5%)
IAAA-181886	420 \pm 20	94.90 \pm 0.25	344 \pm 21	1490calAD - 1523calAD (27.2%) 1572calAD - 1603calAD (25.2%) 1610calAD - 1630calAD (15.9%)	1468calAD - 1530calAD (37.0%) 1539calAD - 1635calAD (58.4%)
IAAA-181889	950 \pm 20	88.86 \pm 0.27	931 \pm 24	1040calAD - 1057calAD (12.6%) 1076calAD - 1110calAD (26.0%) 1116calAD - 1154calAD (29.5%)	1032calAD - 1159calAD (95.4%)
IAAA-181890	970 \pm 20	88.65 \pm 0.26	948 \pm 24	1031calAD - 1050calAD (16.8%) 1083calAD - 1126calAD (38.5%) 1136calAD - 1151calAD (12.9%)	1026calAD - 1155calAD (95.4%)
IAAA-181891	900 \pm 20	89.42 \pm 0.26	902 \pm 24	1046calAD - 1093calAD (38.5%) 1121calAD - 1140calAD (13.1%) 1147calAD - 1169calAD (16.6%)	1040calAD - 1110calAD (47.5%) 1115calAD - 1207calAD (47.9%)
IAAA-181892	950 \pm 20	88.85 \pm 0.26	929 \pm 24	1042calAD - 1058calAD (12.7%) 1075calAD - 1107calAD (25.5%) 1117calAD - 1154calAD (30.1%)	1032calAD - 1160calAD (95.4%)
IAAA-181893	930 \pm 20	89.08 \pm 0.26	910 \pm 23	1046calAD - 1093calAD (40.9%) 1121calAD - 1140calAD (15.2%) 1147calAD - 1162calAD (12.1%)	1036calAD - 1185calAD (95.4%)
IAAA-181894	940 \pm 20	88.92 \pm 0.27	927 \pm 24	1044calAD - 1103calAD (41.4%) 1119calAD - 1154calAD (26.8%)	1033calAD - 1160calAD (95.4%)
IAAA-181895	940 \pm 20	88.95 \pm 0.27	944 \pm 24	1034calAD - 1050calAD (14.8%) 1083calAD - 1126calAD (39.9%) 1136calAD - 1151calAD (13.5%)	1028calAD - 1155calAD (95.4%)
IAAA-181896	2,480 \pm 20	73.44 \pm 0.23	2,465 \pm 25	750calBC - 683calBC (28.7%) 668calBC - 637calBC (12.9%) 622calBC - 616calBC (1.9%) 591calBC - 517calBC (24.7%)	764calBC - 477calBC (92.7%) 464calBC - 454calBC (1.0%) 445calBC - 431calBC (1.7%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181897	400 ± 20	95.18 ± 0.28	393 ± 23	1448calAD - 1489calAD (62.4%) 1603calAD - 1609calAD (5.8%)	1441calAD - 1521calAD (79.7%) 1592calAD - 1620calAD (15.7%)
IAAA-181898	390 ± 20	95.28 ± 0.28	384 ± 24	1450calAD - 1495calAD (54.4%) 1602calAD - 1616calAD (13.8%)	1445calAD - 1522calAD (71.3%) 1575calAD - 1624calAD (24.1%)
IAAA-181899	1,290 ± 20	85.21 ± 0.26	1,308 ± 24	664calAD - 695calAD (43.8%) 703calAD - 708calAD (4.2%) 746calAD - 764calAD (20.2%)	659calAD - 722calAD (68.4%) 741calAD - 768calAD (27.0%)
IAAA-181900	380 ± 20	95.40 ± 0.28	400 ± 24	1447calAD - 1485calAD (68.2%)	1440calAD - 1516calAD (83.2%) 1596calAD - 1619calAD (12.2%)
IAAA-181901	350 ± 20	95.76 ± 0.28	350 ± 23	1485calAD - 1522calAD (29.6%) 1574calAD - 1627calAD (38.6%)	1460calAD - 1530calAD (41.9%) 1541calAD - 1635calAD (53.5%)
IAAA-181902	330 ± 20	95.96 ± 0.28	348 ± 24	1485calAD - 1523calAD (28.0%) 1572calAD - 1630calAD (40.2%)	1462calAD - 1530calAD (40.0%) 1539calAD - 1635calAD (55.4%)
IAAA-181903	360 ± 20	95.61 ± 0.29	366 ± 24	1462calAD - 1518calAD (46.9%) 1594calAD - 1619calAD (21.3%)	1451calAD - 1525calAD (54.9%) 1557calAD - 1633calAD (40.5%)
IAAA-181904	420 ± 20	94.91 ± 0.29	433 ± 24	1436calAD - 1461calAD (68.2%)	1426calAD - 1486calAD (95.4%)
IAAA-181905	990 ± 20	88.40 ± 0.27	1,015 ± 24	995calAD - 1026calAD (68.2%)	980calAD - 1041calAD (94.5%) 1110calAD - 1116calAD (0.9%)
IAAA-181906	920 ± 20	89.14 ± 0.27	927 ± 24	1044calAD - 1103calAD (41.4%) 1119calAD - 1154calAD (26.8%)	1033calAD - 1160calAD (95.4%)
IAAA-181907	920 ± 20	89.19 ± 0.26	918 ± 24	1045calAD - 1095calAD (41.7%) 1120calAD - 1142calAD (17.5%) 1147calAD - 1158calAD (9.0%)	1031calAD - 1168calAD (95.4%)
IAAA-181908	930 ± 20	89.06 ± 0.26	927 ± 24	1044calAD - 1103calAD (41.4%) 1119calAD - 1154calAD (26.8%)	1033calAD - 1160calAD (95.4%)
IAAA-181909	950 ± 20	88.80 ± 0.27	978 ± 24	1019calAD - 1045calAD (39.7%) 1095calAD - 1120calAD (24.5%) 1142calAD - 1147calAD (4.0%)	999calAD - 1003calAD (0.5%) 1012calAD - 1055calAD (46.4%) 1077calAD - 1154calAD (48.5%)
IAAA-181910	990 ± 20	88.46 ± 0.26	987 ± 24	1016calAD - 1045calAD (48.3%) 1098calAD - 1120calAD (17.8%) 1143calAD - 1146calAD (2.2%)	993calAD - 1050calAD (60.8%) 1083calAD - 1127calAD (27.4%) 1136calAD - 1152calAD (7.2%)
IAAA-181911	900 ± 20	89.40 ± 0.27	923 ± 24	1045calAD - 1095calAD (42.2%) 1120calAD - 1142calAD (18.6%) 1147calAD - 1156calAD (7.4%)	1033calAD - 1163calAD (95.4%)

測定番号	δ ¹³ C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181912	970 ± 20	88.65 ± 0.26	966 ± 24	1024calAD - 1046calAD (29.8%) 1093calAD - 1121calAD (31.8%) 1141calAD - 1147calAD (6.6%)	1018calAD - 1059calAD (35.9%) 1075calAD - 1155calAD (59.5%)
IAAA-181913	350 ± 20	95.71 ± 0.28	372 ± 23	1457calAD - 1514calAD (51.7%) 1600calAD - 1617calAD (16.5%)	1449calAD - 1523calAD (62.2%) 1572calAD - 1630calAD (33.2%)
IAAA-181914	970 ± 20	88.66 ± 0.27	968 ± 24	1023calAD - 1046calAD (31.2%) 1093calAD - 1121calAD (30.7%) 1141calAD - 1147calAD (6.3%)	1017calAD - 1058calAD (37.4%) 1076calAD - 1155calAD (58.0%)
IAAA-181915	2,540 ± 30	72.90 ± 0.23	2,563 ± 26	799calBC - 767calBC (68.2%)	805calBC - 749calBC (79.7%) 684calBC - 667calBC (5.2%) 639calBC - 589calBC (9.5%) 578calBC - 569calBC (1.0%)
IAAA-181916	250 ± 20	96.97 ± 0.28	210 ± 23	1654calAD - 1673calAD (22.6%)* 1778calAD - 1799calAD (31.4%)* 1942calAD - ... (14.2%)*	1648calAD - 1683calAD (30.7%)* 1737calAD - 1756calAD (5.2%)* 1761calAD - 1804calAD (42.5%)* 1936calAD - ... (17.0%)*
IAAA-181917	890 ± 20	89.50 ± 0.27	884 ± 24	1056calAD - 1076calAD (15.4%) 1154calAD - 1207calAD (52.8%)	1045calAD - 1095calAD (27.0%) 1119calAD - 1219calAD (68.4%)
IAAA-181918	1,010 ± 20	88.24 ± 0.26	985 ± 24	1016calAD - 1045calAD (46.6%) 1097calAD - 1120calAD (19.3%) 1143calAD - 1146calAD (2.3%)	994calAD - 1051calAD (57.8%) 1082calAD - 1128calAD (29.7%) 1135calAD - 1152calAD (7.9%)
IAAA-181919	870 ± 20	89.79 ± 0.27	881 ± 24	1058calAD - 1075calAD (11.4%) 1154calAD - 1210calAD (56.8%)	1045calAD - 1094calAD (23.6%) 1120calAD - 1141calAD (6.4%) 1147calAD - 1220calAD (65.4%)
IAAA-181920	900 ± 20	89.42 ± 0.26	917 ± 24	1045calAD - 1095calAD (41.5%) 1120calAD - 1142calAD (17.3%) 1147calAD - 1159calAD (9.4%)	1031calAD - 1169calAD (95.4%)
IAAA-181921	960 ± 20	88.74 ± 0.27	984 ± 24	1017calAD - 1045calAD (45.2%) 1097calAD - 1120calAD (20.0%) 1142calAD - 1147calAD (3.0%)	995calAD - 1051calAD (56.2%) 1082calAD - 1129calAD (30.9%) 1135calAD - 1152calAD (8.3%)
IAAA-181922	930 ± 20	89.03 ± 0.27	919 ± 24	1045calAD - 1095calAD (41.8%) 1120calAD - 1142calAD (17.7%) 1147calAD - 1158calAD (8.7%)	1031calAD - 1167calAD (95.4%)
IAAA-181923	400 ± 20	95.18 ± 0.28	385 ± 23	1450calAD - 1494calAD (55.1%) 1602calAD - 1615calAD (13.1%)	1444calAD - 1522calAD (72.8%) 1575calAD - 1624calAD (22.6%)

[参考値]

* Warning! Date may extend out of range

(この警告は較正プログラム OxCalが発するもので、試料の¹⁴C年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)

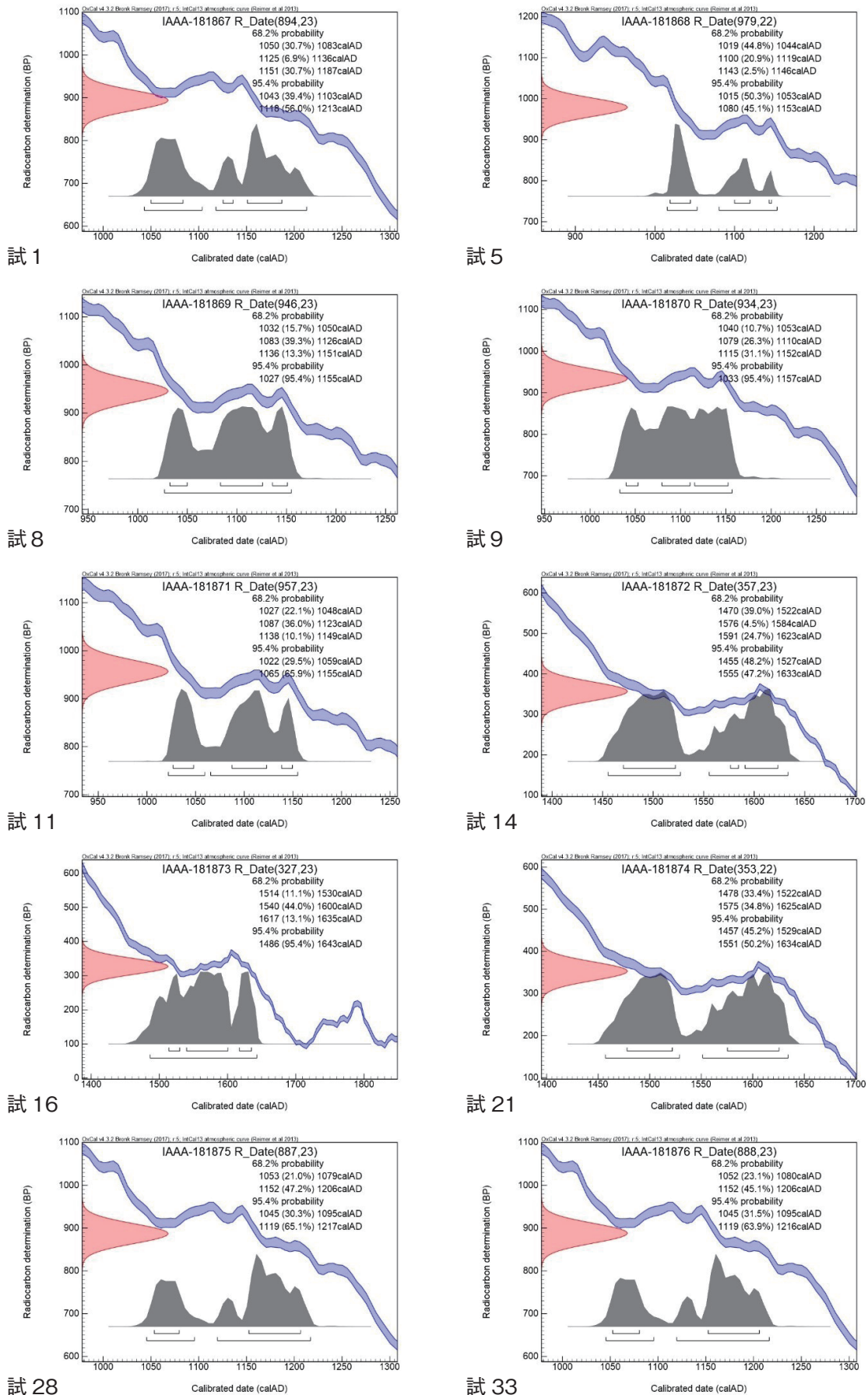
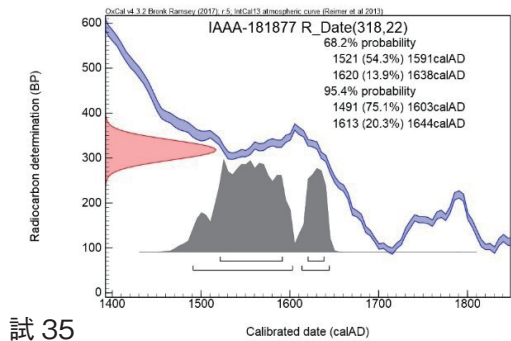
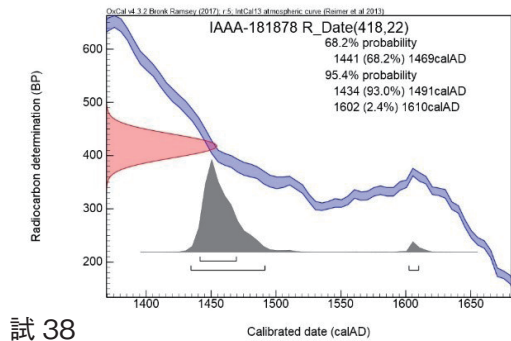


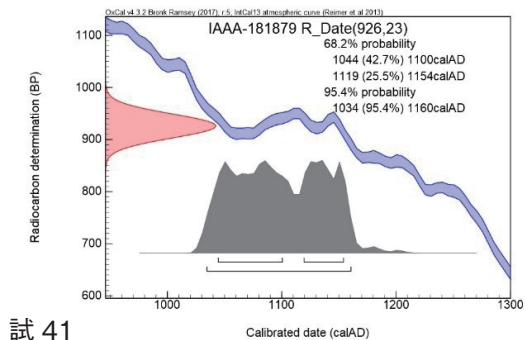
図1 暦年較正年代グラフ (参考) (1)



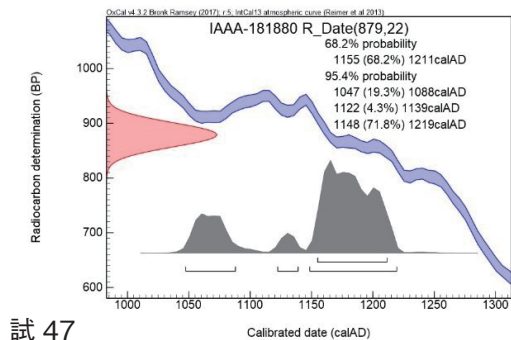
試 35



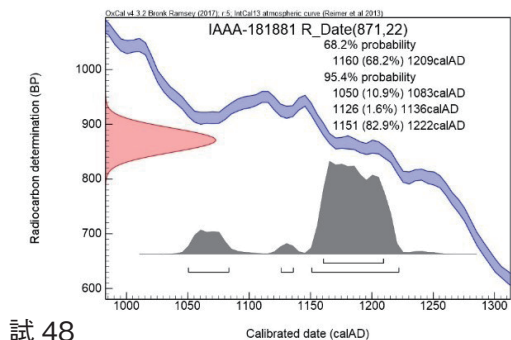
試 38



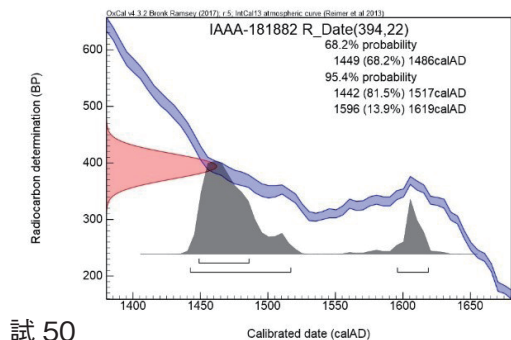
試 41



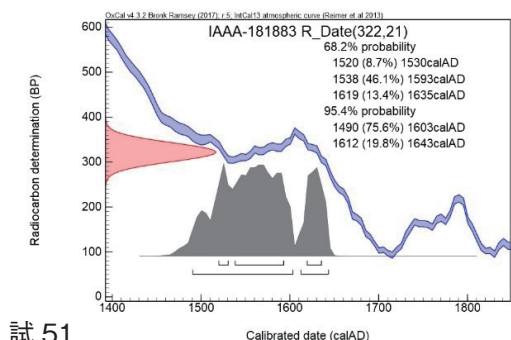
試 47



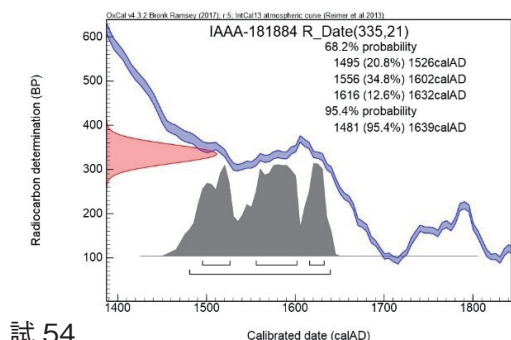
試 48



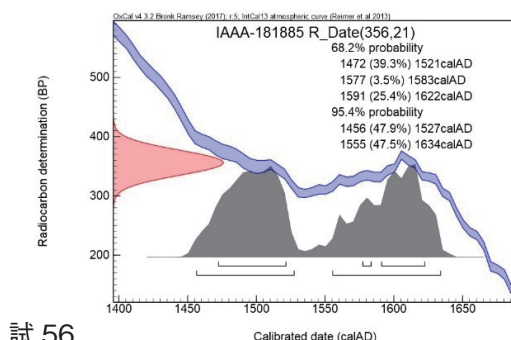
試 50



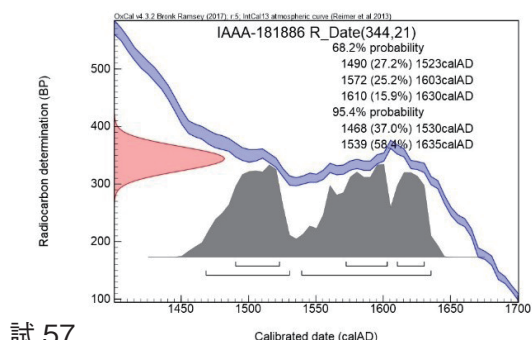
試 51



試 54



試 56



試 57

図2 暦年較正年代グラフ (参考) (2)

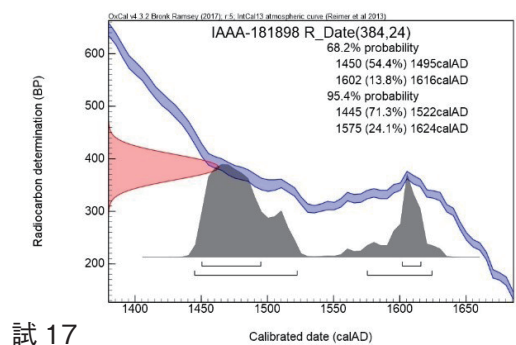
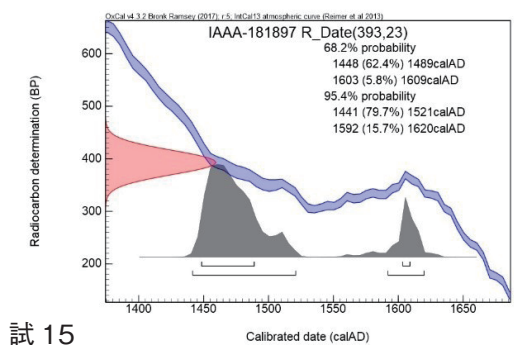
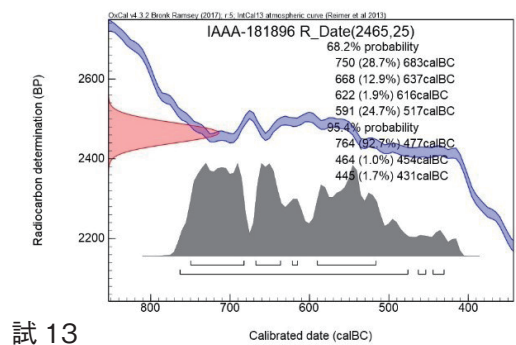
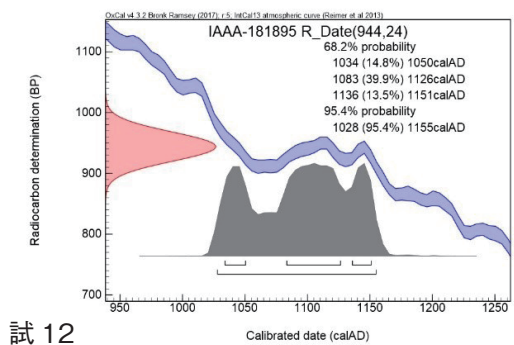
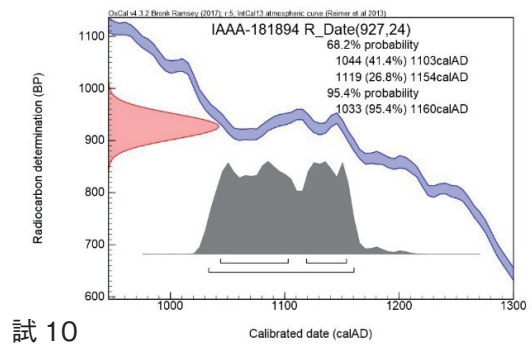
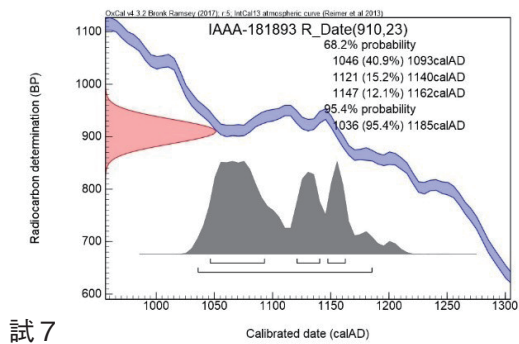
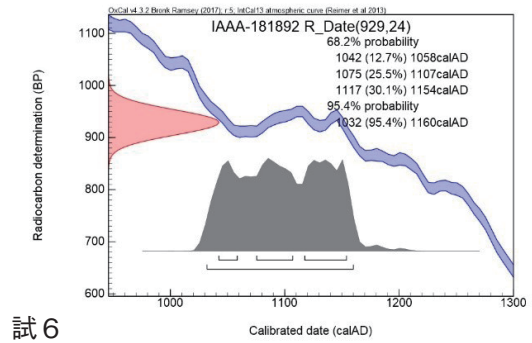
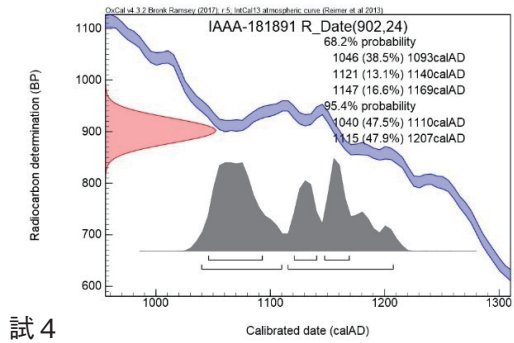
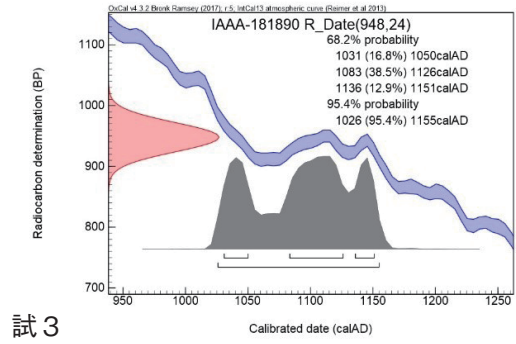
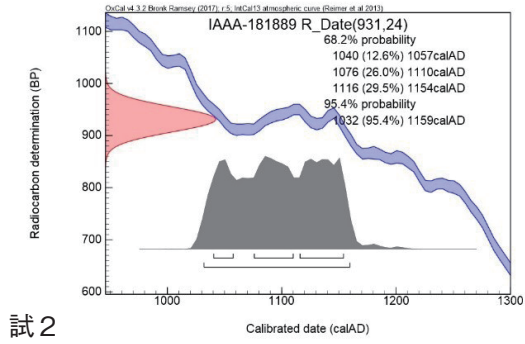
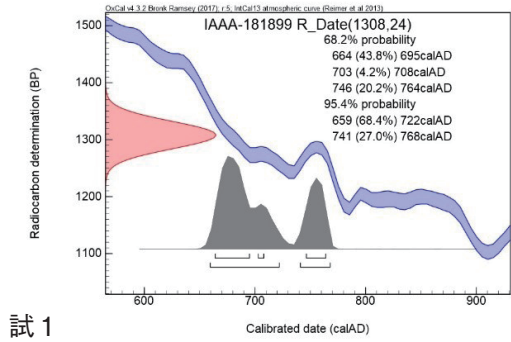
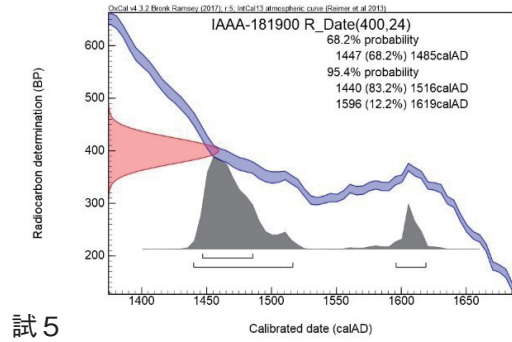


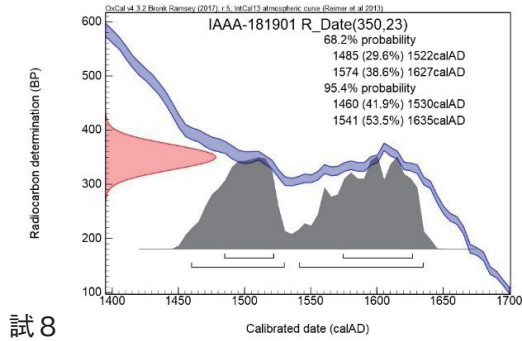
図3 暦年較正年代グラフ (参考) (3)



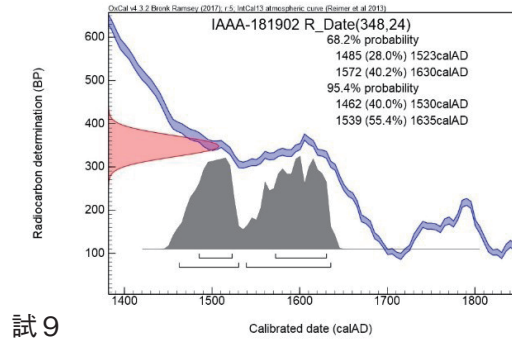
試 1



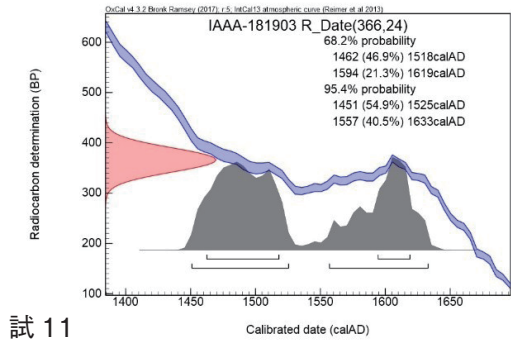
試 5



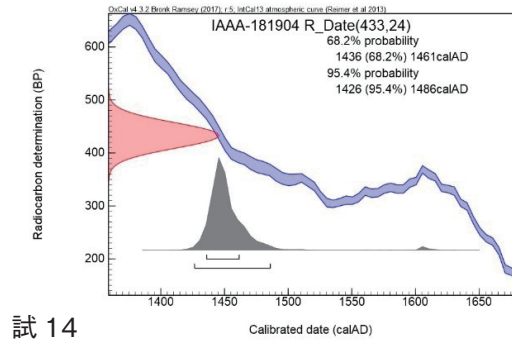
試 8



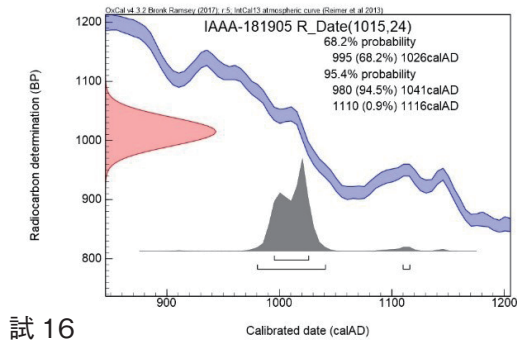
試 9



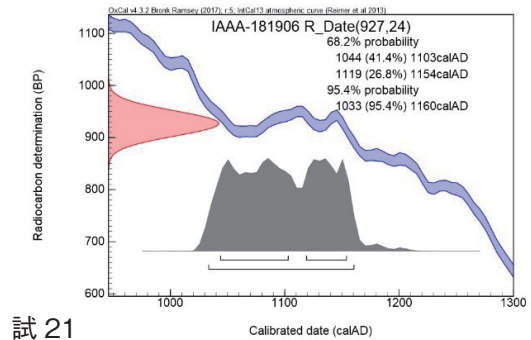
試 11



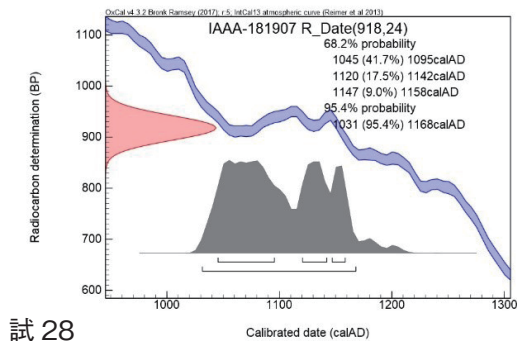
試 14



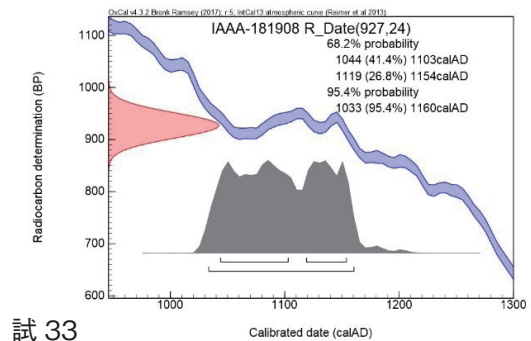
試 16



試 21



試 28



試 33

図4 暦年較正年代グラフ (参考) (4)

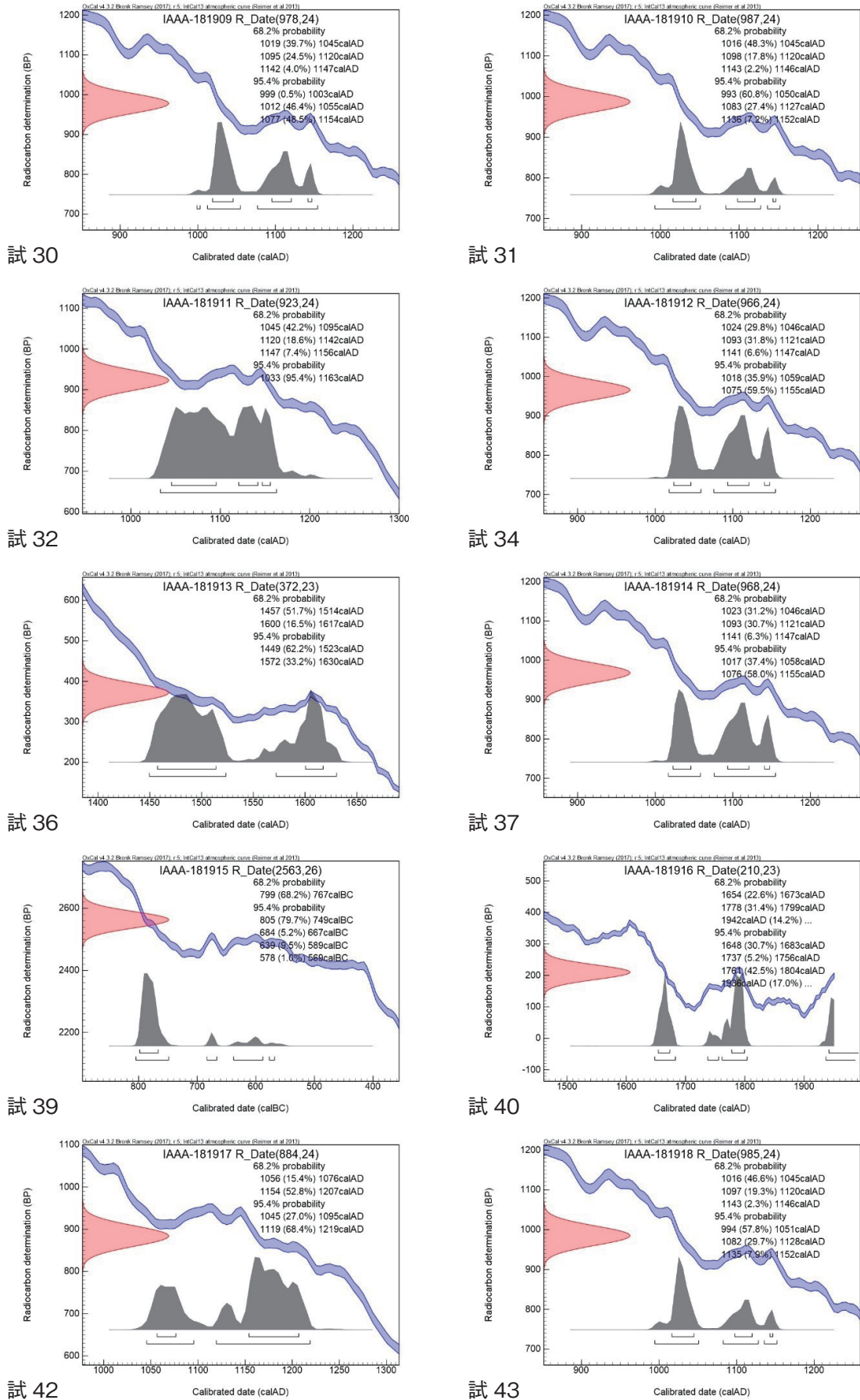
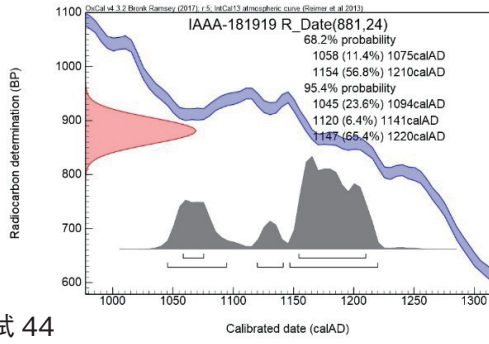
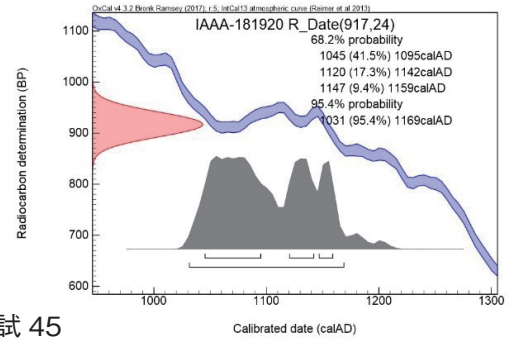


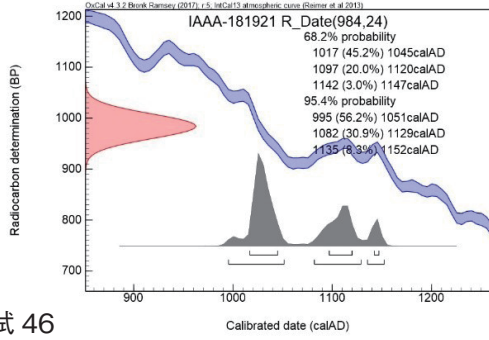
図5 暦年較正年代グラフ (参考) (5)



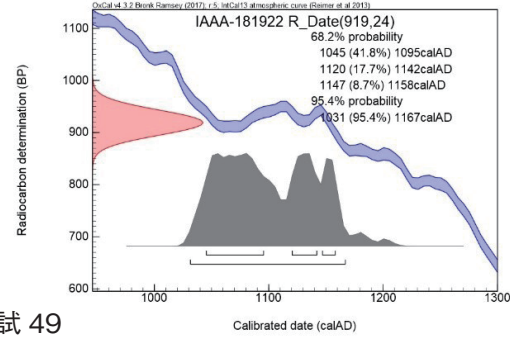
試 44



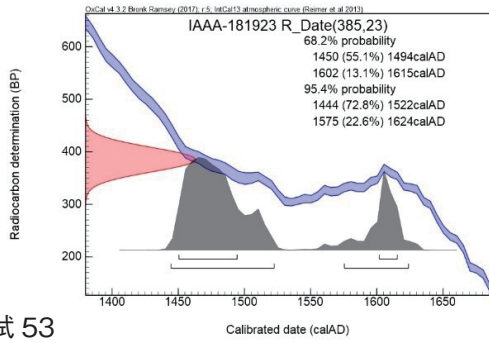
試 45



試 46



試 49



試 53

図6 暦年較正年代グラフ (参考) (6)

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-181369	1	SI02 Q1 床面直上(炉)	炭化物	AAA	-29.20 ± 0.22	360 ± 20	95.60 ± 0.25
IAAA-181370	2	SI03 AA'ベルト 3層下 床面直上	炭化物	AaA	-26.08 ± 0.20	350 ± 20	95.73 ± 0.27
IAAA-181371	3	SK01 堆積土下位	炭化物	AAA	-27.23 ± 0.20	440 ± 20	94.72 ± 0.27
IAAA-181372	4	SK02 堆積土下位	炭化物	AAA	-26.12 ± 0.22	440 ± 20	94.63 ± 0.26
IAAA-181373	5	SK03 堆積土	炭化物	AAA	-25.16 ± 0.22	360 ± 20	95.59 ± 0.27
IAAA-181374	6	SK05 堆積土下位	炭化物	AAA	-26.56 ± 0.23	340 ± 20	95.80 ± 0.26
IAAA-181375	7	SK06 堆積土中位	炭化物	AAA	-28.14 ± 0.22	430 ± 20	94.74 ± 0.26
IAAA-181376	8	SK07 堆積土下位	炭化物	AAA	-27.37 ± 0.24	350 ± 20	95.79 ± 0.26
IAAA-181377	9	SK08 堆積土下位	炭化物	AAA	-24.94 ± 0.19	410 ± 20	95.00 ± 0.27
IAAA-181378	10	SK09 堆積土上位	炭化物	AaA	-26.81 ± 0.25	330 ± 20	96.03 ± 0.26
IAAA-181379	11	SK10 堆積土中	炭化物	AaA	-27.04 ± 0.26	2,020 ± 20	77.77 ± 0.22
IAAA-181380	12	SK12 5層	炭化物	AAA	-27.83 ± 0.22	320 ± 20	96.11 ± 0.26
IAAA-181381	13	SK13 堆積土下位	炭化物	AaA	-29.18 ± 0.27	Modern	105.51 ± 0.28
IAAA-181382	14	SK14 堆積土中位	炭化物	AAA	-26.76 ± 0.18	140 ± 20	98.25 ± 0.27
IAAA-181383	15	SK15 堆積土	炭化物	AaA	-28.64 ± 0.19	1,310 ± 20	84.94 ± 0.25
IAAA-181384	16	SD02 堆積土	炭化物	AAA	-27.22 ± 0.20	360 ± 20	95.63 ± 0.26

[IAA 登録番号 : #9298]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181369	430 ± 20	94.78 ± 0.25	361 ± 21	1467calAD - 1520calAD (44.4%) 1592calAD - 1620calAD (23.8%)	1455calAD - 1524calAD (52.2%) 1558calAD - 1632calAD (43.2%)
IAAA-181370	370 ± 20	95.52 ± 0.27	350 ± 22	1485calAD - 1522calAD (29.9%) 1575calAD - 1626calAD (38.3%)	1461calAD - 1529calAD (42.0%) 1543calAD - 1635calAD (53.4%)
IAAA-181371	470 ± 20	94.29 ± 0.26	435 ± 22	1436calAD - 1457calAD (68.2%)	1427calAD - 1477calAD (95.4%)
IAAA-181372	460 ± 20	94.42 ± 0.26	443 ± 22	1435calAD - 1452calAD (68.2%)	1425calAD - 1469calAD (95.4%)
IAAA-181373	370 ± 20	95.55 ± 0.27	362 ± 22	1466calAD - 1521calAD (45.0%) 1592calAD - 1620calAD (23.2%)	1454calAD - 1525calAD (52.7%) 1558calAD - 1632calAD (42.7%)
IAAA-181374	370 ± 20	95.49 ± 0.26	344 ± 21	1490calAD - 1523calAD (27.2%) 1572calAD - 1603calAD (25.2%) 1610calAD - 1630calAD (15.9%)	1468calAD - 1530calAD (37.0%) 1539calAD - 1635calAD (58.4%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-181375	490 ± 20	94.14 ± 0.26	433 ± 22	1436calAD - 1459calAD (68.2%)	1428calAD - 1479calAD (95.4%)
IAAA-181376	380 ± 20	95.32 ± 0.26	345 ± 22	1489calAD - 1523calAD (27.5%) 1573calAD - 1603calAD (24.4%) 1609calAD - 1630calAD (16.3%)	1467calAD - 1530calAD (37.7%) 1539calAD - 1635calAD (57.7%)
IAAA-181377	410 ± 20	95.01 ± 0.27	412 ± 22	1443calAD - 1472calAD (68.2%)	1436calAD - 1498calAD (90.3%) 1601calAD - 1615calAD (5.1%)
IAAA-181378	360 ± 20	95.67 ± 0.26	325 ± 22	1516calAD - 1530calAD (10.5%) 1538calAD - 1596calAD (44.3%) 1618calAD - 1635calAD (13.4%)	1489calAD - 1604calAD (75.5%) 1610calAD - 1643calAD (19.9%)
IAAA-181379	2,050 ± 20	77.45 ± 0.22	2,019 ± 23	46calBC - 7calAD (66.1%) 13calAD - 16calAD (2.1%)	90calBC - 73calBC (3.5%) 59calBC - 53calAD (91.9%)
IAAA-181380	370 ± 20	95.55 ± 0.25	318 ± 21	1522calAD - 1578calAD (48.4%) 1583calAD - 1591calAD (6.2%) 1621calAD - 1638calAD (13.7%)	1492calAD - 1603calAD (75.3%) 1614calAD - 1644calAD (20.1%)
IAAA-181381	Modern	104.61 ± 0.27	Modern		
IAAA-181382	170 ± 20	97.89 ± 0.27	142 ± 22	1679calAD - 1696calAD (10.3%)* 1726calAD - 1765calAD (21.0%)* 1800calAD - 1814calAD (7.9%)* 1836calAD - 1845calAD (3.7%)* 1850calAD - 1877calAD (11.5%)* 1917calAD - 1940calAD (13.7%)*	1669calAD - 1708calAD (15.9%)* 1718calAD - 1780calAD (28.8%)* 1797calAD - 1888calAD (33.9%)* 1911calAD - 1944calAD (16.8%)*
IAAA-181383	1,370 ± 20	84.31 ± 0.24	1,311 ± 23	663calAD - 693calAD (49.8%) 748calAD - 763calAD (18.4%)	658calAD - 720calAD (70.4%) 741calAD - 767calAD (25.0%)
IAAA-181384	400 ± 20	95.19 ± 0.25	359 ± 21	1469calAD - 1521calAD (43.6%) 1592calAD - 1620calAD (24.6%)	1455calAD - 1525calAD (50.4%) 1557calAD - 1633calAD (45.0%)

[参考値]

*Warning! Date may extend out of range

Warning! Date probably out of range

(この警告は較正プログラム OxCalが発するもので、試料の¹⁴C年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)

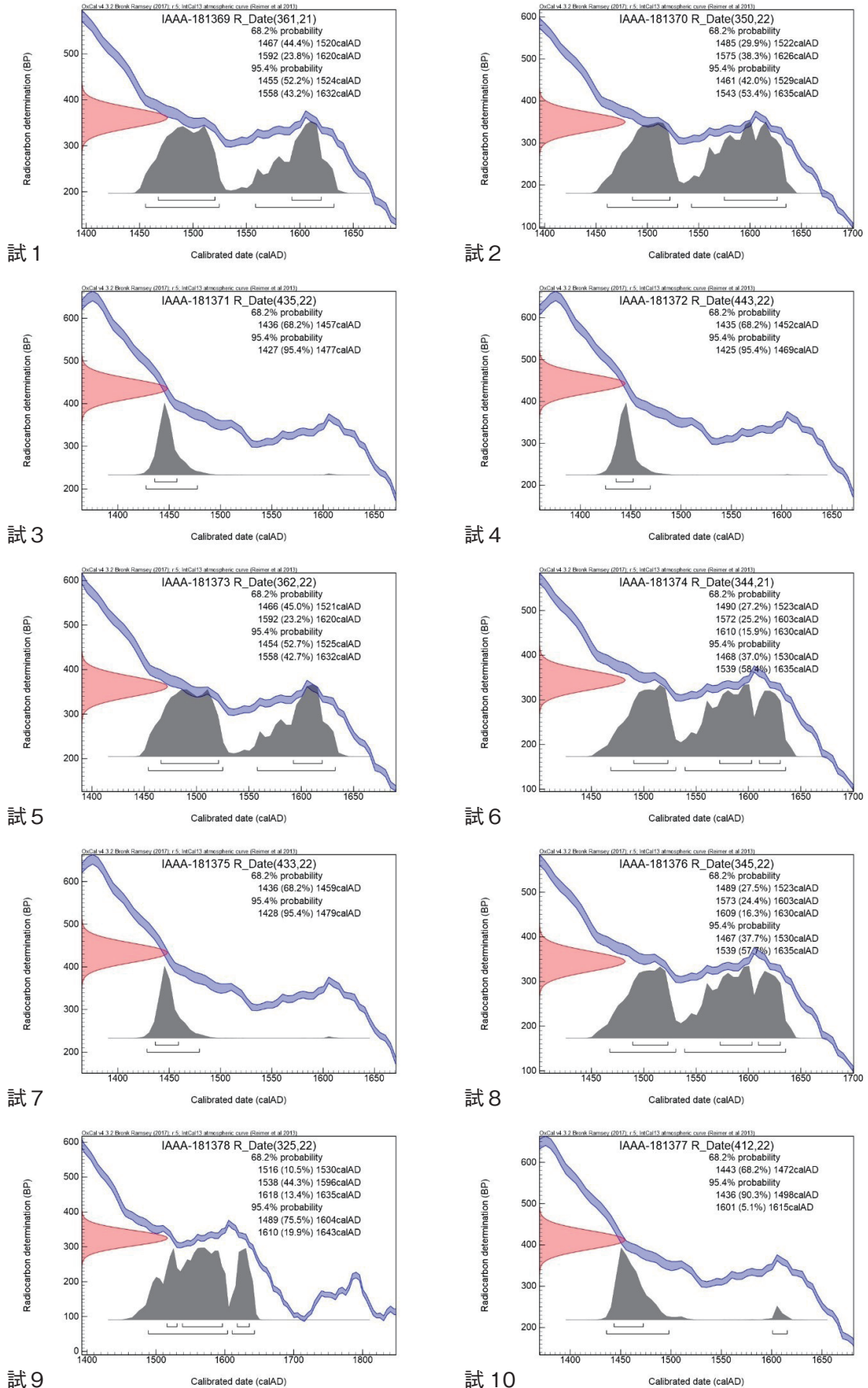
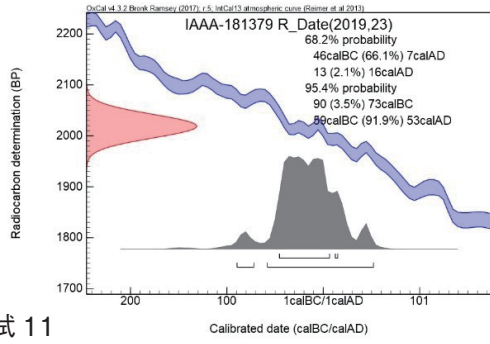
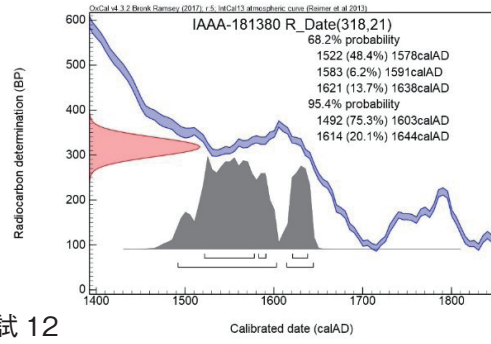


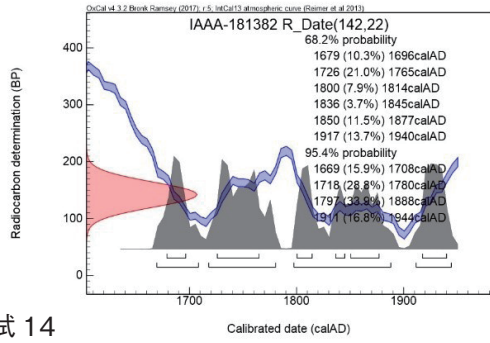
図1 暦年較正年代グラフ (参考) (1)



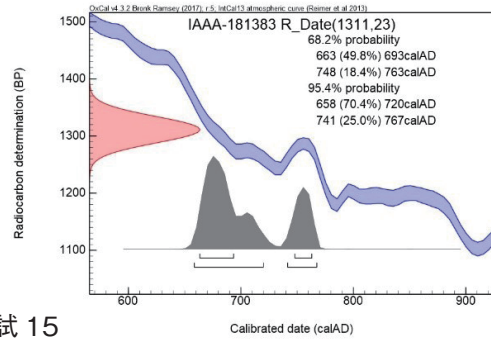
試 11



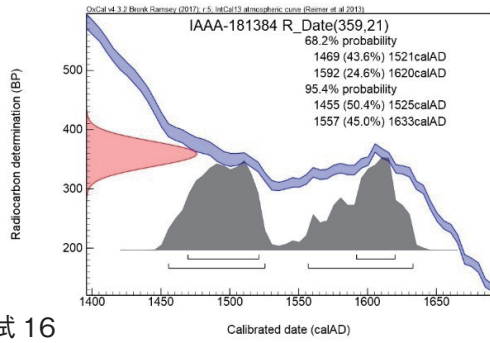
試 12



試 14



試 15



試 16

図2 暦年較正年代グラフ (参考) (2)